

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001111001
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	応化			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	堤 宏守, 上村 明男, 中山 雅晴, 赤田 倫治, 鬼村 謙二郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>・さまざまな方式で大学における学習の意味と目的を理解するためのセミナーです。オリエンテーションとしては、どのように講義・演習を履修して卒業しているのか、あるいは、学科の目標目的、さらには、技術者として社会にどのように貢献していくかなどについても学びます。</p> <p>・与えられた課題について調査してレポートを作成し、プレゼンテーションをします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>・工学部応用化学工学科の学習目的・目標を理解する。</p> <p>・技術者として社会にどのように貢献していくかを理解する。</p> <p>・与えられた課題について調査してプレゼンテーションとレポートを作成します。</p> <p>・工学基礎についての学習もします。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>工学部応用化学工学科の学習目的・目標を理解する。</p> <p>大学生生活の基礎について学ぶ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>見学や実習などへの積極的な参加ができる。</p> <p>グループワークによるプレゼンテーション作成や発表に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席を重視するが、授業に対する積極的な関与を期待する。演習なども積極的に自主性を持って行うこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業に関する連絡などを、共通教育の掲示板などに掲示することもあるので、掲示板を必ず毎日確認するようにして下さい。					
<b>連絡先</b>					
講義開始時に指示する。					
<b>オフィスアワー</b>					
講義開始時に指示する。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001111002
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	数理			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	吉村 浩			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>高校で学んだ数学とこれから皆さんが大学で学ぶ数学との大きな違い。それは、扱う数学の対象がより抽象化され、また数学的内容がより厳密に論理的に表現されることです。その基礎となるのが「論理」と「集合」です。これらは、大学で数学を学んでいくためには必須です。この授業では、「論理」と「集合」の基本事項を講義します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>この授業では、「論理」と「集合」の基本事項を身につけることを目標とします。また、第一回目の授業では、数理科学科の教育内容、カリキュラム、授業形態、単位の取り方、時間割、数理科学科の授業支援等についての解説も行います。各自、時間割を組むための参考にしてください。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 論理と集合の基本事項を身につけ、それらの必要性・重要性が認識できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 命題論理や述語論理における基本的な概念や法則を理解し、それらを具体的な命題の否定や、論理的な記述に適用できる。集合や写像の基本的概念に習熟し、運用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 初めて習った概念や知識に興味をもち、積極的に勉学に取り組むことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業に参加し、宿題などの提出物を期限内に提出できる。勉学の基本的な態度を身につけることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えたことやその思考過程を正確に人に伝えることができる。答案やレポート等を、丁寧かつ整理された表現で作成できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>中間・期末2回の試験と演習・レポートにより判定します。詳細は初回の授業で説明します。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>毎回授業に出て、手を動かし演習・レポートに取り組むことが肝要です。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>理学部 143 号室 Tel 933-5662</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001111004
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生化			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岩尾 康宏, 藤島 政博, 祐村 恵彦, 渡辺 雅夫, 堀 学, 上野 秀一, 山崎 鈴子, 石黒 勝也, 本多 謙介, 藤井 寛之, 谷 誠治, 安達 健太			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近年の生命科学の急速な進展により、生物・化学を学ぶために必要な知識量も著しく増大している。常にこれら分野の発展に伴う新しい知識の集積に注意を払いつつ学ぶ必要があるが、大学の授業にその全てを盛り込むことは不可能である。言い換えれば、大学において生物・化学の基礎を学ぶためには、自主的な選択による情報や資料の収集・解析能力、文章表現力や他の人と議論する能力が必要である。					
<b>授業の一般目標</b>					
この授業は、最近の生物・化学の先端的研究に触れると同時に、大学での自主的な学習の進め方について理解を深めることを目的としている。授業を通して、各自が科学する面白さを理解し、自主的に学習できるようになることを目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
宿題 / 授業外レポート = 80 100%未満 出席 = 20%未満 出席回数 80%以上を単位取得の必要条件とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
最初のオリエンテーションにおいて講義計画・到達目標・成績評価について説明する。 教官の講義内容、担当日を変更することがある。					
<b>連絡先</b>					
生物・化学科長					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001111005
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	地球			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田中 和広, 宮田 雄一郎, 大和田 正明, 三浦 保範, 永尾 隆志, 澤井 長雄, 阿部 利弥			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
地球圏システム科学科の学習・教育目標をわかり易く解説するとともに、野外観察などの実体験を通じて地球科学が対象とすることがらに興味を深め、地球科学の役割を理解できるようにする。さらに、自らの観察と考察に基づいた問題提起やプレゼンテーション、グループ討議を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)地球科学が対象とすることがらやそれをどのように人間生活へ貢献するかについて理解する。 (2)実体験を通じて野外観察や試料・標本の重要性を理解する。 (3)自分で積極的に学問に取り組む姿勢を見につける。 (4)自分の頭で考え、問題提起や議論ができるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 地学現象の観察の中から地球科学的な課題を見いだし、その意味を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 自分の頭で考え、問題提起や議論することができる。 2. 専門分野に関して、主体的に物事を考えることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 自分の専門分野に関して、積極的に取り組むことができる。 2. 自分の将来進むべき方向を見定めながら、地球科学の学問分野に深い関心を寄せる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 地学現象の観察や地球科学的な課題に対して積極的に取り組むことができる。 2. 与えられた課題だけではなく、自ら課題を探索する態度を身につける。 3. 群がらないで、自分の考えで行動できるようになる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 質問やレポート作成など大学での学習活動における基本的な生活態度や技能を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
各教員から提示された課題による学習態度とレポートを対象として、以下の観点・割合で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
高校教育から大学の教育に早く慣れ、自分で考え自分の判断で行動できるようになってください。					
<b>連絡先</b>					
学科長					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001111003
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	物情			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	藤澤 健太, 原 純一郎, 増山 博行, 繁岡 透, 朝日 孝尚, 白石 清, 芦田 正巳, 野崎 浩二, 輪島 清昭, 藤原 哲也, 吉川 学, 山本 隆, 内野 英治, 松野 浩嗣, 浦上 直人, 西井 淳, 末竹 規哲, 川村 正樹			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
大学生にふさわしい、また学業に必須の基礎的素養を身につけることをめざす。基礎セミナーでは特に文章読解・作文能力のトレーニングを行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
大学生にふさわしい、また学業に必須の基礎的素養を身につけることをめざす。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文章読解・作文の基礎的素養を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自然現象について物理的見方で分析し、説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活の中でも自然の観察に対する問題意識を高め、分析的な思考を行うことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自然の観察、自然に対する理解を、論理的な表現によって説明できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の出席及び作文によって評価する。					
<b>教科書</b>					
科学と科学者のはなし 寺田寅彦エッセイ集 / 寺田寅彦:岩波書店, 2000					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
理学部 231 室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001111010
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生機(26-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	阿座上 弘行, 松富 直利, 藤井 克彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>専門教育への自覚ならびに素地づくりをめざし、生命科学および生命環境科学に関連した諸問題について解りやすく解説するとともに、最新のトピックを紹介する。さらに、バイオテクノロジーの有効性と技術的な問題点、環境の問題点とその生物を利用した解決策、生命科学に関連した科学技術の功罪について各自で調査し、発表する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>この授業の過程で、資料作成、発表、討論で議論を深めるとともに、口頭発表の仕方、技術等を身につけさせるとともに、主体性をもって自分で考え研究するスタイルを身に付けさせることを目指す</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表の方法、内容、そして討論への参加状況から判断する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001111009
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生機(1-25)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	内海 俊彦, 山田 守			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
専門教育への自覚ならびに素地づくりをめざし、生命科学および生命環境科学に関連した諸問題について最新のトピックスを中心に討論する。特に、バイオテクノロジーの有効性と技術的な問題点、環境の問題点とその生物を利用した解決策、生命科学に関連した科学技術の功罪について各自で調査し、発表する。					
<b>授業の一般目標</b>					
生命科学および生命環境科学に関連した諸問題について理解を深めると同時に、この授業の過程で、資料作成、発表、討論によって、口頭発表の仕方、技術等を身につけさせ、主体性をもって自分で考え研究するスタイルを身につけさせることを目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 生命科学および生命環境科学に関連した諸問題について理解を深める					
<b>関心・意欲の観点:</b> 主体性をもって自分で考え研究するスタイルを身につけさせる					
<b>技能・表現の観点:</b> 資料作成、発表、討論によって、口頭発表の仕方、技術等を身につけさせる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小グループで行ったプレゼンテーション、質問・討論への取り組み、及び出席を総合して評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
山田 守 : 電話 933-5869, オフィスアワー 17時-18時					
内海俊彦 : 電話 933-5856, オフィスアワー 17時-18時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001111007
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	看護			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	野垣 宏, 清水 昭彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
人間と医療との関わり、医療の現状、医療の質の変遷と展望、および医療人としてのあり方を考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
現代医療の抱えるさまざまな問題について、看護師を目指す者として、自ら問い、考える基盤を築く。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 保健・医療に関する最新のトピックスを知る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 現代医療の抱える問題点を指摘できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に討論に参加し、自分の意見を述べることができる。					
グループでの共同作業に積極的に参加し、問題解決に寄与できる。					
<b>態度の観点:</b> 討論や共同作業に積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の意見をわかりやすく文章としてまとめることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
おもに提出されたレポートによる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
知識の習得ではなく、自分の問題として考えてほしい。					
日常の中の医療問題に関心を向けてほしい。					
<b>連絡先</b>					
nogaki@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001111008
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	検査			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山田 治, 市原 清志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>21世紀になり、日本は今までにない長寿社会を迎えている。そのため現在の医学は、医の倫理、患者の権利、インフォームドコンセント(説明と同意)、病名告知に始まり、遺伝子治療、脳死、臓器移植、終末期医療まで幅広い領域で多くの問題を抱えている。本講義では、これらのテーマを含めながら、医学の歴史、現代医学の構成、医学検査の役割、現代医学の問題点などを学び、臨床検査技師として他の医療従事者とのチーム医療を行うために必要となる、知識とモラルを学ぶことを目的とする。さらに、自分の考えを人に伝えるための文章表現法、発表方法を紹介する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>日本の医療システムの歴史と現状を知り、その問題点を指摘できる。人のライフスタイルや環境が健康におよぼす影響をのべ、その予防・啓発を行うことができる。医療従事者の役割を知りチームワークに必要な事項と問題点を指摘できる。与えられた課題に対して、限られた時間内に正確な言葉で解説、論述および自分の考えを文章で表すことを修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 我が国の医療システムとチーム医療の役割を説明できる。与えられた課題に対して、限られた時間内に、その内容を把握整理し、それに対して正確な言葉で解説、論述および自分の考えを文章で表すことができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 患者中心の医療の障害と現代医療の問題点を指摘することができる。与えられた課題に対して、考察し、自分の意見を述べるができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 状況に応じて適切なグループ討論を心がける。</p> <p><b>態度の観点:</b> 1. 他人のグループ討論に対して、技術的観点のみならず、その内容に関して適切な評価、批評ができる。 2. 他人の意見を尊重し、協調的、建設的な議論が行える。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 1. グループ討論の質を改善するために必要な技術・方法を具体的に選択し、適用できる。 2. 考察した結果を文章や口答で適切に表現できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>[全体] 毎回セミナーとタイトルを提示しグループディスカッションを行いますので、その時の参加態度を評価します。また、一部は期末試験で評価します。 [観点別] 知識の理解度および思考の判断力は発表内容と期末試験で評価します。関心・態度、表現力は発表内容から評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>理工系の作文技術 / 木下是雄: 中央公論新書 624, 2000 学生のための医学概論 / 千代豪昭 黒田研二: 医学書院, 1999</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>疑問に思ったら、自分の意見を述べながら質問して下さい。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001111011
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	機械			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大木 順司, 望月 信介, 三上 真人, 亀田 孝嗣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>械工学を修得したエンジニアとして社会に貢献するには、科学としての学問と技術としても活動、それを支える基礎学力が必要です。機械工学では何を学べば基礎学力がつくのか、どのような行動を取れば発展させることができるのか、どのような価値観により判断すればよいのか、といったことを学ぶ必要があります。</p> <p>これらのことをふまえ、将来のエンジニアを目指して、大学において学んでいくための基礎を講義します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>大学において学ぶ上での、動機付け、目標、手法、および到達レベルの把握</p> <p>友人、先輩および教職員とのコミュニケーション力の必要性の認識と取得</p> <p>目標達成のためのPDCAサイクルを含めた行動力の実践的修得</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 機械工学のエンジニアとして社会に貢献するために必要な基礎とは何かを理解できたか。</p> <p>その基礎を修得するための具体的手法を実践し、修得できたか。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 友人や教員とのコミュニケーションを通じて他人の考え聞き、自己の発展に活用できたか。</p> <p>エンジニアとして、社会人としての公共に立場における判断基準を理解し、実践できたか。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 好奇心を自らが発展させ、自らの知識と知恵の創造に役立てることができたか。</p> <p>ものづくりなどを通じて、エンジニアとして成長するための意欲を具体的行動として展開できたか。</p> <p><b>態度の観点:</b> ものづくり、グループワークなどにおいて、積極的に参加し運営するとはどのような行為かを理解できたか。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 自らの考えや成果をグループ内の討議においてまとめ、表現することができたか。</p> <p>質問やコメント等で得られた意見を吸収し、自らの考えや成果の発展に役立てることができたか。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>課題に関するレポート、通常のグループ活動および発表に基づき行います。</p> <p>発表では、作品、作成された資料、説明、および質問に対する回答により採点を行います。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>大学における勉強は高等学校とはどう違うのか、将来の自分を形成するには、リーダーシップを取るにはどのように行動すればよいのか、協調性の役割と方法など、常に考えながら学んでください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>まとめ役: 望月信介 工学部機械社建棟 B309</p> <p>電話 0836-85-9117 メール: shinsuke@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001111012
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	社建			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田村 洋一, 高海 克彦, 山本 浩一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
大学の学習において重要な、日本語による的確な表現力とは何かについて説明し、それを身につけるための実習を実施する。また、大学生活を有意義なものとするために、ステップアップノートを用いて今後の目標を明確化する。					
<b>授業の一般目標</b>					
大学でさまざまな内容を学習していく上で重要な日本語による表現力を身につける。具体的には					
(1)レポート・レジュメ作成に必要な文章力					
(2)内容をわかりやすく口頭で説明する表現力を身につける。					
本科目は、本プログラムの学習・教育目標のうち、以下の目標に対応している。					
(A) 確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける					
A-3 日本語による的確な表現力					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> わかりやすい文章を執筆することができる。					
内容をわかりやすく説明することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
本講義は演習を重視しており、授業内外のレポート及び定期試験の総合演習によって成績を評価する。そのため、出席して演習を実施することが単位認定の前提条件となる。					
<b>教科書</b>					
日本語表現のレッスン 文章技法からイベント・プレゼンの企画と実施まで / 長沼行太郎, 入部明子, 幸田国広, 青島康文, 向後千春: 教育出版, 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
大学では、自発的に学習することが重要です。この講義では、社会建設工学科で4年間学習してゆくための準備を行います。					
講義への出席の積み重ねは有意義な大学生活を送る上で重要な第一歩です。そのため、全講義出席、全課題提出を原則とします。ただし体調不良などによりやむなく欠席する場合は、必ず教員に連絡してください。					
<b>連絡先</b>					
田村: ytamura@yamaguchi-u.ac.jp Ex.6308					
高海: takami@yamaguchi-u.ac.jp Ex.9348					
山本:					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001111013
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生資			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	進藤 晴夫, 山本 晴彦, 執行 正義, 宇佐見 晃一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
基礎セミナーでは、新入生が2年次から受講する専門教育への関心を持つようになり、自覚と知的好奇心を持って卒業研究の素材づくりを目指せるように、生物科学や環境科学等を含む、広い意味での総合的応用科学である農学に関連した諸研究について、学科の全教員がそれぞれの専門分野から分かりやすく解説するとともに、最新の研究トピックスを紹介する。					
<b>授業の一般目標</b>					
受講者は、講義を通して、まず講義や実験・演習の場で課せられるレポートの書き方の基礎を習得する。あわせて、農学研究の一端に触れるとともに、探究心や知的好奇心を養い、農学にまつわる諸問題に対して主体性を持って自分で考える習慣を体得する。さらには、研究者のプレゼンテーションを体験するだけでなく、プレゼンテーションの技術・技能の基礎を演習を通して習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 農学の学問(研究)領域を理解する。あわせて、農学研究における基礎的知識の幅とその大切さを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 柔軟な発想力を大切にす。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自身の探求心および知的好奇心を見直し、より分かりやすいものにする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 活字や口述による基礎的なコミュニケーション力を大切にす。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席およびプレゼンテーションに最大限の重点を置く。ただし、出席にはレポート提出が必修条件である。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
必ず全出席して、単位を取ること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001111015
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	知能			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	瀧本 浩一, 河村 圭, 平林 晃			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本講義は本学科の導入教育の一環として位置付けられているもので、現在の情報技術の動向を意識しつつ、今後専門科目を履修するにあたり必要となる諸問題解決のための基礎的な知識および計算機リテラシーの習得を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
情報系の学生として必要なリテラシーを指導しつつ、専門科目と情報技術の関係および、現在の情報技術分野の動向を理解させることにより、この分野の学問を学ぶ上で必要となるインセンティブを育てることを目的としている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 将来情報技術者を目指す学生が知っておくべき情報技術の重要事項を体系的に学ぶ。					
<b>思考・判断の観点:</b> 与えられた情報技術およびそれに関わる諸課題を的確に解決するための基礎的能力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 将来情報技術者が関わる課題に対して意欲的に取り組み、問題意識を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 与えられた課題に対して、その解決過程、結果について説明ができるなど、コミュニケーション能力を持たせる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績の評価はレポート、プレゼンテーションの内容を総合的に判断して決定する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001111014
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	電気			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	羽野 光夫, 三木 俊克, 只友 一行, 田中 幹也, 三好 正毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
大学の授業に慣れるために模擬授業を行って、ノートのとり方を訓練する。さらに、ノート・パソコンを活用した文書作成やネットワークを利用した情報検索を基礎として、与えられた課題をまとめ、プレゼンテーションを行う。少人数グループに分かれ、キャリアデザインや知的財産、最新技術の紹介、関連事項の調査、発表などを行う。C言語の基礎を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
このセミナーは、電気電子工学の分野を今から学ぼうとする学生を対象としたフレッシュマン・セミナーであって、この分野の学問を学ぶ上で必要となるインセンティブを育てることを目的としている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 大学の授業に慣れる。 2. ノート・パソコンの操作を習熟する。 3. 情報ネットワークの利用法を身につける。 4. 電気電子工学及びその周辺技術について概要を理解する。 5. C言語の基礎を学ぶ。					
<b>思考・判断の観点:</b> 与えられた課題を的確にまとめる能力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題に対して意欲的に取り組み、問題意識を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 情報ネットワークの利用マナーを身につける。					
<b>技能・表現の観点:</b> プレゼンテーションの的確な表現方法を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(20%程度)、小テスト・授業内レポート(20%程度)、宿題・授業外レポート(20%程度)、授業態度・授業への参加度(20%程度)、受講者の発表(プレゼン)(20%程度)					
<b>教科書</b>					
知へのステップ - 改訂版 - / 学習技術研究会:くろしお出版, 2006 ザ・C 第3版 / 戸川隼人:サイエンス社, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
只友 tadatomo@yamaguchi-u.ac.jp 羽野 hano@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001111016
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	循環			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	未定			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111035
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(国理)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	石井 由理, 小粥 良			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
大学で学ぶための基礎となるスキル、具体的には論述の仕方、発表の仕方等を学ぶ。授業はコースの教員2名が分担して行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
レポート等の論述文を論理的に構成することができるようになる。注のつけ方、引用の仕方などの一般的な決まりを習得する。発表を効果的に時間内に行うことができるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 論述や発表の論理的構成を理解する。引用の仕方、出典の記し方を知る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論述や発表を論理的に構成できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 与えられた課題に関心を持って取り組むことができる。					
<b>態度の観点:</b> 与えられた課題に積極的に取り組むことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 論理的かつ簡潔に自分の考えを論述したり発表したりできる。時間内に、わかりやすく発表できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業時の発表と提出レポートによる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
基礎セミナーでは、今後4年間の勉学のために非常に大切な態度とスキルを学びます。大変重要なので、全部きちんと出席することを心掛けてください。					
<b>連絡先</b>					
教育学部 石井研究室、小粥研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
初回授業時に指示。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111031
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(家))			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	入江 和夫, 友定 啓子, 西 敦子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
水汚染と水循環に関する講義を行う。室内空気汚染及び回避について講義する。重金属汚染(鉛)について講義する					
<b>授業の一般目標</b>					
身近な生活の中でどのような環境汚染が生じているか理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 環境汚染の要因が理解できる					
<b>思考・判断の観点:</b> 自分の生活に振り返って、講義内容を生かそうとする					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業内容に関連した環境汚染について、興味関心のあることを自分で追及する					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1～2	<b>時間割コード</b>	1001111024
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(社))			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	岩崎 好成, 外山 英昭, 貞方 昇, 吉川 幸男, 森下 徹, 荒木 一視, 松原 幸恵			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
社会科教育選修の教室案内をおこなう。特に、履修ガイダンスと教室行事紹介、教員紹介を兼ねた専門分野ガイダンスを中心とし、その過程で相互の親睦を大いに深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
就学ならびに学生生活に必要な基本事項を理解し身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ガイダンスの内容を理解できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 提示された課題等に意欲的に取り組むことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業の性格上、関心・意欲あるいは取り組み姿勢を評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
相互の親睦を深め、新たなスタートを切ってください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111029
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教斗(保))			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	海野 勇三, 友定 保博, 池田 恵子, 上地 広昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
保健体育教室について紹介するとともに、共通教育および専門教育の履修計画・方法について指導する。また、保健体育教室に係る学習・研究領域に関して概説する。 教室に所属する教員全員がリレー方式で授業を担当する					
<b>授業の一般目標</b>					
所属する保健体育教室のスタッフ(教員・学生)との交流を行い、キャンパスライフに慣れること、およびスムーズにカリキュラム・授業の履修ができること、そして関係する学習・研究領域に触れることを目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として授業への出席が条件。 担当する教員のそれぞれでミニレポートや授業への参加態度等を元に総合的に判定する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
保健体育教室のスタッフと空気に早く溶け込み、大学での新しい学びに触れてください。					
<b>連絡先</b>					
学年チューターに限らず、教室のいずれの教員にでも、いつでもどうぞ。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111033
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(幼児)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	越中 康治, 白石 敏行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
幼児教育コースの概要を紹介し、履修指導を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
幼児教育コースのスタッフと新入生の親睦を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 子どもの思いや願いを理解するための基礎知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 討議に積極的に参加することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分の考えをわかりやすく伝えることができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に参加することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 柔軟でユニークな表現ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業や合宿研修への参加、および授業内での保育参加レポートをもとに総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
学外研修ならびに保育参加は必ず参加すること。					
<b>連絡先</b>					
越中康治: etchu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5443 研究室 406					
白石敏行: t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5330 研究室 404					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1～2	<b>時間割コード</b>	1001111036
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(小学校)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	岡村 吉永, 鷹岡 亮, 岸本 憲一良, 西岡 尚, 田中 理絵, 源田 智子, 沖林 洋平 [OKIBAYASHI Yohhei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>小学校教育コースに所属する学生を対象とする。小学校教員となるために必要なキャリア形成や資質・能力等について概要を知り、卒業までの計画を立てる。授業は、小学校コース担当者が協働して実施する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>小学校教員となるために必要なキャリア形成や資質・能力等について概要を知り、教員としての意欲付を行うとともに、学士課程における自らの到達目標を設定する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>小学校教員となるために必要なキャリア形成や資質・能力等について、概要を説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>教員に必要な広い視野で思考し、場に応じた適切な判断が行える。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>学校教育や児童の成長発達に関心をもち、知ろうとしている。</p> <p><b>態度の観点:</b>進んで行動し、学ぼうとしている。</p> <p>課題を発見し、自ら解決的に取り組もうとしている。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>目の前にある事象や自らの考えなどを、簡潔かつ分かりやすい形で他者に伝えることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業内容に対する理解、授業への参加意欲と態度、演習的内容における取組と発想の豊かさ、他者とのコミュニケーション能力、教師としての公正・公平さ等を総合的に判断する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
岡村(代表者):okasun@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111017
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尾崎 千佳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>【「論文」入門】人文学部に入学されたみなさんは、これから、数多くのレポートを作成し、論述式の試験に臨み、最終的には卒業論文の執筆に挑むこととなります。この授業では、人文学部のどの学問分野をめざすみなさんにとっても不可欠な「論文を書くこと」について、その心構え・その作法・その技術といった基礎的なことから、実践的に学んでゆきます。受講の過程で、山口大学や人文学部に慣れ、友人や自分自身を知る手がかりをつかむことも期待しています。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>論文とは何か理解し、論文の文体を習得することをめざします。あわせて、山口大学の諸施設を活用しつつ、論文を書くために必要な情報収集の技術を身につけます。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>論文が作文や感想文とは異なることを理解する  <b>関心・意欲の観点:</b>山口大学をみずからの学びの場として活用する  <b>技能・表現の観点:</b>1.論文にふさわしい文体を習得する  2.パソコンを適切に活用して情報を収集し文書の作成ができる</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>前半に提出する授業内レポート、期末に提出する授業外レポート、授業態度、の3要素によって評価します。なお、全回出席を原則とします。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>大学生と留学生のための論文ワークブック / 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子:くろしお出版, 1997  日本語が亡びるとき 英語の世紀の中で / 水村美苗:筑摩書房, 2008</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>1.全回出席を原則とする授業です。やむを得ず欠席する場合は、なるべく事前に連絡してください。  2.国語辞典を各自ご用意ください。冊子体と電子辞書との別を問いません。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111020
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	柏木 寧子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>レポート・論文の書き方入門 大学の授業で課されるレポートや論文を書くにあたり、最低限身につけておかなければならない基本的な技術を学びます。来年度、皆さんはいずれかのコースに所属して専門研究の手ほどきを受け始め、それぞれに卒業論文のテーマを考えていくことになります。コースが異なれば、論文執筆の具体的手順もおのずから異なることでしょう。けれども、どのコースに進むにせよ、そもそもレポート・論文とはどのような文章か、よいレポート・論文とはどのような条件を充たしたのか、という基本を知り、ある程度訓練をして技術を身につけておく必要があります。マニュアル本を参照しながら、実際にミニ論文の執筆に取り組みます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
レポート・論文を書く上で最も基本的な技術を習得します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> レポート・論文とはどのような文章であるかを知り、よいレポート・論文の条件を理解することができるようになる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> レポート・論文において自らの考えを述べるができるようになるとともに、他者の考えに接して自分なりの意見をもつことができるようになる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 大学で学ぶ目的意識をもち、自分なりの問題関心・意欲をもって当面の課題に取り組むことができるようになる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 学生として必要な基本的習慣・態度を身につけ、大学生活に馴染むことができるようになる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> レポート・論文を書くのに必要な技術を身につけ、口頭発表の場合も含め、自らの考えを適切な日本語で表現できるようになる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の授業内レポート、および期末レポートをあわせて評価します。					
<b>教科書</b>					
『広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン』 / 北尾健治ほか: ひつじ書房, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>欠席をしないよう心がけて下さい。遅刻はしないに越したことはありませんが、欠席するよりはともかくも教室に体を運び、毎週顔を見せるようにして下さい。何か相談したいこと、考慮してほしい事情などある場合は、できるだけ対応したいと思いますので、遠慮なく知らせて下さい。</p> <p>パソコンの基本操作を早めに習得しておいて下さい。附属図書館にもつとめて通い、馴染んでおいてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 研究室は人文学部4 F 410 研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111039
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	情報(表現)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	葛 崎偉, 池上 敏, 古賀 和利, 中田 充, 熊谷 武洋			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
大学生としての生活態度や学習態度などについて基本的な指針を示すと共に当コースにおけるコンピュータ機器の基本操作について概説を行う					
<b>授業の一般目標</b>					
大学生としての責任と将来の目標についての内省機会を与える。 OS、ワード、エクセル、ペイント等の基本オペレーションを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>関心・意欲の観点:</b> コンピューターを利用した情報の獲得、創作、発信に意欲を持ち取り組む					
<b>態度の観点:</b> 与えられた課題に積極的に取り組むことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートにおける課題理解度、および出席、意欲等で総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
学生生活でつまづくと、それが学生生活全体に影響します。基礎、基本を大切に。遅刻、無断欠席は厳に慎むこと。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111044
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	総文(文芸)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	菊屋 吉生, 有元 光彦, 斎藤 完, 堀家 敬嗣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
文芸・芸能コースで開設するそれぞれの専門教科についての導入としての入門セミナー。各教員がオムニバス形式で授業を担当する。					
<b>授業の一般目標</b>					
文芸・芸能コースにおける各専門教科の紹介と概説をとおり、それらの概要を知ると同時に、これからの履修の方法も学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席はもちろんであるが、授業内での発言や受講態度も評価の対象となる。授業時間内でレポートなどを書かせることもある。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111043
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	総文(国文)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	北西 功一, 岡村 康夫, MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA, 阿部 新 [ABE Arata]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
大学生として必要な能力に、レポート作成能力がある。この授業ではこの能力の基礎的な部分を身につける。					
<b>授業の一般目標</b>					
大学生として適切なレベルのレポートを書く能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 各自が設定したテーマについて情報を集め、理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 各自が設定したテーマについて集めた情報を分析し、論理的にまとめることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 各自が設定したテーマに意欲を持って取り組む。					
<b>技能・表現の観点:</b> 大学生として適切なレベルのレポートを書く能力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
各自の作成したレポートによって評価する。特別な理由なく3回以上欠席したものは失格とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111025
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(数))			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	佐藤 好久, 関口 靖広, 笠井 伸一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
新入生のための学部数学教育へのガイダンスを行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
将来小中学校の教員を目指す大学生に 必要とされる学習態度を身につけ、大学において数学・数学教育等を学ぶためには どうしたらよいかについての初期教育を行う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業態度やレポートの成績、および、発表内容の評価により、総合的に評価する。 出欠状況を欠格条件とします。その内容は初回の授業時に連絡します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1～2	<b>時間割コード</b>	1001111030
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(技))			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	澤本 章, 岡村 吉永, 森岡 弘, 阿濱 茂樹, 古賀 和利			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
学校教育養成課程、技術教育選修の教室紹介、教員紹介及び専門教育科目の内容を紹介する。また、授業履修の方法、手続き及び学校生活についても説明する。技術教育に関わる専門教育についても入門的な説明を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
学校教育養成課程、技術教育選修の状況、専門教育科目の内容についてその概要を把握し理解できるようになる。授業の履修方法を把握し理解できる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 学校教育教員養成課程、技術教育選修について知識と理解が持てる。授業の履修方法についての知識と理解が持てるようになる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 授業の履修方法について考え、判断できるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 共通教育の授業、専門の技術教育の授業について関心を持ち、学習意欲を持てるようになる。					
<b>態度の観点:</b> 共通教育の授業、専門の技術教育の授業について考える態度を持つようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート、出席状況、授業中の態度などを総合して評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
技術教育の概要を説明します。教員紹介も行います。授業履修の方法についても説明します。欠席しないようにしてください。					
<b>連絡先</b>					
〒753-8513 山口市吉田 1677-1 山口大学教育学部技術教育金属加工澤本章 TEL/FAX083-933-5395, E-mail: sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日、10:20～11:50					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111032
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(英))			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	高橋 俊章, 松谷 緑, 猫田 和明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語教育教育選修の学生として、これから専門教育を受ける上での基礎事項、心構えを、各分野の教官よりテーマごとに講義をする。					
<b>授業の一般目標</b>					
英語教育教育選修の学生として、これから専門教育を受ける上での基礎事項を確認し、心構えについてのオリエンテーションをおこなう。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回、授業後に提出するレポートの評価によって評価を行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111026
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(理))			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	武田 賢治, 阿部 弘和, 池田 幸夫, 村上 清文, 和泉 研二, 千々和 一豊, 佐伯 英人, 源田 智子, 北沢 千里			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
理科教育教室でこれから4年間学ぶ授業の内容(理科教育や自然科学)の概略、学生生活に必要な事項を説明する。合わせて各教員が今取り組んでいる研究課題などについて講話も行う。また、レポートや論文作成の基本的な技能についても指導する。					
<b>授業の一般目標</b>					
自分の専門とする学習内容、学問領域の概略を理解し、以後の就学や学生生活に必要な基本的事項を身に付けることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
総合的評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	金 1～2	時間割コード	1001111041
開設科目名	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			単位	2 単位
対象学生	健康(スポ健)			学年	1～
担当教員	丹 信介, 森田 俊介, 塩田 正俊, 杉浦 崇夫, 曾根 涼子			区分	
<b>授業の概要</b>					
この授業は以下の2部門から構成されている。					
第1部 今後の専門授業の学習効果を高めるために、(1)図書館の利用方法、文献検索の方法、(2)レポートの書き方、(3)コンピュータを用いた統計処理の方法などを教授する。また(4)運動時の生体反応の実習を通して、実際にレポートの作成及びプレゼンテーションを行い、添削・指導を行う。第2部 健康づくりや生きがいづくりを実践している学外スポーツ・健康づくり施設を見学することで、身体運動が健康づくりに果たす役割、各施設における地域住民との関わり、などを解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
この授業は以下の2部門から構成されている。					
第1部 今後の専門授業の学習効果を高めるために、(1)図書館の利用方法、文献検索の方法、(2)レポートの書き方、(3)コンピュータを用いた統計処理の方法などを学習する。また(4)運動時の生体反応の実習を通して、実際にレポートの作成及びプレゼンテーションを行う。第2部 健康づくりや生きがいづくりを実践している学外スポーツ・健康づくり施設を見学することで、身体運動が健康づくりに果たす役割、各施設における地域住民との関わり、などを体験・学習する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 健康・運動・本コ - スの関連を社会的背景から説明できる。					
図書館の利用方法や文献検索の方法を説明できる。					
実習で得たデータに対する統計的処置の必要性を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 本コ - スの今後のあり方について自分の考えを述べることができる。					
実習で得たデータに対する考察を論理的に述べることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活の中で、健康と運動との関連において問題意識を高めることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> パソコンでレポート(文章、計算、グラフ)を作成できる。また、作成したレポートをもとに、スライドをパソコンで作成し、プレゼンテーションをすることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として全出席であること。					
レポート・プレゼンテーション(70%)と学習意欲(30%)より総合的に判断する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111019
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	辻 正二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、人文学部生にとって興味をもてそうな、比較的平易な書物(テキスト)を皆で読みながら、自由に議論をしてみたいと思います。受講生の皆さんには、テキストの一部をそれぞれ分担してもらいます。皆さんはそれにしたがって、資料を作成・配付し、順番に報告することになります。毎回、授業の感想などの小レポートを提出してもらい、最後に課題レポートを提出してもらいます。ざくばらんに発言できる授業になるよう、できるだけ工夫したいと思います。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)人文系の書物を読み、その内容を理解するとともに、自ら作成した資料に基づいて、考えたことを論理的に表現できるようにする。					
(2)自分の考えたことを積極的に発言するという学習態度を身につける。					
(3)授業を通して、人文学部の友人や知己を少しでも増やしていく。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートした文献の理解力と発表、発表方法などを総合して評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1～2	<b>時間割コード</b>	1001111038
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	実践(心理)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	恒吉 徹三, 福田 廣, 名島 潤慈, 田邊 敏明, 大石 英史, 小杉 考司, 沖林 洋平 [OKIBAYASHI Yohhei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
このセミナーの目的は、教育心理学コースの学生が、広い視野から心理学を学ぶことによって、心理学に対する関心の幅を広げることにある。さらに、大学生活を送る上で必要なことについても学ぶことを目的としている。具体的には、(1)教育心理学コースのカリキュラムや4年間の学生生活を送るために必要な事柄について説明する。(2)将来、心理学に関連した職業につくことを希望する学生のために、認定心理士、学校心理士、臨床心理士などの資格取得および心理学が活かせる職場についても、その概要を説明する。(3)「心理学と自分」というタイトルのもとに、教育心理学教室の各教員の専門領域や研究内容について講義し、質疑を受ける。(4)夏季研修を実施する。					
<b>授業の一般目標</b>					
心理学についての理解の幅を広げ、大学生活において必要な事項について学ぶことが、本セミナーの主な目標である。また、各教員の講義および質疑をめぐるディスカッションを通して、学生のコミュニケーションの活性化を図ることも狙いとしている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>関心・意欲の観点:</b> 心理学に関心をもち、積極的に学習に取り組む。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
講義での議論に積極的に参加することを重視する。さらに、講義の一貫として夏季研修を実施するので、この研修への参加が単位取得には必要です。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
積極的な講義への参加を期待します。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111021
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	坪郷 英彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
高校から大学に入ったみなさんが、大学生活に慣れ、大学でどのように学ぶかを自ら学習していく時間です。大学は自ら考え、行動しないと何も始まらないところ。この授業では、表現することの大切さ、多様さを学習してもらいます。できるだけ体を動かしながら考え、かつ表現する					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 情報検索のための様々な手段・方法を習得する。 2. 自分の意見を明確化する習慣を身につける。 3. 文意の明確な文章とはどのようなものかを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> A. 情報検索のための様々な手段・方法を具体的に述べることができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> A. テーマに対して、自分の意見を論理的に構築することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> A. 必要とする情報を獲得するための的確な手段・方法を選択できる。					
B. コンピュータを使った表現を体得する。					
C. 文意の明確な文章を書くことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
宿題、発表等の参加度で評価します。出席は70%以下を欠格条件とします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
自ら参加する演習型の授業です。グループ作業も多いので欠席しないように心がけること。授業ではコンピュータが必要となります。					
<b>連絡先</b>					
内線 5239 研究室人文棟 213 号室					
メールアドレス hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日 12時から 14時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111022
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	豊澤 一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>大学で勉強すること、今までの小・中・高でのそれとは大いに違います。今までは限られた範囲の知識が対象でしたが、これからは無限に広がる知識と知恵の大海が眼前に広がっています。その大海にのりだすことになったのです。そのための方法・作法はどのようなものであろうか、を考えるのがこの授業です。その方法は人と時とにより千差万別かも知れませんが、自ずと標準的なものができあがっていますから、そのマスターに先ず努めましょう。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1)早く大学生の勉強になれること。  (2)ノートとり、資料収集、討論、プレゼンテーション、レポート執筆等々が適切にできるようになる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 正確な読解ができる。  <b>思考・判断の観点:</b> 常識的な思考判断を対自化できる。  <b>技能・表現の観点:</b> 誤解の余地の少ない文章を書くことができる。  <b>その他の観点:</b> PCを道具として使用できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>「小テスト・授業内レポート」と「宿題・授業外レポート」とにより、総合的に評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>知のツールボックス 新入生援助集 / 専修大学出版企画委員会: 専修大学出版局, 2006  レポートの組み立て方(ちくま学芸文庫) / 木下 是雄: 筑摩書房, 1994</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>人文学部棟 409 号研究室  TEL: (内線)5218  e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>木曜日 12:50 ~ 14:20 (前もってご連絡ください。)</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1～2	<b>時間割コード</b>	1001111023
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(国))			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	中野 伸彦, 村上 林造, 吉村 誠, 藤原 マリ子, 南部 英彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>これからの大学生活を送るにあたって身につけておくべきことについて、説明・指導を行う。国語教育教室の概要・国語教育教室所属教員の研究領域等について説明するとともに、履修計画のたて方について指導を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>国語教育教室の教員や上級生たちとの交流を深めるとともに、これからの大学生活を送るにあたって必要なことがらを身につける(カリキュラムの概要を知る、国語教育に関わる学習領域に触れる等)ことを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 大学生活を送るにあたって必要なことがらを身につける</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 国語教育に関わる学習領域に対する関心を持つ</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業への参加態度、授業内容についてのレポートにより評価を行う。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111028
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(美))			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	中野 良寿, 河野 令二, 福田 隆真, 菊屋 吉生, 吉田 貴富, 上原 一明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
大学教育及び美術教育についての導入に関する授業を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
美術と美術教育に関して大学において学ぶべき内容を考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
宿題・授業外レポート、授業態度・授業への参加度、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品、出席などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp 083-933-5366(担当:中野) 090-9003-6944					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111027
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(音))			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	西村 順子, 池上 敏, 朴 成泰, 成川 ひとみ, 高橋 雅子, 斎藤 完, 林 満理子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>大学生生活に1日も早く慣れ、カリキュラムと履修の仕方を理解できるよう、「履修の手引き」等を用いて説明する。  教科の専門授業については、各教員が担当の科目を詳細に説明していく。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
大学の生活、カリキュラム、履修の方法について理解できる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講態度と出席率、最後にレポート提出					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
jun_n@yamaguchi-u.ac.jp 内線5363					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111018
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	平野 尊識			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「言語と文化」の関係を少し専門的な角度から検討したい。それは、深く考えることなく「言語と文化は密接に関係している、現に学科の名称も言語文化学科じゃないか」と思っている学生が意外と多いからである。言語学般見ると果たしてどうなのか、もしあるとすれば具体例を挙げて説明できるか、無ければそれなりの根拠を挙げることができるか、そして実際はどのような関係にあるのか。これらの理解を願いつつ、専門教育への導入をはかる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>常識的な議論ではなく、「科学的なアプローチ」を学生に示してみたい。そして、数理的に物事を考える必要があることを再認識させる。勿論、内容を理解出来ることが重要である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 常識的な理解を改める。  <b>思考・判断の観点:</b> 現象を如何に分析したらよいのか。  <b>関心・意欲の観点:</b> 言語学は感想文を書くことではないので、興味を持って話が聞けることが重要。  <b>態度の観点:</b> 積極的に発言する。  <b>技能・表現の観点:</b> 事実を分かりやすく説明できること。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>テストに加えて、授業内レポート課して評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>予習、復習を徹底して行うこと。ゼミで紹介する参考文献を必ず読むこと。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>人文617研究室  mial-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>未定</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111037
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	実践(人間)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福田 修, 西村 正登, 佐々木 司, 田中 理絵			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
大学における教育・研究のために必要な基礎的な知識・態度を習得することを目的として、大学入学から卒業後の進路設計までを視野に入れ、コース全教員によるゼミを行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
1) 大学における教育・研究に必要な基礎的な知識・態度を習得する。 2) 大学入学後から、卒業後の進路設計をイメージできるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 大学教員によるレクチャー内容を理解し、応答することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 本コースの学生として、学問・研究に対して、意欲を持つことができるようになる。					
<b>態度の観点:</b> 充実した大学生活を営めるよう、大学生らしい態度を習得できるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1) 平素の受講態度 (2) 提出課題を総合的に評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
無断欠席、遅刻は認めない。欠席回数が授業実施回数の3分の1に及んだ場合には、単位は認められない。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1～2	<b>時間割コード</b>	1001111034
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(障害)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	松田 信夫, 吉田 一成, 松岡 勝彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
和やかな雰囲気のもとで、今後の大学生活(免許状取得、講義・演習、生活全般)に見通しを持つことを目指したセミナーである。また、講義・演習形式の授業に加え、附属特別支援学校等における諸活動への参加を通じ、幼児・児童・生徒一人ひとりの障害やニーズに応じた指導について具体的に学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
今後の大学生活(免許状取得、講義・演習、生活全般)に見通しを持つことができる。また、特別支援教育の諸学校、諸学級に在籍する(幼児)児童・生徒一人ひとりの障害やニーズに応じた指導について、基礎的な知識・技能・態度を養うことができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 今後の大学生活(免許状取得、講義・演習、生活全般)についての見通しと基本的な知識(情報源など)を習得できる。また、特別支援教育の諸学校、諸学級に在籍する(幼児)児童・生徒一人ひとりの障害やニーズに応じた指導について、基礎的な知識・技能を習得できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 今後の大学生活(免許状取得、講義・演習、生活全般)をより良く過ごすため、クラスメートや教員に相談する習慣を身につけることができる。また、特別支援教育の諸学校、諸学級に在籍する(幼児)児童・生徒一人ひとりの障害やニーズに応じた指導について思考する習慣を身につけることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 今後の大学生活(免許状取得、講義・演習、生活全般)への不安を解消し、自信と意欲を持つことができる。また、特別支援教育の諸学校、諸学級に在籍する(幼児)児童・生徒一人ひとりの障害やニーズに応じた指導について、意欲的に取り組もうとする姿勢をもつことができる。					
<b>態度の観点:</b> 今後の大学生活(免許状取得、講義・演習、生活全般)をより良くすごそうとする態度を養うことができる。また、特別支援教育の諸学校、諸学級に在籍する(幼児)児童・生徒一人ひとりの障害やニーズに応じた指導について、意欲的に取り組もうとする態度をもつことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
附属特別支援学校からの評価や、討論への参加、レポート内容、出席回数等を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111042
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	健康(生活)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山本 善積, 五島 淑子, 山田 次郎, 星野 裕之			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
生活健康科学コースの履修プログラムや学生生活の注意事項等を説明するとともに、履修する各分野の入門について述べる。次いで受講生によるグループ演習とその成果のプレゼンを行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
本コースで履修する諸分野の入門講義のポイントを述べるができる。また、学習への関心を広げて、仲間と協力して調査を行い、結果をまとめることができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 本コースで履修する諸分野の入門講義のポイントがわかる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 衣食住の生活分野での社会的な課題を1つ以上取り上げて、調査・考察をすることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 健康科学全般に関心をもち、学習する意義を述べるができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績は、入門講義等に関するレポート、グループ学習の成果発表、授業態度を総合的にみて評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
この授業は、健康科学入門として、受講生の皆さんと教員とでつくる授業です。積極的に参加して、健康科学を学ぶ意義や楽しさをつかんで下さい。 なお、授業計画の順番は変更になることがありますので、初回授業時に日程の詳細をお知らせします。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001111040
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	情報(数情)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	渡邊 正, 糸長 雅弘, 北本 卓也, 野村 厚志, 飯寄 信保			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
大学生生活に要するアカデミック・スキルを学習し, 習得する。					
<b>授業の一般目標</b>					
大学生生活に要するアカデミック・スキルを習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 必要なアカデミック・スキルを理解すること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 必要なアカデミック・スキルを的確に判断すること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> アカデミック・スキル習得に意欲をもつこと。					
<b>態度の観点:</b> アカデミック・スキル習得に意欲をもつこと。					
<b>技能・表現の観点:</b> アカデミック・ツールを利用する技能を習得すること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業参加態度とレポート内容などを総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
知へのステップ / 学習技術研究会:くろしお出版, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
経験的に, この授業をさぼる学生は, 卒業延期になる確率が高い。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金5-6	<b>時間割コード</b>	1001111045
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岩田 祐之, 音井 威重, 利部 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>獣医学一般における基礎的な知識について学び, 獣医学倫理を考える.</p> <p>授業形態としては, 講義, 意見発表, 討論, レポート作成などを行い, 自分の考えを論理的に発表あるいは論述する訓練も併せて行う.</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>獣医学を学ぶものとしての自覚を持たせるとともに, 論理的思考を習得させることを目的とし, 獣医学で学ぶべきこと, 獣医師の社会における活動分野, 学際領域における獣医学, 獣医学と自然・社会・文化・環境保全, 人と動物の関係学などについて学ぶ.</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>小テスト / 授業内レポート</p> <p>授業態度や授業への参加度</p> <p>出席</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
意見発表・討論は積極的に行う。レポートは推敲した文章とする。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 5-6	<b>時間割コード</b>	1001111046
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー1 [Introductory Seminar 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	感性			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	李 柱国, 内田 文雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>大学で「学ぶ」ためには求められる「聴く」、「読む」、「書く」、「調べる」、「整理する」、「まとめる」、「表現する」、「伝える」および「考える」などの方法を学び、力を身につける。また、建物の見学法を学習し、大学生活および将来の職業・進路の計画方法について解説し、プランの作成を指導する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>高校生から大学生になるために必要な学習技術、情報検索、発表のやり方、レポートの書き方を習得し、建物の見学法および大学生活・将来の職業と進路の計画方法についての理解を深め。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1)[聴く],[読む],[書く],[調べる],[整理する],[まとめる],[表現する],[伝える]および[考える]などの学習技術を理解する。 2)建物の見学法を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>自分は大学で社会でどんなことをすれば、どのようにすれば良いかを自分で考えられるようになる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>グループ作業・発表に対して自分の意見を持ち、積極的に行動・協力できるようになる。</p> <p><b>態度の観点:</b>自分の進路にも他人の関心事にも積極的な関心を持つようになる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1)ネットで検索し、必要な情報を収集できるようになる。 2)自分の見解をレポートにまとめられるようになる。 3)自分の意見を持ち、それを発表する技術を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>レポートと発表の成績によって総合的に評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>知へのステップ / 学習技術研究会:くろしお出版, 2008</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>必ず出席して単位を取ること。宇部では開講されないの、これを落とすと大変なことになる。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001111006
<b>開設科目名</b>	医学入門 [Elementary Medicine 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医学			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	川崎 勝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医学科全85名の入学生は担任教官が所属する基盤系講座に所属し、少人数(5,6名)で日本語論述とディスカッション(ディベート)を主体としたセミナーを行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
今後、医学とコミュニケーション技法を学ぶ上で必須のリテラシー能力を養うために、日本語論述と小グループでのディスカッションを中心に演習を行うことを通じて高度な日本語運用能力と問題探究能力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>技能・表現の観点:</b> 1) 限られた時間内に与えられたテーマの日本語の文章を書き上げることができる。					
2) ある情報が提示されたときに、その内容を正確な言葉を用いて日本語の文章にまとめ上げることができる。					
3) 自らの考えを的確に他の人々に伝えることが可能な日本語の表現(口頭でも文章でも)ができる。					
4) 他の人々の意見に接した際に、その内容を整理し、正確に理解した上で、適切な言葉を用いて(口頭でも文章でも)反応することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
真にやむを得ない事情がある場合を例外として、原則として全回出席していることを成績評価の前提とし、各自の演習への積極的な参加態度と小レポートの内容を中心に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
日本語の作文技術 / 木下是雄: 中央公論新社, 1981					
<b>メッセージ</b>					
医学入門Iの内容は、前期毎週火曜夕方に設けられた「フレックスタイム」の時間帯に補足されます。					
<b>連絡先</b>					
各自、オリエンテーション時に担任教員に確認すること。					
<b>オフィスアワー</b>					
各自、オリエンテーション時に担任教員に確認すること。					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月5～6	<b>時間割コード</b>	1001121001
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	機械			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	森田 実			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくことが重要である。特に、工学分野では、物理現象を視覚的に理解・解析する道具として、コンピュータの活用が必要不可欠となる。本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。また、コンピュータの利用方法としては、機械工学で取扱う物理現象を例題にレポート制作手順の習得とする。具体的には、物理現象のグラフ化(表計算ソフト:数値解析と解析手解法の比較)、物理現象を説明する文章の作成(ワープロソフト:報告書)を行う。また、作成した報告書の内容を視覚的に発表する方法(プレゼンテーションソフト)も学ぶ。そして、プログラミング言語(C言語)を用いた例題の計算方法の基礎を学ぶ。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>セキュリティの問題を理解し、その対策をとることができる。 汎用のソフトウェアを用いることで、物理現象の視覚的理解と解析を目指す。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>セキュリティやネチケットの問題を認識し、適切なインターネット利用法を自分で判断することができる。 汎用のソフトウェアを用いることで、自分の考えをまとめ、特色のある報告書の作成を行う。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>セキュリティやネチケットの問題やインターネット、各種ソフトウェアに積極的に興味を持ち、コンピュータ利用することができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>積極的に演習に参加し、コンピュータ利用方法を習得しようと努力しているか。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>WEBブラウザ、ワードプロセッサ、プレゼンテーションソフト、表計算ソフト、プログラミング言語の利用方法を習得し、それらを利用して自分の考えを表現することができる。</p> <p><b>その他の観点:</b>毎週、ノート型パソコンを持参してもらい、それを用いて解説、演習を行う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>コンピュータは情報化社会に欠かせない道具であり、その利用方法の習得には、自ら興味を持ち積極的に利用することが一番です。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月7～8	<b>時間割コード</b>	1001121002
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	電気			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	甲斐 綾子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月 9～10	<b>時間割コード</b>	1001121005
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	生資			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	荊木 康臣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は 2 回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は 1 回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・定期試験は実施しないが、試験形式で最終課題を課す。宿題、課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月 9～10	<b>時間割コード</b>	1001121003
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(数・理))・情報(数情)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	古賀 和利, 林川 基治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>(1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。</p> <p>(2)基本的なアプリケーションを活用できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>(1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>(1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。</p> <p>(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>(1)情報倫理を守った行動ができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>(1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。</p> <p>(2)データの集計や分析を行うことができる。</p> <p>(3)情報の発信を行うことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月 9～10	<b>時間割コード</b>	1001121004
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	学教(教科)(保・英・国理)・実践			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	鷹岡 亮			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は 2 回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は 1 回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001121008
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	医学(49-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	唐澤 肇			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により情報化が急速に進展する現代社会において、パソコンやインターネットを利用できるという能力「情報リテラシー」は最早特別なものではなく、むしろ全ての人間にとって必要不可欠なものとなってきている。また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では学生個人のパソコンをネットワークに接続し、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p> <p>1)パソコンの使用方法、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基本的な使い方、インターネット上で用いる基本ツールの利用方法、ネットワークの仕組みについて修得する。2)社会生活における情報や情報技術役割および影響を理解し、情報モラルやセキュリティに対する責任の認識とともにネットワーク社会に対する態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. ネットワーク上のモラルやネチケットの意味について説明できる。2. パソコンの基本的な機器の名称および基本操作について説明できる。3. 日本語入力方法、フォント、文字の大きさの変更について説明できる。4. イメージの扱いについて説明できる。5. 表計算上での簡単な計算、関数の使い方について説明できる。6. プレゼンテーションの基本的な方法について説明できる。7. ネットワーク、インターネットの仕組みについて説明できる。8. メール、Web 参照の方法について説明できる。9. コンピュータウイルスとその予防措置について説明できる。10. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。11. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 電子メールをコミュニケーションの手段として活用できる。2. 表計算ソフトの機能を問題解決の手段として応用できる。3. ホームページを情報発信の道具として活用できる。4. 情報セキュリティの観点から自己責任における相応しい行動について判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを利活用することができる。2. パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。3. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>情報モラル、法令等を遵守することにより、ネットワーク社会への参加者として責任ある行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. ネットワーク接続ができる。2. 電子メールを利用できる。3. ワープロソフトを用いて、文書作成ができる。4. 表計算ソフトを用いて、表作成や計算、グラフ作成ができる。5. ホームページの作成ができる。6. プレゼンテーションソフトを用いて、プレゼンテーション資料の作成ができる。7. ネットワークを利用した情報の収集ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。各回の課題・レポートにて実習内容の要素毎の理解度・達成度を判断、最終レポートにて総合的理解度を判断する。</p> <p>遅刻、早退および課題の提出期限遅れは減点する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
山口大学「情報処理テキストWeb版」					
<b>メッセージ</b>					
<p>授業の際は必ずノートパソコンを持参すること。</p> <p>課題およびレポートは必ず提出すること。</p> <p>期末試験は行わない。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001121007
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	医学(1-48)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	戸ヶ里 泰典			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> <li>・授業の際は必ずノートパソコンを持参すること。</li> <li>・課題およびレポートは必ず提出すること。</li> <li>・期末試験は行わない。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: ttogari@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001121006
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	経(1-70)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	成富 敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001121010
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岡田 耕一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)論理構造を重視した文書を作成できる。マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001121009
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	知能			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	河村 圭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
情報リテラシー office 2007 / 富士通エフ・オー・エム株式会社:FOM 出版,2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。コンピュータを使い慣れている学生は、WEBテキスト等を活用して、自学自習によりさらに高い知識技術を身につけてほしい。また、クラスには初心者もいるので、助け合って学びましょう。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
河村 圭					
工学部総合研究棟8階、TEL:0836-85-9534					
e-mail:kay@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 17:30-19:00					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001121012
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	経(71-140)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岡田 耕一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)論理構造を重視した文書を作成できる。マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001121011
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	学教(教斗(国・社・音・美))・総文(文芸)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	吉村 誠			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>(1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。</p> <p>(2)基本的なアプリケーションを活用できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>(1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>(1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。</p> <p>(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>(1)情報倫理を守った行動ができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>(1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。</p> <p>(2)データの集計や分析を行うことができる。</p> <p>(3)情報の発信を行うことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001121014
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(141-210)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	木下 真			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は 2 回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は 1 回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001121013
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(技))・健康(スポ健)・総文(国文)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	野村 厚志, 林川 基治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は 2 回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は 1 回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。					
<b>連絡先</b>					
E-mail: anomura@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 13 時～14 時 30 分					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001121015
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	情報(表現)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	葛 崎偉			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1001121016
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	学教(小学)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	糸長 雅弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>(1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。</p> <p>(2)基本的なアプリケーションを活用できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>(1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>(1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。</p> <p>(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>(1)情報倫理を守った行動ができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>(1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。</p> <p>(2)データの集計や分析を行うことができる。</p> <p>(3)情報の発信を行うことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1001121018
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	循環			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	田中 一宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくことが重要である。また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として利活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)把握する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを利活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に取り組み、所定のレベルに到達したことを以下の方法で確認する。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。授業内演習、課題および宿題から成績評価を行う。</li> <li>・すべての課題・宿題に取り組み、すべてを提出しなければ成績評価をしない。</li> <li>・出席点は無いが、出席は重視する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>各自のこれまでの知識にもよるが、授業時間が少ないので、多くの受講者は、授業時間内の演習だけでは所定のレベルに到達できないと予想される。授業以外の時間にも、自分で考えてパソコンを使うよう心がけなければ、使えるようにならない。パソコンは道具であるから、使えば使うほど、誰でも簡単に、便利に使えるようになる。特に初心者の場合、何時間使ったかでレベルが決まるので、どんどん使う行くこと。</p>					
<b>連絡先</b>					
tnk@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001121017
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	感性			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山本 正幸			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義ではWindows OS上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> <li>・毎回、ノートパソコンとLANケーブルを持ってきてください。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
感性デザイン工学科 山本正幸					
E-Mail : yama@yamaguchi-u.ac.jp					
電子メールでの問い合わせの場合は、「件名」に学年と名前を記載してください。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1001121020
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	物情			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	浦上 直人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は 2 回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は 1 回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1001121022
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	生化			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	川俣 純			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>(1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。</p> <p>(2)基本的なアプリケーションを活用できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>(1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>(1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。</p> <p>(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>(1)情報倫理を守った行動ができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>(1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。</p> <p>(2)データの集計や分析を行うことができる。</p> <p>(3)情報の発信を行うことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。2 回以上欠席した場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
理学部 434 号室					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1001121019
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	数理			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	廣澤 史彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は 2 回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は 1 回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1001121021
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	地球			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	宮田 雄一郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は 2 回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は 1 回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001121023
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	経(211-280)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉井 学			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>(1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。</p> <p>(2)基本的なアプリケーションを活用できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>(1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>(1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。</p> <p>(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>(1)情報倫理を守った行動ができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>(1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。</p> <p>(2)データの集計や分析を行うことができる。</p> <p>(3)情報の発信を行うことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
manabu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001121025
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	社建			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	榊原 弘之			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、文書作成、表計算などの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p> <p>この科目は社会建設工学科 社会建設工学コース及び東アジア国際コースの以下の学習・教育目標に対応する。</p> <p>(A) 確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける。</p> <p>A-1 数学, 自然科学, 情報処理の基礎力</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1) 学内 LAN を通じ、電子メール、ブラウザを利用して様々な情報の収集・発信ができる。</p> <p>2) ワードプロセッサを用いて簡単な文書を作成することができる。</p> <p>3) 表計算ソフトを用いて簡単な表計算を実施することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>1. 演習講義には毎回出席課題をすべて提出すること。(出席は欠格条件です。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席した場合には必ず次の講義時に欠席届を提出し、指示(欠席分に相当する課題を課す)を受けること。)</p> <p>2. 第 8 回目に試験を実施します。試験では、「ワード文書、エクセルのグラフが作成でき、グラフをワード文書に貼り付けることができる」ことを、単位認定の必要条件とします。</p> <p>3. 課題の達成度に基づいて、再試験を課すことがあります。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>・この講義には、ノートパソコンが必要です。</p> <p>・いろいろな機能について、実際に試して、体得して下さい。</p>					
<b>連絡先</b>					
榊原: sakaki@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001121024
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	看護(61-), 検査			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	篠原 紀幸			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)冗監する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001121026
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	言語(1-50)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	小川 勤			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>(1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。</p> <p>(2)基本的なアプリケーションを活用できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>(1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>(1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。</p> <p>(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>(1)情報倫理を守った行動ができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>(1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。</p> <p>(2)データの集計や分析を行うことができる。</p> <p>(3)情報の発信を行うことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
情報リテラシー office2007 / 富士通エフ・オー・エム:F O M出版,2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> <li>・毎回授業終了後に、授業に対する感想や質問を授業評価シート(ESシート)に記入してもらおう。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<p>小川研究室(共通教育事務棟3階)</p> <p>メールアドレス:ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>研究室ホームページアドレス <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ogawa-t/">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ogawa-t/</a></p>					
<b>オフィスアワー</b>					
毎週金曜日 午後2時~午後4時					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001121027
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	言語(51-, 過年度)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	木下 真			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001121028
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	看護(1-60)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	篠原 紀幸			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)冗監する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1001121030
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	人社(51-, 過年度)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	岡田 耕一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)論理構造を重視した文書を作成できる。マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は 2 回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は 1 回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1001121029
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	人社(1-50)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	小川 勤			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>(1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。</p> <p>(2)基本的なアプリケーションを活用できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>(1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>(1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。</p> <p>(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>(1)情報倫理を守った行動ができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>(1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。</p> <p>(2)データの集計や分析を行うことができる。</p> <p>(3)情報の発信を行うことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は 2 回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は 1 回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<p>情報リテラシー office2007 / 富士通エフ・オー・エム:F O M出版,2008</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> <li>・毎回授業終了後に、授業に対する感想や質問を授業評価シート(ESシート)に記入してもらう。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<p>小川研究室(共通教育事務棟3階)</p> <p>メールアドレス:ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>研究室ホームページアドレス <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ogawa-t/">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ogawa-t/</a></p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>毎週金曜日 午後2時～午後4時</p>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	金 5～6	<b>時間割コード</b>	1001121031
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(281-350)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	藤田 智丈			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は 2 回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は 1 回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	金7~8	<b>時間割コード</b>	1001121033
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	生機			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	荊木 康臣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・定期試験は実施しないが、試験形式で最終課題を課す。宿題、課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1001121032
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(351-, 過年度)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	木下 真			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は 2 回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は 1 回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1001121034
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(家)・幼児・障害)・健康(生活)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	中田 充			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Windows PC の利用方法について学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
メール, Web 閲覧等が出来るようにコンピュータを設定できるようになる。					
Word, Excel 等のソフトウェアの基本的な使い方をマスターする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Microsoft Office の基本的な操作方法をマスターし, それらを用いてレポート等を適切に書けるようになる。					
<b>態度の観点:</b> 授業に出席し, 高い意欲を持って学習している。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート 8 割, 出席 2 割(意欲・授業態度含む)					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
山口大学教育学部附推奨ノート型パソコン所有者のみを対象とします。ノート型パソコンを所有していない学生, 奨ノート型パソコン以外のパソコンの所有者は後期の授業を履修して下さい。					
欠席は基本的に認めない。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
無し					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月5～6	<b>時間割コード</b>	1001122002
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	医学			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	佐伯 徹郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月5～6	<b>時間割コード</b>	1001122001
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	医学			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	為末 隆弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月5～6	<b>時間割コード</b>	1001122003
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	機械			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	森田 実			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月7～8	<b>時間割コード</b>	1001122004
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	電気			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	平木 英治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
電気機器の中でも変圧器を主に取り上げ、設計手法を習得するとともに、導電、絶縁、磁性材料のについての知識を身に付ける。CAD についての実習も行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
これまで電気回路や電磁気学などで学んできた理論を基礎とした基本的な電気機器(主に変圧器)の設計・計算手法を修得し、さらに CAD を使った製図技術を身に付ける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.設計の概念、設計の定義、制約条件、プロセスについて説明することができる。また、設計とCADとの関係を説明することができ、CADシステムの構成を理解する。					
2.電気設計の基礎:電気機器における比容量、電気装荷、磁気装荷の関係、電気装荷と磁気装荷の配分の機器性能や構造に及ぼす影響を説明することができる。また、完全相似性、不完全相似性、微増加比例法について説明でき、実際の機器は微増加比例法に従って造られていることを理解する。					
3.変圧器の設計:容量、周波数、一次及び二次電圧、結線形式が与えられると、教科書の設計例を参考にして設計することができる。					
4.製図の基礎:製図規格を理解する。製図に用いる線の種類と用途、投影法の種類と特徴を説明することができる。電気線図で用いられる図記号を理解することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期的なレポートの提出と学期末に出題する課題の提出が要求される。					
講義への出席も成績に考慮される。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
大学課程 電気設計学 / 竹内寿太郎:オーム社					
<b>メッセージ</b>					
電気主任技術者資格認定に必要な講義である。					
<b>連絡先</b>					
hiraki@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月 9～10	<b>時間割コード</b>	1001122007
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	生資			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	荊木 康臣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月 9～10	<b>時間割コード</b>	1001122005
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(数・理))・情報(数情)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	古賀 和利, 林川 基治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月 9～10	<b>時間割コード</b>	1001122006
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(保・英)・国理)・実践			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	鷹岡 亮			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001122008
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	経(1-70)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	成富 敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001122010
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	王 躍			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>Email: wangyue@yamaguchi-u.ac.jp Tel: 0836-85-2957</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001122009
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	知能			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	河村 圭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>河村 圭 工学部総合研究棟8階 TEL:0836-85-9534 e-mail: kay@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 17:30-19:00					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火7～8	<b>時間割コード</b>	1001122012
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	経(71-140)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	王 躍			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>Email: wangyue@yamaguchi-u.ac.jp Tel: 0836-85-2957</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火7～8	<b>時間割コード</b>	1001122011
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(国・社・音・美))・総文(文芸)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	吉村 誠			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001122014
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(141-210)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	木下 真			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001122013
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(技))・健康(スポ健)・総文(国文)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	野村 厚志, 林川 基治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: anomura@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日:13時～14時30分					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	水1～2	<b>時間割コード</b>	1001122015
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	情報(表現)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	葛 崎偉			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1001122016
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	学教(小学)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	糸長 雅弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1001122018
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	循環			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	田中 一宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1001122017
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	感性			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	山本 正幸			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>感性デザイン工学科 山本正幸 E-Mail:yama@yamaguchi-u.ac.jp 電子メールでの問い合わせの場合は、「件名」に学年と名前を記載してください。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1001122021
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	生化			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	赤井 光治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1001122019
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	数理 地球			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	小柏 香穂理			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1001122020
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	物情			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	永井 好和			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
E-Mail ; ynagai@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001122022
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	経(211-280)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	永井 好和			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
E-Mail ; ynagai@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001122023
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	看護(61-), 検査			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	篠原 紀幸			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001122024
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	社建			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	中田 幸男			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p> <p>この科目は、社会建設工学科、社会建設工学コース及び東アジア国際コースの以下の学習・教育目標に対応する。</p> <p>(A) 確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける</p> <p>A-1 数学, 自然科学, 情報処理の基礎力</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。</p> <p>2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。</p> <p>2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。</p> <p>2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。</p> <p>2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。</p> <p>2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	木7～8	<b>時間割コード</b>	1001122025
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	言語, 上記2クラス合併			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	市川 哲彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	木7～8	<b>時間割コード</b>	1001122026
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	看護(1-60)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	篠原 紀幸			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1001122027
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	人社, 上記2クラス合併			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	市川 哲彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	金 5～6	<b>時間割コード</b>	1001122028
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(281-350)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	藤田 智丈			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1001122029
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(351-, 過年度)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	赤井 光治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1001122030
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	生機			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	久長 穰			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1001122031
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(家)・幼児・障害)・健康(生活)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	中田 充			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。					
2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。					
2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。					
2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。					
2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。					
2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
基本的に欠席は認めない。2 回以上の欠席者はレポートの採点の対象としないことも考えられる。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001211003
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	看護(1-40)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	赤羽 仁志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
言語学の専門家が教える新しい英文法 / 畠山雄二:ベレ出版					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特に設けず、アポイントメントによる。					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001211004
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	看護(41-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岩部 浩三			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
iwabe@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 12:50-14:20 メールで事前にご連絡ください					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001211008
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	情報・健康(スポ健)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001211002
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	医学(51-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	高橋 俊章			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。 (2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。 (3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。 <b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。 <b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。 <b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。 <b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。 ・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。 ・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。 ・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。 ・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001211005
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(国・社・数・理・音・美・保))			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	高橋 博美			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001211006
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(技・家・英)・国際 幼児 障害)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	堤 千佳子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。 (2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。 (3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。 <b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。 <b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。 <b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。 <b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。 ・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。 ・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。 ・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。 ・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001211009
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	健康(生活)・総文			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	猫田 和明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)					
<b>オフィスアワー</b>					
特に設けていません。時間が空いていればいつでも相談にのります。まずはメールください。					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001211001
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	医学(1-50)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。 (2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。 (3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。 <b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。 <b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。 <b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。 <b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。 ・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。 ・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。 ・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。 ・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001211007
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	学教(小学)・実践			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮原 一成			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。 (2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。 (3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。 <b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。 <b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。 <b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 <b>技能・表現の観点:</b> スピーディーに英語を読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。 ・オンライン自習課題は、課題の実行状況をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。 ・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・初回授業時にも、予習してくることがすでに要求されている。教科書の指示をよく読んでおくこと。 ・「TOEIC の問題形式や実用文に慣れること」が目標で、何らかの水準点を目指す授業ではありません。それよりも、基本的な聞き取り、読み取りの地道な鍛錬を目指しています。 ・言わずもがなだが、遅刻厳禁、無断での途中退席厳禁。これらはちゃんと1回分出席したとは見なさない。					
<b>連絡先</b>					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
初回授業時に知らせます。					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001211011
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(51-100)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	赤羽 仁志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特に設けず、アポイントメントによる。					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001211013
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(151-200)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岩部 浩三			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
iwabe@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 12:50-14:20 メールで事前にご連絡ください					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001211020
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	生機(41-) 獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大野 厚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001211015
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(251-300)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	鴨川 啓信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001211017
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(356-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001211012
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(101-150)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	高橋 俊章			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001211014
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(201-250)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	猫田 和明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。 (2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。 (3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。 <b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。 <b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。 <b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。 <b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。 ・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。 ・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。 ・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。 ・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)					
<b>オフィスアワー</b>					
特に設けていません。時間が空いていればいつでも相談にのります。まずはメールください。					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001211018
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	生資(1-45)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:30					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001211019
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	生資(46-)・生機(1-40)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	前出 泰司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。 (2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。 (3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。 <b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。 <b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。 <b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。 <b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。 ・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。 ・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。 ・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。 ・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001211010
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(1-50)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。 (2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。 (3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。 <b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。 <b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。 <b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。 <b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。 ・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。 ・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。 ・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。 ・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001211016
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	経(301-355)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮原 一成			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。					
<b>技能・表現の観点:</b> スピーディーに英語を読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による欠欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題は、課題の実行状況をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・初回授業時にも、予習してくることがすでに要求されている。教科書の指示をよく読んでおくこと。					
・「TOEIC の問題形式や実用文に慣れること」が目標で、何らかの水準点を目指す授業ではありません。それよりも、基本的な聞き取り、読み取りの地道な鍛錬を目指しています。					
・言わずもがなだが、遅刻厳禁、無断での途中退席厳禁。これらはちゃんと1回分出席したとは見なさない。					
<b>連絡先</b>					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
初回授業時に知らせます。					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1001211021
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	池田 守			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001211025
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	言語(1-45)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	池園 宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001211026
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	言語(46-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	太田 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。</p> <p>(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。</p> <p>(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。</li> <li>・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。</li> <li>・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。</li> <li>・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<p>『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007</p>					
<b>参考書</b>					
<p>『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006</p>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。</li> <li>・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。</li> <li>・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。</li> <li>・遅刻をしないでください。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<p>ohta@... (...は yamaguchi-u.ac.jp)</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001211028
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	物情(6-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大野 厚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。 (2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。 (3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。 <b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。 <b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。 <b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。 <b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。 ・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。 ・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。 ・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。 ・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001211031
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	検査			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	那須 朱実 [NASU Akemi]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001211030
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	生化(56-)地球			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:30					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001211027
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	数理・物情(1-5)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	藤本 幸伸			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001211024
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	人社(51-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	皆尾 麻弥			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001211023
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	人社(1-50)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮崎 充保			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
Intensive Training for the TOEIC Test [Word Book] / Mitsuyasu Miyazaki :Seibido , 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
mmiy@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
空いた時間ならいつでもオフィスアワーにします。					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001211029
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	生化(1-55)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	矢野 紀子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001211032
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	機械(1-50)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	池園 宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。 (2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。 (3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。 <b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。 <b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。 <b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。 <b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。 ・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。 ・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。 ・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。 ・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001211041
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	感性(21-) 循環(1-15)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	太田 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。</p> <p>(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。</p> <p>(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。</li> <li>・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。</li> <li>・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。</li> <li>・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<p>『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007</p>					
<b>参考書</b>					
<p>『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006</p>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。</li> <li>・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。</li> <li>・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。</li> <li>・遅刻をしないでください。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<p>ohta@... (...は yamaguchi-u.ac.jp)</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001211036
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	応化(21-70)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大野 厚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
『展開2科目群』『展開1科目群』					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001211037
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	応化(71-),電気(1-30)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岡 紘一郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による欠欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001211039
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	知能(1-50)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001211040
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	知能(51-)・感性(1-20)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。 (2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。 (3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。 <b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。 <b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。 <b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。 <b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。 ・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。 ・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。 ・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください。(担当教官のメッセージ)英語は使うことで力が付いていきます。授業では TOEIC 受験の具体的な準備の他に、基礎的な面、特に会話、リーディング(およびライティング)に力を入れます。第1目標の TOEIC400 点をクリアするための条件は、意外と簡単です。中学生程度の英語を身につければよいのです。落とし穴は「知っているつもり」のレベルでは通用しないということです。英語は使うことによって力が付きます。聞くことは聞くこと、話すことは話すこと、読むことは読むこと、書くことは書くことで力が付いていきます。テストの点数をあげようと意気込むよりは、まずはたくさん使ってみる事です。それと楽しむ。言語は生活に密接させると習得が早いです。また、自分の今のレベルをよく知り、それに適した学習をすること。 とは言うてもこのコースは7週間余りで終わる短期コースであり、また、TOEIC の仕組みを理解し、とりあえずは受験する準備もしないとなりません。さらに、オンライン宿題は統一レベルと内容なので、履修者の中にはレベルが合わないと感じる人も出てくると思います。そこでまずは与えられた課題はこなしてください。その上で、自分に適したレベルを見つけ、そのレベルの資料を用いた学習をしてください。授業では、ある程度レベル別に分けた資料を配布します。					
<b>連絡先</b>					
sonda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
非常勤講師であるため、要件のある場合は直接メールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001211042
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	循環(16-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	那須 朱実 [NASU Akemi]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001211035
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	社建(51-),応化(1-20)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:30					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001211033
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	機械(51-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	藤本 幸伸			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001211034
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	社建(1-50)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	皆尾 麻弥			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
「展開2科目群」「展開1科目群」					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001211038
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	電気(31-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	矢野 紀子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test(TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他:成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』:国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1001211022
<b>開設科目名</b>	TOEIC 準備 [Comprehensive Preparation for the TOEIC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	池田 守			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてののみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が45分のListening Comprehensionに当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。					
(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。					
(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 情報の検索力・収集力、提示された情報から求める情報を推察する力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題(自習課題やその他の課題)をきちんと行い、期限内に提出する。					
<b>態度の観点:</b> 1日1時間の自学自習の習慣を形成する。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自習課題の基本文が8割程度聞き取れるようになる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することに慣れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。単に教室に居るだけでなく、授業活動に参加しないと、出席とは見なされない。					
・オンライン自習課題の実行状況・達成率を評点に換算する(より詳しくは、授業時に説明する)。					
・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。					
・オンライン自習課題以外の課題を宿題として課すこともある。その場合には、その課題の提出も評価の対象となる。					
<b>教科書</b>					
『Intensive Training for the TOEIC Test (TOEIC テスト インテンシブ トレーニング)』 / 宮崎充保 他: 成美堂, 2007					
<b>参考書</b>					
『TOEIC テスト新公式問題集』: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
・第1回の授業の前にも、やっておかなければならない学習事項があります。教科書に挟んであるプリントをよく読んで、学習しておくこと。					
・この授業は忙しい授業です。そのため、教科書の説明は予習しておいてください。					
・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。					
・遅刻をしないでください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001212024
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	唐下 笑美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400 点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席をする					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価面 100 点満点のうち 50 点は、共通課題である TOEIC Bridge 模擬試験問題を、毎週2種類ずつ、一つも欠かさず学習する、という基準を満たすことによって与えられます。残りの 50 点ぶんの評価は、授業担当者が出す課題や試験等によって総合的に行います。詳細は授業担当者から説明を受けてください。					
2 回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で 2 度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいらただけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
基礎文法からはじめる大学英語学習 / 石井隆之、菅井康祐、西川貴子、松柏社、2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2 単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400 点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
emikotg@nifty.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火11～12	<b>時間割コード</b>	1001212026
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	唐下 笑美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席をする					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、共通課題であるTOEIC Bridge 模擬試験問題を、毎週2種類ずつ、一つも欠かさず学習する、という基準を満たすことによって与えられます。残りの50点ぶんの評価は、授業担当者が出す課題や試験等によって総合的に行います。詳細は授業担当者から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
基礎文法からはじめる大学英語学習 / 石井隆之、菅井康祐、西川貴子、松柏社、2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
emikotg@nifty.com					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期後半	曜日時限	月5-6	時間割コード	1001212003
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	倉増 泰弘			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいないだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001212004
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	高橋 博美			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期後半	曜日時限	月5-6	時間割コード	1001212002
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	堤 千佳子			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる <b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる <b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する <b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。 共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。 毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。 期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。 3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。 残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。 2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいないだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
Features and Aspects of Australia 21 / 松原健二: 南雲堂, 2008					
<b>参考書</b>					
Features and Aspects of Australia 21 / 松原健二: 南雲堂					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。 TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。 原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001212001
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
/ 山根 和明, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
経済学部内、研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

開設期	前期後半	曜日時限	月7~8	時間割コード	1001212008
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	大野 厚子			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる <b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる <b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する <b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。 共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。 毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。 期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。 3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。 残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。 2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。 TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。 原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期後半	曜日時限	月7~8	時間割コード	1001212005
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	倉増 泰弘			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいないだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001212009
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400 点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。また、TOEIC 頻出語彙と文法を、キング牧師の黒人公民権運動を扱った教科書の中で身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> <li>・音読力を身につける。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> ストーリー性のある英文を読むことの面白さを知る。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100 点満点のうち 50 点は、以下の条件を 3 つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低 2 時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が 12 時間以上になっている。					
3 つの条件のうち 1 つでも欠けている場合は、この部分の評価は 0 点となります。					
残りの 50 点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2 回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で 2 度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
MRATIN LUTHER KING / Coleen Degnan-Veness: Penguin Books , 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター 1 単位のみ履修できます。2 単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400 点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:30					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001212006
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	前出 泰司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001212007
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
/ 山根 和明, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
経済学部内、研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001212011
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大野 厚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001212013
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	那須 朱実 [NASU Akemi]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
Tune up for the TOEIC Test Listening - TOEIC テストリスニングとキャリア体験 - / 塩見佳代子 / Tony Cripps: 成美堂, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修した場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001212014
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400 点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。また、TOEIC 頻出語彙と文法を、キング牧師の黒人公民権運動を扱った教科書の中で身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> <li>・音読力を身につける。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> ストーリー性のある英文を読むことの面白さを知る。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価 100 点満点のうち 50 点は、以下の条件を 3 つともクリアすることで与えられます。</p> <p>共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。</p> <p>毎週最低 2 時間のオンライン学習を行っている。</p> <p>期限内のオンライン学習の合計時間が 12 時間以上になっている。</p> <p>3 つの条件のうち 1 つでも欠けている場合は、この部分の評価は 0 点となります。</p> <p>残りの 50 点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。</p> <p>2 回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で 2 度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。</p>					
<b>教科書</b>					
MRATIN LUTHER KING / Coleen Degnan-Veness: Penguin Books , 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>各クォーター 1 単位のみ履修できます。2 単位以上履修をした場合は全部が無効になります。</p> <p>TOEIC400 点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。</p> <p>原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。</p>					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:30					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001212012
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
/ 山根 和明, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
経済学部内、研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001212010
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	矢野 紀子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修した場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001212021
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	池園 宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
TOEIC Test Basics Checkbook 1 / Christofer Bullsmith 他: 南雲堂, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001212020
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	太田 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
ohta@... (...は yamaguchi-u.ac.jp)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001212023
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大野 厚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001212015
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岡 紘一郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>思考・判断の観点:</b> テキストの筆者の意図がよみとれる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち 50 点は、以下の条件を 3 つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低 2 時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が 12 時間以上になっている。					
3 つの条件のうち 1 つでも欠けている場合は、この部分の評価は 0 点となります。					
残りの 50 点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2 回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で 2 度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
KING LEAR / J.Bassett: 南雲堂, 1992					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター 1 単位のみ履修できます。2 単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400 点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期後半	曜日時限	火7~8	時間割コード	1001212017
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	倉増 泰弘			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001212018
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的の自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
(担当教官よりメッセージ)					
TOEIC400点をクリアするための条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。落とし穴は「知っているつもり」のレベルでは通用しないということです。解決法も意外と明確です。英語は使うことによって力が付きます。聞くことは聞くこと、話すことは話すこと、読むことは読むこと、書くことは書くことで力が付いていきます。問題の核心のほとんどは、実際に使う量を多くするにはどうしたらよいか、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感です。したがって、この授業では、この両方に対処します。					
具体的には、コミュニケーションゲームなどを通して、実際に英語を使う場面を増やします。授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。会話などのオーラルコミュニケーションを主体としますが、慣れてくるにつれ、リーディング・ライティングに力を入れていきます。リーディングでは特に速読力をつけます。ゲームを通して語彙・文法力アップも目指します。					
<b>連絡先</b>					
oneworld@international.name					
<b>オフィスアワー</b>					
非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001212019
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	那須 朱実 [NASU Akemi]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
以上の3つのという基準をすべて超えることによって、合格となります。合格基準を満たした受講生に対する秀から可までの成績評価は、授業担当者が出した課題や試験によって総合的に行います。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
Tune up for the TOEIC Test Listening -TOEIC テストリスニングとキャリア体験- / 塩見佳代子 / Tony Cripps: 成美堂, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001212022
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400 点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。また、TOEIC 頻出語彙と文法を、キング牧師の黒人公民権運動を扱った教科書の中で身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> <li>・音読力を身につける。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>思考・判断の観点:</b> ストーリー性のある英文を読むことの面白さを知る。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100 点満点のうち 50 点は、以下の条件を 3 つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低 2 時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が 12 時間以上になっている。					
3 つの条件のうち 1 つでも欠けている場合は、この部分の評価は 0 点となります。					
残りの 50 点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2 回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で 2 度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
MRATIN LUTHER KING / Coleen Degnan-Veness: Penguin Books , 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター 1 単位のみ履修できます。2 単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400 点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:30					

開設期	前期後半	曜日時限	火7~8	時間割コード	1001212016
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	矢野 紀子			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる <b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる <b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する <b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。 共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。 毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。 期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。 3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。 残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。 2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。 TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。 原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001212025
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	唐下 笑美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400 点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100 点満点のうち 50 点は、以下の条件を 3 つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低 2 時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が 12 時間以上になっている。					
3 つの条件のうち 1 つでも欠けている場合は、この部分の評価は 0 点となります。					
残りの 50 点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2 回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で 2 度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター 1 単位のみ履修できます。2 単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400 点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
emikotg@nifty.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火11～12	<b>時間割コード</b>	1001212027
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	唐下 笑美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
emikotg@nifty.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001219002
<b>開設科目名</b>	TOEIC 指導 [Basic Training for the TOIEC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 14 ~ 19 年度入学者			<b>学年</b>	2 ~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC に必要な基本的語彙、文法を習得し、TOEIC スコアの向上を目指す。					
<b>授業の一般目標</b>					
TOEIC350点獲得					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC に必要な基本的語彙、文法を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 素早く判断する力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> TOEIC スコア向上への意欲を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 自学自習の習慣をつける。					
<b>技能・表現の観点:</b> TOEIC に必要な語彙力とは、英語を他の英語で置き換えられる能力です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学部によって要求されるスコアが違うので、要求されたスコアをとれば「可」以上で評価する。300~345は「可」、350~395は「良」、400から445は「優」、450以上は「秀」とする。					
<b>教科書</b>					
TOEIC テスト新公式問題集 vol. 3: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
とにかく要求されている TOEIC スコアを何が何でもクリアしよう!!!					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1001219004
<b>開設科目名</b>	TOEIC 指導 [Basic Training for the TOIEC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 14 ~ 19 年度入学者			<b>学年</b>	2 ~
<b>担当教員</b>	JOHNSON JUDITH ANN			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
This course focuses on reading skills. Students will read about a variety of subjects that will increase their vocabulary and general knowledge about the world around them. In class, they will practice using textbook readings. Outside of class, students will use a web-based timed-reading program to practice reading and answering related comprehension questions.					
<b>授業の一般目標</b>					
Students will increase their reading speed and comprehension. The goal is for each student to increase her/his reading speed by 50% with a minimum comprehension rate of 80%. The passing criteria is a MINIMUM speed of 100 (Words Per Minute) WPM with 60% comprehension.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Explain the content of reading texts.					
<b>思考・判断の観点:</b> Discuss important information found in and related to reading texts.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Explain own ideas and opinions.					
<b>態度の観点:</b> Participate in in-class discussions.					
<b>技能・表現の観点:</b> Improve reading speed.					
Use the vocabulary in the texts studied to discuss the topics.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ALL assignments must be completed. If a student is absent more than once he/she CANNOT pass the class.					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月3～4	<b>時間割コード</b>	1001219003
<b>開設科目名</b>	TOEIC 指導 [Basic Training for the TOIEC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 14～19 年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC に必要な基本的語彙、文法を習得し、TOEIC スコアの向上を目指す。					
<b>授業の一般目標</b>					
TOEIC350 点獲得					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC に必要な基本的語彙、文法を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 素早く判断する力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> TOEIC スコア向上への意欲を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 自学自習の習慣をつける。					
<b>技能・表現の観点:</b> TOEIC に必要な語彙力とは、英語を他の英語で置き換えられる能力です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学部によって要求されるスコアが違っているので、要求されたスコアをとれば「可」以上で評価する。300～345は「可」、350～395は「良」、400から445は「優」、450以上は「秀」とする。					
<b>教科書</b>					
TOEIC テスト新公式問題集 vol. 3: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
とにかく要求されている TOEIC スコアを何が何でもクリアしよう!!!					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00～14:00					

<b>開学期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1001219005
<b>開教科目名</b>	TOEIC 指導 [Basic Training for the TOIEC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 14 ~ 19 年度入学者			<b>学年</b>	2 ~
<b>担当教員</b>	JOHNSON JUDITH ANN			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>This course focuses on reading skills. Students will read about a variety of subjects that will increase their vocabulary and general knowledge about the world around them. In class, they will practice using textbook readings. Outside of class, students will use a web-based timed-reading program to practice reading and answering related comprehension questions. The passing criteria is a MINIMUM speed of 100 (Words Per Minute) WPM with 60% comprehension. In class, students will do timed reading of texts with comprehension questions. They will use the vocabulary in the texts to discuss the topic.</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>Students will increase their reading speed and comprehension. The goal is for each student to increase her/his reading speed by 50% with a minimum comprehension rate of 80%. The passing criteria is a MINIMUM speed of 100 (Words Per Minute) WPM with 60% comprehension.</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Explain the content of reading texts.					
<b>思考・判断の観点:</b> Discuss important information found in and related to reading texts.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Explain own ideas and opinions.					
<b>態度の観点:</b> Participate in in-class discussions.					
<b>技能・表現の観点:</b> Improve reading speed.					
Use the vocabulary in the texts studied to discuss the topics.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ALL assignments must be completed. If a student is absent more than once he/she CANNOT pass the course.					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火11～12	<b>時間割コード</b>	1001219010
<b>開設科目名</b>	英語基礎(1) [Fundamental English 1]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	平成14・15年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	内海 俊祐			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また、毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が、URL が長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが700点(7回) [『英語基礎(1)』のみを受講する者に対しては、600点(6回)] 単語テストが200点(5回)です。</p> <p>『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を100点(あるいは200点)とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
『英語基礎』 / 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火11～12	<b>時間割コード</b>	1001219013
<b>開設科目名</b>	英語基礎(2) [Fundamental English 2]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	平成14・15年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	内海 俊祐			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また、毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります(<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が、URL が長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが600点(6回)単語テストが200点(5回)です。</p> <p>『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を200点とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
『英語基礎』 / 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火11～12	<b>時間割コード</b>	1001219019
<b>開設科目名</b>	英語基礎文法(1) [Fundamental English 1]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	平成16年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	内海 俊祐			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また、毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が、URL が長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが700点(7回) [『英語基礎文法(1)』のみを受講する者に対しては、600点(6回)] 単語テストが200点(5回)です。</p> <p>『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を100点(あるいは200点)とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
『英語基礎』 / 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火 11～12	<b>時間割コード</b>	1001219022
<b>開設科目名</b>	英語基礎文法(2) [Fundamental English 2]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 16 年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	内海 俊祐			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また、毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が、URL が長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが 600 点(6 回) 単語テストが 200 点(5 回) です。</p> <p>『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
『英語基礎』 / 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火11～12	<b>時間割コード</b>	1001219016
<b>開設科目名</b>	英語基礎文法 [Fundamental English]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	平成17～19年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	内海 俊祐			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また、毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が、URL が長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが1300点(13回)、単語テストが400点(10回)です。</p> <p>『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を300点とし、これらの合計2000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
『英語基礎』 / 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001213002
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上欠席した学生の成績は不可となる。・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る(=60%)。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する(=40%)。					
・期末試験はありませんが、中間と期末に、自己評価を兼ねて復習や自己分析などを行います。また、学びを結集させたコミュニケーション・プロジェクトを行います。・オンラインの補足課題は教科書の該当する章のA-Dを読み、感想文を英語で100単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。・妥当な理由で休んだ授業の補足課題は、教科書の該当する章のE-Fを読み、感想文を英語で250単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声をだし、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、とまどく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょ。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。					
(担当教官よりのメッセージ) 英語の力を身につけること、特に会話力の習得の条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。ただし、言うは易しで、実際問題の核心は、実際に英語を使う頻度を多くするにはどうしたらよいかという方法論か、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感の克服です。この授業では、この両方に対処します。具体的には、授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。「好きこそもの上手なれ」の諺どおり、好きになることが先決です。そして、コミュニケーションゲームを多く取り入れ、自然に会話ができるように場面設定をしていきます。授業目標の一部はオンライン宿題や教科書など、事前に設定されたメニューもありますが、学習とは本来は学習者が主体になったときに最大の効果を発揮すると考えるため、残りの部分は学習者が探りながら見つけ、設定していくというプロセス・シラバスを重視します。つまり、ペアワークやグループ作業をしながら、自分に必要と思われる要素を確認していき、その部分を伸ばす工夫をします。					
<b>連絡先</b> sonda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001213001
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	Rebstock Jim			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月9~10	<b>時間割コード</b>	1001213003
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上欠席した学生の成績は不可となる。・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る(=60%)。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する(=40%)。・期末試験はありませんが、中間と期末に、自己評価を兼ねて復習や自己分析などを行います。また、学びを結集させたコミュニケーション・プロジェクトを行います。・オンラインの補足課題は教科書の該当する章のA-Dを読み、感想文を英語で100単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。・妥当な理由で休んだ授業の補足課題は、教科書の該当する章のE-Fを読み、感想文を英語で250単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、とまどく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょ。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。					
(担当教官よりのメッセージ) 英語の力を身につけること、特に会話力の習得の条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。ただし、言うは易しで、実際問題の核心は、実際に英語を使う頻度を多くするにはどうしたらよいかという方法論か、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感の克服です。この授業では、この両方に対処します。具体的には、授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。「好きこそもの上手なれ」の諺どおり、好きになることが先決です。そして、コミュニケーションゲームを多く取り入れ、自然に会話ができるように場面設定をしていきます。授業目標の一部はオンライン宿題や教科書など、事前に設定されたメニューもありますが、学習とは本来は学習者が主体になったときに最大の効果を発揮すると考えるため、残りの部分は学習者が探りながら見つけ、設定していくというプロセス・シラバスを重視します。つまり、ペアワークやグループ作業をしながら、自分に必要と思われる要素を確認していき、その部分を伸ばす工夫をします。					
<b>連絡先</b> sonda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月9～10	<b>時間割コード</b>	1001213004
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	Rebstock Jim			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001213005
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	那須 朱実 [NASU Akemi]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさや乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからついて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからついて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001213006
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	CHRIST Alan Robert			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001213007
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	HICKS CRAIG ROBERT			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからついて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからついて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1001213008
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからついて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからついて流ちょうに話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水 11～12	<b>時間割コード</b>	1001213009
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさや乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからついて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからついて流暢に話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金5-6	<b>時間割コード</b>	1001213010
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	TAKEMOTO TIMOTHY ROLAND SCOTT			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1001213011
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさや乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00～14:30(福屋研究室)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001215101
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	EDWARDS NATHANIEL TYLER			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing.</p> <p>2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced.</p> <p>3) Key grammar points will be reviewed and practiced.</p> <p>4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics.</p> <p>5) Students will learn and use new study techniques.</p> <p>6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups.</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Written Exam: 20% of Final Grade.					
Homework and Reports: 60%					
Attitude and Participation: 20%					
<b>教科書</b>					
Reading Challenge 1 / Casey Malarcher, Michael Pederson: Compass Publishing, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
<b>連絡先</b>					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
14:30 16:00 (木)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001215102
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	EDWARDS NATHANIEL TYLER			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing.</p> <p>2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced.</p> <p>3) Key grammar points will be reviewed and practiced.</p> <p>4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics.</p> <p>5) Students will learn and use new study techniques.</p> <p>6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups.</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Written Exam: 20% of Final Grade.					
Homework and Reports: 60%					
Attitude and Participation: 20%					
<b>教科書</b>					
Reading Challenge 1 / Casey Malarcher, Michael Pederson : Compass Publishing , 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
<b>連絡先</b>					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
14:30 16:00 (木)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001215103
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC 500-600 点前後を対象とする(最低 400 点、上限なし)。速くたくさん書く能力を身につけると同時に、従来重視されてきた正確な英文を書く能力にもさらに磨きをかける。5 分間でできるだけたくさんの英文を書いたり、毎週ある程度の英文を自宅で書いたりしながら、最終的には 400 単語程度の小エッセイを書く能力を身につける。					
<b>授業の一般目標</b>					
前半では、これまでの教育おそらくあまり経験していないと思われる速く多量の英文を書く練習をする。後半は、正確な文章を書くだけでなく、節と節をや文と文の一貫性を達成させ、論理的なパラグラフの書き方を学び、さらにアカデミックな小エッセイを組み立てていく能力も養う。つまり、文章レベルを超えた、段落間のつながりやエッセイ全体の完全性を実現させるスキルを養う。また、アカデミック・ライティングだけでなく、その他の様々なジャンルの英文の書き方にも少し触れる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> パラグラフの書き方を学ぶ。Topic sentence, support, conclusuon sentence の役割を学ぶ。一貫性と結束性のある文章・段落を書く。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 英文ライティングを楽しむ。自由に書く。					
<b>態度の観点:</b> Writing を楽しむ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 文章レベルだけでなく、段落の書き方、また Discourse 全体の構成の仕方まで学ぶ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業評価=50% (出席・演習・参加・授業内プロジェクト)					
宿題=25%					
中間・期末プロジェクト=25%(ライティング・自己評価)					
・授業は講義を聴くだけでなく、頻繁に書く作業、それとパートナーとのシェアリングがあります。したがって、授業中の作業はポイントカードにより評価されます。					
・毎週、ライティング課題があります。これは主に量をこなすことを目的としているため、努力点として評価します。					
・いわゆるペーパーテスト的な期末試験はありませんが、中間と期末に、質を重視したライティングの課題があります(予定)。また、自己評価を兼ねて復習や自己分析などを行います。					
・妥当な理由で休んだ授業の補足課題は、HP より資料をダウンロードし、課題をこなします。英作文を 300-400 単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則 1 か月以内とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
書く能力は書くことでついていきます。したがって、ある程度量をこなす必要があります。しかし、質を高めることも必要です。そのためには、お手本となる英文をたくさん読むことも必要となります。よって、この授業では、読むことと書くことを合体させたアプローチを取ります。また、ペアワークにより、クラスメートとのやり取りを通じた学習も頻繁に取り入れます。その理由は、実用的語学学習では、一人でじっと座って講義を聴くよりは、平均すると、interaction(パートナーとのやりとり)を通しての学習の方が効果があるからです。					
人間の目的発達の歴史をみると、人はまず聞く・話す能力を発達させ、それからずっと後になって、読む・書くという能力を習得しました。したがって、聞く・話すというオーラルコミュニケーションは、読む・書くという比較的新しい能力の基盤となっています。この授業では、クラスメートとの頻繁なオーラルコミュニケーションも導入しながら、読む・書くという作業へと発展させていきます。この 4 技能がいかに深く関連し合っているかを知ること、書く能力を伸ばす鍵となります。こういったインタラクティブな学習法にもぜひ挑戦し、楽しんでください。					
<b>連絡先</b>					
sonda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
非常勤講師なのでメールにて連絡ください。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火11～12	<b>時間割コード</b>	1001215104
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	JOHNSON JUDITH ANN			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
In this class, students will use vocabulary, grammar patterns and diverse writing styles to enhance the readability of their written English.					
<b>授業の一般目標</b>					
Write about topics selected by themselves and the instructor. Perform fundamental tasks such as write descriptions, summaries and essays.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Describe people, places, things and feelings in English.					
<b>思考・判断の観点:</b> Use thinking skills to order data in a paragraph, logically.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Express one's own opinion and feelings in a written assignment.					
<b>態度の観点:</b> Cooperate with each other in correcting errors on each other's papers.					
<b>技能・表現の観点:</b> Use writing conventions (paragraph structure, verbs, punctuation, etc.) correctly.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
All assignments must be submitted ON TIME. If absent, it is the student's responsibility to submit the assignment on time. If a student is absent more than three times, she/he CANNOT pass the course.					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001215105
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	谷國 晶洋			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
これまで学習してきた英語の基本的な文法項目を確認しながら、様々な練習問題を行って正しい英文を書く「足場」を作る。					
<b>授業の一般目標</b>					
正しい英文を書けるようにし、英語の表現力を向上させる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英語の文法を理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業に積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 正しい英文が書ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期テストと授業への参加度(出席・発表点)の総合評価					
<b>教科書</b>					
Scaffolding English Composition and Grammar / 福井慶一郎 他:成美堂, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
blakist@ezweb.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001215106
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語ライティングは、就職・進学にかかわらず、現在のグローバル化のなかで要求される不可欠のスキルです。この授業では、何より、自分の伝えたいことを出来るだけ正確に伝える英語ライティング能力の獲得を目指します。					
<b>授業の一般目標</b>					
パラグラフ・ライティングの基礎能力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語ライティングに必要な語彙、文法、表現法をマスターする。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語の思考、判断と英語のそれとの違いを認識する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 英語ライティングの楽しさと、そこから広がる異文化理解への興味を深める。					
<b>態度の観点:</b> 英語で考える習慣を身につける。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えをパラグラフ・ライティングできる。					
<b>その他の観点:</b> 英語圏の思考回路もあわせて学習する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
英語ライティングの授業ですから、定期試験も授業を通じてのレポート作成も、英文作成能力に絞って評価します。					
<b>教科書</b>					
Let's Write and Communicate! / Nobukazu Aoki / Haruo Erikawa: 金星堂, 2001					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語で考えよう!					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001215107
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	細木 孝雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
「誤りを気にしないで、どんどん英文で自己表現をする」という基本的な立場を維持しながら、自己表現に役立つ語彙や日本人が間違いやすい表現注意を払いながら、身近なテーマについて簡単な文章を作るための作業をどんどん進めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本語を介入しないで、英語で表現することになれば共に、英文のパラグラフの基本的な書き方を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 自己表現に役立つ語彙や表現を覚えて、アウトプットできる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自分の表現したいことを簡単なパラグラフにして、意思疎通を図る。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 身近なテーマに関心を持ち、それらを簡単な英語で表現できる。					
<b>態度の観点:</b> どんなことでも繰り返し英語で言ったり、自問自答ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本的な語彙や表現を身につけて、いつでも英語で発信できる力を身につける。					
<b>その他の観点:</b> 簡単な英作文ができるようになれば、英会話もできる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への積極的参加状況、課題提出、定期試験により総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
Can't Stop Writing / Manabu Miyata: Sanshusha, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
誤りを気にしないで、どんどん英語で自己表現をしてみよう。和英辞典、英英辞典使用可					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001214001
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	堤 千佳子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業ではTOEIC400点以上を取得した学生を対象に、リーディング能力を養成する。</p> <p>読解力を高めるための英文法の涵養も併せて目標とする。内容理解の確認、リスニング、ヴォキャブラリーに関するエクササイズをこなしていく。</p> <p>話題となっているオバマ大統領の演説を取り上げることで、説得力のあるスピーチとはどのようなものか理解する。またアメリカの背景について様々な角度から取り上げる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1)読解力の向上</p> <p>(2)時事的な内容を取り上げたテキストを用いることで、様々なトピックについての知識を得る。</p> <p>(3)スピーチの鑑賞</p> <p>(4)異文化理解</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 読解力の養成					
内容理解					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題を確実にを行い、授業に臨む。					
英語の学習のほかに、取り上げられている内容、社会背景などにも関心を持つこと					
<b>態度の観点:</b> 自学自習の習慣を形成する。					
<b>技能・表現の観点:</b> いわゆる英語の4技能の能力の向上					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1/3以上の欠席は失格。					
出席率、授業への参加度、適宜課する小テスト、定期試験の組み合わせにより総合的に評価を行なう。					
<b>教科書</b>					
A Changing America in a New World / W. Balsamo: 金星堂, 2007					
オバマ演説集: 朝日出版社, 2008					
<b>参考書</b>					
A Changing America in a New World / W. Balsamo: 金星堂, 2007					
オバマ演説集: 朝日出版社, 2008					
<b>メッセージ</b>					
1/3以上の欠席は失格となります。					
遅刻は厳禁です。					
必ず予習をして、授業に臨んでください。予習の段階で音読を必ず試みてください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001214002
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	前出 泰司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医学・医療の分野の最近の動向を英文で読む。					
<b>授業の一般目標</b>					
現代の医学・医療の分野における問題点ならびに今後の動向に関する問題を英文で読む。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験・レポート					
<b>教科書</b>					
かけがえのない健康と環境 / S.Clankie 他					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月9~10	<b>時間割コード</b>	1001214003
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	JOHNSON JUDITH ANN			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
This Extensive Reading course is for students who want to improve their reading skills in English through reading a variety of genres of short stories, articles and EFL books for general understanding with the intention of enjoying the texts. Students read for pleasure, so they choose the books they read depending on their own interests and individual reading level.					
<b>授業の一般目標</b>					
Understand the value of reading and how to select appropriate books. Acquire the habit of reading in English for pleasure.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Explain the plot and describe important characters and issues.					
<b>思考・判断の観点:</b> Identify significant parts of the story. Use higher-level thinking skills to critique and evaluate what they read.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Give one's own opinion about a book and its contents.					
<b>態度の観点:</b> Discuss events in correct and logical sequences.					
<b>技能・表現の観点:</b> Summarize a chapter or book.					
<b>その他の観点:</b> Improve reading fluency and comprehension.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
The student must read 13 books in order to pass this class.					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001214004
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	谷國 晶洋			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代社会の諸問題を論じた英文を読み、自分で考える力をつける。					
<b>授業の一般目標</b>					
エッセイ講読を通して読解力をつけるとともに、現代社会の諸問題に対する鋭敏な感受性を身につけること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英文が正しく読め、内容が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 現代社会の諸問題に関する情報をふまえ、しっかり物事を考える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業に積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語の語彙を増やし、英作文の能力を強化する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期テストと授業への参加度(出席及び発表点)による総合評価					
<b>教科書</b>					
Confronting the Issues. / David Peaty: 金星堂, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
blakist@ezweb.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001214005
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	那須 朱実 [NASU Akemi]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
「英文を英文そのものとして読解する」ことを狙いとする。すべての単語を辞書で引き、文法に躍起になり、日本語訳に落ち着く従来の英語読解から脱却し「英語を英語として楽しむ」ことを目標とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英文解読の最も「基礎」となる語彙力増強を目指すこと。</li> <li>・ 馴染みのない語彙 / 内容を推測するストラテジーを学ぶこと。</li> <li>・ 英文法の再整理、復習を行なうこと。</li> <li>・ 培った語彙 / 文法知識を実際のリーディングに活かすこと。</li> <li>・ 正しい精読により、より深い英文解読に結びつけること。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎力である語彙力の増強					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文法の基礎理解 および文法能力の向上。</li> <li>・ 正しい精読による英文解読の力を養うこと。</li> </ul>					
<b>関心・意欲の観点:</b> 様々なトピックに触れることにより、英語への関心は勿論、世の中の動き、国際状況、文化、サイエンスなど、多くの事柄への視野を広げて欲しい。さらには、自分自身はどのように感じ、考えるのか、という発展性を期待する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 単に文章を「読む」だけでなく、内容を理解し、さらには自分なりに組み立て直して英語で伝えられる能力を養ってほしい。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席(欠格条件とする。4回以上欠席の場合、単位は認定しない。)</li> <li>・ 授業への参加度、参加態度</li> <li>・ 小テスト、授業内/外レポート、宿題</li> <li>・ 学期末試験(注:出席が規定に満たない者は受験できない。)</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
Reader's Ark Basic -Setting Out on A Voyage- 英語リーディングの冒険:基礎編 / 卯城祐司 / 中川知佳子 / Mari Le Pavoux: 金星堂, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習・復習を前提として授業を進める。本気で取り組み、英語で長文を読めるようになりたい、という学生に来ていただきたい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1～2	<b>時間割コード</b>	1001214006
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	細木 孝雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
文章の内容の把握が到達目標ではなく、ペアワークやグループワークの形で学生参加型の授業を展開し豊富な内容理解のアクティビティと表現練習を行い、記憶に残るような作業をしていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
テーマについて内容を理解し簡単な英語で要約したり、自分の意見がある程度言えたりかけたりできる、					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 主要な語彙や表現、英作文や会話に役立つ英文を覚え自分のものにする。					
<b>思考・判断の観点:</b> 内容を把握しながら、問題意識を持ち解決できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 現代社会の諸相について関心を持ち、いろいろな情報を集め知識を得る。					
<b>態度の観点:</b> トピックに関して、関連事項を調べたり自分の意見をまとめる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 沢山の語彙や表現をアウトプットできる。					
<b>その他の観点:</b> ペアワークやグループワークになれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への積極的参加状況、課題提出、定期試験により総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
Reading in Action / Tetsuhito Shizuka: Kinseido, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
現代社会の諸相に関心を持ち、問題意識を高めよう。予習必須。英和辞典必携。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001216202
<b>開設科目名</b>	英語特別演習 [English Special Advanced Course]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	高橋 博美			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英字新聞や映画を教材にして、英文読解とリスニングの演習を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
新聞や映画で使われている英語を読んだり、聞いたりすることを目標とする。また、内容を理解することによって、様々な事柄についての理解を深め、思考力や想像力を高める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 単語の意味が正確に理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 表現理解を通して、内容を吟味することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題に真面目に取り組み、読解力・リスニング力の向上に努める。					
<b>態度の観点:</b> 授業に積極的に参加することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語表現力・読解力の養成					
<b>その他の観点:</b> 自分の解答・考えをはっきりと発表することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験70% + 授業における参加度(小テスト、質問に答えるなどによる得点、授業態度、出席状況等)30%で総合評価する。 欠席1回ごとに全体の評価(100点)から5点減点。遅刻・早退については、合計3回を欠席1回とみなす。指名して予習不十分と判明した場合は出席点を-0.5回分にする(2度重なれば、1回欠席と同じ)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
「Japan Times を短時間に訳をせずに読む」ことを受講選択の目安にしてください。たくさん量を扱いますので、予習は必ずして下さい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001216203
<b>開設科目名</b>	英語特別演習 [English Special Advanced Course]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC スコアによる判定によって一定の英語力のある受講生を対象に、1)英語の基本知識をさらに確実に身につけること;2)上級英文法の知識に触れること;3)知識を実践へ活用させることを念頭に勉強する。					
<b>授業の一般目標</b>					
最終的には、英語について単に知っている状態から、それを基に英語を使える状態へステップアップすること。知識を曖昧な状態のままにせず、知識を使うこと(スピーキング、ライティング)を通じて確かなものにするのを心がける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 知識・理解を深める(固める)。					
<b>思考・判断の観点:</b> 具体的なさまざまな場面においてどのような表現を自分が発信していくか、その判断力を養う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者の総人数にもよるが、現時点では、授業で出すレポート、定期試験の結果を評価材料にしたい。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
すでに正宗の授業、2008年度後期、火曜日3コマ目「リーディング」を受講済みの方は、今回はこの授業の受講は遠慮してください。重複部分が多くありますので、 しっかり勉強しない人は、途中で受講を遠慮していただきます。					
<b>連絡先</b>					
経済学部内 研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001216201
<b>開設科目名</b>	英語特別演習1b [English Special Advanced Course b]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医学3年・工(TOEIC500点以上修得者)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	原田 規章, 大和田 祐二, 澤田 知夫, 徳田 信子, 篠田 晃, 小林 誠, 岸 博子, 石川 晃教, 中村 和行, 古元 礼子, 中井 彰, 乾 誠, 池田 栄二, 河野 裕夫, 星井 嘉信, 崔 丹, 小賀 厚徳, 白井 睦訓, 東 慶直, 福永 肇, HOSSAIN MD.MAHBUB, 芳原 達也, 奥田 昌之, 藤宮 龍也, 劉 金耀, 河野 道生, 谷田 憲俊, DOBRA FELICITAS VIKTORIA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医学・生命科学に関する英文の著書や論文などを読解し、討論して医学の基礎知識を習得し、英語力を高めるとともに最新の医学研究成果を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
英文の著書や論文などから基本的な医学用語や生命科学用語を学び医学英語の語彙数、読解力、作文力を高めるとともに、最新の医学情報を得て医学・生命科学に対する知識及び理解を深め、それらの学習した知識を基盤として、さらには会話能力の向上にも繋がりに国際感覚を身につけられるような指導を目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の論文を読解し説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論文の内容につき論理的に討論できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 少人数学習に協調して積極的に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 真摯な学習態度、自己学習の態度を身につける。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語の表現力とコミュニケーション能力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト・授業内レポート=0~20%					
授業態度や授業への参加度=40~80%					
受講生の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品)=20~40%					
観点別成績評価法は主な視点を示し、評価割合は上記のそれぞれから適宜合計して成績とする。なお、出席は欠格条件である。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
医学英和大辞典 / 加藤勝治: 南山堂, 2000					
<b>メッセージ</b>					
原則、全回出席のこと。英和辞典・医学英語辞典などを持参のこと。継続は力なり、頑張りましょう。英語で話すことを恐れずに、積極的に参加しよう。					
<b>連絡先</b>					
医学部教務係(22-2053)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火 11～12	<b>時間割コード</b>	1001219025
<b>開設科目名</b>	実践総合英語 [Fundamental Comprehensive English]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	医・工(平成 14・15 年度入学者)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	唐下 笑美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400 点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席をする					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100 点満点のうち 50 点は、共通課題である TOEIC Bridge 模擬試験問題を、毎週2種類ずつ、一つも欠かさず学習する、という基準を満たすことによって与えられます。残りの 50 点ぶんの評価は、授業担当者が出す課題や試験等によって総合的に行います。詳細は授業担当者から説明を受けてください。					
2 回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で 2 度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
基礎文法からはじめる大学英語学習 / 石井隆之、菅井康祐、西川貴子、松柏社、2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2 単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400 点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
emikotg@nifty.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001219026
<b>開設科目名</b>	実践総合英語 [Fundamental Comprehensive English]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	平成14・15年度入学者			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ストーリー性のある英文を読むことによって、英文を読むことの楽しさを知ってもらい、それを基本的英文法や英語表現のスキルアップにつなげてもらいたい。教科書は、ボクシング元世界ヘビー級チャンピオン、モハメッド・アリの生涯を描いたものである。					
<b>授業の一般目標</b>					
平易な語彙を使用した英文を辞書なしで読み、大意をつかむ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的語彙、英文法を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 英語で考える習慣を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 英文を理解しようとする意欲を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 授業に毎回出席する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語独特の表現法を習得する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験でのスコアを最重視します。高い出席率も重要です。					
<b>教科書</b>					
Muhammad Ali: King of the Ring / John Tully: 松柏社, 1987					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英文を読む楽しさを知ろう。					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001217301
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Fundamental [Comprehensive English Fundamental]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	HIGGINS MICHAEL LEO			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.					
<b>授業の一般目標</b>					
The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>その他の観点:</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.					
Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc, 2007 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 e-mail: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp Office phone: 933-5086 Homepage: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4:00-5:30PM					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001217302
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Fundamental [Comprehensive English Fundamental]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	JOHNSON JUDITH ANN			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.					
<b>授業の一般目標</b>					
The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>その他の観点:</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.					
Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc, 2007 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Dr. Judith Johnson e-mail: johnson@yamaguchi-u.ac.jp Office phone: 0836-85-9499 Homepage: <a href="http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~johnson/">http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~johnson/</a> Class webpage: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 2:30-4:00PM					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001217304
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Fundamental [Comprehensive English Fundamental]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	GARDNER STEVEN T			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.					
<b>授業の一般目標</b>					
The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>その他の観点:</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.					
Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc, 2007 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 e-mail: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp Office phone: 933-5086 Homepage: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4:00-5:30PM					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7～8	<b>時間割コード</b>	1001217305
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Fundamental [Comprehensive English Fundamental]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	GARDNER STEVEN T			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.					
<b>授業の一般目標</b>					
The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will broaden their knowledge of the world and their responsibility to society.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>その他の観点:</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%. Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc., 2007 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc., 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
This course also requires students to be on-line for some homework and for on-line quizzes.					
<b>連絡先</b>					
Contact: Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 Tel/Fax: 083-933-5086 Email: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp Web: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4:00-5:30PM					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1001217303
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Pre-Intermediate [Comprehensive English Pre-Intermediate]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	HIGGINS MICHAEL LEO			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
This course is open to students with a TOEIC score of over 450, but is especially recommended for students who have a TOEIC score of 500 or higher, or who have completed the Comprehensive English Fundamental course.					
<b>授業の一般目標</b>					
To improve the student's English communication skills, we will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign on to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students must take.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Intermediate Book 2 / Johnson and Higgins: IEI, Inc, 2009 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 e-mail: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp Office phone: 933-5086 Homepage: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4:00-5:30PM					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001218401
<b>開設科目名</b>	海外英語研修 [English Study Abroad]			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>約 4 週間の英語圏(リジャイナ[カナダ]、ニュー・カッスル[オーストラリア]、ロンドン[イギリス])での語学研修プログラム(研修費等は受講者が負担)に参加して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また同時に、滞在先の人々との交流を通じて、異文化理解を深める。</p> <p>この科目の単位を取得するためには、学務係(工学部は教務課)に受講票を提出のうえ、研修直前のクォーターに開講される事前指導(週1回90分×7回の授業を受講しなければならない。)(注意！事前指導を受講しなければ、語学研修プログラムに参加しても、単位は認められません。)</p> <p>海外英語研修プログラムは、リジャイナ、ニュー・カッスルは夏と春に、ロンドンは夏に実施される。それぞれ4月末頃、10月末頃に説明会が開かれるので、プログラムの詳細はそちらを参照すること。</p> <p>事前指導は第2クォーターと第4クォーターに開講される。より詳しくは説明会や掲示で連絡する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>海外(英語圏)での語学研修プログラムで学習することにより、また現地での生活の中で、実践的英語コミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>滞在先の地域文化に触れ、現地の人々との交流を通じて、国際的な視野を広める。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>基本的語彙、英文法を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>英語圏の思考や判断基準を習得する。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>異文化への興味を深める。</p> <p><b>態度の観点:</b>積極的に自分の意見を伝えようとする態度を身につける。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>自己表現力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
事前指導での出席状況、授業態度、英語習熟度、および、研修先の大学から送られてくるスコア等を合わせて、総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>海外英語研修によって英語科目の単位取得を目指す人は、各学期の第一クォーターにおいてその学期の履修届を書く際、この「事前指導」が開かれる時間帯のコマに別の授業を登録しないよう、十分注意してください。</p> <p>海外短期語学研修プログラム説明会の案内等は掲示にて行います。履修希望者は注意しておいて下さい。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>海外短期語学研修プログラムについては留学生センターに問い合わせる。</p> <p>事前指導については共通教育係に問い合わせる。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00～14:00					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火11～12	<b>時間割コード</b>	1001218402
<b>開設科目名</b>	海外英語研修 [English Study Abroad]			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	GARDNER STEVEN T			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>約4週間の英語圏(リジャイナ[カナダ]、ニュー・カッスル[オーストラリア]、ロンドン[イギリス])での語学研修プログラム(研修費等は受講者が負担)に参加して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また同時に、滞在先の人々との交流を通じて、異文化理解を深める。</p> <p>この科目の単位を取得するためには、学務係(工学部は教務課)に受講票を提出のうえ、研修直前のクォーターに開講される事前指導(週1回90分×7回の授業)を受講しなければならない。(注意!事前指導を受講しなければ、語学研修プログラムに参加しても、単位は認められません。)</p> <p>海外英語研修プログラムは、リジャイナ、ニュー・カッスルは夏と春に、ロンドンは夏に実施される。それぞれ4月末頃、10月末頃に説明会が開かれるので、プログラムの詳細はそちらを参照すること。</p> <p>事前指導は第2クォーターと第4クォーターに開講される。より詳しくは説明会や掲示で連絡する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>海外(英語圏)での語学研修プログラムで学習することにより、また現地での生活の中で、実践的英語コミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>滞在先の地域文化に触れ、現地の人々との交流を通じて、国際的な視野を広める。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
事前指導での出席状況、授業態度、英語習熟度、および、研修先の大学から送られてくるスコア等を合わせて、総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>海外英語研修によって英語科目の単位取得を目指す人は、各学期の第一クォーターにおいてその学期の履修届を書く際、この「事前指導」が開かれる時間帯のコマに別の授業を登録しないよう、十分注意してください。</p> <p>海外短期語学研修プログラム説明会の案内等は掲示にて行います。履修希望者は注意しておいて下さい。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>海外短期語学研修プログラムについては留学生センターに問い合わせる。</p> <p>事前指導については共通教育係に問い合わせる。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001221001
<b>開設科目名</b>	医療英語 [Medical Treatment English]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	検査2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	服部 幸夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
デジタル化した英文材料をHPより提供するので、それを「英辞郎」や「翻訳の王様」で速読する。その材料に則した英文問題に、本文の英文を生かして答える。それをレポートとしてE-mailで教官に送る。毎回ポストテスト(前回授業の範囲)として、リスニングによる英単語のチェックを行う。英単語は「翻訳の王様」の音声機能を使って覚える。英文材料は医療関係で最も使われる頻度の高い単語ばかりである。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・頻用英単語を獲得する。</li> <li>・英文を、和文英訳でなく、英文から拝借することによって作り上げるようになる。</li> <li>・英単語は音声ソフトを使って「正しい」発音で覚える。</li> <li>・電子辞書を使った速読のやり方を身につける。(PubMedを読む時にも役立つ)</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 医療で使われる頻度の高い英単語を身につけ、文章中でどのように使われているかを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 文章の中での単語の微妙なニュアンスと適切さを考える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 「英辞郎」や「翻訳の王様」を駆使して速読で原文を読み、理解出来ることを目標とする。					
<b>態度の観点:</b> 積み重ねによる学習量が大切なので、毎回必ず出席する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 長文を速読すると同時に、それに対する英文設問へ、本文中の英文で答える演習である。日本語を介さない技法により、容易に英作文が可能であることを認識する。					
<b>その他の観点:</b> 「listening & speaking」(全4回)では、既に理解しているtextをまず声を出して読み、続いてnative speakerの音読と一緒にspeakingの訓練を行う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
本試験を行う。本試験は単語帳から出す。小試験は本試験の参考とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp tel& fax 0836-22-2807					
<b>オフィスアワー</b>					
Please let me know before you visit my office.					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001221002
<b>開設科目名</b>	医療英語 [Medical Treatment English]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	看護(1-40)2年,看護(編入学者1-5)3年			<b>学年</b>	2~3
<b>担当教員</b>	TURALE SUSAN			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
In this class students will gain understanding and use of approximately 100 basic components of medical English terms. They will be taught Greek and Roman body roots, prefixes and suffixes, and these will be integrated into commonly used English medical words. Students will learn these phrases and words with a native English speaker, learning to pronounce and understand their use in nursing practice.					
<b>授業の一般目標</b>					
Students will learn the basic components of medical English terms and their application in everyday health and nursing conversation.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. Understand and learn the meaning and pronunciation of selected medical English terms.					
<b>思考・判断の観点:</b> 2. Correctly analyse selected terms into their roots, prefixes and suffixes, and assume their meanings					
<b>関心・意欲の観点:</b> 3. Actively participate in classroom work, showing interest and willingness to learn, understand and apply medical English					
<b>態度の観点:</b> 4. Appreciate the need to be well educated in the use of English medical terms for nursing practice					
<b>技能・表現の観点:</b> 5. Use and be able to correctly explain selected medical English terms in daily usage and during classroom activities and examinations.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
The Responsibilities of Students:					
1. This is a Medical English reading and conversation course, so all students are expected to actively converse using as much English as possible in class.					
2. Every student is expected to read the phases from the textbook before each class as requested by the Professor					
3. Progressive learning in this course is important.					
4. An emphasis will be placed on regular short verbal and written tests and role plays to determine progress. So students are expected to study every week.					
5. Students are expected to attend all classes: Absences of four (4) or more classes without adequate reason will result in automatic Fail Grade (D);					
6. If you fail this course the decision to give one compensatory examination rests with the Professor teaching the course. It is not automatic that a compensatory examination is given.					
<b>教科書</b>					
Medical Terminology / Noreau, R.: ELS, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
Professor Susan Turale, Subdivision of Fundamental Nursing, Room 304, Telephone (0836) 22-2132 (office). Email: sturale@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 5-6	<b>時間割コード</b>	1001221003
<b>開設科目名</b>	医療英語 [Medical Treatment English]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	看護(41-)2年,看護(編入学者 6-)3年			<b>学年</b>	2-3
<b>担当教員</b>	TURALE SUSAN			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
In this class students will gain understanding and use of approximately 100 basic components of medical English terms. They will be taught Greek and Roman body roots, prefixes and suffixes, and these will be integrated into commonly used English medical words. Students will learn these phrases and words with a native English speaker, learning to pronounce and understand their use in nursing practice.					
<b>授業の一般目標</b>					
Students will learn the basic components of medical English terms and their application in everyday health and nursing conversation.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. Understand and learn the meaning and pronunciation of selected medical English terms.					
<b>思考・判断の観点:</b> 2. Correctly analyse selected terms into their roots, prefixes and suffixes, and assume their meanings					
<b>関心・意欲の観点:</b> 3. Actively participate in classroom work, showing interest and willingness to learn, understand and apply medical English					
<b>態度の観点:</b> 4. Appreciate the need to be well educated in the use of English medical terms for nursing practice					
<b>技能・表現の観点:</b> 5. Use and be able to correctly explain selected medical English terms in daily usage and during classroom activities and examinations.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
The Responsibilities of Students:					
1. This is a Medical English reading and conversation course, so all students are expected to actively converse using as much English as possible in class.					
2. Every student is expected to read the phases from the textbook before each class as requested by the Professor					
3. Progressive learning in this course is important.					
4. An emphasis will be placed on regular short verbal and written tests and role plays to determine progress. So students are expected to study every week.					
5. Students are expected to attend all classes: Absences of four (4) or more classes without adequate reason will result in automatic Fail Grade (D);					
6. If you fail this course the decision to give one compensatory examination rests with the Professor teaching the course. It is not automatic that a compensatory examination is given.					
<b>教科書</b>					
Medical Terminology / Noreau, R.: ELS, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
Professor Susan Turale, Subdivision of Fundamental Nursing, Room 304, Telephone (0836) 22-2132 (office). Email: sturale@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001221006
<b>開設科目名</b>	基礎医療英会話 [Basic Medical Treatment English Conversation]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	検査3年			<b>学年</b>	3~
<b>担当教員</b>	AZUMA AMY			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Listening to/speaking/interpreting/translating English in pairs or groups, in-class exercises, lots of role playing exercises, a written assignment, quizzes and a final exam.					
<b>授業の一般目標</b>					
Students will learn to communicate in English simply and affectively with English speaking patients, their family members, and significant others.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>技能・表現の観点:</b> The student are expected be able to :					
1. Converse in English, in pairs or groups, about a health care/nursing practice issue.					
2. Correctly define, spell, and pronounce English terms relating to nursing and health care issue.					
3. Understand and translate English words and phrases.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Students will be graded by:					
	Quizzes(40%), homeworks(0%), & class participation(0%)	40%			
	Written assignment			10%	
	Role play (2)			10%	
	Final exam	40%			
<b>教科書</b>					
Christine's Easy English Conversation for Nurses by Christine Lee Chinen					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students Responsibilities:					
1. Ask question right away when you don't know or understand something, maybe a good half of your classmates don't know it also.					
2. This is an English conversation class, student must converse in English actively.					
3. Students are required to turn in their original written assignments at the beginning of each class.					
All assignments must be legible and use correct grammar and spelling. No points for late work. Therefore, if you will be late or absent, ask your classmate to turn in your homework for you.					
4. Students are required to read and do the weekly text unit before each classes.					
5. Students are expected to attend all classes. 5 absences result in automatic Fail (D) grade. All absences require medical/emergency reasoning written in English.					
<b>連絡先</b>					
amy_azuma@yahoo.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001231101
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初歩 [Introductory German]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	江波 昌子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツの歴史、地理、文化などに触れながら、ドイツに対する関心を高めて、ドイツ語への学習意欲を導き出す。ごく平易な読み書きを学び、テープを聴いて、口に出して発音してみることで、ドイツ語の響きとリズムに慣れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツへの関心を高め、ドイツ語のごく基本的な読み、書き、聴き、話す能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語のごく基本的な文法が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> これまで学んできた英語とは違う外国語を学ぶことで、新しい視点を持ち、異文化に対する理解を深める。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語の学習を通して、ドイツ語圏の生活や習慣、また文学や音楽など文化的側面にも関心を抱く。					
<b>態度の観点:</b> 授業に積極的に参加し、新しい言語についてより多くを自分のものにしようとする。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語のごく基本的な読み書きができ、ドイツ語の響きやリズムに親しもうとする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1.出席と小テストを含めた平常点を50%とし、定期試験の50%と合わせて評価する。					
2.宿題は授業中に成果を発表することで、平常点として評価する。					
<b>教科書</b>					
ドイツ16州ものがたり / 小塩 節:朝日出版社,2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
未知の言語に触れると、新しい世界が広がります。ドイツ語に是非チャレンジしてみてください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001231102
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初歩 [Introductory German]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・医・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	坂本 貴志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ベートーヴェンの第九の歌詞を学ぶ。ドイツ語の歌詞を通して、第九の意味を知り、ドイツならびにヨーロッパの文化に触れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
第九の歌詞をドイツ語で読めるようになる。意味が分かるようになる。(望むならば、歌えるようになる。)					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の文字の読み方、簡単な文法を学ぶ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席状況と学期末テストにより評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講希望者が多い場合は受講制限を行うことがあるので、第一回目の授業には必ず参加すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001231104
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初歩 [Introductory German]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・医・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。ドイツ語の初級文法の習得をめざす。文法を中心とした練習問題をこなすとともに、発音、聞き取り、話すこと、語彙力、CD を活用し、パートナー練習を加えて、簡単な会話に挑戦する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。会話文に添えられた質問が、理解を容易にするであろう。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようにならないといけない。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていく。</p> <p><b>態度の観点:</b>学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p> <p><b>その他の観点:</b>本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験: 筆記テストと会話テスト(Lektion 1-6)</p>					
<b>教科書</b>					
<p>Deutsch, Switch On! / Mami Sakurai/ Yorio Nobuoka: 郁文堂, 2005</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>楽しみでドイツ語覚えましょう</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>dobra@yamaguchi-u.ac.jp ?</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>ドーブラ研究室 (共通教育 3F) 水曜日12:30 ~ 13:30</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001231103
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初歩 [Introductory German]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・医・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	本田 義昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本授業では、現代ドイツ語の初歩を学びます。EU(欧州連合)の牽引車の一つであるドイツの言語を学んで、国際的な視野を拓きましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語のごく基本的な文章を読み、書き、話せるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語文法の基本を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的に見れるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語という言葉の背景にあるドイツ文化、ヨーロッパ文化に関心を抱く。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語のごく基本的な文章を読み、書き、話せる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。 「演習」の観点は「授業態度・授業への参加度」および「受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品」で評価します。					
<b>教科書</b>					
300 語で話すドイツ語 / 入谷幸江 [ほか]: 三修社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
こつこつ頑張れば、誰でもかなりのレベルに到達します。さらにドイツ語の勉強を続ければ、将来はドイツ留学も夢ではありません。					
<b>連絡先</b>					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3~4	<b>時間割コード</b>	1001231105
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初歩 [Introductory German]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・医・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	小粥 良			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の初歩を学ぶ。週1回、1学期間だけの授業なので、文法を完全に習得することは目指さないが、ドイツ語文法のおおまかな輪郭を理解し、興味があればさらに続けていくための基礎を提供する。時にはドイツについてのビデオなども視聴し、ドイツやオーストリア、スイスなどのドイツ語圏の文化について触れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語のごく基本的な文章を読み、書き、話せるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語文法の基本を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 文法を論理的に系統立てて理解し、覚えた規則を応用することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語という言葉の背景にあるドイツ文化、ヨーロッパ文化に関心を抱く。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語のごく基本的な文章を読み、書き、話せる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内レポートと小テストによる。出席は欠格条件であり、3分の2以上の出席を必要とする。					
<b>教科書</b>					
ともかく話そうドイツ語 / 小黒ビルギッタ他: 郁文堂, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
インターネットでもドイツ語が学べるサイトはたくさんあります。検索してみましょう。また、NHK 教育テレビやラジオのドイツ語講座も活用すると、ドイツ語の力がぐんとアップするでしょう。					
<b>連絡先</b>					
小粥研究室(教育学部2階 200-4)					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日 16:30-17:30					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月1~2	<b>時間割コード</b>	1001232101
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門1 [Elementary German 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	時田 郁子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語初心者を対象に、基礎文法を学びながら、ドイツ語で簡単なコミュニケーションが取れる段階まで習熟度を高める。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の文法を学びながら、読み、書き、話し、聴くといった基本的な能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎文法と単語を身につけて、会話や作文に活用できるようにする。					
<b>思考・判断の観点:</b> ドイツ語特有の文法構造を知ることによって、日本語とも英語とも違う思考方法を学ぶ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 映像や映画を通して、ドイツ語圏の文化への関心を高める。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語で簡単な会話をできるようにする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席を重視し、小テストと宿題、定期試験の結果を評価対象とする。					
<b>教科書</b>					
改訂版 ニューシステム14 / 西本美彦 / 西本アンゲリカ:同学社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
辞書を必ず用意し、授業にも持参すること。(電子辞書は不可)					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001232102
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門1 [Elementary German 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	時田 郁子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語初心者を対象に、基礎文法を学びながら、ドイツ語で簡単なコミュニケーションが取れる段階まで習熟度を高める。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の文法を学びながら、読み、書き、話し、聴くといった基本的な能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎文法と単語を身につけて、会話や作文に活用できるようにする。					
<b>思考・判断の観点:</b> ドイツ語特有の文法構造を知ることによって、日本語とも英語とも違う思考方法を学ぶ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 映像や映画を通して、ドイツ語圏の文化への関心を高める。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語で簡単な会話をできるようにする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席を重視し、小テストと宿題、定期試験の結果を評価対象とする。					
<b>教科書</b>					
改訂版 ニューシステム14 / 西本美彦 / 西本アンゲリカ:同学社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
辞書を必ず用意し、授業にも持参すること。(電子辞書は不可)					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001232103
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門1 [Elementary German 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	重竹 芳江			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の基礎を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
基本的な文法項目と日常表現に習熟することが第一の目標である。またドイツ社会一般に関する理解を深め、語学研修や留学を身近なものとして考えてほしい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の初級文法を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 異文化に触れることにより、視野を広げる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ語圏の文化のみならず、様々な言語や文化に関心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
独作文を中心とする学期末試験による成績評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
新アポロン独和辞典 / 根本道也 [ほか]: 同学社, 2008					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001232104
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門1 [Elementary German 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	重竹 芳江			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の基礎を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
基本的な文法項目と日常表現に習熟することが第一の目標である。またドイツ社会一般に関する理解を深め、語学研修や留学を身近なものとして考えてほしい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の初級文法を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 異文化に触れることにより、視野を広げる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ語圏の文化のみならず、様々な言語や文化に関心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
独作文を中心とする学期末試験による成績評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
新アポロン独和辞典 / 根本道也 [ほか]: 同学社, 2008					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001232105
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門1 [Elementary German 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	能木 敬次			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の基礎的な読解能力を養成する。まずはドイツ語を発音しドイツ語の短文を音読することに力点を置く。同時に基本文型の短文を繰り返し練習することによって、簡単なドイツ語の文章を書くことに慣れるように努める。宿題も積極的に利用しながら、集中的に授業展開をしてゆきたい。					
<b>授業の一般目標</b>					
近年、ドイツの社会経済・政治における役割の増大は目をみはるものがある。工業技術や医療技術、また福祉政策や環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治・教育文化・科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義はドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究のためのドイツ語文献の読解に役立ててほしい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 格変化・人称変化がインド・ヨーロッパ語では常態であることを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 英語とは異なるドイツ語文法からいわゆるドイツ的思考を感得する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語検定4級を受験する。					
<b>態度の観点:</b> ドイツ語を積極的に会話・読解に活用しようとする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 三十程の簡単なドイツ語のスキットを使用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講態度・出席率・小テスト・定期テスト等全てを考慮する。					
<b>教科書</b>					
『クローツング』(KREUZUNG) / 小野寿美子 他:朝日出版, 2009					
<b>参考書</b>					
新アポロン独和辞典(第4版) / 根本道也 [ほか] 編集執筆:同学社, 2003					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001232106
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門1 [Elementary German 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	能木 敬次			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の基礎的な読解能力を養成する。まずはドイツ語を発音しドイツ語の短文を音読することに力点を置く。同時に基本文型の短文を繰り返し練習することによって、簡単なドイツ語の文章を書くことに慣れるように努める。宿題も積極的に利用しながら、集中的に授業展開をしてゆきたい。					
<b>授業の一般目標</b>					
近年、ドイツの社会経済・政治における役割の増大は目をみはるものがある。工業技術や医療技術、また福祉政策や環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治・教育文化・科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義はドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究のためのドイツ語文献の読解に役立ててほしい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 格変化・人称変化がインド・ヨーロッパ語では常態であることを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 英語とは異なるドイツ語文法からいわゆるドイツ的思考を感得する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語検定4級を受験する。					
<b>態度の観点:</b> ドイツ語を積極的に会話・読解に活用しようとする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 三十程の簡単なドイツ語のスキットを使用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講態度・出席率・小テスト・定期テスト等全てを考慮する。					
<b>教科書</b>					
『新ドイツへ行ってみませんか』(Deutsch, mein Schlüssel zur neuen Welt) / 佐藤和弘 他: 郁文堂, 2009					
<b>参考書</b>					
新アポロン独和辞典(第4版) / 根本道也 [ほか] 編集執筆: 同学社, 2003					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001232107
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門1 [Elementary German 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	野口 達人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本授業では、ドイツ語を話し、聴き、書き、読む技能の育成を通じ、基礎的なコミュニケーション力を養成する。そのために、基本的な発音の規則と文法規則を説明し、実際のテーマに沿った会話の練習、学習した文法項目を確認するための練習、読解練習などを課す。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の発音の基本を習得し、正しい発音ができるようになる。動詞の人称変化、名詞・冠詞・冠詞類の性・数・格変化などを習得することにより、ドイツ語の文法体系を理解する。さらに基本単語・表現を覚えて、簡単なドイツ語を話したり、聴いたりすることができ、簡単な文を作れるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の発音と文法体系を理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 英語や日本語との相違を認識し、多様な規準があることを理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語圏の文化への関心を深め、言語一般に対する意識を高める。					
<b>態度の観点:</b> 授業への積極的な参加と毎日の自主的な反復練習により、勤勉な学習態度を身につける。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語を正しく発音でき、簡単なドイツ語を話したり、聴いたりすることができ、簡単な文を作れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)各課の練習問題を口頭または板書にて行い、これを演習として評価					
(2)授業の中で各課ごと的小テストを行う。					
(3)筆記試験を定期試験期間中に行う。					
以上を別記の観点・割合で評価する。なお、総授業数の80%以上の出席を必須要件とする。					
<b>教科書</b>					
クロイツング / 小野寿美子、中川明博、西巻文児、朝日出版社、2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業への積極的な参加、練習問題の入念な準備(全回出席して宿題を忘れないこと)、自主的な反復練習が要求される。					
遅刻・欠席をしないよう注意すること。					
授業には必ず独和辞典を携行すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001232108
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門1 [Elementary German 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	野口 達人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本授業では、ドイツ語を話し、聴き、書き、読む技能の育成を通じ、基礎的なコミュニケーション力を養成する。そのために、基本的な発音の規則と文法規則を説明し、実際のテーマに沿った会話の練習、学習した文法項目を確認するための練習、読解練習などを課す。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の発音の基本を習得し、正しい発音ができるようになる。動詞の人称変化、名詞・冠詞・冠詞類の性・数・格変化などを習得することにより、ドイツ語の文法体系を理解する。さらに基本単語・表現を覚えて、簡単なドイツ語を話したり、聴いたりすることができ、簡単な文を作れるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の発音と文法体系を理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 英語や日本語との相違を認識し、多様な規準があることを理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語圏の文化への関心を深め、言語一般に対する意識を高める。					
<b>態度の観点:</b> 授業への積極的な参加と毎日の自主的な反復練習により、勤勉な学習態度を身につける。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語を正しく発音でき、簡単なドイツ語を話したり、聴いたりすることができ、簡単な文を作れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)各課の練習問題を口頭または板書にて行い、これを演習として評価					
(2)授業の中で各課ごと的小テストを行う。					
(3)筆記試験を定期試験期間中に行う。					
以上を別記の観点・割合で評価する。なお、総授業数の80%以上の出席を必須要件とする。					
<b>教科書</b>					
クロイツング / 小野寿美子、中川明博、西巻文児、朝日出版社、2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業への積極的な参加、練習問題の入念な準備(全回出席して宿題を忘れないこと)、自主的な反復練習が要求される。					
遅刻・欠席をしないよう注意すること。					
授業には必ず独和辞典を携行すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001232109
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門1 [Elementary German 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	江波 昌子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、基礎的なドイツ語を読み、書き、話し、聞く力を養う。そのために、基礎的な文法事項を説明する。また、くり返しドイツ語を聞いて、発音やイントネーション、言葉のリズムを身につけ、基本的な表現を覚えて実際に使えるように、練習問題や暗唱など様々な課題を与える。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の発音の基本を習得する。名詞、冠詞、人称代名詞、動詞等の品詞の理解を通して、ドイツ語文法の基礎構造を認識する。また、いろいろなフレーズを覚えて、簡単な日常会話が表現できると同時に、平易なドイツ語を聞き取れるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 主に名詞、冠詞の格変化、動詞の活用変化を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> これまで学んできた英語とは違う外国語を学ぶことで、新しい視点を持ち、異文化に対する理解を深める。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語の学習を通して、ドイツ語圏の生活や習慣、また文学や音楽など文化的側面にも関心を抱く。					
<b>態度の観点:</b> 授業に積極的に参加し、新しい言語についてより多くを自分のものにしようとする。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語の文章が正しく読める。簡単な文を作ることができる。簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1. 出席と小テストを含めた平常点を50%とし、定期試験の50%と合わせて評価する。					
2. 宿題は授業中に成果を発表することで、平常点として評価する。					
<b>教科書</b>					
ドイツ語インフォメーション[新訂版] / 秋田静男ほか:朝日出版社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
語学を学ぶということは、新しい世界を知ることです。楽しく学習しましょう。辞書は毎回、必ず持参して下さい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001232110
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門1 [Elementary German 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	HINTEREDER EMDE FRANZ			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語入門1は、入門レベルの基礎的なコミュニケーション能力や異文化能力を目指します。ドイツ語・ドイツ語圏の文化を知りたい人に適した授業です。基礎ドイツ語とあわせてドイツ日常文化の映画、ポップス、環境、食文化などのテーマを取り上げる予定です。発見の多い授業にしたいと思います。					
<b>授業の一般目標</b>					
この授業では、ドイツ語とドイツ語文化圏の基礎的な勉強します。そしてドイツ語の現場であるドイツ語文化圏の事情も調べていきます。参加者は、基礎語彙や文法を身に付きながら、自らの興味のあるテーマについて調べて、発表します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の基本的な語彙を身に付くことと、ドイツの文化への理解を深める。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 興味を持って、授業や課題に取り組むことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に参加し、発表や発言によって授業に貢献ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト:40%、宿題やレポート:30%、態度や参加(発言や練習の参加):15%、発表やプレゼン:15%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tel/fax: 933-5287					
mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
office hour: 月曜日 5・6 時限(12:50～14:20)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001233101
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級1A [Basic German 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	下寄 正利			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の初級文法を学習する。この授業では、教科書の前半部分を学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の基礎を身につけており、ある程度ドイツ語の読み書きができ、ドイツ語やドイツ文化、あるいはヨーロッパに興味を持っている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の基礎を身につけている。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ文化、あるいはヨーロッパ全体に興味を持っている。					
<b>態度の観点:</b> 自ら進んで学習する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 簡単なドイツ語の文なら、辞書なしでも理解できるし、自分でも作れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間テストと期末テストだけでなく、普段の演習点も重視する。出席は欠格条件で、全授業の3分の2以上が必要。					
<b>教科書</b>					
練習中心 初級ドイツ語文法 コンパクト版 / 中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧:白水社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001233102
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級1A [Basic German 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	小粥 良			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の初歩を丁寧に学ぶ。文法を体系的に学ぶ。ビデオ等を用いて、ドイツの文化についても紹介する。木曜日1・2時限のドーブラ先生のドイツ語初級1Bとセットになっている授業なので、原則として両方履修すること。(注意: 他の先生のドイツ語初級1Bを履修すると、教科書をもう一冊買う必要が生じるうえ、授業で文法事項が出てくる順序も違います。)					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の初級文法を一通り学習するとともに基礎語彙を習得し、そしてそれらの基礎の上に初歩的なドイツ語読解力を身につける。またドイツ語圏の国々の文化等について知識を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の初級文法と基礎語彙を身に付ける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論理的で幅広い思考判断力を、外国語の習得を通して養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ語圏の文化をはじめとして、世界の様々な言語や文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 与えられた課題に積極的に取り組むことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語の初歩的な実用能力、とりわけ、簡単な文章ならば辞書を用いて独力で読みこなすことができる程度の読解力を身に付ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
主として期末テストの点数により評価するが、普段の授業での学習態度も考慮する。出席は欠格事項としてのみ扱い、全授業の3分の2以上の出席を必要とする。					
<b>教科書</b>					
シュトラッセ・ノイ / Britta Schellens: 朝日出版社, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
木曜日1・2時限のドーブラ先生のドイツ語初級1Bとセットになっている授業なので、原則として両方履修すること。CD付きの教科書なので、家でCDをよく聞くようにしてください。予習・復習をしっかりと行ってください。					
<b>連絡先</b>					
教育学部2階200-4 番の研究室。					
<b>オフィスアワー</b>					
オフィスアワーは木曜 16:30-17:30。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001233103
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級1A [Basic German 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	本田 義昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
木曜日3・4時限の「ドイツ語初級1B」(エムデ先生)と共通の教科書を使って、ドイツ語の初級文法を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の初級文法を学んで、基本的な文章を読み、書き、話せるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語文法の基本を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的に見れるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語という言葉の背景にあるドイツ文化、ヨーロッパ文化に関心を抱く。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語の基本的な文章を読み、書き、話せるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。 「演習」の観点は「授業態度・授業への参加度」および「受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品」で評価します。					
<b>教科書</b>					
ドイツ語インパクト / 三宅恭子 / ミハエラ・コッホ: 三修社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
木曜日3・4時限の「ドイツ語初級1B」(エムデ先生)と共通の教科書を使います。こつこつ頑張れば、誰でもかなりのレベルに到達します。継続は力なり! 将来はドイツ留学も夢ではありません。					
<b>連絡先</b>					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001233104
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級1A [Basic German 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	下寄 正利			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の初級文法を学習する。この授業では、教科書の前半部分を学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の基礎を身につけており、ある程度ドイツ語の読み書きができ、ドイツ語やドイツ文化、あるいはヨーロッパに興味を持っている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の基礎を身につけている。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ文化、あるいはヨーロッパ全体に興味を持っている。					
<b>態度の観点:</b> 自ら進んで学習する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 簡単なドイツ語の文なら、辞書なしでも理解できるし、自分でも作れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間テストと期末テストだけでなく、普段の演習点も重視する。出席は欠格条件で、全授業の3分の2以上が必要。					
<b>教科書</b>					
練習中心 初級ドイツ語文法 コンパクト版 / 中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧:白水社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001233105
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級1A [Basic German 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	坂本 貴志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は、ドイツ語のネイティブスピーカーの担当する初級Bとセットである。ドイツ語を体系的に理解することを目標とし、そのために文法の理解を主とした学習方法をとる。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の初級文法を一通り学習するとともに基礎語彙を習得し、そしてそれらの基礎の上に初歩的なドイツ語読解力を身につける。またドイツ語圏の国々の文化等についても知識を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の初級文法と基礎語彙を身に付ける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論理的で幅広い思考判断力を、外国語の習得を通して養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ語圏の文化をはじめとして、世界の様々な言語や文化に関心を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語の初歩的な運用能力、とりわけ、簡単な文章ならば辞書を用いて独力で読みこなすことができる程度の読解力を身に付ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席状況と期末テストによって判定する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
外国語の習得に必要なのは、記憶と論理的思考力である。記憶力は各人の能力により差があるが、努力さえすれば、必要な知識はすべて記憶できる。また、論理的思考力を駆使すれば、記憶すべき情報を最小限におさえ、状況に応じてその都度、必要な情報を導き出すことができる。そのために文法を主体とする学習方法は最善の方策である。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001233501
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級1B [Basic German 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。ドイツ語の初級文法の習得をめざす。文法を中心とした練習問題をこなすとともに、発音、聞き取り、話すこと、語彙力、作文力、読解力をつける。CDを活用し、パートナー練習を加えて、簡単な会話に挑戦する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法はコミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようにならなければならない。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていく。</p> <p><b>態度の観点:</b> 班別のチームワークでは、学生同士で互いに協力し、積極的に授業に参加すること。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。</p> <p><b>その他の観点:</b> 本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験: 筆記テストと会話テスト(Lektion 1-6)					
<b>教科書</b>					
Szenen 1 integriert, CD付きスエネン1場面で学ぶドイツ語 / Shuko Sato et al, Sanshusha, 2006年: 三修者, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
辞書持って来て下さい。しかし会話一番です。頑張りましょう。					
<b>連絡先</b>					
dobra@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
ドーブラ 共通教育 3F 水曜日 12:30~14:30					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001233502
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級1B [Basic German 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ドイツ語の初級文法の習得をめざす。文法を中心とした練習問題をこなすとともに、発音、聞き取り、話すこと、語彙力、作文力、読解力をつける。CD を活用し、パートナー練習を加えて、簡単な会話に挑戦する。</p> <p>小粥先生の月曜日7・8時限のドイツ語初級1Aとセットになっている授業である。同一教科書で、二人で分担して教えるので、原則として両方を取る。 (別の先生の初級1Aを取る場合は、教科書がもう一冊必要になる。)</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の初級文法を学習する。初歩的なドイツ語読解力を身につける。ドイツ語圏の文化についても知識を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>ドイツ語の初級文法を習得できている。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>ドイツ語を習得して、論理的な文章を書くことができる。日本文化を相対的にみることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>世界の様々な言語や文化に関心をもつことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>出席も含め、日々の努力を怠らない。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>初歩的な実用能力、読解力を磨く。</p> <p><b>その他の観点:</b>本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト、筆記テスト と 会話テスト(Lektion 1-4)					
<b>教科書</b>					
Strasse neu / Brita Schellens 他:朝日, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
辞書か電機辞書使って下さい。けれど授業で会話が一番です。					
<b>連絡先</b>					
dobra@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
ド - ブラ研究室 共通教育3F					
水曜日12:30 ~ 13:30					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001233503
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級1B [Basic German 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	HINTEREDER EMDE FRANZ			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の基本的な文法と語彙を学びんでいく。ドイツ語の基本的な構造を理解し、簡単な会話や読書をこなすことはこのコースのねらいである。必要な語彙を自由自在に使えるように練習を重ねる。およそ375語のドイツ語の単語である。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の基本的な初級レベルを目標にする。簡単な会話や文章理解に必要な文法や語意を習得する。さらに、ドイツ語を通じて、ドイツ文化圏の今日的な情報や歴史的な背景も把握できることが大事である。語学学習と合わせて、適宜インターネットを利用し、様々なテーマについて調べる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的なドイツ語の会話に必要な文法の理解、語彙の使いこなし。					
<b>思考・判断の観点:</b> ドイツ語で簡単なこと、自分のことや意見を表現できること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語の構造や語彙を積極的に習得し、そしてドイツ語文化圏への関心を高めること。					
<b>態度の観点:</b> 予習・復習・宿題などを恒常に行い、授業に関心を持って楽しく参加すること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
単語テスト・小テスト:40%、宿題:30%、参加や態度:10%、プレゼンテーション:20%					
<b>教科書</b>					
ドイツ語インパクト / 三宅恭子 著 / Michaela Koch 著:三修社,2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
練習を重ねながら、うまくなることを信じて、自分にチャレンジすることが成功の元。後期も頑張れば、ドイツ語の実力が湧いてくるはずです。					
<b>連絡先</b>					
電話 933 - 5687					
mail emde@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001233504
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級1B [Basic German 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	WATANABE BERGER ANGELIKA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを"体験"し、身近に感じてもらうのが狙いです。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の初級文法の最も基本的な部分を理解し、最も基礎的な語彙を身に付けている。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的に見れるようになる。ドイツ語で、自分のことや意見を表現できること					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ語圏の文化をはじめとして、世界の様々な言語や文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 予習・復習・宿題などを恒常にやり、授業に関心を持って楽しく参加すること。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語の簡単な文が解読でき、簡単な会話が出来る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
テスト、宿題、授業態度と出席によって評価します。					
<b>教科書</b>					
ドイツ語一年生・ケイコのミュンヘン / 矢羽々崇: 朝日出版					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしながらに会話や歌、ロールプレイ etc.に挑戦しましょう。					
<b>連絡先</b>					
palette@c-able.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001233505
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級1B [Basic German 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	WATANABE BERGER ANGELIKA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを"体験"し、身近に感じてもらうのが狙いです。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の初級文法の最も基本的な部分を理解し、最も基礎的な語彙を身に付けている。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的に見れるようになる。ドイツ語で、自分のことや意見を表現できること					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ語圏の文化をはじめとして、世界の様々な言語や文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 予習・復習・宿題などを恒常にやり、授業に関心を持って楽しく参加すること。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語の簡単な文が解読でき、簡単な会話が出来る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
テスト、宿題、授業態度と出席によって評価します。					
<b>教科書</b>					
ドイツ語一年生・ケイコのミュンヘン / 矢羽々崇: 朝日出版					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしながらに会話や歌、ロールプレイ etc.に挑戦しましょう。					
<b>連絡先</b>					
palette@c-able.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001235101
<b>開設科目名</b>	ドイツ語会話1 [German Conversation 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。教科書では、文法事項は「Bausteine」という見出しの下に現れる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。</p> <p>次年度にも更にドイツ語を継続して学習することを希望している学生のために、次年度には同じ教科書の第二部を使用することを指摘しておく。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。会話文に添えられた質問が、理解を容易にするであろう。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようになるなければならない。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>学生と教師は、感情を合わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形作られていく。</p> <p><b>態度の観点:</b>班別のチームワークでは、学生同士でお互いに協力し、積極的に授業に参加すること。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。</p> <p><b>その他の観点:</b>本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験: 筆記テストと会話テスト(Lektion 1-4)</p>					
<b>教科書</b>					
<p>Grundkurs Farbkasten Deutsch ベーシック版自己表現のためのドイツ語 / CD付き / 板山真由美[Mayumi ITAYAMA]/塩路ウルスラ [Ursula SHIOJI] / 本河裕子 [Yuko MOTOKAWA]/ 良光たか子[Takako YOSHIMITSU]:三修者, 2008</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>辞書か電子辞書を買って下さい。授業で会話が一番です。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>dobra@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>山口 吉田 ドーブラ研究室「共通教育」3F 水曜日 12:30~13:30</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001231201
<b>開設科目名</b>	フランス語初歩 [Introductory French]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	教・理・医・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	武本 雅嗣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は、半年間でフランス語の初歩を学ぶクラスである。ビデオ教材を使って、フランスの様々な文化を学びながら、基本的な文法を習得し、簡単なフランス語の運用能力が身につくようになることを目指して授業を進めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
フランス語の基本的な文法事項を体系的に習得し、フランス語で自己紹介ができるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> フランス語の基本的な文法事項を体系的に習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 初歩的なフランス語運用能力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> フランス語を「話す」ことや「読む」ことへの意欲が向上する。					
<b>技能・表現の観点:</b> フランス語で自己紹介ができるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験の点数(70点)と平常点(30点)との合計。					
<b>教科書</b>					
新・彼女は食いしん坊! 1 / 藤田裕二:朝日出版社, 2008					
<b>参考書</b>					
プログレッシブ仏和辞典 第2版 / 大賀正喜他:小学館, 2008					
<b>メッセージ</b>					
毎回新しい文法事項を学んでいくので休まず出席すること。 小テストはほぼ毎回行う。					
<b>連絡先</b>					
人文学部612研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日 16:10 ~ 17:40					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月9~10	<b>時間割コード</b>	1001232201
<b>開設科目名</b>	フランス語入門1 [Elementary French 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	井上 三朗			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は、週1回の授業を受けることによって、フランス語を習得するものである。使用する教科書は比較的平易であり、親しみやすい。文法の例文と説明だけでなく、「読み・書き・話す」力を高めるのに効果的な練習問題を含んでいる。この教科書を用いることにより、フランス語を一定程度マスターすることを目指す。					
<b>授業の一般目標</b>					
フランス語の基本的な文法事項を習得するとともに、「読み・書き・話す」力、つまり実践的な運用能力を身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> フランス語の基本的な文法事項を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 初歩的なフランス語運用能力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 実践的なフランス語に関心を持ち、それを習得する意欲を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> さまざまな言い回しを憶えることで、たとえわずかであれ、「話す」能力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の点数(70点)と平素点(30点)との総合。					
<b>教科書</b>					
プチボワソン / 金子美都子:白水社, 2008					
<b>参考書</b>					
クラウン仏和辞典 / 天羽均他:三省堂, 2006					
プチ・ロワイヤル仏和辞典 / 倉方秀憲他:旺文社, 2003					
<b>メッセージ</b>					
授業への積極的な参加を望む。また、毎回新しい文法事項を学んでいくので、休まずに出席することを要望する。					
<b>連絡先</b>					
613研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日14時30分~16時00分。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001232202
<b>開設科目名</b>	フランス語入門1 [Elementary French 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	EMDE ANGELIKA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
このコースではフランス語の根本的な構造を理解し、自力で簡単な文書を作り、日常的な会話をこなせることがねらいです。					
<b>授業の一般目標</b>					
基礎文法と語彙を身につけて、簡単な文章の読み書きや日常会話ができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 習ってきたフランス語のレベルに合わせて、文法を理解し、語彙を生かして、簡単な会話ができること。					
<b>思考・判断の観点:</b> フランス語で、基礎的な範囲において、自分の意見を表現できること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> フランス語の構造や語彙を積極的に習得し、フランス文化に関心を高めること。					
<b>態度の観点:</b> 予習・復習・宿題などを常にやり、授業に関心をもって楽しく参加すること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間・期末試験) 40%、小テスト・授業内レポート 20%、授業態度・授業への参加態度 40%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
出席は非常に大事で、積極的な参加は、成功へのカギです。					
<b>連絡先</b>					
a0a01632@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001233201
<b>開設科目名</b>	フランス語初級1A [Basic French 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 理 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	武本 雅嗣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は、「フランス語初級1B」(フランス人教員のクラス)と合わせて週に2回授業を受けることによって、フランス語の習得を目指すものである。「フランス語初級1A」のほうでは、基本的な文法事項をしっかりと学んだうえで、フランス語の運用能力が身につくようになることを目標に授業を進めていく。使用する教科書は比較的容易であり、文法の説明と例文だけでなく、「読み・書き・話す」力を高めるのに効果的な練習問題を含んでいる。時折ビデオを使って文化の紹介をしたり、聞き取りの練習をしたりする。					
<b>授業の一般目標</b>					
フランス語の基本的な文法事項を体系的に習得し、実践的な運用能力、つまり「読み・書き・話す」力を身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> フランス語の基本的な文法事項を体系的に習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 初歩的なフランス語運用能力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> フランス語を「話す」ことや「読む」ことへの意欲が向上する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 様々な言い回しを憶えることで、簡単な会話ができるようになる。多種多様なテキストが読めるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験の点数(70点)と平常点(30点)との合計。					
<b>教科書</b>					
フランス文法 かたちとしくみ / 春木仁孝:白水社, 2009					
<b>参考書</b>					
プログレッシブ仏和辞典 / 大賀正喜他:小学館, 2008					
<b>メッセージ</b>					
毎回新しい文法事項を学んでいくので休まず出席すること。 小テストはほぼ毎回行う。					
<b>連絡先</b>					
人文学部612研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日 16:10 ~ 17:40					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001233202
<b>開設科目名</b>	フランス語初級1A [Basic French 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 理 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	井上 三朗			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は、「フランス語初級1B」(フランス人教員のクラス)と合わせて、週2回の授業を受けることによって、フランス語を習得するものである。「初級1A」のほうでは、基本的な文法事項をしっかりと学んだうえで、フランス語の運用能力が身につくようになることを目指して、授業を進めていく。使用する教科書は、比較的平易であり、文法の説明と例文だけでなく、「読み・書き・話す」力を高めるのに効果的な練習問題を含んでいる。この教科書を用いることにより、フランス語をマスターすることを目指す。					
<b>授業の一般目標</b>					
フランス語の基本的な文法事項を体系的に習得し、実践的な運用能力、つまり「読み・書き・話す」力を身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> フランス語の基本的な文法事項を体系的に習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 初歩的なフランス語運用能力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> フランス語を「話す」ことや、「読む」ことへの意欲が向上する。					
<b>技能・表現の観点:</b> さまざまな言い回しを憶えることで、たとえわずかであれ、「話す」力が身につく。基本的な文法事項を学ぶことで、多種多様なテキストを「読む」力が身につく。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の点数(70点)と平常点(30点)との総合。					
<b>教科書</b>					
フランス文法 かたちとしくみ / 春木仁孝:白水社,2009					
<b>参考書</b>					
クラウン仏和辞典 / 天羽均他:三省堂,2006					
プチ・ロワイヤル仏和辞典 / 倉方秀憲他:旺文社,2003					
<b>メッセージ</b>					
授業への積極的な参加を望む。また、毎回新しい文法事項を学んでいくので、休まずに出席することを要望する。					
<b>連絡先</b>					
613研究室。					
<b>オフィスアワー</b>					
14時30分~16時00分。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001233601
<b>開設科目名</b>	フランス語初級1B [Basic French 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 理 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	Beausir Jean Claude			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、会話を取り入れながらフランス語の基本的な文法事項を学習します。毎回授業の終わりには「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、漫画、フランス映画等を紹介しします。授業は日本語でも行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
簡単な挨拶から徐々に基礎フランス語を習得し会話を中心に総合的なレベルアップを目指します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的なフランス語の知識を高め簡単な会話ができるようになることを目標としています。					
<b>関心・意欲の観点:</b> フランス語以外のこと(文化、歴史、音楽、雑学)などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養うことを目標としています。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業の出席状況、授業態度、試験の成績で総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
日本人初心者のためのフランス語教材 / GAEL CREPIEUX その他:Hachette Livre, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001233602
<b>開設科目名</b>	フランス語初級1B [Basic French 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 理 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	Beausir Jean Claude			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、会話を取り入れながらフランス語の基本的な文法事項を学習します。毎回授業の終わりには「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、漫画、フランス映画等を紹介しします。授業は日本語でも行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
簡単な挨拶から徐々に基礎フランス語を習得し会話を中心に総合的なレベルアップを目指します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的なフランス語の知識を高め簡単な会話ができるようになることを目標としています。					
<b>関心・意欲の観点:</b> フランス語以外のこと(文化、歴史、音楽、雑学)などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養うことを目標としています。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業の出席状況、授業態度、試験の成績で総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
日本人初心者のためのフランス語教材 / GAEL CREPIEUX その他:Hachette Livre, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001235201
<b>開設科目名</b>	フランス語会話1 [French Conversation 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	EMDE ANGELIKA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では会話が中心です。日常的な場面を簡単な言い方や文法のパターンで訓練します。					
<b>授業の一般目標</b>					
簡単な会話のために基礎語彙を身に付けること、基本的な文法を理解し、応用できることが目標です。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 習ってきたフランス語のレベルに合わせて、簡単な会話ができること。					
<b>思考・判断の観点:</b> フランス語で、基礎的な範囲において、文法を理解し、語彙を生かせること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> フランス語の構造や語彙を積極的に習得し、フランス文化に関心を高めること。					
<b>態度の観点:</b> 予習・復習・宿題などを常にやり、授業に関心をもって楽しく参加すること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
口頭試験:30%、定期的な出席と積極的な参加により評価します。参加や授業への貢献:70%。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
出席は非常に大事で、積極的な参加は、成功へのカギです。					
<b>連絡先</b>					
a0a01632@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001231301
<b>開設科目名</b>	中国語初歩 [Introductory Chinese]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・医・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	齊藤 匡史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本科目は半期完結の中国語授業で、中国語の発音や平易な表現を学習し、あわせて中国事情理解を進める。半期という時間では基礎全般を学ぶことは不可能であるが、本科目の受講を通じて、中国語学習への興味をもってもらいたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語学習での発音の重要性を学び、正確な発音が出来るよう努力する。</li> <li>・中国語の基本文型を理解し、やさしい表現を身に着ける。</li> <li>・中国について理解する。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績と日常の授業への出席と受講態度で成績を評価する。2/3以上の出席がなければ定期試験を受けられない。					
<b>教科書</b>					
新版 中国語 10 課 / ,方如偉ほか,,: 白水社, 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1001231302
<b>開設科目名</b>	中国語初歩 [Introductory Chinese]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・医・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	苞山 武義			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中国語の基本表現を使い、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになることを目指します。併せて、言葉の背景となる中国の文化や中国事情について、ビデオなどを見ながら紹介します。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語であいさつや自己紹介ができ、また自分の考えを表現するなど、中国語を使って簡単なコミュニケーションをとることができることを目指す。また、中国社会や文化に関心を持ち、日本との違いや関係を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の初歩的な表現を理解・運用できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語や中国事情に関心を持ち、積極的な理解につとめる。					
<b>態度の観点:</b> 授業に積極的に参加する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の他に、授業中に行う小テスト、授業への参加態度などによる総合評価。出席が2/3に満たない者は定期試験を受けられない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001232301
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001232302
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	梁 蕾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001232303
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	梁 蕾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001232305
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宇 芳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001232306
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	呉 菲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001232304
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宇 芳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001232307
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1001232308
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	永富 健史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001232310
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001232311
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉本 知栄子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1001232312
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	秋山 淳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 5～6	<b>時間割コード</b>	1001232313
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	苞山 武義			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1001232314
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	張 玲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001232309
<b>開設科目名</b>	中国語入門1 [Elementary Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	崔 丹			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の成績: 70%</p> <p>小テスト・授業内レポート: 20%</p> <p>授業態度・授業への参加度 : 10%</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p>					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席にこと。後期からの履修クラス変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001233301
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	齊藤 匡史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>30 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 3 位の経済大国、「世界の工場」、「世界の市場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、アメリカ、日本にらぶ国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月9~10	<b>時間割コード</b>	1001233302
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	富平 美波			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第6位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉 世界第3位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国と中国に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験(期末試験) と小テストによる総合評価</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>期末試験終了後、評価が可に満たない者を対象に再試験を実施する予定である。</p>					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード 文型・表現編 / 齋藤匡史・何曉毅・田梅; 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は原則として認めない。後期開講科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
研究室: 人文学部5階 Tel.933-5251					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 12:50-14:20					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001233303
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	富平 美波			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第6位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉 世界第3位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国と中国に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験(期末試験) と小テストによる総合評価</p> <p>出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>期末試験終了後、評価が可に満たない者を対象に再試験を実施する予定である。</p>					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード 文型・表現編 / 齋藤匡史・何曉毅・田梅; 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は原則として認めない。後期開講科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
研究室: 人文学部5階 Tel.933-5251					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 12:50-14:20					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001233304
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	更科 慎一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>30 年来的改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 3 位の経済大国、「世界の工場」、「世界の市場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、アメリカ、日本にならぶ国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001233305
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	一木 達彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>30 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 3 位の経済大国、「世界の工場」、「世界の市場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、アメリカ、日本にならぶ国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001233306
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	一木 達彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>30 年来的改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 3 位の経済大国、「世界の工場」、「世界の市場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、アメリカ、日本にならぶ国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価					
出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001233307
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	永富 健史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>30 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 3 位の経済大国、「世界の工場」、「世界の市場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、アメリカ、日本に並び国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1001233308
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	一木 達彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>30 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 3 位の経済大国、「世界の工場」、「世界の市場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、アメリカ、日本にらぶ国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001233309
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉本 知栄子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>30 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 3 位の経済大国、「世界の工場」、「世界の市場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、アメリカ、日本にならぶ国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001233310
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	秋山 淳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>30 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 3 位の経済大国、「世界の工場」、「世界の市場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、アメリカ、日本にらぶ国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001233311
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉本 知栄子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>30 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 3 位の経済大国、「世界の工場」、「世界の市場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、アメリカ、日本にらぶ国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001233312
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	秋山 淳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>30 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 3 位の経済大国、「世界の工場」、「世界の市場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、アメリカ、日本にならぶ国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001233313
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	苞山 武義			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>30 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 3 位の経済大国、「世界の工場」、「世界の市場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、アメリカ、日本にならぶ国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1001233314
<b>開設科目名</b>	中国語初級1A [Basic Chinese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	苞山 武義			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>30 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 3 位の経済大国、「世界の工場」、「世界の市場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、アメリカ、日本にらぶ国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。</p> <p>中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセントを習得し、初歩的な表現形式を理解・運用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な会話ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。</li> <li>・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。</li> <li>・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。</li> </ul> <p>なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001233701
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田 梅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開講科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001233702
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	何 暁毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何暁毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発音すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開講科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
083-933-5065					
hexiaoyi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日の午後					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001233703
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発音すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開講科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001233704
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田 梅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001233706
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	袁 麗暉			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発音すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1001233705
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	呉 毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開講科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001233707
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	呉 毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開講科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001233708
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田 梅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001233709
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開講科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001233710
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	呉 菲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001233711
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	呉 毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001233712
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	張 玲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001233713
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田 梅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水9～10	<b>時間割コード</b>	1001233714
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	張 玲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001233715
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	梁 蕾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001233716
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	梁 蕾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開講科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001233717
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発音すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開講科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金7~8	<b>時間割コード</b>	1001233718
<b>開設科目名</b>	中国語初級1B [Basic Chinese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	張 玲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は「中国語初級1A, 2A」とあわせて受講するものである。「B」科目は、中国人教員の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の応用および理解、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会・文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(コミュニケーション編) / 何曉毅 ほか: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣					
・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。					
・後期からの履修変更は認めない。後期開講科目に注意して履修すること。					
・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。					
なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水9～10	<b>時間割コード</b>	1001235301
<b>開設科目名</b>	中国語会話1 [Chinese Conversation 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	宇 芳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。					
<b>授業の一般目標</b>					
発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本文法の理解および応用、基本会話の理解と応用ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや、授業中の練習など積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音や、基本文法を習得し、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
一年生のコミュニケーション中国語 / 塚本 慶一 劉 穎:白水社,2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発音すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001239311
<b>開設科目名</b>	中国語中級1 [Intermediate Chinese 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	一木 達彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中級レベルの中国語を学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
中級レベルの中国語を総合的な習得を目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセント、表現形式などの初級で学んだことを復習しつつ、初級から一步進んだ表現形式を理解・運用できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な読解ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001239301
<b>開設科目名</b>	中国語中級会話1 [Intermediate Chinese Conversation 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	張 玲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
異文化間のコミュニケーションの手段として中国語を学ぶ。 中級会話の完成を目指す。実際に中国で日常に用いられる会話を自然な速度で話せるようになるまで指導する。併せて中国文化、中国事情の紹介に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
主に話す能力と聞く能力をマスターさせる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 言葉の使い方と慣用句が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国語と日本語の違いが判断できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国文化と生活習慣に関心を寄せる。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、テストや授業中の練習などに積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 発音、アクセントと表現方法を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験及び小テスト、受講態度により総合評価					
<b>教科書</b>					
新版 中国語さらなる一歩 / 尹景春など:白水社, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習復習が必要です。単語と文型を覚え、そして繰り返し練習してください。					
<b>連絡先</b>					
zhangling414@ybb.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1001236301
<b>開設科目名</b>	海外中国語研修 [Chinese Study Abroad]			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 理(数理)・医(看護・検査)・工・農(生機)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	田 梅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本授業は、主に留学生センターに実施される短期中国語研修の参加準備を目的としている。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語研修に最低限必要な会話を習得し、留学に関連する必要事項、注意事項を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
語学研修に興味のある学生の参加を待っています					
<b>連絡先</b>					
共通教育本棟3階 田研究室 内線番号: 5591 E-mail: tian@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日: 16:00～18:00 火曜日: 16:00～18:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001231401
<b>開設科目名</b>	ハングル初歩 [Introductory Korean]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	教・理・医・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	和田 学			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では韓国語の文字を学びます。簡単なあいさつを学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
韓国語の文字を覚えて、簡単なあいさつを覚えることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文字と簡単な文の理解					
<b>態度の観点:</b> 欠席は欠格事項です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験で評価します。欠席は欠格事項です。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
083-933-5272,wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日午前					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001232401
<b>開設科目名</b>	ハングル入門1 [Elementary Korean 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	和田 学			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、韓国/朝鮮語の文字と発音を中心にしながら、基本的なあいさつの表現、初歩的な構文を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
この言語の文字と発音の正確な習得と、発音の規則、初歩的な文法を習得し、簡単な会話ができるようにします。この目的のため、毎回授業の内外で課題を課します。また、基礎語彙を習得も課し、不定期に試験を行います。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文字、発音、語彙、あいさつ等の基本を身に付けます。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. この言語を使う文化に関心を持ちます。					
<b>態度の観点:</b> 1.出席、遅刻を厳しく問います。2.宿題の提出を厳しく問います。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1.文字と発音を正しく習得します。2.簡単な文が作れ、理解できます。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)定期試験と(2)不定期の小テストで成績を評価します。(3)欠席、宿題の未提出が所定の回数を超えた場合には単位を与えません。					
<b>教科書</b>					
プレリュード韓国語/コン・秀一、コン・龍澤:白帝社,2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
連絡先:wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp,研究室:人文棟6階					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日午前中					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001232402
<b>開設科目名</b>	ハングル入門1 [Elementary Korean 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	桂 文姫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、韓国/朝鮮語の文字と発音を中心にしながら、基本的なあいさつの表現、初歩的な構文を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
この言語の文字と発音の正確な習得と、発音の規則、初歩的な文法を習得し、簡単な会話ができるようにします。この目的のため、毎回授業の内外で課題を課します。また、基礎語彙を習得も課し、不定期に試験を行います。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文字、発音、語彙、あいさつ等の基本を身に付けます。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. この言語を使う文化に関心を持ちます。					
<b>態度の観点:</b> 1.出席、遅刻を厳しく問います。2.宿題の提出を厳しく問います。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1.文字と発音を正しく習得します。2.簡単な文が作れ、理解できます。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)定期試験と(2)不定期の小テストで成績を評価します。(3)欠席、宿題の未提出が所定の回数を超えた場合には単位を与えません。					
<b>教科書</b>					
プレリュード韓国語/コン・秀一、コン・龍澤:白帝社, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001233401
<b>開設科目名</b>	ハングル初級1A [Basic Korean 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山田 寛人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では韓国語の初歩を学びます。前半では文字と発音、後半では簡単な文法を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
文字と発音を確実に覚えて、簡単な会話ができるようになることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 文字と発音の正確な習得、2. 簡単な文法事項の理解、3. 簡単な会話、4. 基礎語彙					
<b>関心・意欲の観点:</b> 毎回小テストを課す。					
<b>態度の観点:</b> 欠席と、宿題の不提出は欠格事項とします。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と毎回の小テストで評価します。欠席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001233402
<b>開設科目名</b>	ハングル初級1A [Basic Korean 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山田 寛人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では韓国語の初歩を学びます。前半では文字と発音、後半では簡単な文法を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
文字と発音を確実に覚えて、簡単な会話ができるようになることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 文字と発音の正確な習得、2. 簡単な文法事項の理解、3. 簡単な会話、4. 基礎語彙					
<b>関心・意欲の観点:</b> 毎回小テストを課す。					
<b>態度の観点:</b> 欠席と、宿題の不提出は欠格事項とします。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と毎回の小テストで評価します。欠席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001233403
<b>開設科目名</b>	ハングル初級1A [Basic Korean 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	桂 文姫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では韓国語の初歩を学びます。前半では文字と発音、後半では簡単な文法を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
文字と発音を確実に覚えて、簡単な会話ができるようになることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 文字と発音の正確な習得、2. 簡単な文法事項の理解、3. 簡単な会話、4. 基礎語彙					
<b>関心・意欲の観点:</b> 毎回小テストを課す。					
<b>態度の観点:</b> 欠席と、宿題の不提出は欠格事項とします。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と毎回の小テストで評価します。欠席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1001233801
<b>開設科目名</b>	ハングル初級1B [Basic Korean 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	山田 寛人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業はハングル初級1Aとセットの授業です。従って週2回の授業です。					
<b>授業の一般目標</b>					
文字と発音、基本的な文法、語彙、会話能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文字と発音を正確に理解し、語彙数百、基本的な会話能力					
<b>態度の観点:</b> 出席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と毎回の小テストの合計で評価します。宿題の不提出、欠席は欠格事項です。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001233802
<b>開設科目名</b>	ハングル初級1B [Basic Korean 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山田 寛人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業はハングル初級1Aとセットの授業です。従って週2回の授業です。					
<b>授業の一般目標</b>					
文字と発音、基本的な文法、語彙、会話能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文字と発音を正確に理解し、語彙数百、基本的な会話能力					
<b>態度の観点:</b> 出席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と毎回の小テストの合計で評価します。宿題の不提出、欠席は欠格事項です。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001233803
<b>開設科目名</b>	ハングル初級1B [Basic Korean 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	桂 文姫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業はハングル初級1Aとセットの授業です。従って週2回の授業です。					
<b>授業の一般目標</b>					
文字と発音、基本的な文法、語彙、会話能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文字と発音を正確に理解し、語彙数百、基本的な会話能力					
<b>態度の観点:</b> 出席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と毎回の小テストの合計で評価します。宿題の不提出、欠席は欠格事項です。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001235401
<b>開設科目名</b>	ハンゲル会話1 [Korean Conversation 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	和田 学			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
簡単な会話ができるようになることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 簡単な会話のパターンを暗記してもらいます。					
<b>態度の観点:</b> 積極的な態度で授業に参加してください。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験では面接と筆記です。また、毎回小テストを実施し、成績に反映させます。欠席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
プレリュード韓国語/コン・秀一、コン・龍澤、白帝社、2008					
<b>メッセージ</b>					
積極的に授業に参加してください					
<b>連絡先</b>					
083-933-5272、wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日午前					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001239401
<b>開設科目名</b>	ハンゲル中級1 [Intermediate Korean 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	和田 学			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では1年次の初級の授業で学んだことを更に定着させると共に、更に多様な表現を学びます。同時に、語彙についてもより高度な語彙を身に付けます。この目的のために、毎回、授業の内外での課題を課します。					
<b>授業の一般目標</b>					
基本となる文法事項を確実にし、更に、多様な構文を学びます。また、語彙力をつけることにより、簡単な文章なら辞書の助けがほとんどなくとも、読めるようにします。また、様々な場面での会話ができるようになります					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 多様な構文の習得、2. 語彙力の強化					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. この言語を使う文化について関心を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. ある程度の文章の読解、作文、基本的な会話ができるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テストによって成績を評価します。宿題、出席は欠格条件です。					
<b>教科書</b>					
基礎から学ぶ韓国語講座中級 / 木内明: 国書刊行会, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業には積極的に参加してください。					
<b>連絡先</b>					
083-933-5272, wadagaku アット yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日午前					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月1~2	<b>時間割コード</b>	1001241001
<b>開設科目名</b>	日本語1A [Japanese 1A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	今井 新悟			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Basic Japanese Japanese 1A, 2A and 3A should be taken together. 日本語初級 日本語1A,2A,3A は一緒に受講してください。					
<b>授業の一般目標</b>					
Learn basic grammar and vocabulary, and communication strategy. 日本語の基礎的な文法、語彙、コミュニケーション方法について学習します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students are expected to master basic structures of Japanese and learn 300 basic words and the basic writing system, Hiragana and Katakana. 日本語の基本的な構造、約300の語彙、ひらがな、カタカナをマスターします。					
<b>技能・表現の観点:</b> Students can carry out simple conversations in Japanese. 簡単な日本語の会話ができるようになります。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Evaluation is based on participation, quizzes, homework, and tests 出席、クイズ、宿題と試験によって評価します。					
<b>教科書</b>					
みんなのにほんご Minna no Nihongo / スリーエー:スリーエー					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
083-933-5088					
<b>オフィスアワー</b>					
Office hour: Monday 13:00-15:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001241003
<b>開設科目名</b>	日本語2 A [Japanese 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	今井 新悟			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Basic Japanese Japanese 1A, 2A and 3A should be taken together. 日本語初級 日本語1A,2A,3A は一緒に受講してください。					
<b>授業の一般目標</b>					
Learn basic grammar and vocabulary, and communication strategy. 日本語の基礎的な文法、語彙、コミュニケーション方法について学習します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students are expected to master basic structures of Japanese and learn 300 basic words and the basic writing system, Hiragana and Katakana. 日本語の基本的な構造、約300の語彙、ひらがな、カタカナをマスターします。					
<b>技能・表現の観点:</b> Students can carry out simple conversations in Japanese. 簡単な日本語の会話ができるようになります。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Evaluation is based on participation, quizzes, homework, and tests 出席、クイズ、宿題と試験によって評価します。					
<b>教科書</b>					
みんなの にほんご Minna no Nihongo / スリーエー : スリーエー					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
083-933-5088					
<b>オフィスアワー</b>					
Office hour: Monday 13:00-15:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001241005
<b>開設科目名</b>	日本語3 A [Japanese 3A]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	今井 新悟			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Basic Japanese Japanese 1A, 2A and 3A should be taken together. 日本語初級 日本語1A,2A,3A は一緒に受講してください。					
<b>授業の一般目標</b>					
Learn basic grammar and vocabulary, and communication strategy. 日本語の基礎的な文法、語彙、コミュニケーション方法について学習します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students are expected to master basic structures of Japanese and learn 300 basic words and the basic writing system, Hiragana and Katakana. 日本語の基本的な構造、約300の語彙、ひらがな、カタカナをマスターします。					
<b>技能・表現の観点:</b> Students can carry out simple conversations in Japanese. 簡単な日本語の会話ができるようになります。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Evaluation is based on participation, quizzes, homework, and tests 出席、クイズ、宿題と試験によって評価します。					
<b>教科書</b>					
みんなの にほんご Minna no Nihongo / スリーエー:スリーエー					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
083-933-5088					
<b>オフィスアワー</b>					
Office hour: Monday 13:00-15:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001241007
<b>開設科目名</b>	日本語4 A [Japanese 4A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	中溝 朋子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
初級後半レベルの文型・語彙を用いて、日常のコミュニケーションを身につけるよう、口頭練習を中心とした活動を行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
新出語彙や文型を理解し、日常生活の場面で必要なコミュニケーション能力を身につけます。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 新出文型・語彙を理解し、会話の中で使用できるようにする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 日常生活の中で、必要な情報を得て、自分の意志を伝えられるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席および授業参加度(10%)、宿題(10%)、中間試験(40%)、期末試験(40%)を合計して評価を出します。					
<b>教科書</b>					
初級日本語「げんき」 / 坂野永理 他: The Japan Times, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tomokon@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
火 10:30 - 13:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001241008
<b>開設科目名</b>	日本語4 A [Japanese 4A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	赤木 彌生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
会話文を通して初級レベルの文型、単語を学び、基礎的な読む・書く・聞く・話す能力を伸ばします。特に、ビデオ・CD・絵カードなどの教材を使い、オーラル・スキル(聞く・話す)を培います。毎回、ペアワークやグループワークでの授業活動を行い、オーラル練習をします。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級レベルの四技能(読む・書く・聞く・話す)を伸ばします。言語運用能力を培い、コミュニケーション能力を伸ばします。また、日本文化について学び、山口およびキャンパスでの生活や日本人とのコミュニケーションをはかることができ、日本社会にスムーズに適應できるようになることを目指します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎的な日本語文法、語彙、文字についての理解と知識を得、理解を深めます。					
<b>思考・判断の観点:</b> 初級レベルでの日本文化、社会についての理解を深めます。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に日本語および日本文化についての知識を増やし、理解を深めます。					
<b>態度の観点:</b> 他の学習者と積極的にペアやグループで練習を行い、協働作業を通して、お互いの日本語能力を高めます。					
<b>技能・表現の観点:</b> 初級レベルの文型、語彙、表現、文字を使って、日本語でコミュニケーションできる能力を培います。					
<b>その他の観点:</b> 基礎的な四技能(読む・書く・聞く・話す)、そして、コミュニケーションできる表現力を培い、大学生活が支障なく送ることができるようにします。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業参加、小テスト、期末試験、発表、スピーキングチェックで評価する。					
<b>教科書</b>					
みんなの日本語 / 田中よね他:スリーエーネット, 2002					
みんなの日本語 文法解説 / 田中よね他:スリーエーネット, 2005					
みんなの日本語 標準問題集 / 大越泰子:スリーエーネット, 2005					
Basic Kanji 1 / 加納千恵子: 凡人社, 2001					
<b>参考書</b>					
みんなの日本語聴解タスク25 / 牧野昭子他:スリーエーネットワーク, 2005					
<b>メッセージ</b>					
宿題、課題がたくさんありますが、がんばりましょう。					
<b>連絡先</b>					
赤木研究室					
メールアドレス:yayoi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
赤木研究室 火曜日午後2時~3時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001241011
<b>開設科目名</b>	日本語5 A [Japanese 5A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	赤木 彌生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>会話文を通して初級レベルの文型、単語を学び、基礎的な読む・書く・聞く・話す能力を伸ばします。特に、ビデオ・CD・絵カードなどの教材を使い、オーラル・スキル(聞く・話す)を培います。毎回、ペアワークやグループワークでの授業活動を行い、オーラル練習をします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>初級レベルの四技能(読む・書く・聞く・話す)を伸ばします。言語運用能力を培い、コミュニケーション能力を伸ばします。また、日本文化について学び、山口およびキャンパスでの生活や日本人とのコミュニケーションをはかることができ、日本社会にスムーズに適応できるようになることを目指します。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>基礎的な日本語文法、語彙、文字についての理解と知識を得、理解を深めます。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>初級レベルでの日本文化、社会についての理解を深めます。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>積極的に日本語および日本文化についての知識を増やし、理解を深めます。</p> <p><b>態度の観点:</b>他の学習者と積極的にペアやグループで練習を行い、協働作業を通して、お互いの日本語能力を高めます。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>初級レベルの文型、語彙、表現、文字を使って、日本語でコミュニケーションできる能力を培います。</p> <p><b>その他の観点:</b>基礎的な四技能(読む・書く・聞く・話す)、そして、コミュニケーションできる表現力を培い、大学生活が支障なく送ることができるようにします。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>「みんなの日本語 &amp; 」を使って、文型、文法、会話を練習します。毎回、会話のビデオを視聴し、日本の社会や生活習慣について学びます。毎回、CDで聞き取り練習を行い、ヒアリング能力を伸ばします。ペアやグループで、会話練習を行い、スピーキング能力、コミュニケーション能力を高めます。6課ごと小テストがあります。10課以降からは、漢字練習も行います</p>					
<b>教科書</b>					
<p>みんなの日本語 / 田中よね他:スリーエーネットワーク, 2002</p> <p>みんなの日本語標準問題集 / 田中よね他:スリーエーネットワーク, 2005</p> <p>Basic Kanji1 / 加納千恵子他:凡人社, 2001</p>					
<b>参考書</b>					
<p>みんなの日本語聴解タスク25 / 牧野和子他:スリーエーネットワーク, 2005</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>宿題、課題とたくさんありますが、がんばりましょう。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>赤木研究室 内線:5986</p> <p>メールアドレス:yayoia@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>火曜日午後2時~3時</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001241013
<b>開設科目名</b>	日本語6 A [Japanese 6A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉原 道子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本語初級後半の学習者を対象にし、文法や語彙をさらに拡充し、漢字に親しみ、長文に慣れさせる。中級の学習に無理なく移行できるように、文の構造と意味・機能の総合的な理解力を養成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
新出語彙や文法項目を正しく理解する。 コミュニケーション能力を高める。 文章読解能力をつける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初級後半の文法を理解し、漢字が読めるようになる。 <b>思考・判断の観点:</b> 日本語を通して日本社会への理解を深める。 <b>関心・意欲の観点:</b> 宿題を毎回提出し、予習・復習をする <b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加する <b>技能・表現の観点:</b> 身の回りのことや気持ちを表現するための文章が作れる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間テストと期末テスト、宿題、小漢字テストの結果を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
日本語中級読解入門 / 富岡純子・島恭子; 富岡純子・島恭子, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業を休まないようにしてください。毎日音読してください。					
<b>連絡先</b>					
e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp TEL:083-933-5985					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日15:00~					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001241015
<b>開設科目名</b>	日本語7A [Japanese 7A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉原 道子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本語を300時間ぐらゐ勉強し、すでに初級の学習が終わった留学生のためのクラスです。文法、語彙、漢字について説明します。日本文化や時事問題にも触れ、それらについてクラス討論をします。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本語中級レベルの文法、語彙、漢字を学習し、レポートが書けるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 課題文の漢字や表現文型が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 場に即した表現形式が選択できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> テーマに関心を持ち、情報収集した内容について発表できる。					
<b>態度の観点:</b> クラス活動に積極的に参加できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> テーマに関するレポートを作成し、発表できる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験・レポート・宿題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
中級日本語 / 東京外国語大学 留学生日本語教育センター: 凡人社, 1994					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
日本語を短時間でマスターするための学習方法を説明します。					
<b>連絡先</b>					
メールアドレス: michikos@yamaguchi-u.ac.jp					
電話番号: 933 - 5985					
<b>オフィスアワー</b>					
オフィスアワー: 水曜日、15:00 ~					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1001241016
<b>開設科目名</b>	日本語7A [Japanese 7A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	赤木 彌生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
初級前半レベルで学んだ文法、単語、表現を使って日本語運用能力をさらに伸ばし、さまざまな状況や場面に対応できる総合的な日本語能力を培います。					
<b>授業の一般目標</b>					
毎回ビデオを見、日常生活で必要とする基礎的な四技能「聞く・話す・読む・書く」をさまざまな状況や場面に对应できるように総合的に日本語運用能力を培います。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初級後半の基礎的な日本語文法、語彙、文字についての理解と知識を得、理解を深めます					
<b>思考・判断の観点:</b> 初級後半レベルでの日本文化、社会についての理解を深めます。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に日本語および日本文化についての知識を増やし、理解を深めます。					
<b>態度の観点:</b> 他の学習者と積極的にペアやグループで練習を行い、協働作業を通して、お互いの日本語能力を高めます。					
<b>技能・表現の観点:</b> 初級後半レベルの文型、語彙、表現、文字を使って、日本語でコミュニケーションできる能力を培います。					
<b>その他の観点:</b> 初級で培った基礎的な四技能(読む・書く・聞く・話す)、そして、コミュニケーションできる表現力をさらに伸ばし、大学や地域社会での生活を支障なく送ることができるようにします。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業参加、宿題、課題、小テスト、試験で総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
みんなの日本語 / 田中よね他:スリーネットワーク, 2003					
みんなの日本語標準問題集 / 大越泰子:スリーネットワーク, 2005					
Basic Kanji 2 / 加納千恵子:凡人社, 2001					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
宿題がたくさんありますが、がんばりましょう。					
<b>連絡先</b>					
赤木研究室					
電話: 9038					
メールアドレス: yayoia@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日午後2時～3時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001241019
<b>開設科目名</b>	日本語8 A [Japanese 8A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉原 道子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代日本社会の問題について、教科書、新聞、テレビの報道番組などを教材に分析する。学習者間で意見交換を行い、各国と比較しながら、日本社会への理解を深めるのみならず、異文化理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 新聞記事を読むことができ、要旨をまとめ、各自の意見が述べられる。 2. 各テーマについてディスカッションやディベートができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 新聞記事が読める。ニュース番組が理解できる。					
思考・判断の観点: 日本の社会問題についての確かな指摘が行え、自国との相違点が理解できる。					
関心・意欲の観点: 日本社会への理解を深めることができる。					
態度の観点: 他の学習者の意見に耳を傾けることができ、自分の意見が述べられる。					
技能・表現の観点: テーマに関するプレゼンテーションができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本の社会問題についての確かな指摘が行え、自国との相違点が理解できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日本社会への理解を深めることができる					
<b>態度の観点:</b> 他の学習者の意見に耳を傾けることができ、自分の意見が述べられる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 新聞記事が読める。ニュース番組が理解できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末レポートとプレゼンテーションで評価する。					
<b>教科書</b>					
日本への招待 / 近藤安月子 丸山千歌, 東京大学出版会, 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
日本社会への理解を深める良い機会となります					
<b>連絡先</b>					
メールアドレス:michikos@yamaguchi-u.ac.jp 電話番号:933 - 5985					
<b>オフィスアワー</b>					
オフィスアワー:水曜日、15:00~					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001241021
<b>開設科目名</b>	日本語9 A [Japanese 9A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉原 道子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>授業の概要</p> <p>日本語中級前半を終了した学習者を対象に「読む」「書く」を柱に、「話す」能力の向上を目指す。論理的な文章作成能力、また、相手に正確に伝えられるように論理的「話す」能力を課題を通して育成する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>授業の一般目標：中級後半の文法項目や語彙が理解できる。</p> <p>・各課の「書いてみよう」という課題を通して、論理的な文章が書ける。</p> <p>・各課の「話してみよう」という課題を通して、相手に正確に伝えられるように論理的に話せる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点：</b>中級の文法項目を正確に理解する。</p> <p>思考・判断の観点： 場に即した表現形式を選ぶことができる</p> <p><b>思考・判断の観点：</b>場に即した表現形式を選ぶことができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点：</b>課題について積極的に取り組む。 一日20分以上音読する。</p> <p><b>態度の観点：</b>ディスカッションに積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点：</b>与えられた課題に関して発表する</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間テスト、期末テスト、漢字テスト、スピーチ、宿題の提出回数、出席状況を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
日本語中級J5 01, / 土岐哲, : スリーエーネットワーク,					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp TEL:083-933-5985					
<b>連絡先</b>					
e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp TEL:083-933-5985					
<b>オフィスアワー</b>					
オフィスアワー：水曜日午後					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001241024
<b>開設科目名</b>	日本語10A [Japanese 10A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	中溝 朋子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中級者を対象とした授業で、書き言葉で書かれた日本の社会や考え方についての文章を精読し、その中から文法、語彙、書き言葉について学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
中級レベルの漢字の読み方、語彙、文法を学び、書き言葉で書かれた文に慣れ、主に読解力を高めることを目的としています。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 書き言葉と話し言葉の特徴の違いについて理解する。					
授業で学習した中級レベルの文型、語彙を理解する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 授業で学習した中級レベルの文型、語彙を理解し、適切に使用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席・授業参加度(10%)、小テスト(10%)、宿題(10%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)の合計で評価を出します。					
<b>教科書</b>					
日本への招待(第2版) / 近藤安月子 他:東京大学出版会, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tomokon@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水 10:30 - 13:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月9～10	<b>時間割コード</b>	1001241023
<b>開設科目名</b>	日本語10A [Japanese 10A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	今井 新悟			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本語中級後半レベルの学生を対象に書かれた日本の社会や日本人の考え方に関する文章を読んで理解を深め、そこで使用される語彙・表現・漢字などの運用力を高める。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本語中級後半レベルの学生を対象に書かれた文章を理解できる。 文章に出てきた語彙・表現・漢字を習得し、運用できる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 平易な書き言葉で書かれた文章を理解できる。 中級後半レベルの語彙・文型について知識を増やす。					
<b>思考・判断の観点:</b> 授業で扱うトピックについて、その背景や問題点について考え、自国との異同について客観的に考えることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 扱っているトピックに関心を持ち、社会への関心やそれを理解し、表現する手段としての日本語の学習への意欲を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 授業で扱った中級後半レベルの語彙・文型を運用することができる。 平易な書き言葉で書かれた文章を理解でき、扱ったトピックについて自分なりの意見を表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席および授業参加度、小テスト、宿題、中間試験、期末試験の結果を総合して評価する。					
<b>教科書</b>					
中級から上級への日本語 / 鎌田修: The Japan Times					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
083-933-5088					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 13:00-15:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001241027
<b>開設科目名</b>	日本語11A [Japanese 11A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	赤木 彌生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
幅広いテーマに関する語彙表現、文法を学び、さまざまな状況や場面に対応できる総合的な日本語能力を培います。					
<b>授業の一般目標</b>					
日常生活に必要な基礎的な四技能「聞く・話す・読む・書く」をさらに、さまざまな状況に対応できるように総合的に伸ばします。日本語による講義、試験、レポートなどをこなすことができる文法、語彙表現を学び、聴解、口頭表現能力、読解力、作文力を伸ばします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 環境、文化などのテーマごとの語彙表現、文法の知識を増やし、日本語への理解を深めます。					
<b>思考・判断の観点:</b> テーマについての内容を理解し、問題意識を持ち、意見を述べます。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 多様なテーマに関心を持ち、意欲的に意見を述べます。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加します。					
<b>技能・表現の観点:</b> 多様な場面に対応できる表現力、技能を伸ばします。					
<b>その他の観点:</b> 中級レベルの漢字を練習し、語彙力を伸ばします。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業参加、宿題、試験などで総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
新日本語の中級/AOTS:スリーネットワーク、2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎日、漢字を練習しましょう。					
<b>連絡先</b>					
赤木研究室 メールアドレス:yayoi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日14:00~15:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1001241029
<b>開設科目名</b>	日本語12A [Japanese 12A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	今井 新悟			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
表現(作文、プレゼンテーション)について学び、練習します。					
<b>授業の一般目標</b>					
論理的な文章の書き方の基本的なルールを学び、課題作文を通して、論理的な文章の書き方を身に着けます。					
論理的なプレゼンテーションについてのノウハウを学び、マイクロプレゼンテーションで練習します。段落や論理性などの文章作成のルールについて学びます。					
文章を読み・話し、論理性を検証します。					
自分でたくさんの文章を書き、話します。					
他の人の文章、話を批判的に検証します。					
文章、プレゼンの改善を図ります。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文章作成・プレゼンテーションの基本的なルールを理解しているか。					
<b>思考・判断の観点:</b> 内容と論理性について適格に判断できるか。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 読み手・聞き手を意識した書き方・話し方に関心を持ち、読み手・聞き手に分らせるように書く・話す意欲があるか。					
<b>態度の観点:</b> 活動に積極的に参加しているか。					
出席はきちんとしているか。					
<b>技能・表現の観点:</b> 授業で学んだ知識を使って論理的な文章が書けるか・話せるか。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
課題提出、授業への意欲・貢献度を総合的に判断します。欠席は4回以上で欠格条件となります。遅刻は3回で欠席1回とみなします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
083-933-5088					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 13:00-15:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火9~10	<b>時間割コード</b>	1001241031
<b>開設科目名</b>	日本語13A [Japanese 13A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	河野 笙子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
上級レベルの学習者を対象に、現代社会の諸相に関する文章の読解や関心のあるテーマについてのアンケート調査活動などを通して、日本語の総合的運用力を高める。					
<b>授業の一般目標</b>					
上級レベルの日本語の読解、運用、表現ができる。 論理的な発表やレポート作成ができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現代社会の諸相に関する文章の読解ができる。 取り上げられた問題について説明ができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 授業で扱う文章やテーマの背景・問題点などについて分析ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 文章の内容や扱われているテーマに積極的な関心を抱き、自分なりの意見を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 授業に主体的に参加し、質問や発言などを活発に行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 多様な日本語が理解でき、論理的な表現が日本語でできる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業への参加度、授業内外のレポートや課題、期末試験などで総合的に行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
大学で学ぶために必要な日本語の訓練を楽しみながらやりましょう。					
<b>連絡先</b>					
k-shoko@yamaguchi-u.ac.jp 電話(933)5562 研究室:経済学部C103室					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日14時30分~16時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001241032
<b>開設科目名</b>	日本語13A [Japanese 13A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	赤木 彌生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
毎回多様なテーマについて話し合い、練習問題を通して、文法、語彙表現について学びます。テーマに関して問題意識を持ち、自分の意見を述べる練習をします。課題の作文を通して、学んだ文法、語彙表現、漢字を応用し、ライティングを練習します。					
<b>授業の一般目標</b>					
日常生活に必要な基礎的な四技能「聞く・話す・読む・書く」をさらに、さまざまな状況に対応できるように総合的に伸ばします。日本語による講義、試験、レポートなどをこなすことができる文法、語彙表現を学び、聴解、口頭表現能力、読解力、作文力を伸ばします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 環境、文化などのテーマごとの語彙表現、文法の知識を増やし、日本語への理解を深めます。					
<b>思考・判断の観点:</b> テーマについての内容を理解し、問題意識を持ち、意見を述べます。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 各テーマに関心を持ち、積極的にテーマについて考えます。					
<b>態度の観点:</b> ペア、グループワークに積極的に参加し、ピアラーニングを通して、学習を拡大していきます。					
<b>技能・表現の観点:</b> 日本語による講義を理解し、答案、レポート作成ができる技能、表現力を伸ばします。					
<b>その他の観点:</b> 中級レベルの漢字を練習し、語彙力を伸ばします。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業参加、小テスト、試験などで総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
ニューアプローチ中上級日本語 / 小柳昇: 日本語研究者教材開発, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
練習問題、作文練習など日々の積み重ねが大切です。がんばりましょう。					
<b>連絡先</b>					
赤木研究室 E-mail: yayoia@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日14:00~15:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001241035
<b>開設科目名</b>	日本語14A [Japanese 14A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	林 伸一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
業の概要 学部あるいは大学院の授業で必要とされる日本語を学ぶ。学部・大学院への橋渡しとなるような知識・技能を身につける。					
<b>授業の一般目標</b>					
授業の一般目標 日本語の知識・運用能力だけでなく、日本事情の要素も学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 知識・理解の観点: 読む・書く・話す・聞く4技能の知識・理解を深める。					
<b>思考・判断の観点:</b> 思考・判断の観点: 日本語の誤用に関して自己訂正できる思考力・判断力を育てる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 関心・意欲の観点: 日本語・日本事情に関する興味・関心・意欲を育てる。					
<b>態度の観点:</b> 態度の観点: 積極的に日本人との人間関係をつくり、日本社会に適応できるようにする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 技能・表現の観点: 4技能をバランスよく育て、適切な自己表現力を発揮できるようにする。					
<b>その他の観点:</b> その他の観点: 構成的グループ・エンカウンターを用いて、学習仲間をつくる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価方法(総合) 出席を重視し、授業内レポートなどの課題で成績を評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
メッセージ 楽しく、役に立つ日本語を勉強しよう!					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
連絡先・オフィスアワー 木曜 10:30 - 12:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001241037
<b>開設科目名</b>	日本語15A [Japanese 15A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉原 道子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>大学での講義を聞き、勉学や研究を行うための言語活動に必要な日本語能力を養う。講義を聞く、資料を読むなどの「受信型スキル」を伸ばすだけでなく、資料収集、発表などを通して、主体的にその場の状況を考え、コミュニケーションしたり発表する「発信型スキル」を獲得する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1. 課題文や語彙の表現を理解する。  2. テーマに関する資料を収集し、問題点を指摘できる。  3. 自ら選択したテーマに関してプレゼンテーションができる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>新聞資料が読める。ニュース番組が理解できる。  <b>思考・判断の観点:</b>必要な資料を収集し、それに基づいて論理的に自分の意見をまとめる力を養う。  <b>関心・意欲の観点:</b>各テーマに関して問題意識を高める。  <b>態度の観点:</b>積極的に討論に参加する  <b>技能・表現の観点:</b>与えられた課題について効果的なプレゼンテーションができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験・レポート・プレゼンテーションを総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
/ 佐々木瑞枝: Japan Times, 2003					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
TEL: 933 - 5795					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 15:00~					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001411002
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生化・地球・生機 獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尼野 一夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
理系学生にとって必要不可欠な解析学の初歩である一変数関数の微分、積分についてその概念の理解と計算方法を修得させる。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数関数に関する微分積分学の基本的な概念を理解し、微分法、積分法におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。さらに、これらを用いて、理工系各分野でのさまざまな問題を解決できる応用力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 三角関数、逆三角関数、指数関数などの初等関数の基本的な取り扱いや計算が正確にできる。					
2. 微分法の基本的な概念を理解した上で、初等関数の導関数の計算、マクローリン級数への展開、変化の様子など、微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
3. 定積分不定積分の基本的な概念を理解した上で、初等関数の積分の計算や面積を求めることなど、積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 論理的な思考過程を通して、問題に取り組むことができる。					
2. 理解できた部分と理解できない部分が明確に識別できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 何事にも興味をもち、自ら進んで新しい概念に取り組むことができる。					
2. 理解できない部分を理解できるまで考え抜く集中力と忍耐力をつける。					
3. 数学のさらなる勉学意欲を持つ					
<b>態度の観点:</b> 1. 新しい概念を知り、驚き・喜びを感じ、感動を覚えることができる。					
2. 数学の必要性を再認識し、より高度な数学に興味を持つことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の思考過程を正確に表現でき、また正確に人に伝えることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として中間試験と定期試験だけで評価する。出席については欠格条件とする。					
<b>教科書</b>					
微分積分 / 石原繁, 浅野重初: 裳華房, 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回授業は講義中心で行うので、必ず予習をしてください。その日に習った内容はその日のうちに理解できるように努力すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001411001
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	数理・物情			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大城 紀代市			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
理工系学問の基礎である微分積分学,特に一変関数の微分法と積分法を講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
授業の一般目標					
一変数微分積分学の基本的概念を理解し,その計算法を習得する。微分法・積分法,合成関数の微分公式,部分積分の公式など,微分積分学における様々な概念や手法を理解し,習熟する。さらに,それらの理解と習熟のもとに,理系分野における様々な問題への数学的解決能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:					
1. 三角関数,逆三角関数,指数関数,対数関数等の初等関数が正確に理解できる。					
2. 合成関数の微分公式,積の微分公式,逆関数の微分公式等の基本的微分公式を用いて,初等関数の微分計算が正しく行える。					
3. 置換積分法,部分積分法を用いて,初等関数の不定積分,定積分の計算が正しく行える。					
思考・判断の観点:					
1. 関数の連続・微分可能・積分可能における極限の概念について正しく認識できる。					
2. 平均値の定理,テーラー展開,微分積分学の基本定理等,微分積分学における重要事項について,論理的思考および判断ができる。					
関心・意欲の観点:					
1. 微分法を,様々な関数や曲線の表示に応用できる。					
2. 関数の級数展開やニュートン法を,数値計算に応用できる。					
3. 積分法を,曲線の長さ計算や図形の面積計算に応用できる。					
態度の観点:					
授業に出席し,宿題等提出物を期限内に提出できる。					
技能・表現の観点:					
レポート,答案等を,丁寧かつ整理された表現で作成できる					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
微分・積分 / 岩谷輝生・田中正紀: 学術図書出版, 1994					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001411004
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医学(44-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	柏木 孝夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数と二変数関数の微分を理解し、計算方法を習得する。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数および二変数関数の微分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。 合成関数の微分法など、微分積分学における様々な概念や、手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解のもとに、理系分野における様々な分野の分野の問題を解決できるような応用力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 三角関数、指数関数、対数関数など、初等関数の基本的な取り扱いや計算が正確にできる。 2. 微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の微分法、ライプニッツの法則、テイラー展開など、微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。 3. 二変数関数への微分法をどのように考えるかを考察し、その応用を扱う。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 論理的な思考過程を通して、問題に取り組むことができる。 2. 理解できた部分と理解できない部分が明確に識別できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 何事にも興味を持ち、自ら進んで新しい概念に取り組むことができる。 2. 理解できない部分を理解できるまで考え抜く集中力と忍耐力をつける。 3. 数学のさらなる勉学意欲をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 1. 新しい概念を知り、驚き・喜びを感じ、感動を覚えることができる。 2. 数学の必要性を再認識し、より高度な数学に興味をもつことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の思考過程を正確に人に伝えることができる。					
<b>その他の観点:</b> 数学という学問体系に興味を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験の成績による					
<b>教科書</b>					
工学・理学を学ぶための微分積分学 / 三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲: 共立出版, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
わからないことは遠慮なく質問すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001411003
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医学(1-43)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	志摩 裕彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
微分積分は理工学系学問の基礎であり、その知識なくしては現代の自然科学はあり得ません。この数学では、一変数の微分積分の基礎概念を講義し、その理解のために具体的な演習問題を解いてもらいます。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数の微分積分の考え方を理解し、具体的な計算方法を習得することを目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数などの初等関数の基本的な取り扱いや計算が正確にできる。					
2.微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の微分、テーラー展開など、微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
3.定積分、不定積分の基本的な概念を理解した上で、部分積分など積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 問題を解くために、どのような数学的手段を利用すればよいか、またどのようなプロセスをたどって解決に至ったか、その試行錯誤の過程を大切にしたい。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 新しい概念を理解し、それをを用いて積極的に問題解決に取り組む。					
<b>態度の観点:</b> 忍耐と努力の跡が認められること					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
主として中間試験と期末試験で評価し、演習・レポート等も加味する。出席については欠格条件とする。再試験は行わない。					
<b>教科書</b>					
入門微分積分 / 三宅敏恒:培風館, 2008					
<b>参考書</b>					
微分積分読本 - 1変数 - / 小林昭七:裳華房, 2007					
<b>メッセージ</b>					
数学は講義を聴いただけですぐに理解出来るようなインスタントな学問ではありません。「数学に王道なし」「読書百遍意自ずから通ず」等の諺にあるように、学問のなかでも数学は地道な忍耐と努力があってはじめてその魅力が味わえるものです。まず、「紙と鉛筆」を用意して講義の復習(できれば予習も)と演習問題に取り組みましょう。					
<b>連絡先</b>					
E-mail : shima@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月11~12	<b>時間割コード</b>	1001411006
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Bの再履修クラス			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	栗山 憲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
再履修クラスであるので、すでに1年次に学習したことを、演習中心におこなう。					
<b>授業の一般目標</b>					
物理・工学で必要な1変数の微積分の計算の習得および概念の理解					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験90点,小テスト10点で評価する。					
<b>教科書</b>					
微分積分概論(1年次に使用した教科書)					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
研究室:工学部本館2階					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜13:00~17:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1001411005
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	B の再履修クラス			<b>学年</b>	2 ~
<b>担当教員</b>	牧野 哲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
数学Iの理解が不十分であった点はどこかを明らかにし、学習を補填する。					
<b>授業の一般目標</b>					
数学Iの理解が不十分であった点はどこかを明らかにし、学習を補填する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 数学Iの理解が不十分であった点はどこかを明らかにし、学習を補填する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習への参加度、試験の結果を総合して判定する。					
<b>教科書</b>					
未定					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月11~12,水9~10	<b>時間割コード</b>	1001411007
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Aの再履修クラス			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	柳原 宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この数学Iでは、微分積分学の学習をします。微分積分学は理工系学問の基礎であり、内容は多岐にわたりますが、この数学Iの講義では、特に一変数関数の微分と積分や関連する概念の理解と、様々な計算方法を習得しましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数の微分積分学の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 三角関数、指数関数、対数関数など、初等関数の基本的な取り扱いや計算が正確にできる。 2. 微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の微分法、テイラー展開など、微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。 3. 定積分、不定積分の基本的な概念を理解した上で、部分積分の公式など、積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 例えば問題を解くために、どのような式変形を行えば良いか、自分で判断して計算が行えること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者が多数の場合は中間試験と期末試験で評価するが、レポート等も加味することがある。少数の場合は、演習を特に重視し、実際に解いた問題の数を点数化する。出席については欠格条件とする。また再試験も必要ならば行う。					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
hiroshi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001411012
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Bの4クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	安藤 良文			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この数学Ⅰでは、微分積分学の学習をします。微分積分学は理工系学問の基礎であり、内容は多岐にわたりますが、この数学Ⅰの講義では、特に一変数関数の微分と積分や関連する概念の理解と、様々な計算方法を習得しましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数の微分積分学の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 三角関数、指数関数、対数関数など初等関数の基本的な取り扱い、微分法、合成関数の微分法、テイラー展開、定積分、不定積分の基本的な概念、部分積分の公式など、積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> どこまで理解できていて、どこから理解が曖昧あるいは理解できないかを判断できること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 理解が曖昧であるかあるいは理解できない部分を繰り返して考えて理解するに至る意欲を持つこと。					
<b>態度の観点:</b> 数学の勉学にいよく持つ態度を有すること。					
<b>技能・表現の観点:</b> 数学を他者にわかるように、正確に丁寧に可能な限り簡潔に記述する技能を高める。					
<b>その他の観点:</b> 数学そのものを思考する感性を磨くこと。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として中間試験と期末試験だけで評価するが、小テストも加味することがある。出席については欠格条件とする					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋・加藤: サイエンス社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5~8	<b>時間割コード</b>	1001411016
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Aの2クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	井上 透			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この数学Iでは、微分積分学の学習をします。微分積分学は理工系学問の基礎であり、内容は多岐にわたりますが、この数学Iの講義では、特に一変数関数の微分と積分や関連する概念の理解と、様々な計算方法を学習をします。また毎回、講義で学んだ事柄に関する演習問題を解くことにより、講義内容の理解の補助、計算・論証の実行力の向上を目指します。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数の微分積分学の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目標として、数学の基礎力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 三角関数、指数関数、対数関数など、初等関数の基本的な取り扱いや計算が正確にできる。 2. 微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の微分法、テイラー展開など、微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。 3. 定積分、不定積分の基本的な概念を理解した上で、部分積分の公式など、積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 例えば問題を解くために、どのような式変形を行えば良いか、自分で判断して計算が行えること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習・宿題(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)による評価					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
外国語の修得, 楽器の演奏, 各種スポーツ, 碁, 将棋, プログラミング, 更にはマ - ジャン, PS3でさえ, 面白さを感じ始めるまでには日頃からの長いトレ - ニングを必要とするのと同様, 大学の数学もトレ - ニングを積んでいけば面白さを感じるようになるでしょう。奥の深いものほど最初は取っ付きにくい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	水5-8	時間割コード	1001411018
開設科目名	数学 [Mathematics I]			単位	2単位
対象学生	Aの4クラス			学年	1~
担当教員	大城 紀代市			区分	
<b>授業の概要</b>					
理工系学問の基礎である微分積分学,特に一変数関数の微分法と積分法を講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
授業の一般目標					
一変数微分積分学の基本的概念を理解し,その計算法を習得する。微分法・積分法,合成関数の微分公式,部分積分の公式など,微分積分学における様々な概念や手法を理解し,習熟する。さらに,それらの理解と習熟のもとに,理系分野における様々な問題への数学的解決能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:					
1. 三角関数,逆三角関数,指数関数,対数関数等の初等関数が正確に理解できる。					
2. 合成関数の微分公式,積の微分公式,逆関数の微分公式等の基本的微分公式を用いて,初等関数の微分計算が正しく行える。					
3. 置換積分法,部分積分法を用いて,初等関数の不定積分,定積分の計算が正しく行える。					
思考・判断の観点:					
1. 関数の連続・微分可能・積分可能における極限の概念について正しく認識できる。					
2. 平均値の定理,テーラー展開,微分積分学の基本定理等,微分積分学における重要事項について,論理的思考および判断ができる。					
関心・意欲の観点:					
1. 微分法を,様々な関数や曲線の表示に活用できる。					
2. 関数の級数展開やニュートン法を,数値計算に活用できる。					
3. 積分法を,曲線の長さ計算や図形の面積計算に活用できる。					
態度の観点:					
授業に出席し,宿題等提出物を期限内に提出できる。					
技能・表現の観点:					
レポート,答案等を,丁寧かつ整理された表現で作成できる					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
微分積分概要 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社,1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-8	<b>時間割コード</b>	1001411015
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Aの1クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	柏木 孝夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この数学Iでは、微分積分学の学習をします。微分積分学は理工系学問の基礎であり、内容は多岐にわたりますが、この数学Iの講義では、特に一変数関数の微分と積分や関連する概念の理解と、様々な計算方法を習得しましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数の微分積分学の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 三角関数、指数関数、対数関数など、初等関数の基本的な取り扱いや計算が正確にできる。 2. 微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の微分法、テイラー展開など、微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。 3. 定積分、不定積分の基本的な概念を理解した上で、部分積分の公式など、積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 例えば問題を解くために、どのような式変形を行えば良いか、自分で判断して計算が行えること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として中間試験と期末試験だけで評価するが、レポート等も加味することがある。出席については欠格条件とする。また再試験等はいりません。					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
わからないことなど遠慮なく質問等してください					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001411009
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Bの1クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	加藤 崇雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この数学Iでは、微分積分学の学習をします。微分積分学は理工系学問の基礎であり、内容は多岐にわたりますが、この数学Iの講義では、特に一変数関数の微分と積分や関連する概念の理解と、様々な計算方法を習得しましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数の微分積分学の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 三角関数、指数関数、対数関数など、初等関数の基本的な取り扱いや計算が正確にできる。 2. 微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の微分法、テイラー展開など、微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。 3. 定積分、不定積分の基本的な概念を理解した上で、部分積分の公式など、積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 例えば問題を解くために、どのような式変形を行えば良いか、自分で判断して計算が行えること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
多人数の場合は中間試験と期末試験で評価するが、レポート等も加味することがある。少人数の場合は、毎回の演習への参加度を解いた問題の数を点数化する。出席については欠格条件とする。また再試験も必要ならば行う。					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社,1998年					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001411011
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Bの3クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	久田見 守			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この数学Iでは、微分積分学の学習をします。微分積分学は理工系学問の基礎であり、内容は多岐にわたりますが、この数学Iの講義では、特に一変数関数の微分と積分や関連する概念の理解と、様々な計算方法を習得しましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数の微分積分学の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 三角関数、指数関数、対数関数など、初等関数の基本的な取り扱いや計算が正確にできる。 2. 微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の微分法、テイラー展開など、微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。 3. 定積分、不定積分の基本的な概念を理解した上で、部分積分の公式など、積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 例えば問題を解くために、どのような式変形を行えば良いか、自分で判断して計算が行えること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として中間試験と期末試験及び演習で評価するが、レポート等も加味することがある。出席については欠格条件とする。					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
出席は講義受講の最低条件である。					
<b>連絡先</b>					
理学部本館1階129室(研究室)					
<b>オフィスアワー</b>					
適宜					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-8	<b>時間割コード</b>	1001411017
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Aの3クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	笹井 理恵			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
理工系学問の基礎である微分積分学を学習します。この講義では、特に一変数関数の微分と積分や関連する概念の理解と、様々な計算方法を習得しましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数の微分積分学の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 三角関数、指数関数、対数関数など初等関数の基本的な取り扱いや計算が正確にできる。 2. 微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の微分法、テイラー展開などを正確に使用することができる。 3. 定積分、不定積分の基本的な概念を理解した上で、部分積分の公式など積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 問題を解くために、どのような式変形を行えば良いか、自分で判断して計算が行えること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として中間試験と期末試験だけで評価するが、レポート等も加味することもある。出席については欠格条件とする。また、再試験も必要ならば行う。					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣、加藤幹雄:サイエンス社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001411008
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	教			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	佐藤 好久			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
微分積分学は、理工系の分野で基本となる数学である。微分積分学にはその根底に厳密な基礎理論があり、専門の微分積分学ではその基礎理論を論じながら講義をすることになる。この科目では、専門の微分積分学を学ぶための準備とその入門的な内容を解説するために、高等学校の微分積分学を復習しながら、微分積分の基本的な考え方を理解させる。また、簡単な極限の計算や微分の計算が正確にできるように指導する。					
<b>授業の一般目標</b>					
関数の概念を正しく理解し、極限や微分の基本的な考え方を説明することができる。また、簡単な極限の計算や微分の計算が正確にできる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 関数の概念を正しく理解している。極限や微分の基本的な考え方を説明することができる。数列や関数の極限が正しく計算できる。微分の計算が正確にできるように指導する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 計算のための基本的性質を正しく利用することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 予習・復習をしている。レポートを提出する。					
<b>態度の観点:</b> 授業に遅刻することなく出席し、授業中の質問に応えることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 計算が正確にできる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートや授業中の小テスト(基本的に毎回実施します)、中間試験・期末試験などにより、総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
微分と積分(岡本和夫の起訴数学シリーズ) / 岡本和夫:実教出版, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001411010
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Bの2クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	重永 和男			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この数学Iでは、微分積分学の学習をします。微分積分学は理工系学問の基礎であり、内容は多岐にわたりますが、この数学Iの講義では、特に一変数関数の微分と積分や関連する概念の理解と、様々な計算方法を習得しましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数の微分積分学の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 この科目は確かな基礎力を有する技術者を旨として、数学、自然科学、情報処理の基礎力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 三角関数、指数関数、対数関数など、初等関数の基本的な取り扱いや計算が正確にできる。 2. 微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の微分法、テイラー展開など、微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。 3. 定積分、不定積分の基本的な概念を理解した上で、部分積分の公式など、積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 例えば問題を解くために、どのような式変形を行えば良いか、自分で判断して計算が行えること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として中間試験と期末試験だけで評価するが、レポート等も加味することがある。出席については欠格条件とする。また再試験も必要ならば行う。					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001411014
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Bの6クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	片山 壽男			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この数学 では、微分積分学を学習します。</p> <p>微分積分学は、理工系学問の基礎であり、内容は多岐にわたりますが、この数学 の講義では、特に一変数関数の微分と積分や関連する概念の理解と、様々な計算方法を習得します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>一変数の微分積分学の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。</p> <p>確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 三角関数, 指数関数, 対数関数など, 初等関数の基本的な取り扱いや計算が正確にできる。</p> <p>2. 微分法の基本的な概念を理解した上で, 合成関数の微分法, テーラー展開など. 微分法の基本的な方法を習熟し, 正確に使用することができる。</p> <p>3. 定積分, 不定積分の基本的な方法に習熟し, 正確に使用することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 例えば, 問題を解くために, どのような式変形を行えばよいか, 自分で判断して計算が行えること。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 数学の必要性を再認識し, より高度な数学に興味を持つことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>主として中間試験と期末試験で評価するが、レポートや演習等も加味する。</p> <p>出席については欠格条件とする。また再試験も必要ならば行う。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>すべての問題を自分で解いてみよう。毎回の講義を十分復習して疑問を残さないようにしよう。</p> <p>数式処理ソフトを使えば、講義で扱う多くの問題が簡単に解決します。</p> <p>数学が誕生し、発展してきた歴史にも関心を示し、ニュートンやベルヌーイ、オイラー、ガウスなど大数学者たちのドラマを知ることで「数学とは何か」が見えてくるでしょう。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001411013
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Bの5クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮澤 康行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この数学Iでは、微分積分学の学習をします。微分積分学は理工系学問の基礎であり、内容は多岐にわたりますが、この数学Iの講義では、特に一変数関数の微分と積分や関連する概念の理解と、様々な計算方法を習得しましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数の微分積分学の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 三角関数、指数関数、対数関数など、初等関数の基本的な取り扱いや計算が正確にできる。 2. 微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の微分法、テイラー展開など、微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。 3. 定積分、不定積分の基本的な概念を理解した上で、部分積分の公式など、積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 問題を解くために、どのような式変形を行えば良いか、自分で判断して計算が行える。					
<b>技能・表現の観点:</b> 試験やレポートにおいて、思考過程を分かりやすく説明・記述できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、レポートで評価する。出席については欠格条件とする。					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
理学部 134 号室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3～4	<b>時間割コード</b>	1001412001
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	社建			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	松野 好雅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>古典力学の基礎を学ぶ。具体例をあげながらニュートンの運動の3法則を説明する。講義は初歩的な事柄から始め、身近な物理現象を多く取り上げることに よ、高校での物理を履修していない学生諸君に対しても十分内容が理解できるよう努める。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1. 運動の3法則、及びその使い方を理解する。  2. 等速円運動、放物運動、単振動等の基本的な運動を理解する。  3. 運動量保存則、角運動量保存則、エネルギー保存則、及びその使い方を理解する。  4. 剛体運動の基礎を理解する。</p> <p>この科目は以下の社会建設工学科の学習・教育目標に対応します。  (A)確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身に着ける。  A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 運動の3法則が理解できる。  2. 種々の保存則が自由自在に使えるようになる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 論理的な思考能力を身につける。  2. 物理的な見方・考え方ができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活において、色々な力学現象に興味を持つ。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間、及び期末試験の2回の試験で評価する。配点は各50%とする。					
<b>教科書</b>					
第3版 基礎物理学 / 原 康夫: 学術図書出版, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習、復習をきちんと行うこと。講義ノートをとること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水 11～12	<b>時間割コード</b>	1001412002
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	宮本 政英			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物理学中の古典力学について、その基礎を学習する。力、質量、運動の表し方や考え方、ニュートンの運動の法則、エネルギーや運動量の保存則などを学び、単純化された実際の運動に適用し定式化する、解析する、得られた数学的な結果を具体的に理解する、これらのことができる能力を養う。授業中の演習や宿題により、理解を確実なものにする。					
<b>授業の一般目標</b>					
1) 力、質量、運動の表し方を習得する。 2) ニュートンの運動法則を理解する。 3) 等速円運動、放物運動、単振動などの基本的で単純化された運動の定式化、解析を実行し、それらの結果の具体的な理解ができる。 4) エネルギー、運動量、角運動量の保存則を理解し、応用する能力を養う。 5) 剛体のつり合い、回転運動の取り扱い方を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 力、質量、運動の表し方と考え方、これらの中にニュートンの運動の法則が成立すること、および、エネルギーや運動量の保存則の基本的な原理を学ぶ。					
<b>思考・判断の観点:</b> ニュートンの運動の法則、エネルギーや運動量の保存則を実際の単純化された運動に適用し定式化し、解析し、数学的な結果を具体的に理解することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 学んだ力学の基礎を実際の現象に適用し、その運動を理論的に理解しようとする意欲を養う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
日常の小テストや宿題等の得点を 30%、試験(中間と期末)の得点を 70%として総合評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
第 3 版 基礎物理学 / 原 康夫: 学術図書出版社, 2006 改訂版 基礎物理学 / 原 康夫: 学術図書出版社, 2003 物理の基礎 / 長岡洋介: 東京数学社 基礎力学 / 永田一清編: サイエンス社					
<b>メッセージ</b>					
授業中に理解を助けるため演習を行うので関数キー付き電卓を常に持参すること。ほぼ毎週いずれかが行われる小テスト、授業内レポート、宿題をきちんとこなして、授業内容の理解を確認する。分からないときには質問する。					
<b>連絡先</b>					
E-Mail miyamoto@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001412004
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	応化			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田澤 輝武			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
自然科学や応用科学の基礎をなす古典力学(ニュートン力学)の基礎知識や基本的概念の基本的事柄について講義します。					
<b>授業の一般目標</b>					
物理学の基礎である古典力学(ニュートン力学)の基礎知識や基本的概念を説明し,物理的な考え方や論理展開の方法を具体的問題を通して身につけるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ニュートン力学の基礎的な概念や法則などの基礎的事項を理解し説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 力学的な自然現象やいろいろな問題について物理的な考え方・方法で分析し計算し説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 力学に関わる日常生活の中の現象や宇宙や地球上の自然現象を古典力学に立脚して考え,理解することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業の中で小テストを適宜実施し,解答に誤りがある場合は次回にレポートとして提出してもらいます。これは皆さんの理解度をチェックするためのものです。評価については,以下に示す割合で総合的に評価します。なお,出席が所定の回数に満たない人は履修放棄した者とみなします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習,復習をしっかりとやっていることを前提にします。授業には必ず出席してください。質問や意見は遠慮なく直接言ってください。					
<b>連絡先</b>					
理学部207号室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001412005
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	機械			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田之上 健一郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物理学の中でも最も基礎的な古典力学について説明する。高校までの物理と違い、微分・積分を使って、論理的に見通し良く、基本原理からさまざまな法則が導けることを示す。また、具体的な問題に法則を適用して自分で解く力を養う。					
<b>授業の一般目標</b>					
機械工学の理系基礎および工学基礎分野において、特に物理学 I に関する専門知識、問題解決に活用できる能力を身につけることを目標とする。物理学の中でも最も基礎的な古典力学を学習する。ニュートンの運動方程式を自分でたてることができ、微分・積分を使って、具体的な問題を論理的に自分で解く力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 質点と剛体の概念が理解できる					
2. フリーボディダイアグラムを作成できる					
3. ニュートンの運動法則を理解できる					
4. 物体の力のつり合いの式をたてられる					
5. 物体の運動の数学的記述ができる(運動方程式をたてられる)					
6. 物体の運動の基本的な解析ができる					
7. 保存則の有効性を理解できる					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 運動方程式から物体の運動を予測できる					
2. 物体の運動をグラフに表して議論できる					
3. 身の回りの機械など物体の運動を力学的観点から思考することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 講義内容を自ら学ぶ準備(予習)をする					
2. なぜ? という素朴な疑問に対して積極的に質問できる					
3. 日常生活の中で機械等の運動に関心を持つ					
<b>態度の観点:</b> 1. 物体の運動を支配する法則の単純さに気付き、力学の面白さを味わうことができる					
2. 力学に関する疑問に対して積極的に討論できる					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基本的な微分を行うことができる					
2. 基本的な積分を行うことができる					
3. 基本的なベクトル演算を行うことができる					
4. 基本的な三角関数を使うことができる					
5. 基本的な微分方程式を解くことができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートをもとに力学の知識・理解および解析に必要な数学力を評価する。また、小テストによる予習確認により意欲を、レポートにより思考・判断の評価を行う。4回以上欠席した学生には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
理工系のための力学の基礎 / 宇佐美誠二ほか: 講談社サイエンティフィック, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
シラバスを参考に教科書の関連箇所の予習をして講義に臨むこと。また、講義後は講義内容の理解度を自己評価し、復習のうえ次回の講義に臨むこと。 機械工学の基礎 = (1) 熱力学, (2) 材料力学, (3) 流体工学, (4) 機械力学, (5) 制御工学, これらのさらに基礎となるのが力学である。専門科目受講までしっかりと基礎を身に付けておくこと。					
<b>連絡先</b>					
tano@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001412003
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	循環			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	原 哲彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物理学の基礎である古典力学を学びます。中心となる内容は次の3つです。 (1)位置、速度、加速度が微分・積分によって互いに結ばれていること。 (2)運動方程式(微分方程式)を解くことによって物体がどのように運動するかがわかること。 (3)運動量、運動エネルギー、仕事、位置エネルギー、角運動量などの重要な物理量についての法則が運動の3法則から自然に導き出せること。					
<b>授業の一般目標</b>					
運動の記述 運動の法則、基本的な物理量について、初等的な微分・積分を使って論理的に見通しよく理解することが目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 力学と数学(ベクトル、微分・積分など)の関係の理解 力学的エネルギーなどの基礎的物物理量の概念・導入の理解 <b>思考・判断の観点:</b> 簡単な例題への力学の適用ができること <b>関心・意欲の観点:</b> いくつかの日常の現象や自然現象を力学的に理解することができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
少なくとも3回のレポート提出を要求する。その結果最高30%のプラス評価を与える。授業の最終回に持ち込み可の予備テストを行うが、総合評価へは基本的には組み入れない。					
<b>教科書</b>					
改訂版第3版 基礎物理学 / 原 康夫: 学術図書出版, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習・復習をし、練習問題を自分で解く努力をするようにしてください。質問は歓迎します					
<b>連絡先</b>					
tetuhara@c-able.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001412006
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	感性			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	三木 俊克			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001412011
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	看護 検査			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	石川 敏三, 篠原 紀幸			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
力、電磁気、波動、熱などについて基礎事項を解説する。これらの内容は医学検査、生理学など医学の各分野、化学、運動学などの基礎でもある。まずは生活の中で見られる現象と関連づけて具体的なイメージを身につけること、それから具体的な問題を分析して自分で解く力を養うことを目的とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
全ての医学系専門科目の基礎でもあるので、					
1. 生活の中で見られる現象と関連させて具体的なイメージを身につける					
2. 具体的な問題を自分で解く					
3. 2.のためには、ただ法則を適用すればよいだけではない。問題を分析し理解することも求められる。すなわち科学的に考えることができることも目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 単位、次元の理解する					
2. 力、運動 仕事/エネルギーの概念とそれらの関係を理解する					
3. 波動の特徴、性質を理解する					
4. 熱現象の特徴、性質を理解する					
5. 電気/磁気の性質、それらの応用(電気回路)の性質を理解する					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 単位、次元の計算ができる					
2. 力、運動 仕事/エネルギーの関係を数式化して現象を説明できる					
3. 波動現象を数式化して説明できる					
4. 熱現象を数式などにより説明できる					
5. 各種電気回路の特徴を示すことができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験およびレポート、小テストにより総合的に判断する					
<b>教科書</b>					
視覚でとらえるフォトサイエンス物理図録: 数研出版, 2009					
<b>参考書</b>					
看護: 医療技術者のためのたのしい物理 / 中野正博: 日本理工出版会, 2007					
新物理学: シップマン自然科学入門 / James T. Shipman 著 勝守寛, 吉福康郎 訳: 学術図書出版社, 1998					
医歯薬系の物理学 からだと生命の基礎原理 / 林一ほか: 丸善, 2002					
医歯系の物理学 / 赤野松太郎ほか: 東京教学社, 2002					
臨床検査学講座物理学 / 嶋津秀昭ほか: 医歯薬出版, 2005					
<b>メッセージ</b>					
専門課程では高校レベルの物理学の諸知識はすべて身につけていることを前提に授業が行われる。しかしこれらを学ぶ機会はこの科目の他はないので、しっかり勉強してほしい。					
<b>連絡先</b>					
nshino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001412007
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	物情			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	繁岡 透			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物理学の基礎である古典力学の入門編です。物理量の定義をしっかりと理解することからはじめます。それを基に、物理現象を数式で表現し、数学的演算によって理論思考を展開する方法を学習します。					
<b>授業の一般目標</b>					
古典力学の基礎をしっかりと理解する。 物理現象を表現する数学的な方法を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 古典力学の基礎を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 力学現象を数式等を使って考えことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 身近な力学現象に関心を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 物理現象を数学的な方法で表せる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績, 小テスト, レポートなどにより総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
物理の基礎 / 長岡洋介: 東京教学社, 2000					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
理学部228号室, 内線5674					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金3~4	<b>時間割コード</b>	1001412008
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(数))・情報(表現)・理(物(部除))・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	西井 淳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>古典力学(ニュートン力学)は目に見える大きさの物体の運動を扱います。そこには、位置、速度、加速度、運動エネルギー、位置エネルギー、運動量、角運動量といった物理に不可欠な概念が現れます。また、いくつかの基本法則から、いろいろな物理量の成り立つ関係を導く過程は、物理の議論の進め方のお手本となるものです。ただ、話を聞くだけでは身につかないので、演習問題を自分で解くことが大事です。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>物理学の基礎である古典力学(ニュートン力学)を学ぶ。運動の記述、運動の法則などについて、微分積分やベクトルなどの数学的手段を活用して、論理的に見通し良く理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 微分によって位置から速度、加速度が導ける。また、積分によって加速度から速度、位置が導ける。  2. ベクトルを使って物理量を記述できる。  3. 運動の三法則を説明できる。  4. 簡単な運動方程式(放物運動、円運動、単振動など)を解くことができ、その結果を説明できる。  5. 運動量、角運動量、仕事、位置エネルギー、運動エネルギー、力学的エネルギーを説明できる。  6. 運動量保存則、エネルギー保存則を適用して運動を調べることができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. いくつかの概念を組み合わせて、具体的な問題の解決法を考え、判断することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>ほぼ毎回小テストを行い、その平均点を100点満点に換算した点数が70点以上のものは期末試験を免除し、小テストによる評点を成績とする。期末試験を受けた者については「小テスト30点満点+期末試験70点満点」の総点が60点以上のものを合格とする。ただし、小テストを7割以上受けていることを単位認定の欠格条件とする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>物理学はいかに創られたか 上巻 / A. アインシュタイン, I. インフェルト:岩波文庫, 1939  物理学法則はいかにして発見されたか / R. P. ファインマン:ダイヤモンド社, 1968  ファインマンさん、力学を語る / D. L. グッドスティーン, J. R. グッドスティーン:岩波書店, 1996</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>第1回は、同じ時間帯に開かれる物理学I(繁岡先生担当)のクラスとの間で人数調整をする予定です。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>総合研究棟303号室  E-mail: nishii@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001412009
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	知能			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	原 哲彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物理学の基礎である古典力学を学びます。中心となる内容は次の3つです。 (1)位置、速度、加速度が微分・積分によって互いに結ばれていること。 (2)運動方程式(微分方程式)を解くことによって物体がどのように運動するかがわかること。 (3)運動量、運動エネルギー、仕事、位置エネルギー、角運動量などの重要な物理量についての法則が運動の3法則から自然に導き出せること。					
<b>授業の一般目標</b>					
運動の記述 運動の法則、基本的な物理量について、初等的な微分・積分を使って論理的に見通しよく理解することが目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 力学と数学(ベクトル、微分・積分など)の関係の理解 力学的エネルギーなどの基礎的物物理量の概念・導入の理解 <b>思考・判断の観点:</b> 簡単な例題への力学の適用ができること <b>関心・意欲の観点:</b> いくつかの日常の現象や自然現象を力学的に理解することができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
少なくとも3回のレポート提出を要求する。その結果最高30%のプラス評価を与える。授業の最終回に持ち込み可の予備テストを行うが、総合評価へは基本的には組み入れない。					
<b>教科書</b>					
改訂版第3版 基礎物理学 / 原 康夫: 学術図書出版, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習・復習をし、練習問題を自分で解く努力をするようにしてください。質問は歓迎します					
<b>連絡先</b>					
tetuhara@c-able.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金3~4	<b>時間割コード</b>	1001412012
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(数))・情報(表現)・理(物(部除))・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	増山 和子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
自然科学を学ぶ上での基礎的知識として、また、さまざまな電子機械・機器を使いこなす上での基礎的素養として、物理学は不可欠である。この講義では、物理学のなかで最も基礎的な力学を中心に学ぶ。高校物理を履修していない学生も理解できるよう基礎的な事柄から出発し、可能な限り例題を取り扱い、直感的、具体的な理解が得られるようにする。					
<b>授業の一般目標</b>					
力、運動、ニュートンの運動方程式、保存則、質点系などの力学の基礎的な概念を学び、力学現象に対する理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 力学の原理を使って現象を説明できる。					
1) 速度、加速度、力の釣り合いを理解できる。					
2) 運動方程式をたて、解くことができる。					
3) 放物運動、等速円運動、万有引力、振動現象を理解できる。					
4) エネルギー保存則、運動量保存則を理解できる。					
5) 質点系の力学を理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自然現象について物理的見方で分析し、説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 科学を学ぶ上で力学の役割に関心を持ち、問題意識を高めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 科学技術や社会への力学の役割・影響について主体的に考えることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験 80%、宿題・授業外レポート 20%として総合評価する。なお、出席が7割に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
第3版 基礎物理学 / 原 康夫: 学術図書出版, 2006					
<b>参考書</b>					
物理の基礎 / 長岡 洋介: 東京教学社, 2000					
<b>メッセージ</b>					
理解を深めるため、各単元で演習問題があるので、授業に出席して例題を解き、それ以外の問題は復習し、レポート課題をきちんと提出すること。 演習問題の解答はWEBで公開するので、解答を確認し、理解を深めること。 ベクトルや微積分など、数学の基礎を理解しておくこと。					
<b>連絡先</b>					
E-mail : masiyama@yamaguchi-u.ac.jp HP : <a href="http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/masiyama/butsuri1/">http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/masiyama/butsuri1/</a>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金3～4	<b>時間割コード</b>	1001412013
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(数))・情報(表現)・理(物(除去))・農			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	山本 惺史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
古典力学(ニュートン力学)の基本的な事柄を概説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
物理学の基礎である古典力学(ニュートン力学)を学ぶ。運動の記述、運動の法則などについて、微分・積分やベクトルなどの数学的手段を活用して理解する。また、日常生活の中の現象や自然現象を古典力学の立場から理解する態度を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 微分によって位置から速度,加速度が導ける。また,積分によって加速度から速度,位置が導ける。					
2. ベクトルを使って物理量を記述できる。					
3. 運動の三法則を説明できる。					
4. 簡単な運動方程式(放物運動,円運動,単振動など)を解くことができ,その結果を説明できる。					
5. 運動量,角運動量,仕事,位置エネルギー,運動エネルギー,力学的エネルギーを説明できる。					
6. 運動量保存則,角運動量保存則,エネルギー保存則を適用して運動を調べることができる。					
7. 剛体がつり合うための条件を求められる。					
8. 固定軸のまわりの剛体の回転運動の方程式を解くことができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> いくつかの概念を組み合わせて,具体的な問題を調べることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活の中の現象や自然現象を古典力学の立場から理解することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1. 授業の中で小テストを随時行う。					
2. レポートを1回課す。これは欠格条件とする。					
3. 期末試験を実施する。					
<b>教科書</b>					
第3版 基礎物理学 / 原康夫: 学術図書出版, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
質問や意見など遠慮無く。					
<b>連絡先</b>					
電話 0838-27-0228					
e-mail seiy@haginet.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001412010
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	医学			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	山本 隆			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物理学の中でも、最も早く完成した古典力学(ニュートン力学)の基礎的な概念とその取り扱いを、例題を通して教授する。					
<b>授業の一般目標</b>					
古典力学は、自然科学の雛形で、もっとも美しく数学的に纏め上げられている。この講義では、古典力学が如何に豊富な内容を有し、自然界の森羅万象をうまく説明しているかを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 物体の運動を記述する数学的方法に慣れる。					
2. 運動方程式とその意味を理解する。					
3. 運動方程式から導かれる一般的な原理を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 古典力学が内包する広い世界とその可能性を感じ取る。					
2. その法則性を、様々な問題に自ら応用する力を養う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
力学 / 川村清・裳華房, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 5-6	<b>時間割コード</b>	1001412014
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics I]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	電気			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	荻原 千聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
力学は物理学の中で最も基礎的な学問の一つであり、広い範囲の関連分野に力学の手法や結果が応用されている。講義では力学を中心とし、重要な概念と法則を丁寧に説明する。例を豊富に使うことで法則とその使い方の理解を深め、法則・現象に適切なイメージが描けるようにする。					
<b>授業の一般目標</b>					
1) 運動の表し方を学ぶ。 2) 運動法則を理解する。 3) 円運動・放物線運動・抵抗力がある場合の運動の定式化ができる。 4) 振動現象の解析を学ぶ。 5) エネルギー・運動量・角運動量の保存則を理解する。 6) 剛体の釣り合い・回転運動の取り扱いを学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ニュートン力学が日常的現象の解析に強力な武器である事の認識					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の結果により評価する					
<b>教科書</b>					
改訂版基礎物理学 / 原康夫: 学術図書出版社, 1996					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
荻原 Tel. 85-9811 ogihara@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7～10	<b>時間割コード</b>	1001421001
<b>開設科目名</b>	物理学実験A [Physics Laboratory A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生化・地球・獣医			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	笠野 裕修, 岸本 祐子 [KISHIMOTO Yuko]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>力学、光学、熱力学、電磁気学等の分野に渡って設定された基礎的な実験テーマについて、自らの手で実験を行い、測定結果の処理、解析をし、その結果について考察を加え、実験レポートを作成する力を養うことを目指している。</p> <p>実験は原則として二人一組で行い、また、実験は授業計画の所に記したA～Mの13テーマをローテーション表(ガイダンス後に掲示)に従い、毎回1テーマずつ行うという形で実施する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な物理現象を実験的に検証することを通して、物理学に対する基礎知識を習得し、深く物理現象を理解する。</li> <li>・実験に必要な基礎的な技術や解析方法を修得し、レポートにまとめて報告する力を養う。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 各測定量から物理法則に従って物理定数等が計算できる。</p> <p>2. 実験方法に従い正確に測定できる。</p> <p>3. 行った実験について レポートとして報告できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 実験結果の妥当性が判断できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 共同者と協力して実験を遂行できる。</p> <p>2. 当日の実験結果について簡単に報告できる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 1. 基本的な測定器具の調整及びそれを用いた測定ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>単位の認定は、出席率が80%以上であること、実施したテーマの全レポートが提出されていること。出席していてもレポートが提出されなければ、そのテーマは欠席と見なす。授業態度・授業への参加度は、実験中の見回り及び当日の実験結果の報告等を通して判断する。</p>					
<b>教科書</b>					
基礎物理学実験 / 山口大学「共通教育」物理学実験テキスト編集グループ・東京教学社、2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
次回のテーマについての予習を必ずしておき、手際よく実験を行うこと。					
<b>連絡先</b>					
理学部本館南棟 239 号室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金5-8	<b>時間割コード</b>	1001422101
<b>開設科目名</b>	物理学実験B [Physics Laboratory B]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	機械・応化・循環			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	嶋村 修二, 野田 淳二, 新銀 秀徳, 吉本 憲正, 倉井 聡, 増山 博行, 増山 和子, 岸本 祐子 [KISHIMOTO Yuko]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物理学実験では、力学・熱力学・光学・電磁気学などの物理学の基礎分野から選択される6テーマについて実験を行う。実験データを整理して考察したレポートを作成し提出する。					
<b>授業の一般目標</b>					
基本的な物理現象を測定する実験装置の使い方に慣れ、その現象の原理を理解する。また、実験データを整理して考察する実験レポートの書き方を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 実験を行った物理現象について簡単に説明できる。 2. 用いた実験装置の使用方法について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 実験を行った物理現象について考察できる。 2. 用いた実験装置の測定原理について考察できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 身のまわりの物理現象に関心をもつ。 2. 不思議な現象を観察し実験を行う意欲をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 1. 真面目な態度で実験を行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 実験装置を正しく取り扱うことができる。 2. 系統的で論理的な実験レポートを書くことができる。					
<b>その他の観点:</b> 1. 共同実験者と協力して実験を進めることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
実験態度と実験レポートの内容により成績を評価する。単位取得のためには、全ての(6テーマの)実験を行い、全ての実験レポートを提出して受理されなければならない。提出されたレポートの内容が不十分な場合は、再提出を指導される。やむを得ない事情により欠席する場合は、事前に担当教員に相談すること。					
<b>教科書</b>					
基礎物理学実験 / 山口大学「共通教育」物理学実験テキスト編集グループ: 東京教学社, 2009					
<b>参考書</b>					
理科年表, 「物理学I・II」のテキスト					
<b>メッセージ</b>					
実験を行う前日までに、テキストに目を通して予習をすること。 また、物理学実験ホームページ: <a href="http://w-phys.liberal.yamaguchi-u.ac.jp/">http://w-phys.liberal.yamaguchi-u.ac.jp/</a> から Web コンテンツを見て、実験装置などについて予習すること。					
<b>連絡先</b>					
連絡先: 共通教育係					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001413001
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	知能			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	川俣 純			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
化学は生体をも含めた全ての物質の成り立ちと状態、物質の変化や新しい物質の創製を研究する学問です。この講義では、反応熱、およびその温度・圧力との関係、化学平衡、物質の三態など身近なことを話題とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
高校の化学で学習した「物質の状態」、「化学反応と熱」、「反応の早さと平衡」などの概念を系統立てて習得し、日常体験する様々な現象に化学がどのように関与しているのかを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 物質の状態の変化や化学変化を熱力学的観点から説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 一見無関係で羅列的に見える物質の特徴を、物理学的背景に立脚して体系的に説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活で体験する事象と化学との関係に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 化学は暗記の学問ではなく、体系的かつ系統的な理解が重要であることに気づき、化学のおもしろさを感じることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 化学的な現象や変化を論理的に記述できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1.中間試験・期末試験の成績を重視する。2.小テスト・授業内レポートに現れた思考力や関心・学習態度も評価に加味する。					
<b>教科書</b>					
入門 化学熱力学 / 松永義夫: 朝倉書店, 2001					
<b>参考書</b>					
相律と状態図 / 吉岡甲子郎: 共立出版, 1984					
現代の物理化学 / 松永義夫: 三共出版, 1990					
<b>メッセージ</b>					
単に知識を覚えるのではなく、化学という学問の根底を流れる考え方を学ぶ姿勢で授業に参加して下さい。					
<b>連絡先</b>					
理学部 434 号室					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001413002
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	循環			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	松崎 浩司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
モルの概念、原子の構造、電子配置、化学結合、分子の形、化学平衡、酸・塩基、酸化・還元など物理化学の初歩の内容である。高校での化学とのつながりに注意を払い、専門科目に必要な基本的事項について講述する。配布演習問題や小テストなどを通じて、自学を促しながら進める。					
<b>授業の一般目標</b>					
無機化学や物理化学の基礎を習熟し、実際の身の回りの現象を化学的(科学的)に説明できることを目標とする。また高校の化学から専門科目への橋渡しとしての必要な概念も習得させる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.モルや濃度などの化学基本単位を理解する。2.原子構造、化学結合や分子の形など物質の基本構造について理解する。3.酸塩基反応や酸化還元反応などの化学反応の基礎について理解する。4.化学熱力学、化学平衡や反応速度など化学反応の物理的な解釈について理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 次の事項を初歩的に理解し説明できること。1.原子での電子配置の違いによる化学的性質の違。2.分子には三次元的な構造を持っているが、なぜそのようになるのか。3.種々の化学現象の物理化学的な説明					
<b>関心・意欲の観点:</b> 化学とは、物質の構造や反応を原子や分子という目で理解し説明する学問である。よって、身の回りの現象に興味を持ちそのメカニズムをこの講義から得た知識で理解し、説明できる関心と意欲。また専門科目での更に高度な考え方へのステップとしても取り組む意欲					
<b>態度の観点:</b> 入学時は、学生の勉強の仕方が受験勉強である。単なる暗記ではなく、物事の本質を理解する能力が必要である。					
<b>技能・表現の観点:</b> 高校生とは違う、大学生らしく物事を説明できる能力。					
<b>その他の観点:</b> 勉強のための勉強ではなく、将来に向かってなぜ勉強しているのかを意識させる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験と出席状況で総合評価する。毎回小テストを行うが、これは講義内容の理解度を把握するとともに、学生への自学を促すものである。よって評価の対象とはしないが、出席状況の判断に用いる。					
<b>教科書</b>					
大学生の化学(第2版) / 大野淳吉: 三共出版, 2005					
<b>参考書</b>					
物質化学の基礎 / 多賀光彦・中村 博・吉田 登: 三共出版, 1993					
化学の基礎 / 竹内敬人: 岩波書店, 1996					
化学が見えてくる / 岩本悦郎 江頭直義 柿並孝明 日色和夫 三苦好治: 三共出版, 2005					
<b>メッセージ</b>					
化学は循環環境工学科の学生にとっては専門科目の基礎として重要な科目であり、高校での履修から専門科目への橋渡しの役割をしています。よって、単なる暗記ではなく、内容をよく理解し物の本質が見抜けるような態度で取り組んでもらいたい。					
<b>連絡先</b>					
E-mail: ko-matsu@c-able.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001413003
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	感性			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	和泉 研二, 村上 清文			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
授業の前半は、原子の構造、電子配置、化学結合、分子の形、中和反応や酸化還元反応などの溶液内反応、無機化合物の性質など、無機化学分野を中心とした基礎的な講義を行う。後半は、化学および種々の化学現象をより深く理解するために不可欠であり、あらゆる発展領域にとって重要な化学平衡概念を、具体的事例を交えて講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
化学を学ぶための基礎を身につけた上で、物質の性質やその変化を物理化学的な観点から理解し、より発展的な学習への導入を図ることを目標とする。基本的概念の把握に力点を置く。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 原子、電子配置、分子、化学結合、中和、酸化還元など化学の基礎的事項を理解し、説明できる。物質およびその変化に関する基礎法則を理解し、説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 物質を原子、分子のレベルでとらえることができる。 基礎的知識を問題解決に応用することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分の専門と物理化学的法則の関わりに関心を持つ。 諸法則が日常生活に密接に関わっていることに、関心をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に出席し、内容の理解に努めることができる。 原子、分子の世界や物質変化の法則性など、化学の内容に面白さを感じることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 専門用語を適切に使用し、化学概念を的確に表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験およびレポートを総合的に判断して評価する。欠席が多い場合は不可とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
基礎化学熱力学 / E.B.Smith: 化学同人, 1992					
<b>メッセージ</b>					
前半は基礎的な事項を中心に行いますが、後半からは基礎を踏まえた上で、さらに段階的な理解が必要になります。どのような勉強でも積み重ねが重要です。受身にならず自主的、積極的に取り組んで下さい。					
<b>連絡先</b>					
教育学部各教員研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜午後					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001413004
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生機 獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	右田 たい子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
化学は物質そのものを対象とする学問であり、あらゆる物質についてその本性を統一的に理解することを目的としている。この講義では化学の基本的な事項について学び、物質の成り立ちと性質の関係、変化の仕方を決める要因などについて考え、物質を科学の原理に立って理解する、とはどういうことなのかを学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
物質を理解するための基本事項である、原子軌道の概念、電子配置、元素の違いについて理解する。また物質質量、濃度などの定量的取り扱いのための基本原理を理解し、計算方法を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 物質質量、濃度について理解できる					
元素の性質と周期律について理解できる					
化学反応の考え方の初歩が理解できる					
反応速度論の初歩が理解できる					
酸・塩基反応、酸化還元反応などに関して平衡論の基礎が理解できる					
イオン結合、共有結合、金属結合などの化学結合の基礎が理解できる					
<b>思考・判断の観点:</b> 化学と人間生活のかかわりが判断できる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 身の回りの事象を化学的思考で理解しようとする					
他の自然科学系基礎科目の授業内容との関連付けができる					
<b>態度の観点:</b> きちんと講義に出席し、内容を理解しようと努め、不明な点は進んで調査・独学しさらに質問する					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
知識・理解を測る定期試験、中間試験、小テストを主とし、思考・判断を測る演習・レポートを従とする。					
<b>教科書</b>					
ライフサイエンス基礎科学 / 青島均・右田たい子:化学同人, 2008					
<b>参考書</b>					
アトキンス物理化学の基礎 / PW Atkins, MJ Clugston 著、千原、稲葉訳:東京化学同人					
<b>メッセージ</b>					
化学Iは、化学の基礎部分に当たるので、生命科学を学ぶすべての学生にとって、必修の内容を含んでいる。高年次のさまざまな専門科目の履修の基礎となるので、まじめに取り組むこと。					
<b>連絡先</b>					
ctmigita@yamaguchi-u.ac.jp					
研究室: 農学部本館南 4 階 420					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 15:00-17:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001413005
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(数))・情報(表現)・理(生化除く)・生資			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	青島 均			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
原子の電子配置を説明した上で、原子が集まってどのように分子が作られるか述べる。次に分子の間の平衡、酸化還元、反応速度などについても述べる。					
<b>授業の一般目標</b>					
私たちを取り巻く物質を物理化学的法則に基づいて、新しい観点からより深く理解することを目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 原子、電子配置、分子、化学結合、基礎的法則を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 生活で使われているものについて、原子、分子のレベルでとらえることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分の専門と物理化学的法則の関わりに関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 物質の変化と法則に面白さを感じる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 物理化学法則をエクセルでシミュレーションする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート、小テストなど50%、試験50%					
<b>教科書</b>					
ライフサイエンス基礎化学 / 青島・右田:化学同人, 2000					
<b>参考書</b>					
香りの科学はどこまで解明されたか / 青島均:フレグランスジャーナル社, 2007					
<b>メッセージ</b>					
単位をとるためでなく、社会に出たときに対応できる実力をつけるという目的を自覚して、自分から積極的に学んでください。					
<b>連絡先</b>					
理学部本館北棟403号室、電話:933-5762,E-mail:aoshima@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
いつでも対応しますが、会議などの用事がありますから、前もって電話、e-mail などでご連絡は打差愛。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001413006
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	応化			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	酒多 喜久			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>大学で化学を学ぶに当たって、高等学校で学習した内容を復習しながら発展させ、必要な事項を効果的に習得し、専門分野を学ぶための基礎的な知識を確実に身につけるための、化学の基礎的な重要事項について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>高等学校までに学んだ化学についての知識を確実にし、さらに大学に学ぶ化学の基本的な考え方や概念を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 物質の構成粒子と物質量について理解を深める。2. 元素の性質と周期律表の見方を理解する。3. 化学結合と分子構造についての基礎的な考え方を理解する。4. 酸、塩基および酸化、還元概念を理解し、用語を定義できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 化学現象を量的な観点から議論することが出来る。2. 原子や分子の構造を厳密に議論することができる。3. 化学平衡という観点で様々な反応を論じることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 専門科目として化学を学ぶ上での基盤を形成し、専門の学習に意欲的に取り組めるようになる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験と講義中の小テスト、演習の結果を総合的に評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>基礎固め 化学 / 小島一光:化学同人, 2002</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>yoshi-sa(at)yamaguchi-u.ac.jp((at)=@), 常盤総合研究棟 6F 616</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>随時</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001413007
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	社建			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	中野 昭夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>化学の基礎原理(化学基礎及び物理化学分野)を中心に学ぶ。分子の成り立ちを原子のレベルから学ぶ。さらに化学物質の状態や、変化(反応)を理解する。又、健康や環境と化学の関わりについて講義する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>この世の中の全ての物が、化学物質であることを再認識し、身の回りのさまざまな現象を分子レベルで理解して戴く。そのため専門知識として必要となる基礎化学を、化学Ⅰと化学Ⅱを通じて理解して戴くことを最終目標とするが、本講義(化学I)では、分子理解の基礎になる原子構造と化学の基礎原理を理解して戴く。より健康的でかつ地球に優しい生き方を志して戴く為、化学へ興味を持って戴くことを主目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>原子の構造や元素の性質と周期律について理解できる。化学結合の種類が区別出来る。物質の量、濃度について理解できる。化学反応の考え方の初歩が理解できる。反応速度論の初歩が理解できる。化学反応と反応熱の関係が理解できる。熱力学の初歩が理解できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>化学と人間生活(特に食、健康、環境、専門領域等)の関わりが判断出来る。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>自分の専門分野だけでなく、この世の全ての物が化学物質であることを意識し、分子レベルで物事を理解するよう心がける。</p> <p><b>態度の観点:</b>授業に心から興味が持てるようになる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>科学的レポートの書き方に習熟する(レポートの提出)。</p> <p><b>その他の観点:</b>科学分野の研究発表法についてもヒントを得る(Power point の使用法)。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席点(出席回数)、平常点(毎回の試験結果)、レポート(数回分)、及び期末試験を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
出席を重視します。最終講義でノートチェックを行います。期末試験にノート、テキスト持ち込み可とします。					
<b>連絡先</b>					
Email;a-nakano@toua-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木 11～12	<b>時間割コード</b>	1001413008
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	2年(看護・検査)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	田中 経彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
検査における分析化学の基本概念を習得する。共通教育で化学 を修得できなかった保健学科学生が対象である。					
<b>授業の一般目標</b>					
検査における分析化学の基本概念を習得する					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 検査における分析化学の基本概念を習得する					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
本試験90%出席点10%です。小試験は公正さを担保できないので加えません。					
<b>教科書</b>					
ベーシック分析化学 / 高木誠:化学同人, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
分析化学は、検査技術の基礎の一つですのでしっかり理解してください					
<b>連絡先</b>					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp 0836-22-2857(内線 2857)					
<b>オフィスアワー</b>					
随時予約のこと					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001413010
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	電気			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	伊原 靖二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>(1) 化学の基礎: 化学の歴史、原子、周期律、化学結合の基礎概念及び物質の状態と物理的性質を学ぶ。</p> <p>(2) 化学反応: 反応速度、平衡状態及び電離平衡の概念を質量作用の法則及び速度論から学び、物質の化学現象を理解する。</p> <p>(3) 物質の性質: 熱力学的性質、化学結合、酸・塩基の概念及び電気化学の基礎を学ぶ。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>化学は特に物質の変化すなわち現象を理解する学問であり、我々の身近な現象は化学と深くかかわりをもっている。この化学 I においてはこれらの化学現象を理解するための基礎的概念及び理論について、物理化学の立場から体系的に学習する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 原子・分子とは何か及び化学結合の概念を説明出来る。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 物質の状態や化学現象を物理化学の観点から理解する。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 将来の自分の専門分野と化学がどのように関わっているかを理解する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業中はよく集中して、理解度を深めるよう努力する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>(1) 授業の終わりに、10 回程度講義の理解度の判定のため、小テストを行う。</p> <p>(2) 期末試験の実施</p> <p>(3) 出席点の重視</p> <p>以上を下記の観点・割合で成績を総合的に判定する。</p>					
<b>教科書</b>					
理工系一般化学 / 篠崎 開 他, 東京化学社, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。					
<b>連絡先</b>					
ihara@yamaguchi-pu.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001413009
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	機械			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	本多 謙介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
化学は、物質の構造や性質、およびその変化を研究することを目的とした学問であり、無機化学、有機化学、物理化学の三分野に分けられる。本講では、化学の基本概念を総括して学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
物質の性質、構造、反応性を支配する基本法則を系統的に理解することを目指す。このため、小テスト・演習をまじえながら講義を行なう。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 化学の基本的用語の意味を正しく理解し、物質の構造や化学反応のメカニズムを理解できるようになること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 演習問題を解くことができるように、スキルアップすること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 身の回りの事象・材料を科学的な視野でみることができるようになること。					
<b>態度の観点:</b> 他人に迷惑かけることなく、意欲的に講義を受けることができるようになること。					
<b>技能・表現の観点:</b> 正しい化学用語を用いて、解答をかけるようになること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
講義の出席状況、小テスト・定期試験および修学態度を基準として総合的に評価を行う。					
<b>教科書</b>					
わかりやすい基礎化学 材料・環境・生体へのアプローチ , / 神戸 哲: 講談社サイエンティフィック, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
講義内容を理解するためには、予習・復習を欠かさず行うこと。特に、教科書の章末問題を解くことによって化学の基本知識の理解を深めて欲しい。					
<b>連絡先</b>					
理学部本館 4階 441 号室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金5-6	<b>時間割コード</b>	1001413011
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医学			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	小崎 紳一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>化学では物質を主な研究対象とするので、化学は物質科学の中心となる学問分野といえる。</p> <p>この講義では、大学で学ぶ理科系学生にとり共通して必要と考えられる現代化学の基礎をとりあげていく。各回の講義内容は、物質の構造、性質(物性)、変化(反応)を理解するうえで基礎となる概念や理論について、おおむね教科書の順序にしたがって下記のようにする予定である。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
物質の構造・性質・変化についての基礎的な理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>(1) 原子の電子配置や元素の周期律 (2) イオン結合、金属結合、共有結合、配位結合などの化学結合の基礎 (3) 反応速度論の初歩 (4) 酸・塩基反応などに関する化学平衡の基礎 について理解を深める。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験の結果で評価する。詳細は、授業にて説明する。					
<b>教科書</b>					
ライフサイエンス 基礎化学 / 青島 右田:化学同人,2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜 午後					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 11～12	<b>時間割コード</b>	1001413012
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	竹中 俊介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義の工学系学生の基礎科目である。本講義の受講生の多くは化学は専門外と考えるかもしれないが、将来的には大気・土壌汚染、地球温暖化等の環境問題、環境に付随した高機能材料の研究開発に携わることとなる。これらの研究開発には化学、物理、工学、医学等、様々な高度な知識が要求される。特に環境問題、物質の機能性を論ずるうえで、化学の知識は必要不可欠である。本講義では高度な化学知識を教授することは出来ないが、将来的に、これらの課題を多少とも理解できる程度の化学の基礎知識を習得をめざした講義内容とする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本講義は化学のみならず、様々な専門分野を目指す学生諸君が将来の技術者として必要な化学基礎知識を習得しすることを目的として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子・分子の概念</li> <li>・化学結合における電子の役割、物質の化学式、化学反応の表現</li> <li>・物質の状態と熱力学の関係</li> <li>・無機化合物、有機化合物の機能性発現と原子、分子の性質</li> <li>・身近な物質、機能性材料の原子、分子レベルでの考察</li> </ul> <p>等を習得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>原子の電子構造を説明できる。  化学結合の種類と特長を説明できる。  結晶構造の種類と構造を説明できる。  理想気体の式及び希薄溶液の式を用いて計算ができる。  無機化合物を元素の族により分類し、特長と反応を説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>化学結合を電子の働きで説明できる。  物質や状態の変化について、原子・分子レベルからの見方・考え方ができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>講義は教科書から離れた身の回りの事象を例にした応用的内容を多く取り入れるので、教科書にある基礎部分の内容は十分な予習、復習により理解しておく。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>講義ではしばしば講義内容に関連するレポート提出を求めらるので、論文、レポートの書き方、フォーマット、日本語の表現を学習する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間試験と定期試験、及びレポートを以下の観点・割合で評価する。					
<b>教科書</b>					
現代化学の基礎－物質科学へばアプローチ / 渡辺 啓:サイエンス社, 1995					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
本講義は多くの受講生諸君にとっては必修単位となります。取りこぼしの無いよう、留意してください。					
<b>連絡先</b>					
<p>講師は非常勤の為、工学部には常駐しない。  但し、下記に連絡をとれば、随時対応可能である。  応用化学科 研究室(本館北側4階)  森田由紀 電話 (0836) 85-9643 e-mail: y-morita@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木 11～12	<b>時間割コード</b>	1001413101
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	2年(看護・検査)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	田中 経彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医療と検査技術一般の理解に必要な有機化学知識を理解する。共通教育で化学 を修得できなかった保健学科学生が対象である。					
<b>授業の一般目標</b>					
医療と検査技術一般の理解に必要な有機化学知識を理解する					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 医療と検査技術一般の理解に必要な有機化学知識を理解する					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
本試験と出席点で決めます。小テストは公平さを担保できないので評価に加えません。					
<b>教科書</b>					
生命科学のための基礎シリーズ / 太田博道他; 実教出版, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
基礎ですからしっかり理解し覚えてください					
<b>連絡先</b>					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp 22-2857 ube					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001413102
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	看護			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田中 経彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
将来の看護師として理解が必要な化学知識全般を学ぶ。難しい試験はしないので是非受講してください。					
<b>授業の一般目標</b>					
看護師として必須な化学知識を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 看護師として必須な化学知識が分かる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
本試験90%出席点10%で評価する。					
<b>教科書</b>					
コ・メディカル領域の化学 健康・医療と化学のかかわり / 津波古充朝: 三共出版, 1996					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp 2857					
<b>オフィスアワー</b>					
前期金曜日昼休み					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	金 7～10	<b>時間割コード</b>	1001413103
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	検査			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	田中 経彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医療と検査技術一般の理解に必要な有機化学知識を理解する					
<b>授業の一般目標</b>					
医療と検査技術一般の理解に必要な有機化学知識を理解する					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 医療と検査技術一般の理解に必要な有機化学知識を理解する					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
本試験と出席点で決めます。小テストは公平さを担保できないので評価に加えません。					
<b>教科書</b>					
生命科学のための基礎シリーズ化学 / 太田博道他: 化学同人, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
基礎ですからしっかり理解し覚えてください					
<b>連絡先</b>					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp 22-2857 ube					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月9～10	<b>時間割コード</b>	1001419001
<b>開設科目名</b>	化学入門1 [Introduction to Chemistry 1]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	笠谷 和男			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
化学に関しての理解が不十分な学生に対して、その専門にかかわらず化学の基礎知識の重要性を認識させるとともに、将来化学について関係しなければならなくなった時に勉強するための初歩の知識についてやさしく解説する。化学の基礎的な知識と理論を中心とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
大学で工学を学ぶ者にとって、化学の基礎知識の重要性を認識すること、化学を勉強するに当たっての導入的な初歩の知識を理解すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 工学を学ぶものにとって、化学の知識の必要性を理解する。化学の導入的な初歩の知識である物質、原子、分子の成り立ち、物質の状態について理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 物質を扱う時の、物質の化学的性質について調査・検討をすることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験および講義中の小試験により総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録 / 数研出版編集部: 数研出版, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
教科書を良く読んで欲しい。多くの写真や図を見ているだけでも理解が進む。 復習をすること。					
<b>連絡先</b>					
教員室: 工学部本館 4 階北側(廊下側のドアを開け、内側の部屋のドアをノックすること) Email: kasatani@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
在室時はいつでも質問可					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月9~10	<b>時間割コード</b>	1001419101
<b>開設科目名</b>	化学入門2 [Introduction to Chemistry 2]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	笠谷 和男			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
化学Ⅰ、化学Ⅱを受講するために必要な基礎知識を講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
化学結合を理解する。 簡単な有機化合物の種類と性質を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ・ 化学結合の種類を列挙し、その特徴を説明できる。 ・ 有機化合物を官能基により分類でき、それぞれの特徴を説明できる。 ・ 化学式から異性体の構造式を書ける。 ・ 油脂・炭水化物・蛋白質等の主な物を説明できる。 ・ 高分子化合物の主な物を列挙し、その特徴を説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 小テストに積極的に取り組む。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験(約80%)及び小テスト(約20%)により評価する。2回以上欠席すると単位を認定しない。					
<b>教科書</b>					
視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録/数研出版編集部:数研出版,2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
わかりやすい説明を行うので、遅刻や欠席をせずに全部の説明を聞いて欲しい。					
<b>連絡先</b>					
教員室:工学部本館4階北側(廊下側のドアを開け、内側の部屋のドアをノックすること)					
<b>オフィスアワー</b>					
在室時はいつでも質問可					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-8	<b>時間割コード</b>	1001423001
<b>開設科目名</b>	化学実験A [Chemistry Laboratory A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	物青・地球・生機・獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	村上 良子, 安達 健太, 中野 昭夫, 西口 毅, 横山 和平, 赤壁 善彦, 薬師 寿治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本実験では、有機化学実験、分析化学実験Ⅰ、Ⅱ、物理化学実験、および総合実験の五つの実験から指定された四つを行う。一つの実験は各々三日間で行う。有機化学実験では化粧石けん、色素、ピニロン等の合成を、分析化学実験ではセミクロ定性分析法による金属陽イオンの分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を行う。総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。					
<b>授業の一般目標</b>					
これらの実験を行う過程で、試薬や器具の扱い方を体験し、実験操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に触れるとともに、実験開始までに準備しておくべきこと(フローチャートの作成や問いの答えの記入など)、実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。文献調査も必須である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 物質、反応についての説明ができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 物質の状態や変化を化学式で表現できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分の専門分野と化学とのかかわりに関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 物質の変化に興味を持ち、わからないことは図書を参考にして調べ、レポートにする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 化学実験の技術を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
宿題/授業外レポート = 40~60%					
授業態度や授業への参加度 = 20%未満					
受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 20%未満					
出席 = 40~60%					
<b>教科書</b>					
化学実験テキスト2009年度					
<b>参考書</b>					
現代の生活と物質(4刷)/西口毅著:化学同人,2000					
ライフサイエンス基礎化学/青島均,右田たい子著:化学同人,2000					
セミクロ無機定性分析/林謙次郎,中間碩一郎,鈴木光泰 著:東京化学社,1981					
無機半微量分析(分析ライブラリー / 日本分析化学会編 第2版/松浦二郎,西川勝,栗村芳実:東京化学同人,1978					
<b>メッセージ</b>					
参考書の貸し出しを行っているので、活用して欲しい。					
毎回予習をして実験に臨み、期限までにレポートや課題を提出すること。提出しなれば欠席として処理する。理由のいかんを問わず、3回以上欠席すると成績は不可とする。					
<b>連絡先</b>					
村上良子:理学部437号室 (5736)随時質問に来てください					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金5-8	<b>時間割コード</b>	1001424101
<b>開設科目名</b>	化学実験B [Chemistry Laboratory B]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	機械 応化・循環			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	吉本 誠, 藤井 寛之, 松崎 浩司, 梶原 忠彦, 隅本 倫徳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本実験では、有機化学実験、分析化学実験Ⅰ、Ⅱ、物理化学実験および総合実験の5つの実験から指定された2つを行う。1つの実験は各々3日間で行う。有機化学実験では化粧石けん、色素、ピニロン等の合成、分析化学実験ではセミクロ定性分析法による金属陽イオン分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を行う。また、総合実験では身の回りにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>これらの実験を行う過程で、試薬や器具の扱い方を体験し、実験操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に触れるとともに、実験開始前までに準備しておくべきこと(フローチャートの作成や予習問題の解答など)、実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。文献調査も必須である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>物質、反応についての説明ができる。  <b>思考・判断の観点:</b>物質の状態や変化を化学式で表現できる。  <b>関心・意欲の観点:</b>自分の専門分野と化学とのかわりに関心を持つ。  <b>態度の観点:</b>物質の変化に興味を持ち、わからないことは図書を参考にして調べ、レポートにする。  <b>技能・表現の観点:</b>化学実験の技術を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>予習(フローチャートの作成)、実験、レポートにより評価する。なお2回以上の欠席で不可とする。課題やレポートは次週火曜日の13時までに化学実験室入口の提出ボックスに提出すること。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>セミクロ無機化学定性分析 / 林・中間・鈴木: 東京化学社, 1981  現代の生活と物質 / 西口 毅: 化学同人, 1996  物理化学の基礎 / 柴田茂雄: 共立出版, 1999  ライフサイエンス基礎化学 / 青島均・右田たい子: 化学同人, 2000</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>他人のレポートを写した場合は、両者とも不可にします。実験には多くの労力とお金をかけています。実験は社会で働くときと同じように、準備、作業、調査、報告を含んでいます。自分でやることにより、社会に出たときの力となります。毎回、何かひとつでも喜び(楽しみ)を見出しながら実験をしてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>複数の教員で分担して実験を行いますので、実験に関する質問は担当となった教員に直接質問するか、事務室の実験担当の方を通して質問してください。レポートの提出などの事務的なことは、事務室の実験担当の方に聞いてください。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月1~2	<b>時間割コード</b>	1001414001
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山本 芳実			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本講義は、連続して開講される生物学Ⅱとともに基礎的生物学を提供するものである。生物学Ⅰは、高校生物学のレベルの完成をめざす。入学時に高校生物学を未履修または未完了のレベルの学生を対象とする。履修の始めに小テスト等でレベルの振り分けを行い異なる履修指導を行うこともある。本講義では特に、生命の基本原理解、遺伝、発生、生物の多様性を中心に学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
地球上における生物による物質変換の概略を理解し、地球環境における生物の重要性を認識する。生物のメカニズムに精巧さに触れ、それに驚きを感じることで、生命に対する探究心を養う。生命現象の基礎的理解をとおして、現存する生物の多様性について認識を新たにし、同時にこの多様な生物が驚くべき共通性をもっていることを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。2) 真核生物の細胞内器官についてその構造と主な機能を説明できる。3) 生き物の生活環境と世代交代について理解する。4) 遺伝と変異に関する基礎知識を説明出来る。5) いろんな生き物の進化系統分類上の位置を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1) 生態系について理解し、人類による自然破壊について認識する。2) 生き物を時間の産物であることを認識する。3) 生き物を進化の産物であることを認識する。4) 生物学の基礎知識を関連する専門科目(獣医学)に応用できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1) 日常生活で出会う生物に興味をもち、その生態、生活環、分類、生態系における役割等に関心をもつ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト等でレベル分けを行い、レポート、期末テスト等で異なる成績評価をおこなう。全体としては、高校レベルの生物学の修了を成績評価の基準にする。					
<b>教科書</b>					
生物図録 視覚でとらえるフォトサイエンス / 鈴木孝仁: 数研出版, 2004					
<b>参考書</b>					
生きもののからくり(改訂版) / 中村・裕村・山本編: 培風館, 2006					
<b>メッセージ</b>					
本講義は、獣医学科の学生の生命科学理解のための入門的、補助的講義である。					
<b>連絡先</b>					
農学部 202					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	木1~2	時間割コード	1001414003
開設科目名	生物学 [Biology I]			単位	2単位
対象学生	工			学年	1~
担当教員	祐村 稔子			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>ヒトを含めすべての生物は「細胞」という共通の基本単位からできています。一方、細胞を構成する「部品」は生体分子の集合体で生きてはいません。本講義では古典的生物学の枠に捕われず、物理学、化学を含む自然科学全般から、生命を理解する事を目標に、生体分子から細胞、そして、生命がいかに構築され、いかなる原理で機能しているのかについて分子レベルで解説します。加えて、近年驚くべき進歩をみせるバイオテクノロジーの基礎知識に関しても、身近な話題を中心に学習します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>古典的生物学の枠にとらわれず、物理学、化学、地球科学を含む自然科学全般の知識をもって生命を理解することを目標としています。生体分子から細胞がいかに構築され、いかなる原理で機能するかを概ね理解し、加えて、バイオテクノロジーの基礎知識と、その現況を学習、考察していただきます。そして、近年の生命科学の進歩において、何が有益で何が危険なのか、科学的根拠に基づき自ら判断する力を養います。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>生体分子から生命がいかに構築され、いかなる原理で機能するかについて、概ね理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>生命科学関連の身近な話題や諸問題について、科学的に理解、自ら考察できること。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>生命科学関連の身近な話題や諸問題に日常的に興味、関心を持ち続ける事。</p> <p><b>態度の観点:</b>授業中、私語は慎んでください。おしゃべりしたい人は出てこなくていいです。自分で勉強して下さい。私語の止まない場合は受講取り消します。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>生命科学関連の話題および諸問題について、科学的に理解、考察し、自分自身の考えをわかりやすく十分に表現できる事。</p> <p><b>その他の観点:</b>ヒトも、地球上の多種多様な生物のなかの一種で、みな共存しているという感覚をもっといただければと思います。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験 80%</p> <p>授業外(ホームワーク)レポート 20%</p>					
<b>教科書</b>					
生きもののからくり / 中村、祐村、山本 編:培風館, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>知的好奇心を鍛えよう! 教科枠にとらわれず広い興味を持つよう! 時間を大切にしよう(講義も試験も有効に)! 高校までの生物の予備知識は問いませんので、好奇心と意欲を持って生命科学に親しみたいとお考えのみなさんの受講をお待ちしています。</p>					
<b>連絡先</b>					
ご質問、その他は、discoideum@yahoo.co.jp までメールでお願いします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001414002
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	検査工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	渡部 省二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
主に高等学校で生物学を履修していない学生を対象として、生物学の全体像を把握することを目的とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
生物の多様性について学び、この多様な生物をいかにして整理、分類するか、それぞれの生物の構造がどうなっているのか、どのような機能をもっているのか、について習得する。そして、この多様な生物が、その基本的な営みにおいて驚くべき共通性をもっていることを理解し、生命の神秘を感じ取る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 細胞の構造と機能について基礎知識を修得する。					
各種生物の発生と発達および体のつくりの特徴について理解する。					
生物の進化と分類学の基本的考え方を理解する。					
生物のエネルギー獲得と代謝生理について基礎知識を修得する。					
遺伝のしくみについて基礎知識を修得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 生物の多様化と生物の生き残り戦略について考え、自分の意見をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 予習、復習をし、まじめに授業に取り組む。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
*期末試験を行う。					
*授業外レポート(宿題)を課す(未提出の場合は単位を与えない)。ただし、提出した場合でも課題にまじめに取り組んでいないレポートは未提出と判定することもあり得る。また、全く同じレポートが二人から提出された場合は双方とも未提出とする。					
*出席が10回に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
生きものからくり / 中村和行他編:培風館,2006					
<b>参考書</b>					
サイエンスビュー 生物総合資料 / 長野 敬:実教出版,2007					
<b>メッセージ</b>					
講義の資料はホームページに掲載されているので参照すること。					
URL は、					
<a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menu/biology.htm">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menu/biology.htm</a>					
わからないことをわからないままにしておかず、すぐに質問すること。					
メールによる質問も可。					
<b>連絡先</b>					
shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp					
0836-22-2830					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001414101
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(生資・生機)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	真野 純一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>生物が「生きている」状態とは、それ以外の状態とどのように違うのだろうか？生命の維持のために細胞は絶えず周囲(環境)からエネルギーと物質を取り込み、老廃物を排泄している。これを代謝という。取り込まれたエネルギーは細胞の中でアデノシン三リン酸(ATP)の形で蓄えられ、さまざまな生命活動に利用される。この授業では、細胞がATPを作るしくみの解説を中心として、化学的な観点から、生物が地球環境の中で生きている状態を理解することをめざす。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>生物とは何か、を「生きている状態とは？」という問いとして考えていく。生物個体と環境との間のエネルギーと物質の流れをもとに「生きている状態」を理解することをめざす。内容は主として生化学であり、細胞がエネルギー通貨であるATPをどのように栄養分から作り出すか、を学ぶ。また、生命が環境とつながり、他の生命や宇宙によって支えられていることを学ぶ。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>糖からATPにいたるエネルギー変換の概要を理解する。また、光合成での光エネルギーからATPまでのエネルギー変換過程の概要を理解する。物質変換、エネルギー変換における酵素の意義を理解する。環境と生物との間の物質とエネルギーのやりとりの概要を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>エネルギー代謝があらゆる細胞に不可欠の生化学過程であることを深く理解し、その基礎的知識をもとに、多様な生命現象を理解することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>生物の「生きている」姿を理解するために、化学や地球科学などに広く興味を持つこと。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験により評価する。出席数6割以下は欠格(成績評価を行わない)とする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>授業の最初に毎時間小テストをしますので、必ず前回の授業の復習をしてきて下さい。高校レベルの化学の知識があることが望ましいが、わからない点は説明するので授業をさえぎってでも積極的に質問すること。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>mano@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>平日午後1時半~5時</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~10	<b>時間割コード</b>	1001425001
<b>開設科目名</b>	生物学実験 [Biology Laboratory]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生化・物情			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	渡辺 雅夫, 岩橋 好昭, 上野 秀一, 原田 由美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>いろいろな方法で生命現象を科学的に研究していく態度や基礎的な知識の修得を目指し、解剖学、細胞組織学、生理学、生化学、生態学などの分野にわたる実験実習を行い、毎回レポート作成する。</p> <p>毎回の実験の目的、方法については、プリントを配布して説明を行うほか、視聴覚機器を通じて資料を提示して経験密度を高めてもらう予定である。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
これらの実験を行うなかで機器や器具の基本的な扱い方、観察・研究の姿勢、実験結果のまとめ方、レポート作成の仕方を修得することを目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 生物顕微鏡の使い方を理解する。2. 顕微鏡標本の作成法を理解する。3. 無菌操作の基礎を理解する。4. アミノ酸、タンパク質の定性分析を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 細胞、組織、器官について説明できる。2. 染色体について説明できる。2. 生物指標により河川の水質判断ができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 生物の構造、機能に対する関心を広げる。2. 観察の視点を養う。</p> <p><b>態度の観点:</b> 1. 安全に実験を進められる。2. 科学的な態度で生物に接することができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 1. 生物顕微鏡が扱える。2. 各実験項目で使う器具が扱える。3. スケッチ、レポートの作成ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回のスケッチ、レポートの評価(宿題、学習課題を含む)および定期試験(理解度テスト)の成績を下記のような割合で合計し、総合評価とする。遅刻や欠席は減点対象とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>毎回、授業時間のはじめに説明をするので、遅刻はしないように。</p> <p>欠席する場合、欠席した場合は、必ず担当教員に連絡すること。</p>					
<b>連絡先</b>					
渡辺: 理学部3号館113室、Eメール: masao.w@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
渡辺: 随時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~10	<b>時間割コード</b>	1001425002
<b>開設科目名</b>	生物学実験 [Biology Laboratory]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生資			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田中 秀平, 伊藤 真一, 山内 直樹, 執行 正義, 小林 淳, 竹松 葉子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
生物に関わる学問分野では様々な生き物を教育研究に用い、それを通じて地球上の生命全体に関わる学問の進展に寄与しています。新入生諸君は今それらの入り口にいます。諸君がこれから教育を受けていく学問分野の多くは、実験を行い確かめ新たな問題点を発見していく実証の科学です。ここで行う実験は、これから農業教育を受けていくに当たって、あらかじめ触れておくの良いと思われることからです。					
<b>授業の一般目標</b>					
本実験は、生物の形態、発育、体内成分、代謝生理および分子遺伝の教育を受けるのに必要な基本的実験手法を修得し、これらの実験を通じて生命現象の科学的アプローチの仕方を会得することを目的としています。実験は微生物、昆虫、植物について行います。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 微生物、昆虫、植物の各実験の対象および手法について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 実験結果について考察することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 生物に関心を持つとともに、生命現象のメカニズムや応用について強い関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 実験に積極的に取り組む。					
<b>技能・表現の観点:</b> 実験の基本的な手技を実行できる。 実験結果をレポートにまとめることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席回数、レポート、実験中の態度などを総合して評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
白衣着用のこと。 携帯電話の電源をOFFにしておくこと。実験中は携帯電話を使用しないこと。 最初に説明をするので遅刻しないこと。 実験終了後は実験に使用した物や消しゴムのかすなどを残さないこと。丸イスを実験台にのせること。					
<b>連絡先</b>					
田中: 農学部3F(331号室)					
<b>オフィスアワー</b>					
田中: 毎週月曜日 12:00-17:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月1~2	<b>時間割コード</b>	1001415002
<b>開設科目名</b>	地球科学 [Earth Sciences I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	池田 攻			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
地震波の伝播と地球の内部構造、重力、水圏、気圏、宇宙圏の状態、マグマの発生とその分化、火成岩の風化と堆積岩、プレートテクトニクスと変成岩、造岩鉱物等について知識を深める。更に、地下資源やエネルギー - 資源の産状、自然災害や地球環境の問題について理解を深める。最後に、化石を通して地球の歴史について学び、人類の将来について考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
1.地球の大きさと内部構造を理解する。 2.岩石の成因と造岩鉱物を理解する。 3.金属非金属資源・エネルギー - 資源について理解する。 4.自然災害や環境問題について理解する。 5.地球の歴史と化石について理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.地球の誕生から現在までの変化を化石を念頭に理解できる。 2.岩石の成因と種類が理解できる。 3.資源の成因について理解できる。 4.自然災害と人類の係わりが理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.地球と人間の係わりが理解できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1.自分が住んでいる所の地質環境や地史に興味を持つ。 2.建造物等に使われている石材と岩石の関係について興味を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 1.知らぬ土地に出かけた場合でも、その土地の風景を通じて地質環境に興味を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
最後に行う筆記試験に重点を置いて成績を評価する。 時折出されるレポートの評価は最大で全体評価の20%である。					
<b>教科書</b>					
基礎地球科学 / 西村祐二郎: 朝倉書店, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tel 0836-85-9690 k-ikedai@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特に設けないが、必要であれば午後2時~5時の間を希望(工学部西研究棟9号室)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月1~2	<b>時間割コード</b>	1001415001
<b>開設科目名</b>	地球科学 [Earth Sciences I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教)・(数)・情報(表現)・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	鈴木 賢士			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
私たちの生活は日々の天気変化のみならず、気象災害、大気環境、気候変動などに大きく左右される。気象と気象現象に関わる基礎的な知識、理論に加え、新たな見地や今日的なテーマを含めて解説し、気象予報士一般試験レベルの演習(数回程度)を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
私たちの生活に係る気象現象を身近なものとして感じ、さらには、それらをさまざまな時間・空間スケールの現象として捉え、物理法則の数式表現という手段を用いて理解することを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ・大気の基本方程式を用いて気象現象に関する演習問題を解くことができる。					
・地球上の水循環をさまざまな時空間スケールの現象として説明できる。					
・現在私たちが直面している地球環境問題について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> ・物理学や数学の考え方・手法を気象学に応用できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ・気象現象を日常生活の中での身近なものとして関心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)定期試験を行う(2)授業内外で演習を行う、以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
履修希望者が100名を超えるような場合は抽選を行うので初回に必ず出席すること。					
<b>連絡先</b>					
E-mail: kenjis @yamaguchi-u.ac.jp					
内線 5834					
<b>オフィスアワー</b>					
在室中随時(総合研究棟205号室)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 5-6	<b>時間割コード</b>	1001415003
<b>開設科目名</b>	地球科学 [Earth Sciences I]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	理			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	三浦 保範			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
地球惑星の成り立ちと現状を理解するため、宇宙から始まり銀河、太陽系天体(地球・月・火星・小惑星など)の成り立ちと現状の基礎を、最新知識情報と自然科学的な思考方法によって、これまでと現在そしてこれからの「時間とともに変化する地球」を理解する。					
<b>授業の一般目標</b>					
地球の現在を自然科学的に理解するために、「誕生とともに始まった時間と環境変化」を、宇宙誕生の 137 億年前に遡って、宇宙・銀河・太陽系天体(地球・月・火星・小惑星など)への「変化する様子」を理解し、さらに 46 億年前に誕生した地球の変化の様子などを最新の知識情報と科学的思考により理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 地球の成り立ちと現状への「変化」を理解するために、宇宙・銀河誕生の世界から、私たちの住む太陽系天体(地球や月・火星・小惑星など)の移り変わりを、対比的に科学的な考えで理解すること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 地球の構成物質は、宇宙の誕生に関係したものから構成されているという科学的思考から、広く宇宙次元の時間と物質が変化する宇宙のシステムの中で、身近な地球の「活動変化する惑星」として判断するために、大きく変化する地球のシステムを理解すること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 地球 46 億年の活動変化を理解するとともに、地球の素性を知るには、約 137 億年前に誕生した宇宙の過去から現在までの活動変化が継続していることに関心意欲を持つこと。					
<b>態度の観点:</b> 地球が「毎日でも数億年間隔でも変化する惑星であること」の理解には、地球を含む宇宙の誕生から現在まで広くグローバルに「変化する」ことを理解する態度を持つこと。					
<b>技能・表現の観点:</b> 地球の理解に、「時間変化 物質変化など」を広く理数の知識・技能と論理的思考と表現力が必要であること。					
<b>その他の観点:</b> 自然を対象にした科学は、どんな小さな現象でも、興味と好奇心を持ち、自分自身で考えられるため、できるだけ最新の知識情報データと時間・空間軸を考慮したグローバルな考え方の理解を深めること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験で主な評価(70%)をし、講義期間中の小テスト・受講態度の評価を加味する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
地球・環境・惑星系 / Richard Fifield [編]、土井恒成訳:パリティブックス ポップサイエンス(丸善), 1991					
宇宙のしくみ / 磯部秀三:日本実業出版社, 1999					
地球のしくみ / 浜野洋三:日本実業出版社, 1995					
基礎地球科学 / 西村祐二郎ほか:朝倉書店, 2004					
図説 地球科学 / 杉村新ほか:岩波書店					
<b>メッセージ</b>					
定期試験が主な評価であるが、継続的に毎回の配布資料と小テスト問題を中心に予習・復習をすること					
<b>連絡先</b>					
Tel/Fax:(083)933-5746;					
E-mail: yasmiura@yamaguchi-u.ac					
<b>オフィスアワー</b>					
理学部1号館南棟 343 号室					
木曜日 15:00 ~ 17:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-8	<b>時間割コード</b>	1001426001
<b>開設科目名</b>	地球科学実験 [Earth Sciences Laboratory]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	物青 獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福地 龍郎, 阿部 利弥			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
地球科学は、地球上で発生する現在および過去の自然現象を解明する分野である。この実験では岩石や鉱物、断層や化石などを扱いながら、これらの観察の基礎実習を行う。本実験では室内作業だけでなく野外実習も行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
地球科学に関する基礎的な実験・観察・演習を通して、地球科学に対する理解を深めると共に、室内の実験・観察方法および野外での実習方法を取得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.地形図などの図面から自然現象を読み取ることができる。2. 岩石や鉱物、断層や化石の識別ができる。3.観察事実を適切な用語を用いて記載することができる。4.科学報告文が作成できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.地球科学現象に見られる地域性と一般性を認識することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1.身近な地球科学現象に興味を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 1.測定機器などを正しく用いて、観察・測定事項を記載できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
秋吉台・秋芳洞巡検(土曜日に実施)は実験2回分にカウントする。毎回提出するレポートにより理解度、技能・表現などを、出席と授業中の参加態度から関心・意欲を評価する。なお、3回以上欠席した場合は、単位を認めない(特別の理由がある場合には考慮する)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
実習できる人数が限られるので、受講者制限をする場合があります。また、地球科学を初めて学習する人にも平易な授業を行いますので、分からない時には遠慮せず質問して下さい。					
<b>連絡先</b>					
福地龍郎 研究室:理学部4階449号室 阿部利弥 研究室:理学部4階444号室					
<b>オフィスアワー</b>					
時間がある時にはいつでもOKです。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001351008
<b>開設科目名</b>	医学のための統計学 [Statistics for Medical Sciences]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	看護(1-60)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	市原 清志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>バイオサイエンスにおける統計学の役割と使い方を、身近な例題を解きながら学習する。</p> <p>医学における実験的研究において、その結果の判定で重要となる統計的仮説検定法(有意差検定法)を中心に解説する。検定法は、データの形式によって多種多様であるが、その原理は共通である。それらを分類すると、大きくパラメトリック法とノンパラメトリック法に分かれる。それぞれの原理と使い分けをわかりやすく解説する。</p> <p>また様々な現象の背景となる要因を分析する上で重要となる、分散分析法および相関・回帰分析法の基本的な考え方についても学習する。</p> <p>授業は、さいころや色玉を使った標本抽出実験とコンピュータ・シミュレーションをふんだんに取り入れることで、統計の数理を感覚的に把握できるようにすると共に、多数の演習問題を実際に解いてゆくことで、即実践力が身に付くように工夫している。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学研究における統計学の役割が分かる</li> <li>・仮説(有意差)検定の原理が分かる</li> <li>・パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いとその使い分けが分かる</li> <li>・クロス集計結果の検定とその解釈をできる</li> <li>・相関係数と回帰直線を求められ、分析結果を解釈できる。</li> <li>・統計量の分布型を分析でき、基準範囲を設定できる</li> <li>・統計データの偏りとその原因・解消法を理解している</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 標本抽出の理論を理解し、目的に応じて標本統計量を算出できる</p> <p>統計学の背景にある確率論的な考え方を理解し、各種統計学的仮説検定の原理を理解できる</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 実験や調査データの性質に応じて、正しく統計処理法を使い分けられる</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 統計処理ソフトを使って、基本的な統計処理をおこなえる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>中間テスト・小テスト...30%</p> <p>期末試験...70%</p> <p>(受験には2/3以上の出席が必要)</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>期末試験に対して、再試験は行いませんので、それが不合格ですと単位は出ません。従って、中間テストで問題がある場合には、1~2回の補講を行い、そのようなことのないようにサポートします。</p>					
<b>連絡先</b>					
0836-22-2884					
<b>オフィスアワー</b>					
9:00-18:30					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001351009
<b>開設科目名</b>	医学のための統計学 [Statistics for Medical Sciences]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	看護(61-) 検査			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	市原 清志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>バイオサイエンスにおける統計学の役割と使い方を、身近な例題を解きながら学習する。</p> <p>医学における実験的研究において、その結果の判定で重要となる統計的仮説検定法(有意差検定法)を中心に解説する。検定法は、データの形式によって多種多様であるが、その原理は共通である。それらを分類すると、大きくパラメトリック法とノンパラメトリック法に分かれる。それぞれの原理と使い分けをわかりやすく解説する。</p> <p>また様々な現象の背景となる要因を分析する上で重要となる、分散分析法および相関・回帰分析法の基本的な考え方についても学習する。</p> <p>授業は、さいころや色玉を使った標本抽出実験とコンピュータ・シミュレーションをふんだんに取り入れることで、統計の数理を感覚的に把握できるようにすると共に、多数の演習問題を実際に解いてゆくことで、即実践力が身に付くように工夫している。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学研究における統計学の役割が分かる</li> <li>・仮説(有意差)検定の原理が分かる</li> <li>・パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いとその使い分けが分かる</li> <li>・クロス集計結果の検定とその解釈をできる</li> <li>・相関係数と回帰直線を求められ、分析結果を解釈できる。</li> <li>・統計量の分布型を分析でき、基準範囲を設定できる</li> <li>・統計データの偏りとその原因・解消法を理解している</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 標本抽出の理論を理解し、目的に応じて標本統計量を算出できる</p> <p>統計学の背景にある確率論的な考え方を理解し、各種統計学的仮説検定の原理を理解できる</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 実験や調査データの性質に応じて、正しく統計処理法を使い分けられる</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 統計処理ソフトを使って、基本的な統計処理をおこなえる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>中間テスト・小テスト...30%</p> <p>期末試験...70%</p> <p>(受験には2/3以上の出席が必要)</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>期末試験に対して、再試験は行いませんので、それが不合格ですと単位は出ません。従って、中間テストで問題がある場合には、1~2回の補講を行い、そのようなことのないようにサポートします。</p>					
<b>連絡先</b>					
0836-22-2884					
<b>オフィスアワー</b>					
9:00-18:30					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5~6	<b>時間割コード</b>	1001355001
<b>開設科目名</b>	命と場			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(獣医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大和田 祐二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ヒトは生物界の中で単独に存在するわけではなく、それを取り巻く環境の中で相互依存の関係をもちながら生存している。その環境には、生物学的側面に加えて、ヒトが作り出した社会的側面も密接に関連している。こうした生命と環境としての場との相互関係のなかで人間自身の問題を生物医学的観点から考えていく。同時に我々の生命を支える細胞や臓器などの"命の場"で起こる生体現象や異常(疾患)について理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
ヒトの生物学的側面と環境との関係を理解し、実際の医療現場と最先端の医学研究や医療を概観し、生命と環境としての場との相互関係の中におかれている人間自身の問題を主体的に考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 細胞や人体の構造・機能および病気のメカニズムや治療現場についての概略を理解し、科学的立場から説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 生命現象や医療を、自然現象の1現象とその制御法として捉え、科学的な考察ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 生命現象や医療について関心をもって接し、関連する書物や記事らを理解して読むことができる。					
<b>態度の観点:</b> 生命科学や医学を積極的に実践する態度とその際の倫理的な態度の両者の重要性を説明できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 科学的な立場から、生命現象や医療について自分の意見を論理的に述べるができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
各回の授業の終わりの20分くらいで、その日の授業に関するレポート(テーマは授業担当教員の指示に従う)の作成を各自が行い、いわゆる筆記試験は行わず、毎回のレポート評価と授業態度らを総合して全体の成績評価をする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
筆記試験はいたしませんので、毎回のレポートをしっかりと書けるようによく授業を聞いていて下さい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	月1~4	<b>時間割コード</b>	1001372003
<b>開設科目名</b>	医療環境論1			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	看護2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	星野 晋, 清 俊夫, 松田 昌子, 中澤 淳, 沖田 一彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「医療環境」とは、医療が前提とする自然・社会・文化的条件である。人が病気になるとはどうか、これに応える医療とはどのような行為であるかという問いかけを核に、医学・医療とさまざまな周辺学問領域の橋渡しを試みる。</p> <p>医療環境論1では、Life(生命・生活・人生)、生物学、性差、身体、文化などと病気/健康・医療の関わりについて考える。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>医学・医療の前提をなす自然・社会・文化的環境すなわち「医療環境」の全体像を、Life、地球環境、身体、文化的多様性、社会等の概念・軸を用いて理解し、その中における医学・医療の位置づけを把握し、人間の病と健康をめぐるさまざまな問題を総合的に捉える視点と態度を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 医療と関わる様々な学問分野の視点、基本的用語、概念、方法論を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 各回の授業で示されたテーマについて、自分なりに考察し意見を表明できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 与えられた課題への理解を深めるために、積極的に資料収集できる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 毎回出席し、他者に迷惑をかけない授業姿勢を保つ。小グループ討論やグループ作業の際には、積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 人を引きつけるプレゼンテーションができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出欠を兼ねた毎回の授業に対するコメント(小レポート)により評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
問題意識を持ち、とにかく自分の頭で考えること。そしてそれを皆と語り合うこと。					
<b>連絡先</b>					
hoshino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日午後 医療環境学分野(医療人類学)研究室					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	月1~4	<b>時間割コード</b>	1001372004
<b>開設科目名</b>	医療環境論2			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	看護2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	星野 晋, 清 俊夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「医療環境」とは、医療が前提とする自然・社会・文化的条件である。人が病気になるとはどうか、これに応える医療とはどのような行為であるかという問いかけを核に、医学・医療とさまざまな周辺学問領域の橋渡しを試みる。</p> <p>医療環境論2では、「社会」をキーワードとし、社会的文脈における病者、医療者・患者関係、高齢化社会の保健・医療システムなどについて考える</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>医学・医療の前提をなす自然・社会・文化的環境すなわち「医療環境」の全体像を、Life、地球環境、身体、文化的多様性、社会等の概念・軸を用いて理解し、その中における医学・医療の位置づけを把握し、人間の病と健康をめぐるさまざまな問題を総合的に捉える視点と態度を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 医療と関わる様々な学問分野の視点、基本的用語、概念、方法論を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 各回の授業で示されたテーマについて、あるいは自身の問題意識に基づいて自分なりに考察し意見を表明できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 与えられたあるいは自身が見いだした課題への理解を深めるために、積極的に資料収集、ディスカッション、プレゼンテーションなどができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 毎回出席し、他者に迷惑をかけない授業姿勢を保つ。小グループ討論やグループ作業の際には、積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 資料収集、ディスカッション、プレゼンテーションなどのスキルを身につける</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出欠を兼ねた毎回の授業に対するコメント(小レポート)、小グループによる課題研究およびプレゼンテーション、レポート					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
hoshino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日午後 医療環境学分野(医療人類学)研究室					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001361004
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	応化			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	河合 洋祐			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>機械化、動力化、情報化による急速な生活環境の変化は我々のライフスタイルを変え、日常の身体活動量を大きく減少させた。これは体力を低下させるとともに、食生活の変化と相俟って生活習慣病の危険因子をも招来しやすくしている。一方、適切な運動習慣は体力を向上させ、ある種の病気を予防したり、免疫力を高める可能性も明らかになってきた。今後到来すると予想される高度情報化社会において身体運動の重要性は一層高まるものと考えられる。本講義では運動が身体諸機能に及ぼす影響と健康づくりを可能にする身体運動の意義を概説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>生活習慣と健康の関わりについて学ぶとともに、運動が身体諸機能に及ぼす影響と健康づくりを可能にする身体運動の意義を理解し、健康にとって望ましいライフスタイルの確立を促すことを目的とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b>					
1. 運動中の身体の生理的反応を説明できる。					
2. 習慣的な身体運動が身体諸機能に及ぼす効果を説明できる。					
3. 健康の維持増進を目的とした運動プログラムを作成できる。					
<b>思考・判断の観点:</b>					
1. 運動の種類、強度、持続時間などの違いが身体に及ぼす効果の違いを指摘できる。					
2. 身体的条件の違いやライフステージの変化に対応した適切な運動について指摘できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b>					
1. 健康と運動の関わりに興味を持ち、健康にとって望ましいライフスタイルを確立するために体や心に関する科学的知見を活用することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験を実施する。          期末試験の受験資格は欠席回数2回以内の者とする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001361003
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	機械			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	曾根 涼子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>現代社会では省力化、機械化や自動化によって、日常生活の中で十分なエネルギーの消費、体力を維持するだけの運動量を得ることが難しくなっています。日常的な運動不足がもたらす弊害には、体力の低下や肥満症、心筋梗塞、高血圧症などの運動不足病があげられます。これらを予防するためには、適度な運動を生活習慣の中にとり入れて定期的を実施することが必要ですが、このような運動の実施に当たっては、正しい理論に基づいた運動の実践が必要です。</p> <p>そこで、この授業では、健康に対する身体活動の意義、健康の維持増進のために運動を実践する際の基本的考え方とその具体的実践方法および実践能力を習得することを目的としています。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
健康に対する身体活動の意義、健康の維持増進のために運動を実践する際の基本的考え方とその具体的実践方法および実践能力を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1.健康に対する身体活動の意義について説明できる。</p> <p>2.健康の維持増進のために運動を実践する際の基本的考え方について説明できる。</p> <p>3.健康の維持増進のための運動について、その具体的実践方法について説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1.健康の維持増進のために運動を実践する際の基本的な考え方および実践方法を応用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1.運動と健康の関わりに興味・関心を持ち、自身の生活において問題意識を持つ。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業開始後 20 分までを遅刻とし、2 回遅刻で 1 回欠席として扱います。20 分以上遅れて入室した場合は、欠席扱いとします。単位認定の最低必要条件:2/3 以上出席					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業時には、携帯電話の電源は切って下さい。電卓を使用することがあります。					
<b>連絡先</b>					
教育学部101 - 1					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日13 ~ 15時					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001361001
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	森田 俊介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>中高年者に多く発症する心臓病・糖尿病・脳卒中などの成人病は、別名生活習慣病とも言われ、青年期から中年期にかけての運動不足・偏った食事・過度のストレスなどの生活習慣がその原因の1つとして考えられている。したがって学生諸君が生涯にわたって健康を保持・増進していくためには、適度な運動・バランスのとれた食事・十分な休養に配慮した生活習慣を学生時代から身につけておかなければならない。この授業では、[あなたの日常生活を見直そう]と題して、健康づくりのための運動の基本的な考え方とその実践方法を中心に教授する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
この授業では、健康づくりのための運動と食事の基本的な考え方とその実践方法を学習し、在学中及び卒業後もそれらを活用できるようになることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>健康づくりのための運動の基本的な考え方とその実践方法を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>健康づくりのための運動の基本的な考え方とその実践方法を説明できる。運動不足による身体への影響に対して解説できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>自分の周辺の人々の健康づくりについて関心がある。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(60%)、レポート成績(40%)、出席状況によって総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業開始後の入室は認めない。					
<b>連絡先</b>					
shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期前半	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001361007
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	知能			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮田 浩文			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近代化に伴う生活様式の省力化・機械化は、運動不足状態を作りだし、その健康への影響が心配されるようになってきている。本講義では、運動生理学、バイオメカニクス等の研究成果を、なるべく学生諸君の健康の保持・増進のための実践的な知識となるよう解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
体の基本的構造機能を理解し、それぞれに対する運動や食事の影響を考える。また、どの程度の運動や食事が必要であるかについて、実生活に即して考えられるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 生活習慣病と運動や食事との関係を説明する。 2. 運動に対するの適応変化を説明する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 運動の効果を推察できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 自分の生活の改善点を見出すことができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 分かっていないことに関する疑問を具体的に提示することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末試験の結果と授業中の小レポートの内容を主な評価の対象とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
遅刻、私語、飲食は厳禁					
<b>連絡先</b>					
hiro@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日午前中					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001361006
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	感性循環			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	河合 洋祐			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>機械化、動力化、情報化による急速な生活環境の変化は我々のライフスタイルを変え、日常の身体活動量を大きく減少させた。これは体力を低下させるとともに、食生活の変化と相俟って生活習慣病の危険因子をも招来しやすくしている。一方、適切な運動習慣は体力を向上させ、ある種の病気を予防したり、免疫力を高める可能性も明らかになってきた。今後到来すると予想される高度情報化社会において身体運動の重要性は一層高まるものと考えられる。本講義では運動が身体諸機能に及ぼす影響と健康づくりを可能にする身体運動の意義を概説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>生活習慣と健康の関わりについて学ぶとともに、運動が身体諸機能に及ぼす影響と健康づくりを可能にする身体運動の意義を理解し、健康にとって望ましいライフスタイルの確立を促すことを目的とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 運動中の身体の生理的反応を説明できる。  2. 習慣的な身体運動が身体諸機能に及ぼす効果を説明できる。  3. 健康の維持増進を目的とした運動プログラムを作成できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 運動の種類、強度、持続時間などの違いが身体に及ぼす効果の違いを指摘できる。  2. 身体的条件の違いやライフステージの変化に対応した適切な運動について指摘できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 健康と運動の関わりに興味を持ち、健康にとって望ましいライフスタイルを確立するために体や心に関する科学的知見を活用することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験を実施する。  期末試験の受験資格は欠席回数2回以内の者とする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001361005
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	社建			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	曽根 涼子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>現代社会では省力化、機械化や自動化によって、日常生活の中で十分なエネルギーの消費、体力を維持するだけの運動量を得ることが難しくなっています。日常的な運動不足がもたらす弊害には、体力の低下や肥満症、心筋梗塞、高血圧症などの運動不足病があげられます。これらを予防するためには、適度な運動を生活習慣の中にとり入れて定期的の実施することが必要ですが、このような運動の実施に当たっては、正しい理論に基づいた運動の実践が必要です。</p> <p>そこで、この授業では、健康に対する身体活動の意義、健康の維持増進のために運動を実践する際の基本的考え方とその具体的実践方法および実践能力を習得することを目的としています。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
健康に対する身体活動の意義、健康の維持増進のために運動を実践する際の基本的考え方とその具体的実践方法および実践能力を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.健康に対する身体活動の意義について説明できる。					
2.健康の維持増進のために運動を実践する際の基本的考え方について説明できる。					
3.健康の維持増進のための運動について、その具体的実践方法について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.健康の維持増進のために運動を実践する際の基本的な考え方および実践方法を応用できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1.運動と健康の関わりに興味・関心を持ち、自身の生活において問題意識を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業開始後 20 分までを遅刻とし、2 回遅刻で 1 回欠席として扱います。20 分以上遅れて入室した場合は、欠席扱いとします。単位認定の最低必要条件:2/3 以上出席					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業時には、携帯電話の電源は切ってください。電卓を使用することがあります。					
<b>連絡先</b>					
教育学部101-1					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日13~15時					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001361002
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	森田 俊介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>中高年者に多く発症する心臓病・糖尿病・脳卒中などの成人病は、別名生活習慣病とも言われ、青年期から中年期にかけての運動不足・偏った食事・過度のストレスなどの生活習慣がその原因の1つとして考えられている。したがって学生諸君が生涯にわたって健康を保持・増進していくためには、適度な運動・バランスのとれた食事・十分な休養に配慮した生活習慣を学生時代から身につけておかなければならない。この授業では、[あなたの日常生活を見直そう]と題して、健康づくりのための運動の基本的な考え方とその実践方法を中心に教授する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
この授業では、健康づくりのための運動と食事の基本的な考え方およびその実践方法を学習し、在学中及び卒業後もそれらを活用できるようになることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 健康づくりのための運動の基本的な考え方とその実践方法を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 健康づくりのための運動の基本的な考え方とその実践方法を説明できる。運動不足による身体への影響に対して解説できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分の周辺の人々の健康づくりについて関心がある。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(50%)、レポート成績(40%)、積極的授業参加度(10%)によって総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業開始後の入室は認めない					
<b>連絡先</b>					
shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期後半	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001361008
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	電気			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮田 浩文			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近代化に伴う生活様式の省力化・機械化は、運動不足状態を作りだし、その健康への影響が心配されるようになっている。本講義では、運動生理学、バイオメカニクス等の研究成果を、なるべく学生諸君の健康の保持・増進のための実践的な知識となるよう解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
体の基本的構造機能を理解し、それぞれに対する運動や食事の影響を考える。また、どの程度の運動や食事が必要であるかについて、実生活に即して考えられるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 生活習慣病と運動や食事との関係を説明する。 2. 運動に対するの適応変化を説明する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 運動の効果を推察できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 自分の生活の改善点を見出すことができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 分かっていないことに関する疑問を具体的に提示することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末試験の結果と授業中の小レポートの内容を主な評価の対象とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
遅刻、私語、飲食は厳禁					
<b>連絡先</b>					
hiro@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日午前中					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001353001
<b>開設科目名</b>	科学史 [History of Science]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	川崎 勝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この講義では、私たちが知る形での「科学技術」が形成されていった歴史を、時代的・国家的文脈を重視しながら概観します。主な舞台となるのは、18世紀末から現代にかけての西洋社会です。それ以前と比較したとき、この時代・地域の最大の特徴は、それまではごく一部の特権層でのみ享受されていた自然に関する知識が公共化かつ制度化し、技術と結びついたことです。これにより、科学は経済的にも軍事的にも現代社会において支配的な力を発揮するようになり、最終的に国家の支柱となっていきます。このプロセスに関して、国別の社会的文脈に留意しながら、なぜそのようなことが生じたのかに重点をおいて授業を進めていきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
高度科学技術社会(ハイテク社会)で主体的な生活者として生きていくために、現代の科学技術が成立する経緯に関する必須の基本知識を習得し、主体的かつ客観的に考察する態度を涵養する。さらには、歴史に対して「なぜ」という疑問を発することができる能力を養うこと、近未来の科学技術社会への洞察力を養うことが全体を通じての影の大きな目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 科学技術の発展の過程を時代的・国家的文脈を踏まえて概説できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 科学技術と社会の関係の変遷について自分の意見を述べるができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 科学技術が関連した社会的問題に関して積極的に情報を収集し、主体的に考えることができる。					
<b>態度の観点:</b> 科学技術の社会的あり方について主体的に問題を提起し、その課題を探究して、考察結果をまとめることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末に行う論述式の筆記試験がメインとなりますが、毎回の「質問・感想カード」の内容を元にして「参加点」を加味します。また、任意提出のレポート課題を出します。					
<b>教科書</b>					
科学の社会史(増訂版) / 古川安:南窓社, 2000					
<b>参考書</b>					
ハイテク社会を生きる / 調麻佐志・川崎勝他:北樹出版, 2003					
<b>メッセージ</b>					
歴史は決して「暗記物」ではありません。むしろ「想像力」の学問です。人工的な文系・理系の壁を越え、歴史好きな方を歓迎します。					
なお、もし受講希望者が100名を超えた場合には、「受講動機」などの簡単なレポートに基づくセレクションを行いますので、受講希望者は必ず初回に参加してください。					
授業に関する情報を随時Web上の「kawasaki's room」( <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kawasaki/index.html">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kawasaki/index.html</a> )に掲載します。参照してください。					
<b>連絡先</b>					
mailto:kawasaki@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
普段は宇部の小串キャンパスにいますので、相談がある場合は、授業の前後の時間に対応したいと思います。事前に上記のアドレス宛にメールで予約してもらえると幸いです(上記アドレスにメールを送る際には、できるだけケイタイからのメールは避けてください。また、適切な件名を付けるとともに、自分が誰であるのかを名乗ってください)。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001343002
<b>開設科目名</b>	科学の中の動物			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(検査除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	林 俊春, 井上 誠, 加藤 大智, 藤田 志歩, 前田 健			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
病気には多くの種類があり、またその原因も様々である。一方病気の予防や治療には実験動物を用いて病態の解明がなされてきた。そこで実験動物が科学の中で果たしてきた役割について述べるとともに、遺伝子・細胞・組織・個体レベルでの解説を平易にそれぞれの立場から講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
病気という視点から科学的なものの見方、考え方について講義する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
講義への出席とレポートを総合して行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
理解が出来ない場合の質問を受付ける。					
<b>連絡先</b>					
林 083-933-5890					
<b>オフィスアワー</b>					
林 12:00 13:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1～2	<b>時間割コード</b>	1001343006
<b>開設科目名</b>	火山と地震			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全(検査・獣医除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	今岡 照喜			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>日本列島は火山列島でもあり、地震列島でもある。日本列島は昔から繰り返しこのような火山噴火、地震や津波に襲われてきた。大陸縁辺の変動する大地に住んでいる以上、我々は宿命的にこうした火山噴火や地震による災害から完全にのがれることはできそうにもない。一方で、火山と隣り合わせに住む我々は観光、温泉や地熱資源など火山の恩恵に浴している。この講義では、火山や地震がどのような場所でどのような活動をするのか、火山の噴火や地震はなぜ起こるのか、両現象に因果関係があるのかなのか、火山の噴火や地震は予知できるのか、また予知のための戦略はどのようなものか、について具体例をあげながら詳述する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本や世界の火山の発生場所、火山噴火のメカニズムについての理解を深める。</li> <li>2. 巨大地震、直下型地震にの発生機構についての理解を深める。</li> <li>3. 火山や地震による被害の現状を知り、防災について考える。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 火山、活火山、マグマ、噴火などの基礎概念を理解し、説明できる。</p> <p>2. 巨大地震、直下型地震について説明できる。</p> <p>3. 火山や地震の発生機構について説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 火山と地震がどのように関係しているから説明できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 火山や地震による災害について過去の例をもとに理解を深め、火山防災や地震防災について具体的に考える。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト、レポートおよび期末試験の結果を下記の観点・割合で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
基礎地球科学 / 西村祐二郎ほか: 朝倉書店, 2002					
<b>メッセージ</b>					
受講者制限をすることがあります。					
<b>連絡先</b>					
imaoka@yamaguchi-u.ac.jp 総研棟 701 号室					
<b>オフィスアワー</b>					
在室のときはいつでも可					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5~6	<b>時間割コード</b>	1001363001
<b>開設科目名</b>	加齢と健康			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(学教(教科(数)除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岡 正朗			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月1~2	<b>時間割コード</b>	1001352001
<b>開設科目名</b>	環境学 [Environmental Science]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	今井 剛			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
我々は食料・資源・エネルギー、水資源、廃棄物、環境ホルモンなど解決すべき難問を抱えたまま、21世紀を迎えました。人類の持続的生存のために、地球規模での資源・環境制約条件の下で、新しい生活のあり方、社会のあり方、科学技術のあり方が求められています。本講義では、環境問題、社会基盤整備、リサイクルに関わる内容の講義を通して、重要なキーワードを学び、理解を深めます。地球環境を保全し、健全な生活環境を確保しつつ、人類が持続的発展をしていくためには人間として、技術者としてこれから何をすべきかについてともに考えます。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 環境問題、社会基盤整備、リサイクルに関わる内容の講義を通して、重要なキーワードを学び、理解する。 2. 地球環境を保全し、健全な生活環境を確保しつつ、人類が持続的発展をしていくためには人間として、技術者としてこれから何をすべきかについて考える力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 環境問題、社会基盤整備、リサイクルに関わる内容の講義を通して、重要なキーワードを学び、理解する。 <b>思考・判断の観点:</b> 地球環境を保全し、健全な生活環境を確保しつつ、人類が持続的発展をしていくためには人間として、技術者としてこれから何をすべきかについて思考する力を養う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の授業内小レポート(60%)及び宿題・授業外レポート(40%)により評価します。					
<b>教科書</b>					
基礎環境学 / 田中修三 編著: 共立出版, 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
出席は欠格条件です。やむを得ず欠席する場合は必ず欠席届を提出し、指示(欠席分に相当する課題を課す)を受けること。なお、受講人数によっては座席指定をすることがあります。					
<b>連絡先</b>					
imait@yamaguchi-u.ac.jp 教員室: 常盤キャンパス総合研究棟4階、413号室					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001355003
<b>開設科目名</b>	環境と植物			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(獣医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田中 秀平			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>植物は地球環境の保全や食料生産に極めて重要な役割を果たしている。しかし、その植物もまた、周囲の環境から様々な影響を受けており、微生物や昆虫も植物に重要な影響を与えている。微生物は有機物をはじめ各種物質の分解や土壌生態系の重要な担い手として、昆虫は花粉の運搬者として植物の生活に役立っている。しかし微生物や昆虫の中には病原菌や害虫として植物の生育に悪影響を及ぼすものもある。即ち植物と環境の関係は実に多様であり、バランスのとれた生態系を守り育てることが地球環境の保全に不可欠である。一方、食料生産を目的とする農業は、植物の生育や植物と微生物・昆虫の関係を人間の都合に合わせてやるとする行為であり、環境保全や食料の安全性の面で様々な問題を抱えている。農業の場にも地球環境問題の一面が見える。講義では、自然生態系および農業生態系における植物と微生物・昆虫の関わりの現状と課題について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>生態系における植物、微生物、昆虫の多様性とその役割、ならびに農業や工業など人の営みが植物、微生物、昆虫などがつくる生態系に及ぼす影響について解説し、生態系が植物をはじめとするあらゆる生物の連鎖的關係によって成り立っていることを理解させることを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>植物、微生物、昆虫の生活について基礎的知識を修得する。  植物、微生物、昆虫の自然界における役割が理解できる。  自然界における各種生物の連鎖關係が理解できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>間活動の在り方と生態系の関係について考察することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>地球環境問題の多面性に気づき、読書等を通じて自ら広く学ぶ意欲を持つことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>試験を行うほか、適宜レポートを課す。成績は出席30%、レポート30%、試験40%の比率で評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
田中:農学部3F(331号室)					
<b>オフィスアワー</b>					
田中:毎週月曜日 12:00-17:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001371001
<b>開設科目名</b>	環境と地域共生			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	深田 三夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
地方の自治体に見られる少子高齢化問題や中山間地域問題といった地域の問題や、それらに伴って施行された法律、例えば、新しい食料・農業・農村基本法・環境基本法・森林林業基本法などが、これからの社会にどの様に影響していくのか、今後、我々がどの様に関わっていくべきなのか、地域の実践者の報告を中心に講義を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
食料問題、地域問題、環境問題について地域の実践者からの報告をもとに理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回のレポートと出席状況で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001355004
<b>開設科目名</b>	環境と農業			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(獣医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	藤間 充			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>今や世界の人口は60億を越え、21世紀の半ばには120億人に達するとみられている。世界の耕地面積はほぼ限界に達し、単位面積あたりの収量も期待できないなか、はたして地球はこれだけの人口を養っていけるのだろうか。科学技術の発達により食料・環境問題をどこまで克服できるのだろうか。先進国のなかで、もっとも食料自給率が低いわが国の農業・農村の将来をどうしたらいいのか。持続的農業の本質および科学技術の発達と環境とのかかわりについて講述する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
現状を認識することによって、受講生に危機感をもってもらえれば本講義は成功である。何らかの具体策が提言できるようになれば大成功である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 世界の農業の現状を認識する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 農業の役割、農業と環境の関わりをしっかりと考える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 農業に対する関心を芽生えさせる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中に行う小テスト、3回程度のレポート提出、出席を総合し評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
農学部附属農場 mtoma@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
火・木曜日 11:50~12:50					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001343004
<b>開設科目名</b>	環境とバイオテクノロジー			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(検査除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	古賀 大三, 藤井 克彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
20世紀細大の技術といわれているバイオテクノロジーとは何かを明らかにし、この技術が現在人間、社会にどのような影響を与えており、将来与えようとしているかを考えてゆく。人類の健康、食料、環境問題の解決に大きな力を発揮しているバイオテクノロジーの現状と課題について講義で述べる。					
<b>授業の一般目標</b>					
生命科学の一般教養として、環境と生物の関わりと農学分野におけるバイオテクノロジーの役割について学んで欲しい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験および授業態度を基に総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
小崎教員(5865)、阿座上教員(5854)、藤井教員(5835)					
<b>オフィスアワー</b>					
手の空いている時は随時対応。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001371003
<b>開設科目名</b>	観光と経済			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	仲間 瑞樹, 河村 誠治, MARC LOHR, 馬田 哲次, TAKEMOTO TIMOTHY ROLAND SCOTT, 尹 春志, 有村 貞則, 野村 淳一, 寺地 伸二, 藤井 大司郎, 田淵 太一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ジェームズ・マック著『観光経済学入門』を利用し、各章を経済学部教員が説明する。					
<b>授業の一般目標</b>					
観光と経済のつながりを理解すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 観光と経済の関係を理解すること。					
<b>思考・判断の観点:</b> テキストの各章の内容を踏まえ、日本の観光問題に応用すること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎講義終了前に、教員からレポート課題が提示されます。毎回の提出レポートを総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
観光経済学入門 / ジェームズ・マック: 日本評論社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
講義時にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001335001
<b>開設科目名</b>	観光と交通			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	澤 喜司郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>観光旅行を3倍楽しくする方法を紹介します。観光旅行と切り離せないものが交通つまり交通機関を利用した移動です。駅弁に代表されるように、旅には旅文化があり、日本の交通機関には日本の文化があります。そのような日本の文化を理解した上で交通機関を利用すると、観光旅行はきっと楽しくなります。</p> <p>この講義では、駕籠や人力車からリアモーターカー、究極の乗り物としての遊園地のジェットコースターやフリーフォールまで日本で利用できるあらゆる種類の交通機関を紹介し、その日本的な文化的特性などについて講義します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
観光や旅行、交通を通して日本の文化を考える素養を養い、観光と交通についての理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席30点、試験70点で評価します。					
<b>教科書</b>					
交通と乗り物文化 / 安原敬裕他編著: 成山堂書店, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001321004
<b>開設科目名</b>	外国文学(アメリカ文学)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	皆尾 麻弥			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Edgar Allan Poe(1809-49)の作品を楽しむ					
<b>授業の一般目標</b>					
Poe の代表的な詩、短編を原文で読む					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> テキストを正確に読める					
<b>思考・判断の観点:</b> 詩の表現、散文の表現それぞれが持つ特徴を理解しながら、文学作品について考えることができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 外国文学への好奇心を持つ					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末レポート					
<b>教科書</b>					
Great Tales and Poems of Edgar Allan Poe / Edgar Allan Poe: Pocket Classics, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1001353003
<b>開設科目名</b>	技術概論 [Introduction to Technology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(工・生資除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	森岡 弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>技術とは何だろうか。よく聞く言葉ではあるが、その意味や内容は多様である。本授業では、はじめに「技術」という言葉およびその用法について考察し、この後さまざまな分野における技術の変遷や実例について概説する。</p> <p>主な分野および内容は、身近にある技術、特に機械工学や電気工学を中心とした総合技術やロボットに代表される機械の制御情報技術などを平易に解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本授業は、人と技術、人間社会と技術、環境と技術など、総合的な関わりの中で技術をとらえる必要を知り、自分なりの技術をみる目すなわち技術論の形成ができるようになることを目的とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 技術を人と技術、人間社会と技術、環境と技術など関わりの中でとらえて説明することができる。</p> <p>2. 材料の強さや使用法を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 技術と環境問題の関わりを検証することができる。</p> <p>2. 最近のロボット技術、特にヒューマノイドの必要性を検証することができる</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 技術と生活との関わりに問題意識をもつ</p> <p>2. 失敗の種類と特徴及び失敗の予測について関心を持つ。</p> <p>3. 工場以外でロボットがどのように活用されているのについて関心を持つ</p> <p><b>態度の観点:</b> 1. なぜ致命的な失敗が続くのかものづくりと関連させて考える</p> <p>2. ヒューマノイドを製作することへの反対意見や自分なりの利用法を提案する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 自らの考えや主張を分かりやすく、論理的に説明することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>各テーマごとに、学習した内容に関するレポートの提出を求める。これと小テスト、授業内での制作をあわせ、総合的に評価を行う。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>失敗学のすすめ / 畑村洋太郎: 講談社文庫, 2005</p> <p>技術の創造と設計 / 畑村洋太郎: 岩波書店, 2006</p> <p>強さの不思議 ものづくりで遊ぶ材料力学 / 日本機械学会編集: 技報堂出版, 2005</p> <p>こんなものまでつくれるの? 身近な材料を使ったものづくり (/ 日本機械学会編集: 技報堂出版, 2006</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>身近な技術に対する関心を高めてもらうため、受講者の興味・関心によって内容を変更する場合があります。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>森岡 弘 (morioka@yamaguchi-u.ac.jp)</p> <p>古賀和利(koga@inf.edu.yamaguchi-u.ac.jp)</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>木 3・4</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001372005
<b>開設科目名</b>	キャリアと就職			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教),3年(経・理・農)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	平尾 元彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>キャリアとは、職業経験、働く力、仕事にかかわる人生経路を意味する言葉である。学生は皆、大学を卒業(あるいは大学院を修了)して新たな活躍のステージへと移行するが、自分自身の将来のキャリアを考えて進路選択をすることが望ましい。その最初の活動が大学生の就職活動であり、大学院への進学を含む進路選択活動である。本講義は、「自分のキャリアは自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とするものであり、経済・社会、企業、そして自己理解のための理論および現実を学ぶことで、将来のキャリア選択や、現実問題として直面する就職活動に役立つ知識と方法論の習得をめざす。</p> <p>授業は講義形式で行うが、一人一人が自分の問題としてキャリアを考えることができるように、宿題レポートを多数とり入れた実践的な講義をめざしている。学んだことは自分の就職活動にいかしてほしい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論習得する</p> <p>働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する</p> <p>社会人基礎力の重要性を理解し、高めるための方法を理解し、実践への意識を高める</p> <p>キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>働くことにかかわる経済・社会・企業に関する知識</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>自分のキャリアを自分で考えるための思考力</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>キャリア選択に関する意欲、働くことに関する意欲</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>毎回提出を求めるとミニレポートのほか、課題レポート(宿題)にて評価する。レポートは「キャリアインタビュー」「キャリアモデル」「キャリアデザイン」など7回程度を予定している</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>総合教養「キャリアと就職」は、前期火曜日3・4限、水曜日1・2限、水曜日5・6限、水曜日7・8限の4コマを吉田キャンパスで開講、後期は常盤キャンパスで水曜日5・6限の1コマ開講する。基本的には同じ内容であり、履修できるのはいずれか一つである。ただし、当該コマにおいて優先される学部にあわせて講義の内容を若干変更することもある。第一回目の講義で履修時間帯の希望をとるので必ず出席すること。</p> <p>科目の性格上、3年次およびそれ以上の学年のみ履修可能とする。</p>					
<b>連絡先</b>					
就職支援室(共通教育棟1階)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001372006
<b>開設科目名</b>	キャリアと就職			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教),3年(経・理・農)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	平尾 元彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>キャリアとは、職業経験、働く力、仕事にかかわる人生経路を意味する言葉である。学生は皆、大学を卒業(あるいは大学院を修了)して新たな活躍のステージへと移行するが、自分自身の将来のキャリアを考えて進路選択をすることが望ましい。その最初の活動が大学生の就職活動であり、大学院への進学を含む進路選択活動である。本講義は、「自分のキャリアは自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とするものであり、経済・社会、企業、そして自己理解のための理論および現実を学ぶことで、将来のキャリア選択や、現実問題として直面する就職活動に役立つ知識と方法論の習得をめざす。</p> <p>授業は講義形式で行うが、一人一人が自分の問題としてキャリアを考えることができるように、宿題レポートを多数とり入れた実践的な講義をめざしている。学んだことは自分の就職活動にいかしてほしい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論習得する</p> <p>働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する</p> <p>社会人基礎力の重要性を理解し、高めるための方法を理解し、実践への意識を高める</p> <p>キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>働くことにかかわる経済・社会・企業に関する知識</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>自分のキャリアを自分で考えるための思考力</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>キャリア選択に関する意欲、働くことに関する意欲</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>毎回提出を求めるとミニレポートのほか、課題レポート(宿題)にて評価する。レポートは「キャリアインタビュー」「キャリアモデル」「キャリアデザイン」など7回程度を予定している</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>総合教養「キャリアと就職」は、前期火曜日3・4限、水曜日1・2限、水曜日5・6限、水曜日7・8限の4コマを吉田キャンパスで開講、後期は常盤キャンパスで水曜日5・6限の1コマ開講する。基本的には同じ内容であり、履修できるのはいずれか一つである。ただし、当該コマにおいて優先される学部にあわせて講義の内容を若干変更することもある。第一回目の講義で履修時間帯の希望をとるので必ず出席すること。</p> <p>科目の性格上、3年次およびそれ以上の学年のみ履修可能とする。</p>					
<b>連絡先</b>					
就職支援室(共通教育棟1階)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1001372007
<b>開設科目名</b>	キャリアと就職			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教),3年(経・理・農)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	平尾 元彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>キャリアとは、職業経験、働く力、仕事にかかわる人生経路を意味する言葉である。学生は皆、大学を卒業(あるいは大学院を修了)して新たな活躍のステージへと移行するが、自分自身の将来のキャリアを考えて進路選択をすることが望ましい。その最初の活動が大学生の就職活動であり、大学院への進学を含む進路選択活動である。本講義は、「自分のキャリアは自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とするものであり、経済・社会、企業、そして自己理解のための理論および現実を学ぶことで、将来のキャリア選択や、現実問題として直面する就職活動に役立つ知識と方法論の習得をめざす。</p> <p>授業は講義形式で行うが、一人一人が自分の問題としてキャリアを考えることができるように、宿題レポートを多数とり入れた実践的な講義をめざしている。学んだことは自分の就職活動にいかしてほしい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論習得する</p> <p>働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する</p> <p>社会人基礎力の重要性を理解し、高めるための方法を理解し、実践への意識を高める</p> <p>キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>働くことにかかわる経済・社会・企業に関する知識</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>自分のキャリアを自分で考えるための思考力</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>キャリア選択に関する意欲、働くことに関する意欲</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>毎回提出を求めるとミニレポートのほか、課題レポート(宿題)にて評価する。レポートは「キャリアインタビュー」「キャリアモデル」「キャリアデザイン」など7回程度を予定している</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>総合教養「キャリアと就職」は、前期火曜日3・4限、水曜日1・2限、水曜日5・6限、水曜日7・8限の4コマを吉田キャンパスで開講、後期は常盤キャンパスで水曜日5・6限の1コマ開講する。基本的には同じ内容であり、履修できるのはいずれか一つである。ただし、当該コマにおいて優先される学部にあわせて講義の内容を若干変更することもある。第一回目の講義で履修時間帯の希望をとるので必ず出席すること。</p> <p>科目の性格上、3年次およびそれ以上の学年のみ履修可能とする。</p>					
<b>連絡先</b>					
就職支援室(共通教育棟1階)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001372008
<b>開設科目名</b>	キャリアと就職			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教),3年(経・理・農)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	平尾 元彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>キャリアとは、職業経験、働く力、仕事にかかわる人生経路を意味する言葉である。学生は皆、大学を卒業(あるいは大学院を修了)して新たな活躍のステージへと移行するが、自分自身の将来のキャリアを考えて進路選択をすることが望ましい。その最初の活動が大学生の就職活動であり、大学院への進学を含む進路選択活動である。本講義は、「自分のキャリアは自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とするものであり、経済・社会、企業、そして自己理解のための理論および現実を学ぶことで、将来のキャリア選択や、現実問題として直面する就職活動に役立つ知識と方法論の習得をめざす。</p> <p>授業は講義形式で行うが、一人一人が自分の問題としてキャリアを考えることができるように、宿題レポートを多数とり入れた実践的な講義をめざしている。学んだことは自分の就職活動にいかしてほしい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論習得する</p> <p>働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する</p> <p>社会人基礎力の重要性を理解し、高めるための方法を理解し、実践への意識を高める</p> <p>キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>働くことにかかわる経済・社会・企業に関する知識</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>自分のキャリアを自分で考えるための思考力</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>キャリア選択に関する意欲、働くことに関する意欲</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>毎回提出を求めるとミニレポートのほか、課題レポート(宿題)にて評価する。レポートは「キャリアインタビュー」「キャリアモデル」「キャリアデザイン」など7回程度を予定している</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>総合教養「キャリアと就職」は、前期火曜日3・4限、水曜日1・2限、水曜日5・6限、水曜日7・8限の4コマを吉田キャンパスで開講、後期は常盤キャンパスで水曜日5・6限の1コマ開講する。基本的には同じ内容であり、履修できるのはいずれか一つである。ただし、当該コマにおいて優先される学部にあわせて講義の内容を若干変更することもある。第一回目の講義で履修時間帯の希望をとるので必ず出席すること。</p> <p>科目の性格上、3年次およびそれ以上の学年のみ履修可能とする。</p>					
<b>連絡先</b>					
就職支援室(共通教育棟1階)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開講期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001332001
<b>開講科目名</b>	教育学 [Pedagogy]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	吉田 香奈			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>今日、私たちは様々な機会に様々な場所で学習を行っている。小学校・中学校では9年間の義務教育を受け、義務教育終了後には高等学校、専修学校、大学・短大等で学ぶことができる。また、図書館、博物館、公民館、体育施設といった社会教育施設が整備され、子どもから大人まで誰でも利用することができる。このように私たちにとって教育は身近な存在であるが、皆さんはこれまで教育そのものについてじっくりと考えたことがあるだろうか？本授業では、教育学を初めて学ぶ学生のための「入門」授業として教育の各領域について概説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1)教育の各領域の基本的事項について理解している  (2)教育問題について関心を持ち、教育のあり方について主体的に考えることができる</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>授業で取り上げた各領域の基礎的事項について説明できる  <b>思考・判断の観点:</b>授業で取り上げた各領域について、様々な立場からの意見やデータを踏まえながら、自分の意見を論理的に述べるができる</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回提出するコメントカードと期末試験の両方による総合評価を行う					
<b>教科書</b>					
教育の原理 - 教育学入門 - / 田代直人・佐々木司編著:ミネルヴァ書房, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
「教育」について考えてみたい人の受講を歓迎します					
<b>連絡先</b>					
大学教育センター吉田研究室(共通教育棟3階)、Email: ykana@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日 10:30-12:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002335014
<b>開設科目名</b>	経営理論と応用			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	有村 貞則			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ビジネスモデル理論とその応用(ケース分析)を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. ビジネスモデル以前の経営戦略について学習する。					
2. ビジネスモデルとは何かを理解する。					
3. ケース分析を行う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ビジネスモデルの考え方を理解することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> ビジネスモデルの応用力がつく。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末テスト					
<b>教科書</b>					
ビジネスモデル・シンキング / 安室憲一: 文真堂, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
経済学部C206					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室在室中はいつでも可					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001331003
<b>開設科目名</b>	経済学 [Economics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(経除)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	馬田 哲次			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
経済学理論について、簡単な数式を使いながら説明します。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. GDP,物価指数, 失業率の測定について理解する。</li> <li>2. 消費の決定について理解する。</li> <li>3. 投資の決定について理解する。</li> <li>4. 企業の生産量, 価格の決定について理解する。</li> <li>5. 労働市場での賃金の決定について理解する。</li> <li>6. 金融市場について理解する。</li> <li>7. 財市場, 金融市場, 労働市場の関連について理解する。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 家計や企業の行動について理解する。					
市場相互間の関係について理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 家計や企業の行動, 及び市場の関連について、数式で表現し分析することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日々新聞やテレビで報道される経済に関するニュースに関心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業の出席, 授業中の発表, 期末テストで評価します。					
<b>教科書</b>					
経済学 2009 年度版 / 馬田哲次: 自費出版					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
umada@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001331015
<b>開設科目名</b>	経済学 [Economics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	MARC LOHR, 柏木 芳美, 木部 和昭, 濱島 清史, 中田 範夫, 長谷川 光圀, 成富 敬, 武居 奈緒子, 澤 喜司郎, 尹 春志, 三間地 光宏, 吉川 信将, 梶原 健佑, 河村 誠治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「経済学」は、経済学部1年生全員の必修科目です。この授業は、それぞれの学科に所属する教員が各学科で学ぶこと、あるいは自らの専門領域のエッセンスをリレー形式で講義してもらいます。それを通じて、1年生の皆さんが、2年生から本格的に行うことになる専門的な学習・研究にスムーズに移行するための下準備をすることがこの講義の目的です。</p> <p>また経済学部には、現在、経済、経営、国際経済、経済法、観光政策の計5つの学科が設置されています。今後、2年生以降皆さんが所属することになる学科の振り分けを、1年生後期に行います。学科の選択は、経済学部において行う学業の内容を左右するものであり、とても重要です。この講義を通じて、それぞれの学科でどのようなことが学べるのかを積極的に知り、皆さんが学科を選択する際の材料にしたいと思います。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
経済学部における専門教育とはどのようなものか、そこでは、いったい何が学べるのかを具体的内容を通じて知り、考えてもらえるようになることがこの講義の目標です。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>経済学部で開講される専門科目の入門的知識を身につける。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>学科の選択を含めて、自分が経済学部で何を学び研究したいのかを具体的な題材を通じて考える契機を与える。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>経済学部の1年生全員の必修科目であり、専門教育への橋渡しという位置づけから、成績評価については、授業の出席は必須です。遅刻者は欠席とみなします。また風邪や家庭の事情等で遅刻・欠席した者に対して、救済することはありません。</p> <p>また出席に加えて、学科ごとにレポート課題を出してもらいます。したがって、5つの課題が出されることとなりますが、そのうちの2つを選択し、レポートを採点して評価を行います。</p> <p>なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつこく主張したり、講義を妨害するなど、担当教員の指示に従わない学生には単位を認定しませんので、ご注意下さい。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7～8	<b>時間割コード</b>	1001331014
<b>開設科目名</b>	経済学 [Economics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	尹 春志, 柏木 芳美, 木部 和昭, 濱島 清史, 中田 範夫, 長谷川 光圀, 成富 敬, 武居 奈緒子, 澤 喜司郎, 三間地 光宏, 吉川 信將, 梶原 健佑, MARC LOHR, 河村 誠治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「経済学」は、経済学部1年生全員の必修科目です。この授業は、それぞれの学科に所属する教員が各学科で学ぶこと、あるいは自らの専門領域のエッセンスをリレー形式で講義してもらいます。それを通じて、1年生の皆さんが、2年生から本格的に行うことになる専門的な学習・研究にスムーズに移行するための下準備をすることがこの講義の目的です。また経済学部には、現在、経済、経営、国際経済、経済法、観光政策の計5つの学科が設置されています。今後、2年生以降皆さんが所属することになる学科の振り分けを、1年生後期に行います。学科の選択は、経済学部において行う学業の内容を左右するものであり、とても重要です。この講義を通じて、それぞれの学科でどのようなことが学べるの積極的に関心し、皆さんが学科を選択する際の材料にしてもらいたいと考えています。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>経済学部における専門教育とはどのようなものか、そこでは、いったい何が学べるのかを具体的内容を通じて知り、考えてもらえるようになることがこの講義の目標です。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 経済学部で開講される専門科目の入門的知識を身につける。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 学科の選択を含めて、自分が経済学部で何を学び研究したいのかを具体的な題材を通じて考える契機を与える。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>経済学部の1年生全員の必修科目であり、専門教育への橋渡しという位置づけから、成績評価については、授業の出席は必須です。遅刻者は欠席とみなします。また風邪や家庭の事情等で遅刻・欠席した者に対して、救済することはありません。また出席に加えて、学科ごとにレポート課題を出してもらいます。したがって、5つの課題が出されることとなりますが、そのうちの2つを選択し、レポートを採点して評価を行います。なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつこく主張したり、講義を妨害するなど、担当教員の指示に従わない学生には単位を認定しませんので、ご注意下さい。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001321005
<b>開設科目名</b>	言語学 [Linguistics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	PHILLIPS JOHN DAVID			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
This course will present an overview of the field of Linguistics. この授業は言語学という分野の概観である。					
<b>授業の一般目標</b>					
An understanding of what it is that linguists work on. 言語学者の仕事や研究の理解を目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業では英語をよく使う。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金5-6	<b>時間割コード</b>	1001371006
<b>開設科目名</b>	言語の多様性と普遍性			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	下崎 正利, 乾 秀行, 武本 雅嗣, 本田 義昭, 赤羽 仁志, 太田 聡, PHILLIPS JOHN DAVID			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>世界には現在、約 6500 の言語があるとされているが、この授業では、その間に見られる多様性と普遍性につき、7 名の教員が交替で、平易に述べてゆく。多様性の方に関する授業では、アイスランド語、ウェールズ語、エチオピアの言語といった、普通日本人が接することのない言語が取り上げられ、また、普遍性の方に関する授業でも、様々な非常に興味深いテーマが取り上げられる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
言語の多様性と普遍性につき、ある程度の知識を持っており、また言語一般に対する興味を持っている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 言語の多様性と普遍性について、ある程度の知識を身につけている。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 言語一般に対する興味が高まっている。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 自ら理解したこと・考えたことを、適切な形に文章化できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
それぞれの教員が2回ずつ授業を担当するが、それぞれ2回目の授業のときに小テスト・授業内レポートを課す。欠席した場合は0点となる。出席は欠格条件で、全授業の3分の2以上の出席が必要である。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001342005
<b>開設科目名</b>	現代化学総説 [Introduction to Modern Chemistry]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教経			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	西口 毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講では、大競争時代を生きるのに有効性を持つと同時に、「自然について学ぶことの面白さ」が伝わる授業をめざしたい。それができるためには、高いレベルを保ちつつも、高校で化学を履修していない人でも理解できる分かりやすさと、新しい発見とが必要であろう。</p> <p>日常的現象、生命現象、環境問題、社会的諸問題などを、「それはなぜ起こるのか」という観点から解説する。最も身近な化学反応である燃焼については、毎回行う演示実験によって学ぶ。</p> <p>最も身近な化学反応である燃焼については、毎回行う演示実験によって学ぶ。</p> <p>すべての授業はパソコンからスクリーンに出力しながら行う。授業で使ったスライドは、全て Web ページ(<a href="http://chem.cge.yamaguchi-u.ac.jp">http://chem.cge.yamaguchi-u.ac.jp</a>)からダウンロードできるので、予習、復習に役立てて欲しい。</p> <p>学生諸君の質問(日頃の疑問など)にもできるだけ答えたい。電子メールによる質問にも答える。メール画面は、Web ページに付いている。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>多くの人にとって、これからの時代に必要なものは、できるだけ広い範囲の職務内容に適応できる幅広い知識と常識であろう。いま必要だと言われる「生きる力」とは何か。私は「豊かな常識+行動力」だと思う。この講義の目的も、自然科学的常識を豊かにすることである。そして、その目的を達成するには、自然科学的常識の必要性を学生諸君に納得してもらうことが必要であろう。</p> <p>授業では、授業内容に関連する練習問題を提示するので、それらを解いてみるのが望ましい。授業の終了時には、問題を出し、その答を紙に書いてもらう。授業中に理解できなかったことを、その解答用紙に書いておくと、次の授業開始時にそれについての解説が行われるであろう。この授業では、疑問を残さないようにしてもらいたい。</p> <p>また、学生諸君が、社会人になったときに自信をもって生きられるようにすること、つまり、自信をもって生きるために必要な能力と価値観の習得の手助けをすることが、教育でめざすべきものであると思うので、授業に時間的余裕があれば、これに関連することがらについての個人的意見も話す。それらも批判的に検討してもらいたい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>自然科学的常識を豊かにする。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>単に現象を知ることでは不十分である。常に、「その現象はなぜ起こるのか」という観点から、つきつめて考えるよう努めることが必要である。授業もそのような観点から行われるし、テストにも思考力を問う問題も出題される。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>関心・興味こそは、勉強意欲の根底にあるものである。物質に対する関心を高めることは、授業の大きな目標である。つまり、学生諸君に、「化学は面白い」と思ってもらえることも、最大と言っていいほどの目標である。</p> <p><b>態度の観点:</b>どのような価値観を持って生きるのか、今何をなすべきか、勉強することの価値は何か、ということも授業中に討論したい。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績は、主として、期末テストの点数に基づいて評価する。希望者が過半数を超えれば中間テストも行う。中間テストを行った場合には、期末テストと中間テストの比重は1:1である。テストの成績が合否のボーダーラインに近い人には、出席点を考慮することもある。</p>					
<b>教科書</b>					
現代の生活と物質 / 西口 毅:化学同人, 1996					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>学生諸君にとって重要なことは、単位を取るのではなく、将来に備えることであろう。このような観点から、時間的余裕があれば、諸君が生きる時代についての私見を話すこともある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001342004
<b>開設科目名</b>	現代生物学総説 [Introduction to Modern Biology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	北沢 千里, 阿部 弘和			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
身近に存在する生命現象を題材に、生物とはどのようなものかについて解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
近年、関心の高まる環境問題や、クローン動物、遺伝子組み換え食品などに加え、生命の誕生から生命の形作りについて、最近の話題とともに解説し、生命現象について関心を持つとともに、生物学の基礎知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 身近な生命現象から、そのしくみについて理解する。 2. 生物学の基本的な考え方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 生命科学関連の身近な話題について、科学的に理解・考察し、自分自身の考えを持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 生命科学関連の身近な話題に関心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、テストあるいはレポートを総合的に判断し評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
ダイナミックワイド図説生物 / 石川統ほか: 東京書籍, 2005					
<b>メッセージ</b>					
生物に関心を持ち、積極的に知識の向上を目指す人の受講を望みます。					
<b>連絡先</b>					
阿部弘和(教育学部理科教育教室) E-mail: habe@yamaguchi-u.ac.jp 北沢千里(教育学部理科教育教室) E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 13:00-14:30					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金7~8	<b>時間割コード</b>	1001342007
<b>開設科目名</b>	現代生物学総説 [Introduction to Modern Biology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教経			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	祐村 稔子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ヒトを含め、すべての生物は「細胞」という共通の基本単位から構成されています。一方、「細胞」を構成する部品:細胞小器官は生体分子の集合体であり、すでに生きてはいません。このように「細胞」は、「生命」と「物質」の境界をなす「生命の最小単位」といえます。本講義ではこのような「細胞」の構造と機能について、分子レベルでの解説を行ないます。加えて、近年驚くべき進歩をみせるバイオテクノロジーの基礎知識についても、身近な話題を中心に紹介し解説します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>「細胞」に関する分子レベルの知識は、生命を理解する上で必要不可欠な基礎知識となります。加えて、今日、医療、農業、工業とさまざまな分野にわたり、日常生活の隅々にまで浸透しつつある多くのバイオ関連技術と日常に氾濫するバイオ関連情報を、正しく理解し、自ら評価するために必須となっています。本講義では、生命科学の進歩をいたずらに恐れる事なく、正しい知識に基づいて、何が有益で何が危険なのかを自ら考え判断し、未来を見極める知識、能力を身につけることを目標とします。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>細胞を構成する生体分子についての基礎的な知識を学んだ後、生体分子から「細胞」がどのように構成され、どのような原理で機能しているかについて、概ね理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>生命科学関連の身近な話題について、科学的に理解、自ら考察できること。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>生命科学関連の身近な話題に日常的に興味、関心を持ち続ける事。</p> <p><b>態度の観点:</b>授業中、私語は慎んでください。おしゃべりしたい人は出てこなくていいです。自分で勉強して下さい。私語の止まない場合は受講取り消します。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>生命科学関連の身近な話題について、科学的に理解、考察し、自分自身の考えを明確に表現できる事。</p> <p><b>その他の観点:</b>ヒトも、地球上の多種多様な生物のなかの一種で、みな共存しているという感覚をもっていただければと思います。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験(テキスト、ノート、プリント参照可) 80%</p> <p>宿題レポート 20%</p>					
<b>教科書</b>					
<p>生きもののからくり/中村、祐村、山本 編:培風館,2006</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>古典的生物学にとどまらず、物理学、化学、地球科学など自然科学全般の知識に基づいての生命現象の理解を旨とします。高校までの生物の予備知識は問いませんので、好奇心と意欲を持って生命科学に親しみたいとお考えのみなさんの受講をお待ちしています。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>ご質問、その他は、discoideum@yahoo.co.jp までメールでお願いします。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001342003
<b>開設科目名</b>	現代地球科学総説 [Introduction to Modern Earth Sciences]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	永尾 隆志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>私たちは半径 6400km の地球の上に住んでいる。しかし、そのことを実感することはあまりない。この授業では、私たちが体験したりマスコミで報道される地震や火山噴火をとらえて地球の構造や運動のしくみについて学ぶ。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>日々得る情報から地球のダイナミクスを理解するための基礎的な力を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>地球の構造、地震、火山噴火のしくみを説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>いくつかの事実をつなぎあわせて総合化することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>新聞やテレビなどで報道されている地球にまつわるニュースに関心をもつ。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>課題について図やグラフを用いてわかりやすく説明することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>1. 授業の内容に関するレポートの提出を求め、それを評価する。2. 試験</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>理学部 340 号室 e-mail tnagao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1001342008
<b>開設科目名</b>	現代地球科学総説 [Introduction to Modern Earth Sciences]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	経			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	君波 和雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>地球は生きた天体であり、地球内部や太陽からのエネルギーを源として様々な変動を繰り返しながら進化してきた。地球科学は、こういった地球の表面や内部における変動を解析し、地球の発展過程を明らかにすることを目的としている。</p> <p>この講義では、地球上部の主要な変動を説明するための理論であるプレートテクトニクスの基本的骨格やプレートテクトニクスと地質との関連などについて解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
この講義をとおして、地球科学における時間の感覚を把握するとともに、プレートテクトニクスの基本骨格を理解し、ダイナミックに変動する地球についての理解を深めることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>地球上部におけるプレート境界の意味やプレートの運動について説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>地球表面付近の諸変動をプレートと関連づけて考えることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>地震や火山噴火などに関する報道等に関しても関心を抱くことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>関連した書籍を自分でさがし、読んでみる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価は、期末試験 80%、小テスト・レポート 20%とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
地球に関する理解を深めてください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001355006
<b>開設科目名</b>	現代の科学技術			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(獣医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	多田村 克己, 久保 洋, 平林 晃, 成富 敬, 藤澤 健太, 宮川 勇			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
21世紀の今日、発展した科学技術は想像できないほどの豊かな社会と生活を提供してきました。便利で安全な車・快適な生活・安心できる環境・いろいろな目的に使える携帯。でもこの生活を支えているのは、科学技術のおかげです。本当は大変な努力によって作られた科学と技術のおかげ。分からなくても生活できるなんてうそぶくのは大間違い。世界に冠たる日本の科学技術のそのさわりを見ていきましょう。電子機器・電子計算機・集積回路・宇宙科学・現代物理学などの分野で技術開発がどのように行われてきたか、そしてこれからの技術開発をどのように伸ばすのかを考えよう。					
<b>授業の一般目標</b>					
いろいろな分野の技術開発について、どのように発展してきたのかを学び、これからの技術者が、どんな考えで次の世代の技術開発に向かえばよいのかを一緒に考えながら、技術者魂を培う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 技術開発の裏側にどんな知識が必要だったのか? どんな努力がなされているのかを学ぶ。					
<b>思考・判断の観点:</b> 将来の技術開発に携わる人たちがどういう考え方をすれば適切なのか? どういう姿勢が必要なのか? を考える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業を聞いてどんなことが分かったのか? 自分なら、どのように考えただろうか? 自分から参加する姿勢を育む。					
<b>態度の観点:</b> 授業をただ聞いているだけでなく、自ら疑問となることを積極的に質問する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の発案、提案を積極的に発言する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業で説明された、キーワードを的確につかみ、説明ができるか? または、それに対して自らの発言がなされているか?などを問う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各分野の話を良く聞いて、感じたことを積極的に発言してください。					
<b>連絡先</b>					
各授業にて、連絡します。					
<b>オフィスアワー</b>					
各授業にて、連絡します。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002322004
<b>開設科目名</b>	芸術概論(美術) [General Fine Arts (Art)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福田 隆眞			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
美術と美術教育について解説をする。主に、児童・生徒の美術表現、西洋近代絵画、日本の美術表現を対象とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
子どもの絵の発達を理解する。西洋画と日本の表現の違いを知る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 発達段階、美術用語について理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 美術表現の多様性を考える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常的に美術に関心を抱く。					
<b>態度の観点:</b> 作品の鑑賞に集中する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 感じたこと考えたことを文章で表す。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート、出席態度で評価する。					
<b>教科書</b>					
子どもの絵は語る / 福田隆眞: 三晃書房					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講生の理解を深めるために、受講者数を50人とする。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	水3~4	時間割コード	1001322001
開設科目名	芸術史(美術史) [Fine Arts History (Art History)]			単位	2単位
対象学生	全			学年	1~
担当教員	吉田 貴富			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>【内容】造形表現を絵画作品を中心として美術史的に概観する。必ずしも通史的な扱いはしない。</p> <p>【留意事項】</p> <p>第2週からの受講はお断りします。授業途中での入室をお断りします。遅刻厳禁。シラバスをよく読んでこの授業が自分に合っていないと思う方は受講しないで下さい。楽しくかつ厳しく授業を進め、お互いが不快な思いをしないようにしようと思っています。高校までの美術の経験や知識は問いません。それよりも現時点での美術に関する興味・関心・意欲を求めます。遅刻をしないという基本的な生活習慣も必要です。受動的に講義を聴くだけではありません。こちらが提示する作品について「あなたの考え」を話してもらいます。できるだけ対話的に進めて行こうと思っています。ほぼ毎回課題を出します。</p> <p>教室の容量に応じて受講者数を制限します(方法はくじ引き)。初心者(?)向けの授業です。人文学部や教育学部で美術を専攻している方には物足りないと思います。受講態度について具体的に指摘しなければ分からない学生が多いので、ここに一部記しておきます。飲食・私語・携帯電話は厳禁。教室内では原則として帽子は脱いで下さい。人と話す際にはオーディオのイヤフォンを外して下さい。遅れて教室に入る場合は静かに歩くこと。授業が始まってから教卓前(授業者と受講者の間)を通らないこと。眠かったり体調が優れなかったりして机に伏せなければいけないような状態ならば、欠席して自宅でご寝下さい(退出してもらいます)。課題等提出物は、所定の形式を守れない物は受け取りません。</p> <p>出席確認や課題提出に不正があった場合には、不正を依頼した側と依頼されて実行した側の双方の受講資格と受験資格が失われます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
造形表現を美術史的に理解する。美術作品を主体的に鑑賞する力を高める。課題(家庭学習)としての制作体験を通して美術の表現方法論を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>造形表現ならびに美術史の基礎的な知識・概念を理解し身に付ける。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>美術作品を主体的に鑑賞することができる(「よくみる」「よく考える」「自分の言葉で話す」の3つができる)。造形表現を美術史的な観点からとらえることができる。美術史上の造形表現の方法論を用いて表現をすることができる。(造形的な思考・判断)</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>美術作品を主体的に鑑賞しようとする。造形表現への理解を深めることに関心をもつ。造形文化や美術史について、より深くより広く知ろうとする。美術史上の造形表現の方法論を用いて積極的に表現しようとする。</p> <p><b>態度の観点:</b>遅刻をしない。授業に出席し、積極的に受講する。挙手をして自主的に発言をする。課題に対して真摯に取り組む。教官の講義や受講生の発言を真剣に聞く。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>一見ただけではわかりにくい、造形作品に秘められた構造や意味を読み解くことができる。(鑑賞の技能)</p> <p>美術史上の造形表現の方法論を効果的に用いて表現をすることができる。(造形的な表現・技能)</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
下記のような評価方法を考えているが、授業の状況に応じて変更もあり得る。授業は生き物である。変更も含めて、最終的な評価の割合については、最終回の授業で説明する。遅刻は10分までは認める。それ以降の入室はお断りする(=欠席)。欠席は理由を問わず3回までは認める。4回欠席した時点で受験資格と受講資格を失う。					
<b>教科書</b>					
『図説 名画の歴史』/西岡文彦,河出書房新社,2001					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
電話:083-933-5372					
E-Mail:takatomi@yamaguchi-u.ac.jp					
メールは便利ですが、用件にはメールで済むものと済まないものがあることを踏まえて利用しましょう。					
<b>オフィスアワー</b>					
オフィスアワーという概念や制度がナンセンスだと思います。少なくとも日本の大学の実態には合っていません。					
電話やメールでアポを取って来てくれるのが確実ですが、いつ研究室のドアをノックしてくれても構いません。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1001322010
<b>開設科目名</b>	芸術実践(美術) [Fine Arts Practice (Art)]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	中野 良寿			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
美術の分野の中で、絵画の一端を理解する。描写や彩色の実技をととして絵画表現の手法を習得する。					
<b>授業の一般目標</b>					
描写や彩色の実技をととして絵画表現の手法を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 描写や彩色の知識がある。					
<b>思考・判断の観点:</b> 与えられた課題に自分の考えで対処できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 広い意味での文化について関心を持ち、特定の美術様式について探求する意思がある。					
<b>態度の観点:</b> 制作に関する集中力がある。					
<b>技能・表現の観点:</b> 技能を高め、自分の思いや考えを豊かに表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)授業態度、授業への参加度 30%(2)受講者の制作作品 30%(3)出席 40%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp					
083-933-5366(中野)					
090-9003-6944					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1001322012
<b>開設科目名</b>	芸術実践(工芸)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	河野 令二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
竹による工芸制作をとおして、その手法を習得するとともに竹の造形文化について学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
工芸の分野における、竹によるものづくりと竹の造形文化について理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 竹の造形形それらに関連した文化についての理解がある。					
<b>思考・判断の観点:</b> 機能性や条件を考えて制作ができる。 制作過程での考えをまとめ、次に生かせる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 意欲的に制作に取り組み。					
<b>態度の観点:</b> 制作に関する集中力がある。					
<b>技能・表現の観点:</b> 技能を高め、自分の思いや考えを豊かに表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金3~4	<b>時間割コード</b>	1001355005
<b>開設科目名</b>	交通と社会			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(獣医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	望月 信介, 田中 佐, 小河原 加久治, 古川 浩平, 山本 哲朗, 田村 洋一, 澤 喜司郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代社会は自動車, 船舶, 航空機などの様々な交通システムによって支えられています。それら交通システムは機械のみならず, 道路などのインフラやその管理運営システムといった幅広い技術と関係する学問分野とに関係し, またそれらの協力の下に成り立っています。この講義では社会における工学の役割を, 交通システムに關係する技術や学問におけるキーワードに基づいて考えていきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
社会における交通システムと關係する人類の英知を, それを構成するシステムや機械の技術的側面のみではなく, 経済的あるいは文化的側面から理解し, 個々の学問における知恵とそれを要素として活用する社会全体における役割を広い観点から考察できる視野と能力を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 技術や知恵を関連する分野におけるキーワードや基礎力に基づき理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 交通に関する話題や技術について, 多様な観点から考察を行い, 論理的思考に基づく結論を導くことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 交通に関する新聞記事や雑誌の話題に関する考察を行い, 自らの考えを持ち, 具体的行動に移すことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出題された課題に対するレポートに基づき評価を行います。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
交通と物流システム (交通論おもしろゼミナール) / 上羽 博人, 澤 喜司郎, 松尾 俊彦: 成山堂書店, 2008					
交通とビジネス 交通論おもしろゼミナール / 澤 喜司郎, 上羽 博人, 安原 敬裕: 成山堂書店, 2007					
<b>メッセージ</b>					
新聞記事, 経済や科学雑誌等に掲載される交通に関する事柄に興味を持ち, 自らの思考に基づき考察し, それが具体的行動に移せるように心がけることです。					
<b>連絡先</b>					
望月信介(まとめ役) shinsuke@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001353011
<b>開設科目名</b>	行動科学 [Behavioural Science]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	上田 真寿美			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本授業では行動科学とはどのような学問かを概説する。そして医療、保健分野における行動科学について基本事項を説明し、本分野における行動科学の必要性と課題を考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
1.行動科学とはどのような学問かを理解する。 2.医療、保健分野における行動科学について理解し、本分野における行動科学の必要性と課題を説明できる。 3.健康、疾病をめぐる人間の行動の理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.行動科学について説明できる。 2.医療、保健分野における行動科学の必要性と課題を理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.授業で取り上げた各課題について自分の意見を論理的に述べることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1.医療、保健問題や行動科学に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1.医療や保健に関する問題、またそれらと行動科学に関して主体的に考えることができる。 2.積極的にグループディスカッションに加わり、他者の意見を尊重しながら自身の意見をしっかりと発言することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1.事例検討で討議、考察した内容について、文章や口答で適切に表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1.授業内レポートを数回行う。 2.グループディスカッションのまとめのレポートを提出する。 3.関心のある医療問題や行動科学についてレポートを提出する。 4.最後に試験を実施する。 以上を以下の観点、割合で評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
グループ学習形式を採っており、遅刻は他学生へも迷惑がかかるため厳禁とする。					
<b>連絡先</b>					
メールアドレス:masumi-u@yamaguchi-u.ac.jp、通常は宇部キャンパス(医学部医学科医療環境学講座研究室)にいます。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001371007
<b>開設科目名</b>	国際交流論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	何 暁毅, HINTEREDER EMDE FRANZ, 辻田 昌次, 西浦 みどり, 中野 智昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本の歴史はまさに国際交流史ともいえる。昔は中国や東アジアの国々、近代ではヨーロッパやアメリカなど西洋諸国との交流によって、今日の日本の基礎ができたといっても過言ではない。現在では、ボーダーレス社会の基本として地域にも根づいてきた。この科目ではその意義・考え方や人権問題等を折り込み、国際理解・開発教育の観点から実践中心型のカリキュラムを行い、国際交流についての理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
国際交流の意義・考え方や人権問題等を理解し、地域社会でも十分実践できる国際交流の技術を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 国際交流についての基本知識を身につけ、その意義・考え方や人権問題等を十分理解を示すことができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 国際交流について独自の考えや、判断ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 国際交流に深い関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。					
<b>態度の観点:</b> 授業に集中力を持って受講でき、討議やグループ活動に積極的に参加することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 国際交流に関する企画能力や、提案能力を持つことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講態度(出席、グループ討議の参加など)、レポートなどによる総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
草の根の国際交流と国際協力:明石書店, 2003					
<b>メッセージ</b>					
項目などはあくまで予定である。ゲストなどの都合により時間など変更することがある。					
<b>連絡先</b>					
何暁毅 研究室 共通教育棟3F hexiaoyi@yamaguchi-u.ac.jp 中野智昭 y-tomo2@c-able.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3～4	<b>時間割コード</b>	1001331002
<b>開設科目名</b>	産業倫理 [Industrial Ethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	知能2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	中村 秀明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近年、重大事故や企業不祥事が相次いでいます。技術者は生命や環境、社会に影響する力を行使する機会と職業的権利を持つことから、その倫理観が重要視されています。この講義では、実事例を通して、工学における安全性や技術者倫理について考えるとともに、地球環境問題についても考えます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術が社会や自然に対して与える影響を理解する。</li> <li>・工学における安全性について理解する。</li> <li>・さまざまな事例の分析をとおして、技術者倫理の必要性を学ぶ。</li> <li>・技術者に求められる倫理観を養成する。</li> <li>・過去の事例をもとに、判断力を訓練する。</li> <li>・地球環境問題について理解する。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 技術者に求められる倫理について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 授業で取り上げた様々な事例に対して、倫理的に行動することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常の倫理問題に対して、関心を持つことができる。					
地球環境問題に関して、問題意識を持つことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績は、期末試験 50%およびレポート 50%として評価し、60 点以上(100 点満点)を合格とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業では、DVD や新聞記事等を使用し、昨今の事故や企業モラルに関する事例を多く取り上げる。授業中、適宜参考資料等も紹介するので、専門分野以外のことにも広く関心を持って取り組んでほしい。					
<b>連絡先</b>					
E-mail : nakahide@yamaguchi-u.ac.jp					
電話: 0836-85-9531					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 13:00～17:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001331009
<b>開設科目名</b>	産業倫理 [Industrial Ethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	社建4年			<b>学年</b>	4~
<b>担当教員</b>	古川 浩平, 河内 義文			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
土木・建築技術者に必須な技術者倫理観を会得する。					
<b>授業の一般目標</b>					
卒業研究を遂行するために必要となるレポート・発表の基本的なやり方を学ぶ。 技術者倫理について説明できる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1) レポートの基本的な構成について理解することができる。 (2) 技術者倫理について説明ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1) 技術者の倫理について議論できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートを100%として評価を行う。ただし、授業への参加度やプレゼンなどはレポートの一部として評価する。					
<b>教科書</b>					
土木技術者の倫理: 土木学会, 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
この講義は学習教育目標C-2「土木技術者の関与するプロジェクトが社会や自然環境に及ぼす影響を理解する能力」を身につけることを目的としており、技術者として必要な倫理観を養うことを目指します。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1001331019
<b>開設科目名</b>	産業倫理 [Industrial Ethics]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全(工除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	永崎 研宣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>リコールやトラブルの隠蔽、杜撰な品質管理、甘い見通しに頼ったシステム統合のトラブルや不正な会計処理など、現在の産業社会は、様々な倫理的問題を内に抱え込んでいる。多くのケースは技術的問題と密接に関連しており、技術者にとっての工学倫理という観点から捉えられる必要がある。しかしながら、こうした問題は、同時に、政治的・経済的、その他の様々な要因を含んだものであり、しばしばそうした様々なものが複雑にからみあっている。したがってそれは、技術者のみならず、そうした問題に関わるすべての人が倫理的な問題として理解していく必要がある。本講義では、産業社会におけるこうした倫理的問題について、具体的な事例をとりあげながら考えていきたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>講義における様々な事例の検討を通して、倫理的問題に対して用意されている様々な 基準や規制、制度等についての基本的な知識を身につけ、将来直面するであろう問題に対処していける力をつけてもらう。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>倫理的問題に関連する制度について理解を深める</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>倫理的問題の事例について考察し、自らの見解を何らかの根拠に基づいて論理的に構成できるようにする</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>産業社会における様々な倫理的問題への関心を高め、実社会においても応用できるようにする。</p> <p><b>態度の観点:</b>倫理的問題に対して積極的に取り組むことができる</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>自らの見解を適切な判断基準を利用して口頭や文章で表現できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業の中でレポートを課す。また、最後にも、理解度を確認するためのレポートを課す。なお、出席が所定の回数に満たない者は単位を与えない。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>はじめでの工学倫理第2版 / 齊藤了文, 坂下浩司編: 昭和堂, 2005</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>混み込んだ問題をきちんと整理して考えていけるような基礎力を身につけましょう。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001372009
<b>開設科目名</b>	時間学			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)・3年(経・理・農)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	青山 拓央			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
時間学研究所のスタッフによる授業(7名程度の講師が交代で行なう)。時とは何か、生命の発生と絶滅、社会的時間など、時間学の研究成果を分かりやすく学び、その面白さを知るとともに、自分にとっての時間の問題を考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
多岐にわたる専門分野の講義から、時間学の成果と、時間をあつかうための幅広い知識とを習得し、時間と人間社会に対する理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> さまざまな時間学研究の現状を知る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 授業で学んだ知識をもとに、自分にとっての時間の問題を掘り下げる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業内レポートあるいは小テストの結果で評価されるので、課題に対する関心や意欲が評価されることもある。また、毎回出席することが大切である。					
<b>技能・表現の観点:</b> 授業内レポートあるいは小テストの結果で評価されるので、表現する能力も問われる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
各講師により、授業内レポートあるいは小テストを実施し、その結果で評価を行なう。そのため、各講義への出席はもちろん、講義内容を意欲的に理解する姿勢が重要となる。					
<b>教科書</b>					
時間学概論 / 辻正二ほか:恒星社厚生閣, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001351001
<b>開設科目名</b>	社会科学のためのやさしい統計学 [Elementary Statistics for Social Sciences]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	橋本 寛			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
統計学の初歩的事項について、社会科学分野で必要と思われるものを平易に紹介する。					
<b>授業の一般目標</b>					
統計学における基本的な概念や手法について学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 主要な用語や手法の考え方を理解する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 初歩的な統計処理の方法を習得する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
出席するのが理解の早道です。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月1~2	<b>時間割コード</b>	1001331001
<b>開設科目名</b>	社会学 [Sociology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	高橋 征仁			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>マスクミで大きく報じられている青少年の問題は、誤解と偏見に満ちている。この講義では、主として&lt;青少年&gt;をテーマに取り上げ、その現状や歴史の変容に関する様々なアプローチや調査データを取り上げ、検討していく。なかでも、「失われた10年」と呼ばれる1990年代の高校生の社会意識に着目して、&lt;青少年&gt;をめぐる言説の虚実を明らかにしていくことにする。そうした作業を通じて、&lt;青少年&gt;の変容と日本社会の構造的変動とをリンクしていく社会学的な視座の習得を目指す。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のこれまでの高校生活を、階層や文化、時代の異なった人の視点から相対化して捉える。</li> <li>・教育に付きまとう理想論を一旦保留し、丹念に事実を探求し、その結果に基づいて、分析し、議論する態度を身に付ける。</li> <li>・教育のあり方を、近代社会というマクロな観点とのかかわりから考察する視点を持つ。</li> <li>・日常生活を「あたりまえ」のこととして片付けるのではなく、様々な人間の営みや制度、システムなどの観点から複眼的に再構成していく思考様式を身に付ける。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 代表的な社会学者の業績と主要な概念について理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 社会学における多様なアプローチを用いて、日常生活を理解することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 自分からすすんで調査データや論文を調べ、議論の対立状況を把握しようと努める。</p> <p><b>態度の観点:</b> 常識や先入観、イデオロギーなどに囚われないで、社会的現実を様々な角度からとらえることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 調査データのウソやごまかしをある程度、指摘できるようになる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席レポート40点と学期末試験60点の総合点で評価する。					
<b>教科書</b>					
失われた時代の高校生の意識 / 海野道郎ほか: 有斐閣, 2008					
<b>参考書</b>					
<p>「若者の性」白書 / 日本性教育協会: 小学館, 2007</p> <p>社会統計学 / 片瀬一男: 日本放送出版協会, 2007</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>&lt;青少年&gt;をめぐる言説は、いつの時代も、根拠のない、誤ったものが多いのです。なぜそうなるのか、真実はどこにあるのか、を考えることで、社会の仕組みが少しずつ見えてくることでしょう。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
金5~6					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002331026
<b>開設科目名</b>	社会学 [Sociology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	作田 誠一郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近年の日本経済の変化や人口構造、産業構造などをみると、日本社会は大きな変容の渦中にある。このような現代社会を広範にみていくため、社会学の基礎的な知識や分析方法について理解する。さらに、さまざまな諸問題に直面する現代社会に対して、客観的な視点に立ちながら自らの問題意識を高め、理解を深めるための基礎的な知識や社会の読み方を習得する。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)社会学の基本的な考え方や分析視角を身につける。					
(2)社会学の理論や概念について学び、社会現象を社会学的視点から捉える力を育成する。					
(3)現代社会が抱えている諸問題への意識を高め、客観的な視点から考察し理解できるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 社会学の基礎的な概念を知り、理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 社会学的な知識を現在の社会の現象のなかで応用できる能力を育てる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 社会の諸問題への意識を高め、それらを解決しようという意欲があるか。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価については、出席および授業態度を重視します。また、不定期ですが授業内レポートを提出してもらいます。この結果と定期試験を総合的に判断して成績評価とします。					
<b>教科書</b>					
現代の社会学的解読 / 山本努・辻正二・稲月正:学文社, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001331013
<b>開設科目名</b>	社会学 [Sociology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	林 寛子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
若者をめぐる身近なテーマを事例として、その現状や歴史の変容を検討する。特に若者の社会意識に着目し、若者に対する言説について分析する。また、グループ討議や発表の機会を取り入れ、さまざまな視点に立った問題解決への考察を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
日常生活や意識を社会的視点からとらえ、個人の行動が何によって規定されているのかを考察し、社会問題をとらえて分析する視点を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 社会学の基礎概念について理解できる。					
諸問題についての基本的な知識と論点を理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 諸問題についてさまざまな角度から考察できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活の諸問題へ関心をもち、それらを解決するために意欲的に取り組むことができる。					
<b>態度の観点:</b> グループにおける議論や作業に参加し、協力することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 他者の意見を聞き、自分の考えを論理的にわかりやすく表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験 50%					
授業内レポート(毎回提出) 25%					
グループ発表 25%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
失われた時代の高校生の意識 / 海野道郎ほか:有斐閣, 2008					
検証・若者の変貌 - 失われた10年の後に / 浅野智彦:勁草書房, 2006					
<b>メッセージ</b>					
欠席数が一定程度を超える者は期末試験受験の資格を持たない。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001331010
<b>開設科目名</b>	社会学 [Sociology]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	横田 尚俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>社会学の観点から見ると、私たち人間は、現代社会の動向に否応なく巻き込まれつつ、同時に、当事者としてその動向を左右する存在だといえます。この授業では、そのような社会学の観点から、現代社会の諸相にアプローチしていきます。おもに、都市や農村といった地域社会の変貌と諸問題に焦点を合わせて、できるだけ多くの資料を参照しながら講義します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 都市や農村といった現代地域社会のしくみや変化の趨勢について理解するとともに、現代社会が直面する諸問題への関心を培う。</li> <li>2 社会学の分析視角に触れることによって、受講生各自が、それまで自明だと考えていた社会現象に対する見方を相対化したり、それらを眺める視点を深められるようにする。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 現代日本における地域社会の諸問題、および社会変動の諸相について理解を深める。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 地域社会における諸問題やその変化が、どのような背景の下で生じているのか、それらは私たちの生活にどのような影響を及ぼしているのか、といった点を考察できるようにする。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 現代日本の地域社会の諸相(社会現象や社会問題、社会変動)への関心を培う。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 社会学の概念を用いて、現代社会の諸相を読み解く能力を少しでも身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験 50%、出席 40%、小テストまたは小レポート 10% (詳細は授業の中で説明します)					
<b>教科書</b>					
地域社会へのまなざし / 大久保武・中西典子ほか: 文化書房博文社, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の形式にかかわる質問・相談は、直接口頭でしてください。内容に関する質問は、毎回配付する所定の用紙に記入してもかまいません。コミュニケーションの基本は対面的接触だという方針で、授業を進めたいと思います。</li> <li>2 定期試験は、基本的に、括弧内に用語や人名などを記入してもらう方式(一部については記述式)で行う予定です。教科書、ノート、資料などの持ち込み不可とします。</li> <li>3 受講希望者が 200 名を越える場合には、抽選とする場合があります(その場合、一つの学部の受講生が全受講生の半数を越えないように調整する予定です)。初回の授業に必ず出席してください。</li> </ol>					
<b>連絡先</b>					
<p>メール・アドレス: n.y@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>研究室は人文棟3階 307 室です。来室する場合は、できれば事前にメール、電話などで連絡してください。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001331016
<b>開設科目名</b>	社会学 [Sociology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	辰己 佳寿子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「人は一人では生きていけない」と言われますが、どのように生きているのでしょうか？人は、家族や親族、学校、会社、地域社会、国家、国際社会の中で、直接的にせよ、間接的にせよ、社会と関わりながら生活しています。また、このような社会は刻々と変わりつつあります。社会変容の中で我々はどう生きていけばいいのでしょうか。この講義では、それら社会と個人の関係について考えるために、身近な社会の問題から海外の問題まで様々な事例を社会学的視点から分析していきます。なお、本講義は「顔の見える講義」として展開していきますので、最初の講義で自己紹介をしてもらいます。(受講者が多い場合は初回出席者を優先します。)</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
社会学とは何かを理解し、社会学的な概念を用いて社会現象を理解・説明できるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 社会学の基礎的な概念について理解を深める。					
<b>思考・判断の観点:</b> 社会学的想像力を働かせる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 社会問題に関心をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 日常生活の中で社会問題を主体的に考える。					
<b>技能・表現の観点:</b> 他者の意見を聞き、自分の考えを論理的に表現する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内レポートを数回、授業外レポートを1回行い、各自プレゼンテーションをする。最後に試験を実施する。授業態度も重視する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
社会学講義 / 富永健一:中央公論新社, 1995					
君たちはどう生きるか / 吉野源三郎:岩波書店, 2003					
社会認識の歩み / 内田義彦:岩波書店, 1971					
<b>メッセージ</b>					
自分を取り囲む社会へのアンテナを尖らせて、この講義に参加してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001331021
<b>開設科目名</b>	社会学 [Sociology]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	小谷 典子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
人と人との関係、集団、組織の観点から、社会の現状と変化の方向性を見いだす社会学とはどのような学問であるかを学ぶ					
<b>授業の一般目標</b>					
自分を取り巻く他者、社会を認識し、いかに行動すべきかを学ぶ					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 自己と他者と関係、社会の仕組みに関する社会学の知識を身につける					
<b>思考・判断の観点:</b> 社会の中でいかに行動すべきか、公共性について考える					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分の身の回りに起こっている社会問題に関心に向ける。					
<b>態度の観点:</b> 何事に対しても好奇心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中に実施する数回の小レポートと定期試験の成績とで総合的に評価する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
5236					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 14 時 15 時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001331005
<b>開設科目名</b>	社会学(人権・ジェンダー・人間環境論) [Sociology (Human Rights・Gender・Human Relations Studies)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	鍋山 祥子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>人間は社会的動物である。この世に生まれ落ちた瞬間、いやそれ以前より、私たちは「関係性」の中で生きている。「わたくし個人」という存在は「自分ひとり」のことを指すようでもあり、しかしその個人を存在せしめているものは「関係性」以外の何ものでもない。この関係性を基本的な視点として、講義では毎回異なる身近なテーマを設定する。</p> <p>私たちがこれまで「当たり前」のこととして受け容れてきた事象を社会的に考察すると、そこにはどのような意味世界が広がっているのだろうか。</p> <p>テーマは、社会学とは何か・自分とは何か・家族とは何か・ジェンダーとは何か・労働とは何か・恋愛とは何か・共依存(依存症)とは何か・感情とは何か・消費とは何か・高齢社会とは何か他である。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
日常生活場面を社会的に考察することを通じて、「自分」というものがいかに環境によって定義されており、また「常識」だと思われてきたものがいかに「可変的」なものであるのかということに意識的になることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>・社会学の基礎概念を理解する</p> <p>・社会的なものを見方を修得する</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>・「常識」とされている日常生活のルール・常識を社会的に考察する</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>・探求心を持ち、授業内容について発展的に思考する</p> <p><b>態度の観点:</b>・想像力を持ち、当事者意識をもって、授業に臨む</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>・社会的視点を用いて、現代社会のさまざまな事象・社会問題について読み解く</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と課題提出、学期末試験(授業内容を網羅した内容・論述あり・持ち込み不可)による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。					
配点は、授業内外レポート30%・定期試験70%とする。ただし、定期試験の点数が70点満点中35点に満たない者は不可とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
講義内容を自分の生活に結びつけて思考する想像力が不可欠です。					
<b>連絡先</b>					
Eメール:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 3/4 限					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1001331020
<b>開設科目名</b>	社会福祉学 [Social Welfare Studies]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	看護 検査2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	三輪 直之			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>現代社会においては、さまざまな人々の生活実態やニーズがあり、その生活を支える仕組みもまた多様である。この授業では社会福祉の総論について講義するが、社会福祉は世相との関連が強いことから、特に社会福祉の変遷については、当時の世相や社会背景も交えて講義していく。また、わが国においては少子高齢化や人口減少の一層の進展とともに福祉・医療・保健分野においてもさまざまな改革が行われており、なかでもそれらの統合・連携が注目されているところである。医療職として他の職種とどのような連携をとるべきかについても講義する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会福祉の基礎理念・歴史・思想等について学ぶ。</p> <p>現代における社会福祉および関連分野の諸問題を自ら発掘し考察していく力を身につけ、それら諸問題を医療職という立場からどのような視点で解決にあたるかについて学ぶ。</p> <p>福祉・医療・保健といった分野からのそれぞれのアプローチとそれらが統合された形での連携のありようについて学ぶ。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(70%)、出席(30%)にて評価する。					
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門基礎9 社会保障と生活者の健康[3] 社会福祉 / 小松源助 他:医学書院					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001311015
<b>開設科目名</b>	宗教学 [Science of Religion]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岡村 康夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
「宗教とは何か」について学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
宗教学的立場から具体的宗教事例を手掛かりに「宗教とは何か」を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 宗教についての基本的知識・理解を得る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 「宗教とは何か」について思考し、判断する力を得る。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 宗教についての関心を喚起する。					
<b>態度の観点:</b> 宗教について真摯に考える姿勢を涵養する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 宗教についての自分の考えを表現する力を得る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回レポートと最終試験による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001355007
<b>開設科目名</b>	情報技術と社会			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(獣医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	羽野 光夫, 田中 幹也, 堀田 昌志, 大林 正直, 木戸 尚治, 立山 紘毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001363002
<b>開設科目名</b>	食・環境と健康			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(学教(教科(数)除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宇佐見 晃一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>開発によって造られた環境、物と人のグローバルな流通・移動によって我々の生活が豊かになる一方で、健康の中身は複雑化すると同時に脆弱化している。健康を維持して生活も「安全」「安心」を実感するためには、情報に流されず、誤解を正せるように多方面の基礎的なことを理解することは欠かせない。本講義では、多種多様な食品を享受し、動植物だけでなく自然(環境や景観等)の癒す力に支えられている我々の生活について、農学及び獣医学の視点から、幾つかの向き合うべき課題について学ぶ。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>食育及び食の「安全」「安心」に関する基礎的理解  人獣共通感染症に関する基礎的理解  温熱環境および暑熱環境に関する基礎的理解  活性酸素とストレスに関する基礎的理解</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
各教員が課すレポートの内容及び出席などを総合的に判断する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講者数を最大100名に制限します。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1001333006
<b>開設科目名</b>	心理学 [Psychology]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	看護 検査			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	清 俊夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ある人の行動を理解しようとする場合、その人の客観的な人柄と、その行動が起こった時の客観的な環境が理解できれば、おのずからその行動が理解できるというものではない。客観的な人柄や環境と並んで、その人が環境や自らをどう認知していたかが重要な要因となる。加えて、青年期後期にある皆さんには、自分を知り、自分を確立していくことが重要な課題である。そのことによって初めて、私たちは安定し、自分の目標を持って生き生きと生活できるからである。</p> <p>この授業は、他者の理解や援助、自己の理解や形成の基礎となる心理学の基礎知識やを学ぶ。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>私たちの知(知覚,学習,思考など)、情(感情,動機付け,態度など)、人柄(パーソナリティと自己)について、心理学がこれまで明らかにしてきたものを理解し,加えて自らを振り返り,理解し,自分の人生の目標を少しでも明確にすることを旨とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>心理学に関する基礎的な知識を習得し,説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>人の心が多様なものであることを知り,自己および他者や環境をよりよく理解する。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>心理学に関する興味・関心を増し,心理学の特殊分野である,発達心理学や人間関係論についての学習意欲を持つ。</p> <p><b>態度の観点:</b>他者や社会,さらには自己にたいして,共感的・受容的な理解や対応の構えを身につける。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>自己理解と自己表現,他者の表現の促進と作態を通して,他者との間に健康で良好な人間関係を形成する基盤を築く。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験 50%、小テスト 40%、出席 10%(ただし 4 回以上欠席したものは出席点はない)。遅刻は 1 回につき-1 点)。出席を確認してから、断りなく、教室を抜け出したものは、1 回であっても、出席点はない。</p>					
<b>教科書</b>					
心理学 / ,岡堂哲雄:金子書房,1985					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
再試験はしませんので、日々の授業、小試験、定期試験に真剣に取り組んでください。					
<b>連絡先</b>					
toshisei@yamaguchi-u.ac.jp					
office phone:(0836)22-2802					
授業や会議等の時間を除き随時					
<b>オフィスアワー</b>					
office hour:随時(授業・会議等のないときはいつでも)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001333004
<b>開設科目名</b>	心理学(心と社会の心理学)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	小杉 考司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
しんりがくをはじめるとあって、いちばんだいじなことをおしえます。					
<b>授業の一般目標</b>					
心理学の根本問題である客観性の問題を理解し、その現代的回答としての社会性の意義を知る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 心理学の根本問題である客観性の問題を理解し、その現代的回答としての社会性の意義を知る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間レポートと期末テストで評価する。					
<b>教科書</b>					
ソシオン理論入門 / 藤澤等他: 北大路書房 方法序説 / デカルト: 岩波文庫					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
小杉研究室(教育学部374室)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001333003
<b>開設科目名</b>	心理学(子どものこころを科学する)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	白石 敏行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
心理学とはどのような学問であるのかを概説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
心理学に関する基礎的事項について理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 心理学に関する基礎的事項を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自分の身のまわりの心理学的課題を指摘することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 討議の際、積極的に参加することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業への参加、および学期末のテストをもとに総合的に評価する。 特別な理由を除き、3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
人数制限(上限100名程度)を設けているので、初回には必ず出席すること。 特別な事由がない場合には、初回の欠席者の履修は認めない。 受講態度等、他の受講者に迷惑となるような行為を行った場合には、それ以降の受講は認めない。 子どもの心理の発達に興味のある方の受講を望みます。					
<b>連絡先</b>					
研究室:教育学部4階 404室 電話・ファックス:083 - 933 - 5330 メールアドレス:t-shira@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001333005
<b>開設科目名</b>	心理学(適応と不適応)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	恒吉 徹三			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
こころを理解するための学問である心理学の諸領域の中から、いくつかのトピックスを取り上げて講義します。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)人の意識体験や行動の背景となっている心を理解することが、どれほど日常の暮らしの中での行為であるかを知ること。 (2)心理学とはどのような学問であるのか、心の解明についての研究方法、心への実証的・了解的アプローチの特徴をとらえること。 (3)心をその機能別に区分し、そうした領域の研究成果を示し、様々な現象についての基本的説明概念の理解を深めること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 心理学の基本的な概念や考え方について理解し説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常的なさまざまな事象について心理学的な興味・関心をもってとらえることができる。					
<b>その他の観点:</b> 合計12回以上の出席をもって期末試験の受験資格とします。私語など講義の進行の妨げとなるような行為があつて3回の注意を行った場合を欠格条件とします。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績は、小テスト(第1週から第8週までの講義の小テスト20点)及び期末試験(80点)で評価します。なお、合計10回以上の出席をもって、期末試験の受験資格とします。私語など講義の進行の妨げとなるような行為があつて3回の注意を行った場合も欠格条件とします。また、講義開始後の入室は、理由を問わず一切認めません。正当な理由がある場合には、次の講義のさいに欠席届を提出してください。					
<b>教科書</b>					
[改訂版] はじめて出会う心理学 / 長谷川一寿他:有斐閣アルマ, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回の講義で、受講希望者が120名を超える場合、初回の講義で抽選を行うので必ず本人が出席すること(代理は認めません)。抽選終了後にはいかなる理由であっても追加受講は一切認めないので留意すること(120名に満たない場合、2回目の講義まで受講受付しますが、1回目の講義は欠席として扱います。追加希望者多数の場合、追加受講の希望者だけ2回目の講義で抽選します)。事前学習として、テキストを読んで出席してください。事後学習では、講義内容を復習して理解を深めてください。また、事後学習の一貫として、日ごろから、心理学的な視点で日常生活をとらえてみる時間を作ってください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001333002
<b>開設科目名</b>	心理学(道徳性心理学)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	越中 康治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
道徳性心理学に関する基礎的事項を概説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
道徳性心理学に関する基礎的事項について理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 道徳性心理学に関する基礎的事項を理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 道徳性心理学を中心として心理学に関心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験の成績と毎回の授業で提示する課題(小テストを含む)への取り組みをもとに評価する。欠席3回をもって評価対象外とする。なお、授業開始後の入室は一切認めない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回に出席しなかった者の履修は一切認めない。					
受講希望者数に応じて人数制限を設ける場合がある。					
<b>連絡先</b>					
etchu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001333001
<b>開設科目名</b>	心理学(学習・記憶・認知)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	松田 憲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>現在、心理学では工学や医学といった様々な他領域との共同研究が進められている。その中で心理学が存在意義を示せる点は、原因と結果の間に存在する一般法則を見つけ出し、モデル化を行うことである。本講義では、学習や記憶、思考の各領域において、従来の多くの研究によって明らかとされてきた多くの現象や法則、モデルを紹介し、我々の心理活動にアプローチすることを主眼とする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>心理学において扱われている学習、記憶、認知の各研究分野に焦点を当て、認知心理学の概観を行うことを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>学習や記憶、認知の特性について学ぶ。これらが我々の日常生活とどのように関わり、さらに生活の質を向上させるためにどのように配慮するべきか、についての洞察を深める。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験(期末試験) 出席 実験参加</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>心理学の基礎(三訂版) / 今田寛・宮田洋・賀集寛(共編): 培風館, 2003 学習の心理学 / 今田寛: 培風館, 1996</p>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001342001
<b>開設科目名</b>	数学概論 [General Mathematics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生資			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	荊木 康臣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
自然界に生起する現象は場所や時間に依存して変化するので2つの変数や3つの変数で表されるのがほとんどで、現象の時間的変化や場所的変化を記述する数学的手法が必要となってきます。また、最近では解析にコンピュータは不可欠な道具であり、コンピュータによる分析や解析を念頭においた講義を行います。物質やエネルギー輸送、化学反応などを記述する手法としての微分方程式、多変数をもつ物理量の演算を扱う「行列と行列式」、微分方程式や多くの変数をもつ連立方程式をPCで解くための差分法等の講義を行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
農学は物理学、化学、生物学などを基礎とする応用学問ですが、様々な現象を数式で記述しその変化の傾向をとらえる事が重要になってくる場合が多くあります。また、いろいろな観測、調査に基づいたデータや、実験室でとったデータを整理して解析し、定量的な評価をする場合などに数学は重要になってきます。この講義では数学を通して自然の成り立ち、自然の奥深さを理解することを目的としています。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト、レポート、出席状況で評価する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
mfukada@yamaguchi-u.ac.jp, ibaraki@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001342002
<b>開設科目名</b>	数学概論 [General Mathematics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生機 獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	深田 三夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
自然界に生起する現象は場所や時間に依存して変化するので2つの変数や3つの変数で表されるのがほとんどで、現象の時間的变化や場所的变化を記述する数学的手法が必要となってきます。また、最近では解析にコンピュータは不可欠な道具であり、コンピュータによる分析や解析を念頭においた講義を行います。物質やエネルギー輸送、化学反応などを記述する手法としての微分方程式、多変数をもつ物理量の演算を扱う「行列と行列式」、微分方程式や多くの変数をもつ連立方程式をPCで解くための差分法等の講義を行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
農学は物理学、化学、生物学などを基礎とする応用学問ですが、様々な現象を数式で記述しその変化の傾向をとらえる事が重要になってくる場合が多くあります。また、いろいろな観測、調査に基づいたデータや、実験室でとったデータを整理して解析し、定量的な評価をする場合などに数学は重要になってきます。この講義では数学を通して自然の成り立ち、自然の奥深さを理解することを目的としています。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト、レポート、出席状況で評価する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
mfukada@yamaguchi-u.ac.jp, ibaraki@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001362004
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(エアロビクス)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	学教			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	広田 早苗			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「エアロビクス」は心肺機能を強化する、有酸素運動プログラムとして、英国のケネス・H・クーパー博士により発表され、その後、ダンス的・体操的な動きにリズムミカルな音楽を加味したエアロビク・ダンスが生まれた。現在では、運動強度・難易度を対象者に合わせ、プログラムできる特性を持つことから、老若男女を問わず生涯スポーツとして普及している。</p> <p>本授業では、エアロビクスの技術を生かし「健康(身体づくり)」、「創造(表現づくり)」、「達成(動きづくり)」を指標ととらえ、基本 変化 発展を理解する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>レッスンを通して、多くの仲間とのコミュニケーションを図り、心と身体の活力を高めながら、リズムと一致した運動リズム・空間認知について学習する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>エアロビクスへの理解を深めることが出来る。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>エアロビクス効果の実感が出来る。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>基本的な技術要素を音楽のリズム(ビート)に同調させることが出来るようになる(「ビートテクニック」)。</p> <p><b>態度の観点:</b>リズムに乗って動くことの面白さを体感できる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>基本ステップの習得とそれを使った表現(ルーティーン)の作成・発表が出来る。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>4回以上の欠席は欠格とする。出席と実技への参加度・意欲度を総合評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>エアロビクは、心と身体で楽しむスポーツです。心と身体を開放してリフレッシュ。新しい自分自身を発見してください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001362008
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(エアロビクス)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田中 富美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「エアロビクス」は米国のケネス・H・クーパー博士により1967年初めて提唱された運動処方理論から発し、1970年ジャッキー・ソーレンソンによるダンスの要素を加えた「エアロビクス・ダンス」が生まれ、現在では健康スポーツ・生きがいスポーツの性格を持つ生涯スポーツとして、幅広い年齢層に普及している。本授業では、エアロビクス理論の理解を深め、生涯スポーツへつなげる実践を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>音楽に合わせて、身体を動かすことによって、呼吸・循環系に適度な刺激を与え、また全身の柔軟性や筋力・筋持久力の向上を目的とする。</p> <p>個々の体力に合わせて、運動強度を自覚するとともに、人との係わりの中でコミュニケーションをとりながら表現する力を高め、創作活動を行う。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>エアロビクス(有酸素運動)とは何かについて理解できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>エアロビクスダンスの効果を実感できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>基礎プログラムの習得ができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>個人またグループでの動くことの楽しさを味わうことができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>メインダンスのグループ創作発表を行うことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>4回以上の欠席は、欠格とする。</p> <p>出席と実技への参加度・意欲度を総合的に評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
仲間とのかかわりを持ちながら自分自身の心と身体をほぐし、動く楽しさを味わいましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1001362011
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(エアロビクス)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	2年(実践・情報・健康・総文)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	田中 富美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「エアロビクス」は米国のケネス・H・クーパー博士により1967年初めて提唱された運動処方理論から発し、1970年ジャッキー・ソーレンソンによるダンスの要素を加えた「エアロビクス・ダンス」が生まれ、現在では健康スポーツ・生きがいスポーツの性格を持つ生涯スポーツとして、幅広い年齢層に普及している。本授業では、エアロビクス理論の理解を深め、生涯スポーツへつなげる実践を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>音楽に合わせて、身体を動かすことによって、呼吸・循環系に適度な刺激を与え、また全身の柔軟性や筋力・筋持久力の向上を目的とする。 個々の体力に合わせて、運動強度を自覚するとともに、人との係わりの中でコミュニケーションをとりながら表現する力を高め、創作活動を行う。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>エアロビクス(有酸素運動)とは何かについて理解できる。 <b>思考・判断の観点:</b>エアロビクスダンスの効果を実感できる。 <b>関心・意欲の観点:</b>基礎プログラムの習得ができる。 <b>態度の観点:</b>個人またグループでの動くことの楽しさを味わうことができる。 <b>技能・表現の観点:</b>メインダンスのグループ創作発表を行うことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>4回以上の欠席は、欠格とする。 出席と実技への参加度・意欲度を総合的に評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
仲間とのかかわりを持ちながら自分自身の心と身体をほぐし、動く楽しさを味わいましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001362014
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(エアロビクス)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田中 恵美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
エアロビクダンスは、ジョギングや水泳、サイクリングのかわりにダンスの要素を取り入れたリズムカルな有酸素運動である。プログラムは、初級レベルでウォームアップ(準備運動)、ステップ・メインダンス(有酸素運動)、コンディショニング(筋力強化運動)、クーリング・ダウン(整理運動)を含む60分前後で構成される。終始音楽に合わせて展開され、全体学習、グループ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
エアロビクダンスの特性を知ること。基本ステップの修得を通して、健康・体力づくりを目的に、全身持久力、筋肉の柔軟性、筋持久力、調整力を高め、リズムに合わせて動くことの楽しさ、喜びを追求する。そして、体脂肪測定や運動強度心拍測定実験を通してエアロビクダンスの効果を考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> エアロビクダンスの特性を理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> エアロビク効果を実感する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 基本ステップの修得ができる。					
<b>態度の観点:</b> 動くことの楽しさ、面白さを味わうことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> メインダンスのグループ発表ができる。					
<b>その他の観点:</b> グループ創作に協力することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、グループ創作、意欲、参加度によって総合的に評価する。 欠席4回は欠格とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
動くことの楽しさを実感し、心と身体を開放してのびのびとそしてしなやかに表現できる身体を作っていきましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001362018
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(エアロビクス)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	実践・情報・健康・総文			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田中 恵美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
エアロビックダンスは、ジョギングや水泳、サイクリングのかわりにダンスの要素を取り入れたリズムカルな有酸素運動である。プログラムは、初級レベルでウォームアップ(準備運動)、ステップ・メインダンス(有酸素運動)、コンディショニング(筋力強化運動)、クーリング・ダウン(整理運動)を含む60分前後で構成される。終始音楽に合わせて展開され、全体学習、グループ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
エアロビックダンスの特性を知ること。基本ステップの修得を通して、健康・体力づくりを目的に、全身持久力、筋肉の柔軟性、筋持久力、調整力を高め、リズムに合わせて動くことの楽しさ、喜びを追求する。そして、体脂肪測定や運動強度心拍測定実験を通してエアロビックダンスの効果を考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> エアロビックダンスの特性を理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> エアロビック効果を実感する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 基本ステップの修得ができる。					
<b>態度の観点:</b> 動くことの楽しさ、面白さを味わうことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> メインダンスのグループ発表ができる。					
<b>その他の観点:</b> グループ創作に協力することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、グループ創作、意欲、参加度によって総合的に評価する。 欠席4回は欠格とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
動くことの楽しさを実感し、心と身体を開放してのびのびとそしてしなやかに表現できる身体を作っていきましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001362003
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(硬式テニス)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	学教2年	<b>学年</b>	2~		
<b>担当教員</b>	丹 信介	<b>区分</b>			
<b>授業の概要</b>					
テニスは、生涯を通して楽しめるスポーツの一つである。このようなテニスのゲームを楽しめるようになるためには、最低限の基礎技術の習得が必要となる。この授業では、初心者、初級者を対象の主体とし、テニスのゲームを楽しめるようになるための基礎技術の習得、特にグランドストロークでラリーが行えるようになることを授業の主な目標のひとつとして、授業を進める。授業の後半では、習得した基礎技術実践の場であるゲームを中心に授業を展開する。					
<b>授業の一般目標</b>					
テニスのゲームを楽しむために必要な基礎技術の習得、特にグランドストロークでラリーが行えるようになることを授業の主要な目標のひとつとする。また、ダブルス(シングルス)のゲームを楽しめるよう、ゲームの進め方、ルールを理解し、実際に行えることも目標のひとつとする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的なゲームの進め方、ルールが説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> テニスに関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> テニスのゲームを楽しむために必要な基礎技術の習得、特にグランドストロークでラリーが行えるよう、積極的に努力する。					
<b>技能・表現の観点:</b> テニスのゲームを楽しむために必要な基礎技術の習得、特にグランドストロークでラリーが行えるようになる。自分たちで、セルフジャッジしながら、ゲームが行える。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト / 授業内レポート = 20 ~ 40%					
授業態度や授業への参加度 = 60 ~ 80%					
出席 = 欠格条件					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
テニスシューズを必ず用意して下さい。ラケットは、授業時に貸し出しますが、各自用意したものを使ってもかまいません。					
<b>連絡先</b>					
tan@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 13:00-14:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001362007
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(硬式テニス)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	塩田 正俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>テニスは技術(ラケット・ワーク)、体力(フット・ワーク)そして精神力(ヘッド・ワーク)を要求される、かなりタフなスポーツである。しかし、老若男女をとわず体力、年齢に応じて楽しめるスポーツである。生涯スポーツとして、健康の保持増進に十分寄与するスポーツである。この授業では、基本技術をマスターし、ゲームおよびゲーム進行(審判法)を学習する。また、テニス特有のマナーなどについても学習する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>テニスは生涯スポーツとして、健康の保持増進に十分寄与するスポーツである。テニス技術は一見簡単にマスターできるように見えるが、実際コートにたつてプレーをしてみるとなかなか思いどおりにいかない。まずは基本的な技術をマスターすることから始め、最終的には楽しくゲームができるまでをねらいに行う。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. テニスの技術(ボレー、ストローク、サーブなど)について説明できる。2. テニスの審判法について説明できる。3. テニスに必要な体力要素を説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. ゲームにおいて相手の動きを判断し、その動きに対しどのように動けばいいかを考える。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. ダブルスゲームにおいて相手とのコミュニケーションに関心を持ち、お互いがどのように動けばいいかを考え働きかける(相互にカバーしあう)。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. テニスに要求されるフェアプレーの精神を理解し、日常生活においてもその精神で行動することができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. テニスに必要な基本技術を高める。2. ルールを理解し、テニスゲームの展開や審判ができる。</p> <p><b>その他の観点:</b>特になし</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
欠席4回以上は評価しない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
天候や皆さんの習熟度に応じて授業内容を変更することがあります。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001362009
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(ショートテニス)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	池田 恵子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本授業では、ニュースポーツのひとつであるショートテニスの実習を行う。ショートテニスとは、グリップの短い硬式用テニスラケット、室内テニス用スポンジボール、軽量かつ固定性に優れたネットポストを用いて行うものである。また本スポーツは、屋内コートで行うスポーツの安全性に留意して開発され、かつバドミントンコートなどの既存の施設を利用して行うことを特徴としている。また手のひら感覚で打球・返球が容易に行えるので、テニスの初心者に適している。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本授業では、軽スポーツの理念とニュースポーツについて、およびニュースポーツが生まれた歴史的背景を理解し、安全かつ創造的にスポーツに取り組む能力を修得する。同時に将来にわたって、スポーツを楽しみ、硬式テニスなどのより高度なスポーツ実践にも率先して取り組める基礎技術の修得に努める。具体的には、設備の準備・収納、ゲームの実践、審判、観客の役割を実習することにより、基礎技術・戦略の習熟に加えて、本スポーツの文化規範を包括的に理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 軽スポーツの理念、ニュースポーツが生まれた歴史的背景、ショートテニスのルールを正確に理解することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 安全にコートを設定・収納することができる。2. 効果的な戦術を組み立てることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 応援に参加し、コート外からゲームに協力し、スペクテイタースポーツとしての効果に配慮できる。2. ゲームを楽しむことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. チームづくりに積極的に協力し、仲間と調和的にゲームを運営することができる。2. 日常の運動量について内省し、スポーツに取り組む基礎体力の向上に努めることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. ラリー、サービス、審判、攻防に関する基本技術を修得し、操作することができる。2. より高度な技術に挑戦し、応用できる。</p> <p><b>その他の観点:</b>1. 授業に出席し、より多くのゲーム経験を果たせる。2. 授業外においてもスポーツに参加できる機会の増加に努力できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>1)毎時、実習記録表を提出。(2)軽スポーツの理念に関するレポートの提出。(3)本授業でとりあげたゲームのルールに関する小テストの実施。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>やわらかいスポーツへの招待 - 軽スポーツを科学する - / 奈良女子大学文学部スポーツ科学教室編:同和書院, 1998</p> <p>ニュースポーツ事典:遊戯社</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>硬式テニスを始めてみたいけれど、テニスに苦手意識のある人、室内テニスに挑戦したい人に最適の授業内容です。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>E-mail kiked@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 教育学部 176 池田研究室</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>随時</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001362012
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(ショートテニス)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	2年(実践・情報・健康・総文)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	池田 恵子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本授業では、ニュースポーツのひとつであるショートテニスの実習を行う。ショートテニスとは、グリップの短い硬式用テニスラケット、室内テニス用スポンジボール、軽量かつ固定性に優れたネットポストを用いて行うものである。また本スポーツは、屋内コートで行うスポーツの安全性に留意して開発され、かつパドミントンコートなどの既存の施設を利用して行うことを特徴としている。また手のひら感覚で打球・返球が容易に行えるので、テニスの初心者に適している。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本授業では、軽スポーツの理念とニュースポーツについて、およびニュースポーツが生まれた歴史的背景を理解し、安全かつ創造的にスポーツに取り組む能力を修得する。同時に将来にわたって、スポーツを楽しみ、硬式テニスなどのより高度なスポーツ実践にも率先して取り組める基礎技術の修得に努める。具体的には、設備の準備・収納、ゲームの実践、審判、観客の役割を実習することにより、基礎技術・戦略の習熟に加えて、本スポーツの文化規範を包括的に理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 軽スポーツの理念、ニュースポーツが生まれた歴史的背景、ショートテニスのルールを正確に理解することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 安全にコートを設定・収納することができる。2. 効果的な戦術を組み立てることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 応援に参加し、コート外からゲームに協力し、スペクテイタースポーツとしての効果に配慮できる。2. ゲームを楽しむことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. チームづくりに積極的に協力し、仲間と調和的にゲームを運営することができる。2. 日常の運動量について内省し、スポーツに取り組む基礎体力の向上に努めることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. ラリー、サービス、審判、攻防に関する基本技術を修得し、操作することができる。2. より高度な技術に挑戦し、応用できる。</p> <p><b>その他の観点:</b>1. 授業に出席し、より多くのゲーム経験を果たせる。2. 授業外においてもスポーツに参加できる機会の増加に努力できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>1)毎時、実習記録表を提出。(2)軽スポーツの理念に関するレポートの提出。(3)本授業でとりあげたゲームのルールに関する小テストの実施。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>やわらかいスポーツへの招待 - 軽スポーツを科学する - / 奈良女子大学文学部スポーツ科学教室編:同和書院, 1998</p> <p>ニュースポーツ事典:遊戯社</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>硬式テニスを始めてみたいけれど、テニスに苦手意識のある人、室内テニスに挑戦したい人に最適の授業内容です。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>E-mail kikedada@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 教育学部 176 池田研究室</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>随時</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001362005
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(ターゲットバードゴルフ)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	学教			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮田 浩文			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ターゲットバードゴルフは、羽根つきのボールを普通のゴルフクラブで打つ、ミニゴルフの一種である。羽根が付いているために、強打しても20~30mしか飛ばず、狭いコースでもフルスイングができる。そのため、初心者にも、爽快感があり、適度な技術的難度性も有しているレクリエーションスポーツである。ターゲットバードゴルフは運動量があまり多くないので、各時間の最初20分ぐらいは、ウォーミングアップを兼ねてランニング、補強運動等を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1)基本的なルールの理解  2)基本的なグリップ、スイングの習得  3)簡易コースでのラウンドに必要な知識と技術の習得</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 基本的ルールを説明する。  2. 基本的な技術を理解する。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 結果の反省に基づきスイングの修正を試みる。  <b>態度の観点:</b>1. グループにおける自分の役割を理解し円滑なプレーに協力する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
欠席はいかなる理由があろうとも3回まで。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
時間厳守					
<b>連絡先</b>					
hiro@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日午前中					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001362015
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(バスケットボール)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉浦 崇夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>バスケットボールは、冬期の体育の時間に、室内で楽しく克つ活発に行えることを目的にアメリカの J. A. Naismith によって、1891年に創案されたスポーツである。その特色は、集団対集団のスポーツであること、ボールを持って自由に動けない中でボールを投げたり捕ったりしなければならないこと、相手の身体には触れないこと、ゴールが小さく高い所にあることなどにより、危険が少なくスリルに富みそのルールの中でプレイヤーの自由で創造的活動の出来るゲームであることなどである。</p> <p>本授業では、ゲームを通してバスケットボールの基本的な個人的技能(パス・キャッチ・ドリブル・シュートなど)と集団的技能(ディフェンス・オフェンスなど)を学習する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本授業では、バスケットボールの基本的な個人的技能(パス・キャッチ・ドリブル・シュートなど)、集団的技能(ディフェンス・オフェンスなど)、基本的ルールを学習・修得するとともに、バスケットボールに必要な体力要素を向上させることを通して、生涯スポーツにつながる実践を行う。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1.個人的技能(パス・キャッチ・ドリブル・シュートなど)を説明できる。 2.集団的技能(ディフェンス・オフェンスなど)を説明できる。 3. 基本的ルールを説明できる。 4.バスケットボールに必要な体力要素を説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>種目特性を理解し、時に応じてどのような動作を行えばよいかということに関心を抱く。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>種目特性を理解し、時に応じてどのような動作を行えばよいかということに関心を抱く。</p> <p><b>態度の観点:</b>授業の性格やチーム内での個人の役割を理解し、行動することができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1.バスケットボールに必要な基本的プレー技術を高める。 2.ルールを理解し、審判をすることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業態度や授業への出席状況から評価する。 なお、欠席が4回以上の者には単位を与えない。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>自分勝手な行動は、慎む。 雨天時には、場所の関係から他の種目を実施することもある。 実技のできる服装ならびに体育館履きを各自用意する。</p>					
<b>連絡先</b>					
E-mail takahito@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001362001
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(バドミントン)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	学教2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	小川 千枝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
レクリエーション・スポーツとしてよく知られているバドミントンの基本的な知識・技能の習得および自主的なゲーム運営を通して、生涯にわたってスポーツに親しむための土台を作っていく。また、自身の身体のケアの方法についても学び、健康の保持・増進に関することも学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
バドミントンの特徴や基礎知識を理解し、基本的技能を身につけ、ゲーム(シングルス・ダブルス)の運営・実施が自主的にできるようになる。 ゲームにおいて、相手に応じて作戦を立てたり、フォーメーション(特にダブルスにおいて)を工夫したりして、攻防ができるようになる。 バドミントンで主に使われる身体の部位のウォーミングアップやクーリングダウンの方法を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的なシャトルワークの技術を説明できる。ルールを理解し、審判を行うことができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> バドミントンの種目特性や基礎知識を理解し、課題に応じて練習の仕方を工夫することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> バドミントンの種目特性を理解し、ルール、審判、ゲーム運営等の方法を積極的に学びあうことができる。					
<b>態度の観点:</b> 互いに協力して、安全に留意しながら練習およびゲームの運営に取り組むことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本的なショットができる。 様々なショットを使い分け、ラリーを続けることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業態度・授業への参加度、技能レベル、提出物(プリント)などを総合的に評価します。欠席が4回以上の者には単位を与えません。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
「遅刻をしない」「話を聞く」などの、授業を受ける際の当たり前のルールだけはしっかり守ってください。はじめをつけたうえで、楽しくバドミントンをしましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001362006
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(バドミントン)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	学教			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	小川 千枝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
レクリエーション・スポーツとしてよく知られているバドミントンの基本的な知識・技能の習得および自主的なゲーム運営を通して、生涯にわたってスポーツに親しむための土台を作っていく。また、自身の身体のケアの方法についても学び、健康の保持・増進に関することも学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
バドミントンの特徴や基礎知識を理解し、基本的技能を身につけ、ゲーム(シングルス・ダブルス)の運営・実施が自主的にできるようになる。 ゲームにおいて、相手に応じて作戦を立てたり、フォーメーション(特にダブルスにおいて)を工夫したりして、攻防ができるようになる。 バドミントンで主に使われる身体の部位のウォーミングアップやクーリングダウンの方法を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的なシャトルワークの技術を説明できる。ルールを理解し、審判を行うことができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> バドミントンの種目特性や基礎知識を理解し、課題に応じて練習の仕方を工夫することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> バドミントンの種目特性を理解し、ルール、審判、ゲーム運営等の方法を積極的に学びあうことができる。					
<b>態度の観点:</b> 互いに協力して、安全に留意しながら練習およびゲームの運営に取り組むことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本的なショットができる。 様々なショットを使い分け、ラリーを続けることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業態度・授業への参加度、技能レベル、提出物(プリント)などを総合的に評価します。欠席が4回以上の者には単位を与えません。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
「遅刻をしない」「話を聞く」などの、授業を受ける際の当たり前のルールだけはしっかり守ってください。はじめをつけたうえで、楽しくバドミントンをしましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001362010
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(バドミントン)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岡野 亮介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
バドミントンはラケットでシャトルを打ち合うネット型の対人的スポーツであり、誰でも生涯を通じて楽しむことのできるスポーツである。本授業では、バドミントンの基礎技能(サーブ、レシーブ、基本フライト、ストローク等)とルールを修得し、簡易ルールおよび正式なルールの下にシングルスおよびダブルスで試合と審判が行えるようにする。					
<b>授業の一般目標</b>					
バドミントンの基礎技術の訓練やゲームを通じて、スポーツを楽しみ、円滑な人間関係のもと、生涯スポーツを実践する能力を養うことを目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎技能の修得、ルールの理解、審判の方法。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に行動できる。他人との共同作業が円滑にできる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 的確な知覚 - 運動行動が遂行できる。効果的な戦術がとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業中の態度、授業中の技能テスト					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
バドミントンを楽しみましょう。					
<b>連絡先</b>					
山口福祉文化大学 Tel 0838-24-4046					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001362019
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(バドミントン)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	実践・情報・健康・総文			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	上田 真寿美			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
健康を保持・増進するには、継続的な運動の実施は必要不可欠である。本授業では、社会体育でも積極的に活動が行われているバドミントンを実習し、生涯にわたってスポーツを楽しむ方法を学習する。バドミンのルールはもちろんのこと、バドミントンによって得られる運動生理・心理学的な効果についても学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
バドミンの基礎的技術、具体的にはダブルスのゲームが可能な範囲までを習得する。そしてルールを学び、自主的にゲームの運営が実施できるようになることを目標とする。さらにバドミントンによって得られる運動生理・心理学的な効果についても確認しながら実施することを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.個人的技能(ハイクリア、ドロップ、スマッシュ、サーブなど)を説明できる。 2.短時間の練習メニューをたてることできる。 3.基本的ルールを理解し、説明できる。 4.ルールに則ったゲーム運営や審判方法を説明できる。 5.コート設営や用具等の管理方法を理解し、安全に留意した管理ができる。 6.バドミントンに必要な体力要素を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.技術向上にはどのような練習方法が必要かを考え、実行することができる。 2.効率的なゲーム運営には何が必要なのかを考え、実行することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1.バドミンの種目特性を理解し、ルール、審判、ゲーム運営等の方法を積極的に学びあうことができる。					
<b>態度の観点:</b> 1.授業の性格や班(ペア)内での個人の役割を理解し、行動することができる。 2.班員やペアを協力して、積極的に授業に参加することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1.バドミントンに必要な基本的プレー技術を高める。 2.ルールを理解し、試合の運営、審判をすることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業態度や授業への出席状況から評価する。 なお、出席が4回以上の者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
履修者が50名を越えた場合は抽選を行うことがあるので、初回は必ず出席のこと。 運動のできる服装と上履きを準備すること。 グループ学習形式を採っており、遅刻は他学生へも迷惑がかかるため厳禁とする。					
<b>連絡先</b>					
メールアドレス:masumi-u@yamaguchi-u.ac.jp、通常は宇部キャンパス(医学部医学科医療環境学講座研究室)にいます。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001362002
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(バレーボール)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	学教2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	曾根 涼子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、バレーボールの理論(技術や戦略)について学び、実践する。その中で、体力の向上や仲間づくりも大切な目的としている。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボールの理論について学び、実践する。</li> <li>・体力を向上させる。</li> <li>・仲間づくりを行う。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> バレーボールのゲームをする際に必要な動き・ルールを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 相手の状況・自分のチームの状況を分析しながら、次の動きを予測する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的にゲームに加わる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分のチームが考えた戦術に応じて動く。					
適切に審判ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
実技試験の成績、授業への取組等による総合評価で行う。出席は欠格条件である。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
教育学部101-1					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日13~15時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001362013
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(バレーボール)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	2年(実践・情報・健康・総文)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	友定 保博			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
バレーボールのグループ学習で、互いに協力して練習やゲームができるようにし、自他の技能の向上をはかる。					
<b>授業の一般目標</b>					
チームの課題や自己の能力に適した課題をもってバレーボールを行い、技能を身につけ、作戦を生かした攻防を展開するゲームができるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> バレーボールの技術構造を理解し、技能向上のための練習計画を立案できる					
<b>思考・判断の観点:</b> チームで作戦を考え、それを生かし攻防を展開できる					
<b>関心・意欲の観点:</b> チームで協力して練習やゲームができる					
<b>技能・表現の観点:</b> チーム内で教えあい、互いに技能向上の努力ができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への参加度 70%、授業内レポート 10%、期末試験 10%、宿題 10%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tomo-y@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001362016
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(バレーボール)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	牧野 共明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>スポーツは文化の一つとして捉えることができるが、中でもバレーボールは近代に入って意図的に作られたスポーツ種目である。本授業では、バレーボールの楽しさを追求していくとともにバレーボールの運営、技術、戦略について理解していく。さらにバレーボールを含めたスポーツを「体力や健康の維持・増進」という面のみでなく、「人間として豊かに生きる」という観点から実践することを求めている。</p> <p>また、今日ではスポーツは授業で行ったり、大学のクラブで行ったりするだけでなく、大学を卒業してからも地域や企業内のクラブ等で続けることが求められる。しかし、現在そこには多くの問題が内包されている。そして、それらが解決できないために、スポーツ教室やクラブを続けられないという状況もたくさん生まれている。この授業では、そのようなことを踏まえ、生涯、スポーツと十分に関わるためにどのような知識や技能・技術が必要なのかということを考えながら実技を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1)スポーツをするための必要条件である、「人とかかわる能力」を一層身につけるため、運営に必要なグループ作りやある程度のルール作りを受講者が話し合いながら決めていく。</p> <p>(2)ゲームを軸に、バレーボールの戦術・戦略・審判法を経験を通して学ぶ。</p> <p>(3)バレーボールをするために必要な場作りを実技を通して学ぶ。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>バレーボールのゲームをする際に必要な動き・ルールがわかる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>相手の状況・自分のチームの状況を分析しながら、先のプレーを予測する。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>積極的にゲームに参加する</p> <p><b>態度の観点:</b>自ら進んで授業に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>チームが考えた戦術・戦略に応じて動ける。また、適切な審判ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席及び実技試験の成績等による総合評価で行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
話し合いながら授業を進めていくので、自分の意見が言え、人の意見が聞ける能力を身につけて欲しい。					
<b>連絡先</b>					
747-1232 防府市台道 1346-2 山口短期大学 0835-32-0138 watakabe@yamaguchi-jc.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001362020
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(バレーボール)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	実践・情報・健康・総文			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	手島 史子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>スポーツは文化の一つとして捉えることができるが、中でもバレーボールは近代に入って意図的に作られたスポーツ種目である。本授業では、バレーボールの楽しさを追求していくとともにバレーボールの運営、技術、戦略について理解していく。さらにバレーボールを含めたスポーツを「体力や健康の維持・増進」という面のみでなく、「人間として豊かに生きる」という観点から実践することを求めている。</p> <p>また、今日ではスポーツは授業で行ったり、大学のクラブで行ったりするだけでなく、大学を卒業してからも地域や企業内のクラブ等で続けることが求められる。しかし、現在そこには多くの問題が内包されている。そして、それらが解決できないために、スポーツ教室やクラブを続けられないという状況もたくさん生まれている。この授業では、そのようなことを踏まえ、生涯、スポーツと十分に関わるためにどのような知識や技能・技術が必要なのかということを考えながら実技を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1)スポーツをするための必要条件である、「人とかかわる能力」を一層身につけるため、運営に必要なグループ作りやある程度のルール作りを受講者が話し合いながら決めていく。</p> <p>(2)ゲームを軸に、バレーボールの戦術・戦略・審判法を経験を通して学ぶ。</p> <p>(3)バレーボールをするために必要な場作りを実技を通して学ぶ。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>バレーボールのゲームをする際に必要な動き・ルールがわかる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>相手の状況・自分のチームの状況を分析しながら、先のプレーを予測する。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>積極的にゲームに参加する</p> <p><b>態度の観点:</b>自ら進んで授業に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>チームが考えた戦術・戦略に応じて動ける。また、適切な審判ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席及び実技試験の成績等による総合評価で行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
話し合いながら授業を進めていくので、自分の意見が言え、人の意見が聞ける能力を身につけて欲しい。					
<b>連絡先</b>					
747-1232 防府市台道 1346-2 山口短期大学 0835-32-0138 watakabe@yamaguchi-jc.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001362021
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(フィットネストレーニング)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	実践・情報・健康・総文			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	河合 洋祐			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>フィットネスとは健康で活動的に行動できる能力を表す言葉である。適切な身体運動を継続していると運動に対して身体が適応し、フィットネスが向上する。フィットネスを高めるための適切な身体運動は個人の身体的条件によって異なる。本実習ではフィットネスを高め、ゆとりある日常生活を送るために必要なトレーニングの基本的考え方と個人の身体的条件に適した運動の実施方法を実技を通して習得する。また、トレーニング機器を安全かつ効果的に使用方法を紹介する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本実習ではフィットネスを高め、ゆとりある日常生活を送るために必要なトレーニングの基本的考え方を理解し、個人の身体的条件に適したトレーニングの実施方法を実技を通して習得するとともに、トレーニング機器の安全かつ効果的な使用方法を学ぶ。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. フィットネスを高めるためのトレーニングの基本原則を説明できる。					
2. 主な筋の名称と作用を関係づけて説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 運動強度、持続時間などの違いによるトレーニング効果の相違を指摘できる。					
2. 適切に負荷を設定し、トレーニング効果を上げるとともに安全に配慮して危険を避けることができる。					
3. 身体条件を考慮してプログラム内容を変更できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 自身に適したトレーニング方法に関心を持ち、授業で設定した目標に意欲的に取り組むことができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. グループ内で協調して行動できる。					
2. トレーニングの結果を正確に記録し、トレーニング・プログラムの改善に役立てることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 正しい方法で機器を使用できる。					
2. 安全な方法で運動を実施できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
欠席3回以内で、トレーニングの記録とレポートを提出することが単位認定の条件である。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001362017
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(フライングディスク)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	松本 耕二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>プラスチック製の円盤「フライングディスク(FD)」を使って行う世界公認10種目(+日本公認1種目)の基本技術・ルールを紹介・学習します。</p> <p>本実習では、フライングディスクの基本技術の習得とルールの理解をとおして、一人のできる個人種目からチーム種目、また運動強度の軽い「ディスクゴルフ」からハードなチーム競技「アルティメット」までが楽しめる技術・能力を身につけ、スポーツライフを豊かにする資質を育てます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
フライングディスクの基本および応用技術の習得と、各競技ルールの理解を図り、プレーヤー個々人が、各ライフステージや体力・技術に応じた運動・スポーツ活動実践(生涯スポーツ)のための視点を養うことを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>フライングディスクの概念が理解できる。</p> <p>種目の特徴と特性、および基本ルールを把握し説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>実施場所やメンバーなど状況に応じて、関わり方やプレー・スタイルを変化させることができる。</p> <p>ルールにある種目特性を理解できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>授業および種目特性に関心を持ち、主体的、積極的に活動に参画できる。</p> <p>メンバーとの関係やチームづくりに寄与できる。</p> <p><b>態度の観点:</b>授業の性格やチーム内での個人の役割を理解し、状況に応じて主体的に行動することができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>種目の基本的・基礎的技術を習得し、応用できる。</p> <p>ルールを理解し、グループリーダーや審判など、コーディネートすることができる。</p> <p><b>その他の観点:</b>欠席が4回以上、またレポート提出がない者は成績評価をしない(単位取得不可)。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席(60%)、授業態度や授業への参加度(20~40%)、技術・技能(20~40%)、レポート(10%未満)等にて総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
フライングディスクのすすめ / 日本フライングディスク協会:ベースボールマガジン社,1988					
フライングディスクをやってみよう - アルティメットの基礎と応用 (増補版) / ジェームス・スタダラス:ナッブ,2008					
フライングディスク入門 アルティメットのすすめ / 日本フライングディスク協会:タッチダウン,1992					
<b>メッセージ</b>					
実施種目等は、施設の状況、天候等により変更することがあります。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月 9～10	<b>時間割コード</b>	1001353009
<b>開設科目名</b>	生活科学 [Human Life Science]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全(工除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	星野 裕之, 五島 淑子, 阿濱 茂樹			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
生活に関わる衣・食・技術・環境をテーマに、身近な生活にある諸問題を例にあげ、生活問題意識の向上と、生活様式の改善への働きかけをする。具体的には、「衣と生活」、「食と生活」、「情報技術の必要性」、「ものづくりの大切さ」について学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
身近な生活を科学の視点で捉えられるとともに、よりよい生活行動を考えられる態度を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 生活に関わる衣・食・技術・環境に関する知識を深める。					
2. 身近な生活環境の問題と地球的な環境問題を関連づけることができる。					
3. 自分たちの生活をよりよくするための環境改善の問題を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 生活を改善するために必要な身近な行動を指摘できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 身近な生活の問題や改善のための行動に取り組むことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席状況と3回のレポートで評価する。なお、3回のレポートが提出されなければ単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各週の講義の順番は変更されることがあります。					
教室の大きさに応じて受講制限をします。					
<b>連絡先</b>					
星野研究室 教育学部3階300号室 hshino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001353010
<b>開設科目名</b>	生活科学 [Human Life Science]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山本 善積, 入江 和夫, 山田 次郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、生活科学の因子の中から、日常生活に極めて関りの深いものとして、「食物」「水・空気」「住生活」を取り上げる。具体的には、「食品の安全性」、「水の汚染と室内空気汚染」、「住生活の環境問題」について学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
身近な生活科学を健康、環境、科学の視点から捉え、自分の生活の仕方の改善に向けた態度を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.食品の諸問題 2.水汚染と室内空気汚染 3.住生活の環境問題について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> それぞれの課題の理解を通して生活の仕方と課題を関連づけられる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> それぞれの課題の理解を通して関心を高める。					
<b>態度の観点:</b> それぞれの課題の理解を通して、生活の仕方を改善できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業は3人の教員が担当し、評価は小テストやレポートで行う。3項目に関するレポート等を必ず提出すること。また、欠席状況も加味し、出席が70%未満の場合は単位を与えない(欠格条件)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
「水の環境戦略」/ 中西準子:岩波新書					
<b>メッセージ</b>					
授業に参加し、自らの意志で考え、自分の意見や考えを構築すること。					
<b>連絡先</b>					
山本善積:yoshizum@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 5～6	<b>時間割コード</b>	1001331022
<b>開設科目名</b>	政治学 [Politics]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全(経除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	渡邊 幹雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
政治とはなにか。人間の生活において、政治という営みはどのような意味をもつのか、を平明に説明してゆく。政治を学問的に理解することをめざしますので、新聞紙面で学習できるようなことについて講義する予定はありません。政治家になれるとか、次はだれが総理大臣になるとか、次の選挙ではどの政党が勝つか、そのような知識を期待している人には向かない授業です。					
<b>授業の一般目標</b>					
人間にとって政治とはなんなのか。政治を学問的に考えるとどういうことなのかを理解できるようにすることが、この授業の一般的な目標です。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績はすべて期末試験によって決定します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
授業終了後の一定時間ならば、いつでも結構です。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001353005
<b>開設科目名</b>	生命科学概論 [Introduction to Life Science]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	和田 直己, 度会 雅久, 山本 芳実			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
脊椎動物の進化と locomotion					
<b>授業の一般目標</b>					
進化の対するあたらしい知識の付与とイメージの構築					
<b>授業の到達目標</b>					
その他の観点: 関心を持ってもらう。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木 11～12	<b>時間割コード</b>	1001353006
<b>開設科目名</b>	生命科学概論 [Introduction to Life Science]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	河野 道生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ヒトの生物学、特に免疫システム、発癌および感染症について、そのしくみやその生命現象につき概説する。1)免疫システム: 細菌やウイルスから身体を守っている免疫システムについて、免疫システムに関するリンパ球がどのようにして細菌やウイルスを認識しているかを学習する。2)癌(がん)について: 癌とはいかなるものか、具体的に胃癌、子宮癌などの例をあげながら、学習する。3)感染症について: われわれの身体は、常に外界からの細菌やウイルスにさらされている。実際に、細菌の感染につき細菌とそれと戦うリンパ球などの働きを学習する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 免疫システムの概略を理解する。</li> <li>2. リンパ球の異物(抗原)の認識の仕方を理解する。</li> <li>3. がんとは何かを理解する。</li> <li>4. 実際の胃癌や子宮癌などの概略を理解する。</li> <li>5. 細菌とは何かを理解する。</li> <li>6. 感染症とは何かを理解する。</li> <li>7. 全体として、生命現象の複雑さや生体反応の精巧さに視点を向けることができるようになる。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 免疫システムを理解する。がんとは何かを理解する。細菌や感染症とは何かを理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 生命現象の複雑さや生体反応の精巧さに視点を向けられる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 日常的な感染症に関心をもてる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 不明な点につき、積極的に学習する姿勢を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席状況と試験(課題レポート作成)結果により総合評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
河野道生(医学系研究科・細胞シグナル解析学) mkawano@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1001343001
<b>開設科目名</b>	生命現象のいろいろ			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(検査除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	中井 彰			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医学・生物学でのヒトの生命現象がどのようなものであるかを認識し、その生命現象の機構を概略的に理解する。これにより、生命体としてのヒトのからだのしくみ及び働きについて主体的に考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
特にヒトを対象とした様々な生命現象につき、概略的および個別的な具体的事象を取り上げて、それらの現象とその機構につき理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. ヒトの生命現象について、具体例を挙げてその概略を説明できる。 ? 2. ヒトの生命現象の具体例について、その機構を説明できる。?					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. ヒトの生命現象の理解から、自身の生命体としての位置付けを想定できる。?					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. ヒトの生命現象の概略的理解から、日常的な事項への問題意識をもつことができる。?					
<b>態度の観点:</b> ? 1. ヒトの生命現象へのさらなる理解および問題解決へ積極的に参加する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価は、出席とレポート評価を総合しておこなう。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各講義ごとに、各自が最低1つは課題を挙げて、それについて論理的にまとめ、さらに感想を記述していただきます。理解を深めるためにも、質問するなど授業に積極的に参加して下さい。					
<b>連絡先</b>					
医学部生化学第2講座 中井 彰: anakai@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日15:00 - 17:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001311010
<b>開設科目名</b>	生命倫理学 [Bioethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	谷田 憲俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医療には医科学で解決できない諸問題が存在することを理解し、自らが考えて判断できる基礎を築くことを目的とする。そのため、授業では医療に関する様々な課題を提供し、多様な視点からの議論を紹介する。学生には、それぞれについて意見を求め、討論をしながら授業を進めていく。さらに、課題についてのレポートを求め、自己の考えを整理しながら生命倫理に関する素養を修得できるようにする。					
<b>授業の一般目標</b>					
医療について自らが考え・判断する能力を養い、真に人間的な幸福・豊かさを探求するための「礎」を築く。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 道徳や倫理、生命倫理を理解する。医療の歴史を知る。インフォームド・コンセントの理念を理解する。医療情報の重要性を理解する。尊厳死や安楽死を理解する。脳死・臓器移植にまつわる諸問題を述べられる。生殖医療の課題を理解する。終末期医療が提起する問題を理解する。医療過誤にまつわる課題を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自己の価値観を大切にし、異なる価値観の他者と対話できるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題を分析し論理的な解決方法を模索できる。医療の歴史から現代の諸問題の背景を知る。生殖医療がもたらす影響を理解する。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加する。インフォームド・コンセントから人権尊重の態度を修得する。					
<b>技能・表現の観点:</b> コミュニケーション術を学び、適切な人間関係を構築する基礎を修得する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学業への態度とレポート点60%、試験結果40%					
<b>教科書</b>					
インフォームド・コンセント その誤解・曲解・正解 / 谷田憲俊: NPO 医薬ビジネスセンター, 2006					
<b>参考書</b>					
幸せをよぶコミュニケーション / ジャック・サロメ: 行路社, 2004					
患者の権利 患者本位で安全な医療の実現のために / ジョージ・J・アナス: 明石書店, 2007					
患者・家族の緩和ケアを支援するスピリチュアルケア 初診から悲嘆まで / 谷田憲俊: 診断と治療社, 2008					
<b>メッセージ</b>					
PowerPoint ファイル講義資料を希望する学生は、tanida@yamaguchi-u.ac.jp までメールすること。なお、ファイルが大きいので2Mほどの容量を要する。また、さかのぼっての送付はしないし、講義終了とともに、この受付は停止するので留意すること。					
<b>連絡先</b>					
tanida@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
学生はいつでも訪問歓迎(留守の時はご容赦を)。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001311011
<b>開設科目名</b>	生命倫理学 [Bioethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	谷田 憲俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医療には医科学で解決できない諸問題が存在することを理解し、自らが考えて判断できる基礎を築くことを目的とする。そのため、授業では医療に関する様々な課題を提供し、多様な視点からの議論を紹介する。学生には、それぞれについて意見を求め、討論をしながら授業を進めていく。さらに、課題についてのレポートを求め、自己の考えを整理しながら生命倫理に関する素養を修得できるようにする。					
<b>授業の一般目標</b>					
医療について自らが考え・判断する能力を養い、真に人間的な幸福・豊かさを探求するための「礎」を築く。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 道徳や倫理、生命倫理を理解する。医療の歴史を知る。インフォームド・コンセントの理念を理解する。医療情報の重要性を理解する。尊厳死や安楽死を理解する。脳死・臓器移植にまつわる諸問題を述べられる。生殖医療の課題を理解する。終末期医療が提起する問題を理解する。医療過誤にまつわる課題を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自己の価値観を大切にし、異なる価値観の他者と対話できるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題を分析し論理的な解決方法を模索できる。医療の歴史から現代の諸問題の背景を知る。生殖医療がもたらす影響を理解する。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加する。インフォームド・コンセントから人権尊重の態度を修得する。					
<b>技能・表現の観点:</b> コミュニケーション術を学び、適切な人間関係を構築する基礎を修得する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学業への態度とレポート点60%、試験結果40%					
<b>教科書</b>					
インフォームド・コンセント その誤解・曲解・正解 / 谷田憲俊: NPO 医薬ビジネスセンター, 2006					
<b>参考書</b>					
幸せをよぶコミュニケーション / ジャック・サロメ: 行路社, 2004					
患者の権利 患者本位で安全な医療の実現のために / ジョージ・J・アナス: 明石書店, 2007					
患者・家族の緩和ケアを支援するスピリチュアルケア 初診から悲嘆まで / 谷田憲俊: 診断と治療社, 2008					
<b>メッセージ</b>					
PowerPoint ファイル講義資料を希望する学生は、tanida@yamaguchi-u.ac.jp までメールすること。なお、ファイルが大きいので2Mほどの容量を要する。また、さかのぼっての送付はしないし、講義終了とともに、この受付は停止するので留意すること。					
<b>連絡先</b>					
tanida@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
学生はいつでも訪問歓迎(留守の時はご容赦を)。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001311012
<b>開設科目名</b>	生命倫理学 [Bioethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	村瀬 ひろみ			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>近年、科学技術の発展とともに、医療をめぐる技術にも大きな変化があります。また、病気の種類や治療に対する考え方も変化してきました。従来の「おまかせ医療」では、解決できない問題が出てきています。本授業では、脳死・臓器移植や、高度生殖医療などの最先端技術について倫理問題としての側面からアプローチします。医療者としてではなく、一般の医療サービスを受ける人としての立場から、技術内容、問題点を理解できるようにします。(もちろん、医療関係者の卵の方も大歓迎です)。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>近年、激動の医療現場では、さまざまな利害が衝突し、また、価値を伴う判断を迫られることになってきました。そのような場合に、判断の根拠となるものが「倫理」です。本講では、生命や医療にまつわる生命倫理学の立場から、さまざまな医療環境における問題を考える力を養うことを目的とします。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>高度先端医療の概略と問題点が理解できる。生命倫理学における、問題把握のための諸概念が理解できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>個別のケースごとに、かかわる人々の立場を理解し、尊重したうえで、解決への道をさくることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>基本的に、ペーパー試験のみとする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>医療倫理Ⅰ・Ⅱ / グレゴリー・E・ペンス:みすず書房, 2000</p> <p>医の倫理 / H・プロディ:東京大学出版局, 1983</p> <p>私的所有論 / 立岩真也:勁草書房, 1997</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>意欲的な取り組みを期待しています。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1001312009
<b>開設科目名</b>	西洋史 [Occidental History]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	眞木 利江			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近代建築の史的展開を概観し、各時代の建築が成立した背景、建築家の設計理念、建築理論、および空間構成の手法を解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)近代建築の史的展開を理解する。					
(2)各時代の建築が成立した背景、建築理論、空間意味を理解する。					
(3)建築家の設計理念、空間構成の手法を理解する。					
(4)空間デザインに対する認識を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 近代建築の史的展開を理解する。					
各時代の建築が成立した背景、建築理論、空間意味を理解する。					
建築家の設計理念、空間構成の手法を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 空間デザインに対する認識を深める。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験により評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
近代建築史 / 桐敷真次郎:共立出版,2001					
近代建築史 / 石田潤一郎他:昭和堂,1998					
<b>メッセージ</b>					
建築やデザインに関心を持つ学生の受講を希望する。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001312010
<b>開設科目名</b>	西洋史 [Occidental History]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	古賀 大介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
みなさんは高校生時代、教科書に書かれている「歴史」は絶対的に正しいと習ってきたと思います。しかも、みなさんにとっての「歴史」は、暗記科目であったと思います。本講義では、こうした「常識」を突き崩すことから始めます。そして、西洋史・経済史をベースとしながら、歴史的な発想・考え方を養う訓練をしていきます。最終的には、今を、そしてこれから生きる私たちに「歴史」(歴史的考え方)が、いかなる意味を持つのか、一緒に考えてみたいと思います。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 高校までに習った「歴史」に対するイメージを転換する。 2. 西洋史・経済史をベースとしながら現代社会・経済の様々な問題を相対化する眼を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席(コメント票に対する評価)と、定期試験の総合評価となります。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
本講義は、ある一つのテーマ・専門領域を深く追求するといったスタイルの講義と異なります。テーマ追求型の講義スタイルを期待する方はご遠慮ください。頭が固い人、講義はこうあるべきだという固定観念がある人にもお勧めできません。ただ、暗記が苦手だけど歴史は好きだという人、世の中の仕組みを真剣に知りたい人は、ぜひ受講してみてください。本講義では、史実の紹介よりも「歴史的」考え方の紹介に力点が置かれます。 応募者多数の場合、やる気と文系 > 理系の順での選抜となります。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金7~8	<b>時間割コード</b>	1001312011
<b>開設科目名</b>	西洋史 [Occidental History]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尼川 創二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>大航海時代とは、ヨーロッパ人の航海と探検によって、全世界が一つになる発端 同時にそれはヨーロッパ人による世界支配の発端でもあった が現われた時代、すなわち15世紀末から17世紀中頃までの時期をさす。まず、なぜヨーロッパ人のみが、とくに初期にあつてはポルトガル人とスペイン人のみがそうした大規模な活動を行なったのかという点が問題になる。ポルトガル人とスペイン人をして、そうした活動に乗り出させたものは何であったか。また、そうした活動を可能にしたものは何であったのか。そして航海と探検に関しては後発国であったオランダとイギリスが、やがてはイベリア勢力に追いつき、追い越すのはなぜなのか。こうした問題の考察を縦軸としながら、更にまた、この時期に世界の各地で展開された諸民族、諸文化の接触・交渉・衝突を素材として、民族や宗教の問題についても考えてみたい。また、コロンブス、マゼラン、コルテス、ピサロ、ザビエル、ラス・カサスなどの強烈な人間像にもできるだけ触れてみたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>ヨーロッパの封建社会の崩壊過程からはじめて、危機に直面した西欧諸国が東方から伝わった航海術を自分なりに組み替え、立て直して、新たな環境の中で育て上げた装具で身を固め、ヨーロッパ外の世界へと乗り出していくのを見るのは、一つの快感であろうが、そこそこに撒き散らされた不和と衝突のあとをたどることも、我々にとって意義深いことである。</p> <p>【80名限定、それ以上来た場合は、試験を行なう。】</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>大航海時代について知識・理解を深める。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>大航海時代が残した諸問題について考える。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>大航海時代が係る諸地域また諸時代について何故にこれはこうなったのかということに関心を持つ。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講生制限80名。無断欠席1回につきマイナス5点。遅刻1回につきマイナス2点。期末試験は100点満点。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
月14:10 - 16:10					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1001313001
<b>開設科目名</b>	漱石の思想 [The Thoughts of Natsume Souseki I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	村上 林造			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
漱石の生涯をたどりながら、近代社会の問題点について考察し、思想家としての彼が時代とどう向かい合い、克服したかを解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
近代社会の特質と問題点を理解する。 「学ぶこと」の意義を理解し、大学での自分の課題を明確にして、それに立ち向かう姿勢と方法を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績は、授業内レポート、小レポート、期末レポートによって行う。 欠席4回に及んだものは履修を認めない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月1~4	<b>時間割コード</b>	1001379018
<b>開設科目名</b>	総合科目(医療環境論)			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>	医学3年,検査3年			<b>学年</b>	3~
<b>担当教員</b>	星野 晋, 清 俊夫, 松田 昌子, 中澤 淳, 沖田 一彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
「医療環境」とは、医療が前提とする自然・社会・文化的条件である。人が病気になるとはどういうことか、これに応える医療とはどのような行為であるかという問いかけを核に、医学・医療とさまざまな周辺学問領域の橋渡しを試みる。					
<b>授業の一般目標</b>					
医学・医療の前提をなす自然・社会・文化的環境すなわち「医療環境」の全体像を、Life、地球環境、身体、文化的多様性、社会等の概念・軸を用いて理解し、その中における医学・医療の位置づけを把握し、人間の病と健康をめぐるさまざまな問題を総合的に捉える視点と態度を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 医療と関わる様々な学問分野の視点、基本的用語、概念、方法論を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 各回の授業で示されたテーマについて、あるいは自身の問題意識に基づいて自分なりに考察し意見を表明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 与えられたあるいは自身が見いだした課題への理解を深めるために、積極的に資料収集、ディスカッション、プレゼンテーションなどができる。					
<b>態度の観点:</b> 毎回出席し、他者に迷惑をかけない授業姿勢を保つ。小グループ討論やグループ作業の際には、積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 資料収集、ディスカッション、プレゼンテーションなどのスキルを身につける					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出欠をかねた毎回の授業に対するコメント(小レポート)、小グループによる課題研究およびプレゼンテーション、レポート					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
hoshino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日午後 医療環境学分野(医療人類学)研究室					

開設期	前期	曜日時限	火5-6	時間割コード	1001335003
開設科目名	大衆と観光			単位	2単位
対象学生	全			学年	1~
担当教員	河村 誠治			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>今日の観光は大衆観光(mass-tourism)が、それが世界的に定着したのは大衆が生存費以上の一定の所得、余暇時間を獲得するとともに、それを可能にする交通手段や宿泊施設といった観光の物的・技術的条件の整備や観光産業の成熟してきた1960年代以降のことです。本講義では、産業革命によって、いかに観光の物的・技術的条件が整備されていったのか、そしていかに大衆が成立し、いかに余暇時間を獲得していったのかを中心に講義し、大衆観光の本質を示します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1.産業革命から大衆観光の成立までのプロセスを講義することで、今日の社会が物的・技術的基礎と金銭的基礎の二つの基礎から成り立っていることを知る。 2.今日の観光が大衆観光すなわちマス・ツーリズムであることを知る。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>産業革命、資本主義、市民と大衆、観光などの概念が説明できる。 <b>思考・判断の観点:</b>産業革命、その後の資本主義と大衆社会の発展、大衆観光の登場といったプロセスを説明することができる。 <b>関心・意欲の観点:</b>物的・技術的な側面と価値的・貨幣的な側面のかかわりに興味を抱く。 <b>態度の観点:</b>さまざまな事象に中立的、客観的立場から理解する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験=100%、欠席率3分の1以上 = 欠格条件。 注1. 出席の取り扱いについて、出席カードで出席を確認する。欠席率が3分の1以上の学生については期末試験の受験資格がない。出席カードは授業途中に配布し、回収します。配布後に遅刻してきた学生には出席カードを与えません。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>新版 観光経済学の原理と応用 / 河村誠治:九州大学出版会, 2008</p>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1001343003
<b>開設科目名</b>	地球と人間			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全(検査・獣医除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	金折 裕司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
46 億年におよび地球史や地球で起きている様々な現象が、人間によってどのように理解されてきたのか、地球科学の礎を築いた人たちのエピソードを交えながら、地球環境問題や自然災害と人間の関わり方を講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 地球史の中での人類誕生が持つ意味を理解する。 2. 地球環境変化と人間の営みとの関係を理解する。 3. 自然災害の発生メカニズムとその防災対策を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 地球史において人類誕生の誕生とそのことが地球環境の変化に持つ意味が説明できる。 2. 新しい地球観とそれが提唱された根拠が説明できる。 3. 資源開発と地球環境、人間の営みとの相互関係が説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 地球環境や自然災害について、その発生メカニズムやその取り組みや防災に関して自分の意見を論理的に述べるができる。 2. 人類の行く末と地球環境変化の観点に関して、自分の考えを持ち、他人と議論できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 身の回りで起きている地球科学的な現象に興味をもち、マスメディアに取り上げられるこのような話題を主体的に取り込もうとする。					
<b>態度の観点:</b> 地球環境問題と自然災害の防災に関して、積極的に取り組もうとする姿勢を示す。					
<b>技能・表現の観点:</b> 人間はどのように地球を理解してきたかについて、エピソードを交えながら説明する。さらに、地球上で起きてきた様々な現象の捉え方と、自然災害観の変遷や防災について講義する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)授業の中で、5回ほど小テストを行う。(2)自分に関わるもしくは関心を抱いている地球科学的な現象についてレポートを作成する。(3)最後に試験を実施する。以上について、下記の観点・割合で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
基礎地球科学 / 西村祐二郎他: 朝倉書店, 2002 山口県の活断層 / 金折裕司: 近未来社, 2005					
<b>メッセージ</b>					
講義内容に関して、自発的に学習する習慣を身につけて欲しい。					
<b>連絡先</b>					
kanaori@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 理学部南棟3階 344 室					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 11:00～12:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001355002
<b>開設科目名</b>	知的財産の開発と権利			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(教員免許状取得希望者優先)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	阿濱 茂樹, 岡村 吉永			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
身の回りの知的財産に関する制度について解説します。 また, 創造的な活動を通して知的財産を開発する演習を行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
知的財産に関する制度の理解を深め, 適切に利用することができる。 また, 知的財産を創造する演習を通して, 創造的な活動を行うことができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 知的財産に関する制度について理解することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 知的財産の制度に基づき, 適切に利用することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 身の回りの知的財産に関心をもつことができる。					
<b>態度の観点:</b> 知的財産を主体的に創造し, 適切に利用する態度を身につける。					
<b>技能・表現の観点:</b> 知的財産の独創性や新規性を適切に評価することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
講義に関する身近な知的財産に関するレポートを評価します。 また, 講義の中で行う演習やワークショップの成果物も評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
演習やワークショップをグループ作業で行う場合があります。 コンパスと三角定規を用いた演習を行います。 詳細はガイダンスで説明します。					
<b>連絡先</b>					
ガイダンス時に説明します。					
<b>オフィスアワー</b>					
ガイダンス時に説明します。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1001371004
<b>開設科目名</b>	知の広場 - 人と学問 -			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	吉田 香奈			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>山口大学に入学したばかりの学生が、本学およびそれぞれの部局の設立の経緯、発展の過程、現状、およびそれぞれの学問分野の概要を知ることにより、本学の学生としての自覚を持ち得るようにする。この授業を契機として、学問や社会や人間について問題意識を持つようになることが望まれる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>各学問分野の概要を知り、必要に応じてその分野の専門家や文献にアクセスできる能力を身に付ける。また、講師自身の教育者および研究者としての体験から、それぞれの専門領域の社会的位置づけや将来への展望、さらには人間としての生き方を学ぶ。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 各学問分野の概要を理解する          必要に応じてその分野の専門家や文献にアクセスできる能力を身に付ける  <b>関心・意欲の観点:</b> さまざまな学問分野に関心を持ち、自己の将来像を描きながら学習できる          山口大学の学生としての自覚と目標を持つことができる</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>受講者に毎回短いコメントを提出させる。講師により最後の講義の後半で試験またはレポートを課すこともある。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001335002
<b>開設科目名</b>	中国経済入門			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	李 海峰			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中国経済の歴史、発展可能性などについて、1980年に始まった経済改革、高度経済成長と消費社会の変化を中心に講義を進めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国経済の発展メカニズムの基本を把握していくことが望ましい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001331008
<b>開設科目名</b>	地理学 [Geography]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	川村 博忠			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>近世以前の人々の地理的知識の程度や世界認識は東洋と西洋さらには各民族間においても相違があった。16世紀にはヨーロッパ人の大航海によって地理上の発見が相次ぎ、東洋との接触がはじまり、やがて地球的な世界認識が確立した。19世紀になると近代国家による科学的な測地事業が始まって世界の全体像が科学的に掌握されるに至る。すると世界を地図に統一的に表現するための長さの単位、本初子午線など国際的な基準づくりがはじまるなど、人類が科学的な世界知識を確立していく過程を学ばせる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>現在では地球の表面がほぼ正確に地図に描かれるに至っており、世界各地の地理情報を簡単に入手できる。しかし、ここに至るまで人類が地理的知識を拡大して、正確な地図を作り上げるには幾多の苦難の過程があったことを理解させる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験成績と出席状況を重視する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>地図の思想 / 長谷川孝治: 朝倉書店, 2005          地図を作った人びと / 鈴木主税訳: 河出書房新社, 1988          地図の歴史 - 世界編 - / 織田武雄: 講談社現代新書, 1986</p>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001331018
<b>開設科目名</b>	地理学 [Geography]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
THIS COURSE IS TAUGHT IN ENGLISH. It focuses on Human Geography. Starts with the origins of humanity and its diffusion over the earth. Discusses agriculture and the emergence of civilizations. Special attention is given to Europe and the rise of today's global culture. The current global geography is discussed, considering some of the problems associated with it. Finally, landscapes around the world are examined, using the cultural-historical approach.					
<b>授業の一般目標</b>					
To learn to understand the processes that create the current human mozaic around the world.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> To understand and compare different regions and cultures around the world.					
<b>思考・判断の観点:</b> To learn how to explain factors that create or influence the economy, politics and cultures around the world. To discuss regional differences. To understand how the current process of globalization affects regions and human societies there.					
<b>関心・意欲の観点:</b> To discuss processes of economic, political and cultural change around the world.					
<b>態度の観点:</b> To develop understanding and tolerance to different human societies and cultural groups.					
<b>技能・表現の観点:</b> To learn to communicate with people from other cultures and discuss problems in English. To practice public speaking and presentation skills in English.					
<b>その他の観点:</b> To do research on a specific problem concerning human geography.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Attendance					
Final test					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1001311001
<b>開設科目名</b>	哲学 [Philosophy]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	脇條 靖弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>の授業では、現代論理学の初歩を学習します。論理学において、われわれは、自分が正しいと考える判断をどのようにして擁護すればよいか、あるいは、自分が間違っていると考える判断をどのように批判すればよいかを学ぶことができます。そして、このことは、当然ながら、どの学問分野においてもとても重要なことです。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>現代の論理学で用いられる代表的な記号の意味、命題論理の基本を理解すること。さらに、できればより一般的な演繹の方法としての量化理論まで進みたいと考えています。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 論理学の初歩を理解する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>試験による。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 5-6	<b>時間割コード</b>	1001311002
<b>開設科目名</b>	哲学 [Philosophy]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田中 均			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業は芸術理論への入門です。</p> <p>芸術の定義、芸術と富、天才性と性差、異文化の芸術の理解、芸術とメディアなど、芸術をめぐる主な問題をとりあげます。</p> <p>授業の枠内で展覧会ないし舞台公演を見学する可能性があります。その場合は積極的に参加して下さい。</p> <p>注意:この科目は、哲学の一分野としての「美学」の授業であり、「美術史」の授業ではありません。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
芸術が哲学的な議論の対象であることを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 芸術をめぐる現在の争点のいくつかについて説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 芸術をめぐるいくつかの議論を読んで、立場の違いを区別することができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 芸術についての自らの考えを表現することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>学期末の試験を受験すること、授業に50%以上出席することが単位認定の必要条件です。</p> <p>また、毎回の予習・復習の提出も重視します。</p>					
<b>教科書</b>					
でも、これがアートなの？ / シンシア・フリーランド:ブリュッケ, 2007					
<b>参考書</b>					
現代アートの哲学 / 西村清和:産業図書, 1995					
美学への招待 / 佐々木健一:中央公論新社, 2002					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜 12:50 ~ 14:20 (事前に連絡して下さい)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月1~2	<b>時間割コード</b>	1001372001
<b>開設科目名</b>	哲学・思想入門			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教),3年(経・理・農)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	脇條 靖弘, 古荘 真敬, 高木 智見, 豊澤 一, 柏木 寧子, ALAM DJUMALI, 藤川 哲, 田中 均			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
哲学 思想の入門として、さまざまな地域や時代の思想、哲学を概観する。					
<b>授業の一般目標</b>					
各地域、時代の思想、哲学を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 各地域、時代の思想、哲学を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 各地域、時代の哲学、思想について自分の考えを持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
各担当教員ごとの評価(主にレポートによる)を総合して評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3～4	<b>時間割コード</b>	1001312005
<b>開設科目名</b>	東洋史 [Oriental History]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	横田 伸子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>1960年代後半以降、韓国では「漢江の奇跡」と呼ばれる驚異的な経済発展を遂げました。この経済発展の中で、韓国の労働者はどのような働き方をし、どのような生活をしてきたのかを、現在まで歴史的に見ていきます。</p> <p>とくに、昨年末、全世界を襲った世界経済危機は、若者を中心に多くの労働者を雇用危機と貧困に陥れています。この講義では、日本との比較から韓国の若者の就労問題、ワーキングプアの問題にも焦点をあてて考えていきたいと思ひます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1. 韓国の経済発展のメカニズムを理解する。</p> <p>2. 韓国の経済発展と労働社会の変化を構造的に理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 韓国経済の発展のメカニズムについて構造的に理解する。</p> <p>2. 経済発展の中で、韓国の労働社会がどのように変化してきたのかを構造的に理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に体系立てて説明できる。</p> <p>2. 経済発展の中で、韓国の労働社会がどのように変化してきたのかを論理的に体系立てて説明できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 常に日本と比較し、自分自身の生活に引きつけながら、韓国の労働社会について考える。</p> <p><b>態度の観点:</b> 1. 本講義に対して、質問や自分の意見を提示するなど、講義に主体的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に体系立てて自分の言葉で叙述できる。</p> <p>2. 経済発展の中で、韓国の労働社会がどのように変化してきたのかを論理的に体系立てて自分の言葉で叙述できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>1. 試験とレポート、講義に対する質問や意見などを総合的に評価する。</p> <p>2. 出席を重視する。</p> <p>3. 試験 60%、レポート 10%、授業への参加度 10%、出席 20%。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>韓国の経済 / 隅谷三喜男: 岩波書店, 1976</p> <p>韓国の工業化 - 発展の構図 - / 服部民夫他: アジア経済研究所, 1987</p> <p>経済危機後の韓国: 成熟に向けての経済・社会的課題 / 奥田聡編著: アジア経済研究所, 2007</p> <p>東アジア経済の発展と日本: 組立型工業化と貿易関係 / 服部民夫: 東京大学出版会, 2007</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>昨年末からの経済危機によって、日本でも韓国でも若者の雇用が危機にさらされています。「反貧困」をキーワードに、両国で若者による新しい社会運動やネットワークが育ちつつあります。日韓の厳しい社会経済状況を冷徹に見据えつつも、新しい社会的連帯の模索の中で社会的排除や貧困からどのように抜け出していくのか、皆さんと一緒に考えたいと思ひます。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>)083 - 933 - 5559(研究室)</p> <p>e-mail)yobuko@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1001312006
<b>開設科目名</b>	東洋史 [Oriental History]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	滝野 正二郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前近代の東アジア世界を律する秩序であった冊封体制を理解し、「中世」におけるその変質と、近代における西洋出自の世界システムとの齟齬、それへの併呑に言及する。					
<b>授業の一般目標</b>					
東アジア世界伝統の秩序体系を理解することによって、現代の国家観・国際体系を相対化する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現代とは異なる論理によって結びつけられていた世界を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 現代世界の国家観・国際体系を相対化して考えることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 異なる論理によって形成されている世界・国家などに興味を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 現代の論理を相対化する態度を示す。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の得た知識や自分の考えを論理的な文章で表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
論議研式の期末試験によって評価する。出席は欠格条件とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
中国古代国家と東アジア世界 / 西嶋定生: 東京大学出版会, 1983					
中国と古代東アジア世界 / 堀敏一: 岩波書店, 1993					
隋唐の国際秩序と東アジア / 金子修一: 名著刊行会, 2001					
アジアのなかの日本史1~6 / 荒野泰典, 石井正敏, 村井章介: 東京大学出版会, 1992					
朝貢システムと近代アジア / 濱下武志: 岩波書店, 1997					
<b>メッセージ</b>					
第一回目授業の受講者が200人を超過した場合は抽選によって受講を制限する。					
<b>連絡先</b>					
研究室: 人文学部517号室,					
電話: 内線5229,					
メール: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日9:10時限					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001313003
<b>開設科目名</b>	東洋の思想			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	豊澤 一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>武士を巡る思想を概観します。『平家物語』、『甲陽軍鑑』、『三河物語』、『葉隠』等を考察します。少々エクセントリックな話も出てきますが、できるだけ読み解いて合理的で一般的な思考に近づけて理解したいと思います。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>武士をめぐる諸思想をとて面白いものです。そこから何を引き出すかは基本的に自由であるべきでしょう。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>知識が増え、いかに先入主が多かったか理解する。  <b>思考・判断の観点:</b> 武士道に関する巷間の説を批判できる。  <b>関心・意欲の観点:</b> 将来にわたって持続的に武士に関心をもち、考えていくようになる。  <b>態度の観点:</b> 日本の伝統的諸思想に、先入主を描いて対することができ、かつ日常の様々な事柄の歴史性を理解する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>毎時間、最後の10分で、疑問・考察の執筆を求めます。白紙での提出は避けてください。なお期末試験を実施します。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>武士道(岩波文庫他) / 新渡戸稲造: 岩波書店他          武士道の逆襲(講談社現代新書) / 菅野覚明: 講談社</p>					
<b>参考書</b>					
<p>武士道 / 相良 亨: 塙新書          日本倫理思想史 / 佐藤正英: 東京大学出版会, 2003</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>もしも万が一、受講者が多すぎる場合には、レポート提出を求め、その成績次第で受講の可否を決定します。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>人文学部棟4階409号研究室          TEL: 083-933-5218          e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>木曜日 12:50 ~ 14:20</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金3~4	<b>時間割コード</b>	1001335007
<b>開設科目名</b>	日常の価値を再考する			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山本 真弓, 荒木 一視, 山田 寛人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>高校までの学校教育のなかで教えられていることは、時代と社会によって異なる。われわれの父母や祖父母の頃は教えられていたのに、今では教えられていないこと、日本では教えられているのに、外国では教えられていないこと…などである。この授業では、特に、現在の日本の学校教育のなかで教えられてこなかったこと(教えるまでもなく「あたりまえ」とされてきたこと)について、複数の教員が、地理、音楽、ことば、歴史、名前などの観点から捉え直していく。つまり、本当に「それ」は「あたりまえ」なのか? 「それ」はどこでも「あたりまえ」なのか? いつから「あたりまえ」になったのか? いつか「あたりまえ」ではなくなる時が来るのか?</p> <p>各教員がそれぞれ独自の題材を使う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1)高校までの教育の中身を相対化し、大学での諸学問と向き合う基本的姿勢を身につける。</p> <p>(2)自分が生きてきた時代と社会の価値を相対化し、国際的な視野を獲得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>思考・判断の観点:</b> 自分の頭で考えようとする事。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 人の意見を聞いて、理解しようとする姿勢が見られること。					
<b>態度の観点:</b> 出席の有無					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業のなかで徐々に考えていってもら内容なので、あらかじめシラバスで種明かしをするわけにはいかない。全体に通低するテーマは、わたしたちの社会に根付いた西欧近代的価値に気づくこと、それらを相対化すること。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001334001
<b>開設科目名</b>	日本国憲法 [The Japanese Constitution]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	看護 検査・機械・社健・応化・循環			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	上杉 信敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>国の基本法である日本国憲法の内容について考えていく。その際、国民主権、基本的人権の保障、権力分立、平和主義、などの主要原則について考えていく。そして、国民が主権者であることを基本として大切なことを理解しつつ、人権について主に見ていく。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>最高法規について重要なこと、さらに前期はそのうちで主に人権の大切さを理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験(中間試験と期末試験) = 60～80%  小テスト / 授業内レポート = 20%未満  出席 = 20%未満</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>最高法規に関して、権力分立、人権保障、平和主義などについて考えよう。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>内線5588</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001334002
<b>開設科目名</b>	日本国憲法 [The Japanese Constitution]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	立山 紘毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本社会が直面する問題を選び、それをさまざまな角度から考察して、背後にある憲法問題を探り、憲法の基本原理を修得する。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本国憲法の基本原理について基礎知識と、それを応用して問題解決の道しるべとする能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現代社会の基本問題に対する認識と法的評価					
<b>思考・判断の観点:</b> 日々の生活の中に潜む社会的矛盾を発見し、それを法的な観点から分析する能力					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分の興味・関心・将来の専門に即した問題意識と同時に、必ずしも得意ではない・これまで関心をもてこなかった分野や角度からの問題発見					
<b>態度の観点:</b> 旺盛な知的好奇心					
<b>技能・表現の観点:</b> 口頭・文書による正確・簡潔な日本語表現					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
基本的に「試験一発勝負」を原則とする。試験での成績が人格のすべてを反映するなどということは全然信じていないが、実社会における評価というものは「結果全ての一発勝負」がほとんどであり、さまざまな観点や意欲からの評価など「学校時代のおまご」とにすぎないことを十分留意すべきである。 ただし、講義の展開によって、パネル形式の討論などが適当と思われる場合には、それに応じた評価を採用することがある。					
<b>教科書</b>					
コンパクト六法:岩波書店					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tateyama@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特に定めていないので、上記のメールにて連絡の上、適宜相談されたい。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001334003
<b>開設科目名</b>	日本国憲法 [The Japanese Constitution]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	立山 紘毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本社会が直面する問題を選び、それをさまざまな角度から考察して、背後にある憲法問題を探り、憲法の基本原理を修得する。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本国憲法の基本原理について基礎知識と、それを応用して問題解決の道しるべとする能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現代社会の基本問題に対する認識と法的評価					
<b>思考・判断の観点:</b> 日々の生活の中に潜む社会的矛盾を発見し、それを法的な観点から分析する能力					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分の興味・関心・将来の専門に即した問題意識と同時に、必ずしも得意ではない・これまで関心をもてこなかった分野や角度からの問題発見					
<b>態度の観点:</b> 旺盛な知的好奇心					
<b>技能・表現の観点:</b> 口頭・文書による正確・簡潔な日本語表現					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
基本的に「試験一発勝負」を原則とする。試験での成績が人格のすべてを反映するなどということは全然信じていないが、実社会における評価というものは「結果全ての一発勝負」がほとんどであり、さまざまな観点や意欲からの評価など「学校時代のおまご」とにすぎないことを十分留意すべきである。ただし、講義の展開によって、パネル形式の討論などが適当と思われる場合には、それに応じた評価を採用することがある。					
<b>教科書</b>					
コンパクト六法:岩波書店					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tateyama@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特に定めていないので、上記のメールにて連絡の上、適宜相談されたい。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001334004
<b>開設科目名</b>	日本国憲法 [The Japanese Constitution]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	松原 幸恵			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
国の根本法である憲法の歴史的背景をおさえた上で、現代の日本における憲法状況を考察する。					
<b>授業の一般目標</b>					
憲法問題を身近な問題として考える力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験を主体に、授業中の小レポートや出席状況を加味して総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
自分たちが住む国の憲法についての知識は、そこに住む人が当然知っているべき常識です。学生の皆さんには、必修だから仕方なしではなく、意欲的に取り組んで頂きたいと思います。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1001312001
<b>開設科目名</b>	日本史 [Japanese History]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	木部 和昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>テーマ:近代山口県産業史</p> <p>本講義では、近代(明治~昭和戦前期)における山口県の諸産業の歴史について取り扱う。明治維新以後、日本が国を挙げて殖産興業政策を推し進め、産業革命を達成するなど近代化・工業化に成功したことは周知の事実である。では、明治維新発祥の地の一つである長州、すなわち山口県地域においては、それはどのような形で進行していったのであろうか。本講義では、江戸時代以来の在来産業から、洋式技術導入によって成立した近代工業までを視野に入れつつ、近代化・工業化が地域経済に及ぼした影響について言及し、あわせて山口県産業・工業の現状を規定する歴史的要因に関しても考察を加えてみたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代における日本史の流れを復習しつつ、より踏み込んだ大学レベルの日本史について学ぶ。</li> <li>・山口という地域に対する理解を深める。</li> <li>・歴史が現在の我々の生活と深く関わっている事を認識させる。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>学期末試験は論述形式。</p> <p>講義中、数回程度のレポートを課す。</p> <p>期末試験 65%、小レポート 20%、出席 15%(ただし、出席状況によっては、この基準に関わりなく不合格となる場合がある)</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
山口県の百年 / 小川国治・河村乾二郎・日野綴彦・梅村郁夫: 山川出版社, 1983					
<b>メッセージ</b>					
山口県の土地勘のない人は、適当な山口県地図などを入手した方が、講義を理解する上で役立つと思われる(特に1年生)。					
<b>連絡先</b>					
<p>経済学部 C207 研究室</p> <p>内線 5566、E-mail; kibe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001335006
<b>開設科目名</b>	日本の財政を考える			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	仲間 瑞樹			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
経済学部以外の方であっても、日本の財政問題に関心のある方を対象に、現在の日本財政が抱える問題点と問題点の解決方法を説明します。					
<b>授業の一般目標</b>					
自分の言葉で日本の財政問題を説明できるようにすること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 新聞などで報じられている日本財政に対する関心を深めること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自分の言葉で日本財政の問題点を説明できるようにすること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
持ち込み不可の前期末試験のみで評価します。					
なお出席回数が、講義を実施した回数(2/3)を下回る場合、前期末試験を受験できないものとします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
講義内で紹介します。					
<b>オフィスアワー</b>					
講義内で紹介します。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1001372002
<b>開設科目名</b>	パソコンSOS1			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)・3年(経・理)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	西口 毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>大学教育の問題点の一つは、学生自らが「発見し、はぐくみ、かたちにする」機会の乏しさである。受身の授業だけでは、問題探求・解決能力を育てることができない。本授業では、学生がパソコンSOSセンターにおけるパソコンユーザ支援に主体的に取り組み、その活動を通して、「発見し、はぐくみ、かたちにする」ことを実体験する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>パソコンSOSセンターの学生スタッフとしての活動・体験を通して、パソコンのスキルを向上させ、問題解決能力、文書作成能力、自己表現力を身に付ける。また、「パソコンSOS2」の既修得者はSA(ステューデントアシスタント)として、履修者の指導を行い、指導能力を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. パソコンのOSやアプリケーションについて説明できる。					
2. ネットワークの仕組みについて説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. トラブルの原因を論理的に追求できる。					
2. トラブルの状況を総合的に判断して、原因を特定できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. パソコンに関わる問題を討議できる。					
2. パソコンに関わる情報を常に収集できる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 作業を協調して行なうことができる。					
2. 困っている人を助けることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. パソコンの高度な設定を行なうことができる。					
2. 明快で論理的な説明を行なうことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席率80%以上を欠格条件とし、毎回のレポート作成と学期末の報告書作成を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
パソコンのトラブルなどで悩んでいる人の役に立ちたいという意欲を持つ学生を歓迎します。なお、授業の性格から、パソコン相談を行うことが授業への出席となります(曜日は希望に応じて決定)。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
教育学部 226 室/水曜日 5-6 時限/anomura@yamaguchi-u.ac.jp					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	月 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1001333011
<b>開設科目名</b>	発達心理学 [Developmental Psychology]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2 ~
<b>担当教員</b>	清 俊夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
年齢の変化に伴う心や行動の変化を発達というが、従来は、出生から青年期が終わるまでの上昇方向への変化を、主として発達とみなしてきた。しかしながら、高齢化社会の到来と、急激な社会変動に伴い、人間の一生涯の変化を発達として捉える生涯発達心理学の考え方が優勢となってきた。この生涯発達の段階を、この授業では 10 段階に区別し、それぞれの発達現象を記述するとともに、発達の危機とその克服をもあわせて理解することを目指す。					
<b>授業の一般目標</b>					
乳児期から幼児期、児童期、青年期、成人期を経て、老年期に至りまでの発達現象を理解するとともに、各段階での危機とその克服に関する基本的考え方を理解し、援助を必要とする人の理解と援助のための基礎を作る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 生涯発達心理学の基礎理論を理解し、各発達段階の発達と危機、その克服についての基本的な考え方を獲得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 人の行動を発達過程のなかに位置付けて理解し、その危機に対してどう理解し、どう援助したらよいかについて考え、それを表現できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 発達とその危機にたいして暖かい関心を持ち、自ら学習を深めようとする意欲を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 発達上の危機にある人に対して、暖かい関心を持ち、積極的に援助しようとする構えを身につける。					
<b>技能・表現の観点:</b> 発達上の危機(問題)を持つ人の話をよく聞き、ともに考え、ともに解決法を探ることを試みる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験 50%、小テスト 40%、出席 10% (3 回以上欠席したものは 0 点、遅刻 1 回につき - 1 点)。出席を確認してから、断りなく、教室を抜け出したものは、1 回であっても、出席点はなくなる。					
<b>教科書</b>					
パーソナリティ発達論 - 生涯発達と心の危機管理 - , / 岡堂哲雄: 金子書房, 2000					
<b>参考書</b>					
Life-Span Development, 10th ed. / J. W. Santrock: McGraw-Hill, , 2006					
<b>メッセージ</b>					
発達心理学が必修の者を除き、前期に心理学の単位を修得済みの者以外は、この授業を履修できない。必修のものも、前期に心理学を履修し、期末試験を受けていなければ、この授業を履修できない。					
<b>連絡先</b>					
toshisei@yamaguchi-u.ac.jp office phone:0836-22-2802					
<b>オフィスアワー</b>					
office hours:月曜日から金曜日まで随時(授業、会議等の時間を除く)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1001342006
<b>開設科目名</b>	物理学通説 [Introduction to Modern Physics]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教 経			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	増山 博行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
17世紀のガリレオやニュートンの時代から19世紀にかけて、自然に対する科学的認識は飛躍的に深まり、我々が目にするような物体の物理法則(古典物理学)が確立した。その後、19世紀末から20世紀初頭にかけて、ミクロな世界や宇宙規模のマクロな世界は、量子論や相対論が記述することが分かった。初心者に古典物理学の知識をもとにして近代物理学の解説を試みる。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)古典物理学の基礎を理解する。					
(2)物理学の発展過程を知るとともに、他の学問との関わりを理解する。					
(3)電子と原子核の発見の意義を理解する。					
(4)物理学の課題や社会との関わりについて考察する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 実験事実に基づき、論理的に解釈する物理学の体系の概容を理解すること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自然現象について物理的見方で分析し、説明できること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活の中での物理学の役割に関心を持ち、問題意識を高めることが出来ること。					
<b>技能・表現の観点:</b> 現代物理学の基本概念を最低限に必要な数学の力で表現できること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
観点別評価割合は目安であり、試験結果をもとに総合的判断を加える。なお、欠席回数が多い者は単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
電子と原子核の発見 - 20世紀物理学を築いた人々 - ノワインバーグ: 筑摩書房, 2006					
<b>参考書</b>					
物理学入門 / 原康夫: 学術図書, 2005					
新物理学(増補改訂版) / シップマン: 学術図書, 2002					
<b>メッセージ</b>					
授業に飽き足りない人は、関連して様々な書籍が出版されているので、自学自習しましょう。					
<b>連絡先</b>					
理学部 238 室					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 3・4時限					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1001331004
<b>開設科目名</b>	文化人類学 [Cultural Anthropology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	星野 晋			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>文化人類学は、「文化」を手がかりに人間についての理解を深めようとする学問分野である。国際化が進む現在において、私たちはグローバルかつ普遍的な論理と民族的・地域的固有性の折り合いをいかにつけるかという大問題に直面している。文化人類学的な視点と方法は、文化的多様性とのように付き合っていくかを考える際の一つの手がかりとなると思われる。本講義では、ある意味で普遍的、ある意味で多様な「病気と医療」というテーマについて検討することを通して、文化人類学的な「ものの見方」とはいかなるものかを学ぶことを目標とする。また本講義は、文化人類学入門であると同時に、その下位分野である医療人類学入門として聞くこともできる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>人間を総合的に捉えようとするという文化人類学の基本的なものの見方とアプローチを理解する。文化的多様性に対する視点と態度を学び、加えて自分や身近な人の経験を文化人類学的アプローチを用いて考察できるようになる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文化人類学の視点、基本的用語、概念、方法論を理解する					
<b>思考・判断の観点:</b> 身近な経験について、文化人類学的アプローチを用いて解釈できる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業中示されたテーマについて、自分なりに考え、意見をもつ					
<b>態度の観点:</b> 出席し、他の出席者のじゃまにならないようにする					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の観察や経験をそこにいない人に適切に伝えることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出欠をかねた小レポート(遅刻は授業開始後30分まで、それ以降は欠席とする)、定期試験(論述形式)					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
自分とは異なる多種多様な人たちと出会い、五感を研ぎ澄ましてさまざまな経験をし、その経験を言葉にしてそこにいない人に伝え、その経験について語り合うこと。それが文化人類学の出発点です。					
<b>連絡先</b>					
hoshino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
授業後(小串では水曜日午後)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001331006
<b>開設科目名</b>	文化人類学 [Cultural Anthropology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	北西 功一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
文化人類学の基本概念である文化相対主義を具体例を交えながら学ぶ。具体例として取り上げるのは、アフリカ熱帯雨林地域に居住する狩猟採集民アカである。彼らの生業活動、社会組織、結婚、自然観など社会・文化全般にわたって説明する。					
<b>授業の一般目標</b>					
文化相対主義的な考え方で異文化を見ることができるようになる。また、社会においてさまざまな部分が相互に関係を持っていることを理解する。アフリカの人々に対する認識を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文化相対主義を理解する。 アフリカ熱帯雨林に住む狩猟採集民アカの文化・社会を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 文化相対主義的な見方、思考法を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 異文化に対して関心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末レポートと宿題の小レポート、授業中に課す小レポートをあわせて評価する。特別な理由もなく5回以上欠席した学生は失格とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
講座生態人類学2 森と人の共存世界 / 市川光雄・佐藤弘明編: 京都大学学術出版会, 2001					
ヒトの自然誌 / 田中二郎・掛谷誠編: 平凡社, 1991					
平等と不平等をめぐる人類学的研究 / 寺嶋秀明: ナカニシヤ出版, 2004					
自然社会の人類学 / 伊谷純一郎・田中二郎編: アカデミア出版会, 1986					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp					
研究室 教育学部2階 266号室					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001371002
<b>開設科目名</b>	ベンチャービジネス論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	向山 尚志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ベンチャー企業とは、リスクを恐れずに独自のビジネス展開で急成長を目指す企業のことで、わが国産業経済の構造変化の中でベンチャー企業の果たす役割はますます重要になっています。これまでの大企業体制で適応しきれない事業分野でベンチャー企業が成功を収めるためには、どのような条件を備えていく必要があるのでしょうか。日本経済の活力を維持強化していくためにベンチャービジネスの意義と役割を理解するとともに、工学部の学生の皆さんにとって企業経営や経済社会についての基礎的な知識を身につける機会になるような内容です。					
<b>授業の一般目標</b>					
今日の我が国においてベンチャービジネスの出現が期待されている背景を理解し、自らが新たなビジネスチャンスにチャレンジしていく気概を持つようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ベンチャービジネスとはどのような企業なのか、ビジネスモデル、マーケティング手法、そのほか企業経営に関する基礎的な法律や会計制度について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 何故今日の我が国でベンチャービジネスの発展が期待されているのか、社会の中でベンチャービジネスの果たす役割を説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自らの専門分野と社会・経済・産業などのかかわりについて幅広い思考力を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 自らベンチャー企業を起こす場合だけでなく、アントレプレナーシップ(企業家精神)を持って自律的に仕事や研究に取組む姿勢を持つようにする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末の筆記試験、授業の途中でレポート提出のほか、毎回の授業についてのメモを提出してもらい、出席状況等を含めて総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
ベンチャー企業(日経文庫)/松田修一:日本経済新聞社,2005 社長失格/板倉雄一郎:日経BP,1998					
<b>メッセージ</b>					
世界経済の状況が急激に変化する中で、大企業もベンチャー企業も経営環境が厳しさを増していますが、そのような時代の中でこそ独自性を発揮するベンチャー企業が輝きを増してきます。工学部の学生として自らの専門知識を生かして事業を起こすという選択もありますし、独立した企業家ではなくても自立的な事業の企画立案をしていくうえでアントレプレナーシップということを身につけることを期待しています。					
<b>連絡先</b>					
D講義棟4階 TEL:0836-85-9954 e-mail:tmukou@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
毎週水曜日 16:00~18:00(事前に連絡のこと、このほかでも調整可能であればOKです)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時間</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1001371005
<b>開設科目名</b>	ベンチャービジネス論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	稲葉 和也			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ベンチャー企業とは「リスクを恐れず新しい領域に挑戦する若い企業」のことを指します。従来の新規開業企業と異なるのは、高い志や目標を持ち、起業家自身が高度な専門能力と困難に耐え抜く忍耐力を持ち、創造的かつ才能のある人を集める事業を創業し、高収益で高成長する企業を作り出すという点にあります。バブルが崩壊した後、グローバル化が進展し、情報ネットワーク化の本格的な展開によって産業構造が変わり、新しい競争の段階を迎えています。このようなベンチャー企業に対する存立条件をどのように活用して、新しいビジネスチャンスを生み出していけばよいのでしょうか。日本経済が元気を取り戻すためには、国内・国外を問わず通用する高付加価値商品を生み出し、グローバルに新市場の開拓を図ることが必要とされます。独創性・多様性・柔軟性・即応性に富んだ、旺盛な起業家精神を持つ人材を生み出す、多くのベンチャー企業が生まれることが期待されます。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本企業では経営者の能力を持った人材が不足しています。企業が多角化、リストラをはかり、これまで経験したことのない新分野に出て行く時に求められるのはリーダーとしての経営能力です。この講義では経営者の人材の育成を目標としています。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ベンチャー経営に関わる法律や会計の基礎知識、ベンチャーキャピタルの役割や支援インフラの現状などを説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> ベンチャー企業の具体例から起業家の特徴、資金調達方法、そのリスクなどを説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分ならどのような会社をおこすのか、シミュレーションを行う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講生の理解度、意欲を高めるために事業計画の提出、レポートを課すことがあります。試験の結果、及び出席状況、レポートを加味して評価します。					
<b>教科書</b>					
『ベンチャー企業』日経文庫1069 / 松田修一:日本経済新聞社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
何か分からないことがありましたら遠慮なく聞きに来てください。					
<b>連絡先</b>					
E-mail: inaba@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001331007
<b>開設科目名</b>	法学 [Law]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(経除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	柳澤 旭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
私たちの日常に起きる問題を法というメガネでみる。					
<b>授業の一般目標</b>					
新聞記事の法に関する記事が読めるようになること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分で法について調べてみようと思う気持ちが湧けばそれで十分である。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
講義において問題を自分で考える態度を培うこと。覚えるのではなく理解すること。					
<b>教科書</b>					
未定					
<b>参考書</b>					
未定					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1001331012
<b>開設科目名</b>	法学 [Law]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(経除)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	平中 貫一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
法学の基礎として民法を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
民法の基礎的知識の修得					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1001335005
<b>開設科目名</b>	法と市場経済			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	土生 英里			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
市場経済において、平等な競争条件を確保するための経済法を講義します。対象となる法分野は、独占禁止法、景品表示法、下請法、消費者保護法などです。					
<b>授業の一般目標</b>					
市場経済の有効な機能を保証するために必要とされる法的枠組みについて理解します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 市場経済を有効に機能させるための法の役割を認識します。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日々、ニュースを賑わす経済事件について、どのような行為が違反となるかを認識します。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、小テスト、期末試験の結果を総合的に判断します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e.habu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月～水 講義・ゼミ時間以外					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1001331011
<b>開設科目名</b>	民俗学 [Ethnology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	湯川 洋司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、民俗学とはこれまでの生き方を振り返りこれからどう生きるかを考える学であるという立場から、特に子供から大人へと成長する過程に見られる民俗を具体的にみることを通して、人が生きることの意味とこれからの生き方について考えます。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. どのようなものを民俗といい、どのような性質をもっているのか、説明できる。					
2. 民俗学とはどのようなことを考えようとする学問なのか、説明できる。					
3. 民俗や民俗学が人の生き方の考察とどうかかわるのか、説明できる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 民俗学における基本的な概念を簡潔に説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 民俗が人の暮らしの何を示しているのか、自分の考えを述べることができる。					
<b>態度の観点:</b> 予習と課題を確実に実行できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
予習(第2週、4週、6週、9週、11週に提出)と宿題(第13週提出)、毎週実施する小テストと期末試験に基づき評価します。					
<b>教科書</b>					
生きているってふしぎだね / 波平恵美子: 出窓社, 2008					
<b>参考書</b>					
日本民俗学概論 / 福田アジオ, 宮田登編: 吉川弘文館, 1983					
現代民俗学入門 / 佐野賢治 [ほか] 編: 吉川弘文館, 1996					
<b>メッセージ</b>					
「生きる」ことは迷いの連続です。そうだけれども、「生きる」ことはやっぱり面白い、大切だと、授業を通じて感じて欲しいと願っています。					
<b>連絡先</b>					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室: 人文学部棟2階210号室。用事があるときは、いつでも訪ねてください。事前にメールで連絡くだされば助かります。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001351005
<b>開設科目名</b>	理工学のための統計学 [Statistics for Sciences]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・農(生機除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	多田村 克己			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
自然科学、社会科学を問わず、世の中にはさまざまなデータが溢れている。統計学はこのようなデータの中から有用な情報を抽出する手法である。本講義では、初めて統計学の講義を聴く学生が、統計学の基礎を理解し、統計計算の方法が身につけられるように、実例を交えながらわかりやすく説明する。					
<b>授業の一般目標</b>					
本講義では、統計に対して正しい理解を得ることを最大の目的とし、統計学の基礎を理解し、統計計算の方法を身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 平均値や分散、標準偏差が求められる。また、その意味がわかる。 2. 相関係数が計算でき、回帰直線を求めることができる。 3. 最小自乗法を使い、データの回帰が行える。 4. 基本的な確率分布について説明することができる。 5. 推定と検定が行える。					
<b>思考・判断の観点:</b> 与えられたデータに対して、統計処理を行い、データの分析ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) = 75%					
授業内レポート = 20%					
授業外レポート = 15%					
出席 = 欠格条件					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
図解雑学 統計 / 今野敏雄: ナツメ社, 1999					
図解でわかる統計解析 / 前野昌弘、三國 章: 日本実業出版, 2000					
<b>メッセージ</b>					
授業では、パソコンを用いた Excel での演習を行うことがあるので、ノートパソコンを持っていることが望ましい。 必要に応じてプリントを配布します					
<b>連絡先</b>					
工学部 多田村克己 tadamura@yamaguchi-u.ac.jp, 0836-85-9716					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001351006
<b>開設科目名</b>	理工学のための統計学 [Statistics for Sciences]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・農(生機除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	糸原 義人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>自然科学ではただ単なるデータを如何に意味ある情報にするかが大切です。そしてそうした情報を作り、信頼性を与える一つの方法に統計学があります。</p> <p>本講では、統計学の意義と基本的考えを学ぶと共に、データの統計的処理や理論的検討を通じて、実際に利用できる統計学を目指します。そのために、演習・復習を課します。授業には、各自出題を解くことができるように、毎時間電卓、定規、レポート用紙の準備をお願いします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>授業は基本的に次の3つのテーマからなります。</p> <p>1. データ処理と情報作成、2. 確率と確率分布、3. 統計的推定と検定</p> <p>授業内容を暗記するのではなく、要は統計処理が必要になったとき、どこに何が書いてあって、それをどのように利用すればよいかを学んで頂きたいと思っております。そのためには、統計とは何か、統計処理は何故必要か、といったところをよく理解することが大切です。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 基本的な統計学で使用する言葉の意味を正確に理解する。</p> <p>2. 確率と確率分布の意味を正確に理解する。</p> <p>3. 基本的な応用事例に対して、推定、検定が自分の力でできる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 様々なデータを統計学の観点から見直す力を持ち、推定、検定を行えるようにする。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 少ない標本で大きな母集団を推定できる仕方に興味を持ち、実験結果、アンケート結果などに利用しようとする強い意欲を持つ。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価は基本的に毎週出す宿題(演習の続き)を中心とします。100点満点で、宿題のレポートを40%、定期試験を40%、授業内レポートを10%、出席を10%とします。</p>					
<b>教科書</b>					
基本統計学 (第3版) / 宮川公男:有斐閣, 1999					
<b>参考書</b>					
<p>統計学のはなし(改訂新版) / 養谷千凰彦:東京図書, 1997</p> <p>統計解析のはなし / 石村貞夫:東京図書</p>					
<b>メッセージ</b>					
基本的に毎時間レポート提出を求めます。継続は力です。諦めることなく、最後まで頑張ってください。					
<b>連絡先</b>					
gbb_50@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
部屋にいるときはいつでも					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001335004
<b>開設科目名</b>	臨床人間学			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大石 英史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
人間発達学、臨床心理学、現代家族論の立場から、現代社会が抱える心の問題を広く概観する。特に人生早期の母子関係と思春期以降の心の問題に焦点を当て、人としての心の発達を何が支えていくのか、人生を豊かに生きることの意味についても考えていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
人間存在に関する様々な見方及び現代家族あるいは現代社会の課題について検討することを通して、自分の生き方を見つめ直せる機会を得ることが目標です。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 人間発達や現代家族に関する基礎知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 人間を限られた時間を生きる全体性をもった存在として理解できること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 人間についての関心、人を援助することへの関心が持てるようになること。					
<b>態度の観点:</b> 自分自身を見つめることを起点に、日頃の人とのかかわりのあり様を省察できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> レポート課題において与えられたテーマに関して、自分の考えを自分の言葉で表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
ライフサイクルからみた発達の基礎 / 平山諭・鈴木隆男編著:ミネルヴァ書房, 2003					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1001311006
<b>開設科目名</b>	倫理学 [Ethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	古庄 真敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「すでに何年も前に私は気づいた。若い頃から私は、多くの虚偽を、真実として受け入れてしまっている。その後その上に築き上げてきたものは、どれもみな疑わしい。だから、一生に一度は、すべてを根こそぎに覆して、最初の土台から新たに始めなければならない、と。」</p> <p>このように書きはじめられるデカルトの『省察』(1641年)は、今日なお、私たちが自己の「生きる道」の究極的根拠を自らの思考によって問い求めようとする際、重要な示唆を与えてくれます。この授業では、この古典的テキストの内容をできるだけ分かりやすく紹介しながら、各々の私 の場から開始しうる倫理的思索の臨界点を探ることを試みます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. あなたが、あなた自身の私 の場から、強靱な倫理的思索を立ち上げることができるようになること。</li> <li>2. デカルト的な省察の要点を理解できるようになること。</li> <li>3. 哲学的な思考を表現するための日本語力を向上させること。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> デカルト的な省察の要点を理解できるようになること。					
<b>思考・判断の観点:</b> それぞれの私 の場から固有の倫理的思索を立ち上げ、自己吟味できるようになること。					
<b>技能・表現の観点:</b> 哲学的・倫理的思索を筋道立てて表現するための日本語力を向上させること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内レポートと期末試験によって評価します。					
<b>教科書</b>					
『省察』 / デカルト(山田弘明訳) : ちくま学芸文庫, 2006					
<b>参考書</b>					
『デカルト=哲学のすすめ』 / 小泉義之: 講談社現代新書, 1996					
『デカルト 「われ思う」のは誰か』 / 斎藤慶典: 日本放送出版協会, 2003					
『デカルト的省察』 / フッサール: 岩波文庫, 2001					
<b>メッセージ</b>					
履修希望者が一定限度数(150名程度)を超えた場合は、初回の授業時間中にレポートを書いてもらい、その成績で履修者を決定します。したがって、初回には必ず出席してください。					
<b>連絡先</b>					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
毎週水曜日 12:50 ~ 14:20					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1001311007
<b>開設科目名</b>	倫理学 [Ethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	波多江 忠彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
倫理学の一分野としての「生命倫理学」をビデオなどを通して事例を検討しながら考えていきます。例えば、出生前診断、デザイナーベビー、臓器移植と人体改造、安楽死、クローンなどである。					
<b>授業の一般目標</b>					
哲学の一分野としての「倫理学」の目標は哲学と同様必ずしも既成の知識や情報を習得することにはない。むしろ既知、既成の知識や情報を再検討するところにその本質がある。言い換えればたんにたくさんの知識を得たり、それらを理解し記憶するだけではなく、それらの根拠、起源、限界を明らかにすることである。「常識」もアテにならない。要は「考え」、「批判し」、「疑う」力や方法を得ること、またその習慣を身に着けることである。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>思考・判断の観点:</b> 倫理学は哲学と同様「思考」すること、つまり既成の知識・情報(この場合は主として生命操作に関するもの)を再検討すること、言い換えるとたえずそれら根拠、起源、限界(効用も含む)を明らかにしようとする努力が最も大切な目標である。たとえ「常識」として「公認」されているような事柄に対しても常に批判的に再検討する観点を持てるようになる事である。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
主としてペーパーテストによるが、レポート(2回)も出席状況も加点する。試験は客観テスト7割論述3割の出題					
<b>教科書</b>					
倫理学をはじめよう(改訂中) / 波多江他:木犀舎, 2003					
<b>参考書</b>					
医学生命倫理 / b - チャム, チルドレス:成文社 生命倫理学を学ぶ人のために / 加藤 加茂編:世界思想社 生命倫理学の基礎 / ヴィーチ:メディカ出版					
<b>メッセージ</b>					
医療・看護・福祉関連の仕事を目指している皆さん、及び先端の科学医療技術の倫理問題に興味・関心を持っている皆さんの受講を歓迎します。受講生をークラス(教室)100名程度に制限します。					
<b>連絡先</b>					
E-メール t.hatae158@jcom.home.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1001311008
<b>開設科目名</b>	倫理学 [Ethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	波多江 忠彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
倫理学の一分野としての「生命倫理学」をビデオなどを通して事例を検討しながら考えていきます。例えば、出生前診断、デザイナーベビー、臓器移植と人体改造、安楽死、クローンなどである。					
<b>授業の一般目標</b>					
哲学の一分野としての「倫理学」の目標は哲学と同様必ずしも既成の知識や情報を習得することにはない。むしろ既知、既成の知識や情報を再検討するところにその本質がある。言い換えればたんにたくさんの知識を得たり、それらを理解し記憶するだけでなく、それらの根拠、起源、限界を明らかにすることである。「常識」もアテにならない。要は「考え」、「批判し」、「疑う」力や方法を得ること、またその習慣を身に着けることである。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>思考・判断の観点:</b> 倫理学は哲学と同様「思考」すること、つまり既成の知識・情報(この場合は主として生命操作に関するもの)を再検討すること、言い換えるとたえずそれら根拠、起源、限界(効用も含む)を明らかにしようとする努力が最も大切な目標である。たとえ「常識」として「公認」されているような事柄に対しても常に批判的に再検討する観点を持てるようになる事である。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
主としてペーパーテストによるがレポート(2回)も出席状況も加点する。試験は客観テスト7割、論述3割の出題					
<b>教科書</b>					
倫理学をはじめよう(改訂中) / 波多江他:木犀舎, 2003					
<b>参考書</b>					
医学性目倫理 / ピーチャム・チルドレス:成文社					
生命倫理学を学ぶ人のために / 加藤・加茂編:世界思想社					
生命倫理学の基礎 / ヴィーチ:メディカ出版					
<b>メッセージ</b>					
医療・看護・福祉関連の仕事を目指している皆さん、及び先端の科学医療技術の倫理問題に興味・関心を持っている皆さんの受講を歓迎します。ただし、受講生を最大100名程度に制限します。					
<b>連絡先</b>					
E-メール t.hatae158@jcom.home.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1001343005
<b>開設科目名</b>	歴史の中の動物			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(検査除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田浦 保穂, 中尾 敏彦, 佐藤 宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>歴史の中で育まれた特殊な関係(寄生虫という生物)、私たちが作り出した新たな動物分布(外来種問題)、海外での外来種問題、大陸を渡った動物とその感染症、私たちが作り出す動物(自然環境)との新たな関係、次に身近な動物と人間のかかわりあいについて述べる。人間が出現して以来、環境の大きな変化を起こさせた要因の一つに人間による動物の家畜化がある。この歴史を理解することによって、我々と環境とのかかわり合いを理解することが出来るようになるだろう。最後に、中世から現代に至る動物との関係から、家畜や動物が如何に我々の生活と係わり合い、その増殖に腐心してきたかが分かるであろう。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1.歴史の中で育まれた特殊な関係(寄生虫という生物、外来種問題、自然環境など)、  2.馬・象・犬・猫など身近な動物とヒトとの関係を環境や歴史との観点から考察する。  3.家畜の管理・生産にヒトが如何に腐心してきたかを考察する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>人の歴史の中の動物の関係を環境や歴史に関する知識や理解を観点とする。キーワードは脊椎動物、進化、寄生虫、動物、人、環境、家畜、繁殖、動物生産など</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>人の歴史の中の動物の関係を環境や歴史に関する思考や判断を観点とする。キーワードは脊椎動物、進化、寄生虫、動物、人、環境、家畜、繁殖、動物生産など</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>人の歴史の中の動物の関係を環境や歴史への関心や意欲を観点とする。キーワードは脊椎動物、進化、寄生虫、動物、人、環境、家畜、繁殖、動物生産など</p> <p><b>態度の観点:</b>人の歴史の中の動物の関係を環境や歴史に関して、真摯な授業態度を観点とする。キーワードは脊椎動物、進化、寄生虫、動物、人、環境、家畜、繁殖、動物生産など</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>人の歴史の中の動物の関係を環境や歴史に関して技能や表現を観点とする。キーワードは脊椎動物、進化、寄生虫、動物、人、環境、家畜、繁殖、動物生産など</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席率及びレポートの成績により総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<p>脊椎動物のからだ：その比較解剖学 / "A.S. ローマー, T.S. パーソンス著 ; 平光厲司訳" : 法政大学出版局, 1983</p> <p>動物に観る人の歴史 / ;江口保暢: 日本図書刊行会, 1998</p> <p>最新「乳牛の繁殖管理指針」 / 中尾敏彦・酪総研, 2000</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
総合評価では、講義への出欠を重視する。					
<b>連絡先</b>					
<p>田浦保穂: 研究室: 農学部種動物医療センター・連合獣医学研究科長室  TEL: 933-5928, 933-5934  e-mail: ytaura@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
在室中は何時でも可。					

<b>開設期</b>	前期集中	<b>曜日時限</b>	集中	<b>時間割コード</b>	1001335008
<b>開設科目名</b>	国際コミュニケーション論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	西浦 みどり			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>世界の中の日本はどのように世界から見られているか、また日本から見た世界は、どのようにうつるかを、突き詰めていく中で、相互理解の重要性を学ぶ。そのためには、コミュニケーションを上手くはかること、そしてそれはどのようにすればよいかを考える。身近なところから、世界平和までを念頭におき、歴史、習慣、思想、感受性、民族性、個人、団体、あらゆることに焦点をあててみると、自ずから答えが見えてくる。己を知り相手も知るためには、コミュニケーションなしではあり得ない。よりよいコミュニケーション、国際レベルでも同じこと。英語でも解説。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>世界で競争力をもって活躍できるように。または、自国、ルーツに誇りを持って、世界にアピールできるように。相手の立場に立って考えると同時に、自己も見失わないように、信念理念をしっかりと持ち、アイデンティティーを確立する。どこへ行っても、臆せず畏れず、謙虚さと優しさも忘れない人間が多いほど、世界平和に近づくことが出来る。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>日本の品格 / 大河原良雄: 光文社, 1990          大人の品格 / 西浦みどり: PHP研究所, 2005</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>この授業は、日本語と英語の両方で講義します。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>info@amadeus-inc.com          a0a11183@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>月～金、9am 5pm</p>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1003111048
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	植村 高久			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業はアクティブな大学生活を送りたい人向けです。1)まず大学生生活の意義や考え方を確認します。2)次に大学生活に必要なものごとやその選択方法を考えます。3)最後に大学生生活の中心になる「テーマ」を各自で模索します。(具体的内容は前期・後期の授業開始時にスケジュールを配布します)					
<b>授業の一般目標</b>					
参加者全員が完全燃焼の、自分で満足できる大学生活を送れるような力の知恵を身につけること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 大学生生活に必要な常識を獲得し、独力で選択ができること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> つねに自分の「テーマ」を意識して行動できること。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に人と関わり、様々な行動を率先して行えるようなリーダーシップを持つこと。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の意思や考え方を他人に確実に伝えることができるコミュニケーション能力を持つこと。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
最終報告に対する相互評価を中心(50%)とし、授業内報告(25%)と演習参加度(25%)を加えて評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1003111056
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	米谷 健司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>多くの人にとって大学生生活は楽しいものです。しかし大学で学ぶことを楽しいと感じる人は少ないようです。また楽しいと感じる人もそれに気がつくまでかなりの時間がかかります。「私は勉強するために大学に入ったんだ！」と意気込む経済学部の新入生も、1ヵ月も経てば「ミクロ経済やらマクロ経済やらを学んでなんか役にたつの?」「簿記を知らなくて、別にいいじゃん!」と言い切ってしまう。こうした新入生のいわゆる5月病は、ある理論に従って唯一の解答を導くという高校までの思考パターンから脱却できていないために起こります。5月病にかかることなく大学で楽しく学ぶためには、高校までの思考パターンとは逆の思考パターン、つまり自分で理論を作り出すという思考パターンを訓練する必要があると私は思っています。この授業では、企業経営(ビジネス)の現場を素朴な目線で観察することによって、そこから浮かび上がる問題を発見し、それを理論化するという思考パターンを練習します。大学で楽しく学ぶためのきっかけを提供できればと思っています。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>高校までの思考パターンから、大学で楽しく学ぶための思考パターンに転換することを目標にします。実際の企業活動を分析対象とすることから、アニュアルレポートの内容や日本経済新聞(あるいは日経ビジネスなど)に掲載されている記事の内容をある程度理解できるようにします。また、グループ単位での作業、講義中のディスカッション、パソコン(ワード、エクセル、パワーポイント)の利用など、2年次から始まるゼミ活動の基礎的能力の習得も目指します。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告内容、授業中のディスカッションの貢献度で評価します(出席することが前提です)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1003111057
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	武居 奈緒子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
このセミナーの目的は、マーケティング・流通に関する基本的知識を習得することである。マーケティングとは、企業の市場創造活動である。このようにマーケティングを捉えると、我々の日常生活の中で、様々なことがマーケティングと関わっていることがわかる。このセミナーを通して、時代を読む目を養ってもらえたらと思う。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティング・流通に関する基礎的知識を習得する。</li> <li>・田村正紀著『業態の盛衰―現代流通の激流―』を輪読し、最先端の流通の実態について把握する。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
業態の盛衰―現代流通の激流― / 田村正紀:千倉書房, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1003111059
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	陳 建平			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>中国についての基礎を学習する。中国の歴史や文化、経済や政治、社会や日常生活などについて、それぞれが持っている疑問や知りたいことに、みんなで答えを探して見よう。たとえすぐに答えが見つからなくても、探す過程において、さまざまな知識が身につくであろう。</p> <p>まずは自分自身に、中国の何について知りたいかを問うてみよう。すべてはそこから始まる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国について、より多く、より詳しく、より深く知ることが出来る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国の歴史や文化、経済や政治、社会や日常生活などについて、一通りの知識を得ることが出来る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国に関連する事柄について、自分なりの考えを持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 特に自分の関心や興味ある分野について、積極的に調べることが出来る。					
<b>態度の観点:</b> 授業にきちんと出席し、討論に積極的に参加することが出来る。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えをプレゼンテーションできる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と報告発表及び最終レポートで総合評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1003111064
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	中村 美紀子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本セミナーは、経済法学科志望フレッシュマンを対象としたゼミです。</p> <p>その第1の目標に、ものの調べ方、とくに学内リサーチの基本を学ぶことを挙げます。</p> <p>第2の目標に、1つのテーマについて観点別の考え方をすることを挙げます。</p> <p>レジュメを作成して報告・質疑応答をする中でこれらの目標を達成してもらいたいと考えています。</p> <p>そして、第3の目標に、ソフトボールを通してのチームワークづくりを挙げます。大学生活を円滑に進めていくマナーも習得できるでしょう。</p> <p>春期・秋期の社会奉仕活動として学内草取り大会にも参加し、全体的にアクティブでフットワークのいいゼミを目指します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
適切な様式を整えたレジュメを書くための能力を高める、効果的なプレゼンテーションをするための能力を高める、リサーチを容易にこなす能力を高める、を挙げておきます。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>学内リサーチができるようになる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>ものごとを複数の観点からみられるようになる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>レジュメ作成によって自己をアピールできるようになる。</p> <p><b>態度の観点:</b>遅刻・無断欠席をしなくなる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>レジュメの作り方が分かるようになる。</p> <p>プレゼンに慣れることができる。</p> <p><b>その他の観点:</b>授業中の私語をしなくなる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価の観点には、a ゼミを楽しんでいるかどうか、b ゼミを盛り上げているかどうか、c 報告は勤勉にしているかどうか、d オンとオフのけじめをつけているかの4点です。					
<b>教科書</b>					
誰のための会社にするか/ロアルド・ドーア:岩波書店(岩波新書),2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
欠席が避けられない場合は事前に連絡してください。					
<b>連絡先</b>					
フレッシュマンセミナー時に連絡します。					
<b>オフィスアワー</b>					
前期火曜日 12:50 14:50、後期火曜日 16:10 17:40。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1003111053
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	長谷川 光圀			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
経営入門					
<b>授業の一般目標</b>					
基礎知識の習得					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎の原理の理解					
<b>思考・判断の観点:</b> 基本問題の基本的解析					
<b>関心・意欲の観点:</b> 出席、質問					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート、出席					
<b>教科書</b>					
経営学をやさしく学ぶ / 山大経営学科編:中央経済社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
教科書を読む					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1003111058
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	古川 澄明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>皆さんは、将来、企業に就職するのでしょうか？ それとも、公務員になりたいのでしょうか？ いずれにしても、経営(マネジメント)に関する知識が問われることになるでしょう。経営とは、何でしょうか？ 経営学とは、何でしょうか？ いま世界が陥っている金融危機、経済危機の中で、派遣社員を解雇し、正規社員を削減し、それでも経営状態が悪い企業、あるいは倒産する企業がありますが、それに対比して、大変に経営の良い、元気な企業もあります。この違いは、どこから来るのでしょうか？ この授業では、企業の経営に関わる種々の問題を取り上げます。企業には、多くの人々が組織を形成してその構成員として働き、給与を得ています。その企業は、家族的な小さな企業から、世界各国において事業活動を展開する大企業まであります。事業分野も、金融業から、家電、P.C、食品、水産、鉄鋼、商業など、多岐にわたります。国の経済・産業を支えるとともに、自らの存続のために、国内はもとより、国際市場で、日夜、存亡をかけた競争をしています。皆さんは、最近、ニュースで日本やアメリカの大企業が経営危機に陥っていることや、大学生の就職希望先が経営の悪い自動車企業から、収益の高い商社、太陽熱発電や水ビジネスを手掛ける環境ビジネス企業など、経営の良い、安定感のある企業にシフトしていることを耳にしていると思います。そこには、どのような経営問題があるのでしょうか。授業では、そうした企業の経営に関する基礎知識を学ぶために、「経営理論」、「経営戦略」、「組織」、「イノベーション」、「日本の経営」、「年功システム」、「女性の勤労問題」など、多様な問題を取り上げます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>経営学の基礎知識を学びます。グループ・ディスカッション方式で、賑やかに、楽しく学ぶ方式を採用します。将来、ビジネス社会、あるいは公務員として、活躍するための基礎的な経営学知識を習得できるでしょう。とくに国家認定資格である「公認会計士」や「税理士」や「中小企業診断士」など、ビジネスに関わる国家資格を取得したい方に役立つでしょう。そうした資格取得者は、社会的にも、企業に入っても、高い評価を得ています。本授業では、「中小企業診断士」受験者向けのテキストを利用します。そうした資格を取得したいと希望する学生に役立つでしょう。多くの資格取得者が学生時代に資格を得ています。もっとも多くの取得者はビジネスマンです。この資格は、会社で高い評価が得られるからでしょう。成果は自分の努力量に応じて得られます。単なる関心で受講を希望する方は遠慮して頂きたい。真剣に資格でも取ってやろうと意欲と実行力をもつ学生に受講して頂きたい。単なる腰掛的受講者、席を暖めるだけの受講者には、厳しい試練となるでしょう。逆に、勉学に燃える受講者には、その燃え上がる意欲に油が注がれるものとなるでしょう。自分の将来を自覚し、大学卒業後に有力企業に入って活躍したいという夢をもって、大学時代にそのための「自分への投資」をしたいと考える方、ご参加ください。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 授業では、毎時間、テーマを設定し、そのテーマに関するプレゼンテーションの後、そのテーマに沿った討論を行いながら、お互いの知識の理解度をチェックするようにします。よって、受講生はしっかりと予習をするだけでなく、日頃から、ニュースや新聞などに目を通しておく必要があります。評価は各時間にどれだけ積極的に参加しようとするかという意欲を中心に行います。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 自分で思考し、内容を理解することを重視する。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 現実の企業経営に関心を持ち、経営学知識を積極的に学ぼうとする意欲を重視する。</p> <p><b>態度の観点:</b> ゼミナールの学習活動へ積極的に参加することを重視する。受動的に受講しようとする方には、相応しくない授業形態である。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> プレゼンテーション能力を高め、表現力を重視する。</p> <p><b>その他の観点:</b> 積極的意欲を重視する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>3人チームを作り、毎回、1チームがテキストをまとめて報告し、討論をする。報告、討論参加回数、出欠がすべて点数で、毎回、評価され、当該授業日の評価点となる。成績は、毎回の評価点の平均点。試験は、実施しない。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>自分の値打ちを自覚し、それを高めてください。楽しく学んでください。3年生後半には、就職活動が始まり、そのときに就職希望先が君たちの値打ちを問うことを自覚してください。自分の値打ちを高めた方は、希望する就職先で活躍できるチャンスを与えられるでしょう。</p>					
<b>連絡先</b>					
学務					
<b>オフィスアワー</b>					
事前アボの上、随時。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月3～4	<b>時間割コード</b>	1003111049
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	山田 正雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>大学に入ってから、自分の考えを発表し、相手に伝えるということが、とても大切になってきます。この授業では、発表をする際の道具である PowerPoint の使い方をマスターし、それを使って発表の練習をしていきます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
PowerPoint をマスターし、プレゼンテーションの技術を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表、参加姿勢、出席により評価します。					
<b>教科書</b>					
できる PowerPoint 2007 / 井上 香緒里:インプレスジャパン, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
PowerPoint がインストールされたノートパソコンを用意してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月3～4	<b>時間割コード</b>	1003111062
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	吉川 信将			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
企業活動とそれを規制する主要な法令について、その存在意義や運用法などを、企業不祥事等の実例を交えながら考察する。					
<b>授業の一般目標</b>					
企業が現在の経済社会において占める役割の大きさとその活動を規制する法令のあり方について理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 会社法、独占禁止法、金融商品取引法といった主要な企業活動規制法規に対する理解を深める。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に参加し、発言する態度を養う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートまたは定期試験により理解度を判定し、出席状況や受講姿勢を加味して最終的評価を決定する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
参加者の希望に配慮するとともに、実際の進行状況に合わせて、授業計画はフレキシブルに修正します。					
<b>連絡先</b>					
経済学部A棟413階研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日12:50～14:20					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1003111063
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	安里 全勝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
刑法総論はどういう内容を持つかを理解して貰う。刑法の意義、性質、機能、犯罪の成立要件、構成要件論、違法論、責任論、共犯論、刑罰論の順に考察していく。					
<b>授業の一般目標</b>					
刑法総論の内容を考察することにより、刑法総論の学問的体系を理解して貰う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 刑法総論の内容について理解して貰う。刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。					
<b>思考・判断の観点:</b> 法的思考という観点から、刑法総論の具体的な事案を考察し、刑法理論が具体的な事案の解決にどのようにきょうされているかを見ていく。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
日頃の出席状況・レポート					
<b>教科書</b>					
刑法総論 / 安里全勝: 成文堂, 2009					
<b>参考書</b>					
演習ノート刑法総論(全訂第3版) / 斉藤誠二編: 法学書院, 2008					
<b>メッセージ</b>					
予習、復習をして欲しい。 毎回出席すること。					
<b>連絡先</b>					
オフィスアワー					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1003111060
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	河野 眞治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
レポートの書き方について学ぶ。テーマの決定から報告討論までを何度も繰り返して、それぞれの段階での必要知識を獲得する。					
<b>授業の一般目標</b>					
レポートの書き方について習熟する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>技能・表現の観点:</b> 形式の整ったレポートが書けるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートと討論への参加で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
kawano@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜 10:00-12:00					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1003111054
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	城下 賢吾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
個人の人生設計を学ぶための基礎知識の習得と学生間のコミュニケーション					
<b>授業の一般目標</b>					
個人の財務設計の習得と、新聞記事などを読めるようになることと学生間のコミュニケーションを図る					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学習・授業意欲、報告、出席などで決定					
<b>教科書</b>					
パーソナルファイナンス入門 / 榊原・城下・姜・砂川: 中央経済社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
sirosita@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1003111055
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	柳田 卓爾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>高校までの勉強と、大学からの勉強は、大きく異なっていると言われます。「言われます」とは、「異なっていると思っている・感じている人たちが、少なくない」という意味です。本来は、勉強なのですから、同じ(はず)です。</p> <p>あなた自身が正しいと思っている考えなどが、少なくとも間違っていないんだ、ということ、客観的な証拠を示しながら証明する(努力をすること、あるいは、正しいと思っていなくても、様々な証拠を見る限り、間違っていたということを確認すること。これらが、大学からの勉強を考える際に、まずは心掛けて欲しいことです。高校までは、いわゆる教科書に書かれていることを、正しく理解することに努力を傾けてきたことと思います。ここに、大きなギャップがあるようです。</p> <p>この基礎セミナーは、「大学からの勉強のイントロダクション」という位置づけで運営します。そのため、高校から大学への橋渡し(そのために書かれた本をテキストにしています)となるようなセミナーにしたいと考えています。</p> <p>担当教員の専門分野である「経営学」を題材にします。企業を成長させるときに、考慮しないといけないことは何か。ロングセラー商品を生み出すために、企業はどんな工夫をしているのか。必要な資金を集める際に、どんな問題に直面するのか。経営学の基礎的な知識を習得することを、目標にします。</p> <p>同時に、大学では、どんなことに注意しながら授業を聴いていけばいいか、どうやって勉強を進めていけばいいか、高校との違いは何か、といったことを一緒に学んでいきます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1) 「大学からの勉強」のイメージを理解する。</p> <p>(2) 経営学の基本事項(大学1年生のときに、学んでおいて欲しい知識)を理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験30%、授業内の小テストなど20%、授業外レポートなど20%、プレゼンテーションなど30%。出席は欠格条件です。					
<b>教科書</b>					
<p>高校生のための大学の授業 / 水島他: 弘文堂, 2008</p> <p>大学生の学び・入門 / 溝上慎一: 有斐閣, 2006</p>					
<b>参考書</b>					
<p>思考の整理学 (ちくま文庫) / 外山滋比古: 筑摩書房, 1986</p> <p>ゼミナール経営学入門 第3版 / 伊丹敬之、加藤野忠男: 日本経済新聞社, 2003</p>					
<b>メッセージ</b>					
今年度は、新しいコンテンツでの基礎セミナーになります。担当教員自身も、初めての試みです。何とか、がんばっていきたいと思います。みなさんも、積極的に、セミナーに参加してください。一年間という限られた時間ですが、よろしくお願ひします。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1003111047
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	塚田 広人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>主な学習内容は二つです。</p> <p>I 時事問題を考えます。</p> <p>時事問題とは毎日のニュースのことです。新聞が主な材料になります。ゼミナールの授業の中で、最初の半分ぐらいをこのための時間にあてます。毎回担当班が選んだ新聞記事を紹介し、それについての意見交換をします。 II 3冊ほどの新書版の本を読みます。</p> <p>(これまでの例)</p> <p>1、『シンプル人生の経済設計』森永卓郎、中公新書、2002年</p> <p>2、『パパバギ』立風書房、1981年</p> <p>3、『社会認識の歩み』内田義彦、岩波新書、1971年</p> <p>4、『豊かさとは何か』暉峻淑子、岩波新書、1989年</p> <p>5、『豊かさの条件』暉峻淑子、岩波新書、2003年</p> <p>読み方は全員がその回の範囲を読んできて、報告担当者がその要点を説明するというものです。報告は班で行います。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>I の目標...今の社会でどんな問題が起こっているかを知る。</p> <p>高校までは、基礎的な幅広い知識を身に付けました。こんどはそれを深く知るときです。そのためにまず、今私たちの周りではどんな問題が起こっているのかを知りましょう。15週で30のトピックに触れることができます。</p> <p>II の目標...社会問題の考え方を知る。</p> <p>経済とは、社会の進歩とは、社会はどうしたら理解できるんだろう...こういう疑問について考えます。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートの報告内容と議論への参加内容によって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>まず、世界を知り、問題を知り、そして考える。</p> <p>がんばってください。知の大海に船出しましょう。</p>					
<b>連絡先</b>					
A棟424号室、E-mail ht@yamaguchi-u.ac.jp、電話 083-933-5558					
<b>オフィスアワー</b>					
オフィスアワー 原則として水曜日1時半-3時。ただしほかの時間でも在室時はいつでも可。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	金 1～2	<b>時間割コード</b>	1003111052
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	中田 範夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
基礎セミナーは新入生の導入教育として実施される科目である。希望を持って入学してきた新入生に対して大学生活にスムーズに適応できるように支援します。したがって、授業以外にも大学生活にとって大事なことを確認していきたい。特に、4年後に卒業することを目標にしてどのような目標を持ち、それに向かって一日一日をどのように過ごしたらよいかというような部分について一緒に考えていきたい。もちろん勉強のしっかりやります。					
<b>授業の一般目標</b>					
大学生としてどのような生活を送るべきかを考え、実行してほしい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業への参加度、レポートなどによって総合的に評価したい。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
「一生懸命」という言葉が好きです。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
時間があるときはいつでも研究室へおいでください。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	金3～4	<b>時間割コード</b>	1003111067
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	朝日 幸代			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本授業の目的は、観光および地域経済に関する知識を増やし、現在直面する多様な問題を知ること、そしてその解決のために必要な考え方・そのための能力を養うことです。そのために、経済学、観光および地域経済に関する現状さらに地域経済政策の基礎となる資料等を使って、学びます。また、学生が興味を持つテーマにあわせて、レポート作成やプレゼンテーション技術のサポートを行います。</p> <p>演習Ⅱ、卒業論文演習の学生との交流、他のゼミとの交流も積極的に取り入れて、大学生活を有意義に過ごせるようにバックアップもしていきます。</p> <p>地域経済や観光を学ぶために必要な体験をしていただける場の提供を検討し、進めていく予定です。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実の観光、社会や経済問題について理解をする。</li> <li>・大学で自ら学ぶことの楽しさを体験してもらう。</li> <li>・授業で取り扱う文献や資料を理解し、経済学、経済分析の奥の深さを知ってもらう。</li> <li>・観光や経済に関するレジメを作成する能力およびプレゼンテーションする能力を養う。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 観光および社会や経済の問題について、経済学的な観点で理解することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 現実の観光や社会、経済の問題について、経済学的な観点から理解したことを、それがどのような意味をもっているのかを思考し、判断できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 観光および社会や経済の問題について、高い関心を持ち、それについて自ら情報収集する。</p> <p>・ゼミのメンバーの考え方や意見に関心をもつとともに、自らの考え方や意見も積極的に述べるができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>レジメの作成や様々なプレゼンテーションへの取り組み、コンピュータ講義、ゼミで行う学外研修をはじめとする観光と経済を学ぶための活動への積極的でかつ意欲的な参加について評価します。</p> <p>ゼミは出席することが何よりも大変重要です。すべて出席をするのは前提ですが、2度欠席した場合は欠格条件により評価を出すことができません。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>山口大学経済学部によろこそ！山口大での新しい4年間の生活のはじまりですね。</p> <p>このセミナー受講者は、ぜひ共通科目における経済関連科目、経済学科、観光政策学科における経済に関する数多くの授業を積極的に履修して下さい。</p> <p>基礎セミナーは毎週授業に参加することによって学べる内容も多いこと、ともに学ぶ友人たちとコミュニケーションできる場でもあります。必ず出席して下さい。このセミナー(ゼミ)は、学生の皆さんが主役です。学生同士が協力しながら、学ぶことで刺激し合える仲間のセミナー(ゼミ)になれば、セミナーを担当する者として大変うれしく思います。先輩との交流や学外研修も取り入れていきます。山口大学経済学部での4年間で素晴らしいものになっていただける1つのきっかけになれるセミナーであることを目指したいと思います！みんなで楽しいゼミにしましょう。</p>					
<b>連絡先</b>					
asahi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1003111061
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	安住 修一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>最初は各人別に興味のある新聞記事等を基に発表・説明をもらいそれについて全員で討論を行う。</p> <p>同時並行的に日本経済新聞の記者が書いた書物について班別の発表をもらう。</p> <p>また、5つのグループに分けて、グループ別に自発的に自由なテーマを選び、そのテーマについて研究発表をもらう。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>大学生としての生活と学習方法の基本をしっかり身に付ける。</p> <p>大学時代を通じての学習と学生生活に役立つような読書力、取りまとめ、発表する能力を磨き、グループディスカッション、プレゼンス、ディベートなどのコミュニケーション技術を学ぶ。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と授業への参加度合い、クラスへの貢献度、レポートなどによって成績を評価する。特に出席を重視する。					
<b>教科書</b>					
いやでもわかる日本経済 / 日本経済新聞社編: 日本経済新聞社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
(TEL)083-933-5580					
(メール)azumi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 10時30分～12時					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	金3～4	<b>時間割コード</b>	1003111050
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	齋藤 英智			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>大学で専門教育を受け、大学生生活を有意義なものにするための準備を整えることを目的として、次の2点を中心に授業を行う。</p> <p>1. 社会におけるさまざまなトピック(経済現象・経済用語)を取り上げ、その背後にある経済学的側面や用語の理解を通じて、経済学の基礎を学ぶ。</p> <p>2. 発表やディスカッションを通じてレジュメ、レポートの作成方法やプレゼンテーションの方法を学ぶ。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
経済を学ぶ上での基礎的知識を修得するとともに、自己表現・コミュニケーションの力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 経済現象に関する基礎的知識を身につける。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 問題に対する多面的なものを見方ができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 参加者の発言内容を良く聞き、それに対応した質問と受け答えができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 積極的に発表・ディスカッションに参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 参加者の理解しやすいレジュメの作成、プレゼンテーションができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業態度・授業への参加度(発言内容など):50%、発表(プレゼン方法など):50%により総合的に評価する。出席は当然のこととする(欠格条件)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>経済指標のかんどころ(改訂22版) / 富山県統計調査課編:富山県統計協会, 2002</p> <p>ビジネス・エコノミクス / 伊藤元重: 日本経済新聞社, 2004</p> <p>論文ワークブック / 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子: くらしお出版, 1997</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>発表者は報告の際、予めレジュメを用意してもらいます。ワードやエクセルなどのソフトが利用可能であることが望まれますが、不得手な人のためにも全員が使いこなせるようになるよう適宜利用方法についても学んでいきたいと思いをします。</p> <p>発表が下手でもかまいません。はじめは皆がそうです。授業を通じて少しでも良くなってほしいと思っています。そのためにも授業に積極的に臨み、発言する練習をすることが大切です。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>メールで質問や問い合わせを行う際は、メールの件名に「【基礎セミナー】      」と名前を必ず明記してください(件名がない場合はメールを破棄します)。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室(経済学部A棟4階425)在室中いつでも研究室に来ていただいて結構です。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1003111065
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	陳 禮俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>今日では、人類の生産力(対自然支配力)はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるというよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本基礎セミナーは、環境経済学の分野において、それに関わる基礎文献を輪読し、ゼミ参加者における理解、分析能力を高め、行うべき政策に関して自ら評価できるような水準まで、必要な知識を身に付けることを目標としている。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価は基本的に、出席(40%)、課題レポート(30%)と報告(30%)で行う。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>研究室: 経済学部 A 棟  電 話: 083-933-5526  E-mail: lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1003111051
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー(経) [Introductory Seminar (Economics)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経済			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	濱島 清史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>社会問題(特に労働経済論、社会政策論の内容)について取り扱う。具体的には、若年労働(フリーター、ニート)、女性労働(ワーク・ライフ・バランス = 男女の仕事と生活の調和、派遣・パート労働等)、少子高齢化、年金・介護などのテーマから、グループを作ってもらって、レポート作成、プレゼンテーション(パワーポイントでの発表)、ディスカッション(円陣を組んで議論)、ディベート(賛成反対に分かれて討論など)をやっていききたい。(資格を目指す人のセミナーではないので注意)</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>将来、社会に出てからも有益な知識となるような教養を身に付けること。できるだけコミュニケーション能力を向上させること。充実した大学生活を送るための一助となるセミナーとしたい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>社会問題について認識し、理解を深め、知識を定着させること。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>個人の意識の面から観るだけでなく、社会的な構造を分析する思考能力を養いたい。また、一つの観点到に囚われず、様々な角度から判断できるようになってもらいたい。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>社会問題に関して興味を持ち、自ら積極的に調べるようになること。</p> <p><b>態度の観点:</b>欠席、遅刻をしないこと。全国の大学で、5人に2人は留年し、10人に1人は退学する。最近の大学の出席重視の制度では、新入生の時から欠席、遅刻をするようでは留年氏、卒業できなくなってしまう。そのようなことの起こらないように取り計らいたい。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>高校までの主観的な感想文から、大学における客観的な論文を書けるように、レポート作成の技法を学んでもらいたい。大学では多くレポートが課せられるが、これによりあらゆる科目のレポート作成に有益な筈である。</p> <p>またパソコンを使ったプレゼンテーション(発表)、ディスカッション(議論)、ディベート(討論)といったコミュニケーション能力も高めていきたい。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>レポート、グループ発表で評価。ディスカッション、ディベートなども評価に入る。ただし、結局は期末レポートの比重が最も大きくなるだろう。評価基準は、開講後、改めて明瞭に示す。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>知識はどこまでも伸びやかで優しいものです。共に学んでいきましょう！</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	月 9 ~ 10	<b>時間割コード</b>	1003221004
<b>開設科目名</b>	医学英語2 [Medical English 2]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	医学5年			<b>学年</b>	5 ~
<b>担当教員</b>	濱野 公一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医学英語論文の解読 英文カルテの書き方 英文紹介状の書き方					
<b>授業の一般目標</b>					
英文カルテを記載出来るようになる 大まかな医学英語論文の解読が出来るようになる					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 医学英語論文の解読					
<b>技能・表現の観点:</b> 英文カルテの書き方					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
医学英語論文の解読状況の口頭式問					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002112006
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー2 [Introductory Seminar 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	言語			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	池園 宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
2年生からの言語文化学科の専門教育が理解できるようにするための橋渡しの意味を持つ。従って、専門教育の基礎知識、技能を身につけさせることを目的に行う。授業は、言語文化学科の教員を3チームに分け、その3チームの授業を受ける。各チーム内の教員4人がオムニバス形式で授業を進める。					
<b>授業の一般目標</b>					
専門課程の各コース、あるいは各教員の教育内容を理解し、専門分野への基本的知識技能への関心を高めることが目標である。各コースの教員の担当分野への理解を深めることで、コース選択の一助となる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 教員の話の内容を理解できるか。					
<b>思考・判断の観点:</b> 話を理解するために、自分なりに考えたり、参考文献を読むこと。					
<b>関心・意欲の観点:</b> オムニバス形式で進められるので、その中から「自分の興味はどこにあるか」を探すこと。					
<b>態度の観点:</b> 専門教育への足がかりとなるゼミなので、積極的に参加する必要がある。					
<b>技能・表現の観点:</b> 授業内容を第三者に分かり易く説明できるか。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内レポート、場合によっては、授業外レポートが70%。授業態度 30%。出席は欠格条件として取り扱います。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002112002
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー2 [Introductory Seminar 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人社			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	篠原 厚			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002112004
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー2 [Introductory Seminar 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	言語			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	更科 慎一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
2年生からの言語文化学科の専門教育が理解できるようにするための橋渡しの意味を持つ。従って、専門教育の基礎知識、技能を身につけさせることを目的に行う。授業は、言語文化学科の教員を3チームに分け、その3チームの授業を受ける。各チーム内の教員4人がオムニバス形式で授業を進める。					
<b>授業の一般目標</b>					
専門課程の各コース、あるいは各教員の教育内容を理解し、専門分野への基本的知識技能への関心を高めることが目標である。各コースの教員の担当分野への理解を深めることで、コース選択の一助となる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 教員の話の内容を理解できるか。					
<b>思考・判断の観点:</b> 話を理解するために、自分なりに考えたり、参考文献を読むこと。					
<b>関心・意欲の観点:</b> オムニバス形式で進められるので、その中から「自分の興味はどこにあるか」を探すこと。					
<b>態度の観点:</b> 専門教育への足がかりとなるゼミなので、積極的に参加する必要がある。					
<b>技能・表現の観点:</b> 授業内容を第三者に分かり易く説明できるか。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内レポート、場合によっては、授業外レポートが70%。授業態度 30%。出席は欠格条件として取扱う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1～2	<b>時間割コード</b>	1002112003
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー2 [Introductory Seminar 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人社			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	高橋 征仁			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
2年からの人文社会専門課程教育の具体的内容を理解し、専門教育の橋渡しとなるような基礎認識と技能を身につける。人文社会学科を構成する哲学・思想コース、歴史学コース、社会学コースの教員が同じように授業を行うように構成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
専門課程の各コースあるいは各先生の教育内容を理解し、専門分野の基本的知識・技能への関心を高める。各コース及び各教員の担当分野への理解を深めることでコース選択に役立てる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 専門分野に関する基礎認識を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 専門分野への強い関心を抱く。					
<b>態度の観点:</b> 授業に積極的に参加することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 課題に対して適切な表現ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎週の授業への参加度と授業レポートが50%、学期末のまとめのレポートが50%で評価する。出席は欠格条件。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002112005
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー2 [Introductory Seminar 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	言語			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	平野 尊識			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
2年生からの言語文化学科の専門教育が理解できるようにするための橋渡しの意味を持つ。従って、専門教育の基礎知識、技能を身につけさせることを目的に行う。授業は、言語文化学科の教員を3チームに分け、その3チームの授業を受ける。各チーム内の教員4人がオムニバス形式で授業を進める。					
<b>授業の一般目標</b>					
専門課程の各コース、あるいは各教員の教育内容を理解し、専門分野への基本的知識技能への関心を高めることが目標である。各コースの教員の担当分野への理解を深めることで、コース選択の一助となる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 教員の話の内容を理解できるか。					
<b>思考・判断の観点:</b> 話を理解するために、自分なりに考えたり、参考文献を読むこと。					
<b>関心・意欲の観点:</b> オムニバス形式で進められるので、その中から「自分の興味はどこにあるか」を探すこと。					
<b>態度の観点:</b> 専門教育への足がかりとなるゼミなので、積極的に参加する必要がある。					
<b>技能・表現の観点:</b> 授業内容を第三者に分かり易く説明できるか。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内レポート、場合によっては、授業外レポートが70%。授業態度 30%。出席は欠格条件として取り扱います。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002112001
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー2 [Introductory Seminar 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人社			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	脇條 靖弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
2年からの人文社会専門課程教育の具体的内容を理解し、専門教育の橋渡しとなるような基礎認識と技能を身につける。人文社会学科を構成する哲学・思想コース、歴史学コース、社会学コースの教員が同じように授業を行うように構成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
専門課程の各コースあるいは各先生の教育内容を理解し、専門分野の基本的知識・技能への関心を高める。各コース及び各教員の担当分野への理解を深めることでコース選択に役立てる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 専門分野に関する基礎認識を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 専門分野への強い関心を抱く。					
<b>態度の観点:</b> 授業に積極的に参加することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 課題に対して適切な表現ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎週授業についての感想レポートをメールで提出する。最終回は、総括と最終レポート作成の時間とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1～2	<b>時間割コード</b>	1002112007
<b>開設科目名</b>	基礎セミナー2 [Introductory Seminar 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	情報(数情)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	渡邊 正, 糸長 雅弘, 北本 卓也, 野村 厚志, 飯寄 信保			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>将来の目標を決めて、それを達成するために必要なことを大学の4年間で獲得することが求められている。それには、早い時点で目標を設定することが必要である。また、目標を達成するためにタイムスケジュールを計画し、就職活動などに必要な技能等を計画的に修得する心構えを育成する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>大学4年間で無駄に過ごさないために、また、将来の目標を見据えた勉学をするために必要な態度を育成する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 目標の設定、タイムスケジュールの計画などの必要性の理解					
<b>思考・判断の観点:</b> タイムスケジュール内の各目的を達成するために要する行動計画の理解					
<b>関心・意欲の観点:</b> 行動計画の実行方法の計画					
<b>態度の観点:</b> 計画と実行との相違					
<b>技能・表現の観点:</b> 総合的判断能力					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>各レポートと授業態度などにより総合的に評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
基礎セミナー					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002121035
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	応化			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	中塚 晃彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>(1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。</p> <p>(2)基本的なアプリケーションを活用できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>(1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>(1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。</p> <p>(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>(1)情報倫理を守った行動ができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>(1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。</p> <p>(2)データの集計や分析を行うことができる。</p> <p>(3)情報の発信を行うことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は2回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は1回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1002121036
<b>開設科目名</b>	情報リテラシー演習 [Information Literacy]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	木下 真			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。</p> <p>また、「情報リテラシー」は、山口大学の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として活用していく上で欠くことのできない能力である。</p> <p>本講義では Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)パソコンの基本的な操作方法を説明できる。					
(2)基本的なアプリケーションを活用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> (1)氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。					
(2)自分が専攻する分野の学習に、意欲的にパソコンを活用することができる。					
<b>態度の観点:</b> (1)情報倫理を守った行動ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> (1)マルチメディアを活用した文書を作成できる。					
(2)データの集計や分析を行うことができる。					
(3)情報の発信を行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は欠格事項として扱う。具体的には欠席は 2 回以上ある場合には、単位の認定(成績評価)を行わない。したがって欠席は 1 回のみ認める。</li> <li>・毎回の授業ごとに提出を求められる課題・宿題を期日までに確実に実施し、提出すること。</li> <li>・原則として定期試験は実施しない。宿題・課題(レポートを含む)の提出状況や演習内容の成果から成績評価を行う。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めて使うものとして授業を行う。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	月7～8	<b>時間割コード</b>	1002122032
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	応化			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	山本 修一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1002122033
<b>開設科目名</b>	情報セキュリティ・モラル [Information Security and Morals]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	岡田 耕一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつ今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うに当たり、すべての参加者は、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式(情報モラル)を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで、「情報セキュリティ」とは情報の機密性、完全性及び可用性を維持することであり、「情報モラル」とは情報を適正に取り扱うための考え方や態度のことであり、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本授業では、参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を身に付けることができるよう、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、コンプライアンス、リスクアセスメント等について解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割とそれらが及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報セキュリティに対する責任を認識するとともに、望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に参画しようとする態度を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 情報の本質を理解し、その意義を説明することができる。 2. 情報セキュリティに関する知識を有し、基本的な概念を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 参加者として自己の立場に相応しい思考と行動の様式を取り入れることができる。 2. どのような行動が情報セキュリティに対する自らの責任であるのかを判断することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 新しい情報技術や情報セキュリティ技術に関心を持ち、意欲的にそれらの利用や活用に取り組むことができる。 2. 参加者として、セキュリティ文化に関心を持ち、自らその普及に努めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>1. 望ましいユビキタスネットワーク社会の創造に自ら参画し、参加者として責任ある行動をとることができる。 2. 情報モラル、法令等を遵守することにより、民主主義の原則に適った行動をとることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. 基礎的な情報セキュリティ技術を使いこなすことができる。 2. 遭遇したセキュリティ事故を記録に残し、報告書を作成することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
2回以上の欠席を欠格条件(欠席は1回のみ)とし、毎回の小テストとクォーター末のレポート課題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>単なる情報機器の操作やソフトウェアの利用に長けているだけでは、真の情報活用能力があるとは言えません。なぜなら、「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことだからです。この授業は、真の情報活用能力の前提となる考え方や態度を身に付けることを目的としています。ユビキタスネットワーク社会の参加者として適切な行動がとれるよう、その基盤となる考え方や態度を常に持ち続けてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期前半	曜日時限	月5~6	時間割コード	1002212028
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	高橋 俊章			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる <b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる <b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する <b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。 共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。 毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。 期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。 3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。 残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。 2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。 TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。 原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期前半	曜日時限	月5-6	時間割コード	1002212030
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	堤 千佳子			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる <b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる <b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する <b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。 共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。 毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。 期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。 3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。 残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。 2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
Prize Pointers for the TOEIC Test / 石井隆之: 南雲堂, 2009					
<b>参考書</b>					
Prize Pointers for the TOEIC Test / 石井隆之: 南雲堂, 2009					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。 TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。 原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	月5~6	<b>時間割コード</b>	1002212029
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
以上の3つのという基準をすべて超えることによって、合格となります。合格基準を満たした受講生に対する秀から可までの成績評価は、授業担当者が出した課題や試験によって総合的に行います。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
/ 山根 和明, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
経済学部内、研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

開設期	後期前半	曜日時限	月7~8	時間割コード	1002212034
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	赤羽 仁志			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる <b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる <b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する <b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。 共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。 毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。 期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。 3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。 残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。 2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
New Strategies for Stronger English Skills / 倉田誠, Craig Smith, 横山仁視, 石川保茂, 松田早恵: 金星堂, 2006					
<b>参考書</b>					
日本人の英語 / マーク・ピーターセン: 岩波書店 外国語学習に成功する人、しない人 / 白井恭弘: 岩波書店 英文法の疑問 / 大津由紀雄: 日本放送出版協会 英文法のからくり 英語表現の意味を「推理」する / 武田修一、小原純子: 丸善 英語学習7つの誤解 / 大津由紀雄: 日本放送出版協会					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。 TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。 原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特に設けず、アポイントメントによる。					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002212035
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岡 紘一郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>思考・判断の観点:</b> テキストの筆者の意図が読みとれる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
Strange Stories, Amazing Facts / Junko Suzuki: Taiyosha					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期前半	曜日時限	月7~8	時間割コード	1002212036
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	倉増 泰弘			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期前半	曜日時限	月7~8	時間割コード	1002212037
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	高橋 博美			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいないだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期前半	曜日時限	月7~8	時間割コード	1002212038
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	前出 泰司			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002212043
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	石井 由理			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的の自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。毎回簡単な語彙テストをします。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
World in Motion / Michael Hood/Takako Moroi: Kinseido, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
教育学部 200-1研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
初回授業時に指示					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002212046
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大野 厚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002212047
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002212045
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいないだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修した場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
(担当教官よりメッセージ)					
TOEIC400点をクリアするための条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。落とし穴は「知っているつもり」のレベルでは通用しないということです。解決法も意外と明確です。英語は使うことによって力が付きます。聞くことは聞くこと、話すことは話すこと、読むことは読むこと、書くことは書くことで力が付いていきます。問題の核心のほとんどは、実際に使う量を多くするにはどうしたらよいか、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感です。したがって、この授業では、この両方に対処します。					
具体的には、コミュニケーションゲームなどを通して、実際に英語を使う場面を増やします。授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。会話などのオーラルコミュニケーションを主体としますが、慣れてくるにつれ、リーディング・ライティングに力を入れていきます。リーディングでは特に速読力を付けます。ゲームを通して語彙・文法力アップも目指します。					
<b>連絡先</b>					
oneworld@international.name					
<b>オフィスアワー</b>					
非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002212044
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮崎 充保			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的の自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。特に、この授業では、英語のリーディングのスキルを扱います。どのようにしてできるだけ和訳を通さずに英語を読んで理解できるようになるか、そのやり方を授業では実践し、スキルを身につけるようにします。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
以上に加えて、教室内での作業、課題、これらの提出で授業の出欠をとります。また、これらを毎回、評価します。提出物の返却はコメントと共に次の授業で返却します。また、コメントは教室で全体的なこととして述べます。					
<b>教科書</b>					
Basic Skills for Reading / Neil J. Anderson, et.al.: SEIBIDO, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
mmiy@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
空いている時間ならいつでもオフィスアワーにします。					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002212057
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002212056
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいますというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
(担当教官よりメッセージ)					
TOEIC400点をクリアするための条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。落とし穴は「知っているつもり」のレベルでは通用しないということです。解決法も意外と明確です。英語は使うことによって力が付きます。聞くことは聞くこと、話すことは話すこと、読むことは読むこと、書くことは書くことで力が付いていきます。問題の核心のほとんどは、実際に使う量を多くするにはどうしたらよいか、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感です。したがって、この授業では、この両方に対処します。					
具体的には、コミュニケーションゲームなどを通して、実際に英語を使う場面を増やします。授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。会話などのオーラルコミュニケーションを主体としますが、慣れてくるにつれ、リーディング・ライティングに力を入れていきます。リーディングでは特に速読力を付けます。ゲームを通して語彙・文法力アップも目指します。					
<b>連絡先</b>					
oneworld@international.name					
<b>オフィスアワー</b>					
非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002212058
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	那須 朱実 [NASU Akemi]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
A Spiral Course for the TOEIC test-スパイラル方式で攻略する TOEICR テスト- / 石井隆之 / 嶋田邦子 / 松村優子 / Daniel Aronoff : 金星堂, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002212054
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	猫田 和明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいないだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)					
<b>オフィスアワー</b>					
特に設けていません。時間が空いていればいつでも相談にのります。まずはメールください。					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002212055
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
/ 山根 和明, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
経済学部内、研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

開設期	後期前半	曜日時限	火7~8	時間割コード	1002212053
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	皆尾 麻弥			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
The Twits / Roald Dahl: Puffin					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002212059
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	矢野 紀子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
Quick Training for the TOEIC TEST / 塚本知夫: センゲージラーニング, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火11~12	<b>時間割コード</b>	1002212066
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	内海 俊祐			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的の自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>思考・判断の観点:</b> 英文のコンテキストが正確に把握できる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいらただけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
Top of the Pops Listening 「ポップソングで楽しく学ぶ実用リスニング」/ 熊井信弘 Stephen Timson: マクミラン ランゲージハウス, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002212068
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	高橋 俊章			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002212069
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> ストーリー性のある英文を読むことの面白さを知る。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。</p> <p>共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。</p> <p>毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。</p> <p>期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。</p> <p>3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。</p> <p>残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。</p> <p>2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。</p>					
<b>教科書</b>					
The Beatles / Paul Shipton: Penguin Books, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。</p> <p>TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。</p> <p>原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。</p>					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:30					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002212072
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的の自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> ストーリー性のある英文を読むことの面白さを知る。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。</p> <p>共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。</p> <p>毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。</p> <p>期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。</p> <p>3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。</p> <p>残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。</p> <p>2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。</p>					
<b>教科書</b>					
The Beatles / Paul Shipton: Penguin Books, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。</p> <p>TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。</p> <p>原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。</p>					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:30					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002212033
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	堤 千佳子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、授業に積極的に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
Prize Pointers for the TOEIC Test / 石井隆之: 南雲堂, 2009					
<b>参考書</b>					
Prize Pointers for the TOEIC Test / 石井隆之: 南雲堂, 2009					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002212032
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
/ 山根 和明, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修した場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
経済学部内、研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	月5~6	<b>時間割コード</b>	1002212031
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	藤本 幸伸			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、授業に積極的に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>履修期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002212039
<b>履修科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岡 紘一郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的の自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる <b>思考・判断の観点:</b> 文の意味を的確に読み取る。 <b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる <b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、授業に積極的に参加する <b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価 100点満点のうち 50 点は、以下の条件を 3 つともクリアすることで与えられます。</p> <p>共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。</p> <p>毎週最低 2 時間のオンライン学習を行っている。</p> <p>期限内のオンライン学習の合計時間が 14 時間以上になっている。</p> <p>3 つの条件のうち 1 つでも欠けている場合は、この部分の評価は 0 点となります。</p> <p>残りの 50 点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。</p> <p>2 回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で 2 度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。</p>					
<b>教科書</b>					
Strange Stories, Amazing Facts / Junko Suzuki: Taiyosha					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>各クォーター 1 単位のみ履修できます。2 単位以上履修をした場合は全部が無効になります。</p> <p>TOEIC400 点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。</p> <p>原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002212040
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期後半	曜日時限	月7~8	時間割コード	1002212041
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	高橋 博美			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる <b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる <b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、授業に積極的に参加する <b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。 共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。 毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。 期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。 3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。 残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。 2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。 TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。 原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002212042
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	前出 泰司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、授業に積極的に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002212048
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	石井 由理			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的の自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。毎回簡単な語彙テストをします。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
World in Motion / Michael Hood/Takako Moroi: Kinseido, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
教育学部 200-1研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
初回授業時に指示					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002212051
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大野 厚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、授業に積極的に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002212052
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002212050
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいないだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修した場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
(担当教官よりメッセージ)					
TOEIC400点をクリアするための条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。落とし穴は「知っているつもり」のレベルでは通用しないということです。解決法も意外と明確です。英語は使うことによって力が付きます。聞くことは聞くこと、話すことは話すこと、読むことは読むこと、書くことは書くことで力が付いていきます。問題の核心のほとんどは、実際に使う量を多くするにはどうしたらよいか、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感です。したがって、この授業では、この両方に対処します。					
具体的には、コミュニケーションゲームなどを通して、実際に英語を使う場面を増やします。授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。会話などのオーラルコミュニケーションを主体としますが、慣れてくるにつれ、リーディング・ライティングに力を入れていきます。リーディングでは特に速読力をつけます。ゲームを通して語彙・文法力アップも目指します。					
<b>連絡先</b>					
oneworld@international.name					
<b>オフィスアワー</b>					
非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002212049
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮崎 充保			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的の自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。特に、この授業では、英語のリーディングのスキルを扱います。どのようにしてできるだけ和訳を通さずに英語を読んで理解できるようになるか、そのやり方を授業では実践し、スキルを身につけるようにします。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、授業に積極的に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
以上に加えて、教室内での作業、課題、これらの提出で授業の出欠をとります。また、これらを毎回、評価します。提出物の返却はコメントと共に次の授業で返却します。また、コメントは教室で全体的なこととして述べます。					
<b>教科書</b>					
Basic Skills for Reading / Neil J. Anderson, et.al.: SEIBIDO, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
mmiy@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
空いた時間であればオフィスアワーにします。					

開設期	後期後半	曜日時限	火7~8	時間割コード	1002212064
開設科目名	Basic English [Basic English]			単位	1単位
対象学生				学年	1~
担当教員	倉増 泰弘			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002212062
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が12時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
(担当教官よりメッセージ)					
TOEIC400点をクリアするための条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。落とし穴は「知っているつもり」のレベルでは通用しないということです。解決法も意外と明確です。英語は使うことによって力が付きます。聞くことは聞くこと、話すことは話すこと、読むことは読むこと、書くことは書くことで力が付いていきます。問題の核心のほとんどは、実際に使う量を多くするにはどうしたらよいか、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感です。したがって、この授業では、この両方に対処します。					
具体的には、コミュニケーションゲームなどを通して、実際に英語を使う場を増やします。授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。会話などのオーラルコミュニケーションを主体としますが、慣れてくるにつれ、リーディング・ライティングに力を入れていきます。リーディングでは特に速読力をつけます。ゲームを通して語彙・文法力アップも目指します。					
<b>連絡先</b>					
oneworld@international.name					
<b>オフィスアワー</b>					
非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002212063
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	那須 朱実 [NASU Akemi]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、授業に積極的に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
A Spiral Course for the TOEIC test-スパイラル方式で攻略する TOEICR テスト- / 石井隆之 / 嶋田邦子 / 松村優子 / Daniel Aronoff : 金星堂, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002212061
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
/ 山根 和明, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
経済学部内、研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002212060
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮原 一成			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、授業に積極的に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
受講生には授業で知らせます。					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002212065
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	矢野 紀子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
Quick Training for the TOEIC TEST / 塚本知夫: センゲージラーニング, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火11～12	<b>時間割コード</b>	1002212067
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	内海 俊祐			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>思考・判断の観点:</b> 英文のコンテキストが正確に把握できる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、授業に積極的に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
op of the Pops Listening 「ポップソングで楽しく学ぶ実用リスニング」/ 熊井信弘 Stephen Timson: マクミラン ランゲージハウス, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002212071
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	高橋 俊章			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、授業に積極的に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。					
3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。					
残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。					
TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002212070
<b>開設科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> ストーリー性のある英文を読むことの面白さを知る。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。</p> <p>共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。</p> <p>毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。</p> <p>期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。</p> <p>3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。</p> <p>残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。</p> <p>2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。</p>					
<b>教科書</b>					
The Beatles / Paul Shipton: Penguin Books, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。</p> <p>TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。</p> <p>原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。</p>					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:30					

<b>履修期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002212073
<b>履修科目名</b>	Basic English [Basic English]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的の自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> ストーリー性のある英文を読むことの面白さを知る。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業に欠かさず出席し、授業に積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価 100点満点のうち50点は、以下の条件を3つともクリアすることで与えられます。</p> <p>共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。</p> <p>毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。</p> <p>期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。</p> <p>3つの条件のうち1つでも欠けている場合は、この部分の評価は0点となります。</p> <p>残りの50点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。</p> <p>2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。</p>					
<b>教科書</b>					
The Beatles / Paul Shipton: Penguin Books, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。</p> <p>TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。</p> <p>原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。</p>					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:30					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002219006
<b>開設科目名</b>	TOEIC 指導 [Basic Training for the TOIEC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 14 ~ 19 年度入学者			<b>学年</b>	2 ~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC に必要な基本的語彙、文法を習得し、TOEIC スコアの向上を目指す。					
<b>授業の一般目標</b>					
TOEIC350点獲得					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC に必要な基本的語彙、文法を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 素早く判断する力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> TOEIC スコア向上への意欲を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 自学自習の習慣をつける。					
<b>技能・表現の観点:</b> TOEIC に必要な語彙力とは、英語を他の英語で置き換えられる能力です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学部によって要求されるスコアが違うので、要求されたスコアをとれば「可」以上で評価する。300~345は「可」、350~395は「良」、400から445は、「優」、450以上は「秀」とする。					
<b>教科書</b>					
TOEIC テスト新公式問題集 vol. 3: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
とにかく要求されている TOEIC スコアを何が何でもクリアしよう!!!					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	月 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1002219008
<b>開設科目名</b>	TOEIC 指導 [Basic Training for the TOIEC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 14 ~ 19 年度入学者			<b>学年</b>	2 ~
<b>担当教員</b>	JOHNSON JUDITH ANN			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
This class is designed to increase students' listening comprehension. Listening genres include: conversations with a doctor, telephone inquiries, casual conversations, radio shows and TV talk shows. Students will take pre- and post-tests and a quiz after each unit.					
<b>授業の一般目標</b>					
Students will increase their listening comprehension related to daily communication topics to achieve at least 70% accuracy.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
The student must complete all assignments. If a student is absent from more than one class, he/she CANNOT pass the course.					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002219007
<b>開設科目名</b>	TOEIC 指導 [Basic Training for the TOIEC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 14 ~ 19 年度入学者			<b>学年</b>	2 ~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC に必要な基本的語彙、文法を習得し、TOEIC スコアの向上を目指す。					
<b>授業の一般目標</b>					
TOEIC350点獲得					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEIC に必要な基本的語彙、文法を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 素早く判断する力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> TOEIC スコア向上への意欲を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 自学自習の習慣をつける。					
<b>技能・表現の観点:</b> TOEIC に必要な語彙力とは、英語を他の英語で置き換えられる能力です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学部によって要求されるスコアが違うので、要求されたスコアをとれば「可」以上で評価する。300~345は「可」、350~395は「良」、400から445は「優」、450以上は「秀」とする。					
<b>教科書</b>					
TOEIC テスト新公式問題集 vol. 3: 国際ビジネスコミュニケーション協会					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
とにかく要求されている TOEIC スコアを何が何でもクリアしよう!!!					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	月 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1002219009
<b>開設科目名</b>	TOEIC 指導 [Basic Training for the TOIEC Test]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 14 ~ 19 年度入学者			<b>学年</b>	2 ~
<b>担当教員</b>	JOHNSON JUDITH ANN			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
This class is designed to increase students' listening comprehension. Listening genres include: conversations with a doctor, telephone inquiries, casual conversations, radio shows and TV talk shows. Students will take pre- and post-tests and a quiz after each unit.					
<b>授業の一般目標</b>					
Students will increase their listening comprehension related to daily communication topics to achieve at least 70% accuracy.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
The student must complete all assignments. If a student is absent more than once, he/she CANNOT pass the course.					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002219011
<b>開設科目名</b>	英語基礎(1) [Fundamental English 1]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 14・15 年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	鴨川 啓信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また、毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が、URL が長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが 700 点(7 回) [『英語基礎(1)』のみを受講する者に対しては、600 点(6 回)] 単語テストが 200 点(5 回) です。</p> <p>『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点(あるいは 200 点)とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
『英語基礎』 / 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火 11～12	<b>時間割コード</b>	1002219012
<b>開設科目名</b>	英語基礎(1) [Fundamental English 1]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 14・15 年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	唐下 笑美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基礎的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト「英語基礎」を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learning ソフト「英文法徹底トレーニング」の指定された箇所を学習してください。また、毎週 50 語程度の単語を覚えて来て下さい。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてありますが、URL が長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」リンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙、文法的知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが 700 点(7回)「英語基礎文法(1)」のみ受講するものに対しては、600 点(6回)、単語テストが 200 点(5回)です。</p> <p>「英文法徹底トレーニング」の学習状況、あるいは担当教員独自の課題などの裁量点を 100 点「あるいは 200 点」とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
「英語基礎」/ 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
なし					
<b>連絡先</b>					
emikotg@nifty.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002219014
<b>開設科目名</b>	英語基礎〔2〕 [Fundamental English 2]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 14・15 年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	鴨川 啓信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また、毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が、URL が長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが 600 点(6 回) 単語テストが 200 点(5 回) です。</p> <p>『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
『英語基礎』 / 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火 11～12	<b>時間割コード</b>	1002219015
<b>開設科目名</b>	英語基礎〔2〕 [Fundamental English 2]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 14・15 年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	唐下 笑美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト「英語基礎文法」を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learning ソフト「英文法徹底トレーニング」の指定された箇所を学習してください。また、毎週50語程度の単語を覚えて来て下さい。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてありますが、URL がながいので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」リンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語テストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが 600 点(6 回) 単語テストが 200 点(5 回)です。</p> <p>「英文法徹底トレーニング」の学習状況、あるいは担当教員独自の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
英語基礎 / 山口大学共通教育英語部会: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
なし					
<b>連絡先</b>					
emikotg@nifty.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002219020
<b>開設科目名</b>	英語基礎文法(1) [Fundamental English 1]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 16 年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	鴨川 啓信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また、毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が、URL が長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが 700 点(7 回) [『英語基礎文法(1)』のみを受講する者に対しては、600 点(6 回)] 単語テストが 200 点(5 回) です。</p> <p>『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点(あるいは 200 点)とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
『英語基礎』 / 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火 11～12	<b>時間割コード</b>	1002219021
<b>開設科目名</b>	英語基礎文法(1) [Fundamental English 1]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 16 年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	唐下 笑美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基礎的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト「英語基礎」を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learning ソフト「英文法徹底トレーニング」の指定された箇所を学習してください。また、毎週 50 語程度の単語を覚えて来て下さい。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてありますが、URL が長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」リンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙、文法的知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが700点(7回)「英語基礎文法(1)」のみ受講するものに対しては、600点(6回)、単語テストが200点(5回)です。</p> <p>「英文法徹底トレーニング」の学習状況、あるいは担当教員独自の課題などの裁量点を100点「あるいは200点」とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
「英語基礎」/ 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
なし					
<b>連絡先</b>					
emikotg@nifty.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002219023
<b>開設科目名</b>	英語基礎文法(2) [Fundamental English 2]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 16 年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	鴨川 啓信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基本的文法事項の理解, 語彙力の強化を目的とします。授業では, 統一テキスト『英語基礎』を用いて, 文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について, 練習問題を解き, e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また, 毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と, 英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので, これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は, 外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が, URL が長いので, 山口大学トップページから, 「在学生の方へ」, 「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。</p> <p>授業では, 文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み, 継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ, テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく, e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し, 「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが 600 点(6 回) 単語テストが 200 点(5 回) です。</p> <p>『英文法徹底トレーニング』の学習状況, あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし, これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
『英語基礎』 / 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火 11～12	<b>時間割コード</b>	1002219024
<b>開設科目名</b>	英語基礎文法(2) [Fundamental English 2]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	平成 16 年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	唐下 笑美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト「英語基礎文法」を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learning ソフト「英文法徹底トレーニング」の指定された箇所を学習してください。また、毎週50語程度の単語を覚えて来て下さい。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてありますが、URL がながいので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」リンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語テストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが 600 点(6 回) 単語テストが 200 点(5 回)です。</p> <p>「英文法徹底トレーニング」の学習状況、あるいは担当教員独自の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
英語基礎 / 山口大学共通教育英語部会: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
なし					
<b>連絡先</b>					
emikotg@nifty.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002219017
<b>開設科目名</b>	英語基礎文法 [Fundamental English]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	平成 17～19 年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	鴨川 啓信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また、毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/blld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が、URL が長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが 1300 点(13 回)、単語テストが 400 点(10 回)です。</p> <p>『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
『英語基礎』 / 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火 11～12	<b>時間割コード</b>	1002219018
<b>開設科目名</b>	英語基礎文法 [Fundamental English]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	平成 17～19 年度入学者			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	唐下 笑美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>基礎的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト「英語基礎」を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。</p> <p>宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learning ソフト「英文法徹底トレーニング」の指定された箇所を学習してください。また、毎週 50 語程度の単語を覚えて来て下さい。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。</p> <p>e-learning は、外国語センターの WBT 教材のページにまとめてありますが、URL が長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」、「WBT 教材」リンクをたどることもできます。</p> <p>授業では、文法と単語のテストを実施します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>基本的な英語の語彙、文法的知識を身につける。</p> <p>英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英文法の知識を身につけ、テスト問題を解けるようになる。</p> <p>テキストの単語集に収録された重要単語を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> テキストの予習や練習問題だけでなく、e-learning ソフトを使って英語の学習に積極的に取り組む。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自己の英語力を「確認」し、「向上」させようとする態度を養う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>文法テストが 700 点(7回)「英語基礎文法(1)」のみ受講するものに対しては、600 点(6回)、単語テストが 200 点(5回)です。</p> <p>「英文法徹底トレーニング」の学習状況、あるいは担当教員独自の課題などの裁量点を 100 点「あるいは 200 点」とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
「英語基礎」/ 山口大学共通教育英語部会編: 開拓社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
なし					
<b>連絡先</b>					
emikotg@nifty.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002213012
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	CHRIST Alan Robert			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002213014
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	那須 朱実 [NASU Akemi]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による欠欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002213013
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	Rebstock Jim			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002213015
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	CHRIST Alan Robert			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002213018
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	TAKEMOTO TIMOTHY ROLAND SCOTT			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002213017
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	那須 朱実 [NASU Akemi]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002213016
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	Rebstock Jim			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月9~10	<b>時間割コード</b>	1002213019
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上欠席した学生の成績は不可となる。・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る(=60%)。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する(=40%)。					
・期末試験はありませんが、中間と期末に、自己評価を兼ねて復習や自己分析などを行います。また、学びを結集させたコミュニケーション・プロジェクトを行います。・オンラインの補足課題は教科書の該当する章のA-Dを読み、感想文を英語で100単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。・妥当な理由で休んだ授業の補足課題は、教科書の該当する章のE-Fを読み、感想文を英語で250単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
(担当教官よりのメッセージ) 英語の力を身につけること、特に会話力の習得の条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。ただし、言うは易しで、実際問題の核心は、実際に英語を使う頻度を多くするにはどうしたらよいかという方法論か、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感の克服です。この授業では、この両方に対処します。具体的には、授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。「好きこそもの上手なれ」の諺どおり、好きになることが先決です。そして、コミュニケーションゲームを多く取り入れ、自然に会話ができるように場面設定をしていきます。					
授業目標の一部はオンライン宿題や教科書など、事前に設定されたメニューもありますが、学習とは本来は学習者が主体になったときに最大の効果を発揮すると考えるため、残りの部分は学習者らが探りながら見つけ、設定していくというプロセス・シラバスを重視します。つまり、ペアワークやグループ作業をしながら、自分に必要と思われる要素を確認していき、その部分を伸ばす工夫をします。					
<b>連絡先</b> sonnda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1002213020
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2 ~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上欠席した学生の成績は不可となる。・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る(=60%)。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する(=40%)。・期末試験はありませんが、中間と期末に、自己評価を兼ねて復習や自己分析などを行います。また、学びを結集させたコミュニケーション・プロジェクトを行います。・オンラインの補足課題は教科書の該当する章のA-Dを読み、感想文を英語で100単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。・妥当な理由で休んだ授業の補足課題は、教科書の該当する章のE-Fを読み、感想文を英語で250単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょ。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。					
(担当教官よりのメッセージ) 英語の力を身につけること、特に会話力の習得の条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。ただし、言うは易しで、実際問題の核心は、実際に英語を使う頻度を多くするにはどうしたらよいかという方法論か、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感の克服です。この授業では、この両方に対処します。具体的には、授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。「好きこそもの上手なれ」の諺どおり、好きになることが先決です。そして、コミュニケーションゲームを多く取り入れ、自然に会話ができるように場面設定をしていきます。授業目標の一部はオンライン宿題や教科書など、事前に設定されたメニューもありますが、学習とは本来は学習者が主体になったときに最大の効果を発揮すると考えるため、残りの部分は学習者が探りながら見つけ、設定していくというプロセス・シラバスを重視します。つまり、ペアワークやグループ作業をしながら、自分に必要と思われる要素を確認していき、その部分を伸ばす工夫をします。					
<b>連絡先</b> sonnda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002213022
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大野 厚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002213023
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002213024
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上欠席した学生の成績は不可となる。・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る(=60%)。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する(=40%)。・期末試験はありませんが、中間と期末に、自己評価を兼ねて復習や自己分析などを行います。また、学びを結集させたコミュニケーション・プロジェクトを行います。・オンラインの補足課題は教科書の該当する章のA-Dを読み、感想文を英語で100単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。・妥当な理由で休んだ授業の補足課題は、教科書の該当する章のE-Fを読み、感想文を英語で250単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょ。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。					
(担当教官よりのメッセージ) 英語の力を身につけること、特に会話力の習得の条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。ただし、言うは易しで、実際問題の核心は、実際に英語を使う頻度を多くするにはどうしたらよいかという方法論か、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感の克服です。この授業では、この両方に対処します。具体的には、授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。「好きこそもの上手なれ」の諺どおり、好きになることが先決です。そして、コミュニケーションゲームを多く取り入れ、自然に会話ができるように場面設定をしていきます。 授業目標の一部はオンライン宿題や教科書など、事前に設定されたメニューもありますが、学習とは本来は学習者が主体なったときに最大の効果を発揮すると考えるため、残りの部分は学習者が探りながら見つけ、設定していくというプロセス・シラバスを重視します。つまり、ペアワークやグループ作業をしながら、自分に必要と思われる要素を確認していき、その部分を伸ばす工夫をします。					
<b>連絡先</b> sonda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002213021
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	Rebstock Jim			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002213028
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大野 厚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による欠欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002213027
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	KAMEL MAURICE			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002213029
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002213025
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	CHRIST Alan Robert			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002213030
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上欠席した学生の成績は不可となる。・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る(=60%)。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する(=40%)。・期末試験はありませんが、中間と期末に、自己評価を兼ねて復習や自己分析などを行います。また、学びを結集させたコミュニケーション・プロジェクトを行います。・オンラインの補足課題は教科書の該当する章のA-Dを読み、感想文を英語で100単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。・妥当な理由で休んだ授業の補足課題は、教科書の該当する章のE-Fを読み、感想文を英語で250単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声をだし、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょ。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。					
(担当教官よりのメッセージ) 英語の力を身につけること、特に会話力の習得の条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。ただし、言うは易しで、実際問題の核心は、実際に英語を使う頻度を多くするにはどうしたらよいかという方法論か、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感の克服です。この授業では、この両方に対処します。具体的には、授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。「好きこそもの上手なれ」の諺どおり、好きになることが先決です。そして、コミュニケーションゲームを多く取り入れ、自然に会話ができるように場面設定をしていきます。 授業目標の一部はオンライン宿題や教科書など、事前に設定されたメニューもありますが、学習とは本来は学習者が主体なときに最大の効果を発揮すると考えるため、残りの部分は学習者が探りながら見つけ、設定していくというプロセス・シラバスを重視します。つまり、ペアワークやグループ作業をしながら、自分に必要と思われる要素を確認していき、その部分を伸ばす工夫をします。					
<b>連絡先</b> sonnda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002213031
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	那須 朱実 [NASU Akemi]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による欠欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002213026
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	HICKS CRAIG ROBERT			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による欠席を含む)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1002213033
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	GARDNER STEVEN T			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1002213032
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	CHRIST Alan Robert			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1002213034
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	HICKS CRAIG ROBERT			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5-6	<b>時間割コード</b>	1002213036
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大野 厚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5-6	<b>時間割コード</b>	1002213035
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	KAMEL MAURICE			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による欠欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金5-6	<b>時間割コード</b>	1002213037
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5-6	<b>時間割コード</b>	1002213038
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT 課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上欠席した学生の成績は不可となる。・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る(=60%)。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する(=40%)。・期末試験はありませんが、中間と期末に、自己評価を兼ねて復習や自己分析などを行います。また、学びを結集させたコミュニケーション・プロジェクトを行います。・オンラインの補足課題は教科書の該当する章のA-Dを読み、感想文を英語で100単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。・妥当な理由で休んだ授業の補足課題は、教科書の該当する章のE-Fを読み、感想文を英語で250単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょ。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。					
(担当教官よりのメッセージ) 英語の力を身につけること、特に会話力の習得の条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。ただし、言うは易しで、実際問題の核心は、実際に英語を使う頻度を多くするにはどうしたらよいかという方法論か、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感の克服です。この授業では、この両方に対処します。具体的には、授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。「好きこそもの上手なれ」の諺どおり、好きになることが先決です。そして、コミュニケーションゲームを多く取り入れ、自然に会話ができるように場面設定をしていきます。 授業目標の一部はオンライン宿題や教科書など、事前に設定されたメニューもありますが、学習とは本来は学習者が主体なったときに最大の効果を発揮すると考えるため、残りの部分は学習者が探りながら見つけ、設定していくというプロセス・シラバスを重視します。つまり、ペアワークやグループ作業をしながら、自分に必要と思われる要素を確認していき、その部分を伸ばす工夫をします。					
<b>連絡先</b> sonnda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1002213040
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	大野 厚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金7~8	<b>時間割コード</b>	1002213039
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	KAMEL MAURICE			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金7~8	<b>時間割コード</b>	1002213041
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。					
・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。					
・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず、自分の可能性に挑戦してみてください。					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1002213042
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 身近なことからについて流ちょうに話せる力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
・3回以上欠席した学生の成績は不可となる。・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る(=60%)。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する(=40%)。・期末試験はありませんが、中間と期末に、自己評価を兼ねて復習や自己分析などを行います。また、学びを結集させたコミュニケーション・プロジェクトを行います。・オンラインの補足課題は教科書の該当する章のA-Dを読み、感想文を英語で100単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。・妥当な理由で休んだ授業の補足課題は、教科書の該当する章のE-Fを読み、感想文を英語で250単語で書いて提出する。文書末に「翻訳ソフトを使わず、自分で考えて自分で書いた」ことを署名する。提出期限は原則1か月以内とする。					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょ。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。					
(担当教官よりのメッセージ) 英語の力を身につけること、特に会話力の習得の条件は、意外と明確です。中学生程度の英語を身につければよいのです。ただし、言うは易しで、実際問題の核心は、実際に英語を使う頻度を多くするにはどうしたらよいかという方法論か、または、英語を使う以前の問題、つまり英語に対する苦手意識・嫌悪感の克服です。この授業では、この両方に対処します。具体的には、授業内の成績はテストのスコアではなく、参加・努力ポイントで評価します。「好きこそもの上手なれ」の諺どおり、好きになることが先決です。そして、コミュニケーションゲームを多く取り入れ、自然に会話ができるように場面設定をしていきます。授業目標の一部はオンライン宿題や教科書など、事前に設定されたメニューもありますが、学習とは本来は学習者が主体になったときに最大の効果を発揮すると考えるため、残りの部分は学習者が探りながら見つけ、設定していくというプロセス・シラバスを重視します。つまり、ペアワークやグループ作業をしながら、自分に必要と思われる要素を確認していき、その部分を伸ばす工夫をします。					
<b>連絡先</b> sonnda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b> 非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1002213043
<b>開設科目名</b>	English Speaking [English Speaking]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさや乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 授業内の活動やWBT課題(授業外の課題)に積極的に取り組む。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。  <b>態度の観点:</b>1. 最初は嫌いでも英語で発言することが嫌いでなくなる。  <b>技能・表現の観点:</b>1. 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。</li> <li>・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(3回課題を提出しなかった場合は不可となる)。</li> <li>・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
English for Students / 武本 Timothy , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
eigo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00～14:30(福屋研究室)					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002215108
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語のライティングで一番肝心なのは「内容」である。まずは自分が伝えたい内容があり、それを英語でどこまで表現できるかということが重要と言える。この授業では、書く用途に合わせた語彙や文法についても学習するが、とにかく自分の思うことを書いてみるということを授業のスタンスとする。様々なテーマで実際に英文を書き、その英文をもとにより良い英文を書くためにはどうするべきかをディスカッションなどを通じて考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
平易な語彙・文法を用いながら、自分の伝えたいことが英文で書ける。また、最終的に基本的なパラグラフライティングができるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 平易な語彙・文法を用いながら、自分の伝えたいことが英文で書ける。					
<b>思考・判断の観点:</b> テーマに合わせて自分の伝えたい内容を発想・思考し、またその内容を論理的に伝える英文が書ける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分が書いた英文のみならず、人の書いた英文についても積極的に批評できる。					
<b>態度の観点:</b> 習得した語彙や文法を用いて、論理的な英文が書ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・授業内外の課題</li> <li>・授業への参加</li> <li>・出席</li> </ul> 以上の総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
与えられた課題をきちんとこなし、授業に積極的に参加しましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002215109
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	EDWARDS NATHANIEL TYLER			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing.</p> <p>2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced.</p> <p>3) Key grammar points will be reviewed and practiced.</p> <p>4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics.</p> <p>5) Students will learn and use new study techniques.</p> <p>6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups.</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Written Exam: 20% of Final Grade.					
Homework and Reports: 60%					
Attitude and Participation: 20%					
<b>教科書</b>					
Reading Challenge 2 / Casey Malarcher, Andrea Janzen : Compass Publishing , 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Bring your dictionary and textbook to every class.					
<b>連絡先</b>					
ca72@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
14:30 16:00 (木)					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002215110
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	倉増 泰弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語のライティングで一番肝心なのは「内容」である。まずは自分が伝えたい内容があり、それを英語でどこまで表現できるかということが重要と言える。この授業では、書く用途に合わせた語彙や文法についても学習するが、とにかく自分の思うことを書いてみるということを授業のスタンスとする。様々なテーマで実際に英文を書き、その英文をもとにより良い英文を書くためにはどうするべきかをディスカッションなどを通じて考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
平易な語彙・文法を用いながら、自分の伝えたいことが英文で書ける。また、最終的に基本的なパラグラフライティングができるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 平易な語彙・文法を用いながら、自分の伝えたいことが英文で書ける。					
<b>思考・判断の観点:</b> テーマに合わせて自分の伝えたい内容を発想・思考し、またその内容を論理的に伝える英文が書ける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分が書いた英文のみならず、人の書いた英文についても積極的に批評できる。					
<b>態度の観点:</b> 習得した語彙や文法を用いて、論理的な英文が書ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・授業内外の課題</li> <li>・授業への参加</li> <li>・出席</li> </ul> 以上の総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
与えられた課題をきちんとこなし、授業に積極的に参加しましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002215111
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	谷國 晶洋			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
これまで学習してきた基本的文法項目を確認しながら、様々な練習問題を行って、正しい英文を書く足場を作る。					
<b>授業の一般目標</b>					
文法的なルールを自在に使いこなして、自由な表現が出来るようになること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的な英語の文法を理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業に積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 正しい英文が書ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と授業への参加度(出席・発表点)による総合評価。					
<b>教科書</b>					
Matrix. / 大矢 復: 金星堂, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
blakist@ezweb.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002215112
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語ライティングは、就職・進学にかかわらず、現在のグローバル化のなかで要求される不可欠のスキルです。この授業では、何より、自分の伝えたいことを出来るだけ正確に伝える英語ライティング能力の獲得を目指します。					
<b>授業の一般目標</b>					
パラグラフ・ライティングの基礎能力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語ライティングに必要な語彙、文法、表現法をマスターする。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語の思考、判断と英語のそれとの違いを認識する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 英語ライティングの楽しさと、そこから広がる異文化理解への興味を深める。					
<b>態度の観点:</b> 英語で考える習慣を身につける。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えをパラグラフ・ライティングできる。					
<b>その他の観点:</b> 英語圏の思考回路もあわせて学習する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
英語ライティングの授業ですから、定期試験も授業を通じてのレポート作成も、英文作成能力に絞って評価します。					
<b>教科書</b>					
Let's Write and Communicate! / Nobukazu Aoki / Haruo Erikawa: 金星堂, 2001					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語で考えよう!					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002215113
<b>開設科目名</b>	英語ライティング [English Writing]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	細木 孝雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>日常の出来事について、「3行英文ライティング」という演習方式により、センテンス・レベルのライティングからパラグラフ・レベルのライティングへと移行しつつ、内容的にまとまりのある英文の組み立て方を習得する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>3行英文ライティングになれることにより、パラグラフ・レベルのライティングに対応できるようにし、自由に意思の伝達ができる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>書くために必要とされる適切な語彙や基本的な文法事項や表現を整理する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>自分の表現したいことを、まず3行英文で考え簡潔に意思を伝える。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>身近なテーマに興味・関心を持ち、すぐその場で簡単な英語で表現してみる。</p> <p><b>態度の観点:</b>どんなことでも英語で表現し、自問自答できる習慣をつける。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>誤りを気にせず、英語で自由に文を作り、それを発信してみる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業への積極的参加状況、課題提出、定期試験により総合的に評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>Three-line Writing in English / Hiroyuki Tomi :Seibido , 2007</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>誤りを気にしないで、どんどん積極的に英文で自己表現をしてみよう。 和英辞典、英英辞典使用可</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002214007
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	堤 千佳子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業ではTOEIC400点以上を取得した学生を対象に、リーディング能力を養成する。 読解力を高めるための英文法の涵養も併せて目標とする。内容理解の確認、リスニング、ヴォキャブラリーに関するエクササイズをこなしていくことで、多角的なアプローチを取る。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)読解力の向上 (2)企業を取り上げたテキストを用いることで、日本経済の状況などについての知識を得る。 (3)TOEIC 関連の問題の学習					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 読解力の養成 内容理解 <b>思考・判断の観点:</b> 内容の把握 <b>関心・意欲の観点:</b> 課題を確実にを行い、授業に臨む。 英語の学習のほかに、取り上げられている企業、社会背景などにも関心を持つこと <b>態度の観点:</b> 自学自習の習慣を形成する。 <b>技能・表現の観点:</b> いわゆる英語の4技能の能力の向上。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1/3以上の欠席は失格。 出席率、授業への参加度、適宜課する小テスト、定期試験の組み合わせにより総合的に評価を行なう。					
<b>教科書</b>					
Moving ahead in the 21st Century / Brenda Hayashi: 松柏社, 2009					
<b>参考書</b>					
Moving ahead in the 21st Century / Brenda Hayashi: 松柏社, 2009					
<b>メッセージ</b>					
1/3以上の欠席は失格となります。 遅刻は厳禁です。 必ず予習をして、授業に臨んでください。予習の段階で音読を必ず試みてください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002214009
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岩部 浩三			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語の一般向けレベルの本を読みます。英語も書かれている内容も一般向けであり、いわゆる学校の教科書の英語しか読んだことのない人は少しとまどうかもしれません。ずっと以前に授業で使ったこともあります。「この本は英語の教科書とは思えない」と言われ、「内容的に人前で話にくい箇所が当たって汗をかいた」という感想もありました。授業中はどんどん指名します。指名されたら、解答をすぐに黒板に書いてもらいますので、予習をしてきてください。					
<b>授業の一般目標</b>					
英語で書かれた一般向けの本を読みこなす読解力養成を目標とします。書かれた内容を正しく理解し、その妥当性を各自考えてもらいます。英語で読書する楽しさを知り、将来も含めて自分の英語力を高める意欲を養います。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英米人向けの一般的な本を読んで理解するだけの文法と語彙力を持っている。					
<b>思考・判断の観点:</b> 書かれた内容を文脈に即して正しく理解し、その妥当性を判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自らの英語力を高める意欲を持っている。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語の構文を正確に読み取り、その内容を日本語で表現することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験を実施します。また、授業中指名して黒板に書いてもらった解答を点数化して評価に加えます。授業期間内に TOEIC を受験するなど英語力向上に意欲的に取り組んだことについて、評価に加えます。					
<b>教科書</b>					
Body Language / Julius Fast : 金星堂					
<b>参考書</b>					
: 金星堂					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
iwabe@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 12:50-14:20 メールで事前にご連絡ください					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002214008
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	前出 泰司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医学・医療の分野の最近の動向を英文で読む。					
<b>授業の一般目標</b>					
現代の医学・医療の分野における問題点ならびに今後の動向に関する問題を英文で読む。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験・レポート					
<b>教科書</b>					
かけがえのない健康と環境 / S.Clankie 他					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002214010
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	池園 宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
古今東西の著名人が残した名言名句を集めた英文テキストを読む。硬派な英語に親しむと同時に、様々な名句表現に内包された思想を理解する。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)テキストを丹念に音読、解釈することにより、英語のリーディング力を身につける。 (2)英文解釈のために必要な英文法力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語で書かれた名句表現の内容を理解し説明できる。 英語の文法事項が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 名句表現に内包された思想を分析できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 洗練された言語表現に対して積極的な関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 常に問題意識を持って議論に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)試験は学期末に1回実施する。 (2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
Who Said That?: A Book of Famous Quotations / Jim Knudsen 他: 南雲堂, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
(1)辞書を必ず持参すること。 (2)毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。 (3)授業を円滑に行うため受講者数の上限を50名とする。初回の授業でこれを超えた場合は抽選を行う。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002214012
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>市販されているDVD教材(内容は主に、音楽、映画、旅、航空機)を利用し、そこで使われている英語を勉強する。</p> <p>英語で書かれたものを読むのであるが、単なる和訳にとどまらず、1)ことばに込められた深い意味;2)題材へのさらなる関心が持てるように読み進める読解を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
英語で書かれたものを読むのであるが、単なる和訳ではなく、1)ことばに込められた意味;2)題材へのさらなる関心が持てるように読み進めることを行う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英文を理解する際の知識の確認、整理					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業で用いる教材に記された内容をさらに自分で掘り下げて調べてみる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者の人数にもよりますが、少人数であれば、授業参加度、大人数であれば、定期試験に評価の中心が移ります。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002214011
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮原 一成			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>TOEIC 400以上のレベルの学生を対象に、英国の文筆家H・G・Wellsが1930年代に行ったスピーチの原稿を使った読解の授業を行います。各種辞書を適切に使いこなし、内容を的確に把握していきます。必要に応じて訳読を積極的に取り入れます。</p> <p>英文の内容は、インターネット、デジタルアーカイブ、ウィキペディアといった、現代的な知的ツールの到来を20世紀初頭に既に予見していたとも思える深い洞察で、専攻の違いをとわず、多くの学生に読んでほしいものです。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>平均的な教養人に向けて英語で行われた講演の内容を読解し、しっかり把握する。</p> <p>速読やコミュニケーション授業では軽視されがちな、辞典等の参考図書の使用習慣を確立する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 平均的な教養人に向けて英語で行われた講演の内容を読んで理解する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 毎回の予習に対し、計画的に、もれなく取り組む姿勢がある。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 文章の概略内容についての英語の質問に、自分なりの英語で回答できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>予習確認小テスト総計30% + 訳文発表20% + 学期末筆記試験50%。無断欠席が3回を超えたら、無条件に「不可」評定とする。遅刻は2回で欠席1回と換算するが、30分以上の遅刻は欠席と同等に扱う。教室での授業態度が不真面目であれば、一回10点減点する。</p>					
<b>教科書</b>					
『ワールドブレイン H・G・ウェルズの「世界頭脳」』 / H.G. Wells: 開文社出版, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講者数の制限は特に行いませんが、受講希望者は第1回授業から出席すること。					
<b>連絡先</b>					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
受講生には教室で知らせます。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1002214013
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2 ~
<b>担当教員</b>	池田 守			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
グローバルな話題を題材とした英文の大意要約、速読、翻訳等を通し、リーディング能力を向上させる。また、リーディングに必要な英文法の指導や音読練習も適宜実施する。					
<b>授業の一般目標</b>					
グローバルな話題を取り扱った英文を様々なリーディングストラテジー(トップダウン方式、ボトムアップ方式、スキミングやスキミング等)で読解し、論理的な思考力を身に付けさせることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 語彙を拡大することができる。様々なリーディングストラテジーを通し、英文の要点を理解することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論理的な思考能力を向上させることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> サイトトランスレーション(順送り訳)を通し、英文理解への関心・意欲を深めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 能動的なリーディングの力を身につけることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 要点を英語でまとめ、発表することができる。					
<b>その他の観点:</b> グローバルな話題への関心を拡大することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績は試験(中間・期末試験)及び宿題で評価する。試験の成績に占める割合は 80%とする。宿題の成績に占める割合は 20%とする。					
<b>教科書</b>					
Reading in Action / 静 哲人: 金星堂, 2009					
<b>参考書</b>					
英文法解説 / 江川泰一郎: 金子書房					
<b>メッセージ</b>					
予習をして授業に出るように。					
授業に出る前に、教科書の音読練習をしておこう。					
サイトトランスレーションを通し、大意や要点を的確に理解するようにしよう。					
辞書を引く習慣を身に付けよう。					
<b>連絡先</b>					
m_iked78@yahoo.co.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002214014
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	赤羽 仁志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「私は先生に出会った」は日本語として自然だが、「先生は私に出会った」は不自然である。似たようなことは英語にも見られるが、ネイティブスピーカーでない者にとってその違いを理解することは容易なことではない。この授業では、英文テキストを講読しながら、日・英語における言葉の意味や用法について考える。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
意味論・語用論・語法に関する題材を扱ったテキストの講読を通して、英語の語彙力・表現力を増し、より鋭く正確な語感を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> ネイティブスピーカーの「語感」に迫るべく、ダイクシス、視点、法、時制、発話行為など言語学(意味論・語用論)の初歩的知識を得る。同時に英語読解力も付ける。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 英語と日本語の初歩的な分析ができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 言葉についての更なる好奇心が持てる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業での発表、期末試験、宿題により評価する。出席を重視する。					
<b>教科書</b>					
10 Voyages in the Realms of Meaning / Th.R.Hofmann、影山太郎:くろしお出版、1986					
<b>参考書</b>					
<p>コンサイス英文法辞典 / 安井稔:三省堂、1996</p> <p>英語の感覚・日本語の感覚 / 池上嘉彦:日本放送出版協会、2006</p>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特に設けず、アポイントメントによる。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002214015
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	太田 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
名作映画の台本とビデオ(DVD)を教材にして、名場面の鑑賞とその部分の台本の読解を合わせて行いながら、英文を読みこなす力をつけましょう。毎回、ストーリーの内容や文法事項と表現に関する小テストも行っています。					
<b>授業の一般目標</b>					
映画の英語での台詞を読んで聴き取り、名作と称される映画の名場面での本当の意味や状況などを理解できるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 名画の台本をしっかり読みこなしながら、その場면을鑑賞して、内容をしっかり理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 音の変化などにも注意を払って、早口の台詞も聞き取れるようにする。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 作品の中で使われて表現を覚え、それらを英作文にも応用する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回、授業の終わりに、作品の内容・表現・文法事項などに関する小テストを行い、その合計点で評価します。また、出席も重視し、欠席1回につき期末評点から5点減点とします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
ohta@... (...は yamaguchi-u.ac.jp)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002214016
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>イチロー選手の個人主義について書いた教材を使用し、ストーリー性のある英文を読むことの楽しさを知ってもらいます。授業では、理解を深めるためのビデオやDVD映像を多用します。</p> <p>英語リーディングのうちでも音読を重視し、それにより、英語でのプレゼンテーション能力の基礎を養ってもらいます。このことにより、英文法を頭にはなく、体にしみ込ませることが</p> <p>できます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・辞書なしで英文の大意をつかむ。</li> <li>・理解できる英語を人前で読める能力をつける。</li> <li>・TOEIC のスコアアップにつながる重要語彙や文法を身につける。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英文読解に必要な基本的語彙力、文法力を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 英語圏の発想を理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 通じる英語を人前で読めるだけの表現法を身につける。					
<b>態度の観点:</b> 通じる英語で英文を読もうとする意欲を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語圏特有の表現法を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と演習点を最重要視します。					
<b>教科書</b>					
イチローイズム / 福屋利信: 自作教材(試作品)					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
通じる英語の基本は声量、そして次にパンクチュエーション、発音、アクセントです!					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002214017
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	矢野 紀子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ニュースや新聞で取り上げられる現代の諸問題を様々な視点からとらえた英文を読み、内容の要点となる情報力をもつキーワードを押さえる。練習問題を解きながら、語彙、内容把握、リスニング、文法や構文の確認を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
英文の要点を的確に、速やかに押さえられるよう読解力を上げ、TOEICのリーディングパートでのスコアアップを目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 語彙、構文、文法事項を確認する。和訳にとどまらず、英文が何を伝えているか、情報をとらえる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 異文化の視点から、現代を考察する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 予習を行う。					
<b>態度の観点:</b> 毎回欠かさず出席し、積極的に取り組む。					
<b>技能・表現の観点:</b> 本文の要点を自分の言葉でまとめる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験・期末試験)、出席状況、授業態度、レポート(宿題)による総合評価を行う。四回以上の欠席は不可。					
<b>教科書</b>					
Cross Streams / 松尾 秀樹:三修社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習を前提として授業を進めてゆく。毎回の授業には必ずテキストと英和辞書を持参すること(電子辞書も可)。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002214019
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大野 厚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現在社会のさまざまな状況や考え方をトピックにした内容を通して、小グループで問題演習を研鑽し内容の理解を深め、読む力及び楽しさを養成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
欧米の読み物は、文章構成のパターンが決まっているという特徴がある。それは欧米では「論理的思考」が重要視されるからである。本書では論理展開パターンを通して、英語文章の構造をしっかりとマスターし、読む力と楽しさを養成することを目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文章を構造でとらえ、その論理展開をつかむ。					
・社会の状況を把握できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 社会問題を論理的に考える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 社会問題に対する関心がでてくる。					
<b>態度の観点:</b> 英語で読むことに対する抵抗がなくなり、読むことの楽しめるようになる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英文を構造でとらえ、その論理展開をつかんで、速読力を身に付ける。					
<b>その他の観点:</b> TOEICのReading Sectionのための準備にもなる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業態度、出席、課題、小テスト、期末テストを総合して評価する。					
<b>教科書</b>					
Skills for Better Reading / Ymiko Ishitani: 南雲堂, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
辞書を必ず持参すること。					
三回の遅刻で一回の欠席とする。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	火7~8	時間割コード	1002214018
開設科目名	英語リーディング [English Reading]			単位	2単位
対象学生				学年	1~
担当教員	岡 紘一郎			区分	
<b>授業の概要</b>					
ミステリー小説を楽しみつつ、その中の文構造、成句、語彙等を学んでいく。テープを聴いて、リスニング力も高める。短編小説は最後で如何にうまくオチがつくか、がいのちだが、私たちが読もうとする作品はその点うまくオチがついている。					
<b>授業の一般目標</b>					
英語及び英語圏文化への関心を高め、英語の読解力を磨く。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ストーリーを理解し、その背後にある文化、習慣を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 多様な意味を持つ句や単語に直面して、この場で最もふさわしい意味を選択する能力を育成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的にストーリーの流れ、文の意味を理解しようとする。					
<b>態度の観点:</b> 授業に積極的に参加し、自分の予習してきたことと違う部分などを質問しようとする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 読解した内容を正確に日本語で表現できるようにする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席点(三分の一以上欠席すれば、期末試験が受けられない)、演習の発表などの平常点、期末試験の成績等により評価する。					
<b>教科書</b>					
Short Detective Stories from Agatha Christie / Koichi Kokan(ed.): Taiyosha, 1999					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習を十分にして授業に出ること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002214020
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	HIGGINS MICHAEL LEO			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
This class is designed to give the students a wide range of reading experiences in English.					
<b>授業の一般目標</b>					
Students will learn to read English stories faster with greater understanding and pleasure.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will be able to demonstrate faster reading speeds after being taught specific techniques for increasing the rate of reading.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will demonstrate a greater love for and enjoyment of reading in English.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will show greater understanding of the material they have read, understanding both nuance and word meaning.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Students will take an entry-level reading test of speed and understanding. They will take an exit-level test that will measure against the entry-level test to show improvement as part of the evaluation. Students will also write a report on all of the books they have read during the course of this class. Their understanding of the story, plot, characters, and their own evaluation of the books will also be used towards their evaluation. Attendance is mandatory.					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always bring an English-English dictionary to class, either in electronic or book form.					
<b>連絡先</b>					
Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 Tel/Fax: 083-933-5086 Email: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4-5:30PM					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002214021
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	谷國 晶洋			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日英の比較文化を題材としたエッセイを講読し、読解力を中心に、語彙、文法、リスニング、英作文の実力を強化する。					
<b>授業の一般目標</b>					
エッセイ講読を通して読解力をつけるとともに、比較文化に対する鋭敏な感受性を身につけること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英文が正しく読め、内容が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 比較文化の情報をふまえ、しっかり物事を考える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業に積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語の語彙を増やし、リスニング・英作文の能力を強化する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と授業への参加度(出席及び発表点)による総合評価。					
<b>教科書</b>					
Step Up to Better English. / 石井隆之 他:朝日出版社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
blakist@ezweb.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002214022
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	那須 朱実 [NASU Akemi]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
「英文を英文そのものとして読解する」ことを狙いとする。すべての単語を辞書で引き、文法に躍起になり、日本語訳に落ち着く従来の英語読解から脱却し「英語を英語として楽しむ」ことを目標とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英文解読の最も「基礎」となる語彙力増強を目指すこと。</li> <li>・ 馴染みのない語彙 / 内容を推測するストラテジーを学ぶこと。</li> <li>・ 英文法の再整理、復習を行なうこと。</li> <li>・ 培った語彙 / 文法知識を実際のリーディングに活かすこと。</li> <li>・ 正しい精読により、より深い英文解読に結びつけること。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎力である語彙力の増強					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文法の基礎理解 および文法能力の向上。</li> <li>・ 正しい精読による英文解読の力を養うこと。</li> </ul>					
<b>関心・意欲の観点:</b> 様々なトピックに触れることにより、英語への関心は勿論、世の中の動き、国際状況、文化、サイエンスなど、多くの事柄への視野を広げて欲しい。さらには、自分自身はどのように感じ、考えるのか、という発展性を期待する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 単に文章を「読む」だけでなく、内容を理解し、さらには自分なりに組み立て直して英語で伝えられる能力を養ってほしい。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席(欠格条件とする。4回以上欠席の場合、単位は認定しない。)</li> <li>・ 授業への参加度、参加態度</li> <li>・ 小テスト、授業内/外レポート、宿題</li> <li>・ 学期末試験(注:出席が規定に満たない者は受験できない。)</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
Reader's Ark 英語リーディングの冒険 / 卯城祐司 / 中川知佳子 / Mari Le Pavoux : 金星堂, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習・復習を前提として授業を進める。本気で取り組み、英語で長文を読めるようになりたい、という学生に来ていただきたい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002214023
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尊田 望			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>おおそ TOEIC 500-600 点程度を対象する(最低 400 点、上限なし)。従来学校で強調されてきた精読だけでなく、速読・多読の力もつける。幅広い内容の英文を読んで、世界観を広げ、創造力を養う。教科書のために書かれた英語(つまり英語学習者を対象に書いたもの)だけでなく、本格的な英文(authentic text)にも挑戦する。翻訳をせずに英語のまま理解する力を養成する。また、読んだ後の読解テストなどから完全に解放された、「自由に楽しく読む」ための「多読プロジェクト」にも取り組む。楽しくたくさん読むことで基礎的な読解力をつけ、読む速度を倍増させる。読む速度の目標は 1 分間に 150-200 単語を目指す。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1. 1 分間に 150 ~ 200 単語を読めるようになる(速読)。2. 和訳をせずに、英語のままメインアイデアを理解できるようになる(即解)。3. 1 時間に 6,000 ~ 9,000 語の本を辞書を使わずに読めるようになる(多読)。4. 1 学期(4ヶ月)間に 15 冊程度の英書(graded readers、1 冊 30-50 ページ程度)を読めるようになる。</p> <p>5. 読んだ内容の意味を正確に理解できるようになる。6. 読んだ内容についてクラスメートと英語または日本語でディスカッションできる。</p> <p>7. 読んだ内容を用いて実用的な用途に用いる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>技能・表現の観点:</b> 1. Bottom-up の読み方を習得する (= 精読で用いられる分析型)。 2. Top-down の読み方を習得する (= 速読で用いられる直感型)。</p> <p>3. Bottom-up と top-down の読み方を統合する (= interactive reading)。4. スキーマ(背景知識)を増大させ、それを用いた読みをする。</p> <p>5. Skimming ができる (= ざっと読んで大意を把握する)。6. Scanning ができる (= 特定の情報を探しながら読む)。</p> <p>7. Semantic mapping や clustering technique 用いる (意味カテゴリーで文章内のアイデアを仕分けする)。8. 推測をする (= inferencing: 意味・文法的関係・語用論・暗示・文化的要素・メッセージ)。</p> <p>9. 語彙を分析する: 接頭辞・接尾辞・語根・文法的文脈・意味的文脈 10. 文字通りの意味と暗示の意味の違いを知る。</p> <p>11. Discourse markers (説と節、文と文、段落と段落をつなぐシグナルとなる表現)を活用する:</p> <p>12. 文章・パラグラフ構成について理解し、読解に当てはめる: トピック・センテンス、サポート・センテンス、結論センテンス、命題となるセンテンス(thesis)、導入・本体・結論</p> <p><b>その他の観点:</b> 読む楽しさを味わう。2. 文化的な要素を学ぶ。3. Reading の種類を知る: 音読・黙読(精読 = 言語的・文脈・多読 = skimming・scanning・global)</p> <p>4. Shadowing や dictation をスキル向上のために活用する。5. Pre-reading, during-reading &amp; post-reading の 3 段階を活用する。</p> <p>6. 読む目的は何かを確認する。7. 初級・中級・上級レベルで読み方を使い分ける。: 初級では主に音読ができるように訓練する。中級・上級では黙読での速読を重視する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>1. 授業内演習活動 (50%) 2. 宿題 (25%) 3. 中間・期末プロジェクト (25%)</p> <p>学習とは本来は学習者が主体になったときに最大の効果を発揮すると考えるため、授業目標の半分は教官が設定した目標、残りの半分は学習者らが探りながら見つけ、設定していくというプロセス・シラバスを重視します。したがって、評価はプロセス・参加・努力を対象とします。履修者は授業で提供される様々な Reading に関する理論や方法を学び、それを応用して、自分の読み方を分析し、どこをどう改善していけばよいか探っていきます。その学びのプロセスと深さを評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>英語読解力は、読むことで伸びていきます。ただし、鍵は「適切なレベルであること」(やや易しいと感じる程度)、「英語のまま理解すること」(和訳に頼らない・辞書を乱用しない)、「たくさん読むこと」(最低 1 週間に 5000-10,000 単語 = Graded Reader 1 冊!)、そして「リーディングを楽しむこと」です。Let's have fun reading!</p>					
<b>連絡先</b>					
sonda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
非常勤講師であるため、要件はメールにて連絡してください。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002214024
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岡 紘一郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ミステリー小説を楽しみつつ、その中の文構造、成句、語彙等を学んでいく。テープを聴いて、リスニング力も高める。短編小説は最後で如何にうまくオチがつくか、が命だが、私達が読もうとする作品はその点うまい。					
<b>授業の一般目標</b>					
英語及び英語圏文化への関心を高め、英語の読解力を磨く。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ストーリーを理解し、その背景にある文化、習慣を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 多様な意味を持つ句や単語に直面して、この場で最もふさわしい意味を選ぶ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的にストーリーの流れ、文の意味を理解しようとする。					
<b>態度の観点:</b> 授業に積極的に参加し、自分の予習してきたことと違う部分等を質問しようとする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 読解した内容を正確に日本語で表現できるようにする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席点(三分の一以上欠席すれば、期末試験が受けられない)、演習の発表等の平常点、期末試験の成績等により評価する。					
<b>教科書</b>					
Short Detective Stories from Agatha Christie / Koichi Kokan (ed): Taiyosha, 1999					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習を十分にして出席すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002214025
<b>開設科目名</b>	英語リーディング [English Reading]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	細木 孝雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
全15UNIT について、各授業は 1. Pre-Reading Information 2. Reading Action 3. Word Check 4. Comrehentionn 5. Activities の流れに従って進められ、各トピックに関して問題意識を持ち、自分の意見をまとめ発表する。					
<b>授業の一般目標</b>					
授業を通して、Reading 力の増強にとどまらず、現代社会の諸相について問題意識を持ち利己解決をしていく習慣をつける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Reading Strategy、重要語彙、グローバルな話題に関する知識の定着を図る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 英文の内容を推測し、問題意識を持って読む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> グローバルな話題に興味・関心を持ち積極的に読み進んでいく。					
<b>態度の観点:</b> トピックに関して関連事項を調べたり、自分の意見をまとめる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 内容を的確にとらえ、問題解決をまとめたものを発表できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への積極的参加状況、課題提出、定期試験により、総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
Reading Forerunner / Hideki Matsuo; 金星堂, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
一般の出来事に広く関心を持ち、背景知識を身につけよう。 英和辞典必携					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002216204
<b>開設科目名</b>	英語特別演習 [English Special Advanced Course]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	猫田 和明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
授業では単語テスト、内容理解のための英問英答、シャドーイング、速読などを行う。各回のトピックに関連する英文を読む活動を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
テンポよく英文を読んで理解できるような読解力を養い、まとまった文章にも臆せず読み進めることのできる力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 平易な英文で書かれた幅広い話題について内容を理解できる。 2. 読むことを通して基礎的な語彙力と文法力を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 書かれた内容について考え、自分の意見をまとめることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 課題をきちんとやり、活動に積極的に取り組むことができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. スピードと内容理解のバランスをとりながら読むことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
普段の授業への参加の様子、課題の状況、定期試験によって評価する。					
<b>教科書</b>					
Reading Cool / 中鉢恵一ほか: 三修社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業では内容に関して英語で質問をしますので、きちんと予習をやってきてください。					
<b>連絡先</b>					
nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)					
<b>オフィスアワー</b>					
特に設けていません。時間が空いていればいつでも相談にのります。まずはメールください。					

開設期	後期	曜日時限	月7~8	時間割コード	1002216206
開設科目名	英語特別演習 [English Special Advanced Course]			単位	2単位
対象学生				学年	1~
担当教員	高橋 俊章			区分	
<b>授業の概要</b>					
英字新聞や映画を教材にして、英文読解とリスニングの演習を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
新聞や映画で使われている英語を読んだり、聞いたりすることを目標とする。また、内容を理解することによって、様々な事柄についての理解を深め、思考力や想像力を高める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 単語の意味が正確に理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 表現理解を通して、内容を吟味することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題に真面目に取り組み、読解力・リスニング力の向上に努める。					
<b>態度の観点:</b> 授業に積極的に参加することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語表現力・読解力の養成					
<b>その他の観点:</b> 自分の解答・考えをはっきりと発表することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験60% + 授業における参加度(小テスト、質問に答えるなどによる得点、授業態度、出席状況等)40%で総合評価する。 欠席1回ごとに全体の評価(100点)から5点減点。遅刻・早退については、合計3回を欠席1回とみなす。指名して予習不十分と判明した場合は出席点を-0.5回分にする(2度重なれば、1回欠席と同じ)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
「Japan Times を短時間に訳をせずに読む」ことを目安にして受講して下さい。たくさん量を扱いますので、予習は必ずして下さい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月9~10	<b>時間割コード</b>	1002216210
<b>開設科目名</b>	英語特別演習 [English Special Advanced Course]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	池田 守			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>学生を中心とした演習を通し、単語の意味の確認と語彙拡大、英文の確認と理解、聴解力及び英作文力の向上を図る。また、テキストの内容を英語で要約し、英語で発表する練習を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>自文化及び異文化等を社会的な視点から捉えた英文のリーディング及びリスニングを通し、私たちを取り巻く状況を様々な角度から捉えることが出来る能力を身に付けさせる。</p> <p>この授業においては、TOEIC スコアー400 以上に相当する英語力を身に付けさせることを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 語彙の拡大及びサイトトランスレーション(肩送り訳)を通し、読む速度をアップし、英文の要点が理解できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> リーディング及びリスニングの演習を通し、私たちを取り巻く様々な状況への関心を深め、クリティカルシンキングができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 話題性豊かな英文と母語による知識が相俟って、英語表現への関心と意欲を深めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自宅学習及び自学自習の習慣を身に付けることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 英文の内容を要約し、英語で発表ができる。</p> <p><b>その他の観点:</b> グローバルな話題への関心を育てることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績は試験、授業内レポート、宿題及び演習で評価する。試験は中間及び期末、合計2回実施する。試験の成績に占める割合は70%とする。授業内レポートの成績に占める割合は10%、宿題の成績に占める割合は10%、演習の成績に占める割合は10%とする。</p>					
<b>教科書</b>					
Step Up to Better English / 石井隆之・他:朝日出版社, 2009					
<b>参考書</b>					
英文法解説 / 江川泰一郎:金子書房, 2001					
<b>メッセージ</b>					
<p>予習の習慣を身に付けよう。</p> <p>授業に出る前に音読の練習をしておこう。</p> <p>サイトトランスレーションを通し、大意や要点を的確に理解するように。</p> <p>辞書を引く習慣を身に付けよう。</p>					
<b>連絡先</b>					
m_ikedai7@yahoo.co.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002216207
<b>開設科目名</b>	英語特別演習 [English Special Advanced Course]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	石井 由理			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
400 語程度の内容の英文を使って、リスニングで大まかな内容を聞き取る練習、英文を読んで設問に答えることによる内容理解、語彙に関するエクササイズを通して、総合的な英語力のトレーニングを行います。毎回語彙の小テストをし、次回までの宿題を出します。					
<b>授業の一般目標</b>					
ある程度まとまった量の英文を聞いて内容を大体理解できるようにする。 英文を読んで重要な情報を正確に読み取れるようにする。 語彙力をのばす。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文章の起承転結の構造を理解する。 文章の内容を理解する。 知っている語彙を増やす。					
<b>思考・判断の観点:</b> 文章の内容や構造に関する設問について考え、適切な答えを判断する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 長い文章を聞き取ることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の小テストおよび期末テストによる総合評価。 欠席が授業回数の3分の1を越えた者は欠格とする。					
<b>教科書</b>					
The Powerful Reader Basic / Pacheco & Gregg: Macmillan, 2001					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
教育学部200 - 1 研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
初回授業時に指示。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002216208
<b>開設科目名</b>	英語特別演習 [English Special Advanced Course]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	池園 宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
世界的に有名な私立探偵 Sherlock Holmes を主人公とする映画オリジナル作品_Sherlock Holmes and the Secret Weapon_のシナリオを読む。洗練され、臨場感溢れる台詞を味読したい。作品中に用いられた日常的な会話表現は、受講者の英語コミュニケーション能力を高めるのに役立つであろう。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)作品を丹念に音読、解釈することにより、英語のリーディング力を身につける。					
(2)作品中に用いられた日常的な会話表現を学ぶことにより、英語のコミュニケーション能力を身につける。					
(3)英文解釈のために必要な英文法力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 作品中の会話表現の具体的内容を理解し説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 作品の文脈を考えながら、一つ一つの台詞に込められた意味を分析できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> シナリオを読み解く行為に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 常に問題意識を持って議論に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)試験は学期末に1回実施する。					
(2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
Sherlock Holmes and the Secret Weapon / M. G. Brashear 他: 開文社, 1999					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
(1)辞書を必ず持参すること。					
(2)毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。					
(3)授業を円滑に行うため受講者数の上限を50名とする。初回の授業でこれを超えた場合は抽選を行う。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002216209
<b>開設科目名</b>	英語特別演習 [English Special Advanced Course]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
教科書は、ビートルズ研究者である担当教員が、ビートルズの社会的背景や音楽性について作成した自作の教材を使用します。ストーリー性のある英文を読むことの楽しさを味わってもらい、それを英語能力の底上げにつなげて欲しいと思います。毎回の授業の最後15分程度を、内容理解を深めるために、ビデオ、DVDの鑑賞時間にあてます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文への深い読解力を養う。</li> <li>・多読能力の向上。</li> <li>・英語によるプレゼンテーション能力の基礎を養う。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 微妙な感情表現を表す文法・語彙を、文が書かれた社会的背景をも考慮して理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 英語圏の発想を理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 英文への深い理解力と考察力を身につける。					
<b>態度の観点:</b> 英語を音読することに対して、積極的姿勢を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語を音読する際、重要なのは、チャンキングであることを強く認識する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と演習を最重要視します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
ビートルズとU2を結ぶキーワード: アイルランド性 / 福屋利信: 自作教材(試作品)					
<b>メッセージ</b>					
ビートルズについて学びながら、楽しく英語を勉強しましょう!!!					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002216211
<b>開設科目名</b>	英語特別演習 [English Special Advanced Course]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC スコアによる判定によって一定の英語力のある受講生を対象に、1) 英語の基本知識をさらに確実に身につけること; 2) 上級英文法の知識に触れること; 3) 知識を実践へ活用させることを念頭に勉強する。					
<b>授業の一般目標</b>					
最終的には、英語について単に知っている状態から、それを基に英語を使える状態へステップアップすること。知識を曖昧な状態のままにせず、知識を使うこと(スピーキング、ライティング)を通じて確かなものにする心を心がける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 知識・理解を深める(固める)。					
<b>思考・判断の観点:</b> 具体的なさまざまな場面においてどのような表現を自分が発信していくか、その判断力を養う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者の総人数にもよるが、現時点では、授業で出すレポート、定期試験の結果を評価材料にしたい。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
すでに正宗の授業を過去に履修している方は受講相談に研究室まで事前に来てください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002216212
<b>開設科目名</b>	英語特別演習 [English Special Advanced Course]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	皆尾 麻弥			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
H.G.Wells の The Time Machine(1895)を読む					
<b>授業の一般目標</b>					
SF の古典である本作品を、原文で読む楽しさを知る					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> テキストを正しく読むことができる					
<b>思考・判断の観点:</b> 難しい表現を自ら解釈する力をつける					
<b>関心・意欲の観点:</b> 外国文学への好奇心を持つ					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への取り組みと、学期末レポートを評価対象にします					
<b>教科書</b>					
The Time Machine / H.G.Wells: Penguin Classics					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002216205
<b>開設科目名</b>	英語特別演習1a [English Special Advanced Course a]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医学2年・工(TOEIC500点以上修得者)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	原田 規章, 大和田 祐二, 澤田 知夫, 篠田 晃, 小林 誠, 岸 博子, 中村 章治, 中村 和行, 古元 礼子, 中井 彰, 乾 誠, 池田 栄二, 河野 裕夫, 星井 嘉信, 崔 丹, 河内 茂人, 白井 睦訓, HOSSAIN MD.MAHBUB, 芳原 達也, 奥田 昌之, 藤宮 龍也, 劉 金耀, 河野 道生, 谷田 憲俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医学・生命科学に関する英文の著書や論文などを読解し、討論して医学の基礎知識を習得し、英語力を高めるとともに最新の医学研究成果を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
英文の著書や論文などから基本的な医学用語や生命科学用語を学び医学英語の語彙数、読解力、作文力を高めるとともに、最新の医学情報を得て医学・生命科学に対する知識及び理解を深め、それらの学習した知識を基盤として、さらには会話能力の向上にも繋がりに国際感覚を身につけられるような指導を目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の論文を読解し説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論文の内容につき論理的に討論できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 少人数学習に協調して積極的に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 真摯な学習態度、自己学習の態度を身につける。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語の表現力とコミュニケーション能力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト・授業内レポート=0~20%					
授業態度や授業への参加度=40~80%					
受講生の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品)=20~40%					
観点別成績評価法は主な視点を示し、評価割合は上記のそれぞれから適宜合計して成績とする。なお、出席は欠格条件である。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
医学英和大辞典 / 加藤勝治: 南山堂, 2000					
<b>メッセージ</b>					
原則、全回出席のこと。英和辞典・医学英語辞典などを持参のこと。継続は力なり、頑張りましょう。英語で話すことを恐れずに、積極的に参加しよう。					
<b>連絡先</b>					
医学部教務係(22-2053)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火 11～12	<b>時間割コード</b>	1002219027
<b>開設科目名</b>	実践総合英語 [Fundamental Comprehensive English]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	医・工(平成 14・15 年度入学者)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	内海 俊祐			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400 点未満の学生を対象とします。授業および継続的の自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる					
<b>思考・判断の観点:</b> 英文のコンテキストが正確に把握できる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる					
<b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する					
<b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価 100 点満点のうち 50 点は、以下の条件を 3 つともクリアすることで与えられます。					
共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している(ただし、指定された学習範囲を超過しないこと)。					
毎週最低 2 時間のオンライン学習を行っている。					
期限内のオンライン学習の合計時間が 28 時間以上になっている。					
3 つの条件のうち 1 つでも欠けている場合は、この部分の評価は 0 点となります。					
残りの 50 点ぶんの評価は、授業担当者による教室での授業についてなされます。評価方法の詳細は各教員から説明を受けてください。					
4 回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で 2 度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。					
<b>教科書</b>					
Top of the Pops Listening 「ポップソングで楽しく学ぶ実用リスニング」 / 熊井信弘 Stephen Timson: マクミラン ランゲージハウス, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002219028
<b>開設科目名</b>	実践総合英語 [Fundamental Comprehensive English]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	平成14・15年度入学者			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
TOEIC400点未満の学生を対象とします。授業および継続的自学自習によって英語の基礎的学力を向上させるとともに、英語学習の習慣を身につけます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙力を身につける</li> <li>・基礎的な文法、リスニング、読解力を身につける</li> <li>・継続的に自己学習をする習慣を身につける</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 英語の基礎的な語彙と文法を理解することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> ストーリー性のある英文を読むことの面白さを知る。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 自習課題を意欲をもって積極的に進めることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業に欠かさずに出席し、積極的に授業に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 基礎的な英文の内容を読み取ることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>共通課題のオンライン教材を期限内にすべて完了している。</p> <p>毎週最低2時間のオンライン学習を行っている。</p> <p>期限内のオンライン学習の合計時間が14時間以上になっている。</p> <p>以上の3つのという基準をすべて超えることによって、合格となります。合格基準を満たした受講生に対する秀から可までの成績評価は、授業担当者が出した課題や試験によって総合的に行います。</p> <p>2回以上の欠席をした場合は欠格となりますが、入院等のやむをえない理由で2度欠席した場合は、担当教員に申し出てください。なお、ただ教室にいるというだけでは「出席」とは見なしません。きちんと授業に取り組むこと。</p>					
<b>教科書</b>					
The Beatles / Paul Shipton: Penguin Books, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>各クォーター1単位のみ履修できます。2単位以上履修をした場合は全部が無効になります。</p> <p>TOEIC400点以上取得者は履修できません。誤って履修した場合は単位取り消しもあるので、注意してください。</p> <p>原則として指定されたクラスで受講してください。授業内容によって特にクラス変更を希望する場合は、移動元・先の双方の担当教員の承諾を得たうえで移動してください。</p>					
<b>連絡先</b>					
fukuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002217306
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Fundamental [Comprehensive English Fundamental]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	GARDNER STEVEN T			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.					
<b>授業の一般目標</b>					
The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>その他の観点:</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.					
Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc, 2009 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Contact: Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 e-mail: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp Office phone: 933-5086 Homepage: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4:00-5:30PM					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7～8	<b>時間割コード</b>	1002217307
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Fundamental [Comprehensive English Fundamental]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	GARDNER STEVEN T			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.					
<b>授業の一般目標</b>					
The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>その他の観点:</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.					
Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc, 2009 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Contact: Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 e-mail: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp Office phone: 933-5086 Homepage: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4:00-5:30PM					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002217308
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Fundamental [Comprehensive English Fundamental]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	HIGGINS MICHAEL LEO			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.					
<b>授業の一般目標</b>					
The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>その他の観点:</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.					
Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc, 2009 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 e-mail: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp Office phone: 933-5086 Homepage: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4:00-5:30PM					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1002217310
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Fundamental [Comprehensive English Fundamental]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2 ~
<b>担当教員</b>	GARDNER STEVEN T			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.					
<b>授業の一般目標</b>					
The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>その他の観点:</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.					
Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc, 2009 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Contact: Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 e-mail: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp Office phone: 933-5086 Homepage: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4:00-5:30PM					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002217312
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Fundamental [Comprehensive English Fundamental]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	GARDNER STEVEN T			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.					
<b>授業の一般目標</b>					
The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>その他の観点:</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.					
Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc, 2009 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Contact: Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 e-mail: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp Office phone: 933-5086 Homepage: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4:00-5:30PM					

開設期	後期	曜日時限	木1~2	時間割コード	1002217314
開設科目名	Comprehensive English Fundamental [Comprehensive English Fundamental]			単位	2単位
対象学生				学年	1~
担当教員	尊田 望			区分	

#### 授業の概要

The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.

4技能を中心とし、コミュニケーション能力(Speaking & Writing)を養います。日常的な内容から社会問題・国際問題まで取り上げて意思疎通ができるようにします。

#### 授業の一般目標

The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.

このコースは英語の4技能を総合的に養成する授業です。具体的には、聞く、話す、読む、書く能力ですが、当然、発音、語彙力、文法力の要素も含まれます。最も重点を置くのは「聞く・話す」という基礎的なコミュニケーション能力です。自分自身のことから日常生活、そして社会問題に至るまで英語でコミュニケーションをとる学習をします。次のレベルの Comprehensive English Lower Intermediate ではもう少し社会問題に関する英語会話能力まで身に付けることになります。

また、このコースには国際的な視野を広めたり、社会的な問題への解決法を論じたりする応用部分があります。日本語でもあまり考えたり、話したりしたことがないテーマかもしれませんが、そのようなテーマについて意見を述べ、話し合い、簡単なエッセイを書きます。英語を学ぶひとつの大きな理由は、このように視野を広げ、国際的な物事を理解し、自分のできる範囲で問題解決に参与することです。

#### 授業の到達目標

**知識・理解の観点:** Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.

1. 語彙力: 会話演習と読書を通してつけていきます。
2. 文法力: 大々的な文法の復習やドリル問題はありますが、これも、会話や読書とおして復習します。時々、練習問題があります

**思考・判断の観点:** Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.

このコースには国際的な視野を広めたり、社会的な問題への解決法を論じたりする応用部分があります。日本語でもあまり考えたり、話したりしたことがないテーマかもしれませんが、そのようなテーマについて意見を述べ、話し合い、簡単なエッセイを書きます。英語を学ぶひとつのおきな理由は、このように視野を広げ、国際的な物事を理解し、自分のできる範囲で問題解決に参与することです。

**関心・意欲の観点:** Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.

より速く、より正確に学ぶ能力を身につけます。言語コミュニケーション能力を教室の内外で積極的に活用する動機づけをします。

**態度の観点:** 積極的にディスカッションに参加する。

**技能・表現の観点:** Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.

1. 発音: 英語の重要な発音について勉強しておきます。また、発音記号を学習します。思春期を過ぎてからのネイティブ並みの発音の習得は困難と言われますが、大学生からでも不可能とは限りません。また、仮に発音があまり上達しなくとも、耳の訓練にはなりますし、それはリスニング力をつけることにもつながります。
2. 聞く: 発音の練習に加え、教科書にはリスニング問題があります。リスニングのコツのひとつは、単独の単語は、文章の中では音が変化するという現象を理解することです。そして、それにはある程度の法則があります。それをマスターすれば、リスニングそしてスピーキング(あるいは発音)の力がかなり伸びることは確実です。その辺を発音と聞く練習の部分で学習します。
3. 話す: このコースで一番楽しい部分は、おそらくこの「話す」部分でしょう。このコースでは、自分自身のことから日常生活、そして社会問題に至るまで英語でコミュニケーションをとる学習をします。まずは前者から、後者はこのコースでは導入段階です。次のレベルの Comprehensive English Lower Intermediate ではもう少し社会問題に関する英語会話能力まで身に付けることになるでしょう。また、「話す」ということには、ただ英語の単語や文章を発するだけでなく、非言語コミュニケーションも含まれますので、その辺も学習のポイントです。
4. 読む: 読む能力を身に付けるには、語彙力・文法力の向上はもちろんですが、文章の種類・パラグラフの構成、読むためのストラテジー、リスニング力など様々な要素が関係しています。このコースでは多少なりとも、その辺のコツを学習します。また、短いパラグラフだけでなく、多読に近い「量」を重視した読書にも挑戦します。さらに、読むスピードをつけます。速く読むコツは、いちいち立ち止まって翻訳したり、考え込まない、別の読み方を訓練することです。精読

や翻訳にはそれぞれ役割がありますが、速読のためにはほとんど役に立ちません。また、速読のためにもいくつかの戦略がありますので、それらも学習します。

5.書く:このコースは4技能+を目標とするため、それぞれの技能を深く掘り下げることはできませんが、「書く」技能に関しては、論理的に筋道立てて能力と、速く書くスキルを養いたいと思います。

**その他の観点:**This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.主に TOEIC スコアが400-450 を対象としていますが、450 以上でも履修は可能です。

#### 成績評価方法(総合)

Internal/External Criteria (50% of total grade):

Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.

Final Evaluation (50% of total grade):

Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.

授業内の評価=50% (出席・演習・参加)

中間・期末プロジェクト=50% (自己反省・自己評価・ディスカッション・オンライン宿題復習・復習テスト)

#### 教科書

Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc., 2009

The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc., 2009

#### 参考書

#### メッセージ

Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.

この授業では英語の4技能を養成すると同時に国際性を養い、また、社会的な問題について考えます。まずは日常的な「聞く・話す」能力の養成ですが、社会的・国際的な事柄についても考えたり、自己表現したりする能力に挑戦してみてください。辞書も忘れずに持参してください。

1. このコースには次の要素が含まれますが、具体的なペースや順番や重点はクラスのサイズやニーズを把握して多少の調整が加えられます:発音、語彙力、文法力、聞く、話す、読む、書く。このうち、最も重点を置くことになるのは「聞く・話す」という基礎的なコミュニケーション能力です。

2. 授業は基本的に英語で進めます。ただし、実際には理解困難な場合もあるので、緊急時には日本語を添えて確認します。成績評価方法は、このコースはすべて統一されています。授業内の活動から宿題、試験まですべて考慮されます。

3. このコースには、モジュール(全部で3つ)を終えるごとに、オンラインによる小クイズがあります。そのためには、まずホームページにアクセスして、自分のアカウントを作成する必要があります。また、このホームページでは、連絡事項や宿題に関するお知らせなど、重要な情報が載っています。URLは次のとおりです。 [http://www.soundapproach.net/comprehensive\\_English/](http://www.soundapproach.net/comprehensive_English/)

アクセスしたらず、アカウントを作る。山大の ID と Password を用いる。この授業のアクセスキーは(授業でお知らせします)。メールアドレスは、山大のあなたのメールアドレスを用いること。できれば ID 写真を撮ってあなたのプロフィールにダウンロードする。携帯電話などで撮影してダウンロードすればよい。

Module ごとの小テストは3回まで受けなおすことができますが、受けることのできる期間が1週間程度ですので要注意!

#### 連絡先

授業担当教官:sonda@yamaguchi-u.ac.jp

オンライン・アカウントに関する問い合わせ:Professor Michael Higgins

研究1号館 #304 Wednesday 4:00-5:30PM

e-mail: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp

Office phone: 933-5086

Homepage: [http://www.soundapproach.net/comprehensive\\_English](http://www.soundapproach.net/comprehensive_English)

#### オフィスアワー

非常勤講師なのでメールにて連絡ください。

開設期	後期	曜日時限	木3~4	時間割コード	1002217315
開設科目名	Comprehensive English Fundamental [Comprehensive English Fundamental]			単位	2単位
対象学生				学年	1~
担当教員	尊田 望			区分	

#### 授業の概要

The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.

4技能を中心とし、コミュニケーション能力(Speaking & Writing)を養います。日常的な内容から社会問題・国際問題まで取り上げて意思疎通ができるようにします。

#### 授業の一般目標

The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.

このコースは英語の4技能を総合的に養成する授業です。具体的には、聞く、話す、読む、書く能力ですが、当然、発音、語彙力、文法力の要素も含まれます。最も重点を置くのは「聞く・話す」という基礎的なコミュニケーション能力です。自分自身のことから日常生活、そして社会問題に至るまで英語でコミュニケーションをとる学習をします。次のレベルの Comprehensive English Lower Intermediate ではもう少し社会問題に関する英語会話能力まで身に着けることになります。

また、このコースには国際的な視野を広めたり、社会的な問題への解決法を論じたりする応用部分があります。日本語でもあまり考えたり、話したりしたことがないテーマかもしれませんが、そのようなテーマについて意見を述べ、話し合い、簡単なエッセイを書きます。英語を学ぶひとつの大きな理由は、このように視野を広げ、国際的な物事を理解し、自分のできる範囲で問題解決に参与することです。

#### 授業の到達目標

**知識・理解の観点:** Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.

1. 語彙力: 会話演習と読書を通してつけていきます。
2. 文法力: 大々的な文法の復習やドリル問題はありますが、これも、会話や読書とおして復習します。時々、練習問題があります

**思考・判断の観点:** Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.

このコースには国際的な視野を広めたり、社会的な問題への解決法を論じたりする応用部分があります。日本語でもあまり考えたり、話したりしたことがないテーマかもしれませんが、そのようなテーマについて意見を述べ、話し合い、簡単なエッセイを書きます。英語を学ぶひとつのおきな理由は、このように視野を広げ、国際的な物事を理解し、自分のできる範囲で問題解決に参与することです。

**関心・意欲の観点:** Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.

より速く、より正確に学ぶ能力を身につけます。言語コミュニケーション能力を教室の内外で積極的に活用する動機づけをします。

**態度の観点:** 積極的にディスカッションに参加する。

**技能・表現の観点:** Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.

1. 発音: 英語の重要な発音について勉強しなおします。また、発音記号を学習します。思春期を過ぎてからのネイティブ並みの発音の習得は困難と言われますが、大学生からでも不可能とは限りません。また、仮に発音があまり上達しなくとも、耳の訓練にはなりますし、それはリスニング力をつけることにもつながります。
2. 聞く: 発音の練習に加え、教科書にはリスニング問題があります。リスニングのコツのひとつは、単独の単語は、文章の中では音が変化するという現象を理解することです。そして、それにはある程度の法則があります。それをマスターすれば、リスニングそしてスピーキング(あるいは発音)の力がかなり伸びることは確実です。その辺を発音と聞く練習の部分で学習します。
3. 話す: このコースで一番楽しい部分は、おそらくこの「話す」部分でしょう。このコースでは、自分自身のことから日常生活、そして社会問題に至るまで英語でコミュニケーションをとる学習をします。まずは前者から、後者はこのコースでは導入段階です。次のレベルの Comprehensive English Lower Intermediate ではもう少し社会問題に関する英語会話能力まで身に着けることになるでしょう。また、「話す」ということには、ただ英語の単語や文章を発するだけでなく、非言語コミュニケーションも含まれますので、その辺も学習のポイントです。
4. 読む: 読む能力を身に着けるには、語彙力・文法力の向上はもちろんですが、文章の種類・パラグラフの構成、読むためのストラテジー、リスニング力など様々な要素が関係しています。このコースでは多少なりとも、その辺のコツを学習します。また、短いパラグラフだけでなく、多読に近い「量」を重視した読書

にも挑戦します。さらに、読むスピードをつけます。速く読むコツは、いちいち立ち止まって翻訳したり、考え込まない、別の読み方を訓練することです。精読や翻訳にはそれぞれ役割がありますが、速読のためにはほとんど役に立ちません。また、速読のためにもいくつかのストラテジーがありますので、それらも学習します。

5.書く:このコースは4技能+を目標とするため、それぞれの技能を深く掘り下げることはできませんが、「書く」技能に関しては、論理的に筋道立てて能力と、速く書くスキルを養いたいと思います。

**その他の観点:**This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.主に TOEIC スコアが 400-450 を対象としていますが、450 以上でも履修は可能です。

### 成績評価方法(総合)

Internal/External Criteria (50% of total grade):

Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.

Final Evaluation (50% of total grade):

Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.

授業内の評価=50% (出席・演習・参加)

中間・期末プロジェクト=50% (自己反省・自己評価・ディスカッション・オンライン宿題復習・復習テスト)

### 教科書

Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc., 2009

The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc., 2009

### 参考書

#### メッセージ

Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.

この授業では英語の4技能を養成すると同時に国際性を養い、また、社会的な問題について考えます。まずは日常的な「聞く・話す」能力の養成ですが、社会的・国際的な事柄についても考えたり、自己表現したりする能力に挑戦してみてください。辞書も忘れずに持参してください。

1. このコースには次の要素が含まれますが、具体的なペースや順番や重点はクラスのサイズやニーズを把握して多少の調整が加えられます:発音、語彙力、文法力、聞く、話す、読む、書く。このうち、最も重点を置くことになるのは「聞く・話す」という基礎的なコミュニケーション能力です。

2. 授業は基本的に英語で進めます。ただし、実際には理解困難な場合もあるので、緊急時には日本語を添えて確認します。成績評価方法は、このコースはすべて統一されています。授業内の活動から宿題、試験まですべて考慮されます。

3. このコースには、モジュール(全部で3つ)を終えるごとに、オンラインによる小クイズがあります。そのためには、まずホームページにアクセスして、自分のアカウントを作成する必要があります。また、このホームページでは、連絡事項や宿題に関するお知らせなど、重要な情報が載っています。URL は次のとおりです。 [http://www.soundapproach.net/comprehensive\\_English/](http://www.soundapproach.net/comprehensive_English/)

アクセスしたらず、アカウントを作る。山大の ID と Password を用いる。この授業のアクセスキーは(授業でお知らせします)。メールアドレスは、山大のあなたのメールアドレスを用いること。できれば ID 写真を撮ってあなたのプロフィールにダウンロードする。携帯電話などで撮影してダウンロードすればよい。Module ごと的小テストは3回まで受けなおすことができますが、受けることのできる期間が1週間程度ですので要注意!

### 連絡先

授業担当教官:sonda@yamaguchi-u.ac.jp

オンライン・アカウントに関する問い合わせ:Professor Michael Higgins

研究1号館 #304 Wednesday 4:00-5:30PM

e-mail: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp

Office phone: 933-5086

Homepage: [http://www.soundapproach.net/comprehensive\\_English](http://www.soundapproach.net/comprehensive_English)

### オフィスアワー

非常勤講師なのでメールにて連絡ください。

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002217309
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Pre-Intermediate [Comprehensive English Pre-Intermediate]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	JOHNSON JUDITH ANN			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.					
<b>授業の一般目標</b>					
The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>その他の観点:</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.					
Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc, 2007 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Dr. Judith Johnson e-mail: johnson@yamaguchi-u.ac.jp Office phone: 0836-85-9499 Homepage: <a href="http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~johnson/">http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~johnson/</a> Class webpage: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 2:30-4:00PM					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1002217311
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Pre-Intermediate [Comprehensive English Pre-Intermediate]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	HIGGINS MICHAEL LEO			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
This course is open to students with a TOEIC score of over 450, but is especially recommended for students who have a TOEIC score of 500 or higher, or who have completed the Comprehensive English Fundamental course.					
<b>授業の一般目標</b>					
To improve the student's English communication skills, we will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign on to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students must take.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.					
Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Intermediate Book 2 / Johnson and Higgins: IEL, Inc , 2 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEL, Inc , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Contact: Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 Tel/Fax: 083-933-5086 Email: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp Web: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4 - 5:30PM					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7～8	<b>時間割コード</b>	1002217313
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English Pre-Intermediate [Comprehensive English Pre-Intermediate]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	GARDNER STEVEN T			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
This course is open to students with a TOEIC score of over 450, but is especially recommended for students who have a TOEIC score of 500 or higher, or who have completed the Comprehensive English Fundamental course.					
<b>授業の一般目標</b>					
To improve the student's English communication skills, we will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign on to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students must take.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.					
Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Intermediate Book 2 / Johnson and Higgins: IEI, Inc , 2 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc , 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Contact: Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 Tel/Fax: 083-933-5086 Email: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp Web: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4 - 5:30PM					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002219001
<b>開設科目名</b>	Comprehensive English(By Native Speakers[1]) [Comprehensive English 1]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	平成14・15年度入学者			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	HIGGINS MICHAEL LEO			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
The students will develop their communication skills in English. We will work in small groups and also do individual work. There will always be homework. Some of the homework will be online work, so students are required to sign-in to a special class web page. There will also be on-line quizzes that the students MUST take.					
<b>授業の一般目標</b>					
The students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills.					
<b>思考・判断の観点:</b> Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national, and global problems.					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will learn how to learn faster and better, and become motivated to actively use their language and communication abilities both inside and outside of the classroom.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.					
<b>その他の観点:</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are also allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%.					
Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.					
<b>教科書</b>					
Comprehensive English For Global Understanding Fundamental Book 1 / Johnson and Higgins: IEI, Inc, 2007 The Sound Approach Pronunciation Workbook 5th Revised Edition / Higgins, Higgins, Shima: IEI, Inc, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students should always have an English-English dictionary with them in class. It can be an electronic dictionary or in book form.					
<b>連絡先</b>					
Professor Michael Higgins 研究1号館 #304 e-mail: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp Office phone: 933-5086 Homepage: <a href="http://www.soundapproach.net/comprehensive_English">http://www.soundapproach.net/comprehensive_English</a>					
<b>オフィスアワー</b>					
Wednesday 4:00-5:30PM					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002218404
<b>開設科目名</b>	海外英語研修 [English Study Abroad]			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>	2年(医・工)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	GARDNER STEVEN T			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>約 4 週間の英語圏(リジャйна[カナダ]、ニュー・カッスル[オーストラリア]、ロンドン[イギリス])での語学研修プログラム(研修費等は受講者が負担)に参加して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また同時に、滞在先の人々との交流を通じて、異文化理解を深める。</p> <p>この科目の単位を取得するためには、学務係(工学部は教務課)に受講票を提出のうえ、研修直前のクォーターに開講される事前指導(週1回90分×7回の授業を受講しなければならない。)(注意！事前指導を受講しなければ、語学研修プログラムに参加しても、単位は認められません。)</p> <p>海外英語研修プログラムは、リジャйна、ニュー・カッスルは夏と春に、ロンドンは夏に実施される。それぞれ4月末頃、10月末頃に説明会が開かれるので、プログラムの詳細はそちらを参照すること。</p> <p>事前指導は第2クォーターと第4クォーターに開講される。より詳しくは説明会や掲示で連絡する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>海外(英語圏)での語学研修プログラムで学習することにより、また現地での生活の中で、実践的英語コミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>滞在先の地域文化に触れ、現地の人々との交流を通じて、国際的な視野を広める。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
事前指導での出席状況、授業態度、英語習熟度、および、研修先の大学から送られてくるスコア等を合わせて、総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>海外英語研修によって英語科目の単位取得を目指す人は、各学期の第一クォーターにおいてその学期の履修届を書く際、この「事前指導」が開かれる時間帯のコマに別の授業を登録しないよう、十分注意してください。</p> <p>海外短期語学研修プログラム説明会の案内等は掲示にて行います。履修希望者は注意しておいて下さい。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>海外短期語学研修プログラムについては留学生センターに問い合わせる。</p> <p>事前指導については共通教育係に問い合わせる。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002218403
<b>開設科目名</b>	海外英語研修 [English Study Abroad]			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	福屋 利信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>約 4 週間の英語圏(リジャイナ[カナダ]、ニュー・カッスル[オーストラリア]、ロンドン[イギリス])での語学研修プログラム(研修費等は受講者が負担)に参加して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また同時に、滞在先の人々との交流を通じて、異文化理解を深める。</p> <p>この科目の単位を取得するためには、学務係(工学部は教務課)に受講票を提出のうえ、研修直前のクォーターに開講される事前指導(週1回90分×7回の授業を受講しなければならない。)(注意！事前指導を受講しなければ、語学研修プログラムに参加しても、単位は認められません。)</p> <p>海外英語研修プログラムは、リジャイナ、ニュー・カッスルは夏と春に、ロンドンは夏に実施される。それぞれ4月末頃、10月末頃に説明会が開かれるので、プログラムの詳細はそちらを参照すること。</p> <p>事前指導は第2クォーターと第4クォーターに開講される。より詳しくは説明会や掲示で連絡する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>海外(英語圏)での語学研修プログラムで学習することにより、また現地での生活の中で、実践的英語コミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>滞在先の地域文化に触れ、現地の人々との交流を通じて、国際的な視野を広める。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>基本的語彙、英文法を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>英語圏の思考や判断基準を習得する。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>異文化への興味を深める。</p> <p><b>態度の観点:</b>積極的に自分の意見を伝えようとする態度を身につける。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>自己表現力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
事前指導での出席状況、授業態度、英語習熟度、および、研修先の大学から送られてくるスコア等を合わせて、総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>海外英語研修によって英語科目の単位取得を目指す人は、各学期の第一クォーターにおいてその学期の履修届を書く際、この「事前指導」が開かれる時間帯のコマに別の授業を登録しないよう、十分注意してください。</p> <p>海外短期語学研修プログラム説明会の案内等は掲示にて行います。履修希望者は注意しておいて下さい。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>海外短期語学研修プログラムについては留学生センターに問い合わせる。</p> <p>事前指導については共通教育係に問い合わせる。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 13:00～14:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7～8	<b>時間割コード</b>	1002221005
<b>開設科目名</b>	医療英会話 [Medical Treatment English Conversation]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	看護・検査3,4年			<b>学年</b>	3～4
<b>担当教員</b>	AZUMA AMY			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Listening to/speaking/interpreting English in pairs or groups, short written assignments, in-class exercises, lots of pair works & role playing exercises, quizzes, and a final exam.					
<b>授業の一般目標</b>					
Students will learn to communicate in English simply and affectively with English speaking patients, their family members, and significant others.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>技能・表現の観点:</b> Learning Objectives: The student will be able to:					
1. Converse in English, in pairs or groups, about a health care/nursing practice issue.					
2. Correctly define, spell, and pronounce English terms relating to nursing and health care issue.					
3. Understand and translate English words and phrases.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Final Exam 40%, Quiz 20%, home work and class participation 10% each, role play 10% and translation of medical history form 10%.					
<b>教科書</b>					
Christine's Level-Up English Conversation for Nurses by Christine Lee Chinen					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
1. Ask question right away when you don't understand something, maybe a good half of your classmates don't understand it also.					
2. This is an English conversation class, students must converse in English actively.					
3. Students are required to turn in their original written assignments at the beginning of each class.					
All assignments must be legible and use correct grammar and spelling. Late works result in zero points.					
Therefore, if you will be late or absent make sure to give your homework to a classmate to turn in.					
4. Students are required to read and do the weekly text lesson before each classes.					
5. Students are expected to attend all classes. 5 absences result in an automatic Fail (D) grade, 4 absences required medical / emergency excuses written in English.					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1002221007
<b>開設科目名</b>	基礎医療英会話 [Basic Medical Treatment English Conversation]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	看護(41-, 編入学者 6-)3年			<b>学年</b>	3～
<b>担当教員</b>	AZUMA AMY			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Listening to/speaking/interpreting/translating English in pairs or groups, in-class exercises, lots of role playing exercises, a written assignment, quizzes and a final exam.					
<b>授業の一般目標</b>					
Students will learn to communicate in English simply and affectively with English speaking patients, their family members, and significant others.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>技能・表現の観点:</b> The student are expected be able to :					
1. Converse in English, in pairs or groups, about a health care/nursing practice issue.					
2. Correctly define, spell, and pronounce English terms relating to nursing and health care issue.					
3. Understand and translate English words and phrases.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Students will be graded by:					
	Quizzes(40%), homeworks(0%), & class participation(0%)	40%			
	Written assignment			10%	
	Role play (2)		10%		
	Final exam		40%		
<b>教科書</b>					
Christine's Easy English Conversation for Nurses by Christine Lee Chinen					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Students Responsibilities:					
1. Ask question right away when you don't know or understand something, maybe a good half of your classmates don't know it also.					
2. This is an English conversation class, student must converse in English actively.					
3. Students are required to turn in their original written assignments at the beginning of each class.					
All assignments must be legible and use correct grammar and spelling. No points for late work. Therefore, if you will be late or absent, ask your classmate to turn in your homework for you.					
4. Students are required to read and do the weekly text unit before each classes.					
5. Students are expected to attend all classes. 5 absences result in automatic Fail (D) grade. All absences require medical/emergency reasoning written in English.					
<b>連絡先</b>					
amy_azuma@yahoo.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5～6	<b>時間割コード</b>	1002221008
<b>開設科目名</b>	基礎医療英会話 [Basic Medical Treatment English Conversation]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	看護(1-40, 編入学者 1-5)3年			<b>学年</b>	3～
<b>担当教員</b>	TURALE SUSAN			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
This subject teaches students of nursing basic English conversations with foreign patients in health settings. It has 14 classes held during the Second Semester					
<b>授業の一般目標</b>					
Students will learn to communicate in English, simply and effectively, with English speaking patients, their family members or significant others.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>思考・判断の観点:</b> Correctly define, spell and pronounce English terms relating to nursing and health care issues					
Understand and translate selected English words and phrases					
<b>関心・意欲の観点:</b> Actively participate in classroom work					
<b>態度の観点:</b> Appreciate the need to use English conversation for English speaking patients					
<b>技能・表現の観点:</b> Converse in English about selected health care/nursing practice issues					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Role Plays (15% each)					
1. Two students will work together to develop role plays based on information given in class					
2. During each role play you will have to ask 12 different questions and give 12 different answers each, based on conversations in your textbook and class. One mark for each correct question and answer. Three marks will be award for correct English pronunciation/grammar in your role play.					
3. You must type up a final copy of your role play and give it to the lecturer immediately before the role play.					
4. You should check, with your lecturer, any problems with your English pronunciations or grammar before the day of the role play.					
Final Examination					
This will consist of short answer written questions. If you fail the final examination, the decision to give one compensatory examination rests with the supervising lecturer teaching the course. It is not automatic that a compensatory examination is given.					
<b>教科書</b>					
Christine 's Easy English Conversation for Nurses / Christine Lee Chinen , 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
Professor Susan Turale, Subdivision of Fundamental Nursing, Room 304, Telephone (0836) 22-2132 (office). Email: sturale@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002231106
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初歩 [Introductory German]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・医・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。ドイツ語の初級文法の習得をめざす。文法を中心とした練習問題をこなすとともに、発音、聞き取り、話すこと、語彙力、CD を活用し、パートナー練習を加えて、簡単な会話に挑戦する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。会話文に添えられた質問が、理解を容易にするであろう。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようにならなければならない。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていく。</p> <p><b>態度の観点:</b>学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p> <p><b>その他の観点:</b>本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験: 筆記テストと会話テスト(Lektion 1-6)</p>					
<b>教科書</b>					
<p>Deutsch, Switch On! / Mami Sakurai/ Yorio Nobuoka: 郁文堂, 2005</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>楽しみでドイツ語覚えましょう</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>dobra@yamaguchi-u.ac.jp ?</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>ドーブラ研究室 (共通教育 3F) 水曜日12:30 ~ 13:30</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002231107
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初歩 [Introductory German]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・医・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	小粥 良			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の初歩を学ぶ。週1回、1学期間だけの授業なので、文法を完全に習得するということを目指さないが、ドイツ語文法のおおまかな輪郭を理解し、興味があればさらに続けていくための基礎を提供する。時にはドイツについてのビデオなども視聴し、ドイツやオーストリア、スイスなどのドイツ語圏の文化について触れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語のごく基本的な文章を読み、書き、話せるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語文法の基本を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 文法を論理的に系統立てて理解し、覚えた規則を応用することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語という言葉の背景にあるドイツ文化、ヨーロッパ文化に関心を抱く。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語のごく基本的な文章を読み、書き、話せる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内レポートと小テストによる。出席は欠格条件とし、3分の2以上の出席を必要とする。					
<b>教科書</b>					
ドイツ語インフォメーション / 秋田静男 他、朝日出版社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
インターネットでもドイツ語が学べるサイトはたくさんあります。検索してみましょう。また、NHK 教育テレビやラジオのドイツ語講座も活用すると、ドイツ語の力がぐんとアップするでしょう。					
<b>連絡先</b>					
小粥研究室(教育学部2階 200-4)					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日 16:30-17:30					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月1~2	<b>時間割コード</b>	1002232502
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門2 [Elementary German 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	時田 郁子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語初心者を対象に、基礎文法を学びながら、ドイツ語で簡単なコミュニケーションが取れる段階まで習熟度を高める。					
<b>授業の一般目標</b>					
前期に引き続き、ドイツ語の文法を学びながら、読み、書き、話し、聴くといった基本的な能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎文法と単語を身につけて、会話や作文に活用できるようにする。					
<b>思考・判断の観点:</b> ドイツ語特有の文法構造を知ることによって、日本語とも英語とも違う思考方法を学ぶ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 映像や映画を通して、ドイツ語圏の文化への関心を高める。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語で簡単な会話をできるようにする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席を重視し、小テストと宿題、定期試験の結果を評価対象とする。					
<b>教科書</b>					
改訂版 ニューシステム14 / 西本美彦 / 西本アンゲリカ:同学社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
辞書を必ず用意し、授業にも持参すること。(電子辞書は不可)					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002232503
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門2 [Elementary German 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	時田 郁子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語初心者を対象に、基礎文法を学びながら、ドイツ語で簡単なコミュニケーションが取れる段階まで習熟度を高める。					
<b>授業の一般目標</b>					
前期に引き続き、ドイツ語の文法を学びながら、読み、書き、話し、聴くといった基本的な能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎文法と単語を身につけて、会話や作文に活用できるようにする。					
<b>思考・判断の観点:</b> ドイツ語特有の文法構造を知ることによって、日本語とも英語とも違う思考方法を学ぶ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 映像や映画を通して、ドイツ語圏の文化への関心を高める。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語で簡単な会話をできるようにする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席を重視し、小テストと宿題、定期試験の結果を評価対象とする。					
<b>教科書</b>					
改訂版 ニューシステム14 / 西本美彦 / 西本アンゲリカ:同学社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
辞書を必ず用意し、授業にも持参すること。(電子辞書は不可)					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002232504
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門2 [Elementary German 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	重竹 芳江			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の基礎を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
基本的な文法項目と日常表現に習熟することが第一の目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の初級文法を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 異文化に触れることにより、視野を広げる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ語圏の文化のみならず、様々な言語や文化に関心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
独作文を中心とする学期末試験による成績評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
新アポロン独和辞典 / 根本道也 [ほか], 2008					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002232505
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門2 [Elementary German 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	重竹 芳江			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の基礎を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
基本的な文法項目と日常表現に習熟することが第一の目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の初級文法を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 異文化に触れることにより、視野を広げる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ語圏の文化のみならず、様々な言語や文化に関心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
独作文を中心とする学期末試験による成績評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
新アボロン独和辞典 / 根本道也 [ほか]: 同学社, 2008					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002232506
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門2 [Elementary German 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	能木 敬次			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期概要の記述内容を参照してもらいたい。「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想・文学を紹介する。					
<b>授業の一般目標</b>					
近年、ドイツの社会経済・政治における役割の増大は目を見はるものがある。工業技術や医療技術、また福祉政策や環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治・教育文化・科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義はドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究のためのドイツ語文献の読解に役立ててほしい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 格変化・人称変化がインド・ヨーロッパ語では常態であることを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 英語とは異なるドイツ語文法からいわゆるドイツ的思考を感得する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語検定4級を受験する。					
<b>態度の観点:</b> ドイツ語を積極的に会話・読解に活用しようとする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 三十程の簡単なドイツ語のスキットを使用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講態度・出席・小テスト・定期テスト等全てを考慮する。					
<b>教科書</b>					
『クローツング』(KREUZUNG) / 小野寿美子 他:朝日出版, 2009					
<b>参考書</b>					
新アポロン独和辞典(第4版) / 根本道也 [ほか] 編集執筆: 同学社, 2003					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002232507
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門2 [Elementary German 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	能木 敬次			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期概要の記述内容を参照してもらいたい。「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想・文学を紹介する。					
<b>授業の一般目標</b>					
近年、ドイツの社会経済・政治における役割の増大は目を見はるものがある。工業技術や医療技術、また福祉政策や環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治・教育文化・科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義はドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究のためのドイツ語文献の読解に役立ててほしい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 格変化・人称変化がインド・ヨーロッパ語では常態であることを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 英語とは異なるドイツ語文法からいわゆるドイツ的思考を感得する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語検定4級を受験する。					
<b>態度の観点:</b> ドイツ語を積極的に会話・読解に活用しようとする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 三十程の簡単なドイツ語のスキットを使用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講態度・出席・小テスト・定期テスト等全てを考慮する。					
<b>教科書</b>					
『新ドイツへ行ってみませんか』(Deutsch, mein Schlüssel zur neuen Welt) / 佐藤和弘 他: 郁文堂, 2009					
<b>参考書</b>					
新アポロン独和辞典(第4版) / 根本道也 [ほか] 編集執筆: 同学社, 2003					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002232508
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門2 [Elementary German 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	野口 達人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本授業では、ドイツ語を話し、聴き、書き、読む技能の育成を通じ、基礎的なコミュニケーション力を養成する。そのために、基本的な文法規則を説明し、実際的なテーマに沿った会話の練習、学習した文法項目を確認するための練習、読解練習などを課す。					
<b>授業の一般目標</b>					
分離動詞、話法の助動詞、現在完了などを習得することにより、ドイツ語の文構造の基本を理解する。さらに基本単語・表現を覚えて、簡単なドイツ語を話したり、聴いたりすることができ、簡単な文を読み、書くことができるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の文構造の基本を理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 英語や日本語との相違を認識し、多様な規準があることを理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語圏の文化への関心を深め、言語一般に対する意識を高める。					
<b>態度の観点:</b> 授業への積極的な参加と毎日の自主的な反復練習により、勤勉な学習態度を身につける。					
<b>技能・表現の観点:</b> 簡単なドイツ語を話したり、聴いたりすることができ、簡単な文を読み、書くことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)各課の練習問題を口頭または板書にて行い、これを演習として評価					
(2)授業の中で各課ごと的小テストを行う。					
(3)筆記試験を定期試験期間中に行う。					
以上を別記の観点・割合で評価する。なお、総授業数の80%以上の出席を必須要件とする。					
<b>教科書</b>					
クロイツング / 小野寿美子、中川明博、西巻文児、朝日出版社、2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業への積極的な参加、練習問題の入念な準備(全回出席して宿題を忘れないこと)、自主的な反復練習が要求される。					
遅刻・欠席をしないよう注意すること。					
授業には必ず独和辞典を携行すること。					
ドイツ語入門1で学習した文法項目の復習をしておくこと。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002232509
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門2 [Elementary German 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く)・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	野口 達人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本授業では、ドイツ語を話し、聴き、書き、読む技能の育成を通じ、基礎的なコミュニケーション力を養成する。そのために、基本的な文法規則を説明し、実際のテーマに沿った会話の練習、学習した文法項目を確認するための練習、読解練習などを課す。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>分離動詞、話法の助動詞、現在完了などを習得することにより、ドイツ語の文構造の基本を理解する。さらに基本単語・表現を覚えて、簡単なドイツ語を話したり、聴いたりすることができ、簡単な文を読み、書くことができるようになる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>ドイツ語の文構造の基本を理解できる。  <b>思考・判断の観点:</b>英語や日本語との相違を認識し、多様な規準があることを理解する。  <b>関心・意欲の観点:</b>ドイツ語圏の文化への関心を深め、言語一般に対する意識を高める。  <b>態度の観点:</b>授業への積極的な参加と毎日の自主的な反復練習により、勤勉な学習態度を身につける。  <b>技能・表現の観点:</b>簡単なドイツ語を話したり、聴いたりすることができ、簡単な文を読み、書くことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>(1)各課の練習問題を口頭または板書にて行い、これを演習として評価  (2)授業の中で各課ごとの小テストを行う。  (3)筆記試験を定期試験期間中に行う。  以上を別記の観点・割合で評価する。なお、総授業数の80%以上の出席を必須要件とする。</p>					
<b>教科書</b>					
クロイツング / 小野寿美子、中川明博、西巻文児、朝日出版社、2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>授業への積極的な参加、練習問題の入念な準備(全回出席して宿題を忘れないこと)、自主的な反復練習が要求される。  遅刻・欠席をしないよう注意すること。  授業には必ず独和辞典を携行すること。  ドイツ語入門1で学習した文法項目の復習をしておくこと。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002232510
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門2 [Elementary German 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	江波 昌子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、この授業では、基礎的なドイツ語を読み、書き、話し、聞く力を養う。そのために、基礎的な文法事項を説明する。また、くり返しドイツ語を聞いて、発音やイントネーション、言葉のリズムを身につけ、基本的な表現を覚えて実際に使えるように、練習問題や暗唱など様々な課題を与える。					
<b>授業の一般目標</b>					
前期に引き続き、ドイツ語の発音の基本を習得する。分離動詞、助動詞等の品詞の理解を通して、ドイツ語文法の基礎構造を認識する。また、いろいろなフレーズを覚えて、簡単な日常会話が表現できると同時に、平易なドイツ語を聞き取れるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 分離動詞、動詞の3基本形、助動詞の活用変化、形容詞の格変化などを身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> これまで学んできた英語とは違う外国語を学ぶことで、新しい視点を持ち、異文化に対する理解を深める。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語の学習を通して、ドイツ語圏の生活や習慣、また文学や音楽など文化的側面にも関心を抱く。					
<b>態度の観点:</b> 授業に積極的に参加し、新しい言語についてより多くを自分のものにしようとする。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語の文章が正しく読める。簡単な文を作ることができる。簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1.出席と小テストを含めた平常点を50%とし、定期試験の50%と合わせて評価する。					
2.宿題は授業中に成果を発表することで、平常点として評価する。					
<b>教科書</b>					
ドイツ語インフォメーション[新訂版] / 秋田静男ほか:朝日出版社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
語学を学ぶということは、新しい世界を知ることです。楽しく学習しましょう。辞書は毎回、必ず持参して下さい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002232501
<b>開設科目名</b>	ドイツ語入門2 [Elementary German 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	HINTEREDER EMDE FRANZ			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語入門2は、入門1を継続してドイツ語を学びます。入門レベルの基礎的なコミュニケーション能力や異文化能力を目指します。ドイツ語・ドイツ語圏の文化を知りたい人に適した授業です。基礎ドイツ語とあわせてドイツ日常文化の映画、ポップス、環境、食文化などのテーマを取り上げる予定です。発見の多い授業にしたいと思います。					
<b>授業の一般目標</b>					
この授業では、ドイツ語とドイツ語文化圏の基礎的な勉強します。そしてドイツ語の現場であるドイツ語文化圏の事情も調べていきます。参加者は、基礎語彙や文法を身に付きながら、自らの興味のあるテーマについて調べて、発表します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の基本的な語彙を身に付くことと、ドイツの文化への理解を深める。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 興味を持って、授業や課題に取り組むことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に参加し、発表や発言によって授業に貢献ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト:40%、宿題やレポート:30%、態度や参加(発言や練習の参加):15%、発表やプレゼン:15%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp クローズアップ・ドイツ、ドイツ語初級					
<b>オフィスアワー</b>					
office hour: 月曜日 5・6 時限(12:50～14:20)					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002234101
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級2A [Basic German 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	下寄 正利			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の初級文法を学習する。この授業では、教科書の後半部分を学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の基礎を身につけており、ある程度ドイツ語の読み書きができ、ドイツ語やドイツ文化、あるいはヨーロッパに興味を持っている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の基礎を身につけている。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ文化、あるいはヨーロッパ全体に興味を持っている。					
<b>態度の観点:</b> 自ら進んで学習する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 簡単なドイツ語の文なら、辞書なしでも理解できるし、自分でも作れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間テストと期末テストだけでなく、普段の演習点も重視する。出席は欠格条件で、全授業の3分の2以上が必要。					
<b>教科書</b>					
練習中心 初級ドイツ語文法 コンパクト版 / 中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧:白水社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002234102
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級2A [Basic German 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	小粥 良			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の初歩を丁寧に学ぶ。文法を体系的に学ぶ。ビデオ等を用いて、ドイツの文化についても紹介する。木曜日1・2時限のドーブラ先生のドイツ語初級2Bとセットになっている授業なので、原則として両方履修すること。(注意：他の先生のドイツ語初級2Bを履修すると、教科書をもう一冊買う必要が生じるうえ、授業で文法事項が出てくる順序も違います。)					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の初級文法を一通り学習するとともに基礎語彙を習得し、そしてそれらの基礎の上に初歩的なドイツ語読解力を身につける。またドイツ語圏の国々の文化等について知識を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の初級文法と基礎語彙を身に付ける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論理的で幅広い思考判断力を、外国語の習得を通して養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ語圏の文化をはじめとして、世界の様々な言語や文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 与えられた課題に積極的に取り組むことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語の初歩的な実用能力、とりわけ、簡単な文章ならば辞書を用いて独力で読みこなすことができる程度の読解力を身に付ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
主として期末テストの点数により評価するが、普段の授業での学習態度も考慮する。出席は欠格事項としてのみ扱い、全授業の3分の2以上の出席を必要とする。					
<b>教科書</b>					
シュトラッセ・ノイ / Britta Schellens: 朝日出版社, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
木曜日1・2時限のドーブラ先生のドイツ語初級2Bとセットになっている授業なので、原則として両方履修すること。CD付きの教科書なので、家でCDをよく聞くようにしてください。予習・復習をしっかりと行ってください。					
<b>連絡先</b>					
教育学部2階200-4 番の研究室。					
<b>オフィスアワー</b>					
オフィスアワーは木曜 16:30-17:30。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1002234103
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級2A [Basic German 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	本田 義昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
木曜日3・4時限の「ドイツ語初級2B」(エムデ先生)と共通の教科書を使って、ドイツ語の初級文法を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の初級文法を学んで、基本的な文章を読み、書き、話せるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語文法の基本を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的に見れるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語という言葉の背景にあるドイツ文化、ヨーロッパ文化に関心を抱く。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語の基本的な文章を読み、書き、話せるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。 「演習」の観点は「授業態度・授業への参加度」および「受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品」で評価します。					
<b>教科書</b>					
ドイツ語インパクト / 三宅恭子 / ミハエラ・コッホ: 三修社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
木曜日3・4時限の「ドイツ語初級2B」(エムデ先生)と共通の教科書を使います。こつこつ頑張れば、誰でもかなりのレベルに到達します。継続は力なり! 将来はドイツ留学も夢ではありません。					
<b>連絡先</b>					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002234104
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級2A [Basic German 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	下寄 正利			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の初級文法を学習する。この授業では、教科書の後半部分を学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の基礎を身につけており、ある程度ドイツ語の読み書きができ、ドイツ語やドイツ文化、あるいはヨーロッパに興味を持っている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の基礎を身につけている。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ文化、あるいはヨーロッパ全体に興味を持っている。					
<b>態度の観点:</b> 自ら進んで学習する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 簡単なドイツ語の文なら、辞書なしでも理解できるし、自分でも作れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間テストと期末テストだけでなく、普段の演習点も重視する。出席は欠格条件で、全授業の3分の2以上が必要。					
<b>教科書</b>					
練習中心 初級ドイツ語文法 コンパクト版 / 中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧:白水社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002234105
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級2A [Basic German 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	坂本 貴志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は、ドイツ語のネイティブスピーカーの担当する初級Bとセットである。ドイツ語を体系的に理解することを目標とし、そのために文法の理解を主とした学習方法をとる。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の初級文法を一通り学習するとともに基礎語彙を習得し、そしてそれらの基礎の上に初歩的なドイツ語読解力を身につける。またドイツ語圏の国々の文化等についても知識を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の初級文法と基礎語彙を身に付ける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論理的で幅広い思考判断力を、外国語の習得を通して養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ語圏の文化をはじめとして、世界の様々な言語や文化に関心を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語の初歩的な運用能力、とりわけ、簡単な文章ならば辞書を用いて独力で読みこなすことができる程度の読解力を身に付ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席状況と期末テストによって判定する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
外国語の習得に必要なのは、記憶と論理的思考力である。記憶力は各人の能力により差があるが、努力さえすれば、必要な知識はすべて記憶できる。また、論理的思考力を駆使すれば、記憶すべき情報を最小限におさえ、状況に応じてその都度、必要な情報を導き出すことができる。そのために文法を主体とする学習方法は最善の方策である。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002234501
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級2B [Basic German 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これら文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。会話文に添えられた質問が、理解を容易にするであろう。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようにならなければならない。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていく。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。</p> <p><b>その他の観点:</b>本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト / 会話 / 授業の態度 / 期末試験: 筆記テストと会話テスト(Lektion 7-12)					
<b>教科書</b>					
Szenen 1 integriert, CD 付きスシエネン1場面で学ぶドイツ語 / Shuko Sato et al. , 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
頑張りましょう					
<b>連絡先</b>					
dobra@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
山口 吉田 研究室 ドーブラ 共通教育 (3 F 水曜日 12:30~13:30)					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002234502
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級2B [Basic German 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ドイツ語の初級文法の習得をめざす。文法を中心とした練習問題をこなすとともに、発音、聞き取り、話すこと、語彙力、作文力、読解力をつける。CD を活用し、パートナー練習を加えて、簡単な会話に挑戦する。</p> <p>小粥先生の月曜日7・8時限のドイツ語初級2Aとセットになっている授業である。同一教科書で、二人で分担して教えるので、原則として両方を取る。 (別の先生の初級2Aを取る場合は、教科書がもう一冊必要になる。)</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の初級文法を学習する。初歩的なドイツ語読解力を身につける。ドイツ語圏の文化についても知識を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>ドイツ語の初級文法を習得できている。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>ドイツ語を習得して、論理的な文章を書くことができる。日本文化を相対的にみることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>世界の様々な言語や文化に関心をもつことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>出席も含め、日々の努力を怠らない。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>初歩的な実用能力、読解力を磨く。</p> <p><b>その他の観点:</b>本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験: 筆記テストと会話テスト(Lektion 4~8)					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
辞書か電機辞書使って下さい。けれど授業で会話が一番です。					
<b>連絡先</b>					
dobra@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
ド - プラ研究室 共通教育3F					
水曜日12:30 ~ 13:30					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002234503
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級2B [Basic German 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	HINTEREDER EMDE FRANZ			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期のドイツ語初級1から継続して、ドイツ語の基本的な文法と語彙を学びんでいく。ドイツ語の基本的な構造を理解し、簡単な会話や読書をこなすことはこのコースのねらいである。必要な語彙を自由自在に使えるように練習を重ねる。後期の目標もおよそ375語のドイツ語の単語である。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の基本的な初級レベルを目標にする。簡単な会話や文章理解に必要な文法や語意を習得する。さらに、ドイツ語を通じて、ドイツ文化圏の今日的な情報や歴史的な背景も把握できることが大事である。語学学習と合わせて、適宜インターネットを利用し、様々なテーマについて調べる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的なドイツ語の会話に必要な文法の理解、語彙の使いこなし。					
<b>思考・判断の観点:</b> ドイツ語で簡単なことから、自分のことや意見を表現できること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語の構造や語彙を積極的に習得し、そしてドイツ語文化圏への関心を高めること。					
<b>態度の観点:</b> 予習・復習・宿題などを恒常に行い、授業に関心を持って楽しく参加すること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
単語テスト・小テスト:40%、宿題:30%、参加や態度:10%、プレゼンテーション:20%					
<b>教科書</b>					
ドイツ語インパクト / 三宅恭子 著 / Michaela Koch 著:三修社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
練習を重ねながら、うまくなることを信じて、自分にチャレンジすることが成功の元。後期も頑張れば、ドイツ語の実力が湧いてくるはずですよ。					
<b>連絡先</b>					
電話 933 - 5687					
mail emde@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002234504
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級2B [Basic German 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	WATANABE BERGER ANGELIKA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、色んなメディアを通じて"ドイツ"を体験し、身近に感じてもらうのが狙いです。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習して、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の初級文法の最も基本的な部分を理解し、最も基礎的な語彙を身に付けている。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的に見れるようになる。ドイツ語で、自分のことや意見を表現できること					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ語圏の文化をはじめとして、世界の様々な言語や文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 予習・復習・宿題などを恒常にやり、授業に関心を持って楽しく参加すること					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語の簡単な文が解読でき、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
テスト、宿題、授業態度と出席によって評価します。					
<b>教科書</b>					
ドイツ語一年生・ケイコのミュンヘン / 矢羽々崇: 朝日出版					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc.に挑戦しましょう。					
<b>連絡先</b>					
palette@c-able.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3~4	<b>時間割コード</b>	1002234505
<b>開設科目名</b>	ドイツ語初級2B [Basic German 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	WATANABE BERGER ANGELIKA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、色んなメディアを通じて"ドイツ"を体験し、身近に感じてもらうのが狙いです。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習して、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の初級文法の最も基本的な部分を理解し、最も基礎的な語彙を身に付けている。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的に見れるようになる。ドイツ語で、自分のことや意見を表現できること					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語やドイツ語圏の文化をはじめとして、世界の様々な言語や文化に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 予習・復習・宿題などを恒常にやり、授業に関心を持って楽しく参加すること					
<b>技能・表現の観点:</b> ドイツ語の簡単な文が解読でき、簡単な会話ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
テスト、宿題、授業態度と出席によって評価します。					
<b>教科書</b>					
ドイツ語一年生・ケイコのミュンヘン / 矢羽々崇: 朝日出版					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc.に挑戦しましょう。					
<b>連絡先</b>					
palette@c-able.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002235501
<b>開設科目名</b>	ドイツ語会話2 [German Conversation 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	DOBRA FELICITAS VIKTORIA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。教科書では、文法事項は「Bausteine」という見出しの下に現れる。</p> <p>学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。</p> <p>次年度にも更にドイツ語を継続して学習することを希望している学生のために、次年度には同じ教科書の第二部を使用することを指摘しておく。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。会話文に添えられた質問が、理解を容易にするであろう。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようになるなければならない。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>学生と教師は、感情を合わせあって話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形作られていく。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学</p> <p><b>その他の観点:</b>本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験: 筆記テストと会話テスト(Lektion 5-8)					
<b>教科書</b>					
Grundkurs Farbkasten Deutsch ベーシック版自己表現のためのドイツ語 / CD 付き / 板山真由美[Mayumi ITAYAMA]/塩路ウルスラ [Ursula SHIOJI] / 本河裕子 [Yuko MOTOKAWA]/ 良光たか子[Takako YOSHIMITSU]: 三修者, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
辞書か電子辞書を買って。授業で会話一番です。					
<b>連絡先</b>					
dobra@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
山口 吉田 ドーブラ研究室 (共通教育)3F 水曜日 12:30 ~ 13:30					

開講期	後期	曜日時限	月9~10	時間割コード	1002232601
開講科目名	フランス語入門2 [Elementary French 2]			単位	2単位
対象学生	人・教・理・医・工・農			学年	1~
担当教員	井上 三朗			区分	
<b>授業の概要</b>					
この授業は、前期にひき続いて、週1回の授業を受けることによって、フランス語を習得するものである。使用する教科書は比較的平易であり、親しみやすい。文法の例文と説明だけでなく、「読み・書き・話す」力を高めるのに効果的な練習問題を含んでいる。この教科書をもちいることにより、フランス語を一定程度マスターすることを目指す。					
<b>授業の一般目標</b>					
フランス語の基本的な文法事項を習得するとともに、「読み・書き・話す」力、つまり実践的な運用能力を身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> フランス語の基本的な文法事項を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 基本的なフランス語運用能力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 実践的なフランス語に関心を持ち、それをマスターする意欲を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> さまざまな言い回しを憶えることで、たとえわずかであれ、「話す」能力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の点数(70点)と平素点(30点)との総合。					
<b>教科書</b>					
プチボワソン / 金子美都子他: 白水社, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業への積極的な参加を望む。また、毎回新しい文法事項を学んでいくので、休まずに出席することを要望する。					
<b>連絡先</b>					
613研究室。					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日14時30分~16時00分。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1002232602
<b>開設科目名</b>	フランス語入門2 [Elementary French 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	EMDE ANGELIKA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
このコースではフランス語の根本的な構造を理解し、自力で簡単な文書を作り、日常的な会話をこなせることがねらいです。入門2のコースは、入門1に基づいていることに注意してください。					
<b>授業の一般目標</b>					
基礎文法と語彙を身につけて、簡単な文章の読み書きや日常会話ができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 習ってきたフランス語のレベルに合わせて、文法を理解し、語彙を生かして、簡単な会話ができること。					
<b>思考・判断の観点:</b> フランス語で、基礎的な範囲において、自分の意見を表現できること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> フランス語の構造や語彙を積極的に習得し、フランス文化に関心を高めること。					
<b>態度の観点:</b> 予習・復習・宿題などを常にやり、授業に関心をもって楽しく参加すること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間・期末試験) 40%、小テスト・授業内レポート 20%、授業態度・授業への参加態度 40%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
出席は非常に大事で、積極的な参加は、成功へのカギです。					
<b>連絡先</b>					
a0a01632@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5~6	<b>時間割コード</b>	1002234201
<b>開設科目名</b>	フランス語初級2A [Basic French 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 理 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	武本 雅嗣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は前期の「フランス語初級1A」の続きであり、「フランス語初級2B」(フランス人教員のクラス)と合わせて週に2回授業を受けることによって、フランス語の習得を目指すものである。「フランス語初級2A」のほうでは、基本的な文法事項をしっかりと学んだうえで、フランス語の運用能力が身につくようになることを目標に授業を進めていく。使用する教科書は比較的容易であり、文法の説明と例文だけでなく、「読み・書き・話す」力を高めるのに効果的な練習問題を含んでいる。時折ビデオを使って文化の紹介をしたり、聞き取りの練習をしたりする。					
<b>授業の一般目標</b>					
フランス語の基本的な文法事項を体系的に習得し、実践的な運用能力、つまり「読み・書き・話す」力を身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> フランス語の基本的な文法事項を体系的に習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 初歩的なフランス語運用能力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> フランス語を「話す」ことや「読む」ことへの意欲が向上する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 様々な言い回しを憶えることで、簡単な会話ができるようになる。多種多様なテキストが読めるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験の点数(70点)と平常点(30点)との合計。					
<b>教科書</b>					
フランス文法 かたちとしくみ / 春木仁孝:白水社,2009					
<b>参考書</b>					
プログレッシブ仏和辞典 / 大賀正喜他:小学館,2008					
<b>メッセージ</b>					
毎回新しい文法事項を学んでいくので休まず出席すること。					
<b>連絡先</b>					
人文学部612研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日 16:10~17:40					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1002234202
<b>開設科目名</b>	フランス語初級2A [Basic French 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 理 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	井上 三朗			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は、「フランス語初級2B」(フランス人教員のクラス)と合わせて、週2回の授業を受けることによって、フランス語を習得するものである。「初級2A」のほうでは、基本的な文法事項をしっかりと学んだうえで、フランス語の運用能力が身につくようになることを目指して、授業を進めていく。使用する教科書は、比較的平易であり、文法の説明と例文だけでなく、「読み・書き・話す」力を高めるのに効果的な練習問題を含んでいる。この教科書を用いることにより、フランス語をマスターすることを目指す。					
<b>授業の一般目標</b>					
フランス語の基本的な文法事項を体系的に習得し、実践的な運用能力、つまり「読み・書き・話す」力を身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> フランス語の基本的な文法事項を体系的に習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> フランス語の実践的な運用能力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> フランス語を「話す」ことや、「読む」ことへの意欲が向上する。					
<b>技能・表現の観点:</b> さまざまな言い回しを憶えることで、たとえわずかであれ、「話す」力が身につく。基本的な文法事項を学ぶことで、多種多様なテキストを「読む」力が身につく。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の点数(70点)と平常点(30点)との総合。					
<b>教科書</b>					
フランス文法 かたちとしくみ / 春木仁孝:白水社,2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業への積極的な参加を望む。また、毎回新しい文法事項を学んでいくので、休まずに出席することを要望する。					
<b>連絡先</b>					
613研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
14時30分~16時00分。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002234601
<b>開設科目名</b>	フランス語初級2B [Basic French 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 理 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	Beausir Jean Claude			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、会話を取り入れながらフランス語の基本的な文法事項を学習します。毎回授業の終わりには「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、漫画、フランス映画等を紹介しします。授業は日本語でも行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
簡単な挨拶から徐々に基礎フランス語を習得し会話を中心に総合的なレベルアップを目指します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的なフランス語の知識を高め簡単な会話ができるようになることを目標としています。					
<b>関心・意欲の観点:</b> フランス語以外のこと(文化、歴史、音楽、雑学)などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養うことを目標としています。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業の出席状況、授業態度、試験の成績で総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
日本人初心者のためのフランス語教材 / GAEL CREPIEUX その他:Hachette Livre, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002234602
<b>開設科目名</b>	フランス語初級2B [Basic French 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 理 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	Beausir Jean Claude			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、会話を取り入れながらフランス語の基本的な文法事項を学習します。毎回授業の終わりには「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、漫画、フランス映画等を紹介しします。授業は日本語でも行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
簡単な挨拶から徐々に基礎フランス語を習得し会話を中心に総合的なレベルアップを目指します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的なフランス語の知識を高め簡単な会話が出来るようになることを目標としています。					
<b>関心・意欲の観点:</b> フランス語以外のこと(文化、歴史、音楽、雑学)などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養うことを目標としています。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業の出席状況、授業態度、試験の成績で総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
日本人初心者のためのフランス語教材 / GAEL CREPIEUX その他:Hachette Livre, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002235602
<b>開設科目名</b>	フランス語会話2 [French Conversation 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	EMDE ANGELIKA			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の基本的な文法と語彙を学びんでいく。ドイツ語の基本的な構造を理解し、簡単な会話や読書をこなすことはこのコースのねらいである。必要な語彙を自由自在に使えるように練習を重ねる。およそ375語のドイツ語の単語である。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の基本的な初級レベルを目標にする。簡単な会話や文章理解に必要な文法や語意を習得する。さらに、ドイツ語を通じて、ドイツ文化圏の今日的な情報や歴史的な背景も把握できることが大事である。語学学習と合わせて、適宜インターネットを利用し、様々なテーマについて調べる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的なドイツ語の会話に必要な文法の理解、語彙の使いこなし。					
<b>思考・判断の観点:</b> ドイツ語で簡単なことから、自分のことや意見を表現できること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツ語の構造や語彙を積極的に習得し、そしてドイツ語文化圏への関心を高めること。					
<b>態度の観点:</b> 予習・復習・宿題などを恒常にやり、授業に関心を持って楽しく参加すること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
単語テスト・小テスト:40%、宿題:30%、参加や態度:10%、プレゼンテーション:20%					
<b>教科書</b>					
ドイツ語インパクト / 三宅恭子 著 / Michaela Koch 著:三修社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
練習を重ねながら、うまくなることを信じて、自分にチャレンジすることが成功の元。後期も頑張りましょう、ドイツ語の実力が湧いてくるはずです。					
<b>連絡先</b>					
電話 933 - 5687					
mail emde@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002231303
<b>開設科目名</b>	中国語初歩 [Introductory Chinese]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・医・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	齊藤 匡史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本科目は半期完結の中国語授業で、中国語の発音や平易な表現を学習し、あわせて中国事情理解を進める。半期という時間では基礎全般を学ぶことは不可能であるが、本科目の受講を通じて、中国語学習への興味をもってもらいたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語学習での発音の重要性を学び、正確な発音が出来るよう努力する。</li> <li>・中国語の基本文型を理解し、やさしい表現を身に着ける。</li> <li>・中国について理解する。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績と日常の授業への出席と受講態度で成績を評価する。2/3以上の出席がなければ定期試験を受けられない。					
<b>教科書</b>					
新版 中国語 10 課 / ,方如偉ほか,,: 白水社, 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1002231304
<b>開設科目名</b>	中国語初歩 [Introductory Chinese]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・医・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	苞山 武義			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中国語の基本表現を使い、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになることを目指します。併せて、言葉の背景となる中国の文化や中国事情について、ビデオなどを見ながら紹介します。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語であいさつや自己紹介ができ、また自分の考えを表現するなど、中国語を使って簡単なコミュニケーションをとることができることを目指す。また、中国社会や文化に関心を持ち、日本との違いや関係を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の初歩的な表現を理解・運用できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語や中国事情に関心を持ち、積極的な理解につとめる。					
<b>態度の観点:</b> 授業に積極的に参加する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の他に、授業中に行う小テスト、授業への参加態度などによる総合評価。出席が2/3に満たない者は定期試験を受けられない。					
<b>教科書</b>					
教科書備考:プリント配布					
<b>参考書</b>					
参考書備考:適宜プリント配布					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002232701
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績:70%					
小テスト・授業内レポート:20%					
授業態度・授業への参加度 :10%					
出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群:白帝社,2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002232702
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	梁 蕾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績:70%					
小テスト・授業内レポート:20%					
授業態度・授業への参加度 :10%					
出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群:白帝社,2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002232703
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	梁 蕾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績:70%					
小テスト・授業内レポート:20%					
授業態度・授業への参加度 :10%					
出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群:白帝社,2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002232705
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宇 芳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績:70%					
小テスト・授業内レポート:20%					
授業態度・授業への参加度 :10%					
出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群:白帝社,2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002232706
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	呉 菲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績:70%					
小テスト・授業内レポート:20%					
授業態度・授業への参加度 :10%					
出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群:白帝社,2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002232704
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宇 芳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績:70%					
小テスト・授業内レポート:20%					
授業態度・授業への参加度 :10%					
出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002232707
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績: 70%					
小テスト・授業内レポート: 20%					
授業態度・授業への参加度 : 10%					
出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水9~10	<b>時間割コード</b>	1002232708
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	永富 健史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績:70%					
小テスト・授業内レポート:20%					
授業態度・授業への参加度 :10%					
出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群:白帝社,2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002232710
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績:70%					
小テスト・授業内レポート:20%					
授業態度・授業への参加度 :10%					
出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群:白帝社,2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002232711
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉本 知栄子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績:70%					
小テスト・授業内レポート:20%					
授業態度・授業への参加度 :10%					
出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群:白帝社,2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1002232712
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	秋山 淳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績: 70%					
小テスト・授業内レポート: 20%					
授業態度・授業への参加度 : 10%					
出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5-6	<b>時間割コード</b>	1002232713
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	苞山 武義			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績: 70%					
小テスト・授業内レポート: 20%					
授業態度・授業への参加度 : 10%					
出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1002232714
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	張 玲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績: 70%					
小テスト・授業内レポート: 20%					
授業態度・授業への参加度 : 10%					
出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002232709
<b>開設科目名</b>	中国語入門2 [Elementary Chinese 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	崔丹			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音、初歩的な表現を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国のことばと社会に関心を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>態度の観点:</b> 発音、音読などの練習に積極的に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の成績: 70%					
小テスト・授業内レポート: 20%					
授業態度・授業への参加度 : 10%					
出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
スリム版 表現する中国語 / 楊凱栄・張麗群: 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002234301
<b>開設科目名</b>	中国語初級2A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	齋藤 匡史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齋藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月 9～10	<b>時間割コード</b>	1002234302
<b>開設科目名</b>	中国語初級2 A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	富平 美波			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国への興味喚起に努め、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語と、中国文化や中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験と小テスト(1 課終了毎に行う)による総合評価による。出席が 3 分の 2 に満たない者は期末試験を受験できない。評価が可に届かない者を対象に、再試験を実施する予定である。					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード 文型・表現編 / 齋藤匡史・何曉毅・田梅; 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文学部 5 階 515 tel: 933-5251					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日: 12:50 ~ 14:20					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002234303
<b>開設科目名</b>	中国語初級2A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	富平 美波			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国への興味・喚起に努め、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語と、中国文化や中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験と小テスト(1課終了毎に行う)による総合評価による。出席が3分の2に満たない者は期末試験を受験できない。評価が可に届かない者を対象に、再試験を実施する予定である。					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード 文型・表現編 / 齋藤匡史・何曉毅・田梅; 白帝社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文学部5階515 tel:933-5251					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日:12:50~14:20					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002234304
<b>開設科目名</b>	中国語初級2 A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	更科 慎一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齋藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002234305
<b>開設科目名</b>	中国語初級2A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	一木 達彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齋藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002234306
<b>開設科目名</b>	中国語初級2A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	一木 達彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齋藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002234307
<b>開設科目名</b>	中国語初級2A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	永富 健史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齋藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水9~10	<b>時間割コード</b>	1002234308
<b>開設科目名</b>	中国語初級2A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	一木 達彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齋藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002234309
<b>開設科目名</b>	中国語初級2A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉本 知栄子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齋藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002234310
<b>開設科目名</b>	中国語初級2A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	秋山 淳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齋藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002234311
<b>開設科目名</b>	中国語初級2A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉本 知栄子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齋藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002234312
<b>開設科目名</b>	中国語初級2A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	秋山 淳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齋藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002234313
<b>開設科目名</b>	中国語初級2 A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	苞山 武義			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齋藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1002234314
<b>開設科目名</b>	中国語初級2 A [Basic Chinese 2A]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	苞山 武義			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。</li> <li>・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 系統的に中国語の基本文法を把握し、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加でき、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を習得し、基礎的会話能力を備え、簡単なコミュニケーションがとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語スタンダード(文型・表現編) / 齋藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002234701
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田 梅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5～6	<b>時間割コード</b>	1002234702
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	何 暁毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5～6	<b>時間割コード</b>	1002234703
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002234704
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田 梅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002234706
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	袁 麗暉			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002234705
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	呉 朝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002234707
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	呉 朝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002234708
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田 梅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002234709
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002234710
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	呉 菲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7～8	<b>時間割コード</b>	1002234711
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	呉 朝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7～8	<b>時間割コード</b>	1002234712
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	張 玲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002234713
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田 梅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水9～10	<b>時間割コード</b>	1002234714
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	張 玲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002234715
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	梁 蕾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002234716
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	梁 蕾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002234717
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1002234718
<b>開設科目名</b>	中国語初級2B [Basic Chinese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	張 玲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水9~10	<b>時間割コード</b>	1002235701
<b>開設科目名</b>	中国語会話2 [Chinese Conversation 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経 理(数理)・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宇 芳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に引き続き、中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初歩的なコミュニケーション能力を備える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に会話練習に関わり、コミュニケーション能力を高める努力をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語による初歩的なコミュニケーション能力を習得し、運用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価					
<b>教科書</b>					
一年生のコミュニケーション中国語 / 塚本 慶一 劉 穎:白水社,2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣 なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002239711
<b>開設科目名</b>	中国語中級2 [Intermediate Chinese 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	一木 達彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中級レベルの中国語を学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
中級レベルの中国語を総合的な習得を目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音とアクセント、表現形式などの初級で学んだことを復習しつつ、初級から一步進んだ表現形式を理解・運用できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国事情に関心を持ち、積極的理解に努めることができる。					
<b>態度の観点:</b> 授業外学習や、授業に積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 基本文法を理解し、正確な発音と簡単な読解ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002239701
<b>開設科目名</b>	中国語中級会話2 [Intermediate Chinese Conversation 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	張 玲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>前期に引き続き、中国語の理解能力を高める。  中国語で表現する能力を身につける。  日常会話から、様々な文化事象まで教える。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
話す能力と聞く能力を向上させる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 言葉の使い方と慣用句が理解できる。  <b>思考・判断の観点:</b> 中国語と日本語の違いが判断できる。  <b>関心・意欲の観点:</b> 中国文化と生活習慣に関心を寄せる。  <b>態度の観点:</b> 出席を重視し、テストや授業中も練習などに積極的に参加する。  <b>技能・表現の観点:</b> 発音、アクセントと表現方法を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験及び小テスト、受講態度により総合評価					
<b>教科書</b>					
新版 中国語さらなる一歩 / 尹景春など:白水社,2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習復習が必要です。単語と文型を覚え、そして繰り返し練習する。					
<b>連絡先</b>					
zhangling414@ybb.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1002232801
<b>開設科目名</b>	ハングル入門2 [Elementary Korean 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	和田 学			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に学習した内容を元に、更に多くのことを学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
学習した内容を確実に理解するだけでなく、使えるようになることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 様々な表現を覚えます。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 使えるように練習します。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テストで評価します。宿題は欠格条件です。					
<b>教科書</b>					
プレリユード韓国語/コン・秀一、コン・龍澤:白帝社,2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp, 083-933-5272					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日午前					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002232802
<b>開設科目名</b>	ハングル入門2 [Elementary Korean 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(総文(国際除く))・理・医・工・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	桂 文姫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に学習した内容を元に、更に多くのことを学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
学習した内容を確実に理解するだけでなく、使えるようになることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 様々な表現を覚えます。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 使えるように練習します。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テストで評価します。宿題は欠格条件です。					
<b>教科書</b>					
プレリユード韓国語/コン・秀一、コン・龍澤:白帝社,2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002234401
<b>開設科目名</b>	ハンゲル初級2A [Basic Korean 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山田 寛人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期で習った内容を元に更に高度な構文を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
前期より複雑な内容が使いこなせるようになる					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 前期より高度な内容が話せるようになる。語彙を増やす。					
<b>態度の観点:</b> 欠席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、小テストの合計。欠席、宿題の不提出は欠格事項					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002234402
<b>開設科目名</b>	ハンゲル初級2A [Basic Korean 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山田 寛人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期で習った内容を元に更に高度な構文を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
前期より複雑な内容が使いこなせるようになる					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 前期より高度な内容が話せるようになる。語彙を増やす。					
<b>態度の観点:</b> 欠席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、小テストの合計。欠席、宿題の不提出は欠格事項					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002234403
<b>開設科目名</b>	ハングル初級2A [Basic Korean 2A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	桂 文姫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期で習った内容を元に更に高度な構文を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
前期より複雑な内容が使いこなせるようになる					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 前期より高度な内容が話せるようになる。語彙を増やす。					
<b>態度の観点:</b> 欠席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、小テストの合計。欠席、宿題の不提出は欠格事項					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1002234801
<b>開設科目名</b>	ハンゲル初級2B [Basic Korean 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	山田 寛人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期で習った内容を元に更に高度な構文を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
前期より複雑な内容が使いこなせるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 前期より高度な内容が話せるようになる。語彙を増やす。					
<b>態度の観点:</b> 欠席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、小テストの合計。欠席、宿題の不提出は欠格事項					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002234802
<b>開設科目名</b>	ハンゲル初級2B [Basic Korean 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山田 寛人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期で習った内容を元に更に高度な構文を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
前期より複雑な内容が使いこなせるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 前期より高度な内容が話せるようになる。語彙を増やす。					
<b>態度の観点:</b> 欠席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、小テストの合計。欠席、宿題の不提出は欠格事項					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002234803
<b>開設科目名</b>	ハンゲル初級2B [Basic Korean 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	桂 文姫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期で習った内容を元に更に高度な構文を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
前期より複雑な内容が使いこなせるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 前期より高度な内容が話せるようになる。語彙を増やす。					
<b>態度の観点:</b> 欠席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、小テストの合計。欠席、宿題の不提出は欠格事項					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002235801
<b>開設科目名</b>	ハンゲル会話2 [Korean Conversation 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	和田 学			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
文法の説明などは最小限とし、ひたすら反復練習をします。また、会話のためには語彙力が必要です。半期で数百の語彙を覚えてもらいます。					
<b>授業の一般目標</b>					
簡単な会話ができるようになることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 簡単な会話のパターンを暗記してもらいます。					
<b>態度の観点:</b> 出席、宿題の不提出は欠格事項です。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験で評価します。出席、宿題は欠格事項です。					
<b>教科書</b>					
プレリユード韓国語/コン・秀一、コン・龍澤:白帝社, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp, 083-933-5272					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日午前					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002239801
<b>開設科目名</b>	ハンゲル中級2 [Intermediate Korean 2]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	和田 学			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の内容を基に、多様な構文を習得し、語彙を身に付ける。毎回、授業の内外で課題を課します。					
<b>授業の一般目標</b>					
更に多様な構文、語彙を習得し、辞書なしで、多様な文章の読解、作文ができることを目指すと共に、様々な状況で会話ができるようになります。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 構文の理解 2. 語彙の習得					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. この言語を使う文化に関心を持ちます。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 多様な文の読解、作文、会話の能力を養います。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト。欠席、宿題の不提出は欠格条件。					
<b>教科書</b>					
基礎から学ぶ韓国語講座中級 / 木内明:国書刊行会, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp, 083-933-5272					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日午前					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1002236401
<b>開設科目名</b>	海外ハングル研修 [Korean Study Abroad]			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>	人・教・経・理(数理)・医(看護・検査)・工・農(生機)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	和田 学			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は、春休み(3月始めごろ)から韓国外国語大学で開かれる韓国語研修と、それに先立つ事前研修とで構成されています。単位を取得しようとする人は、事前研修(後期の第二セメスターに7回開講されます)を受講しなければなりません。					
<b>授業の一般目標</b>					
事前研修では、韓国に関する基礎的な知識、最低限知っておかなければならない韓国語を学びます。 現地研修では、レベルに合わせた授業で、韓国語を集中的に学ぶとともに、見学、文化体験、生活などを通じ、韓国を実体験します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 語学研修の最後に行われる試験で韓国語の能力を図ります。各科目で平均70点以上が必要です。(60点を下回る科目があると単位は認められません)					
<b>態度の観点:</b> 事前研修: 単位が必要な人は出席が必要です。 現地研修: 5分の1以上欠席すると単位は認められません。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
事前研修の出席と、韓国外国語大学語学研修院での授業の成績で評価されます。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
事前研修に関しては、受講者が出席できる時間帯に変更が可能です。早めに相談してください。					
<b>連絡先</b>					
wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp, 083-933-5272					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日午前					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月1~2	<b>時間割コード</b>	1002241002
<b>開設科目名</b>	日本語1B [Japanese 1B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	今井 新悟			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Basic Japanese 日本語初級					
<b>授業の一般目標</b>					
Learn basic grammar and vocabulary, and communication strategy. 日本語の基礎的な文法、語彙、コミュニケーション方法について学習します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students are expected to master basic structures of Japanese and learn 300 basic words and the basic writing system, Hiragana and Katakana. 日本語の基本的な構造、約300の語彙、ひらがな、カタカナをマスターします。					
<b>技能・表現の観点:</b> Students can carry out simple conversations in Japanese. 簡単な日本語の会話ができるようになります。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Evaluation is based on participation, quizzes, homework, and tests 出席、クイズ、宿題と試験によって評価します。					
<b>教科書</b>					
みんなのにほんご Minna no Nihongo / スリーエー:スリーエー					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
083-933-5088					
<b>オフィスアワー</b>					
Office hour: Monday 13:00-15:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1002241004
<b>開設科目名</b>	日本語2B [Japanese 2B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	今井 新悟			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Basic Japanese 日本語初級					
<b>授業の一般目標</b>					
Learn basic grammar and vocabulary, and communication strategy. 日本語の基礎的な文法、語彙、コミュニケーション方法について学習します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students are expected to master basic structures of Japanese and learn 300 basic words and the basic writing system, Hiragana and Katakana. 日本語の基本的な構造、約300の語彙、ひらがな、カタカナをマスターします。					
<b>技能・表現の観点:</b> Students can carry out simple conversations in Japanese. 簡単な日本語の会話ができるようになります。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Evaluation is based on participation, quizzes, homework, and tests 出席、クイズ、宿題と試験によって評価します。					
<b>教科書</b>					
みんなのにほんご Minna no Nihongo / スリーエー:スリーエー					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
083-933-5088					
<b>オフィスアワー</b>					
Office hour: Monday 13:00-15:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002241006
<b>開設科目名</b>	日本語3B [Japanese 3B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	今井 新悟			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Basic Japanese 日本語初級					
<b>授業の一般目標</b>					
Learn basic grammar and vocabulary, and communication strategy. 日本語の基礎的な文法、語彙、コミュニケーション方法について学習します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students are expected to master basic structures of Japanese and learn 300 basic words and the basic writing system, Hiragana and Katakana. 日本語の基本的な構造、約300の語彙、ひらがな、カタカナをマスターします。					
<b>技能・表現の観点:</b> Students can carry out simple conversations in Japanese. 簡単な日本語の会話ができるようになります。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Evaluation is based on participation, quizzes, homework, and tests 出席、クイズ、宿題と試験によって評価します。					
<b>教科書</b>					
みんなのにほんご Minna no Nihongo / スリーエー:スリーエー					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
083-933-5088					
<b>オフィスアワー</b>					
Office hour: Monday 13:00-15:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1002241009
<b>開設科目名</b>	日本語4B [Japanese 4B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	中溝 朋子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
初級後半レベルの文型・語彙を用いて、日常のコミュニケーションを身につけるよう、口頭練習を中心とした活動を行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
新出語彙や文型を理解し、日常生活の場面で必要なコミュニケーション能力を身につけます。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 新出文型・語彙を理解し、会話の中で使用できるようにする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 日常生活の中で、必要な情報を得て、自分の意志を伝えられるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席および授業参加度(10%)、宿題(10%)、中間試験(40%)、期末試験(40%)を合計して評価を出します。					
<b>教科書</b>					
初級日本語「げんき」 / 坂野永理 他: The Japan Times, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tomokon@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
火 10:30 - 13:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002241010
<b>開設科目名</b>	日本語4B [Japanese 4B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	赤木 彌生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
会話文を通して初級レベルの文型、単語を学び、基礎的な読む・書く・聞く・話す能力を伸ばします。特に、ビデオ・CD・絵カードなどの教材を使い、オーラル・スキル(聞く・話す)を培います。毎回、ペアワークやグループワークでの授業活動を行い、オーラル練習をします。					
<b>授業の一般目標</b>					
初級レベルの四技能(読む・書く・聞く・話す)を伸ばします。言語運用能力を培い、コミュニケーション能力を伸ばします。また、日本文化について学び、山口およびキャンパスでの生活や日本人とのコミュニケーションをはかることができ、日本社会にスムーズに適應できるようになることを目指します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎的な日本語文法、語彙、文字についての理解と知識を得、理解を深めます					
<b>思考・判断の観点:</b> 初級レベルでの日本文化、社会についての理解を深めます。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に日本語および日本文化についての知識を増やし、理解を深めます。					
<b>態度の観点:</b> 他の学習者と積極的にペアやグループで練習を行い、協働作業を通して、お互いの日本語能力を高めます。					
<b>技能・表現の観点:</b> 初級レベルの文型、語彙、表現、文字を使って、日本語でコミュニケーションできる能力を培います。					
<b>その他の観点:</b> 基礎的な四技能(読む・書く・聞く・話す)、そして、コミュニケーションできる表現力を培い、大学生活が支障なく送ることができるようにします。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業参加、小テスト、期末試験、発表、スピーキングチェックで評価する。					
<b>教科書</b>					
みんなの日本語 / 田中よね他:スリーエーネット, 2002					
みんなの日本語 文法解説 / 田中よね他:スリーエーネット, 2005					
みんなの日本語 標準問題集 / 大越泰子:スリーエーネット, 2005					
Basic Kanji 1 / 加納千恵子:凡人社, 2001					
<b>参考書</b>					
みんなの日本語聴解タスク25 / 牧野昭子他:スリーエーネットワーク, 2005					
<b>メッセージ</b>					
宿題、課題がたくさんありますが、がんばりましょう。					
<b>連絡先</b>					
赤木研究室					
メールアドレス:yayoi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
赤木研究室 火曜日午後2時~3時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002241012
<b>開設科目名</b>	日本語5B [Japanese 5B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	赤木 彌生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>会話文を通して初級レベルの文型、単語を学び、基礎的な読む・書く・聞く・話す能力を伸ばします。特に、ビデオ・CD・絵カードなどの教材を使い、オーラル・スキル(聞く・話す)を培います。毎回、ペアワークやグループワークでの授業活動を行い、オーラル練習をします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>初級レベルの四技能(読む・書く・聞く・話す)を伸ばします。言語運用能力を培い、コミュニケーション能力を伸ばします。また、日本文化について学び、山口およびキャンパスでの生活や日本人とのコミュニケーションをはかることができ、日本社会にスムーズに適応できるようになることを目指します。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>基礎的な日本語文法、語彙、文字についての理解と知識を得、理解を深めます。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>初級レベルでの日本文化、社会についての理解を深めます。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>積極的に日本語および日本文化についての知識を増やし、理解を深めます。</p> <p><b>態度の観点:</b>他の学習者と積極的にペアやグループで練習を行い、協働作業を通して、お互いの日本語能力を高めます。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>初級レベルの文型、語彙、表現、文字を使って、日本語でコミュニケーションできる能力を培います。</p> <p><b>その他の観点:</b>基礎的な四技能(読む・書く・聞く・話す)、そして、コミュニケーションできる表現力を培い、大学生活が支障なく送ることができるようにします。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>「みんなの日本語 &amp; 」を使って、文型、文法、会話を練習します。毎回、会話のビデオを視聴し、日本の社会や生活習慣について学びます。毎回、CDで聞き取り練習を行い、ヒアリング能力を伸ばします。ペアやグループで、会話練習を行い、スピーキング能力、コミュニケーション能力を高めます。6課ごと小テストがあります。10課以降からは、漢字練習も行います</p>					
<b>教科書</b>					
<p>みんなの日本語 / 田中よね他:スリーエーネットワーク, 2002</p> <p>みんなの日本語標準問題集 / 田中よね他:スリーエーネットワーク, 2005</p> <p>Basic Kanji1 / 加納千恵子他:凡人社, 2001</p>					
<b>参考書</b>					
<p>みんなの日本語聴解タスク25 / 牧野和子他:スリーエーネットワーク, 2005</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>宿題、課題とたくさんありますが、がんばりましょう。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>赤木研究室 内線:5986</p> <p>メールアドレス:yayoia@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>火曜日午後2時~3時</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002241014
<b>開設科目名</b>	日本語6B [Japanese 6B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉原 道子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本語初級後半の学習者と対象にし、文法や語彙をさらに拡充し、漢字に親しみ、長文に慣れさせる。中級の学習に無理なく移行できるように、文の構造と意味・機能の総合的な理解力を養成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
新出語彙や文法を正しく理解する。 コミュニケーション能力を高める。 文章読解力をつける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初級後半の文法を理解し、漢字が読めるようになる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語を通して日本社会への理解を深める。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 宿題を毎回提出し、予習・復習をする。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 身の回りのことや気持ちを表現するための文章が作れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末テスト・宿題・小テストを総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
日本語中級読解 / 富岡純子・島恭子:アルク, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業を休まないようにしてください。毎日音読してください。					
<b>連絡先</b>					
e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp TEL: 083-933-5985					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日15:00~					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1002241017
<b>開設科目名</b>	日本語7B [Japanese 7B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉原 道子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本語を300時間ぐらい勉強し、すでに初級の学習が終わった留学生のためのクラスです。文法、語彙、漢字について説明します。日本文化や時事問題にも触れ、それらについてクラス討論をします。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本語中級レベルの文法、語彙、漢字を学習し、レポートが書けるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 課題文の漢字や表現文型が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 場に即した表現形式が選択できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> テーマに関心を持ち、情報収集した内容について発表できる。					
<b>態度の観点:</b> クラス活動に積極的に参加できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> テーマに関するレポートを作成し、発表できる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験・レポート・宿題を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
中級日本語 / 東京外国語大学 留学生日本語教育センター: 凡人社, 1994					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
日本語を短時間でマスターするための学習方法を説明します。					
<b>連絡先</b>					
メールアドレス: michikos@yamaguchi-u.ac.jp					
電話番号: 083 - 933 - 5985					
<b>オフィスアワー</b>					
オフィスアワー: 水曜日 15:00 ~					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1002241018
<b>開設科目名</b>	日本語7B [Japanese 7B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	赤木 彌生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
初級前半レベルで学んだ文法、単語、表現を使って日本語運用能力をさらに伸ばし、さまざまな状況や場面に対応できる総合的な日本語能力を培います。					
<b>授業の一般目標</b>					
毎回ビデオを見、日常生活で必要とする基礎的な四技能「聞く・話す・読む・書く」をさまざまな状況や場面に对应できるように総合的に日本語運用能力を培います。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 初級後半の基礎的な日本語文法、語彙、文字についての理解と知識を得、理解を深めます					
<b>思考・判断の観点:</b> 初級後半レベルでの日本文化、社会についての理解を深めます。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に日本語および日本文化についての知識を増やし、理解を深めます。					
<b>態度の観点:</b> 他の学習者と積極的にペアやグループで練習を行い、協働作業を通して、お互いの日本語能力を高めます。					
<b>技能・表現の観点:</b> 初級後半レベルの文型、語彙、表現、文字を使って、日本語でコミュニケーションできる能力を培います。					
<b>その他の観点:</b> 初級で培った基礎的な四技能(読む・書く・聞く・話す)、そして、コミュニケーションできる表現力をさらに伸ばし、大学や地域社会での生活を支障なく送ることができるようにします。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業参加、宿題、課題、小テスト、試験で総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
みんなの日本語 / 田中よね他:スリーネットワーク, 2005					
みんなの日本語標準問題集 / 大越泰子:スリーネットワーク, 2005					
Basic Kanji 2 / 加納千恵子:凡人社, 2001					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
宿題がたくさんありますが、がんばりましょう。					
<b>連絡先</b>					
赤木研究室					
電話: 9038					
メールアドレス: yayoia@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日午後2時～3時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1002241020
<b>開設科目名</b>	日本語8B [Japanese 8B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉原 道子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代日本社会の問題について、教科書、新聞、テレビの報道番組などを教材に分析する。学習者間で意見交換を行い、各国と比較しながら、日本社会への理解を深めるのみならず、異文化理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 新聞記事を読むことができ、要旨をまとめ、各自の意見が述べられる。 2. 各テーマについてディスカッションやディベートができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 新聞記事が読める。ニュース番組が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本の社会問題についての的確な指摘が行え、自国との相違点が理解できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日本社会への理解を深めることができる					
<b>態度の観点:</b> 他の学習者の意見に耳を傾けることができ、自分の意見が述べられる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 新聞記事が読める。ニュース番組が理解できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験・レポート・プレゼンテーションを総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
日本への招待 / 近藤安月子 丸山千歌: 東京大学出版会, 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
日本社会への理解を深める良い機会となります					
<b>連絡先</b>					
メールアドレス:michikos@yamaguchi-u.ac.jp 電話番号:933-5985					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日15:00~					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002241022
<b>開設科目名</b>	日本語9B [Japanese 9B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉原 道子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本語中級前半の学習者を対象に「読む」「書く」を柱に、「話す」能力の向上を目指す。論理的な文章作成能力、また、相手に正確に伝えられるように論理的「話す」能力を課題を通して育成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中級後半の文法項目や語彙が理解できる。</li> <li>・各課の「書いてみよう」という課題を通して、論理的な文章が書ける。</li> <li>・各課の「話してみよう」という課題を通して、相手に正確に伝えられるように論理的に話せる。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中級の文法項目を正確に理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 場に即した表現形式を選ぶことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題について積極的に取り組む。					
一日20分以上音読する。					
<b>態度の観点:</b> ディスカッションに積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 与えられた課題に関して発表する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間テスト、期末テスト、漢字テスト、スピーチ、宿題の提出回数、出席状況を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
日本語中級 J5 0 1 / 土岐哲, ; スリーエーネットワーク, 1999 年, 199					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp					
TEL:083-933-5985					
<b>オフィスアワー</b>					
オフィスアワー:水日午後					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7~8	<b>時間割コード</b>	1002241026
<b>開設科目名</b>	日本語10B [Japanese 10B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	中溝 朋子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中級者を対象とした授業で、書き言葉で書かれた日本の社会や考え方についての文章を精読し、その中から文法、語彙、書き言葉について学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
中級レベルの漢字の読み方、語彙、文法を学び、書き言葉で書かれた文に慣れ、主に読解力を高めることを目的としています。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 書き言葉と話し言葉の特徴の違いについて理解する。					
授業で学習した中級レベルの文型、語彙を理解する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 授業で学習した中級レベルの文型、語彙を理解し、適切に使用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席・授業参加度(10%)、小テスト(10%)、宿題(10%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)の合計で評価を出します。					
<b>教科書</b>					
中級から学ぶ日本語 / 荒井礼子: 研究社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tomokon@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水 10:30 - 13:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月9～10	<b>時間割コード</b>	1002241025
<b>開設科目名</b>	日本語10B [Japanese 10B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	今井 新悟			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本語中級後半レベルの学生を対象に書かれた日本の社会や日本人の考え方に関する文章を読んで理解を深め、そこで使用される語彙・表現・漢字などの運用力を高める。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本語中級後半レベルの学生を対象に書かれた文章を理解できる。 文章に出てきた語彙・表現・漢字を習得し、運用できる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 平易な書き言葉で書かれた文章を理解できる。 中級後半レベルの語彙・文型について知識を増やす。					
<b>思考・判断の観点:</b> 授業で扱うトピックについて、その背景や問題点について考え、自国との異同について客観的に考えることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 扱っているトピックに関心を持ち、社会への関心やそれを理解し、表現する手段としての日本語の学習への意欲を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 授業で扱った中級後半レベルの語彙・文型を運用することができる。 平易な書き言葉で書かれた文章を理解でき、扱ったトピックについて自分なりの意見を表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席および授業参加度、小テスト、宿題、中間試験、期末試験の結果を総合して評価する。					
<b>教科書</b>					
中級から上級への日本語 / 鎌田修: The Japan Times					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
083-933-5088					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 13:00-15:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002241028
<b>開設科目名</b>	日本語11B [Japanese 11B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	赤木 彌生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
幅広いテーマに関する語彙表現、文法を学び、さまざまな状況や場面に対応できる総合的な日本語能力を培います。					
<b>授業の一般目標</b>					
日常生活に必要な基礎的な四技能「聞く・話す・読む・書く」をさらに、さまざまな状況に対応できるように総合的に伸ばします。日本語による講義、試験、レポートなどをこなすことができる文法、語彙表現を学び、聴解、口頭表現能力、読解力、作文力を伸ばします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 環境、文化などのテーマごとの語彙表現、文法の知識を増やし、日本語への理解を深めます。					
<b>思考・判断の観点:</b> テーマについての内容を理解し、問題意識を持ち、意見を述べます。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 多様なテーマに関心を持ち、意欲的に意見を述べます。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加します。					
<b>技能・表現の観点:</b> 多様な場面に対応できる表現力、技能を伸ばします。					
<b>その他の観点:</b> 中級レベルの漢字を練習し、語彙力を伸ばします。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業参加、宿題、試験などで総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
新日本語の中級/AOTS:スリーネットワーク, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎日、漢字を練習しましょう。					
<b>連絡先</b>					
赤木研究室 メールアドレス:yayoi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日14:00~15:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1002241030
<b>開設科目名</b>	日本語12B [Japanese 12B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	今井 新悟			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
表現(作文、プレゼンテーション)について学び、練習します。					
<b>授業の一般目標</b>					
論理的な文章の書き方の基本的なルールを学び、課題作文を通して、論理的な文章の書き方を身に着けます。					
論理的なプレゼンテーションについてのノウハウを学び、マイクロプレゼンテーションで練習します。段落や論理性などの文章作成のルールについて学びます。					
文章を読み・話し、論理性を検証します。					
自分でたくさんの文章を書き、話します。					
他の人の文章、話を批判的に検証します。					
文章、プレゼンの改善を図ります。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文章作成・プレゼンテーションの基本的なルールを理解しているか。					
<b>思考・判断の観点:</b> 内容と論理性について適格に判断できるか。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 読み手・聞き手を意識した書き方・話し方に関心を持ち、読み手・聞き手に分からせるように書く・話す意欲があるか。					
<b>態度の観点:</b> 活動に積極的に参加しているか。					
出席はきちんとしているか。					
<b>技能・表現の観点:</b> 授業で学んだ知識を使って論理的な文章が書けるか・話せるか。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
課題提出、授業への意欲・貢献度を総合的に判断します。欠席は4回以上で欠格条件となります。遅刻は3回で欠席1回とみなします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
083-933-5088					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 13:00-15:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002241033
<b>開設科目名</b>	日本語13B [Japanese 13B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	河野 笙子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
上級レベルの学習者を対象に、現代日本社会の諸相に関する文章の読解や学習者が特に関心のあるテーマについてのアンケート調査活動などを通して、日本語の総合的運用力を高める。					
<b>授業の一般目標</b>					
上級レベルの日本語の読解、運用、表現ができる。 論理的な発表やレポート作成ができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現代社会の諸相に関する文章の読解ができる。 取り上げられた問題について説明ができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 授業で扱う文章やテーマの背景・問題点などについて分析ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 文章の内容や扱われているテーマに積極的に関心を抱き、自分なりの意見を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 授業に主体的に参加し、質問や発言などを活発に行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 多様な日本語が理解でき、論理的な表現が日本語でできる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業への参加度、授業内・外のレポートや課題、期末試験などで総合的に行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
大学で学ぶために必要な日本語の訓練を楽しみながらやりましょう。					
<b>連絡先</b>					
k-shoko@yamaguchi-u.ac.jp 電話(933)5562 研究室:経済学部C103室					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日14時30分～16時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002241034
<b>開設科目名</b>	日本語13B [Japanese 13B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	赤木 彌生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
毎回多様なテーマについて話し合い、練習問題を通して、文法、語彙表現について学びます。テーマに関して問題意識を持ち、自分の意見を述べる練習をします。課題の作文を通して、学んだ文法、語彙表現、漢字を応用し、ライティングを練習します。					
<b>授業の一般目標</b>					
日常生活に必要な基礎的な四技能「聞く・話す・読む・書く」をさらに、さまざまな状況に対応できるように総合的に伸ばします。日本語による講義、試験、レポートなどをこなすことができる文法、語彙表現を学び、聴解、口頭表現能力、読解力、作文力を伸ばします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 環境、文化などのテーマごとの語彙表現、文法の知識を増やし、日本語への理解を深めます。					
<b>思考・判断の観点:</b> テーマについての内容を理解し、問題意識を持ち、意見を述べます。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 各テーマに関心を持ち、積極的にテーマについて考えます。					
<b>態度の観点:</b> ペア、グループワークに積極的に参加し、ピアラーニングを通して、学習を拡大していきます。					
<b>技能・表現の観点:</b> 日本語による講義を理解し、答案、レポート作成ができる技能、表現力を伸ばします。					
<b>その他の観点:</b> 中級レベルの漢字を練習し、語彙力を伸ばします。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業参加、小テスト、試験などで総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
ニューアプローチ中上級日本語 / 小柳昇: 日本語研究者教材開発, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
練習問題、作文練習など日々の積み重ねが大切です。がんばりましょう。					
<b>連絡先</b>					
赤木研究室 E-mail: yayoia@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日14:00~15:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002241036
<b>開設科目名</b>	日本語14B [Japanese 14B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	林 伸一			<b>区分</b>	

### 授業の概要

部あるいは大学院の授業で必要とされる日本語を学ぶ、学部・大学院への橋渡しとなるような知識・技能を身につける。

#### 授業の一般目標

日本語の知識・運用能力だけでなく、日本事情の要素も学ぶ。

#### 授業の到達目標

- 知識・理解の観点: 読む・書く・話す・聞く4技能の知識・理解を深める。引用の仕方を学ぶ。
- 思考・判断の観点: 日本語の誤用に関して自己訂正できる思考力・判断力・説得力を育てる。
- 関心・意欲の観点: 日本語・日本事情に関する興味・関心・意欲を育てる。
- 態度の観点: 積極的に日本人との人間関係をつくり、日本社会に適応できるようにする。
- 技能・表現の観点: 4技能をバランスよく育て、適切な自己表現力を発揮できるようにする。
- その他の観点: 構成的グループ・エンカウンターを用いて、学習仲間をつくる。

#### 授業計画(概要・授業の目標予定)

構成的グループ・エンカウンターのエクササイズを用いて、日本語学習をすすめる。二人組・三人組・四人組などの小集団活動を通して、学習仲間をつくる。参加体験型の授業を実施する。日本語・日本事情だけでなく人間関係づくりについても学ぶ。

#### 成績評価方法(総合)

出席を重視し、授業内レポート、授業外レポートなどの課題で成績を評価する。

#### 成績評価方法(観点別)

知識・理解 思考・判断 関心・意欲 態度 技能・表現 その他 評価割合(%) JABEE 収集資料

定期試験(中間・期末試験)	評価に加えず
小テスト・授業内レポート	30%
宿題・授業外レポート	20%
授業態度・授業への参加度	評価に加えず
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品	評価に加えず
演習	評価に加えず
出席	50%
その他	評価に加えず
合計	100% 0%

関連科目 日本語14A

### 授業の一般目標

### 授業の到達目標

### 成績評価方法(総合)

### 教科書

### 参考書

### メッセージ

### 連絡先

### オフィスアワー

参考書 参考書備考:「日本語表現法」翰林書房

メッセージ 楽しく、役に立つ日本語を勉強しよう!

連絡先・オフィスアワー 木曜 10:30 - 12:00 hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

キーワード 日本語表現力、質問力、会話力

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002241038
<b>開設科目名</b>	日本語15B [Japanese 15B]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	外国人留学生			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉原 道子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>大学での講義を聞き、勉学や研究を行うための言語活動に必要な日本語能力を養う。講義を聞く、資料を読むなどの「受信型スキル」を伸ばすだけでなく、発表やディスカッションを通して「発信型スキル」を獲得する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1. 課題文や語彙の表現を理解する。  2. テーマに関する資料を収集し、問題点を指摘できる。  3. 自ら選択したテーマに関してプレゼンテーションができる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 新聞資料が読める。ニュース番組が理解できる。  <b>思考・判断の観点:</b> 必要な資料を収集し、それに基づいて論理的に自分の意見をまとめる力を養う。  <b>関心・意欲の観点:</b> 各テーマに関しての問題意識を高める。  <b>態度の観点:</b> 積極的に討論に参加する。  <b>技能・表現の観点:</b> 与えられた課題に対して効果的なプレゼンテーションができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験、レポート、プレゼンテーションを総合評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>上級日本語教科書 文化へのまなざし / 近藤安月子・丸山千秋: 東京大学, 2005</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>TEL: 933 - 5985</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>水曜日15:00 ~</p>					

開設期	後期	曜日時限	月3~4	時間割コード	1002411101
開設科目名	数学 [Mathematics II]			単位	2単位
対象学生	数理・物情			学年	1~
担当教員	大城 紀代市			区分	
<b>授業の概要</b>					
理工系学問の基礎である微分積分学,特に二変数と三変数関数の微分法と積分法を中心に講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
理工系学問の基礎である微分積分学,特に二変数,三変数関数の微分法と積分法を中心に講義する。					
授業の一般目標					
二,三変数微分積分学の基本的概念を理解し,その計算法を習得する。偏微分法・重積分法,合成関数の微分公式,累次積分の公式など,多変数微分積分学における様々な概念や手法を理解し,習熟する。さらに,それらの理解と習熟のもとに,理系分野における様々な問題への数学的解決能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:					
1. 二変数,三変数など多変数関数の意味が正確に理解できる。					
2. 合成関数の偏微分公式等の基本的微分公式を用いて,初等的な関数の偏微分計算が正しく行える。					
3. 変数変換の公式等を用いて,初等的な関数の二重積分,三重積分の計算が正しく行える。					
思考・判断の観点:					
1. 偏微分法,重積分法における極限の意味について正しく認識できる。					
2. 二変数関数のテーラー展開,極値問題,グリーンの公式等,微分積分学における重要事項について,論理的思考および判断ができる。					
関心・意欲の観点:					
1. 偏微分法を,様々な関数の最大・最小問題に応用できる。					
2. 関数のテーラー展開を数値計算に応用できる。					
3. 重積分法を,図形の面積・体積計算に応用できる。					
態度の観点:					
授業に出席し,宿題等提出物を期限内に提出できる。					
技能・表現の観点:					
レポート,答案等を,丁寧かつ整理された表現で作成できる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
微分積分学概要 / 岩谷輝生・田中正紀:学術図書出版,1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	月3~4	時間割コード	1002411103
開設科目名	数学 [Mathematics II]			単位	2単位
対象学生	医学(44-)			学年	1~
担当教員	柏木 孝夫			区分	
<b>授業の概要</b>					
理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数・二変数関数の積分法を理解させ、計算方法を習得させる。					
<b>授業の一般目標</b>					
一変数関数、二変数関数の積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。 二重積分法、変数変換による二重積分法など、微分積分学における 様々な概念や、手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解のもとに、理系 分野における様々な分野の分野の問題を解決できるような応用力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 定積分の定義を理解し、不定積分との関係を明確にする。 2. 広義積分の扱いが出来る。 3. 2重積分の考え方を理解し、正確に扱えること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 論理的な思考過程を通して、問題に取り組むことができる。 2. 理解できた部分と理解できない部分が明確に識別できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 何事にも興味を持ち、自ら進んで新しい概念に取り組むことができる。 2. 理解できない部分を理解できるまで考え抜く集中力と忍耐力をつける。 3. 数学のさらなる勉強意欲をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 1. 新しい概念を知り、驚き・喜びを感じ、感動を覚えることができる。 2. 数学の必要性を再認識し、より高度な数学に興味をもつことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の思考過程を正確に人に伝えることができる。					
<b>その他の観点:</b> 数学の学問体系に興味を持つ					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験と講義中に適宜行う問題演習の取り組み状況により、以下の割合で総合的に判定する。					
<b>教科書</b>					
工学・理学を学ぶための微分積分学 / 三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲: 共立出版, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
わからないことは遠慮なく質問すること					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002411102
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医学(1-43)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	志摩 裕彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
微分積分は理工学系学問の基礎であり、その知識なくしては現代の自然科学はあり得ません。この数学 では、多変数(主として2変数)の微分積分の基礎概念を講義し、その理解のために具体的な演習問題を解いてもらいます。					
<b>授業の一般目標</b>					
多変数関数の微分積分の考え方を理解し、具体的な計算方法を習得することを目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 多変数関数の基本的な概念を理解した上で、その偏微分、重積分の方法を学び、それを正確に使用することが出来る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 問題を解くために、どのような数学的手段を利用するか、またどのようなプロセスで解決に至るか、その試行錯誤を大切にしたい。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 新しい概念を理解し、それをを用いて積極的に問題に取り組む。					
<b>態度の観点:</b> 忍耐と努力の跡が認められること					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
主として中間試験と期末試験で評価し、演習・レポート等も加味する。出席については欠格条件とする。再試験は行わない。					
<b>教科書</b>					
入門微分積分 / 三宅敏恒:培風館, 2008					
<b>参考書</b>					
微分積分読本 - 多変数 - / 小林昭七:裳華房, 2007					
<b>メッセージ</b>					
数学は講義を聴いただけですぐに理解出来るようなインスタントな学問ではありません。「数学に王道なし」「読書百遍意自ずから通ず」等の諺にあるように、学問のなかでも数学は地道な忍耐と努力があってはじめてその魅力が味わえるものです。まず「紙と鉛筆」を用意して講義の復習(できれば予習も)と演習問題に取り組みましょう。					
<b>連絡先</b>					
E-mail : shima@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月11～12	<b>時間割コード</b>	1002411105
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	再履修クラス			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	西山 高弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
数学Iで学んだ1変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に2変数関数の微分(偏微分)と積分(重積分)について考える。練習問題をなるべく多く解き、理解を深めるとともに応用力を養う。					
<b>授業の一般目標</b>					
偏微分や重積分の意味を理解し、実際に自分で計算できるようになること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 偏微分や重積分の意味を理解し、実際に自分で計算できるようになること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間テスト30%、期末テスト70%の割合で評価する。 欠席が多い場合は「不可」となる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業中の演習では、問題を自ら考えて解き、できなかった箇所は後日に再度解いてみるなど、積極的に授業に参加することが望ましい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月11～12	<b>時間割コード</b>	1002411104
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	再履修クラス			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	牧野 哲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この数学Ⅱでは、数学Ⅰに続いて微分積分学の学習をします。微分積分学は理工系学問の基礎であり、内容は多岐にわたりますが、この数学Ⅱの講義では、特に多変数関数の微分=偏微分や積分=重積分などの概念の理解と、様々な計算方法を習得しましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
多変数の微分積分学の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 三角関数、指数関数、対数関数などに関連した多変数関数の偏微分や、グラフの外形などを理解し計算が正確にできる。 2. 重積分を累次積分に直したり、置換積分などの公式を理解し、基本的な計算が行える。					
<b>思考・判断の観点:</b> 例えば問題を解くために、どのような式変形を行えば良いか、自分で判断して計算が行えること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者が多数の場合は中間試験と期末試験で評価するが、レポート等も加味することがある。少数の場合は、毎回の演習への参加度を解いた問題の数を点数化する。出席については欠格条件とする。また再試験も必要ならば行う。					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002411106
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生化・地球・生機 獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	尼野 一夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
理系学生にとって必要不可欠な解析学の初歩である二変数関数の偏微分法、重積分法についてその概念の理解と計算方法を修得させる。					
<b>授業の一般目標</b>					
多変数関数特に二変数関数に関する微分積分学の基本的な概念を理解し、偏微分法、重積分法におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。さらに、これらを用いて、理工系各分野でのさまざまな問題を解決できる応用力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 偏微分法の基本的な概念を理解した上で、関数の偏導関数の計算、関数の変化の様子など、偏微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
2. 重積分の基本的な概念を理解した上で、関数の重積分の計算、体積、曲面積を求めることなど、重積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 論理的な思考過程を通して、問題に取り組むことができる。					
2. 理解できた部分と理解できない部分が明確に識別できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 何事にも興味をもち、自ら進んで新しい概念に取り組むことができる。					
2. 理解できない部分を理解できるまで考え抜く集中力と忍耐力をつける。					
3. 数学のさらなる勉学意欲を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 1. 新しい概念を知り、驚き・喜びを感じ、感動を覚えることができる。					
2. 数学の必要性を再認識し、より高度な数学に興味を持つことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の思考過程を正確に表現でき、また正確に人に伝えることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として中間試験と定期試験だけで評価する。					
<b>教科書</b>					
微分積分 / 石原 繁、浅野重初: 裳華房, 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回授業は講義中心であるから毎回予習を行うこと。その日に習った内容はその日のうちに理解するように努力すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002411107
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	教			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	渡邊 正			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
高等学校で学んだ微積分学の内容を確実に理解させる。また、応用する能力を確実に定着させる為に、演習をレポート形式で行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
微積分学の演習が主な内容であり、演習問題が解けるようになるのが目標であるので、レポート問題を毎回出題するので、必ず次週に提出すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 演習問題が解決出来る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 応用問題を解決出来る。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 微積分学に興味を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 授業に積極的に参加出来る。					
<b>技能・表現の観点:</b> レポートを書けるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回のレポートの採点結果とテストの採点結果を加味して、成績評価をする。他人のレポートを丸写ししたものにはペナルティーを課す。					
<b>教科書</b>					
微分と積分 / 岡本和夫:実教出版, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
基礎的な内容であるから、時間をかけて問題を解けば必ず解けるので、あきらめずに挑戦すること					
<b>連絡先</b>					
tadashi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	水5-6	時間割コード	1002411115
開設科目名	数学 [Mathematics II]			単位	2単位
対象学生	Bの4クラス			学年	1~
担当教員	安藤 良文			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>数学Iで学んだ1変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に2変数関数の微分(偏微分)と積分(重積分)について講義する。内容を理解させるとともに、計算方法を習得させる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>偏微分と重積分の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。  確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。  工学基礎分野において、特に数学に関する専門知識、問題解決に  応用できる能力を身につけることを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 偏微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の偏微分など、偏微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。  2. 重積分の基本的な概念を理解した上で、累次積分や積分の変数変換など、重積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 偏微分と重積分の基本概念や計算方法を確実に身につけ、それを与えられた問題に応用できる</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 数学の必要性を再認識し、より高度な数学に興味をもつことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 理解が曖昧であるか理解できない部分を繰り返し考えて理解するに至る意欲をもつこと。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 自分の思考過程を正確に人に伝えることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>中間試験と期末試験だけで評価するが、小テスト等も加味することがある。出席については欠格条件とする。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>微分積分概論 / 高橋・加藤:サイエンス社</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002411109
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Aの2クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	井上 透			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
数学Iで学んだ1変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に2変数関数の微分(偏微分)と積分(重積分)について講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
偏微分と重積分の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。 工学基礎分野において、特に数学に関する専門知識、問題解決に応用できる能力を身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 偏微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の偏微分など、偏微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。 2. 重積分の基本的な概念を理解した上で、累次積分や積分の変数変換など、重積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 偏微分と重積分の基本概念や計算方法を確実に身につけ、それを与えられた問題に応用できる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 数学の必要性を再認識し、より高度な数学に興味をもつことができる。					
<b>態度の観点:</b> 自分の思考過程を正確に人に伝えることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
宿題(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)による評価					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
後期は週1コマのみの授業なので、演習に前期のように時間を取れない。その分を自習、復習で補い、思考力を向上させる必要がある。 分からなくても直ぐ諦めず、時間をかけて考えるトレーニングを続けていると数覚ともいべき感覚が身につき、面白さも分かってくるでしょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002411111
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Aの4クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大城 紀代市			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
理工系学問の基礎である微分積分学,特に二変数と三変数関数の微分法と積分法を中心に講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
理工系学問の基礎である微分積分学,特に二変数,三変数関数の微分法と積分法を中心に講義する。					
授業の一般目標					
二,三変数微分積分学の基本的概念を理解し,その計算法を習得する。偏微分法・重積分法,合成関数の微分公式,累次積分の公式など,多変数微分積分学における様々な概念や手法を理解し,習熟する。さらに,それらの理解と習熟のもとに,理系分野における様々な問題への数学的解決能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:					
1. 二変数,三変数など多変数関数の意味が正確に理解できる。					
2. 合成関数の偏微分公式等の基本的微分公式を用いて,初等的な関数の偏微分計算が正しく行える。					
3. 変数変換の公式等を用いて,初等的な関数の二重積分,三重積分の計算が正しく行える。					
思考・判断の観点:					
1. 偏微分法,重積分法における極限の意味について正しく認識できる。					
2. 二変数関数のテーラー展開,極値問題,グリーンの公式等,微分積分学における重要事項について,論理的思考および判断ができる。					
関心・意欲の観点:					
1. 偏微分法を,様々な関数の最大・最小問題に応用できる。					
2. 関数のテーラー展開を数値計算に応用できる。					
3. 重積分法を,図形の面積・体積計算に応用できる。					
態度の観点:					
授業に出席し,宿題等提出物を期限内に提出できる。					
技能・表現の観点:					
レポート,答案等を,丁寧かつ整理された表現で作成できる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
微分積分概要 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社,1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002411108
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Aの1クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	柏木 孝夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>数学Iで学んだ1変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に2変数関数の微分(偏微分)と積分(重積分)について講義する。内容を理解させるとともに、計算方法を習得させる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>偏微分と重積分の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。  確かな基礎力を有する技術者を目指して数学の基礎力を身につける。  工学基礎分野において、特に数学に関する専門知識、問題解決に応用できる能力を身につけることを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 偏微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の偏微分など、偏微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。  2. 重積分の基本的な概念を理解した上で、累次積分や積分の変数変換など、重積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 偏微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の偏微分など、偏微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。  2. 重積分の基本的な概念を理解した上で、累次積分や積分の変数変換など、重積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 数学の必要性を再認識し、より高度な数学に興味をもつことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自分の思考過程を正確に人に伝えることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>原則として中間試験と期末試験だけで評価するが、レポート等も加味することがある。出席については欠格条件とする。また再試験等を行わない。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社, 2008</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>わからないことは後にまわさないですぐに質問等してください</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	水5-6	時間割コード	1002411112
開設科目名	数学 [Mathematics II]			単位	2単位
対象学生	Bの1クラス			学年	1~
担当教員	加藤 崇雄			区分	
<b>授業の概要</b>					
数学Iで学んだ1変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に2変数関数の微分(偏微分)と積分(重積分)について講義する。内容を理解させるとともに、計算方法を習得させる。					
<b>授業の一般目標</b>					
偏微分と重積分の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。 工学基礎分野において、特に数学に関する専門知識、問題解決に活用できる能力を身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 偏微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の偏微分など、偏微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。 2. 重積分の基本的な概念を理解した上で、累次積分や積分の変数変換など、重積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 偏微分と重積分の基本概念や計算方法を確実に身につけ、それを与えられた問題に活用できる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 数学の必要性を再認識し、より高度な数学に興味をもつことができる。					
<b>態度の観点:</b> 自分の思考過程を正確に人に伝えることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として中間試験と期末試験だけで評価するが、レポート等も加味することがある。出席については欠格条件とする。また再試験も必要ならば行う。					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002411114
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Bの3クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	久田見 守			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>数学Iで学んだ1変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に2変数関数の微分(偏微分)と積分(重積分)について講義する。内容を理解させるとともに、計算方法を習得させる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>偏微分と重積分の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。  確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。  工学基礎分野において、特に数学に関する専門知識、問題解決に応用できる能力を身につけることを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 偏微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の偏微分など、偏微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。  2. 重積分の基本的な概念を理解した上で、累次積分や積分の変数変換など、重積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 偏微分と重積分の基本概念や計算方法を確実に身につけ、それを与えられた問題に応用できる</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 数学の必要性を再認識し、より高度な数学に興味をもつことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自分の思考過程を正確に人に伝えることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>原則として中間試験と期末試験及び演習で評価するが、レポート等も加味することがある。出席については欠格条件とする。また再試験も必要ならば行う。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社, 1998</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>出席は講義受講の最低条件です。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>理学部本館1階129室(研究室)</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>適宜</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002411110
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Aの3クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	笹井 理恵			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>数学 で学んだ1変数関数の微分、積分に関する知識を発展させ、多変数、主に2変数関数の微分(偏微分)と積分(重積分)について講義する。多変数における微分、積分の概念の理解とさまざまな計算方法を習得しましょう。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>偏微分と重積分の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。  確かな基礎力を有する技術者を目指して数学の基礎力を身につける。  工学基礎分野において、特に数学に関する専門知識を身につけ問題解決に応用できる能力を養うことを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 偏微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の偏微分など偏微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。  2. 重積分の基本的な概念を理解した上で、累次積分や積分の変数変換など重積分の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 偏微分と重積分の基本概念や計算方法を確実に身につけ、それらを与えられた問題に応用できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 数学の必要性を再認識し、より高度な数学に興味を持つことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自分の思考過程を性格に人に伝えることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として中間試験と期末試験だけで評価するが、レポート等も加味することもある。出席については欠格条件とする。また、再試験も必要ならば行う。					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣、加藤幹雄:サイエンス社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002411113
<b>開設科目名</b>	数学 [Mathematics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	Bの2クラス			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	重永 和男			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>数学Iで学んだ1変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に2変数関数の微分(偏微分)と積分(重積分)について講義する。内容を理解させるとともに、計算方法を習得させる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>偏微分と重積分の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 この科目は確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学、自然科学、情報処理の基礎力を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 偏微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の偏微分など、偏微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。 2. 重積分の基本的な概念を理解した上で、累次積分や積分の変数変換など、重積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 偏微分と重積分の基本概念や計算方法を確実に身につけ、それを与えられた問題に応用できる</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 数学の必要性を再認識し、より高度な数学に興味をもつことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自分の思考過程を正確に人に伝えることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>原則として中間試験と期末試験だけで評価するが、レポート等も加味することがある。出席については欠格条件とする。また再試験も必要ならば行う。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄:サイエンス社, 1998</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	水5-6	時間割コード	1002411117
開設科目名	数学 [Mathematics II]			単位	2単位
対象学生	Bの6クラス			学年	1~
担当教員	片山 壽男			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>数学 で学んだ一変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に二変数関数の微分(偏微分)と積分(重積分)について講義する。内容を理解させるとともに、計算方法を習得させる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>偏微分と重積分の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。  確かな基礎力を有する技術者を目指して数学の基礎力を身につけること。  工学基礎分野において、特に数学に関する専門知識、問題解決に応用できる能力を身につけることを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 偏微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の偏微分法など、偏微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。  2. 重積分法の基本的な概念を理解した上で、累次積分や重積分の変数変換など、積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 何事にも興味をもち、自ら進んで新しい概念に取り組むことができる。  2. 理解できない部分を理解できるまで考え抜く集中力と忍耐力をつける。  3. 数学のさらなる勉学意欲をもち。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 数学の必要性を再認識し、より高度な数学に興味をもちることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 自分の思考過程を正確に人に伝えることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>主として中間試験と期末試験で評価するが、レポートや演習等も加味する。  出席については欠格条件とする。また再試験も必要ならば行う。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	水5-6	時間割コード	1002411116
開設科目名	数学 [Mathematics II]			単位	2単位
対象学生	Bの5クラス			学年	1~
担当教員	宮澤 康行			区分	
<b>授業の概要</b>					
数学Iで学んだ1変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に2変数関数の微分(偏微分)と積分(重積分)について講義する。内容を理解させるとともに、計算方法を習得させる。					
<b>授業の一般目標</b>					
偏微分と重積分の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。 工学基礎分野において、特に数学に関する専門知識、問題解決に応用できる能力を身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 偏微分法の基本的な概念を理解した上で、合成関数の偏微分など、偏微分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。 2. 重積分の基本的な概念を理解した上で、累次積分や積分の変数変換など、重積分法の基本的な方法に習熟し、正確に使用することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 偏微分と重積分の基本概念や計算方法を確実に身につけ、それを与えられた問題に応用できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の思考過程を正確に人に伝えることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験, レポートで評価する。出席については欠格条件とする。					
<b>教科書</b>					
微分積分概論 / 高橋泰嗣・加藤幹雄: サイエンス社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
理学部 134 号室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002412101
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	社建			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	松野 好雅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
電磁気学の基本法則、及びその応用について学ぶ。講義では各法則を身近な具体例をあげながら説明し、種々の電磁現象に対する理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電気、磁気に関するガウスの法則、並びにその使い方を理解する。</li> <li>2. アンペールの法則、及びその使い方を理解する。</li> <li>3. 電磁誘導を理解する。</li> <li>4. 直流、及び交流回路の基礎を理解する。</li> <li>5. 国際単位系(SI)を理解し、自在に使えるようになる。</li> </ol>					
この科目は以下の社会建設工学科の学習・教育目標に対応します。					
(A)確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身に付ける。					
A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 電磁気学の4つの基本法則を理解し、各法則の間の関連性についても説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論理的な思考能力を身に付けるとともに、物理的な見方・考え方ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活において使う電気器具やOA機器に電磁気学の基本法則が応用されていることに気づく。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間試験、及び期末試験の2回の試験で評価する。配点は各50点とする。					
<b>教科書</b>					
第3版 基礎物理学 / 原 康夫: 学術図書出版, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習、復習をきちんと行うこと。講義ノートを必ずとること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1002412102
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医学・看護 検査			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	白石 清			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物理学の基礎の一つである電磁気学の初歩を講義する。これを理解するために必要な数学知識も適宜講義する。また、できる限り多くの演習もやりたい。					
<b>授業の一般目標</b>					
電磁気学の基礎的な概念(電場、磁場、ポテンシャル)を理解し、さらに専門的な学習につなげる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 電磁気学の法則を用いて基礎的な問題を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 電磁気的現象を物理的に分析し、説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常の電磁気現象に関心を持ち、問題意識を持つ。					
<b>その他の観点:</b> 基本的な電磁気に関連した問題を数式を用いて説明できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験・レポート・小テストなどで総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
絶対わかる電磁気学 / 白石清: 講談社, 2006					
<b>メッセージ</b>					
予習復習をすること。特に、高校で物理を履修しなかったものは、高校の内容について勉強しておくことが望ましい。					
<b>連絡先</b>					
理学部 205 室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>履修期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002412103
<b>履修科目名</b>	物理学 [Physics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	物情			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	原 純一郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
力学、熱力学と並んで古典的な物理学の基礎を形成する電磁気学の講義を行なう。数学的な準備を多少した後、静的な電場の記述から始まり、定常電流、電流と磁場、さらに進んで動的な電磁場について入門的解説をする。電磁気学は目に見えない「場」を扱う学問なので、初めて習う者には取り付きにくい面がある。この講義では、具体的な例題を数多く取り上げ、それを基本法則から理解する過程を丁寧に説明する。					
<b>授業の一般目標</b>					
実験事実に支えられた積分形の電磁気学の法則について学ぶ。簡単な電荷分布が作る電場や電流分布が作る磁場の様子を考察し、様々な電磁現象を基本法則にもとづき解析する力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
宿題・授業外レポートを課す。定期試験を実施する。以上と出席の状況とにより総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
電磁気学では、微分・積分に加え、ベクトル代数やベクトル解析など数学の基礎知識が必要です。数学I、数学IIを履修すると良いでしょう。					
<b>連絡先</b>					
理学部 206 室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002412104
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(数))・情報(表現)・理(物(除去))・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	増山 和子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物理学は自然科学の中でも最も基礎的な学問のひとつであり、将来の専攻分野を学ぶ場合に基礎となる物理学を十分に理解しておくことが必要である。前期に「力学」を履修したことを受け、後期ではもう一つの重要な内容である「電磁気学」について、初等的な事項から出発して具体的な現象と結びつけて説明し、電磁気学の基礎を講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
電磁気学は電気及び磁気に関する物理現象を扱っており、現代社会において、テレビ、コンピュータを初めとする電気・電子技術の基礎となるものである。電場、電流、磁場、電磁誘導などの電磁気学の概念を学び、電磁気現象に対する理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 電磁気学の原理を使って問題を説明できる。					
1)物体の電氣的・磁氣的性質について説明できる。					
2)電荷の間に働く力、電場、電位、キャパシター、電流について理解できる。					
3)電流が作る磁場、磁場から電流に働く力、ローレンツ力、電磁誘導について理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自然現象について物理的見方で分析し、説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 科学を学ぶ上で電磁気学の役割に関心を持ち、問題意識を高めることが出来る。					
<b>態度の観点:</b> 科学技術や社会への電磁気学の役割・影響について主体的に考えることが出来る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験 80%、宿題・授業外レポート 20%として総合評価する。なお、出席が7割に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
第3版 基礎物理学 / 原 康夫: 学術図書出版, 2006					
<b>参考書</b>					
物理の基礎 / 長岡 洋介: 東京教学社, 2000					
<b>メッセージ</b>					
理解を深めるため、各単元で演習問題があるので、授業に出席して例題を解き、それ以外の問題は復習し、レポート課題をきちんと提出すること。演習問題の解答はWEBで公開するので、解答を確認し、理解を深めること。					
<b>連絡先</b>					
E-mail : masiyama@yamaguchi-u.ac.jp					
HP : <a href="http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/masiyama/butsuri/">http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/masiyama/butsuri/</a>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水11～12	<b>時間割コード</b>	1002412105
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	真田 篤志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物理学は現在の物質文明を支える自然科学の基礎となる大変重要な学問である。その中でも「力学」と並び様々な科学技術の基礎となる「電磁気学」について、具体的な現象と結びつけながら基礎知識を修得する。					
<b>授業の一般目標</b>					
1.電磁気学の基本法則(クーロンの法則、ガウスの法則)について説明できる。					
2.コンデンサの原理を理解し、電気容量を求める事が出来る。					
3.電流と磁場の関係を理解し、電流の作る磁場の強さ、および電流が磁場から受ける力の強さを求めることが出来る。					
4.電磁誘導の基本原理解について説明することが出来る。					
5.交流回路における抵抗(インピーダンス)の概念を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席状況、演習および定期試験の結果をもとに、総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
第3版基礎物理学 / 原康夫: 学術図書出版社, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習・復習を十分に行い、講義内容の理解を深めて下さい。					
<b>連絡先</b>					
工学部本館(北)235号室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002412106
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	応化			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田澤 輝武			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の「力学」と同様、科学・技術の基礎であるとともに、将来の専門分野を学ぶ際に重要となる電磁気学の基礎について講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
物理学の基礎であるとともに、専門分野の学習に必要な電磁気学の基礎を学び、科学・技術が対象とする自然現象すべては数学的な方程式で表わされる普遍的な法則を用いて数量的に分析・説明できるという物理的な考え方・方法を具体的問題を通して身につけるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 電磁気学の基礎的な概念や法則などの基礎的事項を理解し説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 電磁気的な現象や問題について物理的な考え方・方法で分析し計算し説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活における事象を通して、電磁気学の役割に関心をもつ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
数回の課題レポートと期末試験結果をもとに、以下の割合で総合的に評価します。なお、出席が所定の回数に満たない者は履修放棄したものとみなします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習、復習をきっちりやっていることを前提に講義します。授業には必ず出席し、演習レポートは確実に解いて提出すること。					
<b>連絡先</b>					
理学部 207 号室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002412107
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	機械			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	只友 一行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
高校物理の履修内容である「私達の暮らしと電気」,「電気と磁気」を土台とし、大学の電磁気学につなげて行くことを目標に電磁気学の基礎的事項について解説・演習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
電磁気現象に関する基本的事項とその概念を理解し、高等数学を用いた電磁気学に応用できる力を養う。ここでは、高等数学は使わないが、最低限のベクトル解析は使えるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 電場の概念を理解する。					
2. 電場のガウスの法則を理解する。					
3. 磁場のガウスの法則を理解する。					
4. 電流が磁場を作る、アンペールの法則を理解する。					
5. フレミングの左手の法則を復習し、ローレンツ力を理解する。					
6. 電磁誘導の法則を理解し、電場と磁場の相互作用を理解する。					
7. 電磁気現象を統合するマクスウェルの方程式を理解する。					
8. 直流と交流、電気回路、RLC回路について理解する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
予習プリントの提出、復習テストの返却と解説、授業、復習テストとその提出、予習プリントの配布 が授業の流れです。予習プリントの提出、復習テストの点、中間試験・期末試験の点で総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
(第3版)基礎物理学 / 原康夫: 学術図書株式会社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
勉強を好きになろう。					
<b>連絡先</b>					
tadatomo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002412108
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	電気			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山本 節夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
真空中および物質中における電磁気現象について理解を深める。電磁気現象の定量的な記述と扱いに慣れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
1) 真空中およびの電場および物質(金属、誘電体、磁性体)が存在する場合の電場・磁場の扱いを理解する。 2) 直流回路、交流回路の扱いを理解する。 3) 電磁誘導現象について理解する。 4) マクスウェルの方程式を理解する。 5) 電磁波について理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 真空中および物質中における電磁気現象について理解できている。ガウスの法則、アンペールの法則、電磁誘導の法則など、電磁気現象の定量的な記述と取扱いができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 身近な電磁気現象や身の回りの電気電子製品で使用されている技術と、本講義での学ぶ事柄を関連付けて理解できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価は主に定期試験により行う。レポートも多少考慮する。授業への欠席多数は欠格事項となる。					
<b>教科書</b>					
第3版基礎物理学 / 原 康夫: 学術図書, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002412110
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics II]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	循環			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	田澤 輝武			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の「力学」と同様、科学・技術の基礎であるとともに、将来の専門分野を学ぶ際に重要となる電磁気学の基礎について講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
物理学の基礎であるとともに、専門分野の学習に必要な電磁気学の基礎を学び、科学・技術が対象とする自然現象すべては数学的な方程式で表わされる普遍的な法則を用いて数量的に分析・説明できるという物理的な考え方・方法を具体的問題を通して身につけるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 電磁気学の法則などの基礎的事項を理解し説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 電磁気的な現象や問題について物理的な考え方・方法で分析し計算し説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活における事象を通して、電磁気学の役割に関心をもつ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
数回の課題レポートと試験結果をもとに、以下の割合で総合的に評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者は履修放棄したものとみなす。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予習、復習をきっちりやっていることを前提に講義します。授業には必ず出席し、演習レポートは確実に解いて提出すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3~4	<b>時間割コード</b>	1002412109
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics II]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	知能			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	内藤 裕志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
電磁気学は電気及び磁気に関する物理現象を扱っており、現代社会において、テレビ、コンピュータを初めとする電気・電子技術の基礎となるものである。電場、電流、磁場、電磁誘導などの電磁気学の概念を学び、電磁気現象に対する理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
知能・情報工学の理系基礎および工学基礎分野において、特に物理学(電磁気学の基礎)に関する専門知識、問題解決に応用できる能力を身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 電磁気学の原理を使って問題を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自然現象について物理的見方で分析し、説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 工学を学ぶ上で電磁気学の役割に関心を持ち、問題意識を高めることが出来る。					
<b>態度の観点:</b> 科学技術や社会への電磁気学の役割・影響について主体的に考えることが出来る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
主に期末テストの結果で評価する。小テスト・レポートの評価を加味する。					
<b>教科書</b>					
第3版基礎物理学 / 原康夫; 学術図書, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
教科書をよく読み、理解を深めるために演習問題を確実に解いて下さい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002412111
<b>開設科目名</b>	物理学 [Physics II]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	感性			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	古川 浩			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
電気と磁気は互いに密接に関連しており、力学に1つの新しい物理量(物理次元)を付け加えるだけで電磁気学の全分野を網羅することができる。そのことを念頭に電磁気学の基礎を勉強する。					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 電磁気に特有な概念(電荷、電流、電場、電位など)やそれら相互の関係を理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 学習内容を身のまわりの機器や自然現象に関連付けて考える。					
<b>技能・表現の観点:</b> 数式による物理現象の表現方法を習得する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中の小テスト、レポート提出、期末テストを総合的に考慮して成績を決める。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-8	<b>時間割コード</b>	1002421002
<b>開設科目名</b>	物理学実験A [Physics Laboratory A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	物青・生化・生資・生機			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	野崎 浩二, 輪島 清昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>力学、光学、熱力学、電磁気学等の分野に渡って設定された基礎的な実験テーマについて、自らの手で実験を行い、測定結果の処理、解析をし、その結果について考察を加え、実験レポートを作成する力を養うことを目指している。</p> <p>実験は原則として二人一組で行い、また、実験は授業計画の所に記したA～Mの13テーマをローテーション表(ガイダンス後に掲示)に従い、毎回1テーマずつ行うという形で実施する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な物理現象を実験的に検証することを通して、物理学に対する基礎知識を習得し、深く物理現象を理解する。</li> <li>・実験に必要な基礎的な技術や解析方法を修得し、レポートにまとめて報告する力を養う。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 各測定量から物理法則に従って物理定数等が計算できる。</p> <p>2. 実験方法に従い正確に測定できる。</p> <p>3. 行った実験について レポートとして報告できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 実験結果の妥当性が判断できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 共同者と協力して実験を遂行できる。</p> <p>2. 当日の実験結果について簡単に報告できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>単位の認定は、出席率が80%以上であること、提出すべき全レポートが提出されていること。出席していてもレポートが提出されなければ、そのテーマは欠席と見なす。授業態度・授業への参加度は、実験中の見回り及び当日の実験結果の報告等を通して判断する。</p>					
<b>教科書</b>					
基礎物理学実験 / 山口大学共通教育物理学実験テキスト編集グループ: 東京教学社, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
次回のテーマについての予習を必ずしておき、手際よく実験を行うこと					
<b>連絡先</b>					
野崎浩二: 理学部 236 室, nozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
輪島清昭: 理学部 234 室, wajima@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-8	<b>時間割コード</b>	1002422102
<b>開設科目名</b>	物理学実験B [Physics Laboratory B]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	医学			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	笠野 裕修, 山本 惺史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>力学、光学、熱力学、電磁気学等の分野に渡って設定された基礎的な実験テーマについて、自らの手で実験を行い、測定結果の処理、解析をし、その結果について考察を加え、実験レポートを作成する力を養うことを目指している。</p> <p>実験は原則として二人一組で行い、また、実験は授業計画の所に記したA~Kの11テーマをローテーション表(ガイダンス後に掲示)に従い、毎回1テーマずつ行うという形で実施する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な物理現象を実験的に検証することを通して、物理学に対する基礎知識を習得し、深く物理現象を理解する。</li> <li>・実験に必要な基礎的な技術や解析方法を修得し、レポートにまとめて報告する力を養う。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 各測定量から物理法則に従って物理定数等が計算できる。</p> <p>2. 実験方法に従い正確に測定できる。</p> <p>3. 行った実験について レポートとして報告できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 実験結果の妥当性が判断できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 共同者と協力して実験を遂行できる。</p> <p>2. 当日の実験結果について簡単に報告できる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 1. 基本的な測定器具の調整及びそれを用いた測定ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>単位の認定は、出席率が80%以上であること、実施したテーマの全レポートが提出されていること。出席していてもレポートが提出されなければ、そのテーマは欠席と見なす。授業態度・授業への参加度は、実験中の見回り及び当日の実験結果の報告等を通して判断する。</p>					
<b>教科書</b>					
基礎物理学実験 / 山口大学「共通教育」物理学実験テキスト編集グループ・東京教学社、2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
実験テーマについて必ず予習をしておき、手際よく実験を行うこと。					
<b>連絡先</b>					
理学部本館南棟 239 号室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5～8	<b>時間割コード</b>	1002422103
<b>開設科目名</b>	物理学実験B [Physics Laboratory B]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	社建・電気・知能・看護・検査			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	嶋村 修二, 松尾 栄治, 岸本 堅剛, 呉本 亮, 篠原 紀幸, 増山 和子, 岸本 祐子 [KISHIMOTO Yuko]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物理学実験では、力学・熱力学・光学・電磁気学などの物理学の基礎分野から選択される6テーマについて実験を行う。実験データを整理して考察したレポートを作成し提出する。					
<b>授業の一般目標</b>					
基本的な物理現象を測定する実験装置の使い方に慣れ、その現象の原理を理解する。また、実験データを整理して考察する実験レポートの書き方を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 実験を行った物理現象について簡単に説明できる。 2. 用いた実験装置の使用方法について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 実験を行った物理現象について考察できる。 2. 用いた実験装置の測定原理について考察できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 身のまわりの物理現象に関心をもつ。 2. 不思議な現象を観察し実験を行う意欲をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 1. 真面目な態度で実験を行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 実験装置を正しく取り扱うことができる。 2. 系統的で論理的な実験レポートを書くことができる。					
<b>その他の観点:</b> 1. 共同実験者と協力して実験を進めることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
実験態度と実験レポートの内容により成績を評価する。単位取得のためには、全ての(6テーマの)実験を行い、全ての実験レポートを提出して受理されなければならない。提出されたレポートの内容が不十分な場合は、再提出を指導される。やむを得ない事情により欠席する場合は、事前に担当教員に相談すること。					
<b>教科書</b>					
基礎物理学実験 / 山口大学「共通教育」物理学実験テキスト編集グループ: 東京教学社, 2009					
<b>参考書</b>					
理科年表, 「物理学I・II」のテキスト					
<b>メッセージ</b>					
実験を行う前日までに、テキストに目を通して予習をすること。 また、物理学実験ホームページ: <a href="http://w-phys.liberal.yamaguchi-u.ac.jp/">http://w-phys.liberal.yamaguchi-u.ac.jp/</a> から Web コンテンツを見て、実験装置などについて予習すること。					
<b>連絡先</b>					
連絡先: 共通教育係					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水 9～10	<b>時間割コード</b>	1002413013
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry I]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	看護 検査			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	田中 経彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
検査における分析化学の基本概念を習得する					
<b>授業の一般目標</b>					
検査における分析化学の基本概念を習得する					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 検査における分析化学の基本概念を習得する					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
本試験90%出席点10%です。小試験は公正さを担保できないので加えません。					
<b>教科書</b>					
ベーシック分析化学 / 高木誠: 化学同人, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
分析化学は、検査技術の基礎の一つですのでしっかり理解してください					
<b>連絡先</b>					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp 0836-22-2857(内線 2857)					
<b>オフィスアワー</b>					
後期水曜日(山口)					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002413105
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	感性			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岩田 祐之, 中市 統三, 森本 将弘, 本道 栄一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
有機化学の基礎的な概念を述べ、主要な有機化合物の化学結合、分類、命名法、化学構造、物理的および化学的性質、反応、合成法などの有機化学の概要を説明する。また、有機化合物を取扱う実験・研究に必要な基礎知識を身につけることを目的とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
有機化学が、生命現象や生活環境に大きく関わりを持っていることを理解し、またそれらは全て化学反応の組み合わせであることを理解する。一般に、原子の構造と化学結合、命名法や化学構造、化学反応、芳香族化合物の反応性・配向性から有機合成などが理解できるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 有機化合物を官能基で分類して、それぞれの特徴が理解できる。					
有機化合物の構造を理解し、反応機構が説明できる					
<b>思考・判断の観点:</b> 有機化学が、生命現象や生活環境に大きく関わりを持っていることを理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 生命現象は全て化学反応の組み合わせであることを理解する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間・期末試験および出席(レポートを含む)によって評価する。					
<b>教科書</b>					
マクマリー有機化学概説第6版 / John McMurry 他著 / 伊東 三 訳 / 児玉 三明 訳: 東京化学同人, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002413104
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	知能			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	梶原 忠彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
有機化学の基礎を修得するために、まず最小限の基礎原理を説明する。次に、それにもとずいて各種の有機反応を理解することによって、有機化学の基礎を確かなものにする。					
<b>授業の一般目標</b>					
有機化合物の結合や構造および反応を電子、分子軌道、立体化学などのごく限られた基礎原理から理解することによって、有機化学の基礎を系統的に身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 有機化合物の構造から、その性質や反応性を説明できる					
<b>思考・判断の観点:</b> 有機物質や現象の変化を分子レベルで見たり、考えることができる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 生命科学から物質科学までの広い分子の世界に興味を持ち、その基礎を学ぼうとする。					
<b>態度の観点:</b> 有機化学は、ごく限られた基礎原理を理解すれば、その基礎を系統的に身につけることができることを実感する。また、それによって生命現象や新素材を分子レベルで見たり考えたりすることができるなど面白いと感じるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)ショートテスト(毎回実施)およびレポート。(2)中間テストの実施および演習。(3)期末試験の実施。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002413106
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生機 獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岩田 祐之, 中市 統三, 森本 将弘, 本道 栄一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
有機化学の基礎的な概念を述べ、主要な有機化合物の化学結合、分類、命名法、化学構造、物理的および化学的性質、反応、合成法などの有機化学の概要を説明する。また、有機化合物を取扱う実験・研究に必要な基礎知識を身につけることを目的とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
有機化学が、生命現象や生活環境に大きく関わりを持っていることを理解し、またそれらは全て化学反応の組み合わせであることを理解する。一般に、原子の構造と化学結合、命名法や化学構造、化学反応、芳香族化合物の反応性・配向性から有機合成などが理解できるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 有機化合物を官能基で分類して、それぞれの特徴が理解できる。					
有機化合物の構造を理解し、反応機構が説明できる					
<b>思考・判断の観点:</b> 有機化学が、生命現象や生活環境に大きく関わりを持っていることを理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 生命現象は全て化学反応の組み合わせであることを理解する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間・期末試験および出席(レポートを含む)によって評価する。					
<b>教科書</b>					
マクマリー有機化学概説第6版 / ,John McMurry 他著 / 伊東 三 訳 / 児玉 三明 訳:東京化学同人, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002413107
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	応化			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	大石 勉			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
有機化学の基礎を体系づけて学ぶ授業です。有機化合物の基本元素である「炭素」を中心にその性質と反応を学習します。この授業では炭化水素であるアルカンのコンホメーション・光学異性・立体異性・求核置換反応・脱離反応などの有機化学の最も基礎的な範囲を学習します。また、3次元的な分子構造の理解を助けるために、分子模型を積極的に利用します。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アルカンやシクロアルカンのコンホメーションの理解と評価ができる。</li> <li>2. 光学異性体や立体異性体について、その存在と命名および3次元的な構造把握ができる。</li> <li>3. 求核置換反応と脱離反応について反応様式とその特性を理解できる。</li> <li>4. 習得した知識を利用して初歩的な有機反応に関する議論ができることで、この後の専門科目である有機化学Iに対してスムーズに橋渡しできる。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. アルカンやシクロアルカンのコンホメーションに対する正しい理解と評価が得られる。					
2. 光学異性体や立体異性体について、その存在と命名および3次元的な構造把握ができる。					
3. 求核置換反応と脱離反応について反応様式とその特性を理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 習得した基礎的な有機化学の知識を利用して初歩的な有機反応に関する議論ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 出席して講義を聴くことができる。					
2. 宿題や小テストをきちんとやれる。					
<b>態度の観点:</b> レポートや宿題を期日までに提出できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間試験と期末試験を主として評価する。また小テスト、レポート、出席状況も評価の対象に含まれる。出席しなければ理解できないので毎回必ず出席してください。					
<b>教科書</b>					
ポルハルト・ショアー「現代有機化学(上)第4版」/原著者「ポルハルト・ショアー」、監訳「古賀、野依、村橋」:化学同人,2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
この「化学II」は2年生からの必須である「有機化学(I)」にそのまま引き継いでいきます。テキストも同じものを使用します。1年生のときに有機化学を苦手とすると、2,3年生になって大変なことになります。講義に参加して有機化学を精一杯勉強して、好きになってください。有機化学はそれほど難しいものではありませんが、英語などの語学の勉強とよくにっています。毎日少しずつ継続的に勉強してください。					
<b>連絡先</b>					
工学部応用化学科高分子化学研究室					
Tel:0836-85-9281,Fax:0836-85-9201					
E-mail:oisshi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002413108
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	循環			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山本 豪紀			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ものをつくり、ものを対象とした研究を行う分野において、ものの本質や特性を知ることなく、これを進めることは不可能です。人間が生産・使用・消費する「もの」の大部分が有機化合物であることを考えると、高度な研究能力をもって、環境関連分野をはじめとする様々な分野で社会に貢献できる人材となるためには、一連の有機化合物に対する知識が不可欠です。そこで、本講義では脂肪族炭化水素、芳香族炭化水素、ハロゲン化アルキル、アルコール、エーテル等の構造と性質、およびそれらの反応について説明するとともに、有機化合物の反応における基本的な原理・法則や、工学と有機化学との関わりについても解説します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1) 理系学生として最低限必要な有機化学の基礎的な事項について理解する。  (2) 一般的な有機化合物の構造、性質、反応について知る。  (2) 有機化合物について関心をもち、工学の中での有機化合物の役割を積極的に理解しようとする態度を養う。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 有機化合物を分類することができる。  2. 分類された有機化合物の一般的な性質を説明できる。  3. 基本的な原理や法則と化合物の反応と関連付けることができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 有機化合物の性質について系統立てることができる。  2. 生活の中での有機化合物の存在及びその必要性を説明することができる。  3. 工学系分野で利用される有機化合物の役割や意義を説明することができる。  4. 将来の自分の専門分野における有機化合物の関わりについて関連付けることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 有機化学と身の回りの有機化合物に関心をもつことができる。  2. 自分の身の回りになる有機化合物の性質や役割・機能について積極的に調べることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 1. 有機化合物の危険性や安全性を理解する。  2. 環境に与える有機化合物の功罪を理解を示す。  3. 生活と有機化合物との関わりに理解を示す。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 1. 有機化合物の性質をデータベースから調べることができる。  2. 基本的な有機化合物の構造と立体を図示できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>詳細は第1回目講義のガイダンスで行いますが、中間試験、期末試験、課題レポート、講義への取り組みの積極性を総合的に評価します。出席が所定の回数に満たない者は不合格となります。</p>					
<b>教科書</b>					
ブルース有機化学概説 / Paula Yurkanis Bruice: 化学同人, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>有機化学にも数学や物理と同じように「公式」があります。公式を理解し、利用できるようになると、有機化学は難しくありません。また、今ではたくさんの有用な情報がインターネット上にあります。講義に関連する多くの情報もインターネット上にありますので、それを上手に利用してください。但し、間違った情報には気をつけて下さい。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>工学部本館南4階  h-ygmt@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日～木曜日: 17時～18時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002413109
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	社建			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	中野 昭夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
有機分子の構造、有機化学反応の基礎を最初に講義する。次に生命体を構成する生体物質や環境に影響を及ぼす有機分子等について学んで行く。化学Ⅰに続き、食と健康や環境を有機化学の観点から学んで行く。					
<b>授業の一般目標</b>					
学問の進歩に伴い、科学の全ての分野で分子レベルでの解明が進みつつある。本講義は、有機化合物の分子構造及び有機化学反応の基礎を学ぶことにより、身の回りのさまざまな現象を分子レベルで理解して戴くことを第一の目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 有機化合物の特徴と分類が理解できる。結合と立体化学の基礎が理解できる。基礎的な官能基の特性が理解できる。有機化学反応の考え方の初歩が理解できる。基礎的な官能基の特性が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 化学と人間生活(特に食、健康、環境、専門領域等)の関わりが判断出来る。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分の専門分野と分子の世界との関わりに関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 有機化学は暗記の学問ではなく、基本的な原理が理解出来れば、理解し易い学問であることに気づき、有機化学の面白さを味わうことが出来るようになる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 科学的レポートの書き方に習熟する(レポートの提出)。					
<b>その他の観点:</b> プレゼンテーション技術(Power point の使用法)についても感心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験の結果(理解度)を最重要項目とするが、関心度(毎回の小テスト、レポート)と出席状況も評価に加える。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
出席を重視します。最終授業でノートチェックを行います。期末試験にノート、テキスト持ち込み可とします。					
<b>連絡先</b>					
E-mail: a-nakano@toua-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木 11～12	<b>時間割コード</b>	1002413110
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	新苗 正和 [NIINAE Masakazu]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
人間の生活活動、産業活動および人間を取り巻く環境において、様々な形で存在する有機化合物の基礎について講述するとともに、化学工業への展開、環境科学あるいは生命科学などへの応用も併せて講述する。					
<b>授業の一般目標</b>					
化学工業、環境科学、生命科学において基礎となる有機化学について、基礎と応用の両面から理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 有機化合物の結合、構造、官能基の性質および有機化学反応について理解している。					
<b>思考・判断の観点:</b> 有機化学反応の機構を系統的に考察することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 化学工業、環境科学、生命科学など多くの分野において有機化学が重要であることを認識し、有機化学に強い興味を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績は、講義中に適宜実施する小テストと定期試験ならびに講義への出席状況などを総合的に判断して評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
0836-85-9691					
<b>オフィスアワー</b>					
講義終了時に随時質問等を受け付ける。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002413111
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(数))・情報(表現)・理(生化除く)・生資			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	石黒 勝也			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
有機系化学(有機化学、生化学、高分子化学、薬理学等に関する分野)の基礎を理解する。近年、多様な分野で「ナノ」が重要なキーワードとなっているように、大学で自然科学を学ぶ学生は、たとえ化学を専門としない立場であっても、近い将来、分子スケールで機能する素子について理解できる能力が必ず必要とされる。この講義では、有機化学の基礎となる分子の性質や化学反応性について、原理的な面を主に学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
基本的な原理を理解することにより、分子の構造や化学反応について、暗記するのではなく、考えて判断できる力を養ってほしい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 有機化合物の特徴と分類が理解できる。					
結合と立体化学の基礎が理解できる。					
有機化学反応の考え方の基礎が理解できる。					
基礎的な官能基の特性が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 化学と人間生活のかかわりが判断できる。					
化学物質の構造・反応について、分子レベルでの基礎・原理に基づき思考・判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業毎の演習に積極的に取り組む。					
<b>態度の観点:</b> 有機化学的なものの見方・考え方ができる。					
自分の専門分野と分子の世界の関わりを見出す。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間試験、期末試験、レポート、出席、小テストなどにより総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
はじめて学ぶ大学の有機化学 / 深沢義正・笛吹修治: 化学同人, 1997					
<b>メッセージ</b>					
積極的な取り組みを期待します。					
<b>連絡先</b>					
内線 5727					
研究室: 総合研究棟208室					
E-mail kagaku2@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金3~4	<b>時間割コード</b>	1002413113
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	電気			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	藤原 勇			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>多種多様な有機化合物の構造、性質や反応が、どのような考え方に基づいて体系的に理解されているのかを、構造論と反応論を中心に、なるべく身近な有機化合物を例にして説明する。</p> <p>各回の講義内容は、教科書の順序にしたがって下記のようにする予定である。</p> <p>また、一方通行になりがちな講義を補い、受講者の理解を深めるため、毎回演習問題およびレポートを課し、レポートは次の週の月曜日午後4時までに解答の提出を求める。質問や感想、希望なども、この解答用紙に記入しておけば、できるだけ個別に回答する。次回の最初に、提出されたレポート等を返却し、演習問題等の略解を示して必要な説明を加える。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
有機化合物の構造・性質・変化について、基本的な理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 有機化合物の特徴と分類					
基本的な官能基の特性					
炭素原子の結合と立体化学の基礎					
有機化学反応の考え方の初歩					
脂肪族化合物と芳香族化合物の概念					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間試験(30点満点)、期末試験(50点満点)、平常点(毎回の演習問題への取り組みと出席状況)を総合して評価する。					
<b>教科書</b>					
有機化学(三訂版) / 小林啓二; 裳華房, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
わかりにくいところは放置せずに、質問に来てください。					
<b>連絡先</b>					
総合科学実験センター 排水処理センター 藤原 勇					
Tel 083-933-5137					
Fax 083-933-5138					
<b>オフィスアワー</b>					
原則としてなし、連絡を取ってきてください					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002413112
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	機械			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	右田 耕人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
有機化合物を立体化学と酸塩基の2つの面から解説し、主要な有機化学反応を立体化学的な説明を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
有機立体化学における基礎概念を理解し、有機分子の構造の多様性について理解を深める。次に、有機化合物の酸・塩基の強さを有機電子論によって理解する。更に、典型的な有機化学反応の機構について学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 有機化合物の特徴と分類が理解できる。					
2. 結合と立体化学の基礎が理解できる。					
3. 有機化学反応の考え方の初歩が理解できる。					
4. 芳香族化合物の概念が理解できる。					
5. 脂肪族化合物の概念が理解できる。					
6. 基礎的な官能基の特性が理解できる。					
7. 有機化学反応の機構が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 有機化合物の構造上の特徴からその化合物の性質の予測ができる。					
2. 異性体について分類することができる。					
3. 有機化合物の置換基の知識に基づき、酸・塩基としての強さを予測できる。					
4. 電子論の立場から、有機化学反応の機構を説明することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 有機化学と人間生活の関わりについて興味を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 基本的な原理から有機化学について理解できることに気付き、有機化学の面白さを実感することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験により知識・理解目標などの到達度を評価するが、講義の中で行う小テストで段階での到達度を確認し、宿題によって内容の理解を補強する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
有機化学のしくみ / 加藤明良, 鍋島達弥: 4782704380, 2001					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
有機化学の楽しさを味わい、有機化学の能力をつけて欲しい。					
<b>連絡先</b>					
総合研究棟 208 号室					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 17:00～18:30					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金5-6	<b>時間割コード</b>	1002413114
<b>開設科目名</b>	化学 [Chemistry II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医学			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	梶原 忠彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
有機化学の基礎を修得するために、まず最小限の基礎原理を説明する。次に、それにもとずいて各種の有機反応を理解することによって、有機化学の基礎を確かなものにする。					
<b>授業の一般目標</b>					
有機化合物の結合や構造および反応を電子、分子軌道、立体化学などのごく限られた基礎原理から理解することによって、有機化学の基礎を系統的に身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 有機化合物の構造から、その性質や反応性を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 有機物質や現象の変化を分子レベルで見たり、考えることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 生命科学から物質科学までの広い分子の世界に興味を持ち、その基礎を学ぼうとする。					
<b>態度の観点:</b> 有機化学は、ごく限られた基礎原理を理解すれば、その基礎を系統的に身につけることができることを実感する。また、それによって生命現象や新素材を分子レベルで見たり考えたりすることができるなど面白いと感じるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1) ショートテスト(毎回実施)およびレポート。(2) 中間テストの実施および演習。(3) 期末試験の実施。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-8	<b>時間割コード</b>	1002423002
<b>開設科目名</b>	化学実験A [Chemistry Laboratory A]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生化			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	谷 誠治, 梶原 忠彦, 中野 昭夫, 西口 毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本実験では、有機化学実験、分析化学実験Ⅰ・Ⅱ、物理化学実験および総合実験の5つの実験から指定された4つを行う。1つの実験は各々3日間で行う。有機化学実験では化粧石けん、色素、ピニロン等の合成を、分析化学実験ではセミクロ定性分析法による金属陽イオン分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を行う。総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>化学実験における試薬や器具の扱い方を体験し、実験操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に対する理解を深める。また、実験開始までに準備しておくべきこと(フローチャートの作成や問いの答えの記入など)、実験中の心がまえ、および、実験報告書(レポート)の書き方を学ぶ。文献調査も必須である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 物質や化学反応を説明できる。 2. 実験の基礎的な内容を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 物質の状態や変化を化学式で表現できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 物質の化学的性質や反応に関心をもつ。 2. 実験操作の意味や化学反応の背後にある化学的考え方に関心をもつ。 3. 自分の専門分野と化学の関わりに関心を持つ。 4. 実験を通じて問題解決意欲をもつ。</p> <p><b>態度の観点:</b> 1. 物質の変化を観察し、詳細に記録する。 2. 自分でわからないことは図書を参考にして調べる。 3. 実験内容をレポートとしてまとめる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 化学実験の基本的な技術を身につけ、安全な操作ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>宿題 / 授業外レポート = 70%</p> <p>授業態度や授業への参加度 = 30%</p> <p>出席 = 欠格条件(特別な理由のない限り、3回以上の欠席で不可とする)</p>					
<b>教科書</b>					
化学実験テキスト(2009年度)					
<b>参考書</b>					
<p>現代の生活と物質 / 西口毅:化学同人, 2000</p> <p>ライフサイエンス基礎化学 / 青島均, 右田たい子:化学同人, 2000</p> <p>セミクロ無機定性分析 / 林謙次郎, 中間碩一郎, 鈴木光泰:東京教学社, 1981</p> <p>無機半微量分析(分析ライブラリー) / 松浦二郎, 西川勝, 栗村芳実:東京化学同人, 1978</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>実験には多くの労力とお金をかけています。実験は社会で働くときと同じように、準備、作業、調査、報告を含んでいます。毎回きちんと予習をして実験に臨み、期限までにレポートや課題を提出してください。その際、参考書の貸し出しも行っていますのでぜひ活用してください。自分自身でやることにより、社会に出たときの力となります。いやいややるのではなく、苦しい中にも喜びを見い出しながら取り組んでください。なお、他人のレポートを写すなどした場合は、両者とも不可とします。</p>					
<b>連絡先</b>					
谷誠治 / E-mail; stani@yamaguchi-u.ac.jp / 研究室; 理学部本館 433 号室					
<b>オフィスアワー</b>					
随時(講義や会議などの用事がない限りいつでもOKです)					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5～8	<b>時間割コード</b>	1002423003
<b>開設科目名</b>	化学実験A [Chemistry Laboratory A]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	生資			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	青島 均			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本実験では、有機化学実験、分析化学実験、物理化学実験、および総合実験から指定された二つの実験を行う。有機化学実験では化粧品けんの合成を、分析化学実験では金属陽イオンの分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を、そして、総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。					
<b>授業の一般目標</b>					
化学実験における試薬や器具の扱い方など基礎的実験法を習得し、実験を通じて操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に対する理解を深める。また、フローチャートの作成、実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 分析化学実験、有機化学実験、物理化学実験、総合実験において、そのいくつかの実験の基礎を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 化学反応や化学物質と人間生活のかかわりが判断できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 実験操作の意味や化学反応の背後にある化学的考え方に興味をもつ。					
2. 実験を通じて問題解決意欲をもつ。					
3. 実験にふさわしい心構えをもつ。					
4. 身の回りにある物質の化学的性質や反応に関心をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 安全な操作ができる態度をとる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な定性分析ができる。					
2. 簡単な有機化合物が合成できる。					
3. コンピュータによる計算や解析ができる。					
4. 実験報告書が書ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
「出席」と知識・理解の目安となる「課題(予習など)およびレポート」を重視するが、関心・意欲・技能・技術をはかる「実験態度」も評価する。課題やレポートは期限までに提出すること。提出しない場合は欠席として処理する。3回以上の欠席者は不適格とする。					
<b>教科書</b>					
化学実験テキスト(2010年度)/山口大学化学教員:生協にて販売, 2010					
<b>参考書</b>					
セミクロ無機化学定性分析/林・中間・鈴木:東京教学社, 1981					
無機半微量分析/松浦・西川・栗村:東京化学同人, 1978					
現代の生活と物質/西口 毅:化学同人, 1996					
ライフサイエンス基礎化学/青島均・右田たい子:化学同人, 2000					
<b>メッセージ</b>					
実験は社会に出て仕事をするときの訓練になります。単位をとるためだけでなく、自信を持って社会に出れるように、実力をつけるつもりで対応してください。他人のレポートを写すことのないように、必ず自分で実験レポートを作成してください。					
<b>連絡先</b>					
青島均/E-mail:aoshima@yamaguchi-u.ac.jp/電話:083-933-5762/研究室:理学部本館4階 403 号室					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-8	<b>時間割コード</b>	1002424102
<b>開設科目名</b>	化学実験B [Chemistry Laboratory B]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	医学			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	谷 誠治, 川俣 純			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本実験では、有機化学実験、分析化学実験Ⅰ・Ⅱ、物理化学実験および総合実験の5つの実験から指定された4つを行う。1つの実験は各々3日間で行う。有機化学実験では化粧石けん、色素、ピニロン等の合成を、分析化学実験ではセミクロ定性分析法による金属陽イオン分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を行う。総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>化学実験における試薬や器具の扱い方を体験し、実験操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に対する理解を深める。また、実験開始までに準備しておくべきこと(フローチャートの作成や問いの答えの記入など)、実験中の心がまえ、および、実験報告書(レポート)の書き方を学ぶ。文献調査も必須である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 試薬の性質や実験器具の扱い方を説明できる。 2. 実験の基礎的な内容を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 化学的な考え方に基づいて、物質の性質や変化を説明できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 物質の化学的性質や反応に関心をもつ。 2. 実験操作の意味や化学反応の背後にある化学的考え方に関心をもつ。 3. 実験を通じて問題解決意欲をもつ。</p> <p><b>態度の観点:</b> 1. 物質の変化を観察し、詳細に記録する。 2. 自分でわからないことは図書等を参考にして調べる。 3. 実験内容をレポートとしてまとめる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 化学実験の基本的な技術を身につけ、安全な操作ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>宿題 / 授業外レポート = 70%</p> <p>授業態度や授業への参加度 = 30%</p> <p>出席 = 欠格条件(特別な理由のない限り、3回以上の欠席で不可とする)</p>					
<b>教科書</b>					
化学実験テキスト(2009年度)					
<b>参考書</b>					
<p>現代の生活と物質 / 西口毅:化学同人, 2000</p> <p>ライフサイエンス基礎化学 / 青島均, 右田たい子:化学同人, 2000</p> <p>セミクロ無機定性分析 / 林謙次郎, 中間碩一郎, 鈴木光泰:東京化学社, 1981</p> <p>無機半微量分析(分析ライブラリー) / 松浦二郎, 西川勝, 栗村芳実:東京化学同人, 1978</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>実験には多くの労力とお金をかけています。実験は社会で働くときと同じように、準備、作業、調査、報告を含んでいます。毎回きちんと予習をして実験に臨み、期限までにレポートや課題を提出してください。その際、参考書の貸し出しも行っていますのでぜひ活用してください。自分自身でやることにより、社会に出たときの力となります。いやいややるのではなく、苦しい中にも喜びを見い出しながら取り組んでください。なお、他人のレポートを写すなどした場合は、両者とも不可とします。</p>					
<b>連絡先</b>					
谷誠治 / E-mail: stani@yamaguchi-u.ac.jp / 研究室: 理学部本館 433 号室					
<b>オフィスアワー</b>					
随時(講義や会議などの用事がない限りいつでもOKです)					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5～8	<b>時間割コード</b>	1002424103
<b>開設科目名</b>	化学実験B [Chemistry Laboratory B]			<b>単位</b>	1 単位
<b>対象学生</b>	電気・社建・看護・検査			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	青島 均, 伊原 靖二, 松崎 浩司, 吉本 憲正			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本実験では、有機化学実験、分析化学実験、物理化学実験、および総合実験から指定された二つの実験を行う。有機化学実験では化粧品けん等の合成を、分析化学実験では金属陽イオンの分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を、そして、総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。					
<b>授業の一般目標</b>					
化学実験における試薬や器具の扱い方など基礎的な実験法を習得し、実験を通じて操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に対する理解を深める。また、フローチャートの作成、実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 分析化学実験、有機化学実験、物理化学実験、総合実験において、そのいくつかの実験の基礎を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 化学反応や化学物質と人間生活のかかわりが判断できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 実験操作の意味や化学反応の背後にある化学的考え方に関心をもつ。					
2. 実験を通じて問題解決意欲をもつ。					
3. 実験にふさわしい心構えをもつ。					
4. 身の回りにある物質の化学的性質や反応に関心をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 安全な操作ができる態度をとる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 基礎的な定性分析ができる。					
2. 簡単な有機化合物が合成できる。					
3. コンピュータによる計算や解析ができる。					
4. 実験報告書が書ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
「出席」と知識・理解の目安となる「課題(予習など)およびレポート」を重視するが、関心・意欲・技能・技術をはかる「実験態度」も評価する。課題やレポートは期限までに提出すること。提出しない場合は欠席として処理する。3回以上の欠席者は不適格とする。					
<b>教科書</b>					
化学実験テキスト(2010年度) / 山口大学化学教員:生協にて販売, 2010					
<b>参考書</b>					
ゼミクろ無機化学定性分析 / 林・中間・鈴木:東京教学社, 1981					
無機半微量分析 / 松浦・西川・栗村:東京化学同人, 1978					
現代の生活と物質 / 西口 毅:化学同人, 1996					
ライフサイエンス基礎化学 / 青島均・右田たい子:化学同人, 2000					
<b>メッセージ</b>					
実験は社会に出て仕事をするときの訓練になります。単位をとるためだけでなく、自信を持って社会に出るように、実力をつけるつもりで対応してください。他人のレポートを写すことのないように、必ず自分で実験しレポートを作成してください。					
<b>連絡先</b>					
青島均/E-mail:aoshima@yamaguchi-u.ac.jp / 電話:083-933-5762 / 研究室:理学部本館4階 403 号室					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002414004
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(数))・情報(表現)・理			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	祐村 恵彦, 藤島 政博			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代生物学では、分子から生物を理解しようとしている。そのため生物を構成する分子を理解することは生物学を学ぶ上で必須であるといえる。社会問題となっている、エイズ、SARS、狂牛病、鳥インフルエンザについても分子レベルの知識が必要になる。この授業では生物を構成する分子をその構造から理解する。					
<b>授業の一般目標</b>					
生物を分子の高次な集合体としてとらえ、生物を構成する分子を構造から理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 生物を分子の高次な集合体としてとらえ、生物を構成する分子を構造から理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> ヒトを含め生物に共通する階層構造を理解し、分子レベルから生物をみる思考を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 生物学の専門用語を用いて、正確に文章で表現ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト、レポートを重視する。					
<b>教科書</b>					
いきものからくり / 中村和行: 培風館					
生化学入門 / 相原英孝: 東京教学社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
分からないままにしないで、ぜひ質問してください。					
<b>連絡先</b>					
祐村 総合研究棟 401					
藤島 理学部 3号館 103					
<b>オフィスアワー</b>					
祐村 月曜 12:00-13:00					
藤島 月曜 12:00-13:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月9~10	<b>時間割コード</b>	1002414005
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医・工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	渡部 省二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
主に高等学校で生物学を履修していない学生を対象として、生物学の全体像を把握することを目的とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
生物の多様性について学び、この多様な生物をいかにして整理、分類するか、それぞれの生物の構造がどうなっているのか、どのような機能をもっているのか、について習得する。そして、この多様な生物が、その基本的な営みにおいて驚くべき共通性をもっていることを理解し、生命の神秘を感じ取る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 細胞の構造と機能について基礎知識を修得する。					
各種生物の発生と発達および体のつくりの特徴について理解する。					
生物の進化と分類学の基本的考え方を理解する。					
生物のエネルギー獲得と代謝生理について基礎知識を修得する。					
遺伝のしくみについて基礎知識を修得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 生物の多様化と生物の生き残り戦略について考え、自分の意見をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 予習、復習をし、まじめに授業に取り組む。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
*期末試験を行う。					
*授業外レポート(宿題)を課す(未提出の場合は単位を与えない)。ただし、提出した場合でも課題にまじめに取り組んでいないレポートは未提出と判定することもあり得る。また、全く同じレポートが二人から提出された場合は双方とも未提出とする。					
*出席が10回に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
生きものからくり / 中村和行他編:培風館,2006					
<b>参考書</b>					
サイエンスビュー 生物総合資料 / 長野 敬:実教出版,2007					
<b>メッセージ</b>					
講義の資料はホームページに掲載されているので参照すること。					
URL は、					
<a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menu/biology.htm">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menu/biology.htm</a>					
わからないことをわからないままにしておかず、すぐに質問すること。					
メールによる質問も可。					
<b>連絡先</b>					
shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp					
0836-22-2830					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1002414006
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生資			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	高橋 肇			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義では、生物が「生き物」としてもつ基本的特性を学び、生命現象や生物に関する理解や知識を深めることで、生命の本質を探る基礎を身につけることを目的とする。生物は、細胞を単位とし、代謝によって必要な物質やエネルギーを得て生きている。生物は、生殖によってふえ、親の形質が遺伝子によって子に伝えられる。さらに生物は、刺激に反応してからだの状態や動きを調節し、集団をつくって生活している。このような生物のもつ共通の特性を柱として生物学を学んでいく。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>高校で学習する生物学から始めて、専門教育へスムーズに移行できるだけの学力をつける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 生物が「生き物」としてもつ基本的特性を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 生命現象を観察する中で、生命の本質を探ることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. テストで理解が不足していたことが明らかとなった学習事項について、再学習することで知識を確かなものとする。</p> <p><b>態度の観点:</b> 1. 一年を通じて地道にコツコツと学び続けることができる。</p> <p>2. 前回の授業を復習して、新たな学習に備えることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>前週までの講義内容を習得したかどうかを確認しながら、講義をすすめていく。このため、毎週、講義開始から15分間の小テスト(7点満点×13回=91点)を行い、これらと期末テスト(9点満点)との総合計点(100点満点)により成績を評価する。欠席・0点以外の答案には再提出により修正箇所に対して配点の1/2の得点を与える。なお、小テストですべてを誤答して0点となった場合、あるいは欠席または遅刻により受験せずに0点となった場合は、レポートを提出することで小テストの満点7点の1/2の3.5点を与える。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>小テストは、前週の講義内容から出題する。講義時間中にヒント(問題文と解答への手引き)を与えるので、注意深く授業を聞くこと。</p> <p>&lt;再提出の解答方法・0点(欠席)に対するレポート作成方法&gt;</p> <p>間違った設問についても、正しく修正されれば各回のテストが完全に修正された段階で減点された分の半分の得点を与える。解答は答案の裏面に行うこととし、解答する設問の番号・記号を表記し、記述問題では自身で横20文字のマス目を作成して、穴埋め問題では単語を書き込む枠と番号を作成して、その中に正解を書き込むこと。なお、再々提出は、別紙に正解・不正解に関わらずその回の小テストの問題文、解答文を含めたすべてをまるごと記述して提出する。</p> <p>小テストで0点となった場合、あるいは授業に欠席または遅刻して小テストを受験できなかった場合、レポートを作成して提出することで満点の1/2の得点を与える。レポートはその小テストの対象となる授業で配布されたプリントに書かれてあることすべて(図表等も含めて)をA4の用紙に手書きにて書き写したものとす。すべてが正しく記載されていることを確認した後、得点を与える。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>内線5840, 農学部128室, E-mail: tadashit@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>月~金曜日 7:00~8:00 月・火・木・金曜日 12:00~12:30</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1002414007
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生機			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	滝本 晃一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>生命を形作っている物質、細胞の構造、タンパク、脂質、糖などの生体成分の基本的事項、細胞増殖、遺伝現象、DNA の構成成分、構造、遺伝における役割、遺伝子の複製、遺伝情報の取り出し、遺伝子操作技術などの基礎的事柄について概説する。</p> <p>予習や復習に役立つ本として特に特定のものは指定しませんが、図書館にある本はどれも役に立つと思います。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>生物全般にわたっての基礎的理解をめざす。そのために、生命の構造やそれを構成している成分を知り、さらに生命の継続として遺伝及び遺伝物質を十分理解する。その上でそれらの知識や理解が生物機能科学科の専門科目を学ぶ上での基礎となることを目指す。遺伝現象は生命の基本であるので、DNA や遺伝子について比較的多くの時間を割く予定である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 個体、細胞、細胞器官さらに遺伝子などの生命の基本を説明できる。</p> <p>2. 生体を構成している様々な物質や器官がどのように相互に関わっているかについて理解を深める。</p> <p>3. 生命の基本的物質であるタンパクや核酸の特性を知り、生命現象の巧妙さを理解するとともに、自らの健康を認識する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1. 授業の内容は高校での生物学の知識をもとにしており、それをさらに展開させて生命体のネットワークを理解し、生命の成り立ちを類別できるとともに、あう条件で起こるであろう事柄を指摘予測できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1. 生命機構を理解することによって、自己の体に関心をもち、健康や環境との関わりに配慮できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業の範囲内で重要なところについて期末試験(筆記)をします。ほぼ毎回授業内容についてレポートを課し、その成績も加味します。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1002414008
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	看護			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	梅田 昭子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ヒトは真核細胞から成り立っているが、真核細胞とはどのような構造で生理機能を持っているのかについてまず理解し、対象の学生が医学部であるので、特にヒトにおける生体の構成成分・代謝・生理・遺伝・発生・調節機構(ホメオスタシス)・免疫・現代医学での遺伝子診断と再生医療について概説する。高校で生物を履修していない学生でも入っていけるように、最初は基礎から始め、しだいに現代医療のトピックを理解し興味を持てるよう解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
ヒトの生体について基礎的知識を得ることを目標とする。 すなわち、ヒトの各器官を構成する細胞レベルでの構造・構成成分・代謝生理機能について学び、さらに人体における遺伝・発生・ホメオスタシス・免疫について学び、現代の医療で話題となっている臓器移植・再生医療・遺伝子診断について理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ヒトの生体において、細胞レベルでの構造・成分・代謝生理機能を学び、人体の遺伝・発生・代謝調節機構・免疫について理解することを目的とする。					
<b>思考・判断の観点:</b> まず、ヒトは生命体であることを再認識し、現代のトピックとなっている医療(臓器移植や再生医療、遺伝子診断等)について、生物学的な思考ができ、将来医療現場に携わった時に適格な判断ができる能力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 新聞やテレビで報道される様々な医療関係のニュースについて深い関心を持ち、自分で判断できる能力を養う。					
<b>態度の観点:</b> ヒトは命を持った生命体であるということをしっかり認識し、命を尊重し、命を救うための医療において適格な判断と思考ができる態度をとれるようにする。					
<b>技能・表現の観点:</b> ヒトを始めとする生命への接し方、医療における適格な判断ができる能力を養う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験で評価 評価とは無関係だが、各項目ごとに小テストを配付し理解の手助けをする。 テーマを与えてレポートの提出をおこなう。					
<b>教科書</b>					
<基礎固め> 生物 / 松村瑛子、安田正秀:化学同人, 2007					
<b>参考書</b>					
生物学 / 石川 統他:東京化学同人, 2007					
<b>メッセージ</b>					
各項目ごとに小テストを配付し、その項目終了時に答え合わせをしますので、復習をすること。					
<b>連絡先</b>					
内線2805 umeda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1002414009
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	村瀬 ひろみ			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この講義では、生物学の基本を学ぶ。  生物の体の仕組みや、生態系、進化について幅広くフォローする予定である。  生物学は現代社会との関わりも深く、ニュースなどの話題となっている技術(クローンなど)についてもとりあげる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
生物学の基礎がわかり、生物学に関連した先端技術についても、新聞、ニュースなどを見て理解できることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>生物の分類、進化についての知識  生物の多様性についての理解  生物のからだの仕組みについての知識</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>進化論の議論について判断  現代の環境問題や医療問題への応用</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>多様な参考文献を紹介するので、適宜フォローすること</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験によります。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>進化論という考え方 / 佐倉統: 講談社現代新書, 2002  新しい生物学の教科書 / 池田清彦: 新潮社, 2001  サル学の現在(上)(下) / 立花隆: 文春文庫, 1996</p>					
<b>メッセージ</b>					
積極的な参加を期待します。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002414010
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology I]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医学			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	澤田 知夫, 中井 彰, 江本 政広, 内田 周作, 柳井 亮二, 東 慶直, 田村 博史, 本田 健, 川道 穂津美, 中村 和行, 赤田 純子, 瀧井 良祐, 藤本 充章			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医学生のための生物学という観点から、専門で学ぶ解剖学・生理学・生化学の学問への導入を行うことで、ヒトの生命を維持するしくみを総合的に理解する。					
<b>授業の一般目標</b>					
ヒトの生命を維持するしくみを理解するために、器官や細胞の構成とその機能と調節、生殖と発生、さらに遺伝現象を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 生物のなかでヒトの位置付けができる					
ヒトの器官や組織の構造と役割を説明できる					
生命の連続性について説明できる					
細胞の構造、機能、代謝について説明できる					
遺伝子の発現と細胞機能の関連を説明できる					
<b>思考・判断の観点:</b> 生物の生命を維持するしくみを論理的に考える					
全ての生物の共通するしくみとヒトのしくみを対比して考える					
<b>関心・意欲の観点:</b> 生物の生命を維持するしくみに関心を持つ					
ヒトとその他の生物との共通点と相違点に関心を持つ					
ヒトの正常と異常について関心を持つ					
<b>態度の観点:</b> 講義の内容に積極的に参加する態度					
参考図書を利用して予習と復習を行う自学自習する態度					
<b>技能・表現の観点:</b> 学習した内容について論理的に表現する、あるいは記述できる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
最終試験 = 90%					
授業態度 = 10%					
出席が満たない、あるいは授業態度がきわめて不良な場合には、最終試験を受験できない。					
<b>教科書</b>					
Essential 細胞生物学 / 中村佳子・松原謙一 監訳: 南江堂, 2005					
<b>参考書</b>					
ギャング生理学 / 星猛 他訳: 丸善, 2006					
<b>メッセージ</b>					
講義出席2/3以上は受験資格への要件であり、筆記試験で評価します。					
専門過程への導入となる主として哺乳類・ヒトを対象とした生物学ですが、同時に生物としてのヒト・自分自身を知るための学習でも有ります。一定の知識修得を求めますが、むしろ生物を理解するための骨格となる概念や、毎回ごとに学習対象となる生命現象の概要・生体システムの概要を把握するように予習・復習してください。					
<b>連絡先</b>					
電子メール:					
澤田知夫: roretzi@yamaguchi-u.ac.jp					
中井 彰: anakai@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
随時、電子メールおよび電話にて対応する。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002414102
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医学			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	安溪 貴子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>私たちが会おう生き物を、測定機器や電子顕微鏡ごしではなく、自分の五感をつかって直接観察し、研究する、そんなマクロの生物学がもつ魅力を伝えたい。ア)研究方法の特徴 イ)生物の多様な生活の面白さと不思議 ウ)個体群・群落・群集、社会、生態系といったレベルの異なる世界のとらえ方、生物多様性など、地球生命系全体に共通する考え方・捉え方。エ)地球の生命がかくも多様である事実の意味を問い、いのちあるものの一員としての「わたし」のあり方と果たすべき役割を考える。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>いのちあふれる奇跡の星 = 地球に展開する多様な生命のあり方とその関係の不思議について学ぶ。身近な所にある「命」に気づき、その現状を知って理解し、生命の歴史、ヒトと自然のかかわりの歴史にも視野をひろげて、未来についても考える力を養いたい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>生物多様性の理解。身近な日常から、熱帯雨林の世界まで、生命の誕生から現在までの基本的な知識とその関係性の理解。  <b>思考・判断の観点:</b>地球生命系の一員であることの自覚。相手の生物の立場に立って考える力。空間的にも時間的にも多様なスケールで考え判断する力。  <b>関心・意欲の観点:</b>先入観を離れてテーマを受け入れる。そこから疑問を発する。身近な生きものを観察するところから出発するので、共に生きてきた生きものとの出会い直しをする。  <b>態度の観点:</b>課題に柔軟かつ積極的に取り組む。素朴な疑問や気づきも大切に育てる。  <b>技能・表現の観点:</b>自分の気付き、考えを的確に表現できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の小レポートと最後にするテストで採点。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
生態学 個体・個体群・群集の科学 / M.Begon, J.L.Harper, C.R.Townsend:京都大学学術出版会, 2003					
<b>メッセージ</b>					
<p>戸外に出たり、生き物そのものに触れたりする時間を持ちます。その機会をできるだけ楽しみながら、「いのち」への感性を育ててください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1～2	<b>時間割コード</b>	1002414104
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology II]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(数))・情報(表現)・理			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	松村 澄子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
生物はこの地球上で数十億年をかけ、多くの種類に進化した。多様な生物の進化の道筋(系統)や、からだの作りの特徴、分類の基本について学ぶ。また後半では多様な生物が共に生きるしくみについて学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
1.学名や分類の基本を理解する。2.多様な動物を体制を元に比較する力を身につける。3.脊椎動物からヒトまでの進化の筋道を理解する。3.ヒトの自然界における位置について考察する。4.生物多様性の意義を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.学名や分類の基礎となるルールが説明できる。					
2.体制や形態、生態が異なる多種類の生物を系統的に関係付け、理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.形質に基づく類別が行える。					
2.系統関係が論理的に説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活の中に登場する生物の形態や系統・生態などへの関心を増し、問題意識を高める。					
<b>態度の観点:</b> 多人数での受講に協調できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1.生物学用語が正しく使用出来る。2.設問を正しく理解し、的確な回答表現が出来る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1)授業中に小テストを10程度行なう。(2)2～3回重要な課題について宿題レポートを課す。字数や様式はそのつど指示する。(3)2回の試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお小テストは、各時間内に設問し提出させるので、講義の復習と出席状況の確認も兼ねる。また出席が所定の回数に満たないものには、単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
教養の生物学 / 越田豊, 培風館, 2003					
<b>メッセージ</b>					
遅刻者への寛容な対応は行なわない。高校で生物学を履修していない人も講義は内容を反復復習しながら進めるので、まじめな履修を心がけて欲しい。					
<b>連絡先</b>					
batmatsu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜午後 15:00～16:30					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002414103
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	看護 検査 工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	渡辺 雅夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
生理学、行動学、生態学分野のさまざまなレベルで見られる生物現象を解説する。種々の調節が行われる場での情報のあり方を考えていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
生物のメカニズムの精巧さに触れ、それに驚きを感じることで、生命に対する探究心を養う。生物の多様性について認識を新たにし、同時にこの多様な生物が驚くべき共通性をもっていることを理解する。地球上における生物による物質変換の概略を理解し、地球環境における生物の重要性を認識する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 原核生物と真核生物の違いを説明できる。					
高等動物の発生の過程を理解する。					
免疫、内分泌、神経による調節機構を理解する。					
動物の行動発現の仕組みを理解する。					
生態系と多様性の意味を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 生物学の基礎知識を関連する専門科目に応用できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活で会う生物に興味を持ち、その生態、生活環、分類、生態系における役割に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 予習、復習をし、まじめに授業に取り組む。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内小テスト、宿題レポート課題を課す。中間2回、期末あわせて3回試験を行う。これらを下記の割合で、総合評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
理学部3号館 113 室					
Eメール:masao.w@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 13:30 ~ 16:30					
質問等は上記以外の時間でも随時受付ける。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002414105
<b>開設科目名</b>	生物学 [Biology II]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	獣医			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	山本 芳実			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本講義は、生物学Ⅰに連続して開講される。本講義では、現代生物学の基本的考え方ー分子のレベルで生命現象をみるーを様々な生命現象の理解とおして学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
生物のメカニズムに精巧さに触れ、それに驚きを感じることで、生命に対する探究心を養う。生物の細小単位である細胞を中心に、構成分子について物理や化学の視点を踏まえて生命への理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1) 細胞を構成している基本的な物質の構造とはたらきを理解する。2) 遺伝子からタンパク質への生命情報のながれを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1) 生物学の基礎知識に関連する専門科目(獣医学)に応用できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1) 多様な生物に共通の原理があることに関心をもつ。2) 多様な構造・機能をもった多細胞生物がたった一つの受精卵から分化・発生していくことを理解することにより、生命の神秘を感じ取る					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験をおこなう。					
<b>教科書</b>					
基礎生化学 第2版 / Voet D., et al/田宮他訳, 東京化学同人, 2007					
<b>参考書</b>					
生きもののからくり(改訂版) / 中村・裕村・山本編, 培風館, 2006					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火7~10	<b>時間割コード</b>	1002425003
<b>開設科目名</b>	生物学実験 [Biology Laboratory]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	獣医			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	利部 聡, 佐藤 晃一, 佐藤 宏, 角川 博哉, 前田 健, 加藤 大智			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
授業の概要 獣医師を目指すものとして、動物の取り扱い法をはじめとして、基礎的な事項を実際の動物で学ぶ。最初の5回は全員を対象として実験を行い、以後班に別れ実験計画を立案するところから主体的に取り組む。さらに、成果を学会形式で発表する。					
<b>授業の一般目標</b>					
生きている動物を用いて、麻酔・剖検・観察ができるようになること。適切な研究テーマを探し出し、実験計画を立て、結果を出し、それから導き出される結論を考察する態度を培う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 実験動物の基本的事項を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 実験結果から何を導き出すか考察する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 実験に対して主体的に取り組むこと。					
<b>態度の観点:</b> 命を粗末にしない真摯な態度を貫くこと。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート、実験態度、出席					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
生きている実験動物を扱うので、命を粗末にするようなことのないように。					
<b>連絡先</b>					
利部 聡(かがぶ さとし) 電話: 083-933-5910					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 11時から12時。在室時は随時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5-8	<b>時間割コード</b>	1002425004
<b>開設科目名</b>	生物学実験 [Biology Laboratory]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	生機			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮田 浩文			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
生物に関わる学問分野では様々な生き物を教育研究に用い、それを通じて地球上の生命全体に関わる学問の進展に寄与している。諸君がこれから教育をうけていく学問分野の多くは、実験をして確かめ新たな問題点を発見していく実証の科学である。これから生物学・農学教育を受けていくにあたって、基礎となる事項について、農学部生物機能科学科の教官が解説・指導する。					
<b>授業の一般目標</b>					
本実験は、生物の形態、発育、体内成分、代謝生理及び分子遺伝の教育を受けるのに必要な基本的実験手法および結果のまとめ方を修得し、この実験を通じて生命現象の科学的アプローチの仕方を会得することを目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 生物の様々な特性を調べる方法および結果について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 測定に含まれる誤差を理解したうえで結果を総括できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 実験結果を身近な問題とリンクさせ討議できる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 共同実験における自分の役割を理解し積極的に遂行できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
実験中の態度とレポートの総合評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
時間厳守					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月1~2	<b>時間割コード</b>	1002415101
<b>開設科目名</b>	地球科学 [Earth Sciences II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	理			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	永尾 隆志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
地球の生成や進化の歴史を学ぶための基礎知識を習得する。					
<b>授業の一般目標</b>					
地球科学の基礎的な事項を理解し、地球の過去・現在・未来を考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 地球の成り立ちを説明できる。2. 地球で起こっている様々な地球科学的現象を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 地球上で起こっている現象をより深く理解できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 身の回りで起きている地球科学的な現象に興味をもつ。2. 現在起きている自然災害や地球環境問題に関心を持ち、自ら知識を得ようとする。					
<b>態度の観点:</b> 1. 最近起きている様々な地球科学的な現象について、主体的に考えることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1. 授業中に小テストや授業内レポートを作成する。2. 最後に試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
研究室 理学部 340 号室 e-mail tnagao@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002415102
<b>開設科目名</b>	地球科学 [Earth Sciences II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	学教(教科(数))・情報(表現)・農			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	池田 幸夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
地球内部と大気で起こっている自然事象について、高校で地学を履修していなくても理解できるように、地球科学の概要を分かりやすく解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
大学卒業の社会人として必要な地球科学的教養を修得する。					
自然災害(地震・津波)や自然環境(地球温暖化やオゾン層破壊など)に関する科学的な理解を深める。					
地球科学に対する興味関心を高める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 地球科学に関する基礎的な科学的知識を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 科学理論や法則を用いて、自然事象を理解できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 地球内部や大気の現象について興味をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 地学事象に対する書籍や新聞記事などを積極的に読むようになる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 特になし					
<b>その他の観点:</b> 特になし					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
主として試験によって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
教育学部理科教育 電話283 - 933 - 5349					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5-6	<b>時間割コード</b>	1002415103
<b>開設科目名</b>	地球科学 [Earth Sciences II]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	工			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	千々和 一豊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
地球科学の諸分野(地質、地球物理、海洋、気象、天文)の基礎的内容を解説する。高等学校で地学を受講していない学生にも理解できるように平易な解説を試みる。					
<b>授業の一般目標</b>					
人類を含む地球生命体を育む地球の特徴、その地球に見られる様々な自然現象とその背景、天体の動きや宇宙の広がりなど、自然の姿を理解し、我々の生活が自然界と密接に関係していることを認識するのが目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.地球・宇宙に関する基本的事項(自然のシステム)を説明できる。					
2.地球史(誕生から現在まで)における地球環境の変遷を説明できる。					
3.人類を含む地球生命体を育む"奇跡の天体-地球"の条件を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自然のシステムを理解を通して、地球環境に対する人類の有り様を考えることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 地球科学に関心をもち、自然現象を積極的に調べようとする意欲をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 生活に身近な科学である地球科学のおもしろさを味わうことで、我々の生活の場である地球環境に積極的に関わっていく態度を育てる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
課題レポート、試験、出席態度を総合的に判断して評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
新訂地学図解 / 小島丈児:第一学習社					
地球と生命の起源 / 酒井 均:講談社, 2003					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
chijiwa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:教育学部 4 階					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月7～10	<b>時間割コード</b>	1002426002
<b>開設科目名</b>	地球科学実験 [Earth Sciences Laboratory]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	地球			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	今岡 照喜, 福地 龍郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
地球科学研究の基礎となる、地形図や航空写真の読み方を習得するとともに、野外において実践的にそれらを活用できる能力を養う。また、実験室で天然の鉱物や岩石を観察し、その成果をレポートとしてまとめる。また、巡検においては、地質について現地で詳しい説明を聞くと共に、露頭を観察したり化石を採集したりし、地質観察力を養成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
地形図や航空写真が正しく読めること、諸岩石・鉱物を識別する力、野外で岩石のいろいろな産状を正しく把握し、それを正確に記述する力、偏光顕微鏡下で鉱物識別する力を涵養する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 地形図や空中写真を判読できる。					
2. 岩石の有する諸性状(例えば、斑状組織、片理、風化の程度等)を正しく把握できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 岩石や鉱物に見られる特徴を適切にとらえ、起源について正確に判断する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 岩石の肉眼観察からその岩石の示す特徴を読み取る意識を高める。					
<b>態度の観点:</b> 1. 室内作業の結果から情報を引き出そうと努力できる。2. 得られた情報を評価解析できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 地形図や空中写真を読むことができる。					
2. 岩石や鉱物を肉眼で鑑定するコツや識別方法を身に付ける。					
3. スケッチを適切に描くことができる。					
4. 偏光顕微鏡の仕組みを理解し、花崗岩の構成鉱物が識別できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
秋吉台・秋芳洞巡検(土曜日に実施)は実験2回分にカウントします。					
レポートにより判定します。2回以上欠席した場合は、単位を認めません。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
今岡照喜: 総研棟 701 号室					
福地龍郎: 理学部本館 4F					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金7～8	<b>時間割コード</b>	1002371016
<b>開設科目名</b>	アクティブ・ラーニング			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	藤井 文武			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>地域企業にご協力を頂いて実施するプロジェクト課題に取り組む中で、履修生の皆さんが自分の社会人基礎力育成を目指す講義です。(株)アクティブラーニングの羽根先生を講師に招き、グループワーク・ペアワークを行う中で基本的な能力の底上げを行い、その上でプロジェクト課題へと進んでいきます。通常の大学の講義とは方法が大きく異なる、やりがいのある講義です。一生懸命取り組みれば、得られる経験は皆さんの今後の人生の宝となるでしょう。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力という能力指標の意味と意義を理解する。</li> <li>・継続的な社会人基礎力の育成と評価の習慣づけを行う。</li> <li>・課題解決に向けチームワークすることの意義を体得する。</li> <li>・地域企業の方と交流する中で自分にとっての「将来の目標像」を構築する。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>社会人基礎力が定められた経緯と背景を理解する。          在学中に社会人基礎力の強化を行うことの重要性を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>与えられた課題の意味を理解し、思考を深めていくことが出来る。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>示されたプロジェクト課題に積極的に取り組み、最後までやり抜く。</p> <p><b>態度の観点:</b>社会人基礎力の強化を意識した講義中マニフェストを作成し、それを実際に実行する。          チームで作業をすることの利点、醍醐味と難しさを理解する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>最終発表会において、プロジェクトで行ったことの実事の報告と、それを通じて得られた自らの成長について言葉で語ることが出来る。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>講義で提示されるプロジェクト課題をやり遂げ、最終発表会で発表した者に対しては全員に単位を認定する。成績の優劣はプロジェクト課題の成果物と最終発表を協力企業担当者と教員が評価して決定する。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>限界を突破する「学ぶ技術」/ 羽根拓也:サンマーク出版</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>自分を成長させるのは自分の行動や思考でしかない。当たり前のことですが、成長に結びつく行動を自発的に起こすのは結構大変かもしれません。この講義では、皆さんの主体的な行動があってはじめて成長の糧となる材料を提供しますが、成長にフォーカスを当てた講義であり「自発的に行動を起こす」ハードルを多少低くする技術も教授して、皆さんの成長をサポートします。やり遂げれば、大学卒業後も記憶に残る「宝」が得られるでしょう。前向きな皆さんのチャレンジを期待しています。</p> <p>(プロジェクト課題実施の都合上、履修希望者多数の場合履修制限を行う事があります)</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>産学公連携・イノベーション推進機構(常盤台キャンパス)          イノベーション人材育成支援室 藤井          (電話)0836-85-9850          (メール)ffujii@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002335018
<b>開設科目名</b>	アジアの交通と文化			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	澤 喜司郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>アジアへの観光旅行を10倍楽しくする方法を紹介します。海外への観光旅行は異文化の理解に大いに役立ち、海外旅行は異文化交流という大きな意義もあります。各国の異文化を理解する最も簡単な方法がそれぞれの国や地域で使われている乗り物つまり交通機関をみることです。アジア各国の交通機関にはそれぞれの国の文化があります。また、そのような交通機関を利用することで、観光旅行はきっと楽しくなります。</p> <p>この講義では、アジアの主要国におけるいろいろな乗り物や、ちょっと変わった交通機関を紹介し、その文化的特性などについて講義します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
アジア各国の交通を通して異文化に接し、同時に日本の文化について考える素養を養い、アジアと文化と交通についての理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価は、出席(30%)と学期末試験(70%)を総合して行います。					
<b>教科書</b>					
アジアの交通と文化 / 澤喜司郎: 成山堂書店, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002351010
<b>開設科目名</b>	医学のための統計学 [Statistics for Medical Sciences]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	医学			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	市原 清志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>バイオサイエンスにおける統計学の役割と使い方を、身近な例題を解きながら学習する。</p> <p>医学における実験的研究において、その結果の判定で重要となる統計的仮説検定法(有意差検定法)を中心に解説する。検定法は、データの形式によって多種多様であるが、その原理は共通である。それらを分類すると、大きくパラメトリック法とノンパラメトリック法に分かれる。それぞれの原理と使い分けをわかりやすく解説する。</p> <p>また様々な現象の背景となる要因を分析する上で重要となる、分散分析法および相関・回帰分析法の基本的な考え方についても学習する。</p> <p>授業は、さいころや色玉を使った標本抽出実験とコンピュータ・シミュレーションをふんだんに取り入れることで、統計の数理を感覚的に把握できるようにすると共に、多数の演習問題を実際に解いてゆくことで、即実践力が身に付くように工夫している。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学研究における統計学の役割が分かる</li> <li>・仮説(有意差)検定の原理が分かる</li> <li>・パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いとその使い分けが分かる</li> <li>・クロス集計結果の検定とその解釈をできる</li> <li>・相関係数と回帰直線を求められ、分析結果を解釈できる。</li> <li>・統計量の分布型を分析でき、基準範囲を設定できる</li> <li>・統計データの偏りとその原因・解消法を理解している</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 標本抽出の理論を理解し、目的に応じて標本統計量を算出できる</p> <p>統計学の背景にある確率論的な考え方を理解し、各種統計学的仮説検定の原理を理解できる</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 実験や調査データの性質に応じて、正しく統計処理法を使い分けられる</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 統計処理ソフトウェアを使って、基本的な統計処理をおこなえる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>中間テスト...30%</p> <p>期末試験...70%</p> <p>(受験には2/3以上の出席が必要)</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>期末試験に対して、再試験は行いませんので、それが不合格ですと単位は出ません。従って、中間テスト・小テストで問題がある場合には、1~2回の補講を行い、そのようなことのないようにサポートします。</p>					
<b>連絡先</b>					
0836-22-2884					
<b>オフィスアワー</b>					
9:00-18:30					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002333013
<b>開設科目名</b>	医療心理学 [Clinical Psychology]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	看護 検査3年			<b>学年</b>	3～
<b>担当教員</b>	山田 治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現在の医療は、医の倫理、患者の権利、インフォームドコンセント(説明と同意)に始まり、臓器移植、遺伝子治療、リハビリテーション、終末期医療、脳死、まで幅広い領域で多くの問題を抱えている。本講義では、これらの基盤となる患者に生じる心理的問題を考察し、患者理解・支援に必要なコミュニケーションの取り方を明らかにする。具体的には、傾聴技法を A.E.Ivey らのマイクロカウンセリング技法を講義で説明しながら演習を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
医療従事者として患者との関わりを持つためには、まず、自分の性格を知る必要がある。自分の性格を理解した上で、患者とのコミュニケーション上どのような関わり方が有効であるかを考察する。とくに病気で苦しむ患者の気持ちや患者を取りまく環境を知るためには、傾聴技法がとくに有効であることを理解する。傾聴技法を中心とした「基本的な関わり技法」をビデオや演習を通じて理解・体得することを目標とする					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ヒトの精神的発達段階を説明できる。精神発達の障害と性格形成を関係づけることができる。 自分の性格についてプラス面、マイナス面を説明できる。 人間関係で起こりやすい防衛機制を説明できる。 マイクロカウンセリングにおける「基本的関わり技法」を説明できる					
<b>思考・判断の観点:</b> 自分および他者の性格を類別し、プラス面を伸ばすように指摘できる。 「基本的関わり技法」を類別し、その問題点や有効な技法の使用を指摘できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> カウンセリング技法の演習に当たっては、積極的に討議し、グループの活性化に寄与できる。					
<b>態度の観点:</b> グループのメンバーと協調し、積極的に演習に参加できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 指導されたカウンセリング技法を適切に使用することができる。 自己開示ができる。 相手の会話より適切なテーマを「言い換え技法」で表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)授業中に小テストを2回行う。 (2)「行動変容をおこすためにはどうすればよいか？」について用紙5枚以上で作成し、提出する。 (3)試験を期末の1回実施する。以上を、下記の観点、割合で評価する。 なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
マイクロカウンセリング基本的傾聴技法 / Allen E. Ivey, 福原真知子訳:丸善株式会社, 1999					
<b>参考書</b>					
マイクロカウセリング / Allen E. 、福原真知子、楢山喜代子他訳:川島書店, 1999					
<b>メッセージ</b>					
質問は積極的に発言して下さい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5-6	<b>時間割コード</b>	1002343008
<b>開設科目名</b>	宇宙と人間			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(検査・獣医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	藤澤 健太			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代の科学によって得られた宇宙の姿と、宇宙に住む我々人間の位置を解説する。講義の前半は天文学の研究成果全般にわたって平易に講義し、後半は宇宙開発など個々のトピックスを題材として講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
科学的な考え方にもとづいて、現代の宇宙観を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 宇宙に関する基本的なことを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 科学的な思考法を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 人間生活の中で宇宙とのかかわりに関心を持ち、問題意識を高めることが出来る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席とレポートによる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
理学部231室 内線 5673					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002361009
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	丹 信介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、生活習慣病(成人病)に影響を及ぼす生活習慣の中で、主に身体活動(運動)不足を取り上げ、生活習慣病と身体活動(運動)との関わりや生活習慣病予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動(運動)の具体的実践方法、留意点について解説する。また、食生活のあり方も生活習慣病を引き起こす一因となるので、この点についても授業の中で取り上げる。					
<b>授業の一般目標</b>					
生活習慣病予防のための身体活動(運動)、食生活の意義、重要性について理解する。また、生活習慣病予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動(運動)が具体的に実践できるよう、その方法に関する基本的な知識を身につける。さらに、健康の維持増進のために運動を行う際の留意点についての知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 生活習慣病予防のための身体活動(運動)、食生活の意義について説明できる。生活習慣病予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動(運動)の具体的実践方法について説明できる。健康の維持増進のために運動を行う際の留意点について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 生活習慣病予防を中心とした健康の維持増進のために、適切な身体活動(運動)を行っているか判断できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 健康と身体活動との関わりについて、関心を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 身体活動(運動)、食生活の状況について、調査し、評価できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) = 60 ~ 80%					
小テスト / 授業内レポート = 欠格条件					
宿題 / 授業外レポート = 20 ~ 40%					
授業態度や授業への参加度 = 欠格条件					
出席 = 欠格条件					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業では、講義形式だけでなく、適宜、演習や実習も行います。その中には、運動を行うこともあるかもしれません。					
<b>連絡先</b>					
tan@yamaguchi-pu.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 13:00-14:00					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002361011
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	塩田 正俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近代化に伴う生活様式の省力化・機械化は、運動不足状態を作りだし、その健康への影響が心配されるようになっている。本講義では、運動生理学、バイオメカニクス等の研究成果を、なるべく学生諸君の健康の保持・増進のための実践的な知識となるよう解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
体の基本的構造機能を理解し、それぞれに対する運動や食事の影響を考える。また、どの程度の運動や食事が必要であるかについて、実生活に即して考えられるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.生活習慣病と運動や食事との関係を説明する。2.運動に対するの適応変化を説明する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.運動の効果を推察できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1.自分の生活の改善点を見出すことができる。					
<b>態度の観点:</b> 1.分かっていないことに関する疑問を具体的に提示することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1.自分の健康の維持・増進のために、自分にあった運動・栄養を生活の中に取り入れることができる。					
<b>その他の観点:</b> なし。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末試験の結果と授業中の小レポートの内容を主な評価の対象とする。欠席= 欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は2回で1回欠席として扱います。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
遅刻、私語、飲食は厳禁					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002361012
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉浦 崇夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>労働や日常生活が機械化されたことにより、我々の生活は便利かつ快適になった。その反面、身体活動の減少により、さまざまな運動不足の弊害が見られるようになった。このような現状において、その対策として日常生活において積極的に運動することの重要性が認識されている。しかしながら、運動はそのやり方によっては事故(最悪の場合、死)を引き起こす可能性もあることを忘れてはならない。</p> <p>本講義では、身体運動時の生理・生化学的变化を概説し、健康の保持増進のためのプログラムについて紹介する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本講義では、健康の保持増進のための身体運動の意義を生理・生化学的に理解するとともに、健康の保持増進のために運動を実践する際に必要な基本的考え方ならびに具体的方法について理解修得することを目的とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1.身体運動時の生理・生化学的变化を説明できる。 2.健康の保持増進を目的とした時の身体運動の効果について説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>運動の種類の違いによるからだの変化や効果の違いが指摘できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>運動と健康とのかかわりに興味を持ち、自身の生活におけるこれらの問題意識を持つことができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>現在及び将来において、健康保持増進するための方策を実践できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>(1) 毎回の授業においてレポートを課す。(2) 期末試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 なお、欠席が4回以上の者には単位を与えない。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>授業中は、他人に迷惑になる行為は絶対に行わない。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>takahito@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>随時</p>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002361016
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	教(健康・情報)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	上田 真寿美			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
健康問題は、今や国民の最大の関心事である。健康の維持・増進のため、また QOL(生活の質)を向上するために、運動・スポーツをどのように行えばよいのだろうか。 この授業では、現代生活における健康と運動の意味、運動と心身の関連および健康生活のための運動の意義について概説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
現代社会における健康問題について理解し、現代生活における健康と運動の意義、運動と身体や心の健康の関係、健康な生活を送るための運動について説明できるようになる。また、具体的な運動の実践方法についても説明し、実施できるようになることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.現代社会における健康問題について説明できる。 2.現代生活における健康と運動の意味について説明できる。 3.疾病の予防や医療費の増大への運動の寄与について説明できる。 4.運動と心身の関連について説明できる。 5.健康な生活を送るための具体的な運動の実践方法について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.授業で取り上げた各領域について、自分の意見を論理的に述べることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1.健康、運動への関心を広げ、問題意識を高めて、自らその解決方法を探ろうとすることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1.日常生活の中で健康問題や運動について主体的に考えることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1.現在および将来にわたり、健康保持増進のための方策を立て実践することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1.授業内レポートを数回行う。 2.関心のある健康問題や運動に関するレポートを宿題をして課す。 3.最後に試験を実施する。 以上から評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
履修者が多い場合は抽選を行うことがあるので、初回は必ず出席のこと。遅刻は他学生へも迷惑がかかるので厳禁とする。皆さんの習熟度によっては授業内容を変更することもある。					
<b>連絡先</b>					
E-mail: masumi-u@yamaguchi-u.ac.jp 通常は宇部キャンパス(医学部医学科医療環境学講座)にいます。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002361015
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	学教(教)実践			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	上地 広昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
行動科学の視点から、運動行動と健康の関係について説明し、運動行動を決定する要因、および運動行動を説明する理論・モデルを紹介する。また、グループワークにおいて、運動行動を促進させるためのプログラム開発に取り組む。					
<b>授業の一般目標</b>					
運動行動が健康に果たす役割、運動行動の決定因、および運動行動に関する理論・モデルの理解					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 運動行動について正しく理解すること					
<b>思考・判断の観点:</b> 運動行動に関する知識を運動指導や運動行動が推進のためのプログラム作りに応用できること					
<b>態度の観点:</b> 真摯な授業への取り組み					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
基本的には期末テストの得点をそのまま成績に反映させるが、欠席一回につき10点減点する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002361010
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	丹 信介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、生活習慣病(成人病)に影響を及ぼす生活習慣の中で、主に身体活動(運動)不足を取り上げ、生活習慣病と身体活動(運動)との関わりや生活習慣病予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動(運動)の具体的実践方法、留意点について解説する。また、食生活のあり方も生活習慣病を引き起こす一因となるので、この点についても授業の中で取り上げる。					
<b>授業の一般目標</b>					
生活習慣病予防のための身体活動(運動)、食生活の意義、重要性について理解する。また、生活習慣病予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動(運動)が具体的に実践できるよう、その方法に関する基本的な知識を身につける。さらに、健康の維持増進のために運動を行う際の留意点についての知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 生活習慣病予防のための身体活動(運動)、食生活の意義について説明できる。生活習慣病予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動(運動)の具体的実践方法について説明できる。健康の維持増進のために運動を行う際の留意点について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 生活習慣病予防を中心とした健康の維持増進のために、適切な身体活動(運動)を行っているか判断できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 健康と身体活動との関わりについて、関心を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 身体活動(運動)、食生活の状況について、調査し、評価できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間試験と期末試験) = 60 ~ 80%					
小テスト / 授業内レポート = 欠格条件					
宿題 / 授業外レポート = 20 ~ 40%					
授業態度や授業への参加度 = 欠格条件					
出席 = 欠格条件					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業では、講義形式だけでなく、適宜、演習や実習も行います。その中には、運動を行うこともあるかもしれません。					
<b>連絡先</b>					
tan@yamaguchi-pu.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 13:00-14:00					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002361013
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	塩田 正俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近代化に伴う生活様式の省力化・機械化は、運動不足状態を作りだし、その健康への影響が心配されるようになっている。本講義では、運動生理学、バイオメカニクス等の研究成果を、なるべく学生諸君の健康の保持・増進のための実践的な知識となるよう解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
体の基本的構造機能を理解し、それぞれに対する運動や食事の影響を考える。また、どの程度の運動や食事が必要であるかについて、実生活に即して考えられるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 生活習慣病と運動や食事との関係を説明する。2. 運動に対するの適応変化を説明する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 運動の効果を推察できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 自分の生活の改善点を見出すことができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 分かっていないことに関する疑問を具体的に提示することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 自分の健康の維持・増進のために、自分にあった運動・栄養を生活の中に取り入れることができる。					
<b>その他の観点:</b> なし。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末試験の結果と授業中の小レポートの内容を主な評価の対象とする。欠席= 欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は2回で1回欠席として扱います。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
遅刻、私語、飲食は厳禁					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002361014
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	杉浦 崇夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>労働や日常生活が機械化されたことにより、我々の生活は便利かつ快適になった。その反面、身体活動の減少により、さまざまな運動不足の弊害が見られるようになった。このような現状において、その対策として日常生活において積極的に運動することの重要性が認識されている。しかしながら、運動はそのやり方によっては事故(最悪の場合、死)を引き起こす可能性もあることを忘れてはならない。</p> <p>本講義では、身体運動時の生理・生化学的变化を概説し、健康の保持増進のためのプログラムについて紹介する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本講義では、健康の保持増進のための身体運動の意義を生理・生化学的に理解するとともに、健康の保持増進のために運動を実践する際に必要な基本的考え方ならびに具体的方法について理解修得することを目的とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1.身体運動時の生理・生化学的变化を説明できる。 2.健康の保持増進を目的とした時の身体運動の効果について説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>運動の種類の違いによるからだの変化や効果の違いが指摘できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>運動と健康とのかかわりに興味を持ち、自身の生活におけるこれらの問題意識を持つことができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>現在及び将来において、健康保持増進するための方策を実践できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>(1) 毎回の授業においてレポートを課す。(2) 期末試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 なお、欠席が4回以上の者には単位を与えない。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>授業中は、他人に迷惑になる行為は絶対に行わない。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>takahito@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>随時</p>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002361018
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	教(学教(幼児・障害・小学・国理)・総文)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	上田 真寿美			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
健康問題は、今や国民の最大の関心事である。健康の維持・増進のため、また QOL(生活の質)を向上するために、運動・スポーツをどのように行えばよいのだろうか。 この授業では、現代生活における健康と運動の意味、運動と心身の関連および健康生活のための運動の意義について概説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
現代社会における健康問題について理解し、現代生活における健康と運動の意義、運動と身体や心の健康の関係、健康な生活を送るための運動について説明できるようになる。また、具体的な運動の実践方法についても説明し、実施できるようになることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.現代社会における健康問題について説明できる。 2.現代生活における健康と運動の意味について説明できる。 3.疾病の予防や医療費の増大への運動の寄与について説明できる。 4.運動と心身の関連について説明できる。 5.健康な生活を送るための具体的な運動の実践方法について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.授業で取り上げた各領域について、自分の意見を論理的に述べることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1.健康、運動への関心を広げ、問題意識を高めて、自らその解決方法を探ろうとすることができる。					
<b>態度の観点:</b> 1.日常生活の中で健康問題や運動について主体的に考えることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1.現在および将来にわたり、健康保持増進のための方策を立て実践することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1.授業内レポートを数回行う。 2.関心のある健康問題や運動に関するレポートを宿題をして課す。 3.最後に試験を実施する。 以上から評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
履修者が多い場合は抽選を行うことがあるので、初回は必ず出席のこと。遅刻は他学生へも迷惑がかかるので厳禁とする。皆さんの習熟度によっては授業内容を変更することもある。					
<b>連絡先</b>					
E-mail: masumi-u@yamaguchi-u.ac.jp 通常は宇部キャンパス(医学部医学科医療環境学講座)にいます。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002361017
<b>開設科目名</b>	運動健康科学 [Exercise and Health Science]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	上地 広昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
行動科学の視点から、運動行動と健康の関係について説明し、運動行動を決定する要因、および運動行動を説明する理論・モデルを紹介する。また、グループワークにおいて、運動行動を促進させるためのプログラム開発に取り組む。					
<b>授業の一般目標</b>					
運動行動が健康に果たす役割、運動行動の決定因、および運動行動に関する理論・モデルの理解					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 運動行動について正しく理解すること					
<b>思考・判断の観点:</b> 運動行動に関する知識を運動指導や運動行動が推進のためのプログラム作りに応用できること					
<b>態度の観点:</b> 真摯な授業への取り組み					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
基本的には期末テストの得点をそのまま成績に反映させるが、欠席一回につき10点減点する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002355009
<b>開設科目名</b>	香りと人間			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(獣医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	渡辺 雅夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この講義では、香りサンプルを提示しながら、「香り」と人間のかかわりを歴史的、生理学的、心理学的な面から考えていく。嗅覚生理学を基礎にして講義が組み立てられているが、香りの効用と利用について解説していく予定である。					
<b>授業の一般目標</b>					
我々の生活環境にある香りへの認識を深め、香りの作用について科学的な知識を持ち、香りとの上手なつきあい方を考えてもらうことを目的とする。また地域環境(文化を含めた)の保全を目指した、環境省の「かおり風景100選」事業(2001年秋選定)への理解を深めることを目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ヒトの嗅覚の特性を理解する。 香りの生理心理作用、薬理作用について理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 香りの作用をいろいろな視点で考えられるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活で出会う香りのついた商品に関心を持つ。 香りの利用法を考える。					
<b>態度の観点:</b> 日常生活の中で香りを意識し、その意味を考えることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内に設問に答えてもらう小テスト、宿題/授業外レポート、期末試験1回を行う。下記の割合で総合的に評価する。授業の出席状況について、原則として75%以上であること。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
教室の都合により人数制限することがある。多人数講義となることが予想されるが、遅刻をせず、私語を慎み、携帯電話の電源を切るなど受講マナーを守ること。					
<b>連絡先</b>					
理学部3号館 113 室 Eメール:masao.w@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
後期:月曜日 13:30~16:30 質問等は随時受け付けている。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002353002
<b>開設科目名</b>	科学史 [History of Science]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	川崎 勝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この講義では、私たちが知る形での「科学技術」が形成されていった歴史を、時代的・国家的文脈を重視しながら概観します。主な舞台となるのは、18 世紀末から現代にかけての西洋社会です。それ以前と比較したとき、この時代・地域の最大の特徴は、それまではごく一部の特権層でのみ享受されていた自然に関する知識が公共化かつ制度化し、技術と結びついたことです。これにより、科学は経済的にも軍事的にも現代社会において支配的な力を発揮するようになり、最終的に国家の支柱となっていきます。このプロセスに関して、国別の社会的文脈に留意しながら、なぜそのようなことが生じたのかに重点をおいて授業を進めていきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
高度科学技術社会(ハイテク社会)で主体的な生活者として生きていくために、現代の科学技術が成立する経緯に関する必須の基本知識を習得し、主体的かつ客観的に考察する態度を涵養する。さらには、歴史に対して「なぜ」という疑問を発することができる能力を養うこと、近未来の科学技術社会への洞察力を養うことが全体を通じての影の大きな目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 科学技術の発展の過程を時代的・国家的文脈を踏まえて概説できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 科学技術と社会の関係の変遷について自分の意見を述べるができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 科学技術が関連した社会的問題に関して積極的に情報を収集し、主体的に考えることができる。					
<b>態度の観点:</b> 科学技術の社会的あり方について主体的に問題を提起し、その課題を探究して、考察結果をまとめることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末に行う論述式の筆記試験がメインとなりますが、毎回の「質問・感想カード」の内容を元にして「参加点」を加味します。また、任意提出のレポート課題を出します。					
<b>教科書</b>					
科学の社会史(増訂版) / 古川安:南窓社, 2000					
<b>参考書</b>					
ハイテク社会を生きる / 調麻佐志・川崎勝他:北樹出版, 2003					
<b>メッセージ</b>					
歴史は決して「暗記物」ではありません。むしろ「想像力」の学問です。人工的な文系・理系の壁を越え、歴史好きな方を歓迎します。					
なお、もし受講希望者が 100 名を超えた場合には、「受講動機」などの簡単なレポートに基づくセレクションを行いますので、受講希望者は必ず初回に参加してください。					
授業に関する情報を随時 Web 上の「kawasaki's room」( <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kawasaki/index.html">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kawasaki/index.html</a> )に掲載します。参照してください。					
<b>連絡先</b>					
mailto:kawasaki@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
普段は宇部の小串キャンパスにいますので、相談がある場合は、授業の前後の時間に対応したいと思います。事前に上記のアドレス宛にメールで予約してもらえると幸いです(上記アドレスにメールを送る際には、できるだけケイタイからのメールは避けてください。また、適切な件名を付けるとともに、自分が誰であるのかを名乗ってください)。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002352002
<b>開設科目名</b>	環境学 [Environmental Science]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全(農優先,工除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	藤間 充			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>20 世紀後半の産業の発展は我々の生活を著しく豊にした。しかしその一方で、地球温暖化、大気・水質の汚染、森林や野生生物の減少などの環境問題を引き起こしてきた。21 世紀は環境の世紀とも言われ、人類の持続的な発展のためには様々な環境問題に対処することが急務である。しかしながら、実際には環境問題への対策は遅々として進んでいないのが現状である。</p> <p>環境問題は多岐に渡るが、本講義では我々にとってもっとも重要である食料生産と環境の関係を考えることにより、環境の実情、対策の方策などについて講述する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
環境問題について多面的に理解し、人類が置かれている現状を把握することを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 環境問題と人間活動(農業)の関係の現状を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 環境問題の対策について論じることが出来る。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 身近な環境問題に積極的に目を向ける。					
<b>態度の観点:</b> 復習及び自主学習を行なう。					
<b>技能・表現の観点:</b> 学習内容を的確に文章で表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回授業終了時に行う小テスト、数回のレポートを総合して評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
本講義は農学部学生が対象であるが、受講生数に余裕がある場合に限り、他学部の学生を若干名受け入れる。					
<b>連絡先</b>					
農学部附属農場 mtoma@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002355012
<b>開設科目名</b>	環境と人間 [Humans and Environment]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(獣医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	澤本 章			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
教育、人間、環境、科学の範疇で、教育を通して人材を育成することはこれからの日本にとって重要です。若い人の力が日本の将来には必要です。日本の教育の実状を探り、現状の問題やそれを解決するためにどのようなことが行われているかを紹介します。また、英国の教育状況についても説明します。環境問題についても概説します。教育や環境をどのように改善するべきかを考えてみます。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本の教育の実状、問題点を理解できる。教育がどのようにあるべきかの自分の考えをもつことができる。環境問題の状況を説明できる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 日本の教育の実状を知り、理解することができる。環境問題の知識を得て、それを理解することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> これから日本の教育がどのようにあればよいかを考え、判断できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日本の教育、環境に関心を持ち、教育及び環境を改善する意欲を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 日本の教育をとおしてこれから日本が発展するためにはいかにすればよいかを考える態度を身につける。環境問題を考え、環境を改善する態度を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内レポート、授業外レポート、授業中の態度、出席点を総合して評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
これから日本がさらに繁栄するには、若い人の力が必要です。そのためにはどのようにすればよいかを、教育をとおして考えます。また、日本の教育上の問題や環境の問題などについても考えます。					
<b>連絡先</b>					
〒753-8513 山口市吉田 1677-1 山口大学教育学部附技術教育金属加工澤本章 TEL/FAX083-933-5395, E-mail: sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日、10:20 ~ 11:50					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002355013
<b>開設科目名</b>	環境と人間 [Humans and Environment]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(獣医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山本 豪紀, 野口 三千彦, 比嘉 充, 村上 ひとみ, 田中 秀平, 陳 禮俊, 藤原 勇, 山崎 鈴子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
地球環境に関する問題が深刻さを増す昨今, 様々な観点から環境問題を分析し, 解決への方策を探ることが重要です. この講義では, この講義では自然科学・工学・農学・社会科学の観点から環境問題およびその解決法について考えます.					
<b>授業の一般目標</b>					
環境と人間にかかわる諸問題を, 自然科学・工学・農学・社会科学の観点から多面的に理解する.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 環境問題を自然科学・工学・農学・社会科学の観点から説明することができる. 2. 環境問題の解決に向けての取り組みを説明することができる.					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 環境問題をその原因と関連付けて説明することができる. 2. 自然科学・工学・農学・社会科学の先端技術・知識と環境問題とを関連付けることができる.					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 地球全体の問題として環境問題を捉えることができる. 2. 環境問題とその解決へ向けての取り組みについて積極的に調べることができる.					
<b>態度の観点:</b> 1. 地球全体における環境問題を理解する. 2. 科学技術の環境に対する功罪に理解を示す. 3. 科学技術と環境との関わりに理解を示す.					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 環境問題についてデータベース等から調べることができる. 2. 環境問題についてを分かりやすく説明できる.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テストおよび課題レポートにより評価する.					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002321003
<b>開設科目名</b>	漢文 [Chinese Classics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	南部 英彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中国の歴史・文学・思想のいずれかの領域に関わる漢文資料を選読していく。 テキストの読解においては、予習してくることを前提とし、適宜発表を求め、受講者講義の第一回目に本年度に取り上げるテキストを示す。					
<b>授業の一般目標</b>					
漢文を、訓読法により読むことを通して、中国の歴史、思想、文化に対する関心を深め、更にそれを自分なりに評価・批判する態度を養おうとする。 具体的には、(1)各自の漢文訓読の力量をいささかなりとも上げる。(2)中国古典の文章や考え方、あるいは歴史に対する関心を深める。(3)漢文資料に示された内容を自分なりに批判しうる力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 資料読解に際して、必要な知識を得て、それを活用できているか。					
<b>思考・判断の観点:</b> 資料読解に際して、綿密な読解に基づいた自分なりの思考が展開できているか。					
<b>態度の観点:</b> 受講態度が真摯であるか。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
基本的には、授業中における発表と受講時における討議の姿勢を助案することにより行う。場合によっては、学期末に試験か、レポートを課すことがある。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
漢和辞典を一冊用意して下さい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002353004
<b>開設科目名</b>	技術概論 [Introduction to Technology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工・生資			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	合田 公一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>主要工業製品において最多使用される鉄と鋼の製法技術史について概説するとともに、近代産業の発展において果たした製鉄、製鋼技術の役割について触れる。さらに、その他の主要な工業材料であるアルミニウム、セラミックス、プラスチックや複合材料の性質について講述する。また、地球環境問題、特に地球温暖化と技術発展の関係についても概説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>様々な材料技術について理解するとともに、技術発展が地球環境問題といかように関連するかについて考察できることを目指す。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 鉄と鋼の製法技術史および主要工業材料について理解する。  ・技術の発展にともなう地球環境問題について状況を把握する。  <b>思考・判断の観点:</b> 材料のしくみをひもとき理解できる思考力を養う。  <b>関心・意欲の観点:</b> 材料技術を認識し、それにどれほど関心を持つことができるかを問う。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業への参加意欲 数回のレポート点および試験結果から総合的に判定する。  後半においては、授業内外のレポートが課され、それらの評価は成績に影響する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
goda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002372015
<b>開設科目名</b>	キャリア形成とコミュニケーション			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教),3年(経・理・農)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	平尾 元彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>コミュニケーション能力は、企業が新入社員に求める能力の第一にあげられる基本的な能力であり、これから職業社会に乗り出す学生にとってコミュニケーションスキルの獲得は重要な課題となっている。本講義は、キャリア形成の基本的な考え方を理解した上で、職業人として必要なコミュニケーション能力の向上を目的とするものであり、一部にグループ学習をとり入れた実践形式で講義を行う。学んだことは就職活動にいかしてほしい。</p> <p>グループワークを行うため受講者を30名以内とし、希望者多数の場合は抽選を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
キャリア形成の重要性を理解し、自己表現力を向上させる					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> キャリアの基礎理論、コミュニケーションの基本を理解する					
<b>技能・表現の観点:</b> インタビュー・プレゼンテーションの技法を習得する					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への参加、授業中のプレゼンテーションで評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
就職支援室(共通教育棟1階)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002371009
<b>開設科目名</b>	キャリアデザイン			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	辻 多聞			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>キャリアデザインとは、一言で言うならば「人生設計」です。キャリアをデザインしていくうえで、5つの事項に誰もが遭遇します。</p> <p>長期にわたることなので、不確定でデザインのしようがない。</p> <p>なにが起こるかかわからないので、偶然に身を任せようがいまい。</p> <p>いつもキャリアの問題を考えているのはうとうしい。</p> <p>時代は、働く個人にキャリアについて考えるように要請し始めている。</p> <p>節目のときだけは絶対に強く意識してデザインすべきものがキャリアだ。</p> <p>を除くと上記項目はキャリアデザインを行っていくうえでの葛藤といえます。皆さんは、大学生活をすでに半年以上終えました。そして大学生活にもそろそろ慣れてきたことと思います。一方で自身のキャリアについて考えながら大学生活を送っていかねばならない時期を迎えたとも言えます。つまり、すでに上記葛藤に遭遇している、もしくは近々遭遇する可能性がある状態です。葛藤に対する回答は自らの力で導き出すしかないとも言えます。しかし何のヒントもなく回答を出すことは非常に難しいと思われます。本講義が、自身のキャリアを見つめてみる、デザインしてみる、さらにそのために大学生活で何をすべきかが見出せるきっかけとなることを願っています。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
自分自身のキャリアデザインについて真剣に考えてみることを、さらに自身で考えたキャリアデザインにそって、より有意義に大学生活を過ごすための目標を明確にすることを、この講義の目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回のミニレポート(本日の講義で学んだこと等を記載)、および中間レポート・最終レポートを総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
将来的には、一部をのぞいてほぼ皆さんは就職することになります。まずはキャリアデザインの一步として就職というものを知ってもらいたいと思います。次にキャリアデザインを進めるうえで、人とのコミュニケーションが非常に重要になります。この講義を通して自己表現能力を磨いてもらいたく思います。最後に、先人の様々な体験談から、自らのキャリアをデザインするきっかけ、さらにそれを実現するための大学生活の過ごし方のヒントを見つけてもらいたいと思います。					
<b>連絡先</b>					
ttsuji@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1002371017
<b>開設科目名</b>	キャリアデザイン			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	辻 多聞			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>キャリアデザインとは、一言で言うならば「人生設計」です。キャリアをデザインしていくうえで、5つの事項に誰もが遭遇します。</p> <p>長期にわたることなので、不確定でデザインのしようがない。</p> <p>なにが起こるか分からないので、偶然に身を任せようがいまい。</p> <p>いつもキャリアの問題を考えているのはうとうしい。</p> <p>時代は、働く個人にキャリアについて考えるように要請し始めている。</p> <p>節目のときだけは絶対に強く意識してデザインすべきものがキャリアだ。</p> <p>を除くと上記項目はキャリアデザインを行っていくうえでの葛藤といえます。皆さんは、大学生活をすでに半年以上終えました。そして大学生活にもそろそろ慣れてきたことと思います。一方で自身のキャリアについて考えながら大学生活を送っていかねばならない時期を迎えたとも言えます。つまり、すでに上記葛藤に遭遇している、もしくは近々遭遇する可能性がある状態です。葛藤に対する回答は自らの力で導き出すしかないとも言えます。しかし何のヒントもなく回答を出すことは非常に難しいと思われます。本講義が、自身のキャリアを見つめてみる、デザインしてみる、さらにそのために大学生活で何をすべきかが見出せるきっかけとなることを願っています。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
自分自身のキャリアデザインについて真剣に考えてみることを、さらに自身で考えたキャリアデザインにそって、より有意義に大学生活を過ごすための目標を明確にすることを、この講義の目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回のミニレポート(本日の講義で学んだこと等を記載)、および中間レポート・最終レポートを総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>将来的には、一部をのぞいてほぼ皆さんは就職することになります。まずはキャリアデザインの一步として就職というものを知ってもらいたいと思います。次にキャリアデザインを進めるうえで、人とのコミュニケーションが非常に重要になります。この講義を通して自己表現能力を磨いてもらいたく思います。最後に、先人の様々な体験談から、自らのキャリアをデザインするきっかけ、さらにそれを実現するための大学生活の過ごし方のヒントを見つけてもらいたいと思います。</p>					
<b>連絡先</b>					
ttsuji@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水5-6	<b>時間割コード</b>	1002372014
<b>開設科目名</b>	キャリアと就職			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工3年			<b>学年</b>	3~
<b>担当教員</b>	平尾 元彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>キャリアとは、職業経験、働く力、仕事にかかわる人生経路を意味する言葉である。学生は皆、大学を卒業(あるいは大学院を修了)して新たな活躍のステージへと移行するが、自分自身の将来のキャリアを考えて進路選択をすることが望ましい。その最初の活動が大学生の就職活動であり、大学院への進学を含む進路選択活動である。本講義は、「自分のキャリアは自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とするものであり、経済・社会、企業、そして自己理解のための理論および現実を学ぶことで、将来のキャリア選択や、現実問題として直面する就職活動に役立つ知識と方法論の習得をめざす。</p> <p>授業は講義形式で行うが、一人一人が自分の問題としてキャリアを考えることができるように、宿題レポートを多数とり入れた実践的な講義をめざしている。学んだことは自分の就職活動にいかしてほしい。</p> <p>なお、この講義は工学部と学生支援センターが共同で開講するものであり、工学部の学生にあわせた講義内容で実施する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論習得する</p> <p>働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する</p> <p>社会人基礎力の重要性を理解し、高めるための方法を理解し、実践への意識を高める</p> <p>キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>働くことにかかわる経済・社会・企業に関する知識</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>自分のキャリアを自分で考えるための思考力</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>キャリア選択に関する意欲、働くことに関する意欲</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>毎回提出を求めるとレポートのほか、課題レポート(宿題)にて評価する。レポートは「技術人材インタビュー」などを予定している</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>総合教養「キャリアと就職」は、前期火曜日3・4限、水曜日1・2限、水曜日5・6限、水曜日7・8限の4コマを吉田キャンパスで開講、後期は常盤キャンパスで水曜日5・6限の1コマ開講する。基本的には同じ内容であり、履修できるのはいずれか一つである。ただし、当該コマにおいて優先される学部にあわせて講義の内容を若干変更することもある。第一回目の講義で履修時間帯の希望をとるので必ず出席すること。</p> <p>科目の性格上、3年次およびそれ以上の学年のみ履修可能とする。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>就職支援室(共通教育棟1階)</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002332002
<b>開設科目名</b>	教育学 [Pedagogy]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	小川 勤			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>私たちは大学に入学するまでに小学校から高校まで最低 12 年間に渡って学校教育の恩恵を受けてきました。しかし、教育が人間の発達に果たす役割や教育のやり方、学校のしくみ、教育委員会のしくみ、教育課程の編成方法、教師の仕事などについて意外に知らないことが多いことに気がつきます。学校を取り巻く状況は今まさに混沌の時を向かえています。高校における必修科目の未履修問題やADHDやアスペルガーなどさまざまな学習支援が必要な生徒の増加、少子化の中の大学入学試験の激化などの課題が山積みです。そこで本授業では、教育を初めて学ぶ学生のための「入門」授業として教育の各領域や教育の今日的な課題について、授業担当者の教員や指導主事の実践経験を交えて受講生にわかりやすく具体的に概説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1)教育の各領域の基本的事項を理解する。  (2)今日的な教育問題について関心を持ち、教育のあり方について主体的に考え、自分の意見を論理的に整理し、まとめることができる</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>教育の各領域の概要を理解し、基礎的事項について説明できる。  <b>思考・判断の観点:</b>授業で取り上げた各領域や今日的な教育課題について自分の意見を論理的に述べるができる。  <b>関心・意欲の観点:</b>教育全般に対する関心を持ち、教育問題について自分なりの視点から積極的に考えることができる。  <b>態度の観点:</b>教育について、身近な話題を参考に積極的に分析しようとする心がかかることができる。  <b>技能・表現の観点:</b>日本の教育制度や教育的基本課題について、誰に対してもわかりやすくプレゼンすることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>欠格事項: 欠席4回以上は単位認定を行わない。(欠席は3回まで)  授業</p>					
<b>教科書</b>					
<p>教育の原理 - 教育学入門 / 田代直人・佐々木司; ミネルヴァ書房, 2006</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>「教育」というものに少しでも関心のある人は積極的に履修してみてください。  なお、本授業は教職科目ではありませんが、教職に関心のある人の履修を大いに歓迎します。教職科目の「入門編」の位置づけになります。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>担当者メールアドレス: ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp  研究室直通電話 083-933-5085</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>小川研究室(本部棟3階)  毎週金曜日 午後2時~午後4時  研究室ホームページアドレス <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ogawa-t/">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ogawa-t/</a></p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金7～8	<b>時間割コード</b>	1002332003
<b>開設科目名</b>	教育学 [Pedagogy]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	長畑 実			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>深刻化する地球温暖化をはじめ、国・地方自治体の財政危機、人口減少・超高齢化、格差社会の到来、凶悪・異常な犯罪の多発、地域コミュニティの衰退など世界と地域をめぐる社会経済環境は激変し、時代と社会は歴史的な転換点に直面している。こうした中、地方分権改革、行財政改革が進められており、住民自治力の強化による地域主権の確立、持続可能な協働のまちづくりが喫緊の課題となっている。本講義では以上の時代認識に基づき、社会教育・生涯学習が住民力の強化(人づくり)と住民を主体とした地域づくり(まちづくり)に果たす役割を明らかにするとともに、全国の先進事例を取り上げ、法制度と行政、協働のまちづくり、公民館・博物館等社会教育施設、学校との協働などの視点から、今後の社会教育・生涯学習の課題について学習する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
地方分権時代における地域主権の課題、社会教育・生涯学習の人づくり・まちづくりに果たす役割、生涯学習とまちづくりの理論と実践に関する基本的知識を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>生涯学習・社会教育とまちづくりに関する基本的概念を理解している。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>生涯学習・社会教育とまちづくりの現状について、調査した内容から課題を指摘できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>生涯学習・社会教育とまちづくりの動向に関心を持ち、意欲的に調べている。</p> <p><b>態度の観点:</b>生涯学習・社会教育とまちづくりについて意識的に調べ、講義に臨むことができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>生涯学習・社会教育とまちづくりの実例について、調査した内容を分かり易くプレゼンテーションできる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>・出席状況、講義への参加態度、授業内課題、最終レポートを総合して行う。</p> <p>・最終レポート60%、出席・態度・発表・授業内課題40%</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>(1)前半は講義を中心とするが、後半は受講生による発表と討議を通して講義内容の理解を深める。また、毎回講義内容についての感想・意見・質問を記入するコミュニケーション・カードの提出を求める。</p> <p>(2)公民館、博物館等の社会教育施設と積極的に関わろうとする意欲と姿勢を求める。履修を希望する学生は前期期間中の週末、夏休み等を利用してできるだけ多くの社会教育施設を見学しておくこと。講義内で各自テーマを決め、発表を求める。</p> <p>(3)私語をするものは退場させる。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1002332004
<b>開設科目名</b>	教育学 [Pedagogy]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	福田 修			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本の戦後教育の歴史 現在進行している日本の教育改革の性格を、第2次世界大戦後の教育の歴史的展開から考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本の教育改革の性格について考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 戦後の日本の教育の展開を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 現在の教育改革の性格について歴史的に考えることが出来る。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 現在の教育について興味を持つことが出来る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
課題レポートと出席状況とを総合的に判断して評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
無断欠席,遅刻は認めない。欠席回数が授業実施回数の3分の1以上に及んだ場合には,単位は認めない。 携帯電話の電源は切っておくこと。 ノートは自主的にとること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1002371015
<b>開設科目名</b>	教職協働実践			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(小学校教員を目指す学生)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	岡村 吉永, 岸本 憲一良, 源田 智子, 霜川 正幸, 西岡 尚, 田中 理絵, 鷹岡 亮			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>社会の大きな変化を受けて、教員には、これまで以上に広く豊かな教養が求められるようになってきた。本授業は、教職課程における専門教育の基盤となるもので、学校等における実践的な活動を通して、学校や児童を取り巻く地域社会およびその実態に触れ、各個人や組織が担う役割や機能について理解を深めようとするものである。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>学校や地域における協働実践の導入科目(キーワード:「現場に触れる。’)として、コミュニケーション能力や調整能力、社会人として必要な基礎的能力等の必要性に気づくと共に、児童や教員等との触れあいを通して教育者として求められる資質・能力について自ら考える起点形成をおこなう。</p> <p>あわせて、実践的活動に不可欠な省察のための資料を作成し、適切に整理ができるための、基礎的スキルについても学ぶ。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 学校や児童を取り巻く社会環境やシステムについて、一般的な説明ができる。</p> <p>2. 学校や地域で活動する上で必要な基礎的事項を知っている。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 一般的な場面における適切な対応ができる。</p> <p>2. 報告、連絡、相談といった基本的事項に留意し、適切に判断しよとすることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 1. 学校や児童を取り巻く環境やシステムについて関心を有している。</p> <p>2. 教育を取り巻く社会状況等に関する課題意識を有している。</p> <p>3. 社会一般についての興味・関心を有している。</p> <p><b>態度の観点:</b> 1. 学校教員や児童、地域住民と積極的に関わろうとする態度を有している。</p> <p>2. 規則やマナーを尊重し、遵守しようとする姿勢を有している。</p> <p>3. 教員としての適性や身につけるべき資質能力について自ら考えようとする姿勢を有している。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 1. 自らの考えや主張を、他者に説明することができる。</p> <p>2. 相互に連携するために必要な最低限の技能を身につけている。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
実践活動への取組態度、意欲関心、マイストーリーシステムを使った報告と省察					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>* 事前に連絡先等の登録をしていただきます。</p> <p>* 保険(学研賠、ボランティア保険)への加入が必要</p> <p>* 実践活動を行う際は、健康を管理し、適切な服装をすること。</p> <p>* 忘れ物や遅刻があった場合、実践活動への参加を許可しない場合がある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>代表(岡村) okasun@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>緊急時(携帯電話) 08019382015</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002355011
<b>開設科目名</b>	暮らしの中の動物			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	木曾 康郎, 水野 拓也, 中市 統三			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
暮らしの中の動物たちについて, 4人の講師によるオムニバス形式で講義を行う。動物たちの置かれた状況, 人と動物の関係, 人と動物の共通の感染症, 動物たちの病気, 食資源としての動物達等々, に関して講義を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
動物たちの置かれた状況, 人と動物の関係, 人と動物の共通の感染症, 動物たちの病気, 食資源としての動物達等々, 私たちの暮らしの中で, 動物とどのように向き合うかを考えさせる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 我々の暮らしの中の動物たちに対する理解を深める					
<b>思考・判断の観点:</b> 動物とどのように向き合うかを考えさせる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 動物に対する態度を考えさせる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
4人の講義のレポートおよび出席点で評価する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
農学部獣医学科木曾康郎					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002371010
<b>開設科目名</b>	クローズアップ・ドイツ			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	HINTEREDER EMDE FRANZ, MARC LOHR, 斎藤 郁夫, 西村 一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
山口大学やその他の機関でドイツにかかわる研究をしているいろいろな人々が、ドイツでの生活体験や自分の研究分野に基づいて、「ドイツの映画」「ドイツの絵画」「ドイツの歴史や日常生活」「ドイツの社会保障制度」「ドイツの音楽」「ドイツの飲食文化」「ドイツと環境」といった視点から、ドイツについての情報を提供する。					
<b>授業の一般目標</b>					
現在 27 カ国からなっている欧州連合「EU」が現代の世界で果たしている役割は計り知れないし、中東情勢が依然として不安定な現在その存在意義が今後一層高まることは確実である。 この授業の目標は、ドイツ語の履修を問わずに、学生に、「EU」の中で中心的な役割を果たしているドイツの真の姿を様々な角度から伝えることで、ドイツをより身近に感じるようになってもらいたいということにある。異文化理解や外国語へのオリエンテーションにもつながると思われる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語圏の文化的諸相について知識を高める。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本の文化をドイツの文化との比較で把握することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ドイツとヨーロッパ連合について関心を抱く。					
<b>態度の観点:</b> 多文化主義的思考を身に付ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内レポート=30%未満、各担当教官ごとに課題を出し、100点満点で成績をつける。 マネージャーがそれを取りまとめ、計算し最終成績とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
講義で紹介されるのはドイツの一面にすぎない。その他の事柄についても出来るだけ自分で興味を持って調べるようにしてほしい。					
<b>連絡先</b>					
tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002331027
<b>開設科目名</b>	経済学 [Economics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(経除<)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	兵藤 隆			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>経済学ってどんな学問だかご存じですか？また、「経済学なんて役に立たない」なんて思っていないですか？そんな堅苦しいことを考えなくても結構です。この講義で経済活動や経済学についての理解を深め、新聞やニュースの情報にきちんと目を向けられるようがんばりましょう。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>この講義では、最終的に新聞をきちんと読めるようになることが目標です。新聞はテレビやラジオの番組表だけのためにあるものではありません。新聞には非常にたくさんの情報が詰まっています。私たちがこの社会で生活をしている以上、経済活動から目をそらすことはできません。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
Q&A 日本経済 100 の常識 2010 年版 / 日本経済新聞社編: 日本経済新聞社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>評価方法により、最終試験のみでは、単位取得が困難であると予想されるので注意していただきたい。</p>					
<b>連絡先</b>					
thyodo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002335019
<b>開設科目名</b>	契約と不法行為			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	油納 健一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
民法典に規定のある、契約法と不法行為法を講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
民法の基礎知識と法的に考える能力を身に付ける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と定期試験で評価する。					
定期試験は、事例式論述問題によって行ない、出席していなければ合格できない内容(友達から借りたノートを見て勉強しても合格できない内容)にする。それゆえ、毎回講義に出席し法学センスを養っておかなければ、合格は難しい。					
病気、家庭の事情、就職活動等で遅刻・早退・欠席した者に対して、救済することはない。					
なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつつこく主張したり、雑談・筆談して講義を妨害するなど、教員の指示に従わない者は不合格とする。					
試験の持込は認めない。また、試験の範囲は、講義の中で話したことすべて(雑談を除く)とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
民法の勉強は難しいので、まじめに勉強しないと単位は取れません。					
<b>連絡先</b>					
yuno@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
毎日研究室にいる。在室中は急用がある場合を除きいつでも相談に応じる。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002321006
<b>開設科目名</b>	言語学 [Linguistics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	中野 伸彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代日本語を対象として、そこに含まれるいくつかの規則を明らかにする。文の作り方・語の組み立て方等に関する問題をとりあげていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)現代日本語の持っているいくつかの規則について理解する					
(2)ふだん使っていることばに対して関心を持ち、それについて主体的考えることができる					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現代日本語の持っているいくつかの規則について説明できる					
<b>関心・意欲の観点:</b> ふだん使っていることばに対して関心を持ち、それについて主体的考えることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験により評価を行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
メールアドレス:n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp					
研究室:教育学部4階					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002342010
<b>開設科目名</b>	現代化学総説 [Introduction to Modern Chemistry]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教経			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	西口 毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講では、大競争時代を生きるのに有効性を持つと同時に、「自然について学ぶことの面白さ」が伝わる授業をめざしたい。それができるためには、高いレベルを保ちつつも、高校で化学を履修していない人でも理解できる分かりやすさと、新しい発見とが必要であろう。</p> <p>日常的現象、生命現象、環境問題、社会的諸問題などを、「それはなぜ起こるのか」という観点から解説する。最も身近な化学反応である燃焼については、毎回行う演示実験によって学ぶ。</p> <p>最も身近な化学反応である燃焼については、毎回行う演示実験によって学ぶ。</p> <p>すべての授業はパソコンからスクリーンに出力しながら行う。授業で使ったスライドは、全て Web ページ(<a href="http://chem.cge.yamaguchi-u.ac.jp">http://chem.cge.yamaguchi-u.ac.jp</a>)からダウンロードできるので、予習、復習に役立てて欲しい。</p> <p>学生諸君の質問(日頃の疑問など)にもできるだけ答えたい。電子メールによる質問にも答える。メール画面は、Web ページに付いている。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>多くの人にとって、これからの時代に必要なものは、できるだけ広い範囲の職務内容に適応できる幅広い知識と常識であろう。いま必要だと言われる「生きる力」とは何か。私は「豊かな常識+行動力」だと思う。この講義の目的も、自然科学的常識を豊かにすることである。そして、その目的を達成するには、自然科学的常識の必要性を学生諸君に納得してもらうことが必要であろう。</p> <p>授業では、授業内容に関連する練習問題を提示するので、それらを解いてみるのが望ましい。授業の終了時には、問題を出し、その答を紙に書いてもらう。授業中に理解できなかったことを、その解答用紙に書いておくと、次の授業開始時にそれについての解説が行われるであろう。この授業では、疑問を残さないようにしてもらいたい。</p> <p>また、学生諸君が、社会人になったときに自信をもって生きられるようにすること、つまり、自信をもって生きるために必要な能力と価値観の習得の手助けをすることが、教育でめざすべきものであると思うので、授業に時間的余裕があれば、これに関連することがらについての個人的意見も話す。それらも批判的に検討してもらいたい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>自然科学的常識を豊かにする。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>単に現象を知ることでは不十分である。常に、「その現象はなぜ起こるのか」という観点から、つきつめて考えるよう努めることが必要である。授業もそのような観点から行われるし、テストにも思考力を問う問題も出題される。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>関心・興味こそは、勉強意欲の根底にあるものである。物質に対する関心を高めることは、授業の大きな目標である。つまり、学生諸君に、「化学は面白い」と思ってもらえることも、最大と言っていいほどの目標である。</p> <p><b>態度の観点:</b>どのような価値観を持って生きるのか、今何をなすべきか、勉強することの価値は何か、ということも授業中に討論したい。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績は、主として、期末テストの点数に基づいて評価する。希望者が過半数を超えれば中間テストも行う。中間テストを行った場合には、期末テストと中間テストの比重は1:1である。テストの成績が合否のボーダーラインに近い人には、出席点を考慮することもある。</p>					
<b>教科書</b>					
現代の生活と物質 / 西口 毅:化学同人, 1996					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>学生諸君にとって重要なことは、単位を取るのではなく、将来に備えることであろう。このような観点から、時間的余裕があれば、諸君が生きる時代についての私見を話すこともある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002372013
<b>開設科目名</b>	現代経営学事情			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)・3年(経・理・農)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	内田 恭彦, 長谷川 光圀, 古川 澄明, 柳田 卓爾, 有村 貞則, 藤田 健, 城下 賢吾, 成富 敬, 中田 範夫, 山下 訓, 石田 成則, 藤田 智文			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、経営学に関するオムニバス方式の講義をおこなう。経済学部経営学科の各教員が専門領域の基礎知識と最新のトピック・研究内容について、学生にわかりやすく説明する。					
<b>授業の一般目標</b>					
経営学で議論されている問題に関心を持ち、問題の所在や内容を知る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>思考・判断の観点:</b> 問題について最終レポートで表現する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 個別のトピックに関心を示し、小レポートで表現する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1. 学期末レポート(60%):各教員がそれぞれ担当した領域から課題を出す。受講者はその課題の中から一つの課題を選択し、レポートを作成して提出する。					
2. 小レポート(40%):各トピックの関心事・感想等を出席カードに記入し、提出する。					
3. 出席(欠格条件):8割以上の出席を必須とする。出席回数が開講回数の8割に満たない場合、単位を認めない。					
<b>教科書</b>					
経営学をやさしく学ぶ / 山口大学経済学部経営学科:中央経済社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業の順番・内容は変更になることがあります。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002342009
<b>開設科目名</b>	現代生物学総説 [Introduction to Modern Biology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教・経			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	宮川 勇, 室伏 擴			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では遺伝子、タンパク質、細胞をキーワードとして、現代生物学の基本的考え方を学ぶ。そして、生物学に関するニュースに関心を抱き、内容を理解できるよう基本的な知識を修得する。					
<b>授業の一般目標</b>					
現代生物学の基本的考え方を学ぶ。生物学に関するニュースについて内容を理解できるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 生物学に関するニュースを理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 学んだ生物学の基礎知識を様々な現代的問題に応用し、思考できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 生物学の基本を理解し、様々な社会的話題に関心を抱くことができる。					
<b>態度の観点:</b> まじめに授業に取り組み、関心のある文献を調べることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験とレポートにより総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
室伏 擴(理学部3号館)					
宮川 勇(総合研究棟703号室)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002342012
<b>開設科目名</b>	現代生物学総説 [Introduction to Modern Biology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教 経			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	祐村 稔子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ヒトを含め、すべての生物は「細胞」という共通の基本単位から構成されています。一方、「細胞」を構成する部品:細胞小器官は生体分子の集合体であり、すでに生きてはいません。このように「細胞」は、「生命」と「物質」の境界をなす「生命の最小単位」といえます。本講義ではこのような「細胞」の構造と機能について、分子レベルでの解説を行ないます。加えて、近年驚くべき進歩をみせるバイオテクノロジーの基礎知識についても、身近な話題を中心に紹介し解説します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>「細胞」に関する分子レベルの知識は、生命を理解する上で必要不可欠な基礎知識となります。加えて、今日、医療、農業、工業とさまざまな分野にわたり、日常生活の隅々にまで浸透しつつある多くのバイオ関連技術と日常に氾濫するバイオ関連情報を、正しく理解し、自ら評価するために必須となっています。本講義では、生命科学の進歩をいたずらに恐れる事なく、正しい知識に基づいて、何が有益で何が危険なのかを自ら考え判断し、未来を見極める知識、能力を身につけることを目標とします。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>細胞を構成する生体分子についての基礎的な知識を学んだ後、生体分子から「細胞」がどのように構成され、どのような原理で機能しているかについて、概ね理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>生命科学関連の身近な話題について、科学的に理解、自ら考察できること。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>生命科学関連の身近な話題に日常的に興味、関心を持ち続ける事。</p> <p><b>態度の観点:</b>授業中、私語は慎んでください。おしゃべりしたい人は出てこなくていいです。自分で勉強して下さい。私語の止まない場合は受講取り消します。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>生命科学関連の身近な話題について、科学的に理解、考察し、自分自身の考えを明確に表現できる事。</p> <p><b>その他の観点:</b>ヒトも、地球上の多種多様な生物のなかの一種で、みな共存しているという感覚をもていただければと思います。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験(テキスト、ノート、プリント参照可) 80%</p> <p>宿題レポート 20%</p>					
<b>教科書</b>					
<p>生きもののがらくり / 中村、祐村、山本 編:培風館,2006</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>古典的生物学にとどまらず、物理学、化学、地球科学など自然科学全般の知識に基づいての生命現象の理解を旨とします。高校までの生物の予備知識は問いませんので、好奇心と意欲を持って生命科学に親しみたいとお考えのみなさんの受講をお待ちしています。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>ご質問、その他は、discoideum@yahoo.co.jp までメールでお願いします。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1002342016
<b>開設科目名</b>	現代生物学総説 [Introduction to Modern Biology]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教 経			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	加藤 美知代			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
生物の基本単位の細胞について、物質構成、生命活動を支える仕組み、細胞が集まって多細胞生物を構成する仕組み、新たな生命を作り出す生殖、遺伝や生物群集の中で生命活動を維持するための機能等について解説する。また、現在の生物学の知見を利用した技術についても述べる。					
<b>授業の一般目標</b>					
生物とはどのようなものかを解説し、現代生物学の考え方や基礎的知識を習得出来る様にする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 生体分子の基礎的理解、生物を構成する細胞の仕組みを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 生命科学関連の身近な話題について、科学的に理解し、考察して自分の考えを持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 生命科学関連の身近な話題について関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 授業内容について質問することが出来る。また、質問されたことに関して答えることが出来る。					
<b>技能・表現の観点:</b> 関係する記事や文献を読み、自分の考えをまとめることが出来る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート(30%) 期末試験(50%) 授業態度(20%) で評価します。					
期末試験の内容は講義内容が理解出来ているかどうかについてとその理解により自分の考えがまとめられているかにより評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
文系のための生命科学 / 東京大学生命科学教科書編集委員会; 洋土社, 2008					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5～6	<b>時間割コード</b>	1002342015
<b>開設科目名</b>	現代地球科学総説 [Introduction to Modern Earth Sciences]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	武田 賢治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代地球科学・宇宙科学が明らかにしてきた地球や宇宙についての知識・理論を、研究方法の紹介などを交えながら、平易に解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
私たちのすみかである地球や宇宙についての知識・理解を深める。また、日本列島の宿命である地震や火山噴火について、その仕組みを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 宇宙や地球の様子を概略説明できる。					
2. 講義で紹介された地球の歴史や地球環境の変遷の一端について説明できる。					
3. 地震、火山などの地球表層の変動メカニズムをある程度説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 宇宙や地球で生起している現象を分析的に考えることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 宇宙、地球、地震・火山噴火等について継続的に関心をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 防災対策に積極的に立ち向かう態度をもつ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート30%、期末試験70%の評価割合で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
takeda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002322005
<b>開設科目名</b>	芸術概論(音楽) [General Fine Arts (Music)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	斎藤 完			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
「日本音楽とは何か」を考えつつ、その歴史を概観する。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本音楽の自明性を批判的に考察したのちに、日本音楽史を概観する。なお、近代以降の「洋楽」ならびにそれに影響を受けて発生したジャンルをも対象とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
知識よりも、考え方(思考・判断)の習得を重視し、毎授業での小レポートと期末レポートでそれを評価する。 なお出席も重視し、3回以上欠席した場合(公欠を除く)は原則として欠格とする。なお、遅刻は3回で、欠席1回とみなす。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講希望者が定員を超えた場合は、志望動機に基づく選考をおこなう(クジではない)。第一回目の授業に欠席/遅刻した者に対しては、原則として受講を認めない(定員越えにともなう選考の対象にもならない)。また、遅刻/早退に関しては厳しくチェックする。私語も厳禁。					
<b>連絡先</b>					
mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
上記連絡先によりアポイントメントを取り、来室してください。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1002322003
<b>開設科目名</b>	芸術概論(音楽の歴史) [General Fine Arts (Music History)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	池上 敏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>西洋芸術音楽の歴史を中心に、音楽の発生から20世紀の音楽までの歴史を講義します。</p> <p>原則として暦年順に、と考えていますが、必ずしも「通史」は考えていない。また「音楽の」歴史を中心に講義しますが、どちらかといえば「音楽を題材にした芸術史」、「社会と音楽の歴史的な関わり」というようなことを中心に講義するつもり。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
芸術音楽の歴史についての概要を把握し、芸術史とは何か、を理解すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 芸術というものについての概念を理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 芸術音楽、及び音楽一般についての関心を持つこと。意欲的に音楽に接する姿勢を涵養すること。					
<b>態度の観点:</b> 音楽を聴く態度の確立。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績は最後に提出してもらったレポートを中心に、受講態度などを加味して評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>講義を受けるだけが大学教育ではない。一般的な知識はネット・ワークでも本でも得ることができるが、本当に価値あるものはそうそうたどり着けない。また、人と人が直接触れ合うことが実は一番情報が多い、ということも理解するべきでしょう。</p> <p>使用予定の講義室の収容人数に限りがあるため、受講制限の可能性が大きい事を承知されたい。</p>					
<b>連絡先</b>					
教育学部音楽棟109研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
新年度の時間割確定後に通知					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月9～10	<b>時間割コード</b>	1002322002
<b>開設科目名</b>	芸術史(日本近代美術史) [Fine Arts History (Modern Japanese Art History)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	菊屋 吉生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本の明治以降の近代日本美術史の諸問題について論じる。近年この分野では、若い研究者による観点に立った意欲的な論文、著書の発表や、あるいは各地の美術館などで、それまであまり知られなかった近代の美術動向や作品に焦点が当てられた展覧会が次々と行なわれ、飛躍的にその研究の厚みが増しつつある。この講義では、そうした近年の新しい研究成果もふまえつつ、とくに重要と思われるいくつかのテーマを設定しながら、日本の近代美術が抱えてきたさまざまな問題について考察してみたい。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)近代日本美術に関する近年の問題点を理解する。					
(2)明治以降の日本の美術の発達にまつわる近代の状況を、世界の動きと対比しながら考察する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 日本の近代美術の流れのなかにある問題点を理解し、説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本近代美術の各問題を、自分の考えや意見を交えながら語ることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 美術の流れを土台にしながら、日本の近代の形成のされ方にも関心をもってもらおう。					
<b>態度の観点:</b> 現在において自明のごとく語られている美術の概念や語句の本質に対する、正当な認識と批判精神をもってもらおう。					
<b>技能・表現の観点:</b> 日本の近代美術の問題点を自分なりに整理することにより、時代状況と芸術作品との関係を考察する分析力を養成する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への出席はもちろんであるが、最終試験の内容を重視したい。授業を通して、語られたテーマを自らがどう受け止め、どのように考えるかを問いたい。テーマに対する分析能力、考察力、論理性などを評価したい。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
最終試験を行ないませんが、ノートの持込は認めます。そのため、日ごろの授業のノートはしっかりととってもらいたい。その際、授業中にその内容をふまえた上で、自らが考えたことなどをメモしておいてもらうと役立つと思う。また授業を行なう教室のキャパシティの関係で受講者数を90名までとしたい。そのため、受講希望者多数のときは初回に抽選を行なうので、かならず出席のこと。					
<b>連絡先</b>					
kikuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002322007
<b>開設科目名</b>	芸術実践(音楽) [Fine Arts Practice (Music)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	高橋 雅子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>いろいろな合唱曲を演奏することによって、合唱の楽しさを味わい、その奥深さの一端に触れる。発声練習・パート練習・アンサンブル活動を通して、声の正しい出し方を知り、ひとりでは成し得ないハーモニーの醍醐味を味わうことを目指している。日本の代表的な合唱曲、世界の名曲や民謡、季節を感じる曲など、初心者でも達成感を得られるような選曲を心がけている。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>正しい声の出し方を獲得する。  自分のパートを正しい音程で歌うことができる。  他のパートの音を聴きながら歌うことができる。  指揮者の指示にしたがって演奏できる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>正しい発声法を理解する。  合唱のジャンルや様式について知識を持つ。  <b>思考・判断の観点:</b>与えられた情報を判断し、表現に生かす努力をする。  <b>関心・意欲の観点:</b>合唱に興味を持ち、楽しく意欲的に講義に参加できる。  <b>態度の観点:</b>遅刻・私語禁止、静かに鑑賞し、演奏のときは一生懸命に取り組むこと。  自分のパートを歌いながら、他のパートを聴く気持ちが欲しい。  <b>技能・表現の観点:</b>自分のパートを正しく歌唱することができる。  他のパートを聴きながら、合唱することができる。  指揮者の指示にしたがって、表現しようとする。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、練習態度、レポートなど					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
合唱大好き人間、集まれ!					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002322006
<b>開設科目名</b>	芸術実践(音楽) [Fine Arts Practice (Music)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	成川 ひとみ			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ピアノ曲の演奏に取り組む。					
<b>授業の一般目標</b>					
各自の能力と目的に適したピアノ曲を選曲し、個別の実技指導を行う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>思考・判断の観点:</b> 楽器が正しく操作できる。また楽曲を分析したり、演奏表現を探究したりできる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 各自の基礎的技術トレーニングに前向きに取り組み、表現の工夫ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1.実技試験による評価を行う。					
2.出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
個別指導となる為、受講人数を8人程度までとする。					
<b>連絡先</b>					
nr1103@yamaguchi-u.ac.jp Tel. 083-933-5364					
<b>オフィスアワー</b>					
火~金曜日昼休み					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002322009
<b>開設科目名</b>	芸術実践(音楽) [Fine Arts Practice (Music)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	西村 順子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ピアノが好きな人、以前に演奏経験がある人が、各人の進度に合わせて経験を進めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
各人が決めた目標に向かって努力する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>思考・判断の観点:</b> 自分の力量にあった目標をたてることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積み上げる努力ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
実技試験と出席率にて評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
jun_n@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線5363					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002322008
<b>開設科目名</b>	芸術実践(音楽) [Fine Arts Practice (Music)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	林 満理子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、声楽を学ぶ。自分の声と向き合い、自分の声を知る。それぞれの力量に合わせた課題を教材として、体の使い方、発声、呼吸など、歌うための基本を学ぶ。それをもとに、課題を音楽的に表現する。ポップスは教材として扱わない。授業の進め方は、毎週一人10分程度の個人レッスン形式で行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
声を出すことにとどまらず、音楽的に表現できる。 受講者全員の前で演奏できる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の授業への取り組み方と、受講者全員の前での演奏を併せ総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1002322011
<b>開設科目名</b>	芸術実践(美術) [Fine Arts Practice (Art)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	上原 一明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
彫刻の実践により、定員 16 名、希望者多数の場合厳粛な抽選により選出。彫刻世界の講義と実技をします。スライドによる作品紹介と彫刻理論の講義。古代遺跡や、仏像彫刻の古典技法などを取り上げながら、現代彫刻との関連性を探る。実技は最も基本的な粘土によるレリーフと石膏取り、テラコッタを制作する。					
<b>授業の一般目標</b>					
彫刻世界の知識を高めると共に、社会とどのように関係しているのかを認識する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 彫刻に関する知識と理解が高まる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 彫刻的思考を学習する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 彫刻表現に対する関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 共同作業における制作態度の重要性を学ぶ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 粘土と石膏の扱いが出来る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席状況や授業態度、作品制作状況と提出作品で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
彫刻世界に触れてください。					
<b>連絡先</b>					
上原研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 12:00～14:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3～4	<b>時間割コード</b>	1002331023
<b>開設科目名</b>	産業倫理 [Industrial Ethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	電気2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	只友 一行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
複雑化した高度科学技術社会における技術者の役割と責任を倫理学の視点で学習し、考察する。					
<b>授業の一般目標</b>					
高度科学技術社会における技術者の役割と責任を概観し、将来の我々が判断し、選択する時の基本的な原理原則を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.我々は技術のプロフェッショナルであることを理解する。 2.プロフェッショナルである技術者の社会的責任について理解する。 3.全てに優先する価値は公衆の安全であることを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.我々は技術のプロフェッショナルの卵である自覚を持つ。 2.社会的責任大きいプロフェッショナルである技術者として自覚する。 3.全てに優先する価値は公衆の安全であることを将来の判断・行動指針とする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
放送大学の教材を利用する。放送大学指定のレポート、期末試験に加えて授業中の演習レポートを加味して総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
技術者倫理 / 札幌順: 放送大学					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002331025
<b>開設科目名</b>	産業倫理 [Industrial Ethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	機械2年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	宮本 政英			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
工学部を卒業する人の多くは、科学技術を利用する業務に携わる技術者になります。授業では、技術者が直面する倫理的なジレンマについて、その考え方や解決方法を、具体的な事例を取り上げ疑似体験することにより学びます。このような、主に、事例を用いた学習を通じて、技術者のプロフェッショナルとしての行動規範と責任について学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
技術が社会や自然に及ぼす効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解を深める。倫理的な想像力および分析力の必要性を認識し、具体的事例の分析・討論を通じて道徳的な自律性を高める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 技術者の倫理的な問題とはどういうものなのか、何が倫理的な問題なのか、これらに関する知識・理解を持つ。					
<b>思考・判断の観点:</b> 道徳的な問題を分析する能力を高める。意見の不一致と曖昧さを大目に見ること、このような状態に耐えることができる能力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 道徳的な想像力を刺激し、そのような問題に対する感受性を高めること。技術者としての倫理的責任感を高める。					
<b>態度の観点:</b> 倫理問題に対して積極的に取り組むことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の意見・見解を適切な判断基準と共に、口頭や文章で表現・発表できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
15週目に行う期末試験の成績を40%に評価する。毎週の授業で行う、小テスト、検討課題の回答などの成績を60%に評価する。					
<b>教科書</b>					
第三版 大学講義 技術者の倫理入門 / 杉本泰治・高城重厚:丸善株式会社, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
プロ意識を持った誇り高い技術者を目指してあらゆる勉学に励んで欲しい。					
<b>連絡先</b>					
miyamoto@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002331032
<b>開設科目名</b>	産業倫理 [Industrial Ethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	応化3年			<b>学年</b>	3~
<b>担当教員</b>	笠谷 和男, 中山 則昭, 横田 守久			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
産業あるいは組織が社会と係わりを持つときに必要となる倫理について学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
産業あるいは組織が社会と係わりを持つときに必要となる倫理について、 既存の事例を解説を通して実際の技術者の持つべき倫理について理解する。 情報セキュリティー、知的財産権などさまざまな局面についても学習する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 産業あるいは組織における倫理規範が必要となる事例を説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 講義に主体的に参加し、意見を述べることができる。あるいはレポートとして提案することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
講義には毎回出席し、毎回レポート提出または小テストが原則である。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
他の専門科目とは異なる内容ですが、卒業後社会で働くときには必ず考えなければならない課題が多いので聴講してよく考えてください。					
<b>連絡先</b>					
本館4階北側(笠谷)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002331036
<b>開設科目名</b>	産業倫理 [Industrial Ethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	循環2,3年			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	佐伯 隆, 今井 剛			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
環境に関する必須の産業倫理について、環境問題、環境改善への取り組み、および循環型社会の構築という面から、技術者としての役割とその使命、倫理観を考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理の歴史の変遷を学ぶ。</li> <li>2. 産業倫理の考え方を理解し科学技術者の倫理、科学技術と社会との関わり合いを知る。</li> <li>3. 事故例を学ぶことにより、事故を防ぐためにどのような行動が要請されるかを知る。</li> <li>4. 工学の哲学を考える力を身に付ける。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ・人間社会の発達と倫理の変遷を理解できる。 ・産業倫理の考え方を理解し、科学技術者の倫理、科学技術と社会との関わり合いを説明できる。 ・技術者と組織の関係を説明できる。 ・技術者の説明責任を例示できる。 ・危機管理の必要性を述べることができる。 ・知的財産と技術者倫理の関係を説明できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト、宿題を総合的に評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を認めない。期末試験は行わない予定。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
理系科目と異なり正解は一つではない。良く知り、良く考え、自分の意見を持てるようになって欲しい。積極的な授業参加を望む。					
<b>連絡先</b>					
循環環境工学科 学科長					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002331033
<b>開設科目名</b>	産業倫理 [Industrial Ethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	感性3年			<b>学年</b>	3~
<b>担当教員</b>	内田 文雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
技術とは何か？技術者の役割と責任、技術者の倫理、等について考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
技術者として社会的にならぬ役割や、責任、知的財産権、などについての基礎的な知識を得る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 技術とは何か、についての知識と理解を得る					
<b>思考・判断の観点:</b> 社会的に大きな責任を伴う技術のあり方について正しく思考し判断する態度を育てる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 技術と社会の関係についての関心や意欲を育てる。					
<b>態度の観点:</b> 技術者として備えるべき責任や倫理観についての基本的理解と、取るべき態度について考える。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート、授業内発表討議、試験による評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
技術の可能性と、それに関わる技術者として、社会に対して担う責任と倫理観を養うこと。					
<b>連絡先</b>					
村上ひとみ准教授 工学部本館南3階、314号室 e-mail: mrkm @ yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1002331034
<b>開設科目名</b>	産業倫理 [Industrial Ethics]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全(工除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	永崎 研宣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>リコールやトラブルの隠蔽、杜撰な品質管理、甘い見通しに頼ったシステム統合のトラブルや不正な会計処理など、現在の産業社会は、様々な倫理的問題を内に抱え込んでいる。多くのケースは技術的問題と密接に関連しており、技術者にとっての工学倫理という観点から捉えられる必要がある。しかしながら、こうした問題は、同時に、政治的・経済的、その他の様々な要因を含んだものであり、しばしばそうした様々なものが複雑にからみ合っている。したがってそれは、技術者のみならず、そうした問題に関わるすべての人が倫理的な問題として理解していく必要がある。本講義では、産業社会におけるこうした倫理的問題について、具体的な事例をとりあげながら考えていきたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>講義における様々な事例の検討を通して、倫理的問題に対して用意されている様々な 基準や規制、制度等についての基本的な知識を身につけ、将来直面するであろう問題に対処していける力をつけてもらう。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>倫理的問題に関連する制度について理解を深める</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>倫理的問題の事例について考察し、自らの見解を何らかの根拠に基づいて論理的に構成できるようにする</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>産業社会における様々な倫理的問題への関心を高め、実社会においても応用できるようにする。</p> <p><b>態度の観点:</b>倫理的問題に対して積極的に取り組むことができる</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>自らの見解を適切な判断基準を利用して口頭や文章で表現できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業の中でレポートを課す。また、最後にも、理解度を確認するためのレポートを課す。なお、出席が所定の回数に満たない者は単位を与えない。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>はじめでの工学倫理第2版 / 齊藤了文, 坂下浩司編: 昭和堂, 2005</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>混み込んだ問題をきちんと整理して考えていけるような基礎力を身につけましょう。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002372016
<b>開設科目名</b>	時間学			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)・3年(経・理・農)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	青山 拓央			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
時間学研究所のスタッフによる授業(7名程度の講師が交代で行なう)。時とは何か、生命の発生と絶滅、社会的時間など、時間学の研究成果を分かりやすく学び、その面白さを知るとともに、自分にとっての時間の問題を考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
多岐にわたる専門分野の講義から、時間学の成果と、時間をあつかうための幅広い知識とを習得し、時間と人間社会に対する理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> さまざまな時間学研究の現状を知る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 授業で学んだ知識をもとに、自分にとっての時間の問題を掘り下げる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業内レポートあるいは小テストの結果で評価されるので、課題に対する関心や意欲が評価されることもある。また、毎回出席することが大切である。					
<b>技能・表現の観点:</b> 授業内レポートあるいは小テストの結果で評価されるので、表現する能力も問われる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
各講師により、授業内レポートあるいは小テストを実施し、その結果で評価を行なう。そのため、各講義への出席はもちろん、講義内容を意欲的に理解する姿勢が重要となる。					
<b>教科書</b>					
時間学概論 / 辻正二ほか:恒星社厚生閣, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1002371014
<b>開設科目名</b>	自然科学と現代社会A			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	青島 均, 増本 誠, 朝日 孝尚, 末竹 規哲, 浦上 直人, 岩尾 康宏, 三浦 保範			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代社会は自然科学によって支えられています。これからの社会で起こるさまざまなことに対処するためには、自然科学の基礎知識や考え方を身に付けておくことが不可欠です。これは理系の人だけでなく文系の人についても言えることです。この授業では、高校での履修を前提としないで、自然科学(数学, 物理学, 情報科学, 生物学, 化学, 地球科学の6分野)の基礎知識や考え方を文系の人にもわかりやすく講義します。					
<b>授業の一般目標</b>					
自然科学の基礎知識や考え方を理解して身に付け、それらに基いて考えることができるようになることを目指します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 自然科学の基礎知識や考え方を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自然科学の基礎知識や考え方を適用して分析や判断ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 関連するさまざまな現象に興味を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 多様な授業内容を理解し、積極的に調べてレポートできる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えを的確に表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内レポート, 授業外レポートで総合的に評価します。出席は欠格条件とします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
自然科学の広い分野からの内容です。興味を持った内容については自分から調べるなど積極的な態度が望まれます。					
<b>連絡先</b>					
理学部本館北棟403号室 青島均, 電話:083-933-5762, E-mail:aoshima@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
随時; 部屋を離れることもありますから、電話、メールなどで事前にご連絡ください。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1002372017
<b>開設科目名</b>	自然科学と現代社会B			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)・3年(経・理・農)			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	山中 明, 平尾 元彦, 小宮 克弘, 野崎 浩二, 内野 英治, 川俣 純, 三浦 保範			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>自然科学は、現代社会の営みと深い関わりを持ちながら発展してきました。近い将来、社会に出て大学で培ってきた教養や技量を発揮しなければならない学生諸君にとって、自然科学の幅広い知識や考え方を有効に活用できるようになることは、自身の素養に深みを与えるという点で大切なことです。また、企業活動や研究活動を始めとする様々な社会活動においては、既知の知識だけでは対応できず、新しい知識を吸収し伝えなければならない場面に遭遇することも多々あります。このような状況を踏まえて、この授業では、自然科学各分野の話題を題材にして、必要な知識を如何に吸収し分かり易く伝えるかを小論文形式で練習します。また、これらの練習を通して、身近に迫った自身の進路選択に対してどのように備えるかを考えます。授業は、基本的に2週を1セットとして展開されます。第1週目では、自然科学各分野の話題を講義し、それに関する課題を提示します。第2週目では、提示された課題について、小論文形式のレポート作成を行います。第1週目に講義される話題についてはガイダンス時に発表します。また、授業計画中間の第8週では、就職と進路についての講義を行い、進路選択のための情報提供を行うとともに、期末レポートの課題を提示します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>場面ごとに提示される課題に対して、問題解決に必要な知識を見つけ出し、それらを的確に伝える能力を身に付けるとともに、学生自身が将来の進路選択の準備を整えることを目指します。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>自然科学に積極的に親しむことができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>多くの知識の中から必要な知識を適切に選択することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>自身の社会活動に、必要な知識や情報を関連付けることができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>授業に出席し、熱心に課題に取り組むことができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>必要な知識を的確に伝えることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席、隔週のレポート、期末レポートにより総合的に判断する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>講義の順番は変更する事がありますが、意欲的に取り組んでください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>担当マネージャー：山中 明(理学部生物・化学科生物学講座)；総合研究棟 506 西</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1002331029
<b>開設科目名</b>	社会科学概論 [Introduction to Social Science]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山下 訓			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>現代社会の仕組みと現状・問題点を、環境問題、経済活動、政治などについて、資料集の多くの材料をもとに考えます。入門的な講義であり、一つ一つを深く掘り下げることはできませんが、社会において何が正しいのか、正しいこととされていることが時代と共に変化するというを皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。様々な問題を提起していきたいと思ひます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会科学に関連する諸問題に広範囲にふれ、今後皆さんが社会の問題を考えていくための基礎知識を得ることがねらいです。単に善悪だけで判断するのではなく、意味があるか無いのかという側面からも問題を考察することも大事です。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>関心・意欲の観点:</b>社会科学に興味をもち、社会への関心を深める。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート、参加(発表)					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
5518 yamasita@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日の昼休み					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002351002
<b>開設科目名</b>	社会科学のためのやさしい統計学 [Elementary Statistics for Social Sciences]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経(201-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	橋本 寛			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
統計学の初歩的事項について、社会科学分野で必要と思われるものを平易に紹介する。					
<b>授業の一般目標</b>					
統計学における基本的な概念や手法について学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 主要な用語や手法の考え方を理解する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 初歩的な統計処理の方法を習得する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験と出席による。					
<b>教科書</b>					
入門統計学 / 木下宗七:有斐閣, 1996					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
出席を重視します。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002351003
<b>開設科目名</b>	社会科学のためのやさしい統計学 [Elementary Statistics for Social Sciences]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	橋本 寛			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
統計学の初歩的事項について、社会科学分野で必要と思われるものを平易に紹介する。					
<b>授業の一般目標</b>					
統計学における基本的な概念や手法について学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 主要な用語や手法の考え方を理解する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 初歩的な統計処理の方法を習得する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
出席するのが理解の早道です。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1002351004
<b>開設科目名</b>	社会科学のためのやさしい統計学 [Elementary Statistics for Social Sciences]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	経(1-200)・高学年			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	野村 淳一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>統計学とは具体的に何を明らかにするための学問であるかを解説する。</p> <p>講義では理論の解説は最小限にとどめ、具体的な応用例を多く解説・計算しながら、統計学的センスを養うよう努める。ジャンボ宝くじの期待賞金額の計算、池にいる魚の数の推定、学習塾の効果の検証など、電卓を用いて実際に計算・考察してみる。また、社会科学で用いられる社会調査(アンケート調査等)を利用する際の注意点も併せて解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
統計学の基礎的な理論を習得し、統計学の見方・考え方を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な統計学の理論を理解している。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 統計学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 分からないところを積極的に質問する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、小テスト提出などによる加点を考慮する。</p> <p>評価割合は期末試験 80%、質問書・小テスト 20%。</p>					
<b>教科書</b>					
入門統計学 / 木下宗七: 有斐閣ブックス, 1996					
<b>参考書</b>					
「社会調査」のウソ: リサーチ・リテラシーのすすめ / 谷岡一郎: 文藝春秋, 2000					
<b>メッセージ</b>					
ルートの計算できる電卓を用意すること。					
<b>連絡先</b>					
nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
講義中に指示。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1001331017
<b>開設科目名</b>	社会学 [Sociology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	朝水 宗彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ジョン・アーリーのいくつかの著作に見られるように、国際化が進んだ現代は「移動の社会」とも言える。移動は移民のように長期的なものから、観光客のように短期的なものまで様々な形態が見られる。この授業では、国際的な移動が著しい現代の様々な事象のうち、日本でも比較的馴染みが深い観光、留学、外国人労働者に焦点を当てて概説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>観光や留学などの身近な社会現象を通して、グローバル化とそれが伴う人的な移動について基礎的な知識を身につける。国際的な人的移動はもはや一部の国や地域の現象でなく、身近な問題であることを認識する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>「移動」をキーワードに用い、社会学や隣接するディシプリンの一部に親しむ。  <b>思考・判断の観点:</b>身近な事例を通し、パラダイム転換や多文化主義等について初歩的な考察を行える。  <b>関心・意欲の観点:</b>授業で扱った事例を基に、関連した事象について自分なりに調査する。  <b>態度の観点:</b>授業の参加や課題提出を通して、積極的な学習態度を示す。  <b>技能・表現の観点:</b>期末試験を通して、学習した事象を的確に表す。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席、レポート課題、学期末試験(授業内容を網羅した論述式・持ち込み可)による総合評価。配点は出席15点、レポート15点、試験70点とする。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>持続可能な開発と日豪関係 / 朝水宗彦:くみぶる, 2004</p>					
<b>参考書</b>					
<p>地域・観光・文化 / 徳久球雄他:嵯峨野書院, 2001  Japan's Globalization / KAWAKAMI Ikuo et. al.: Kumpul, 2007  開発と環境保護の国際比較 / 朝水宗彦:嵯峨野書院, 2007  北アメリカ・オセアニアのエスニシティと文化 / 朝水宗彦:くみぶる, 2001  アジア太平洋の人的移動 / 朝水宗彦編:オフィス SAKUTA, 2008</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>プリント等の配布物が多いのでA4サイズのファイルを各自用意するように。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1002354001
<b>開設科目名</b>	社会と医療(いのちと発達) [Society and Medical Treatment (Life and Development)]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全(農除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	辻野 久美子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>科学としての医学と実際に行われる医療が、人間社会の中でどのような意味を持ち、将来の課題を有しているかを理解する。狭い範囲の医学と医療に限定せず、生命や発達、人の心や行動、社会システムなど学際的な関連領域を含めて学習対象とする。取り上げた学習対象について、その概要、社会における現状と課題について考察を深め、引き続きそれぞれの分野における専門教育への幅広い視点を持った学習動機付けに寄与できることを目標とする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>日本の医学・医療の現状あるいは問題について、実際に医学・医療の現場に従事している医師あるいは医学・医療の従事者に語ってもらい、それを通して、医学・医療の問題に今後いかに接していくのか、「いのち」と発達の問題などについて考える機会とすることができる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>取り上げた学習対象について、その現状と課題について説明できる。  <b>思考・判断の観点:</b>取り上げた学習対象について、自己の考えを論理的に述べることができる。  <b>関心・意欲の観点:</b>取り上げた学習対象に関連する情報を独自に収集し、その意味・意義について説明できる。  <b>態度の観点:</b>学習成果をそれぞれの専門領域の学習に積極的に位置づけ反映できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業中に提出したレポート、出席を含めた授業への参加状況によってコーディネータが総合的に評価する。</p> <p>・各講義担当教官は提出されたレポートの内容を5点満点(5～0点)で評価する</p> <p>・評語 優 :総合評価 80 点以上  良 :総合評価 70 点以上  可 :総合評価 60 点以上  不可:総合評価 60 点未満、または出席のみでレポート未提出</p> <p>知識・理解、思考・判断を測定するレポートを主とし、関心・意欲、態度を測定する授業への参加度を従とする。出席は欠格事項として扱う。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>医の現在 / 高久史磨編:岩波書店, 1999</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1002354003
<b>開設科目名</b>	社会と医療(心とその座) [Society and Medical Treatment (The Role of the Heart)]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全(農除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	渡邊 義文			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1002354004
<b>開設科目名</b>	社会と医療(日本の医療) [Society and Medical Treatment (Medical Treatment in Japan)]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(農除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	藤宮 龍也			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
新書版程度の教科書を用い、医学部を主とした各学部教員による専門領域を反映した講義で構成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
科学としての医学と実際に行われる医療が、人間社会の中でどのような意味を持ち、将来の課題を有しているかを理解する。狭い範囲の医学と医療に限定せず、生命や発達、人の心や行動、社会システムなど学際的な関連領域を含めて学習対象とする。取り上げた学習対象について、その概要、社会における現状と課題について考察を深め、引き続きそれぞれの分野における専門教育への幅広い視点を持った学習動機付けに寄与できることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 取り上げた学習対象について、その現状と課題について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 取り上げた学習対象について、自己の考えを論理的に述べることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 取り上げた学習対象に関連する情報を独自に収集し、考察を加え、その意味・意義について討議できる。					
<b>態度の観点:</b> 学習成果をそれぞれの専門領域の学習に積極的に位置づけ反映できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 取り上げた学習対象について、その現状・課題・自己の考えを簡潔かつ論理的に表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中に提出したレポート、出席を含めた授業への参加状況によってコーディネータが総合的に評価する。					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート内容 40～60%、出席・参加状況 40～60%の重みで評価する</li> <li>・各講義担当教員は提出されたレポートの内容を 5 点満点(5～0点)で評価する</li> <li>・評価 優 :総合評価 80 点以上</li> <li style="padding-left: 20px;">良 :総合評価 70 点以上</li> <li style="padding-left: 20px;">可 :総合評価 60 点以上</li> <li style="padding-left: 20px;">不可:総合評価 60 点未満、または出席のみでレポート未提出</li> </ul>					
知識・理解、思考・判断を測定するレポートを主とし、関心・意欲、態度を測定する授業への参加度を従とする。出席は欠格事項として扱う。					
<b>教科書</b>					
日本の医療：統制とバランス感覚、中公新書 / 池上直己、J.C.キャンベル、中央公論社、1996					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	金 7～8	時間割コード	1002354002
開設科目名	社会と医療(性を考える)			単位	2 単位
対象学生	全(農除く)			学年	1～
担当教員	渡部 省二			区分	

#### 授業の概要

- 1.性の生物学について教授する。
- 2.リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、青年期・親準備期である学生にとって、知っておかなければならない性に関するテーマについて基本的な知識を教授する。

#### 授業の一般目標

- 1.性の生物学について理解する。
- 2.人の性について、統計的な動向を理解する。
- 3.性感染症について理解し、正しい知識を習得し、性感染症から身を守る方法を習得する。。
- 4.ドメスティックバイオレンス・人権について理解する。
- 5.人の発生と胎児の発達について理解する。
- 6.産科医療の問題点と異常妊娠の予防について理解する。
- 7.分娩経過と産婦ならびにパートナーの心理・援助法について理解する。
- 8.新生児について理解する。
- 9.親と子の愛着について理解する。
- 10.親役割・家族の役割獲得に向けての課題について理解する。
- 11.女性と嗜好品との関係について理解する。
- 12.就労と母性保護について理解する。
- 13.自己の母性観・父性観を育てる。

#### 授業の到達目標

- 知識・理解の観点:**
- 1.性の生物学的意味について説明できる。
  - 2.遺伝的な性の決定と性に関連した遺伝について説明できる。
  - 3.人の性について、統計的指標を考察し、問題点を列挙できる。
  - 4.性感染症について現状・感染経路、予防法が説明できる。
  - 5.ドメスティックバイオレンスの現状・心理状態・対処方法・人権について説明できる。
  - 6.人の発生と胎児の発達について述べることができる。
  - 7.産科医療の問題点と異常妊娠の予防について述べることができる。
  - 8.分娩経過と産婦ならびにパートナーの心理・援助法について述べることができる。
  - 9.新生児の生理的特徴と生理的变化について説明できる。
  - 10.親と子の愛着について説明できる。
  - 11.親役割・家族の役割獲得に向けての課題について述べることができる。
  - 12.女性と嗜好品との関係について説明できる。
  - 13.就労と母性保護について説明できる。
  - 14.自己の母性観・父性観について述べることができる。
- 思考・判断の観点:**
- 1.人の性に関する統計的指標についてアセスメントでき、問題点を指摘できる。
  - 2.性感染症について現状・感染経路、予防法がアセスメントでき、他人の誤りを指摘できる。
  - 3.ドメスティックバイオレンスの現状・心理状態・対処方法・人権についてアセスメントできる。
  - 4.人の発生と胎児の発達についてアセスメントできる。
  - 5.産科医療の問題点と異常妊娠の予防についてアセスメントできる。
  - 6.分娩経過と産婦ならびにパートナーの心理・援助法についてアセスメントできる。
  - 7.新生児の生理的特徴と生理的变化についてアセスメントできる。
  - 8.親と子の愛着についてアセスメントできる。
  - 9.親役割・家族の役割獲得に向けての課題について指摘できる。
  - 10.喫煙や飲酒が女性に及ぼす影響を指摘できる。
  - 11.就労と母性保護について指摘できる。

12.自己の母性観・父性観について述べるができる。

**関心・意欲の観点:**1.自分の生活において、日常生活の中で性的健康について関心を高める。

2.妊娠中の女性について配慮できる。

3.乳幼児について感心を高める。

4.生命の意味について感心を高める。

**態度の観点:**1.予習、復習をし、まじめに授業に取り組む。

2.日常生活の中で性にかかわる出来事や問題点について主体的に考えることができる。

**技能・表現の観点:**1.自分の性についての気持ちを表現できる(性の自己決定権)。

2.必要時、コンドームを正しく使用できる。

#### **成績評価方法(総合)**

第1・2回についてはテストを実施

第3回以降は時間内に小レポートを実施

#### **教科書**

#### **参考書**

オスとメス 性の不思議 / 長谷川真理子:講談社, 1993

#### **メッセージ**

第一回および第二回の講義の資料は下記 URL にあるので参照のこと。

<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menus/sexology.htm>

第4回以降は教員が講義資料を配布する。

#### **連絡先**

渡部省二: shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp, 0836-22-2830

清俊夫: toshisei@yamaguchi-u.ac.jp, 0836-22-2802

田中満由美: tanakama@yamaguchi-u.ac.jp, 0836-22-2821

上田順子: jueda@yamaguchi-u.ac.jp, 0836-22-2833

亀崎明子: kamezaki@yamaguchi-u.ac.jp, 0836-22-2829

戸部隋代: tobegon@yamaguchi-u.ac.jp, 0836-22-2825

田中奈美: nami73@yamaguchi-u.ac.jp, 0836-22-2840

#### **オフィスアワー**

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1002311016
<b>開設科目名</b>	宗教学 [Science of Religion]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	ALAM DJUMALI			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>宗教とは何か、その位置づけ、構図、研究方法について、各宗教の具体的な事例を見ながら考えていく。世界宗教として知られる制度化した宗教のみならず、民間信仰や自然宗教、または「文化としての宗教」や「生活の中の宗教」の存在と役割にも注目し、全体として宗教現象には、人間の行為、思考、生活様式、観念、規範などに関する、どのようなパターン・傾向・枠組みがあるのかを探っていく。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>宗教という言葉が、いろいろな側面、定義、解釈、見方があるため理解しにくくなったいま、宗教を、一方では人間にとっての普遍的な心の機能・メカニズムとして位置づけ、他方では個々の固有な文化現象として捉え、ダイナミックかつ包括的・本質的な枠組みと視点に親しむこと。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。  <b>思考・判断の観点:</b>個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。  <b>関心・意欲の観点:</b>日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。  <b>態度の観点:</b>授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。  <b>技能・表現の観点:</b>レポートによる記述力と表現力。  <b>その他の観点:</b>宗教現象を捉える感性と感受性を磨くこと。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業内小レポートを12回、中間レポートを1回、最終レポートを1回、課す。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>ジュマリ・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>随時</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002333009
<b>開設科目名</b>	心理学(行動分析の基礎と応用)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	松岡 勝彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
主として、行動分析学の観点から、人間の行動原理について理解し、さまざまな問題を解決・改善するための基本的な考え方や留意点等について検討する。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)心理学(行動分析学)の基礎について習得する。(2)日常場面における行動の理解と問題の解決・改善方法について習得する。(3)心理学の社会貢献(地域社会・教育・災害時の「心のケア」への貢献を含む)について知る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
評価は期末試験、中間テスト等をもとに行います(予定)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
人数制限を行いますので、初回には必ず出席してください(100名未満とする)。原則として初回に出席した人のみ履修を認めます。日常場面における私たちの行動について理解を深めるため、受講生同士によるグループ討論を積極的に行います。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1002333010
<b>開設科目名</b>	心理学(心のとらえ方)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	田邊 敏明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義は、心理学の概念や理論がどのような見方から生まれたかを心のとらえ方(比喩)から解説する。授業では、知覚、認知、学習などの領域ごとに概念や理論を説明していくが、そのなかで、各概念および各理論がどのようなとらえ方(比喩)から成り立っているかについても触れる。心理学の歴史を眺めると、心を機械に見立てたり、有機体に見立てることが行われてきた。最近では状況や文脈からの見方もある。心理学の概念は仮説構成体と呼ばれ、他の学問から借りてきた見方で説明されることが多い。さらにそれらの概念や理論はその時代に流行した見方を反映している。理論をただ暗記するのではなく、その理論が導かれた背景まで気づきたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>心理学の概念を、ただ理解するだけでなく、それが導かれてきた背景まで気づけるような授業にしたい。その方法の一つが心理学概念がどのようなとらえ方(比喩)から成り立っているかを明らかにすることである。受講生には、心の見方にもその背景があることに気づいてもらいたい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 各々の概念や理論がどのような見方に基づいているか理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 同じ記憶の概念にしても、その概念が生み出された背景が異なっていることに気づきたい。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> この概念あるいは理論は背景にこのような見方があるとか、自ら気づいてもらいたい。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>基本的には期末試験を重視するが、途中で行う課題の提出も重要な評価対象となる。さらに、心理学の理論や概念を理解するのはもちろんのこと、それらがどのような基本的とらえ方から成り立っているかについての興味関心や、自分なりに理解していく姿勢が見られるかどうかを評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>比喩から学ぶ心理学：心理学理論の新しい見方 / 田邊敏明: 北大路書房, 2000</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>受講希望者は最初の授業に必ず出席してください。その出席で受講許可を終了します。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp ,</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>火曜日 18:00～19:00</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1002333007
<b>開設科目名</b>	心理学(自分自身を再発見する)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	木谷 秀勝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
心理学の講義では、日常の人間行動への心理学的理解を通して、人間行動の背景にある心の世界について、科学的に解明することを目的とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
心理学を通して、自分自身や他者、あるいはさまざまな社会現象に対する多面的な視点や発想の柔軟性を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 心理学的な物事への理解やそれを説明するキーワードを獲得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 心理学がもつ他面的で、柔軟な発想へのヒントを獲得する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分自身、他者、社会現象への興味・関心を広げる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
評価は、出席点、レポート、さらに平素の講義態度で行う。					
<b>教科書</b>					
生活にいかす心理学 Ver.2 / 古城和子編著:ナカニシヤ出版,1999					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1002333008
<b>開設科目名</b>	心理学(臨床心理学)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	名島 潤慈			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
臨床心理学の基本的な事柄について講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
臨床心理学に関する講義を通して、人間の心の仕組みや不応の機制、心理療法などを受講者が理解できるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 臨床心理学に関する基礎的知識を習得し、説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 人の心というものが多様なものであることを知り、自分や他人をよりよく理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 臨床心理学に対する興味・関心をよりいっそう増大させる。					
<b>態度の観点:</b> 他人や社会に対して共感的な理解や対応ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の感情や考えを他者に明確に伝達できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間試験、期末試験、出席などから総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
najima@yamaguchi-u.ac.jp 083-933-5465					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002342011
<b>開設科目名</b>	数学概論 [General Mathematics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	人・教			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	飯寄 信保, 笠井 伸一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
数学に興味を持つ人文系の学生を対象に、高校2年次までに学習した数学の内容を仮定して数学への入門を概説する。2人の担当者それぞれが話題を選び、前半と後半で2つの話題について学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
数学の考え方を理解し身につけ応用できるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 本授業での課題を理解し解決することができるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業に積極的に参加し、自主的に学ぶようになる。					
<b>態度の観点:</b> 自主的に質問・調査をすることで授業中の疑問等を解決することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中の演習、テスト、レポート及び出席による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
演習問題を解くことが重要です。分からないところは遠慮なく質問して下さい。その為にオフィスアワーもあります。					
<b>連絡先</b>					
笠井(教育290号室)					
飯寄(教育286号室)					
<b>オフィスアワー</b>					
各担当者の初回の授業にて通知します。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002342014
<b>開設科目名</b>	数学概論 [General Mathematics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経(1-200)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	柏木 芳美			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ミクロ経済学の理解のために必要な基本的な数学の事柄と1変数関数の微分について概説する。ミクロ経済学では「限界」やMR,MCなどという言葉が頻繁に出てくる。これは微分を意味していて、微分の知識無くしてはミクロ経済学の本質的な理解は困難である。また、公務員試験でもこの講義程度の微分の知識はなくてはならない。関連する公務員試験の問題もある程度解説する。予備知識としては数学Ⅱあるいは、AO入試及び推薦入試合格者に配られた入学前指導が理解されていれば十分である。一番大切なのはやる気とその持続である。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>微分は関数を調べる強力な道具である。その基本をしっかり身につけて、ある程度の計算ができてミクロ経済学に应用できることがこの授業の目標である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 具体的な関数の導関数が計算できる。  2. 極値問題が解ける。  3. 最大・最小問題が解ける。  4. ミクロ経済学で如何に微分が使われるかを理解する。  <b>思考・判断の観点:</b>1. 経済現象を数学を使って考えることができる。  <b>関心・意欲の観点:</b>1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>中間試験と期末試験の平均60点以上が合格。演習問題には詳しい解説を付けてあるので毎回出す宿題をしっかりと解いておくように。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは、周りの人と相談してもよく、授業内容の理解の確認が目的である。遅刻・欠席をしないように心懸けること。尚、テキストの誤植指摘に最大20点の点数を与える。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>数学概論 第3版 / 柏木芳美, 2007</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>演習問題をコツコツと解くこと。分からないところは遠慮なく質問すること。その為にオフィスアワーもある。やる気とその持続が一番重要である。尚、公務員を目指す人はどのような問題が出ているのかを早めに把握しておいた方がよい。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>e-mail: kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp  Tel&amp;Fax: 083-933-5595</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>開始時点に伝える。研究室は経済学部C棟C213。</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7~8	<b>時間割コード</b>	1002342013
<b>開設科目名</b>	数学概論 [General Mathematics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経(201-)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	渋谷 綾子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>高等学校で学んだ数学を基礎に、経済分野で必要になる数学を学ぶ。  様々な関数、微分、最適化、統計、線形代数、確率に関わる一般的な知識を身につけ、思考力を養う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>次のことを理解する。  ・1次関数・2次関数・指数・対数・関数とグラフの関係・方程式について・複利計算・連続複利・現在価値・割引の計算・微分について(偏微分と2階の導関数を含む)・関数の形状と解法について(最適化問題の解法)・統計に関わる一般的知識・線形代数の基礎・不確実性と確率の関係について</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>関数、グラフ、方程式、微分、線形代数、統計、確率等に関する知識と理解  <b>思考・判断の観点:</b>経済現象の数的な面を分析できる能力を養う  <b>関心・意欲の観点:</b>日常生活の中で触れる経済現象を数学的に説明できるように心がける  <b>態度の観点:</b>欠席や遅刻はしないように</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験70%、小テスト・授業内レポート30%を目安に、総合的に成績を決定する。  小テスト・授業内レポートは予告なしに授業時間内に実施するので、欠席すると減点になることがある。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
やさしい微積分 / L. S. ポントリャーギン: ちくま学芸文庫, 2008					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
shibuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日12時~13時, 他在室中ならいつでも可					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002341002
<b>開設科目名</b>	数学の考え方 [Concept of Mathematics]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	人・教(一部除く)・経			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	北本 卓也			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
数学の基礎を演習を交えながら学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
命題論理の否定を作れるようになること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 命題論理の考え方を理解する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 命題論理の否定を作れるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席(30%)、授業内課題(20%)、試験(50%)により行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
離散数学 / Seymour Lipschutz: オーム社, 1995					
<b>メッセージ</b>					
再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002363003
<b>開設科目名</b>	スポーツの医学			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(学教(教科(数)・生資除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	鈴木 倫保			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
スポーツと医学の関係を様々な分野から解説します。					
<b>授業の一般目標</b>					
スポーツにおける医学的知見を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> スポーツと医学の関係が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 授業内容を理解し今後のスポーツ活動に生かすことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 医学的知見を理解することにより、今まで以上にスポーツに興味をもてる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に考察できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業毎のレポートの提出					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
必ず出席してください。					
<b>連絡先</b>					
0836-22-2295					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日 15:00 17:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1002362025
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(空手)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	上地 広昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本講では、沖縄空手道(上地流)の稽古を行う。講義内容は、礼儀作法、基本動作、型、ミットトレーニング、および護身術を中心に行う。本講は、初心者向けに構成されているため、受講生の性別、運動経験、および空手歴は一切問わない。					
<b>授業の一般目標</b>					
沖縄空手道を通して、礼儀作法、基本動作、および護身術を習得することを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 沖縄空手道の礼儀作法、基本動作、および型を正確に理解する。					
<b>態度の観点:</b> 真摯に練習に取り組む姿勢					
<b>技能・表現の観点:</b> 沖縄空手道の基本動作および型を正確、且つ力強く実践する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
基本的には出席状況をそのまま成績に反映させる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002362029
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(硬式テニス)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	吉野 信朗			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>テニスというスポーツの楽しさは、その発生から考えてラリーを続けることにあ る。この授業では、初心者及び初級者を中心に、ラリーを続けるという楽しみを味わいながら、ゲームに必要な技術を習得し、テニスというスポーツの実践能力を養います。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本授業では、テニスの基本的な個人的技能(グラウンド・ストローク、ボレー、サーブ、スマッシュ)、応用的な技能、ゲームに必要なフォーム・アクション、基本的ルールを学習・習得するとともに、生涯にわたってスポーツを実践する態度を養う。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1. 基本的なゲームの進め方が説明できる。 2. ゲームでのフォーム・アクションが説明できる。 3. 基本的ルールが説明できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>種目特性を理解し、テニスに関心を持つ。</p> <p><b>態度の観点:</b>基礎技術を駆使して、ゲームができるように努力する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1. テニスに必要な基本的技術を高め、ゲームが行えるようになる。 2. ルールを理解し、審判をすることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>技能の習熟度、授業態度及び授業への出席状況から評価する。 なお、欠席が4回以上の者には単位を与えない。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>授業の性格からして、きちんと出席し実践することが大切です。それによって初めてスポーツの楽しさ、おもしろさを感じ取ることができます。</p>					
<b>連絡先</b>					
083-972-2880 [山口芸術短期大学]					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002362026
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(サッカー)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	海野 勇三			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ここでは、サッカーを教材に、チームを編成して共同的な学習を展開していく。リーグ戦を中心として、チームごとに練習計画に沿った活動を進めていき、ゲームを分析しながら、戦術理解とチーム力を高めていきたい。</p> <p>また、スポーツとしてのサッカーの発生と発展の歴史についても学習する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>チームでの役割分担に基づいて、共同的な学習活動を展開することができる。また、練習とゲーム分析を通じて、攻撃と防御の技能を向上させ、戦術理解を深めることができる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 攻撃と防御の基本戦術を理解し、説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> ゲームの結果からチームの戦力状態を分析したり、またチームに必要な作戦・戦術を工夫することができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 共同的な学習活動で自己の役割を果たすことができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 個人戦術・グループ戦術をゲーム時にプレーとして発現できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席状況、課題レポート、およびグループでの共同的な取り組みの状況等をもとに総合的に評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>グループで共同しながら、自主的な運営のもとに練習とゲームを進めていきます。スポーツのすばらしさを体感して欲しい。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002362027
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(バスケットボール)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	友定 保博			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
バスケットボールのグループ学習で、チーム全員が互いに協力して練習やゲームができるようにし、自他の技能の向上をはかる。					
<b>授業の一般目標</b>					
チームの課題や自己の能力に適した課題を持ってバスケットボールを行い、技能を身につけ、作戦を生かした攻防を展開するゲームができるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> バスケットボールの技術構造を理解し、チームで技能向上のための練習計画を立案できる					
<b>思考・判断の観点:</b> チームで作戦を考え、それを生かした攻防が展開できる					
<b>関心・意欲の観点:</b> チームで協力して練習やゲームができる					
<b>技能・表現の観点:</b> チーム内で教えあい、互いに技能向上の努力ができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への参加度 70%、授業内レポート 10%、期末試験 10%、宿題 10%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tomo-y@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1002362022
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(バドミントン)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岡野 亮介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
バドミントンはラケットでシャトルを打ち合うネット型の対人的スポーツであり、誰でも生涯を通じて楽しむことのできるスポーツである。本授業では、バドミントンの基礎技能(サーブ、レシーブ、基本フライト、ストローク等)とルールを修得し、簡易なルールおよび正式なルールのもとにシングルスおよびダブルスで試合と審判が行えるようにする。					
<b>授業の一般目標</b>					
バドミントンの基礎技術の訓練やゲームを通じて、スポーツを楽しみ、円滑な人間関係のもと、生涯スポーツを実践する能力を養うことを目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎技能の修得、ルールの理解、審判の方法。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に行動できる。他人との共同作業が円滑にできる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 的確な知覚 - 運動行動が遂行できる。効果的な戦術がとれる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業中の態度、授業中の技能テスト					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
バドミントンを楽しみましょう。					
<b>連絡先</b>					
山口福祉文化大学 Tel 0838-24-4046					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1002362023
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(バレーボール)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	海野 勇三			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ここでは、サッカーを教材に、チームを編成して共同的な学習を展開していく。リーグ戦を中心として、チームごとに練習計画に沿った活動を進めていき、ゲームを分析しながら、戦術理解とチーム力を高めていきたい。</p> <p>また、スポーツとしてのサッカーの発生と発展の歴史についても学習する</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>チームでの役割分担に基づいて、共同的な学習活動を展開することができる。また、練習とゲーム分析を通じて、攻撃と防御の技能を向上させ、戦術理解を深めることができる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 攻撃と防御の基本戦術を理解し、説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> ゲームの結果からチームの戦力状態を分析したり、またチームに必要な作戦・戦術を工夫することができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 共同的な学習活動で自己の役割を果たすことができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 個人戦術・グループ戦術をゲーム時にプレーとして発現できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席状況、課題レポート、およびグループでの共同的な取り組みの状況等をもとに総合的に評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>グループで共同しながら、自主的な運営のもとに練習とゲームを進めていきます。スポーツのすばらしさを体感して欲しい。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>yunno@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002362028
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(ハンドボール)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	森田 俊介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ヨ・ロッパで盛んに行われているハンドボールは、走・投・跳の運動基本動作を利用して、ボールをパス・キャッチ・ドリブルしながら相手ゴールに投げ込むチームスポーツである。比較的小さなボールを手で扱うため、誰でもが参加して気楽に楽しむことができる反面、個々のメンバーにはコンビネーションプレイに必要なスピード、スタミナが要求される。この授業ではボールを使って体力づくりを行いながら、ハンドボールの基本的な技能を身につけ、それらをチーム戦術の中で生かすことができるようになることを目的とする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
この授業ではボールを使って体力づくりを行いながら、ハンドボールの基本的な技能を身につけ、それらをチーム戦術の中で生かすことができるようになることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>ハンドボールの競技特性・動き・ルールを理解する。  <b>関心・意欲の観点:</b>ボールを使った体力づくり全般に積極的に取り組む。  <b>態度の観点:</b>チームのメンバーとしてチームの運営に積極的に参加する  <b>技能・表現の観点:</b>ハンドボールの基本的な技能を身につける。身についた技能をチームプレイと結びつけることができる。適切な審判ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>積極的参加度(20%)、習熟度(20%)、意欲度(60%)などから総合的に評価する。  4回以上の欠席は欠格とする</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>万全の体調で授業に参加すること  積極的に仲間づくりを行うこと</p>					
<b>連絡先</b>					
shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1002362024
<b>開設科目名</b>	スポーツ運動実習(フィットネストレーニング)			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	全(教除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	河合 洋祐			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>フィットネスとは健康で活動的に行動できる能力を表す言葉である。適切な身体運動を継続していると運動に対して身体が適応し、フィットネスが向上する。フィットネスを高めるための適切な身体運動は個人の身体的条件によって異なる。本実習ではフィットネスを高め、ゆとりある日常生活を送るために必要なトレーニングの基本的考え方と個人の身体的条件に適した運動の実施方法を実技を通して習得する。また、トレーニング機器を安全かつ効果的に使用方法を紹介する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本実習ではフィットネスを高め、ゆとりある日常生活を送るために必要なトレーニングの基本的考え方を理解し、個人の身体的条件に適したトレーニングの実施方法を実技を通して習得するとともに、トレーニング機器の安全かつ効果的な使用方法を学ぶ。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. フィットネスを高めるためのトレーニングの基本原則を説明できる。					
2. 主な筋の名称と作用を関係づけて説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 運動強度、持続時間などの違いによるトレーニング効果の相違を指摘できる。					
2. 適切に負荷を設定し、トレーニング効果を上げるとともに安全に配慮して危険を避けることができる。					
3. 身体条件を考慮してプログラム内容を変更できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 自身に適したトレーニング方法に関心を持ち、授業で設定した目標に意欲的に取り組むことができる。					
<b>態度の観点:</b> 1. グループ内で協調して行動できる。					
2. トレーニングの結果を正確に記録し、トレーニング・プログラムの改善に役立てることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 正しい方法で機器を使用できる。					
2. 安全な方法で運動を実施できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>欠席3回以内で、トレーニングの記録とレポートを提出することが単位認定の条件である。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002331024
<b>開設科目名</b>	政治学 [Politics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(経除)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	織織 厚			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
テキストである織織厚著『戦争と平和の政治学』を地用して、現代社会の主要課題としての戦争と平和に対する歴史的かつ政治的なアプローチによる理解力を深め					
<b>授業の一般目標</b>					
戦争と平和に関する研究成果の基本を理解し、暴力なき社会を創造するための方法論を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 平和学的基础知識を習得するために基本用語の解説を施す。毎回の出欠票に質問などを記述し、知識・理解の進行具合を確認する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 平和の創造は個人の主体的な判断と知識が不可欠であり、この観点から思考・判断の重要性を強調していく。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 当テーマに関する事件やエピソードを紹介し、身近な問題として捉えられる視点を養成する。					
<b>態度の観点:</b> 自ら積極的に関わることなくして同テーマは抽象度の高い領域となる恐れがある。よって、積極的且つ真摯に学ぼうとする態度が特に求められる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 毎回提出予定のミニレポートに講義への感想や質問などを記述させる。					
<b>その他の観点:</b> 毎回の授業後提出を課しているミニレポートへの記述内容を参考とする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
論述試験で評価する。					
<b>教科書</b>					
戦争と平和の政治学 / 織織厚: 北樹書房, 2005					
帝国日本の原型とその再登場 / 織織厚: 凱風社, 2009					
憲法9条と臨戦国家日本 / 織織厚: 凱風社, 2006					
<b>参考書</b>					
侵略戦争 / 織織厚: 筑摩書房, 1999					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
E-Mail: koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
Wed. AM10:00-12:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002353007
<b>開設科目名</b>	生命科学概論 [Introduction to Life Science]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山本 芳実, 和田 直己, 西垣 一男			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本授業は、農学部3人の講師により、現代生命科学をそれぞれの側面から論じる。受講者は、いきもの好きであることを希望する。					
<b>授業の一般目標</b>					
新聞やテレビ等で目にし、耳にする生命科学の様々なニュースに対して、自分なりの判断が出来るようになることが目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 生命科学の多様な考え方、現代社会に対する様々な影響を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 生命とは、ヒトとは、に関して、自分なりの観点を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ヒトを含むあらゆるいきものに対して関心をもつ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
基本的にレポート提出					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
生きもののからくり (改訂版) / 中村・裕村・山本共編, :培風館, 2006					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 1~2	<b>時間割コード</b>	1002353008
<b>開設科目名</b>	生命科学概論 [Introduction to Life Science]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	人・教 経			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	村上 柳太郎, 真野 純一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
人間は生き物であり、全ての生物がそうであるように、種が有する固有の性質に従って生きている。生物学的な視点で人間と人間を取り巻く環境を見直すことで、心の働きを含む人間のさまざまな性質が、他の動物と共通する進化的由来を持つこと、そして、人間の生存が他の生物や、その活動が作り上げた環境に深く依存することが理解できる。授業の前半は、生物の性質を決める遺伝子、進化、性、脳とこころの働きなどの話題を取り上げ、後半は、人間の生存に不可欠な酸素やエネルギーの由来や遺伝子組換え技術などについて解説し、生き物としての人間と、人間を取り巻く環境について、現代生命科学の視点から考えたい。					
<b>授業の一般目標</b>					
人間の性質や行動、人間を取り巻く環境を生物学的視点で理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 人間を中心とした基本的な生物学の知識					
<b>思考・判断の観点:</b> 人間の行動や性質、人間を取り巻く環境を生物学的観点からとらえ直す。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分たちの未来と生命科学の知識					
<b>態度の観点:</b> 自分および自分が生きている世界について理解する					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えを文章で表現する					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席状況、小テストまたは小レポート、試験などによる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
生きもののからくり / 中村ら : 培風館, 2006					
もう牛を食べても安心か / 福岡伸一 : 文春新書, 2004					
生と死の自然史 - 生命を統べる酸素 / ニック レーン : 東海大学出版会, 2006					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
村上柳太郎(内線 5696) ryu@yamaguchi-u.ac.jp					
真野純一(内線 5945) mano@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
(真野)午後 1 時から 5 時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002372011
<b>開設科目名</b>	生命と倫理			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)・3年(経・理・農)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	利部 聡, 粟屋 剛, 今井 千文, 内山 新吾, 川上 義則, 田中 マキ子, 野間 伸次, 波多江 忠彦, 山田 寛人, 松原 幸恵, 村田 智昭, 織瀬 厚, 山本 真弓			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>人は、たった1匹の精子と、数百万個のうちの1個の卵子が会って長い人生を開始する。せっかくこの世に生を受けた命も、光を見ることなく闇から闇に葬り去られたり、生まれてこなかったほうがよかったと、治療停止をされたりする新生障害児もいる。成長しても、いじめに会って命を奪われ、戦争でも殺される。</p> <p>人の命を支えるために殺される家畜や実験動物の命はどうか。私達は、こういった問題をどのように考えたらよいのだろう。</p> <p>命を取りまく問題をいろいろな角度から取りあげ、「命」と「倫理(人の道)」をともに考え、講義する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
皆さんの知的欲求を刺激し、大学で身に付けなければならない自己学習能力(理解能力・計画力・情報能力)を養うことも目的とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 講師の言葉を、自分の言葉に置き換えて思考する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 何よりも自分の言葉で思考し、伝える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> いのちに関する社会的出来事に関心を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自らの考え方を人に伝えることを身に着ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と感想文					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>楽しい授業、それでいて考えさせる授業を目指します。山口で考えられる最高の講師に依頼しました。「いのち」をさまざまな切り口から論じ、みんなで考えてみませんか。毎回講師が変わり、「いのち」というテーマがこれほどまでに奥深く実感させられます。</p> <p>後期は就職活動・教育実習等で受講できないことがあると思います。相談に応じます。</p>					
<b>連絡先</b>					
農学部211 933-5910					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜10時30分					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002311013
<b>開設科目名</b>	生命倫理学 [Bioethics]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	谷田 憲俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
医療には医科学で解決できない諸問題が存在することを理解し、自らが考えて判断できる基礎を築くことを目的とする。そのため、授業では医療に関する様々な課題を提供し、多様な視点からの議論を紹介する。学生には、それぞれについて意見を求め、討論をしながら授業を進めていく。さらに、課題についてのレポートを求め、自己の考えを整理しながら生命倫理に関する素養を修得できるようにする。					
<b>授業の一般目標</b>					
医療について自らが考え・判断する能力を養い、真に人間的な幸福・豊かさを探求するための「礎」を築く。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 道徳や倫理、生命倫理を理解する。医療の歴史を知る。インフォームド・コンセントの理念を理解する。医療情報の重要性を理解する。尊厳死や安楽死を理解する。脳死・臓器移植にまつわる諸問題を述べられる。生殖医療の課題を理解する。終末期医療が提起する問題を理解する。医療過誤にまつわる課題を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自己の価値観を大切にし、異なる価値観の他者と対話できるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題を分析し論理的な解決方法を模索できる。医療の歴史から現代の諸問題の背景を知る。生殖医療がもたらす影響を理解する。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加する。インフォームド・コンセントから人権尊重の態度を修得する。					
<b>技能・表現の観点:</b> コミュニケーション術を学び、適切な人間関係を構築する基礎を修得する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学業への態度とレポート点60%、試験結果40%					
<b>教科書</b>					
インフォームド・コンセント その誤解・曲解・正解 / 谷田憲俊: NPO 医薬ビジランスセンター, 2006					
<b>参考書</b>					
幸せをよぶコミュニケーション / ジャック・サロメ: 行路社, 2004					
患者の権利 患者本位で安全な医療の実現のために / ジョージ・J・アナス: 明石書店, 2007					
患者・家族の緩和ケアを支援するスピリチュアルケア 初診から悲嘆まで / 谷田憲俊: 診断と治療社, 2008					
<b>メッセージ</b>					
PowerPoint ファイル講義資料を希望する学生は、tanida@yamaguchi-u.ac.jp までメールすること。なお、ファイルが大きいので2Mほどの容量を要する。また、さかのぼっての送付はしないし、講義終了とともに、この受付は停止するので留意すること。					
<b>連絡先</b>					
tanida@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
学生はいつでも訪問歓迎(留守の時はご容赦を)。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002311014
<b>開設科目名</b>	生命倫理学 [Bioethics]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	村瀬 ひろみ			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>近年、科学技術の発展とともに、医療をめぐる技術にも大きな変化があります。また、病気の種類や治療に対する考え方も変化してきました。従来の「おまかせ医療」では、解決できない問題が出てきています。本授業では、脳死・臓器移植や、高度生殖医療などの最先端技術について倫理問題としての側面からアプローチします。医療者としてではなく、一般の医療サービスを受ける人としての立場から、技術内容、問題点を理解できるようにします。(もちろん、医療関係者の卵の方も大歓迎です)。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>近年、激動の医療現場では、さまざまな利害が衝突し、また、価値を伴う判断を迫られることになってきました。そのような場合に、判断の根拠となるものが「倫理」です。本講では、生命や医療にまつわる生命倫理学の立場から、さまざまな医療環境における問題を考える力を養うことを目的とします。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 高度先端医療の概略と問題点が理解できる。生命倫理学における、問題把握のための諸概念が理解できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 個別のケースごとに、かかわる人々の立場を理解し、尊重したうえで、解決への道をさくることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>基本的に、ペーパー試験のみとする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>医療倫理 I・II / グレゴリー・E・ペンス: みすず書房, 2000</p> <p>医の倫理 / H・プロディ: 東京大学出版局, 1983</p> <p>私的所有論 / 立岩真也: 勁草書房, 1997</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>意欲的な取り組みを期待しています。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5~6	<b>時間割コード</b>	1002343007
<b>開設科目名</b>	生命を科学する			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(検査除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	小林 誠			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月9~10	<b>時間割コード</b>	1002312012
<b>開設科目名</b>	西洋史 [Occidental History]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	藤永 康政			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
歴史学は暗記ではなく、解釈の技法=アートである。この授業では、1960年代後半よりアメリカ史の叙述の中心のひとつになってきた、アメリカ黒人の通史を概観する。最初に新大陸にアフリカ人が住み始めてから、バラク・オバマ大統領当選に至る現代までの概史を取り扱う。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学の方法論について理解を深める。</li> <li>・今日の歴史学が進んでいる方向への理解を深める。</li> <li>・アメリカ社会への理解を深める。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める					
<b>思考・判断の観点:</b> 既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける					
<b>関心・意欲の観点:</b> 現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める					
<b>技能・表現の観点:</b> 良い「問い」のたてかたを会得し、適切かつ正確な日本語表現能力を身につける					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
数回に一度の割合で質疑応答の回を設けるが、質問の内容も成績考課の対象とする					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
高校で世界史を履修しなくとも授業内容は理解できるが、「世界」に対する関心がある学生の受講が望ましい。たとえば、「アメリカ南部」と「南アメリカ」の常識的区別がつかない学生には、この講義の難度はかなり高いであろう。また、例年、ほかの授業での「抽選にはずれたから」という理由で受講を希望するものも多く見られるが、本講義の受講生には能動的に「考えること」や「疑問をもつこと」を要求するゆえに、今一度、ほんとうにこのテーマを学びたいのかを自問自答してほしい。受講にあたっての相談は下記連絡先にて随時応じる。歴史は暗記の科目ではありません。					
<b>連絡先</b>					
メールアドレス:yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金5-6	<b>時間割コード</b>	1002312013
<b>開設科目名</b>	西洋史 [Occidental History]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	岩崎 好成			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
直接的には、なぜアウシュヴィッツの悲劇は生じたのか、との問いを軸に、「ユダヤ人」差別の歴史、特に近現代ドイツ史上のそれを分析する。が、その際に力点が置かれるのは、歴史を語る際のルールや歴史を学ぶ意義を吟味すること、更には、現代の日本に生きる「普通の人々」としての我々にも通ずる問題群を析出し、一種の教訓としてこれを考えることである。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 歴史学を構成する基本を習得する。 2. 我々の行動や考え方を分析する際に有用な概念・視角を(ホロコースト分析から)取り出し吟味することを通じて、人間・社会についての理解を深める。 3. 以上から、<他人事・余所事の歴史学・西洋史>からの脱却をめざす。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 講義内容の主要部分を再現できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 与えられた資料や条件をもとに推論することができる。					
講義で学んだ概念・視角などを評価・応用することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 資料の読解や仮説の構築に意欲的に取り組むことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内の小テスト・小レポート(4回程度)と、中間・期末レポート(課題は基本的に講義内容の再現)で評価する。なお、遅刻者は大幅に減点されるので注意。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業開始後の入室を禁じます。受講生数の制限をします(150名程度)。第3講以降の受講開始は認めません。					
<b>連絡先</b>					
iwasaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部4F					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002335015
<b>開設科目名</b>	性をめぐる今日の状況			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山本 真弓			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
積み上げ式の授業である。3つのテーマを設定し、それぞれについての映画を見せ、その前後に、レポートを課すが、最終的に3つのテーマは、大きな全体の理解に向けられるべく授業構成されている。すべての授業に出席してはじめて、全体像がつかめるという授業構成になっている。					
<b>授業の一般目標</b>					
この授業は、性を扱った外国映画(フィクション)を通して、性について、さまざまな観点から考え、意見交換をし、理解を深めていくことを目指している。とりあげるのはすべて外国映画であるため、1. 異文化における性、2. 異なる時代背景における性、3. 性を考える多様な観点、に触れ、拒否するのでもなく、「多様性」として受容するのでもない、「考え続けること」という態度を身につけることがもっとも望ましい態度と想定している。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中のレポートおよび定期試験					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
欠席は映画の未鑑賞という事態を招きかねないので、基本的に認めない。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002335016
<b>開設科目名</b>	戦略と経済心理			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	寺地 伸二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
行動の合理性と非合理性について講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
行動の合理性と非合理性について学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験を実施して、授業の理解度をみる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木5-6	<b>時間割コード</b>	1002313002
<b>開設科目名</b>	漱石の思想 [The Thoughts of Natsume Souseki II]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	村上 林造			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
漱石の生涯をたどりながら、近代社会の問題点について考察し、思想家としての彼が時代とどう向かい合い、克服したかを解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
近代社会の特質と問題点を理解する。 「学ぶこと」の意義を理解し、大学での自分の課題を明確にして、それに立ち向かう姿勢と方法を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績は、授業内レポート、小レポート、期末レポートによって行う。 欠席4回に及んだものは履修を認めない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002335012
<b>開設科目名</b>	大学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	吉田 香奈			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代の日本では、大学を取り巻く政治的、社会的、経済的、国際的な状況がかつてないほど大きく変動している。大学はもはや「知の聖域」として存続することが難しく、社会の変化とともに大きく変わらざるを得ない状況にある。そこで、本授業では、日々私たちが学習や研究活動を行っている「大学」という組織についてとりあげ、大学の制度、入試、教育内容、教育方法、学生支援、大学評価の領域について諸外国との比較を交えながら講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)大学教育をめぐる基礎的な事項について説明できる					
(2)大学教育を様々な角度から考察し、問題点や改善策を提示できる					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 授業で取り上げた各領域の基本的な事項について理解している					
<b>思考・判断の観点:</b> 様々な資料・データ等を読み、多様な角度から課題を検討し、望ましい在り方について自分の意見を述べるができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
最終回に期末試験を行う。また、					
<b>教科書</b>					
高等教育概論 / 有本章・羽田貴史・山野井敦徳編著:ミネルヴァ書房, 2005					
<b>参考書</b>					
大学教育学 / 京都大学高等教育研究開発推進センター編:培風館, 2003					
大学と社会 / 安原義仁・大塚豊・羽田貴史:放送大学教育振興会, 2008					
<b>メッセージ</b>					
大学における教育や学生支援の在り方について考えてみたい人の受講を歓迎します					
<b>連絡先</b>					
大学教育センター吉田研究室(共通教育棟3階)					
Email: ykana@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日 10:30-12:00					

<b>開設期</b>	後期前半	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002341001
<b>開設科目名</b>	地球科学の考え方 [Concept of Earth Sciences]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	人・教 経			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	永尾 隆志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
地球上で起きているいくつかの現象を例に、地球科学の考え方を学び、さらに地球の将来について考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
地球上で起きている現象について興味を持ち、説明できるような基礎的な力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 地震、火山のしくみや自然災害について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> いくつかの事実をつなぎあわせて総合化できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 新聞やテレビなどで報道されている地学現象について感心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に授業に参加し、質問や意見がいえる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 課題について、図やグラフを用いてわかりやすく説明することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1. 授業の内容に関するレポートの提出を求め、それを評価する。2. 試験					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
理学部 340 号室 e-mail tnagao@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002372012
<b>開設科目名</b>	知的財産権論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工3年			<b>学年</b>	3~
<b>担当教員</b>	堤 宏守			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>知的財産権は、人の知的・精神的活動の所産としての創作物を支配する権利を指しており、例えば、特許、実用新案のような発明に対して与えられるもの、意匠のようにデザインに対して与えられるもの、などが有ります。これらの権利は、現代社会を側面から支えているものであり、自分の開発した技術を実際に利活用する際に重要な役割を果たしています。</p> <p>この講義では、知的財産の基礎について学ぶほか、特許情報などの検索演習も行い、知的財産の実践的な利活用ができるための基礎を習得することを目指します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1) 知的財産(権)についての基礎的な用語などを理解できる。</p> <p>(2) 特に特許に関連した事項、発明の定義、特許になる発明、特許出願から登録までの流れなどを理解し、説明できるようになる。</p> <p>(3) 特許明細書の形式について知るとともに、明細書に記載されている内容を読み取ることができるようになる。</p> <p>(4) 特許電子図書館(IPDL)や山口大学特許情報検索システム(YUPASS)の使い方を理解し、必要な情報検索ができるようになる。</p> <p>(5) IPDL や YUPASS を利用して得られた特許情報などを整理し、簡単なパテントマップが作成できるようになる。</p> <p>(6) パテントマップなどから、様々な情報を読み取ることができるようになる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 知的財産(権)についての基礎的な用語などを理解できる。</p> <p>・特に特許に関連した事項、発明の定義、特許になる発明、特許出願から登録までの流れなどを理解し、説明できるようになる。</p> <p>・特許明細書の形式について知るとともに、明細書に記載されている内容を読み取ることができるようになる。</p> <p>・特許電子図書館(IPDL)や山口大学特許情報検索システム(YUPASS)の使い方を理解し、必要な検索ができるようになる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> パテントマップなどから、様々な情報を読み取ることができるようになる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 知的財産(権)の利活用に興味をもって取組ことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 講義や演習に積極的に関与することができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 特許電子図書館(IPDL)や山口大学特許情報検索システム(YUPASS)の使い方を理解し、必要な情報検索ができるようになる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>(1) 出席は、欠格条件とする。</p> <p>(2) 出席確認を兼ねた小レポート、小テストを行うことがある。</p> <p>(3) 成績評価は、(2)及び課題レポート、定期試験により総合的に判断する。</p> <p>(4) 演習時の成果物も評価の対象とする。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>ばてナニノ 堤 宏守、その他:EM パブリッシング, 2007</p> <p>ばてナビノ 堤 宏守、中村秀明:EM パブリッシング, 2007</p>					
<b>参考書</b>					
, 2007					
<b>メッセージ</b>					
<p>企業などに就職したときに知的財産(権)について知っていることは、一つの強みになります。特許情報検索演習などがあるので、積極的な参加をお願いします。基礎知識の段階から講義を行うので、特に用意は必要ありませんが、身の回りの特許を使っている製品などを少し意識して探しておいてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
講義開始時に連絡します。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002371012
<b>開設科目名</b>	知の広場 - 人と学問 -			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	吉田 香奈, 岩部 浩三			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
山口大学の学生が、各講師それぞれの学問分野(仕事)の概要を知ることにより、本学の学生としての自覚を持ち得るようにする。この授業を契機として、学問や社会や人間について問題意識を持つようになることが望ましい。					
<b>授業の一般目標</b>					
講師それぞれの学問分野のおおよそを理解し、必要に応じてその分野の専門家や文献にアクセスできる能力を養う。また、講師自身の教育者、研究者および職業人としての体験から、それぞれの専門領域の社会的位置づけや将来への展望、さらには人間としての生き方を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 各学問分野の概要を理解する					
必要に応じてその分野の専門家や文献にアクセスできる能力を身に付ける					
<b>関心・意欲の観点:</b> さまざまな学問分野に関心を持ち、自己の将来像を描きながら学習できる					
山口大学の学生としての自覚と目標を持つことができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者に毎回短いコメントを提出させる。講師により最後の講義の後半で試験またはレポートを課すこともある。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002331035
<b>開設科目名</b>	地理学 [Geography]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	荒木 一視			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近年、食に対する関心が高まっています。しかし、はたして私たちはどのくらい実際に食べているものについての情報を持っているのでしょうか？あなたが夕べ食べた食材はどこで作られたものなのでしょうか。おそらく答えられる人は1人もいません。しかし、その背景には近年急速に成長しつつある食料供給システムが存在しているのです。本講義ではその一端を紹介します。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本、韓国、中国、インドというアジア諸国の青果物流通についての認識を深めるとともに、今日の青果物供給体系が孕む問題点や課題、またそれを構築してきた背景について検討する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 今日のアジアの青果物供給体系(その形成と現状、問題点)についての理解を深める。					
<b>思考・判断の観点:</b> 今日のアジアの青果物供給体系を理解した上で、それが抱える問題点についての思考を深める。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 「食」「アジア」に関する関心を深める。					
<b>態度の観点:</b> きちんと授業を聴くと同時に、積極的に質問してもらいたい					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験あるいはレポートに加えて、授業時間中の質疑、討論の内容も評価に加える。					
<b>教科書</b>					
アジアの青果物卸売市場 / 荒木一視: 農林統計協会, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月 9～10	<b>時間割コード</b>	1002355008
<b>開設科目名</b>	デザイン工学入門 [Introductory Design Engineering]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全(医・農除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	木下 武志, 望月 信介, 小河原 加久治, 齊藤 俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
幅広い「デザイン」と「工学」の関わりを理解するために各専門領域を中心としたオムニバス形式の講義が展開される。授業では、具体的な実例を紹介しながら、基本的な造形プロセスについて概説し、「もの」や「情報」の形態がデザインの・工学的に設計されていることを理解させる。これらを通じて、ものづくりに対する視野を広げると共に、デザインと工学の関連性についての興味・関心を高める。					
<b>授業の一般目標</b>					
私たちの生活環境を築いている「もの」や「情報」における「デザイン」と科学・工学の知識を得て、その造形プロセスの基本を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
各専門領域・分野のオムニバス形式授業ごとでの小テスト、レポート、出席などでの総合評価を行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火3~4	<b>時間割コード</b>	1002311003
<b>開設科目名</b>	哲学 [Philosophy]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	村田 貴信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>歴史や自然、社会や世界、そしてなによりもまず自分自身について、立ち止まって見つめなおしてみる機縁になるように、以下の二点を支軸にして講義を展開する。</p> <p>(1) 自己と世界とにともに関わる人知の精髓を哲学史の展開のなかに探る。</p> <p>(2) ものごとを広く(多面的に)深く(根源的に)考えることの意味と意義とを理解する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1) 哲学の根本問題について考えてみる。</p> <p>(2) 哲学の対象と方法とにかんする基礎的な理解を得る。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>「一般目標」に掲げた(2)がここでの直接的な「到達目標」である。哲学で用いられることばの正確な理解も求められる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>「一般目標」の達成を通じて、「概要」の(2)に掲げた「ものごとを広く(多面的に)深く(根源的に)考えることの意味と意義と」を理解し、実践できることが求められる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>「一般目標」に掲げた(1)との関連において、「概要」の(1)に掲げておいたように、自己(人間)や世界への広く深い関心が求められる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>自分の考えをしっかりと日本語で表現できることが求められる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内レポート(2回)と指定参考書についての授業外レポート(1回)とで成績を評価する。1レポート100点満点とし、3レポートで計300点満点を3で割る。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
科学技術と倫理 / 石田三千雄他: ナカニシヤ出版, 2007					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火 9～10	<b>時間割コード</b>	1002311004
<b>開設科目名</b>	哲学 [Philosophy]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	来栖 哲明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>現代では様々な分野において国際化が進み、諸民族の相互理解と平和的共存のために異文化を理解することが重要性を増している。また外国の文化を自国の文化と異なった「他」なるものとして理解することは、逆に自国の文化を再認識することになる。</p> <p>この講義ではドイツと日本の思想を主な材料として、異文化理解のための哲学的方法論を主題とする。そして西洋および日本の文化を振り返り、その批判的吟味を通して我々日本人のあり方を探るための一助とし、現代に生きる日本人としての自覚を養うとともに、国際社会に対応できる人間性を養う準備とすることを目標とする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
哲学史や哲学の基礎概念を理解すると同時に、一つの問題について自らが哲学的に思考する態度を養う。また異文化理解についての関心を高める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 概論的な哲学史や、哲学の基礎的な用語・考え方が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 哲学的に自ら考え、判断する態度を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 異文化と日本文化についての関心を高める。					
<b>態度の観点:</b> 積極的な発言を歓迎する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 試験では自らの考えを読者に分るように論理性を持たせて表現する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験による。					
<b>教科書</b>					
インター・カルチャー - 異文化の哲学 / 寄川条路(編) : 晃洋書房, 2009					
<b>参考書</b>					
思索の道標をもとめて - 芸術学・宗教学・哲学の現場から / ドイツ観念論研究会(編) : 萌書房, 2007					
西洋哲学史(再訂版) / 岩崎武雄: 有斐閣, 1983					
<b>メッセージ</b>					
教科書購入が受講の条件。購入については初回の講義で指示する。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金5-6	<b>時間割コード</b>	1002311005
<b>開設科目名</b>	哲学 [Philosophy]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	青山 拓央			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
時間、自由、可能性についての哲学的問題を扱います。提出レポートの採点基準はやや高めです。自分自身で問題を考え、それを文章化することの嫌いな学生には受講を勧めません。受講希望者多数の場合は、着席順などをもとに受講制限をする場合があります。					
<b>授業の一般目標</b>					
時間、自由、可能性についての哲学的問題を知り、そこから学生自身で考えを進めることを目標としています。小論文(レポート)執筆のための、簡単なアドバイスも行ないます。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 時間、自由、可能性についての哲学的問題を、解説・検討します。					
<b>思考・判断の観点:</b> 既存の学説に対する自分の考えをまとめ、レポート化します。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
提出レポートをもとに評価を行ないます。採点基準はやや高めです。レポートの具体的な提出方法については、授業中に説明します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回にガイダンスを行うため、必ず出席してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1002312008
<b>開設科目名</b>	東洋史 [Oriental History]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	高木 尚子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本近代史学の礎を築いた巨人である内藤湖南(1866 1934)の東洋史学の体系、とりわけ時代区分論を手がかりに、中国史の全体像を概説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本の歴史を真に理解し、現代日本人がどのような時代を生きているのかについて深く思索するためには、東洋の歴史の全体像について理解することが重要不可欠である。東洋史 = 中国文化発展史と定義し、東洋史の一部として日本史を深く理解した内藤湖南の東洋史学の枠組みを参照しながら、中国史の全体像を理解し、私達自身の歴史や文化に対する認識を深め、自分自身について思索する力をつける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国史の全体像について、概要を説明できる					
<b>思考・判断の観点:</b> 「なぜ今、内藤湖南の東洋史が重要なのか」について考える					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分が生きている場所・時代が歴史的産物であることに関心をもつ					
<b>態度の観点:</b> 自己の価値観を相対化できる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験により、目標の達成度を評価する。 受講態度が悪い場合は、欠格とすることがある。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
自ら学ぶ姿勢を求める					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1002312007
<b>開設科目名</b>	東洋史 [Oriental History]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	飯塚 靖			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義では、アヘン戦争から辛亥革命を経て 1912 年に中華民国が成立するまでの中国近代の歴史過程を通観する。アヘン戦争以降の欧米列強の進出により、中国の内外秩序は大きく動揺した。そしてこの後中国では、国家の統一・安定と経済・社会の近代化を求めて、長い模索が続くのである。特にこの時期には、洋務派官僚・立憲派・革命派が次々と歴史の舞台に登場しそれぞれの国家構想を提示し、ついには激しく抗争した。講義ではこの複雑な歴史過程を、西太后、李鴻章、孫文、袁世凱などの人物に焦点を当てることにより、生き生きと再現して行きたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>アヘン戦争から辛亥革命を経て 1912 年に中華民国が成立するまでの中国近代の複雑な歴史過程について、西太后、李鴻章、孫文、袁世凱などの人物を中心として、生き生きと理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火1~2	<b>時間割コード</b>	1002334005
<b>開設科目名</b>	日本国憲法 [The Japanese Constitution]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(高年次優先)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	梶原 健佑			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本国憲法についての基本的な知識を講義する。「憲法」という法は、誰に宛てられた法であり、何を定めている法なのかを、近代立憲主義思想を手がかりに検討する。具体的事例を参照しつつ、日本国憲法と現実社会との関わりについて扱う。					
<b>授業の一般目標</b>					
憲法の基礎的概念の意味を理解し、日々生起する政治・社会のニュースを憲法のスクリーンを通して分析できるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 憲法の基礎的概念・原理の意味や、基本条文の内容を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 憲法の基本知識をふまえて、相互に関連する憲法規定の体系につきイメージをつかむことができる。具体的な事例(問題)に対して憲法的なアプローチをすることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 現実の政治・社会の状況への関心を広げ、問題意識をもってニュースを見ることができる。					
<b>態度の観点:</b> 勉強の過程で自ら疑問点を発見し、その解決に向けて積極性を発揮できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 内なる知識・思索を、他人に分かるようにアウトプットすることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験の成績に出席点を加味して評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
日常の政治・社会のニュースに関心のある学生の履修を望みます。高校までで学ぶ憲法の知識を一步超えた「憲法学」にふれてください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7～8	<b>時間割コード</b>	1002334006
<b>開設科目名</b>	日本国憲法 [The Japanese Constitution]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	川野 祐司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本国憲法の基本事項について、なるべく身近な事例に関連づけて、講義する。日本国憲法の基礎的な知識のみならず、法学に固有の思考方法(法的思考)の概略にも触れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
高度化、複雑化する現代社会において、日本国憲法の基礎的な知識や法的思考の概要は、専門家以外にも求められる基本的な素養となっている。日本国憲法は、しばしば、難解で取っつきにくく、価値や理念が先行する抽象的なものといった印象を与える。しかし、実際には、身のまわりに起こっているさまざまな出来事に具体的に関わっており、それらを筋道立てて説明するのに役立つ。					
日本国憲法を学ぶということは、同時に、近代、社会、個人、国家、政治、法、人権といった諸概念をより深く理解し、獲得することを目指す営みでもある。これによって、われわれの生きる社会をより深く理解することができるようになることが、本講義の目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 日本国憲法に関する基礎的な知識を習得すること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 法学・憲法学固有の思考方法について概要を理解すること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常、あるいはニュース・報道等で聞きする話題と日本国憲法のかかわりについて積極的に興味をもつこと。					
<b>態度の観点:</b> 自分自身の専門分野にとらわれないで、現代人の基礎的な素養として必須のものであることを自覚すること。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分自身の専門外の内容についても、説得的な論述ができること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験によって評価する。ただし、加算考慮事項として、講義内レポート、出席点も評価対象に加える。 (悲しむべきことながら、私語等で講義を妨害する者には、以後の受講・期末試験受験および単位取得を認めない。)					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
現代憲法概論(第2版)/土井靖美、網中政機編著:嵯峨野書院,2006					
憲法(第4版)/芦部信喜著、高橋和之補訂:岩波書店,2007					
憲法フォーラム(増補版)/畑博行、阪本昌成編:有信堂高文社,2005					
憲法(第3版)/佐藤幸治:青林書院,1995					
憲法判例百選Ⅰ,Ⅱ(第5版)/高橋和之、長谷部恭男、石川健治編:有斐閣,2007					
<b>メッセージ</b>					
新聞・雑誌・テレビなどでの政治や憲法・法律にかかわるニュースに、意識して注目してみてください。そして、疑問に思ったことを調べてみましょう。そして、調べてもよく分からないことについては、質問してください。何気ない日常のニュースの中にも、多少の知識と興味をもって見れば、興味深いものが転がっています。					
<b>連絡先</b>					
mail:a0a11161@yamaguchi-u.ac.jp('0'は数字のゼロ)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木7～8	<b>時間割コード</b>	1002334007
<b>開設科目名</b>	日本国憲法 [The Japanese Constitution]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	工2年			<b>学年</b>	2～
<b>担当教員</b>	川野 祐司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本国憲法の基本事項について、なるべく身近な事例に関連づけて、講義する。日本国憲法の基礎的な知識のみならず、法学に固有の思考方法(法的思考)の概略にも触れる。					
<b>授業の一般目標</b>					
高度化、複雑化する現代社会において、日本国憲法の基礎的な知識や法的思考の概要は、専門家以外にも求められる基本的な素養となっている。日本国憲法は、しばしば、難解で取っつきにくく、価値や理念が先行する抽象的なものといった印象を与える。しかし、実際には、身のまわりに起こっているさまざまな出来事に具体的に関わっており、それらを筋道立てて説明するのに役立つ。					
日本国憲法を学ぶということは、同時に、近代、社会、個人、国家、政治、法、人権といった諸概念をより深く理解し、獲得することを目指す営みでもある。これによって、われわれの生きる社会をより深く理解することができるようになることが、本講義の目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 日本国憲法に関する基礎的な知識を習得すること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 法学・憲法学固有の思考方法について概要を理解すること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常、あるいはニュース・報道等で聞きする話題と日本国憲法のかかわりについて積極的に興味をもつこと。					
<b>態度の観点:</b> 自分自身の専門分野にとらわれないで、現代人の基礎的な素養として必須のものであることを自覚すること。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分自身の専門外の内容についても、説得的な論述ができること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験によって評価する。ただし、加算考慮事項として、講義内レポート、出席点も評価対象に加える。 (悲しむべきことながら、私語等で講義を妨害する者には、以後の受講・期末試験受験および単位取得を認めない。)					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
現代憲法概論(第2版)/土井靖美、網中政機編著:嵯峨野書院,2006					
憲法(第4版)/芦部信喜著、高橋和之補訂:岩波書店,2007					
憲法フォーラム(増補版)/畑博行、阪本昌成編:有信堂高文社,2005					
憲法(第3版)/佐藤幸治:青林書院,1995					
憲法判例百選Ⅰ,Ⅱ(第5版)/高橋和之、長谷部恭男、石川健治編:有斐閣,2007					
<b>メッセージ</b>					
新聞・雑誌・テレビなどでの政治や憲法・法律にかかわるニュースに、意識して注目してみてください。そして、疑問に思ったことを調べてみましょう。そして、調べてもよく分からないことについては、質問してください。何気ない日常のニュースの中にも、多少の知識と興味をもって見れば、興味深いものが転がっています。					
<b>連絡先</b>					
mail:a0a11161@yamaguchi-u.ac.jp('0'は数字のゼロ)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木 9～10	<b>時間割コード</b>	1002334008
<b>開設科目名</b>	日本国憲法 [The Japanese Constitution]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	電気・知能・感性			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	上杉 信敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
わが国の最高法規である憲法について考察する。その際、国民が主権者であることを踏まえて、国民主権、三権分立、人権保障、平和主義などについてみていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
現行日本国憲法の内容について基本的なことを理解すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
憲法が規定する重要原則―国民主権、三権分立、人権保障、平和主義、などについて考えよう。					
<b>連絡先</b>					
内線5588					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5～6	<b>時間割コード</b>	1002334009
<b>開設科目名</b>	日本国憲法 [The Japanese Constitution]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	実践・情報・健康・総文			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	石 龍潭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義では、近代立憲主義の基本原則及び日本国憲法の保障する基本的人権の内容を中心に説明していく予定である。</p> <p>日本国憲法に対して、学生諸君には主体的な認識と解釈を形成してもらいたい、その素材を幅広く、具体的に提供していきたいと考えている。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>日常生活のいたるところに憲法問題が潜んでいることを知り、そうした問題に対して憲法の基本的知識を活用して一通りの説明が出来るようになることを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
筆記試験による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
日頃から新聞の政治欄・国際欄に興味を持ってもらいたい。					
<b>連絡先</b>					
<p>質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。</p> <p>(研究室:経済学部 A 棟 408 室)</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金7~8	<b>時間割コード</b>	1002334010
<b>開設科目名</b>	日本国憲法 [The Japanese Constitution]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	理			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	入江 祥子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本国憲法の基本事項(基本原理、歴史、人権、統治機構)を中心に、ニュースや判例をまじえて講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)主権者として必要な素養を身につける。(2)憲法改正問題を考えるにあたっての必要知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)憲法の基本原理およびその理論的背景を説明できる。(2)人権の意義、歴史を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 憲法改正問題における論点を説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)人権に関する問題意識を高めることができる。(2)憲法改正に関する問題意識を高めることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)毎回授業の最後に小テストを実施する。(2)期末試験を実施する。(3)受講態度も考慮する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講上の注意(1)受講希望者多数の場合(100名を超える場合)は抽選の上、受講者を決定する。(2)原則として授業中の途中退席者の再入室を禁止する。 (3)日本国憲法について問題意識をもった学生の受講を望む。					
<b>連絡先</b>					
共通教育棟の非常勤講師室に金曜日授業開始前後にいますので、入室してください。					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日午後1時45分~午後6時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 9～10	<b>時間割コード</b>	1002334011
<b>開設科目名</b>	日本国憲法 [The Japanese Constitution]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	経・医・農			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	入江 祥子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本国憲法の基本事項(基本原理、歴史、人権、統治機構)を中心に、ニュースや判例をまじえて講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)主権者として必要な素養を身につける。(2)憲法改正問題を考えるにあたっての必要知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)憲法の基本原理およびその理論的背景を説明できる。(2)人権の意義、歴史を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 憲法改正問題における論点を説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> (1)人権に関する問題意識を高めることができる。(2)憲法改正に関する問題意識を高めることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)毎回授業の最後に小テストを実施する。(2)期末試験を実施する。(3)受講態度も考慮する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講上の注意(1)原則として授業中の途中退席者の再入室を禁止する。(2)日本国憲法について問題意識をもった学生の受講を望む。					
<b>連絡先</b>					
共通教育棟の非常勤講師室に、金曜日授業開始前後にいますので、来室してください。					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 午後1:45～6:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002312002
<b>開設科目名</b>	日本史 [Japanese History]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	森下 徹			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
都市の歴史を通して、通史的に日本史を概観する。					
<b>授業の一般目標</b>					
都市の歴史を通じた日本史の通史的把握を行うこと。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間・期末テストおよび小テストの合算でおこなう。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
人数制限を行うので、初回の講義に必ず出席のこと					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 3～4	<b>時間割コード</b>	1002312003
<b>開設科目名</b>	日本史 [Japanese History]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	真木 隆行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
山口からみる中世の歴史					
<b>授業の一般目標</b>					
身近な地域から歴史を捉える。 歴史を見る目を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 講義で触れた基本的な事実関係について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 史料・先行研究・通説を独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席状況、授業内コメント票の記載内容、定期試験、以上から総合的見地に立って評価する。 (原則として、5回分の欠席が発覚した段階で受験資格を失うこととする) 試験では、講義内容を踏まえ、その内容を各自で構成し直し、論述文としての体裁を整えて論述する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日の放課後、または金曜日の放課後。 真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 7～8	<b>時間割コード</b>	1002312004
<b>開設科目名</b>	日本史 [Japanese History]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	中村 友博			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
山口県の遺跡; 日本史といっても、この授業は考古学の授業である。山口県内にある遺跡を、古い順にスライドを使用しながら、解説します。毎回、1遺跡を取り上げ、その遺跡の発掘調査が明らかにした事実をお話します。もし、その付近を通った時に、そういえばこの付近に遺跡があったはずだと思ひ浮かべてください。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 近くに遺跡があることを知ること。 2. 考古学によって過去のことを知ることができること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 考古学上の時代区分や発掘調査方法の特性が判る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 推理によって理解に到達する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 遺跡に興味を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験と授業中のミニ・テストで評価する。授業中のミニ・テストは出席調査を兼ねており、また一般的な学力・知識を問うことが多く、一夜漬けは通用しないので注意すること。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。受講生は100名以内としますので、大勢のばあいは初回に、選抜試験を実施します。					
<b>連絡先</b>					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室; 人文学部3階					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日; 16時10分～17時40分。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002321001
<b>開設科目名</b>	日本文学 [Japanese Literature]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	吉村 誠			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
万葉集全般について概説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
古典に興味を持ち、歌を自ら理解でき、鑑賞する方法を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
万葉集への興味 関心や理解の深さ。 採集レポート。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Web 教材を使用するので、コンピュータを利用する。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5-6	<b>時間割コード</b>	1002321002
<b>開設科目名</b>	日本文学 [Japanese Literature]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	森野 正弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
『源氏物語』の第三部と区分される巻々に焦点を絞り、鑑賞に比重を置いた読みを展開する。					
<b>授業の一般目標</b>					
作品の読解を通して平安貴族たちの感性や文化について学び、それらの知見と教養を培うことを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 『源氏物語』に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 『源氏物語』に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価は中間試験と期末試験を合算して算出する。持ち込みは一切不可。					
<b>教科書</b>					
角川ソフィア文庫『源氏物語』第8巻 / 玉上琢彌・訳注:角川書店, 2003					
<b>参考書</b>					
新編日本古典文学全集『源氏物語』(全6冊) / 阿部陞火生ほか:小学館, 1994					
源氏物語語釈(全12巻) / 玉上琢彌:角川書店, 1964					
合本・源氏物語事典 / 池田亀鑑・編:東京堂出版, 2008					
<b>メッセージ</b>					
出席状況 80%未満の者は欠格とします。授業開始後 15 分を過ぎてからの入室は出席として認めません。教科書は一般に流通している文庫本なので、こちらで書店に取り寄せを依頼することはいたしません。各自、第1回目の授業時までには書店に注文するなどして現物を入手しておいてください。					
<b>連絡先</b>					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 5・6 時限					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木1~2	<b>時間割コード</b>	1002355010
<b>開設科目名</b>	人間と植物			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(獣医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	山内 直樹, 高橋 肇			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>植物は、光合成によって太陽のエネルギーを固定し、地球の生態系内でのエネルギー利用を可能にする生産者と呼ばれている。一方、動物は、植物の固定したエネルギーを呼吸により活動のエネルギーとして利用することから消費者と呼ばれている。人間は、さらに、植物を燃焼することで熱エネルギーを取り出し、これを動力や電力に変えて活動することで人間社会を発展させてきた。産業革命後、人間は、植物が過去数億年の間に太陽エネルギーを固定し、蓄積してきた化石燃料を利用することで、驚くべき発展を遂げた。今、人間社会の活動は、際限なく膨張し、地球環境とともに人間自身の存続をも脅かしつつある。一方で、植物には、人間の心を豊かにする働きがあり、存亡の危機にある人間の心を癒し、経済発展に代わる新たな幸せや価値観を人間にもたらせてくれるかもしれない。本講義では、このように、これからの人間社会の在り方と植物を中心とする地球環境の展望を考えながら“人間と植物”を論ずる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>人間と植物との関わりは、植物のもつ多様な役割・用途を総合的にとらえることではじめてその本質が理解できる。そうすることで、植物が人間に対して食料やエネルギー資源として役立っていたり、精神的・医療的に役立っていたり、豊かな情緒をもたらすものであることがわかってくる。本授業を通じて、学部や分野、理系・文系といった枠にとらわれずに、物事を総合的に見つめる実学としての科学があることを知ってもらいたい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 人間に対する植物の様々な役割を理解する。					
2. 私たち人間をとりまく地球環境が危機的状況にあることを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 私たちの社会がこれから如何にあるべきかを考える。					
2. 私たち一人一人が今後、どのような価値観を持ち、どのように生活すべきかを考える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 自身のこれまでの興味・関心の枠を広げ、広く物事を知ることで、世界がいかに広がるかを知る。					
<b>態度の観点:</b> 1. 一年を通じて地道にコツコツと学び続けることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席点(2点)と毎回の授業終了後の小テスト(5点)、および最終試験により評価する。(出席2点+小テスト5点)×13回授業+最終試験9点=100点					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
内線 5840, 農学部 128 室, E-mail: tadashit@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月~金曜日 7:00~8:00 月・火・木・金曜日 12:00~12:30					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金5-6	<b>時間割コード</b>	1002343009
<b>開設科目名</b>	人間とバイオテクノロジー			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(検査除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	滝本 晃一, 松富 直利, 松井 健二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>生命の基礎は遺伝子です。遺伝子組み換えや遺伝子治療、遺伝子による個人の識別など遺伝子 DNA は私達の生活の中に深く関わっています。本授業では、遺伝子について概説し、遺伝子を傷つける環境要因としての紫外線について述べ、さらに遺伝子技術について概説する。我々の廻りには多種多様な食品が存在するが、それらの機能的性質や化学的特性、バイオサイエンス利用について述べる。全ての食物の基礎である植物を機能的に付加価値の高いものにするために従来から改変が加えられてきたが、それらについて紹介するとともに、植物遺伝子組み換えについて現状とその方法について開設する</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>バイオテクノロジーの背景となる生物学的知識を得、生命現象の基礎である遺伝子について理解を深め、さらに、バイオがどのように役立っているか、どのような可能性があるか、どのような問題があるかを考える素養を身につける。また、それらをもとにして我々の生活にどのように利用応用されているかを知る。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>生命、遺伝子を理解した上で遺伝子を利用するバイオテクノロジーが有用植物の作出や新たな食品の開発などにどのように利用されているかを説明できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>3名の教員がそれぞれ筆記試験をするか講義の内容についてレポートを課す。 3名の教員全ての試験受験あるいはレポート提出をした者のみにについて成績評価を行う。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月 11 ~ 12	<b>時間割コード</b>	1002372010
<b>開設科目名</b>	パソコンSOS2			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	2年(人・教)・3年(経・理)			<b>学年</b>	2~
<b>担当教員</b>	西口 毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>大学教育の問題点の一つは、学生自らが「発見し、はぐくみ、かたちにする」機会の乏しさである。受身の授業だけでは、問題探求・解決能力を育てることができない。本授業では、学生がパソコンSOSセンターにおけるパソコンユーザ支援に主体的に取り組み、その活動を通して、「発見し、はぐくみ、かたちにする」ことを実体験する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>パソコンSOSセンターの学生スタッフとしての活動・体験を通して、パソコンのスキルを向上させ、問題解決能力、文書作成能力、自己表現力を身に付ける。また、「パソコンSOS1」の既修得者はSA(ステューデントアシスタント)として、履修者の指導を行い、指導能力を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. パソコンのOSやアプリケーションについて説明できる。					
2. ネットワークの仕組みについて説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. トラブルの原因を論理的に追求できる。					
2. トラブルの状況を総合的に判断して、原因を特定できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. パソコンに関わる問題を討議できる。					
2. パソコンに関わる情報を常に収集できる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 作業を協調して行なうことができる。					
2. 困っている人を助けることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. パソコンの高度な設定を行なうことができる。					
2. 明快で論理的な説明を行なうことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席率80%未満を欠格条件とし、毎回のレポート作成と学期末の報告書作成を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>パソコン相談員として活動するので、誰でも受講できるというわけではありません。受講希望者に対して、初回に能力診断テストを行い、パソコンに関するスキルが一定の水準以上の学生に履修を認めます。「パソコンSOS1」の既修得者については、無条件に履修を認めます。パソコンのトラブルなどで悩んでいる人の役に立ちたいという意欲を持つ学生を歓迎します。なお、授業の性格から、パソコン相談を行うことが授業への出席となります(曜日は希望に応じて決定)。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月 9～10	<b>時間割コード</b>	1002333012
<b>開設科目名</b>	発達心理学 [Developmental Psychology]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全(農(生資)除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	清 俊夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
年齢の変化に伴う心や行動の変化を発達というが、従来は、出生から青年期が終わるまでの上昇方向への変化を、主として発達とみなしてきた。しかしながら、高齢化社会の到来と、急激な社会変動に伴い、人間の一生涯の変化を発達として捉える生涯発達心理学の考え方が優勢となってきた。この生涯発達の段階を、この授業では 10 段階に区別し、それぞれの発達現象を記述するとともに、発達の危機とその克服をもあわせて理解することを目指す。					
<b>授業の一般目標</b>					
乳児期から幼児期、児童期、青年期、成人期を経て、老年期に至りまでの発達現象を理解するとともに、各段階での危機とその克服に関する基本的考え方を理解し、援助を必要とする人の理解と援助のための基礎を作る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 生涯発達心理学の基礎理論を理解し、各発達段階の発達と危機、その克服についての基本的な考え方を獲得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 人の行動を発達過程のなかに位置付けて理解し、その危機に対してどう理解し、どう援助したらよいかについて考え、それを表現できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 発達とその危機にたいして暖かい関心を持ち、自ら学習を深めようとする意欲を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 発達上の危機にある人に対して、暖かい関心を持ち、積極的に援助しようとする構えを身につける。					
<b>技能・表現の観点:</b> 発達上の危機(問題)を持つ人の話をよく聞き、ともに考え、ともに解決法を探ることを試みる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験 50%、小テスト 40%、出席 10% (3 回以上欠席したものは 0 点、遅刻 1 回につき - 1 点)。出席を確認してから、断りなく、教室を抜け出したものは、1 回であっても、出席点はなくなる。					
<b>教科書</b>					
パーソナリティ発達論 - 生涯発達と心の危機管理 - , / 岡堂哲雄: 金子書房, 2000					
<b>参考書</b>					
Life-Span Development, 10th ed. / J. W. Santrock: McGraw-Hill, , 2006					
<b>メッセージ</b>					
発達心理学が必修の者を除き、前期心理学の単位を修得済みの者以外は、この授業を履修できない。必修のものも、前期に心理学を履修し、期末試験を受けていなければ、この授業を履修できない。					
<b>連絡先</b>					
toshisei@yamaguchi-u.ac.jp office phone: 0836-22-2802					
<b>オフィスアワー</b>					
office hours: 月曜日から金曜日まで随時(授業、会議等の時間を除く)					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月5~6	<b>時間割コード</b>	1002335010
<b>開設科目名</b>	比較教育概論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	小川 勤			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>様々な国の教育制度や学校制度を知ることを通して、それぞれの国の教育制度の特徴について理解を深める。これと同時に日本の教育をより良いものにしていくためにはどうしたらよいかを考える。また、世界の教育を比較する意義や目的を理解すると共に、学力向上や教育改革の手法やその成果についても考察する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>世界の教育制度や学校制度を理解するとともに、教育が経済発展や社会開発に対して果たす役割について考察することができる。また、世界の教育制度との比較研究を通して、日本の教育を再評価し、日本の教育の改善方法について考察する力を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>世界のさまざまな国の教育制度や学校制度に関する知識を身に付けるとともに、持続可能な経済発展に果たす教育の役割について理解することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>様々な国の教育制度や経済発展との関係について自分なりの意見をまとめ、世界の教育を比較する意義や目的を理解することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>世界の教育制度や学校制度について、資料や書籍だけでなく、留学生等に対するインタビューを通して、その国の教育制度の特徴と課題について多面的な観点から分析することができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>日本と世界の教育制度や学校制度の違いを資料や書籍だけでなく、日本の教育改善に活かそうとする姿勢を見ることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>テストの成績、出席状況、宿題レポートの提出状況等をもとに総合的に判断する。</p> <p>欠格事項:欠席4回以上は単位認定を行わない。(欠席は3回まで)したがって4/5以上の出席を求めるので注意すること。</p>					
<b>教科書</b>					
世界の教育 -教育制度から日常の学校風景まで- / 二宮皓:学事出版, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回授業終了後に、授業に対する感想や質問を授業評価シート(ESシート)に記入してもらう。</li> <li>・必要に応じて、留学生に授業に参加してもらい、出身国の教育事情などを話してもらう機会を設けることもある。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<p>メールアドレス:ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>研究室ホームページアドレス <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ogawa-t/">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ogawa-t/</a></p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>研究室(共通教育事務棟 3階)</p> <p>毎金曜日 午後2時~午後4時</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002335009
<b>開設科目名</b>	比較文化心理学			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	TAKEMOTO TIMOTHY ROLAND SCOTT			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>選択すること、誉められること、自己主張することは、楽しいでしょうか？この質問への答えは文化に深く影響される。「個人主義」日本人は「集団主義」という理論から始まった文化の心理学は急ピッチで発展している。今は、より細かくより構造の整った行動についての理論が構築されている。本授業では、多くの事例・実験・視覚教材を使いながら文化心理学の理論を紹介し、臨床や教育現場など異文化接触場面での応用を考える。</p> <p>授業中では、他の武本担当科目と同様、クラスメートと話し合ってもらい、質問や発言する学生にポイントカードを与え、評価の対象とする。隣に座っている学生と話すことは履修条件です。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>この授業の目的は、「異文化コミュニケーション」で教えられた内容のより進んだレベルまで、文化と心理の関わりを考え、なぜ違いが起きるのか、これらの違いがどのように関係しているかについての理解を深めること。また、臨床や教育現場など異文化接触・異文化コミュニケーション場面で、文化心理学の理論を応用する力を育成する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文化心理学の研究についての知識					
<b>思考・判断の観点:</b> 文化心理学の理論を理解し、異文化コミュニケーション場面で応用すること					
<b>関心・意欲の観点:</b> 文化的な違いをより深く考える関心を持たせること					
<b>態度の観点:</b> 文化の違いを受け入れる態度を強めること					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験・修行参加・自分が見つかる文化心理学・少テストで評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
自己と感情:文化心理学による問いかけ / 北山忍: 共立出版, 1998					
木を見る西洋人 森を見る東洋人 / R・E・ニスベット: ダイヤモンド社, 2002					
社会心理学 : アジア的視点から / 山口勸: 放送大学教育振興会, 1998					
<b>メッセージ</b>					
経済学部の学生は学部の「文化心理学」を取ってください。					
いつでもご連絡ください。					
<b>連絡先</b>					
教員 HP <a href="http://nihonbunka.com">http://nihonbunka.com</a>					
コースホームページは <a href="http://YUFOE.com">YUFOE.com</a> から入れます。					
<b>オフィスアワー</b>					
授業時間以外					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月3~4	<b>時間割コード</b>	1002323001
<b>開設科目名</b>	美術鑑賞と作品記述			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	藤川 哲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>今年度から新設した科目です。美術作品を見て、読み取られる情報を言葉に置き換えること、感じた印象を言葉で表現すること、そして書き出した言葉をもとに考察することを学びます。「モナ・リザ」は、イタリア・ルネサンスを代表するレオナルド・ダ・ヴィンチが生涯手元に置いていた絵です。そこには黒い服を着た髪の長い女性の半身像が描かれており、彼女は左肩を心持ち前に出して首から上を正面へ向け、左手の上に右手を重ねて、微笑んでいます。その微笑みが謎めいている、と言う人もいれば、眉毛が描かれていないことに気がついて「不気味だ」という感想を述べる人もいます。このように図像を文字に置き換えることの意義を学びます。</p> <p>登録学生は100名までとします。超過の場合、初日のオリエンテーションでくじ引きとします。第2週目からの聴講希望には応じませんのでご了承下さい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>一、美術作品を細部まで時間をかけて観察できる。</p> <p>二、美術作品に表現されている内容を適切な言葉で表現できる。</p> <p>三、美術作品を見て自分が感じ取った内容を適切な言葉で表現できる。</p> <p>四、美術作品から読み取られた内容をもとに考察し、文章にまとめることができる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 一、美術作品を語るための基本的な語彙を習得している。</p> <p>二、美術作品を読み解く観点到に習熟している。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 美術用語を適切に使用して自分の考えを文章にまとめることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> できるだけ多くの鑑賞経験をつむことに努め、関連書籍を読んで語彙を豊かにすることが習慣となっている。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席を重視します。講義は5つの段階に分かれています。各段階での欠席は1回しか認めません。また、第9-11週目の「美術評論を読む」は、自宅で各週新書1冊程度の文章を読み、学習成果を発表してもらいます。こうした課題への取り組みが不十分な人についても、大幅に減点します。各自、得意不得意があると想像されますので、成績は相対評価とし、講義を通してそれぞれが獲得し、熟達したスキルに見合った点数を自己申告してもらい、基準点とします。各自から提出された自己採点の点数に対し、出席点や普段の取り組み具合に応じた調整点を加減したものが最終成績となります。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>少しでも描ければ、よりよく見ることができるようになり、よく見ることができるようになれば、よりの確に言葉にできるようになります。そして、言葉を的確に選ぶようになれば、より深く考えられるようになります。より多くのものを見て、その都度自分の言葉に置き換え、同時により多く読み、つねにより深く考えられる人になって欲しいという願いとともにこの講義を開講します。</p>					
<b>連絡先</b>					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

<b>開設期</b>	後期後半	<b>曜日時限</b>	火7~8	<b>時間割コード</b>	1002341003
<b>開設科目名</b>	物理学の考え方 [Concept of Physics]			<b>単位</b>	1単位
<b>対象学生</b>	人・教 経			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	田澤 輝武			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>今年はガリレオ・ガリレイが望遠鏡で天体観測を始めてから丁度 400 年という世界天文年です。近代物理学の考え方はガリレオ・ガリレイに始まりますので、その近代物理学の模範である力学の確立に至る過程を例として、物理学の考え方または物理学の方法について説明する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>物理学は、我々の生活の隅々まで浸透している。力学の発展の歴史を例にとり、その物理学の考え方に少しでも慣れ身に付けることを目指します。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> ギリシャ時代の「常識物理学」から始めてニュートン力学の確立に至るまでの物理学の歴史を知ることを通して、物理的な考え方について理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 天動説と地動説の根本的な相違点を調べ、地動説の正当性が主張できる根拠について考えることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>最終回に課すレポートによって評価します。6回以上の出席とレポートの提出が単位取得のための必要条件です。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>「継続は力なり」というように授業には必ず出席すること。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002331028
<b>開設科目名</b>	文化人類学 [Cultural Anthropology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	星野 晋			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>文化人類学は、「文化」を手がかりに人間についての理解を深めようとする学問分野である。国際化が進む現在において、私たちはグローバルかつ普遍的な論理と民族的・地域的固有性の折り合いをいかにつけるかという大問題に直面している。文化人類学的な視点と方法は、文化的多様性とのように付き合っていくかを考える際の一つの手がかりとなると思われる。本講義では、ある意味で普遍的、ある意味で多様な「病気と医療」というテーマについて検討することを通して、文化人類学的な「ものの見方」とはいかなるものかを学ぶことを目標とする。また本講義は、文化人類学入門であると同時に、その下位分野である医療人類学入門として聞くこともできる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>人間を総合的に捉えようとするという文化人類学の基本的なものの見方とアプローチを理解する。文化的多様性に対する視点と態度を学び、加えて自分や身近な人の経験を文化人類学的アプローチを用いて考察できるようになる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文化人類学の視点、基本的用語、概念、方法論を理解する					
<b>思考・判断の観点:</b> 身近な経験について、文化人類学的アプローチを用いて解釈できる					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業中示されたテーマについて、自分なりに考え、意見をもつ					
<b>態度の観点:</b> 出席し、他の出席者のじゃまにならないようにする					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の観察や経験をそこにいない人に適切に伝えることができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出欠をかねた小レポート(遅刻は授業開始後30分まで、それ以降は欠席とする)、定期試験(論述形式)					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
自分とは異なる多種多様な人たちと出会い、五感を研ぎ澄ましてさまざまな経験をし、その経験を言葉にしてそこにいない人に伝え、その経験について語り合うこと。それが文化人類学の出発点です。					
<b>連絡先</b>					
hoshino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
授業後(小串では水曜日午後)					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水1~2	<b>時間割コード</b>	1002335013
<b>開設科目名</b>	平和と文化のつながり			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	篠原 厚, 武本 雅嗣, 和田 学, 徳光 直樹			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
多文化共生の時代にあって、「違い」をどのように認め合うのかについて、多領域の研究者が交替で論じる。受講者参加型の講義としたい。					
<b>授業の一般目標</b>					
異文化に触れることの大切さを、多領域にわたる学問分野から理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回簡単なレポートを提出(授業時間内に)。それをも参考にしながら受講生の積極的な発言の機会を設けていく。それを含め、全体評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
「違う」ことの素晴らしさに気づこう!					
<b>連絡先</b>					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
AM10:00-12:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1002331030
<b>開設科目名</b>	法学 [Law]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(経除く)			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	三間地 光宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
「法とは何か」「わが国の法制度の概要はどうなっているか」といったことを学習したのち、契約・婚姻・離婚・相続など身近な法律問題についての初歩を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)わが国の法制度の概要を理解する。					
(2)市民生活を送る上で知っているとは益だと思われるような法律に関する基礎知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)わが国の法制度の概要を理解する。					
(2)市民生活を送る上で知っているとは益だと思われるような法律に関する基礎知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 具体的事実に法をあてはめて結論を導き出せるようにすること。					
<b>態度の観点:</b> 私語をしない。					
居眠りをしない。					
授業中にほかの授業の準備をしない。					
授業中に飲食をしない。					
授業中に漫画や小説など授業と関係のないものを読まない。					
授業中にゲームをしたり携帯メールを打ったりしない。					
授業中に大学祭等のチケットを売り買いしようとするしない。					
授業中に他の受講者の受講を妨げる行為をしない。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価は期末試験の結果による。ただし4回以上欠席した者には期末試験の受験を認めない。また、毎回の課題を最終回にまとめて提出してもらおうが、課題の提出がない場合には期末試験を受験できないものとする。					
なお、私語等で授業を妨害することを繰り返した場合、期末試験の受験を認めないことがある。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
メールアドレスは第一回の授業の際に配付するプリントに記載。					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	月9~10	<b>時間割コード</b>	1002371008
<b>開設科目名</b>	ボランティアと自主活動			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	辻 多聞			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義は、皆様の社会人基礎力の向上に対する一助となること目的として開講されています。本講義は座学と体験で構成されています。前半の座学では、ボランティア活動や自主活動に関する知識を学ぶとともに、そうした活動に参加するときの心構えやマナーについて紹介します。後半は、前半で学んだ知識を活かして、実際のボランティア活動、自主活動を体験し、自身の五感をもってボランティア活動、自主活動を学んでもらいます。最後の一つ前と最後の週は、体験報告会を行います。ここでは、自身の活動経験やボランティア感、自主活動感を講義内で発表することで自らの経験を明確な形として作りあげるとともに、本講義を履修している学生による様々な情報を共有することで自身の知識や感性を発展させます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアや自主活動に関する基本的意義や内容を理解する。</li> <li>・コミュニケーション能力(特に社会人との)を向上させる。</li> <li>・経験したことを体系的に捉え、自分の力と変える。</li> <li>・自分の経験や思いを人にわかりやすく伝える。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回のレポートと体験報告会での報告に関する内容を評価の対象とします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>本講義は、体験学習を含んでいるという講義の性質上定員を設けざるを得ません。定員は30名までとし、定員を超える場合は、エントリーシートの提出およびその内容から履修生を選定します。</p> <p>ボランティア体験は12月からとなります。期間中に20時間の体験をしていただきます。受け入れ先の状況により、日程や拘束時間および時間帯は変化することを了承してください。</p>					
<b>連絡先</b>					
ttsuji@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	火5-6	<b>時間割コード</b>	1002335011
<b>開設科目名</b>	マーケティング入門			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	藤田 健			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>新製品の開発、広告の製作、価格の決定、流通を管理すること。これらはすべて、企業におけるマーケティング活動です。この授業では、企業におけるマーケティングの考え方やマネジメント手法を平易に解説します。マーケティングにはじめて触れてみたいと思っている人、マーケティング活動に興味のある人、2年次以降に本格的にマーケティングを勉強したいと考えている人に適した基礎的な授業です。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マーケティングの基礎的な概念を理解する</li> <li>2. 現実のマーケティング行動を分析する</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> マーケティングの理論的な概念を理解できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 現実のマーケティング行動に関心を示し、分析できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート(30%), 期末試験(70%)					
<b>教科書</b>					
1からのマーケティング[第3版] / 石井淳蔵・廣田章光編著: 碩学舎, 2009					
<b>参考書</b>					
ゼミナール マーケティング入門 / 石井淳蔵 嶋口充輝 栗木契 余田拓郎著: 日本経済新聞社, 2004					
<b>メッセージ</b>					
授業中の私語は厳禁です。					
<b>連絡先</b>					
オフィスアワー					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3～4	<b>時間割コード</b>	1002331031
<b>開設科目名</b>	民俗学 [Ethnology]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1～
<b>担当教員</b>	坪郷 英彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>民俗学は第二次大戦後の高度成長期が始まる前までの日本国内での暮らしを考える学問です。民俗学の分野は大きく有形の文化と無形の文化に分けられますが、授業では有形の分野を主に取り上げます。具体的には衣食住・生業・芸能の内容で構成します。受講するほとんどの人は高度成長期以後の環境で育った人でしょうから、できるだけ身近な話題から説き起こしたいと思います。何でもない日常的な出来事やものに庶民の考えや永い伝統を発見することができますでしょう。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>江戸時代から昭和の高度成長期までの一般庶民の暮らしやその背後にある考えを知り、現代社会を生きる上での一つの視点を示すことを目標としています。最近には特に生活環境への関心が高まる中で、工業化社会以前の暮らしに学ぼうとする動きがあり、民俗学の成果が現代に活かされつつあります。その事例も取り上げながら現在の環境やコミュニティを考える上でのヒントを示すことができればと思っています。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 民俗学の基礎的用語が説明できる。環境と人間の活動の対応関係が説明できる。 文化相対主義を説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 文化的ひとの視点に立った判断ができる。文化相対主義にたつた思考判断ができ、行動の起点とすることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 近代までの庶民の思考及び生活に関心を持つことで、その考えを現代生活に活かすことができる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 人々の暮らしという日常的な事象へ関心を持ち、例えばコミュニティ作りなどに積極的に行動することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席日数が70%に満たないものは試験を受けられない。 期末の定期試験成績(70%)と出席率(30%)によって評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
新訂生活文化論, 中村・植田・坪郷, 源流社, 2002年					
<b>メッセージ</b>					
モノを取り巻く民俗(物質文化)を多く取り上げるので、モノに関心のある人はぜひ受講してほしい。受講希望者が多い場合、教室の収容人数他を勘案し受講制限をする場合がある。					
<b>連絡先</b>					
E-mail <hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp> 電話(内線) 5239,					
<b>オフィスアワー</b>					
E-mail <hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp> 電話 5239, 研究室人文棟 213, オフィスアワー 木曜日 12時～14時)					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	木3~4	<b>時間割コード</b>	1002371013
<b>開設科目名</b>	メディア情報処理			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	熊谷 武洋			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義はAdobe社のIllustratorというソフトを利用し、コンピュータを用いたグラフィックデザインを行う。初心者を対象としているが、単に操作方法だけにとどまらず画像情報処理の基本原理やデザイン理論についても言及する。テキストは以下を用いる。  <a href="http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/kaisetu/note_text_2003/13/index.html">http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/kaisetu/note_text_2003/13/index.html</a></p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本講義は、簡単なグリーンカードやポスター、CDジャケット、キャラクターなどを制作できる程度の操作方法を修得し画像情報処理における基本的な概念を理解することを目標としている。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>Illustrator、画像情報処理基礎、デザイン理論基礎に関する用語が理解がされているか  <b>関心・意欲の観点:</b>コンピュータを用いてグラフィックデザインすることに自分なりの意味と価値を見出しているか  <b>態度の観点:</b>私語やネット閲覧、携帯メールなどに関心を奪われずに講義を受講しているか  <b>技能・表現の観点:</b>基本操作を理解しているか</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>課題を中心に、受講態度、理解度を含めて総合的に判断する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002371011
<b>開設科目名</b>	山口県の地域政策			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(医除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	辻田 昌次			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>我々の生活している山口県について、皆さんはどれだけ知っているでしょうか。</p> <p>この授業は、県知事や教育長をはじめとする県の各部局の政策責任者や市長等から直接、山口県の産業や教育・福祉・環境・健康などの各分野の現状・問題点さらには今後進むべき方向などについての講義を受け、山口県行政についての概要を知るとともに、関心を深め、山口県のイメージや自分の意見・考え方を形成することを目指す。</p> <p>また、授業を通じて、市町村合併や行政改革など激変する地方自治・地方行政のあり方を考える契機となることを目指す。</p> <p>このため、県・市町職員、教員等の公務員志望の学生の受講を歓迎する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>山口県について関心を深める。</p> <p>山口県の概況を知る。</p> <p>山口県が何をどのように取り組んでいるかを知る。</p> <p>山口県についてのイメージを形成する。</p> <p>山口県についての自分の意見・考えを形成する。</p> <p>地方自治・地方行政の現状・問題点・あり方を認識する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>山口県の概況を知る。</p> <p>山口県が何をどのように取り組んでいるかを知る。</p> <p>地方自治・地方行政の現状・問題点・あり方を認識する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>山口県についてのイメージを形成する。</p> <p>山口県についての自分の意見・考えを形成する</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>山口県について関心を深める。</p> <p><b>態度の観点:</b>県づくり、地域づくり活動への参加をすすめる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席点およびレポート(毎回の授業内小レポート及び期末レポート)で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
出席重視です。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002363004
<b>開設科目名</b>	ライフスタイルと健康			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全(学教(教科(数)除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	細井 栄嗣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>人の健康状態が生活様式に左右されることは、今や広く知られている事実である。人々の意識は高齢化社会の到来に伴い、いかに長生きできるかではなく、いかに死ぬまで健康でいられるかに向けられるようになった。本講義では健康な生活を送るために欠かせないいくつかの要因について取り扱う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>栄養学の基礎、すなわちそれぞれの栄養素の働きについて理解する。運動やその他の活動と活性酸素の害との関係について正しい知識を身につける。また生活習慣病の予防法について理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>適度な運動について、各栄養素の働きについて、各種生活習慣病の予防法について理解する。  <b>思考・判断の観点:</b>食品成分表の使い方に慣れ、いろいろな食事の長所、短所を栄養学的に判断できるようになる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>小テスト、期末試験で評価。出席が70%に満たない者は不可。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>五訂増補食品成分表 2009 / 香川芳子監修: 女子栄養大学出版社, 2009</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>教科書は講義中にも頻繁に使用するので必ず購入すること</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>細井栄嗣 居室: 農学部1階 126号室</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>水曜日の昼休み。その他随時(予約が望ましい)</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水7~8	<b>時間割コード</b>	1002351007
<b>開設科目名</b>	理工学のための統計学 [Statistics for Sciences]			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	教(一部除く)・理・農(生機除く)			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	笹井 理恵			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
統計及び統計的資料の偶然性を含む数字から必然性を見出す統計学は、経済学、社会学、医学、理学、工学、経営学等殆どの分野で応用される。この講義では、統計学の入門としての確率の理論と、それによってデータから必然性を見出す手法の基礎を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
観測された統計あるいは統計的資料が、なんらかの確率的法則性に従う現象確率変数の1つの実現値であるとみなすことによって、このような数値の分析を具体的な例題によって実習する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 用語の定義を正確に理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 確率分布、特に正規分布を理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 課題に真剣に取り組む。					
<b>態度の観点:</b> 実際に即して学ぶ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 計算の過程の理解をする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートおよび期末試験の成績の総合点による。また、出席は欠格条件である。					
<b>教科書</b>					
概説 確率統計 / 前園 宣彦:サイエンス社, 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業には統計計算のできる電卓を用意すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	水3~4	<b>時間割コード</b>	1002335017
<b>開設科目名</b>	リスクマネジメント入門			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	石田 成則			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
産地偽造や賞味期限切れ問題により、食生活が脅かされています。また、生産管理の不十分や検査の杜撰などにより、欠陥商品が多発し、生活上のリスクが引き起こされています。どうしてこのような事態が発生するのでしょうか？またこうした事態を改善するにはどうしたらよいのでしょうか？産業社会における生活リスクの現状を知り、その対応策について考えていきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
産業社会におけるリスクの発生メカニズムを理解するとともにその対処法を知る。それにより、リスク社会にあっても賢い消費者、生活者になることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> リスクマネジメント方法の理解					
<b>思考・判断の観点:</b> リスクを巡る原因と責任に関する判断力					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートと平常点					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
事業経営・プロジェクトを取巻くリスクや自然災害の事業への影響などに日頃より関心を持ち、新聞・雑誌などに目を通してリスク感覚を会得してほしい。実践的な授業を目指しており、知識を日常生活や職務に生かしてもらいたい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室は常に開放していますので、連絡の上、訪ねて下さい。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	金 5-6	<b>時間割コード</b>	1002311009
<b>開設科目名</b>	倫理学 [Ethics]			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	全			<b>学年</b>	1~
<b>担当教員</b>	柏木 寧子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>和辻倫理学入門 『人間の学としての倫理学』を読みます。「倫理」という言葉は、「生命倫理」「企業倫理」「職業倫理」など、さまざまな他の言葉と結びついても使われ、比較的耳にすることが多いと思います。漠然としたイメージがある一方で、改めて「倫理」とは何か説明しようとすると、よく知らないことに気づくのではないのでしょうか。それでも、少し前の人なら「そんな大げな言葉を持ち出さなくても、大方の人はちゃんと暮らしていますよ」と言ったかもしれませんが、最近の世の中ではそう言い切る自信も怪しくなっています。70 年以上前の著作であり、さまざまな西洋倫理学が引用されている本書は、読むのに難儀すると思いますが、私達自身の倫理を捉え返す手がかりを求めて、できるだけの接近を試みます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
倫理学が何を問題とする学問であるか、最も基本的な点を知り、理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 倫理学とは何を問おうとする学問であるか、基本的な問いを知り、説明することができるようになる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 和辻は上記の問いについてどのように考えを展開したか、和辻の思考の理路を辿り直し、説明することができるようになる。あわせて、受講者自身ならこの問いに対し、どのような考えをもち得るかを試みに考え、和辻の偏り・傾き、ならびに受講者自身の偏り・傾きについて、多少とも自覚できるようになる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 共感であれ反発であれ、少なくともどこか一箇所、受講者自身の関心に引っかかる点を発見し、テキストと対話する意欲をもつことができるようになる。</p> <p><b>態度の観点:</b> なじみないテーマや文章であっても、投げ出さず、ねばりよく読み通す態度をもてるようになる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 自らの考えるところを、筋道立てて文章表現することができるようになる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および問いに対する主体的な取り組みの姿勢を求めます)。(2)期末試験(基本的知識の習得を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。					
<b>教科書</b>					
『人間の学としての倫理学』(岩波文庫) / 和辻哲郎: 岩波書店, 2007					
<b>参考書</b>					
『倫理学』(一)~(四)(岩波文庫) / 和辻哲郎: 岩波書店, 2007					
<b>メッセージ</b>					
<p>初回授業には必ず出席して下さい。</p> <p>やむをえない事情で欠席が度重なった場合は届け出て下さい。</p> <p>授業の終わりに小レポートを課しますが、授業の終わりを教室にいればよい、というものではありません。時にやむをえず遅刻する場合はあるかと思いますが、度重ならないようにして下さい。</p>					
<b>連絡先</b>					
人文学部4階410号室 kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					